

熱田区夜寒町

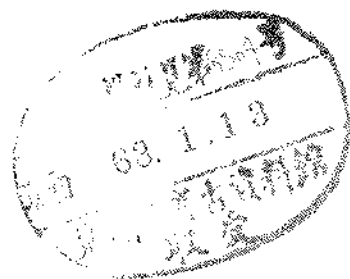
高蔵遺跡発掘調査報告書

1987

名古屋市教育委員会

熱田区夜寒町

# 高蔵遺跡発掘調査報告書



1987

名古屋市教育委員会

## はじめに

本書は、南山大学人類学教室 重松助教授にお願いして昭和60年7月から12月にかけて実施をした熱田区夜寒町所在 高蔵遺跡の発掘調査の成果を同大学にまとめていただいた結果です。

高蔵遺跡は現在国の重要文化財に指定されている丹塗りの土器を出土し、また我が国では唯一の弥生時代の馬の骨の出土でも知られる本市内でも最も重要な遺跡の一つではありますが、残念ながら従来学術的な調査が十分に行われたとは言いがたいところがありました。

本市においても、昭和56年以来この遺跡の範囲内で数度の発掘を実施いたしましたが、限られた面積の調査であってそれほどの成果をあげたとはいえません。

昭和60年当初に、本委員会に当該地点での発掘調査実施の依頼がありましたが、本委員会では既に年度一杯の発掘調査計画を決定しており、南山大学にお願いすることとなりました。上述のような極めて重要なこの遺跡についての詳細な記録を、南山大学のご協力により残すことができ、感謝しております。

本書中に記載されましたように、今回の発掘調査では従来高蔵遺跡では確認されていなかった弥生時代前期の文化様相が初めて明らかにされたほか、弥生時代のみならずその後の各時代の数多い土器、陶器が出土するなど多大の成果があがって、この重要な遺跡の不明であった部分にかなりの光をあてることができたものと考えております。

本書が研究者のみならずひろく市民の皆様の歴史への興味を喚起して、そのことが文化財に対する関心を高めてその保護保存に役立つことを希望するところであります。

昭和62年 月 日

名古屋市教育委員会

教育長 清水 武

## [例 言]

1. 本書は名古屋市熱田区夜寒町204番地所在遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は高蔵遺跡の一部で通称「高蔵貝塚B地点」に該当する。
3. 調査開始時点での土地所有者は岩崎設計事務所であった。
4. 調査は高蔵遺跡夜寒地区調査会（代表 重松和男）が実施した。
5. 調査会への依頼者は市教委及び東海興業・岩崎設計・安田工機不動産部の三者によるプロジェクトチームである。
6. 調査は昭和60年5月から12月にかけて実施された。
7. 整理作業は昭和60年9月から62年1月の期間、南山大学人類学博物館で行った。
8. 編集には重松和男・大江達子・近藤恵の3名があたり、高橋公仁と小檜山晶がこれを助けた。
9. 執筆は上記5名の他、藤村道明・山崎聡史・金森昭憲・鯉江昭三・岩田かおり・土任隆・高橋かおりの7名が分担して行った。
10. 上記以外で発掘から整理の間に責任を分担した者は杉浦裕幸・杉山國子・青山順子・水野亮子・八木佳素実・高橋秀司の6名である。
11. 調査に際しては名古屋市教育委員会文化課の小島一夫氏に指示と助言をあおぎ、見晴台資料館からは器材等についてのみならず、国土座標の測量や土器実測について平出紀男・木村有作・水野裕之・竹内宇哲・伊藤正人の諸氏の手を煩わせたのみならず、片山義紀氏をはじめとする皆様の御援助を得た。

また、依頼者側では安田工機の飯田隆氏、東海興業の赤塚治男・山口喬・吉川伸一の3氏が建築主との折衝をふくめた各種の工事関係の面で御協力頂いたほか、神吉建設の神谷利夫氏には作業員の手配について御無理をお願いした。
12. 報告にあたっては弥生前期の遺物に関して紅村弘・石黒立人両氏、須恵器については小島一夫氏に直接御指導いただいた。さらに赤沢威・山田鉦一・伊藤正人・川合剛・川崎みどりの各氏にも御面倒をおかけした。

さらに、調査全般に関して名古屋大学の渡辺誠、本学の倉田勇・伊藤秋男・早川正一・江本純の各氏の御指導を得た。記して謝意を表す次第である。
13. なお、出土遺物・資料は南山大学人類学博物館（〒466 名古屋市昭和区山里町18 TEL 052-832-3111 内線445）に保管し、公開の予定である。
14. 本書は調査終了後の可能な限り迅速な成果の公表を第一義としている。
15. このため、概報的な編集方針を採用し、学術的な研究の完了を待たず公刊した。
16. 出土遺物等については可能な限り、多数を記載・図示した。
17. しかし、遺構と無関係な上層の遺物のうち、弥生後期と土師の土器片については、数も多く省略せざるを得なかったことを御断りしたい。
18. 学生達の実習的な面を兼ねることを目的としたことから、実測図や記載に不統一がある。可能なかぎり整備したが、一定の方式を固定観念として学生に植え付けることには疑問が

あり、あえて完全な統一は図らなかった。

19. 遺物は注記番号をそのまま記載した。これは、資料の保管・公開の簡便さを優先させたことによる。遺構の番号にも欠番等の不備があるが、同様の理由でそのまま記載した。
20. 各部分の執筆者は文末に記してある。

## 〔調査参加者〕

( ) 内は昭和60年度の南山大学での学年等

- (責 任 者) 重松和男 (文学部助教授)
- (責任分担者) 藤村道明・杉山国子 (元人類学博物館非常勤学芸員)、杉浦裕幸 (大学院生)  
山崎聡史・青山順子・水野亮子 (人類学博物館非常勤学芸員)  
高橋秀司・八木佳素実 (人類4年)、小檜山晶 (人類3年)  
大江達子・近藤恵 (人類2年)  
高橋公仁・岩田かおり・高橋かおり・金森昭憲・鯉江昭三・土任隆 (人類1年)
- (発掘・整理) 古田麻美・桂川まゆみ・丹羽幸子・浅井京子・竹本弘子・菊地滋夫・  
水越由美子 (以上人類1年) 重松明男
- (発 掘) 市橋芳則 (人類4年)、松武菜穂美 (経営4年)、  
塚原孝一・依馬理恵・平野和親・三木誠・村上久美・井沢伸恵・荻原学 (人類3年)  
金下玲子・鈴木麻理・古橋佳子 (人類2年)  
加藤義典・曾我部ゆみ・浜崎種彦・早坂みすず・宮瀬光博 (人類1年)  
加藤久美子・志水由美・田口理恵・成瀬雅実・山田朋子・坂東美希子 (人類1年)
- (整 理) 稲垣裕美 (人類2年)、玉邑馨章・安田高志 (人類1年)  
大久保孝明・長谷川泰史・吉野直樹・横井悟 (イスパニヤ科1年)  
重松陽子・重松朝子・岩見美代子・桜井ひとみ
- (作 業 員) 神谷利夫・新海美代子・新海きみこ・小西ちよ・新海美佐子、他 (神吉建設)

# 目 次

図版目録	2 ~ 4
第1章 遺跡および調査経緯	
第1節 調査の経緯	5 ~ 6
第2節 遺 跡	9 ~ 11
第2章 弥生前期の溝状遺構 [SD03]	
第1節 遺 構	12 ~ 15
第2節 弥生前期の土器	16 ~ 34
付 記 SD03内弥生前期土器片	35 ~ 45
第3章 弥生時代後期の方形周溝墓 [SD04]	
第1節 遺 構	46 ~ 48
第2節 出土した土器について	49 ~ 54
第3節 小 括	55 ~ 56
付 記 埋土中などからの土器片について	57 ~ 62
第4章 古墳時代の住居址 [SH01]	
第1節 遺構の概要	63
第2節 遺物出土状況	63 ~ 64
第3節 出土土器について	64 ~ 69
第4節 年代など	69 ~ 70
付 記 土師器 図版リスト	70
第5章 その他の遺構	
第1節 弥生時代の可能性をもつ遺構	71 ~ 74
第2節 古墳時代以降の住居址	74 ~ 78
第3節 古墳時代以降の溝状遺構	79 ~ 82
第4節 古墳時代以降のその他の遺構	82 ~ 85
第5節 現代の遺構	86 ~ 89
第6章 須恵器などの遺物	
第1節 須恵器等の概要	90 ~ 91
第2節 遺構別にみた出土須恵器、盜器、山茶碗	92 ~ 99
第3節 器種、時代、産地等について	100 ~ 101
第4節 小 結	101
第5節 須恵器観察表	102 ~ 116
第7章 その他の遺物	
第1節 埴 輪	117 ~ 120
第2節 近世陶磁器	120
第3節 土 製 品	121 ~ 122
第4節 石 器	122 ~ 123
第5節 自然遺物	123 ~ 125
第8章 総 括	126 ~ 131
付 遺 物 対 照 表	132 ~ 140

## 図 版 目 録

### [遺物実測図および拓影]

PL. 01 SD03出土土器実測図 01	PL. 27 SD04出土土器実測図 01
PL. 02 SD03出土土器実測図 02	PL. 28 SD04出土土器実測図 02
PL. 03 SD03出土土器実測図 03	PL. 29 SD04出土土器実測図 03
PL. 04 SD03出土土器実測図 04	PL. 30 SD04出土土器実測図 04
PL. 05 SD03出土土器実測図 05	PL. 31 SD04出土土器実測図 05
PL. 06 SD03出土土器実測図 06	PL. 32 SD04出土土器実測図 06
PL. 07 SD03出土土器実測図 07	PL. 33 SD04出土土器実測図 07
PL. 08 SD03出土土器実測図 08	PL. 34 SD04出土土器実測図 08
PL. 09 SD03出土土器実測図 09	PL. 35 SD04出土土器実測図 09
PL. 10 SD03出土土器実測図 10	PL. 36 SD04出土土器実測図 10
PL. 11 SD03出土土器実測図 11	PL. 37 SH01出土土器実測図 01
PL. 12 SD03出土土器実測図 12	PL. 38 SH01出土土器実測図 02
PL. 13 SD03出土土器実測図 13	PL. 39 SH01出土土器実測図 03
PL. 14 SD03出土土器実測図 14	PL. 40 SH01出土土器実測図 04
PL. 15 SD03出土土器実測図 15	
PL. 16 SD03出土土器実測図 16	PL. 41 須恵器等 実測図 01
PL. 17 SD03出土土器実測図 17	PL. 42 須恵器等 実測図 02
PL. 18 SD03出土土器片拓影 01	PL. 43 須恵器等 実測図 03
PL. 19 SD03出土土器片拓影 02	PL. 44 須恵器等 実測図 04
PL. 20 SD03出土土器片拓影 03	PL. 45 須恵器等 実測図 05
PL. 21 SD03出土土器片拓影 04	PL. 46 須恵器等 実測図 06
PL. 22 SD03出土土器片拓影 05	PL. 47 須恵器等 実測図 07
PL. 23 SD03出土土器片拓影 06	PL. 48 土製品・SD105土器片・縄文土器片
PL. 24 SD03出土土器片拓影 07	PL. 49 石器・SD105, 101土師器片実測図
PL. 25 SD03出土土器片拓影 08	PL. 50 埴輪 拓影
PL. 26 SD03出土土器片拓影 09	PL. 51 埴輪 拓影(裏)

### [遺物出土状態 実測図]

PL. 52 (上) 遺物出土状態図位置関係	(下) 遺物出土状態 SD03 A-1区
PL. 53 (上) 遺物出土状態 SD03 C-2区	(下) 遺物出土状態 SD03 E-3,4区
PL. 54 遺物出土状態 SD03 東南部	
PL. 55 (上) 遺物出土状態 SD04 北溝	(下) 遺物出土状態 SD04 南溝
PL. 56 遺物出土状態 SD04 西溝	
PL. 57 遺物出土状態 SH01	
PL. 58 (上) 遺物出土状態 SD101	(下) SH05 焼土および土器出土状態

[遺跡写真]

- |                                 |                         |
|---------------------------------|-------------------------|
| PL. 59 (上) 発掘前遺跡全景              | (下) 第1期全景 北から           |
| PL. 60 (上) SD03他 北西から           | (下) SH01他 南から           |
| PL. 61 (上) SD03 東端              | (下) SD03断面 E-4区         |
| PL. 62 (上) SD03、SD04断面 D-3区     | (下) F-3区 南東から           |
| PL. 63 (上) 防空壕5、SD03 北から        | (下) 第2期全景 東から           |
| PL. 64 (上) SD101、SD04、SD103 東から | (下) SD101、SD04 南西から     |
| PL. 65 (上) SD101 西から            | (下) SD04など 南東から         |
| PL. 66 (上) SD04 北から             | (下) 第3期全景 東から           |
| PL. 67 (上) 第4期全景 北から            | (下) SD105 北から           |
| PL. 68 (上) 第4期全景北部 東から          | (下) 第4期全景南部 東から         |
| PL. 69 (上) SD03 遺物出土状態 A-1区     | (下) SD03 遺物出土状態 A-1区    |
| PL. 70 (上) SD03 遺物出土状態 C-2区     | (下) SD03 遺物出土状態 E-4区ベルト |
| PL. 71 (上) SD03 遺物出土状態 E-4区     | (下) SD03 遺物出土状態 F-5区    |
| PL. 72 (上) SD03 遺物出土状態 E-4区溝上面  | (下) SD04 遺物出土状態 A-2区溝上面 |
| PL. 73 (上) SD04 遺物出土状態 北溝 南から   | (下) SD04 遺物出土状態 西溝      |
| PL. 74 (上) SD04 遺物出土状態 西溝 北から   | (下) SD04 遺物出土状態 西溝      |
| PL. 75 (上) SD04 壺棺出土状態 東溝 北から   | (下) SD04 壺棺出土状態 東溝 南から  |
| PL. 76 (上) SD04 遺物出土状態 東溝       | (下) SD04 遺物出土状態 東溝      |
| PL. 77 (上) SH01 遺物出土状態          | (下) SH01 遺物出土状態         |
| PL. 78 (上) SH01 遺物出土状態 E-5区 東から | (下) SD101 遺物出土状態        |
| PL. 79 (上) B-3区 遺物出土状態          | (下) SD101 遺物出土状態        |

[遺物写真]

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| PL. 80 SD03出土土器 写真 01 | PL. 96 SD04出土土器 写真 03  |
| PL. 81 SD03出土土器 写真 02 | PL. 97 SD04出土土器 写真 04  |
| PL. 82 SD03出土土器 写真 03 | PL. 98 SD04出土土器 写真 05  |
| PL. 83 SD03出土土器 写真 04 | PL. 99 SH01出土土師器写真 01  |
| PL. 84 SD03出土土器 写真 05 | PL. 100 SH01出土土師器写真 02 |
| PL. 85 SD03出土土器 写真 06 | PL. 101 須恵器等 写真 01     |
| PL. 86 SD03出土土器 写真 07 | PL. 102 須恵器等 写真 02     |
| PL. 87 SD03出土土器 写真 08 | PL. 103 須恵器等 写真 03     |
| PL. 88 SD03出土土器 写真 09 | PL. 104 須恵器等 写真 04     |
| PL. 89 SD03出土土器 写真 10 | PL. 105 須恵器等 写真 05     |
| PL. 90 SD03出土土器 写真 11 | PL. 106 須恵器等 写真 06     |
| PL. 91 SD03出土土器 写真 12 | PL. 107 須恵器等 写真 07     |
| PL. 92 SD03出土土器 写真 13 | PL. 108 須恵器等 写真 08     |
| PL. 93 SD03出土土器 写真 14 | PL. 109 近世陶磁器 写真 01    |
| PL. 94 SD04出土土器 写真 01 | PL. 110 近世陶磁器 写真 02    |
| PL. 95 SD04出土土器 写真 02 | PL. 111 土製品 石器 写真      |



[遺構等 実測図] 折り込み

PL. 112	遺跡平面図	
PL. 113	遺跡断面図	東西方向
PL. 114	遺跡断面図	南北方向
PL. 115	完掘時	エレベーション (地山) 東西01
PL. 116	完掘時	エレベーション (地山) 東西02
PL. 117	完掘時	エレベーション (地山) 東西03
PL. 118	完掘時	エレベーション (地山) 東西04
PL. 119	完掘時	エレベーション (地山) 南北01
PL. 120	完掘時	エレベーション (地山) 南北02
PL. 121	完掘時	エレベーション (地山) 南北03

[挿 図]

- Fig. 1 遺跡の位置一名古屋市遺跡分布地図 (熱田区) より一 (P.7)
- 2 高蔵遺跡の遺構等分布図 (P.8)
  - 3 弥生時代の溝 (SD03、04を除く) (P.74)
  - 4 古墳時代以降の住居址 (P.77)
  - 5 古墳時代以降の溝 (P.82)
  - 6 防空壕及び攪乱Pit (P.88)
  - 7 大洞系土器文様展開図 (P.46)

# 第1章 遺跡および調査経緯

## 第1節 調査の経緯

東海興業株式会社を中心に熱田区旗屋町にマンションを建てるプロジェクトがあり、同地に住宅を持つ肥江井氏の代替地として本地点が選ばれた。その後で遺跡として指定されている事を業者側が知り、名古屋市教育委員会に事前調査を依頼した。しかし、業者側の希望する期間内には市教委では実施不可能との返答があったとして、東海興業名古屋支店・岩崎設計事務所・安田工機不動産部からなるプロジェクト側は、昭和60年4月になって南山大学人類学博物館に調査を依頼してきた。

博物館側では、名古屋市教委文化課の小島一夫氏に問い合わせたところ、個人住宅であるため、本来は市の予算で調査を実施すべきものであるが、市教委側では早急な実施は不可能であり大学側に依頼したいとの解答を得た。そこで、博物館側では期間・予算・人員等に関して検討と折衝を行った結果、発掘と整理の予算は市教委が、業者側がを負担すること、土木関係については東海興業が協力すること、報告書については市教委が発行を引き受けることを三者の了解事項として実施可能と判断をした結果、学生のトレーニングをかねて調査を実施することになった。

調査実施の母体として、高蔵遺跡夜寒地区調査会を結成し、責任者には重松和男、調査員にはいずれも南山大学の卒業者である藤村道明・杉浦裕幸・山崎聡史の三名、その補佐として小椋山晶・大江達子・近藤恵の三名の女子学生を充てることとした。その他の参加する学生は調査補助員とし、とりあえず作業員なして調査を開始することとなった。東海興業はフェンス・現場事務所のプレハブ・その付帯工事・レンタカーの手配および土砂の移動・埋め戻し等について協力することとなり、名古屋支店の山口研・吉川伸一両氏が担当された。実施面では、安田工機の飯田隆氏が調査会と東海興業・岩崎設計・建築主の間になって尽力された。

肥江井氏宅予定地はこの地点の東南約 $\frac{1}{2}$ であるが、残り $\frac{1}{2}$ の購入予定者であった鶴田氏も調査完了を購入条件としたため、同氏宅予定地の北側約 $\frac{1}{2}$ をも併せて調査範囲とし、発掘予定期間を9月末まで、予算は約1200万円を実施することとなった。当初西南部約 $\frac{1}{4}$ は発掘しない予定であったが、調査開始後、鶴田氏宅が設計変更され、岩崎設計からの依頼があり、9月以降継続して調査を実施した。この部分に関しては業者側が、市教委側がの負担で約400万円の予算を追加した。

調査は1985年5月10日に開始され、1985年12月15日に終了した。なお、調査開始時点での土地所有者は岩崎設計事務所であった。

業者側からの要請によって、まず東南部の肥江井氏宅予定地を優先的に発掘することとし、5月下旬から藤村・山崎を中心に発掘を開始した。学期中のため、他の学生等がそれぞれ暇をみて参加出来るよう日曜日も行い、両名のほか重松・杉浦でローテーションを組み、毎日少なくとも2名の調査員が現場を担当することとした。しかし、梅雨時にあたる上、学期中で学生の参加が土日を除くと少なく、当初から土師の住居址SH01や弥生前期の溝SD03が検出され、遺物の出土量も多く、調査は難行した。このため、業者側の希望もあって作業員若干を入れることになり、東海興業の手配で神吉建設（神谷利夫社長）から1日あたり2・3名を派遣してもらうこととした。人数の多い日には、北東部も少しずつ掘り進めた。

7月は藤村・山崎が前からの予定で調査からはずれ、重松と杉浦・杉山國子および小椋山・大

江・近藤を中心に発掘が続行された。上旬には肥江井氏宅の部分を終了し、夏休みになって学生も多数参加できるようになったので、重点を北東部に移し、北西部も除々に掘りはじめた。しかし、東南部に溝等の遺構が多く、またその深さが予想より深かったことから、そのまま埋め戻したのでは住宅の基盤としては軟弱なためコンクリートをうつ必要が生じた。このため、排土をそこに埋める予定が狂い、既に東南部の排土を積んでいた西南部のみに排土を積み重ねることとなり、崩壊を防ぐ作業に作業員をとられ、山の上に排土するため労力が倍加し、雨あがりには一輪車が昇れない等の障害が生じた。結局、8月第1週まで発掘を継続し、その後小人数で後始末を数日行った。この間に北東部は完掘し、弥生後期の方形周溝墓SD04の約半分や須恵器等を出土する溝SD101が発掘された。しかし、北西部に関しては予定より遅れ、約半のみを完了できたに過ぎなかった。

何分にも4月下旬に入ってから持ち込まれた話であったため、この後9月まで主要メンバーの都合がつかず、この間は一時作業を中断せざるを得なかった。中断の期間中に東海興業の手で西南部の排土を北東部に移動させる作業が行われた。さらに、肥江井氏宅予定地の基盤整備が行われ、若干の排土がそこに戻された。

9月以降は杉浦が調査から抜け、重松・藤村・山崎を中心に発掘を行った。9月中旬まではかなり多数の学生が参加したが、その後は授業のため学生の参加は限定され、三名と作業員が主力となった。9月下旬までに北西部の内4グリッドを完掘し、ただちにその部分をも排土に使うて西南部を含めた残りの全域を発掘にかかり、11月末には発掘作業を完了したが、測図・写真等および埋め戻し作業がすべて終了したのは12月半ばであった。この間に弥生前期の溝SD03・後期の方形周溝墓等調査範囲のほぼ全容を明らかにした。しかしこの間肥江井氏宅の建築工事が行われため、同氏宅との境界部分に幅1mの発掘不能部分が生じたことは残念であった。

また、9月以降は博物館において整理作業も並行して実施した。発掘とは別途に学生アルバイトを雇用し、水洗と注記をおこなった。この作業の監督には主として青山順子・水野亮子があたった。現場終了後、2月上旬までは両名に重松・山崎・藤村の5名が主となって整理作業を実行したが、2月中旬以降3月末までの春休み期間は発掘に参加した多数の学生を動員して集中的に整理作業が進行した。予定では3月末までには整理を完了させたいと考えていたのであるが、10月以降への調査の延長に加えて市街地としては遺跡の残存状況も良く、遺物の出土量も多かったため遺憾ながら整理期間を延長せざるを得ない事態となった。

一方、予算もこの段階でほぼ底をついてしまったため、市教委に追加を依頼した結果幸いにも御理解いただき50万円が認められた。4月以降は調査員の3名が卒業や就職のため大学を離れ、小桧山も4年生となり5月からは参加不能となったため、その後は八木・近藤・大江を中心に作業を継続し、7月には多くの学生の協力を得て、遺物の実測・トレース等をほぼ完了させた。しかしながら、図の貼り込みや原稿の一部等の仕事を終了させることが出来なかった。

さらに、再びこの段階で予算が無くなり、このあとは無償で作業を継続してくれた近藤・大江・高橋公仁・小桧山・岩田・土・鯉江・金森・高橋かおり等の手によって1987年2月にいたってようやく報告をまとめることが出来た。最後に、これらの諸君および就職後もトレース等を手伝ってくれた八木君、博物館勤務の時間以外に残業して協力してもらった青山・水野の両君に対して感謝するとともに、発掘から整理まで様々なかたちで参加した諸君の努力を多とするものである。

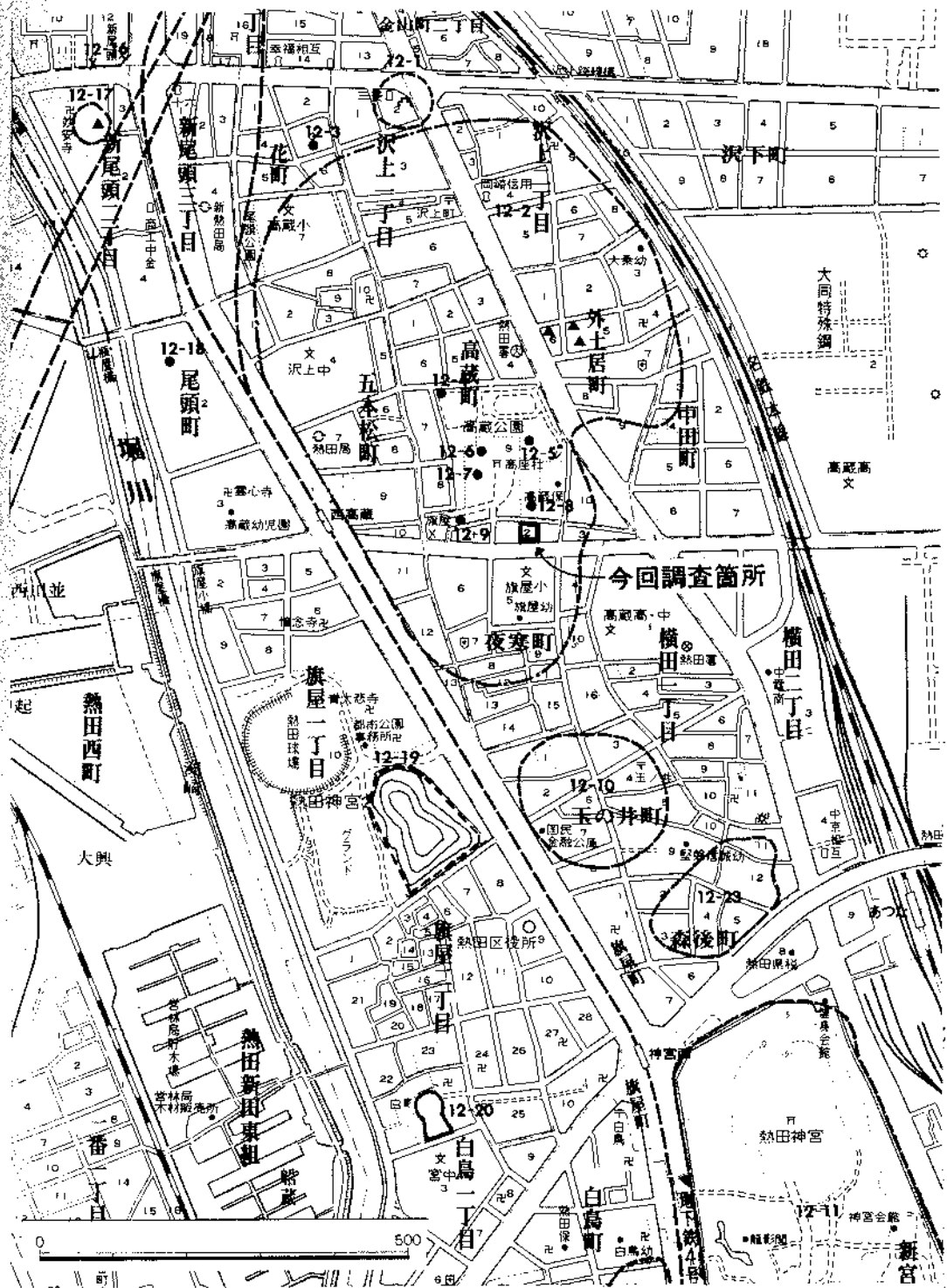


Fig1 遺跡の位置 —名古屋市遺跡分布地図(熱田区)より—

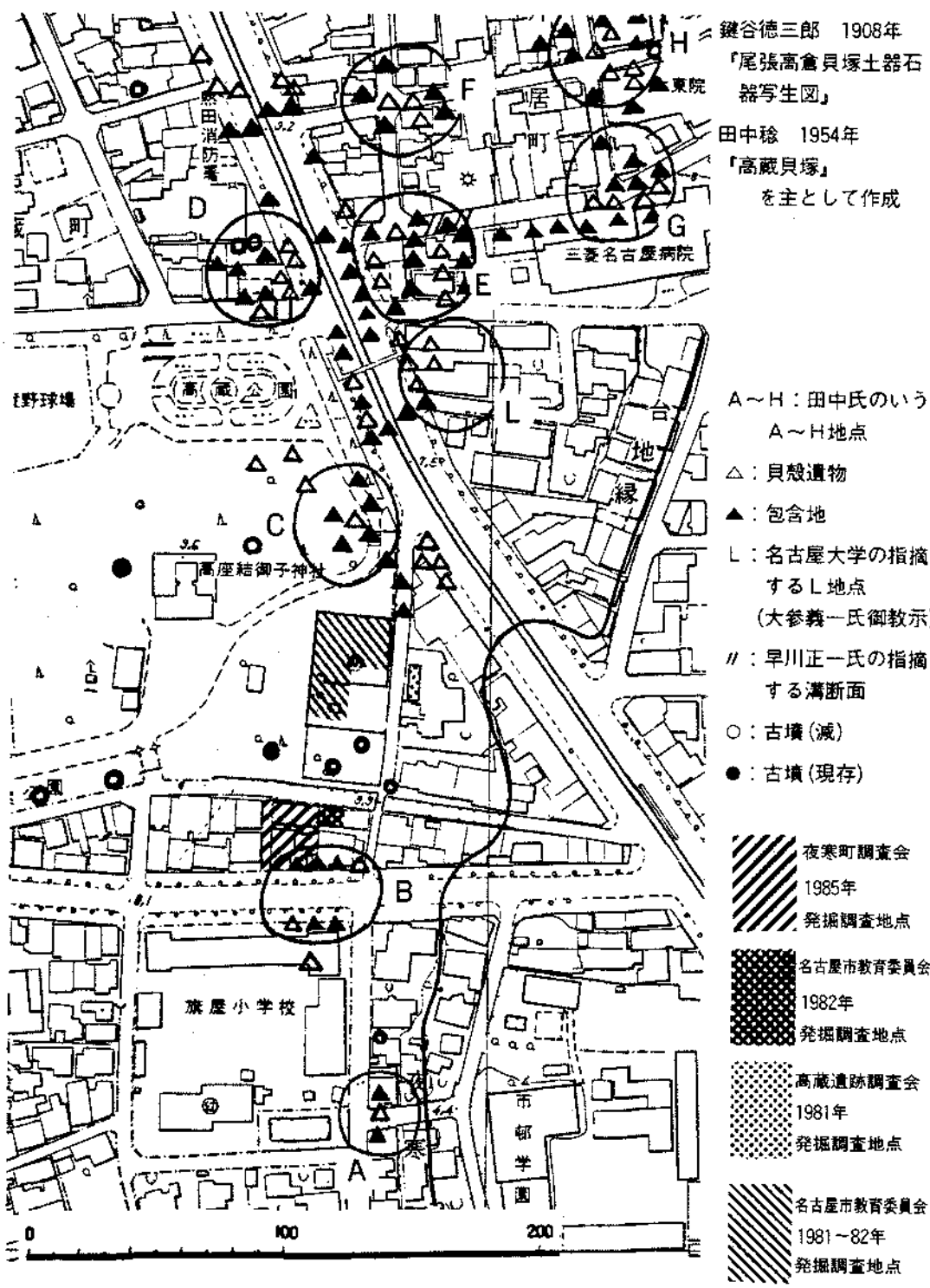


Fig 2 高蔵遺跡の遺構等分布図

## 第2節 遺 跡

### 〈遺跡について〉

調査地点を含む高蔵遺跡は、名古屋台地が北から南に半島状に伸びた南部に位置する。現在は堀川と新堀川にはさまれた台地で、このあたりの台地の縁は標高約10m強である。

遺跡は南北に700m、東西に500mの範囲にわたり、沢上1・2丁目、外土居町、高蔵町、五本松町、夜寒町にまたがって広がり、北東部は東側の東海道線寄りに張り出している。調査地点から南南東約700mで熱田神宮の北端となり、その中間にはやはり弥生時代の玉の井町の遺跡が知られている。また、南南西約350mにはこの地域で最大の前方後円墳である断夫山古墳がある。

遺跡の現状は大部分が市街地で、旧状を残すと考えられるのは高蔵神社の境内とその付近のみである。後述する度々の調査にも拘らず、遺跡の全貌は全く掌握されていない。高蔵貝塚の名が示すように、様々な地点で貝層と溝が発見され、主として弥生式土器が出土しているが、弥生時代の住居址は未発見で、弥生時代の遺構としては方形周溝墓の溝を含む溝状遺構が殆どである。また、地点によって発見された土器の形式も一様でなく、それぞれの時期の中心を推測すべき手掛かりも現在まで把握されていない。あまり調査されていない遺跡の西北部か、台地の両縁から斜面が居住区であった可能性はあろう。明治以来、全国的に著名な遺跡でありながら、それはパレススタイルの土器や馬骨などの遺物によってであり、遺跡の性格や遺跡の限界などは未解決のままである。

今回の調査地点は、この後の荒木集成館による発掘地点を除けば、最も南部での調査である。調査地点の東は約10mで台地の縁となり、現状では緩やかに高蔵交差点へ下っている。台地の縁は北では春日荘跡の調査地点の東側へと続くが、途中に切り通しかと考えられる古い道路が高蔵神社から東に下って、これを切断している。この道路が本来小規模な沢であったか否かについては、判断し難い。旗屋小学校との間の道路は戦時中に作られたもので、その際に遺物が出土したのが高蔵B地点と呼ばれることになった由縁である。

### 〈過去の調査〉

本遺跡は1908年に鍵谷徳三郎氏が調査し、人類学雑誌に発表して以来、当地方で最も著名な遺跡の一つである。その数多い調査を列記すると下記のごとくである。

- 1908年 鍵谷徳三郎 [鍵谷1908 a, b]
- 1913年 熱田町旗屋小学校・井上校長 [佐藤1918]
- 1916年 名古屋史談会員・安藤清次郎 [佐藤1918]
- 1917年 愛知医専 解剖学教室・佐藤亀一 [佐藤1918]
- 1917年 徳川義親 (E地点) [田中1954]
- 1919年 東京帝大人類学教室・小金井良精・柴田常恵 [稲垣1955]
- 1919年 京都大学・清野謙次 (高坐神社の北, 小金井の東続き) [清野1925]
- 1928年 内務省名勝天然記念物調査会・小栗鉄太郎・伊藤文四郎  
(南区熱田東町佐久間九兵衛所有地) [考雑18-10]
- 1940年 鈴木範一 (高蔵町60, D地点現消防署) [田中1954]
- 1941年 東京帝大人類学教室・酒詰仲男 (C地点) [田中1954]
- 1942年 高橋儀一 (C地点東大人類調査地点の西隣) [田中1954]
- 1946年 紅村弘 (C地点) [田中1954]

- 1951年 田中稔（外土居町12 E地点）〔田中1954〕  
 1951年 名古屋大学・澄田正一（外土居町）〔澄田1955〕  
 1953年 南山大学・中山英司（高蔵町62 D地点 現ガソリンスタンド）〔中山1963〕〔熊田1979〕  
 1954年 名古屋大学・檜崎彰一（高蔵町1 高蔵第1号墳 高蔵公園）〔檜崎1955b〕  
 1956年 南山大学・稲垣晋也（南山1953の北隣 D地点）〔水口1985〕  
 1981年 見晴台考古資料館（高蔵町 高蔵保育園）〔見晴台考古資料館1982〕  
 1981年 高蔵遺跡調査会・伊藤秋男（高蔵町1001-2 春日荘跡）〔高蔵遺跡調査会1982〕  
 1982年 見晴台考古資料館（夜寒町70）〔見晴台考古資料館1983〕  
 1985年 夜寒地区調査会〈今回の調査〉（夜寒町204B地点）  
 1985年 荒木集成館・荒木実（五本松町1108-11,12）〔荒木他1986〕

既述のごとく、本遺跡で古墳以外に発見されている遺構はすべて溝状遺構であって、住居址など殆どない。溝状遺構の大半は弥生時代以降の遺物を出土するものが多く、特に後期以降が大半を占める。前期の土器は酒詰仲男氏の調査の際に発見されているが未報告である。その発掘地点の南隣りは1981年の市教委の発掘地点（高蔵保育園）であって、ここから前期の溝と方形集溝墓が発見されたことは大きな収穫であった。今回の調査地点は保育園とは一連のものと考えられる場所であった。

#### 〈調査地点について〉

今回の調査地点は愛知県名古屋市熱田区夜寒町204番地にあり、高蔵貝塚B地点と呼ばれる所である。国道19号線の西高蔵交差点とかつての市電大津町線の通りの高蔵の交差点を東西に結ぶ道路の北側で、道をはさんだ南側は旗屋小学校である。高座御結子（高蔵）神社の境内の南東の角と調査地点の北東の角が、狭い切り通しの道路をはさんで接し、1981年に市教委が発掘調査を行った高蔵保育園はこの道を含んだ北隣である。1982年の市教委調査地点（夜寒町70）は東に隣接している。1981年に伊藤秋男教授を中心とする高蔵遺跡調査会が発掘した春日荘跡は保育園の東隣にあたり、現在はマンションが建っている。1943年の東京大学人類学教室の調査地点は保育園の北部から北と考えられる。〔Fig.2〕

遺跡は調査開始の時点では空地であったが、かつては長屋が建っていたとのことである。最も西側はもとは私道で北半は舗装され、北側の道路に下るため緩い坂になっていた。

#### 〔発掘区〕

肥江井、鶴田両氏の境界の杭（コンクリート）の中央の1つと東の1つを結んだ線を東西の基線とし、前者を基点に東西のlineから90度ふったlineを南北の基線として、4mごとに杭を打ってグリッドを設定し南西の杭の番号をグリッドの名とした。〔PL.112〕

東西方向のlineには北からZおよびAからGの名を、南北方向のlineには西から0から5の名を与えている。最初の原点はC-3である。発掘に際しては、各グリッドの北と東に1mの土手を残し、3m×3mの区画をまず発掘し、後で中間の土手を撤去した。前述のごとく、発掘は住宅工事と排土等の理由で4期に分かれた形で実施している。第1期には主としてCと3のlineより東と南の部分を発掘し、Cのlineより北の表土と一部の第2層も調査した。第2期にはCと3のlineの東北を主として発掘したが、西側のBのlineより北のA-1、A-2、B-1、B-2の4区も手がけた。この段階で調査の進行に差が生じ、B-1、B-2は土手を残して完了した。第3期はBと3のlineの西北即ち上述の4区の調査を完了させ、第4期にはBと3のlineの南西を完了させた。し

たがって、遺跡の全容が露出していたことは一度もなかったことになる。また第1期と2期の発掘区の間、即ちCのlineの南1mと第1と第3期の間、即ち3のlineの西1mの部分が住宅建設との関係で未発掘に終わっているが、この部分は直接住宅の建設予定されている部分ではない。

なお、土層断面図は特別の場合以外は上記のlineでとり、そのみを〔PL.113, 114〕に図示してある。

基点の国土座標は発掘区南北軸線上にとり、北はZ-3が(X=-96323.58, Y=-23576.99)で、南はF-3の2.5m南延長上で(X=-96350.55, Y=-23578.58)である。

#### [土層]

遺跡全体に共通した層序について述べると表土層は若干の腐植土を含むが、瓦礫・砂利等から成っており、長屋当時及びそれ以降の表土である。

第2層は茶褐色で粘質の強い極めて堅くしまった土層で、乾燥するとスコップの刃がたたない程である。厚さ5~20cmで、調査区のほぼ全域に広がる。山茶碗や遺物の小片を含んでいるものの、後からの掘り込み等がない処では弥生以前、あるいは江戸以降の遺物はない。畑の上層とは思われず、自然堆積とも考えにくいので、地固めた土か、高座神社に関連した広場等の面であろう。

第3層は黒褐色腐植土である。遺構のない部分を通じてみると、上下2層に分けられるが、その差は場所によって異なり、遺物も特に差はない。上下の差は耕作によって生じたかと考えられる。攪乱部以外では近世以降の陶磁類を含んでいないことから考えると上の第2層の形成はかなり早い時期であったとも考えられる。遺物の出土状況からみて、かなりの遺構はこの層から切り込み、あるいはこの層内で形成されていると思われるが、全く確認できなかった。下の地山に掘り込まれた遺構内もほぼ第3層と同様の土であるが、より粘質が強くと、ところにより地山ブロック等を混じている。

地山は黄褐色の粘質土(砂質シルト)である。最東部等の全く遺構の存在しない箇所では、地山の上部は茶褐色で下になるにつれ次第によごれがなくなり、黄褐色になる。しかし、調査区内の大部分ではこの漸移層は何らかの遺構により削平されていた。地山の土は通常は堅く締まっているが、極度に水を含んだ場合は軟弱で崩壊しやすい。地山の下部はより砂質であり、汚れがしみこんでいるため、ここまで掘り込んだ遺構では底近くの壁面の検出に苦労した。

#### [遺物番号]

遺物番号は各グリッドごとに200番を当初から割り当てた。下記の区ごとの番号から開始している。

A-0 7601				E-0 6401	F-0 7401	
A-1 0001	B-1 1001	C-1 2001	D-1 5201	E-1 6201	F-1 7201	
A-2 0201	B-2 1201	C-2 2201	D-2 5001	E-2 6001	F-2 7001	
A-3 0401	B-3 1401	C-3 2401	D-3 3001	E-3 3601	F-3 4201	G-3 4801
A-4 0601	B-4 1601	C-4 2601	D-4 3201	E-4 3801	F-4 4401	
A-5 0801	B-5 1801	C-5 2801	D-5 3401	E-5 4001	F-5 4601	



## 第2章 弥生時代前期の溝 [SD-03]

### 第1節 遺構

#### I 遺構と層序

SD03は発掘区の東南隅（F-5区）から西北隅（A-0区）にわたって、グリッドを斜めに横切って走る溝である。B-1区の中央部ではSD04によって切られ、更に東南部では防空壕が掘込まれ底部から約30cmの高さを残すのみである。D-3区の西北部でもSD04によって切られている。A-0及びF-5区は可能な限り拡張したが、いずれも端には至らなかった。溝は地山に切り込んだ段階で確認され、発掘区内での全長は約26mで、東北側を内側として円弧をなしている。幅は東南部の広い部分で約1.5mであり、A-0からB-1及びC-2付近では1m程度でやや狭い。これを本来の姿と見るよりも後代の遺構等によって地山が削平された程度が若干異なることに起因すると考えた方が無難であろう。深さは平均的には約1.2m位で、底部は比較的平坦で約40cmの幅を持つ。溝壁は極めて平滑に整形されており、丁寧な加工を行ったことが判るが、幾つかの工区に分けて掘削したかのように、場所によって断面の形は異なっていた [Fig.115~121]。

埋土は上層に比して黒味と粘質度の強い土の層と、地山の土である黄褐色粘質土の層からなっている。層序は場所によって異なり、層は平面的にも溝に対し斜めに堆積した状態を示すところが多く、場所によっては溝の両側・前後の四方からの堆積を示しており、特定の部分においては黒褐色埋土内の層序を確認しうるものの、土質の差を全体を通しての共通した層序関係としてとらえることはできなかった。

B-1からD-3あたりにかけては、黄褐色の地山ブロックの層が中間に存在するが、C-2ではこれが3枚あり、他の区では2枚又は1枚である。中間に未掘部（D-2・C-2とD-3の間）、防空壕とSD04による破壊部（B-1）があり、それ等相互の対比は必ずしも確かではない。C-2からD-2区にかけては2枚目のブロック層は極めて堅く、自然な堆積というより貼り底のごとく観察された。これ等のブロック層及び底の地山との間に黒褐色土の層があり、遺物の多くはここから出土している。

層序的には明確に分層できるところでも上下層の遺物が接合できる例が多く、溝内の層序によって遺物の新旧を判断することはほぼ不可能と考えられた。E-4からF-5にかけての部分ではこのような明確なブロック層は存在せず、前述の如く、層は平面的にも斜めに形成され、様々な方向から溝の埋土が入った状況を示すと考えられる。従って層序の判別は極めて困難であり、別の層の遺物同志が接合する例が多いのは西北部と同様である。溝内に貝層はなく、A-1からA-0にかけて埋土中部に1塊の貝の集中した部分があったのみである。

#### II 遺物出土状況

遺物は確認できる溝埋土の最上部から底まで、また全域にわたってまんべんなく出土するが、最も集中して発見されたのはE-4、E-5、F-4、F-5の部分であり、A-1からA-0にかけてとC-2からD-2最近の2ヶ所がこれに次いで多い。復元完形品の殆どは、これらの部分からである。以下レベルの海拔を（LV=...）で示す。（ ）内の上・下は複数の破片の上のものか、下のものを表わす。

A-1を中心にA-0の東部とB-1の北部にかけては出土点数が多い。

主なものを挙げると埋土上層上部からは、口唇部に貼付突帯を持つ小型鉢7601 [PL02-02]、遠賀川系壺口縁・頸部7602 [PL02-03]、蓋7602 [PL02-06]、条痕系甕の口縁から胴部1025 [PL03-01]が発見されている。

埋土上層下部 [PL52下, PL69下] からは、壺口縁・頸部7603 [PL02-03]、蓋7607 [PL01-04]、壺下半部0021 [PL03-02] (LV=9.711m)、壺口縁・頸部0022 [PL02-06] (LV=9.69, 9.81m)、条痕系甕?下半部0023 [PL03-03]、頸部に貼付突帯を持つ復元完形の壺0024 [PL02-05] (LV=9.68m)、頸部から肩の部分に3ヶ所横走沈線帯を施した復元完形の壺0025 [PL01-03] (LV=9.6, 9.464m)、大洞系の復元完形の鉢0028 [PL01-02] (LV=9.78m)、甕?の底部1047 [PL03-04]、無文で口縁部の外反度が少ない壺の口縁・頸部0031 [PL02-04] (LV=9.366m)、無頸壺上部0020 [PL01-01] など一群の土器が溝の中央部の底から約30cm位のレベルで纏まって出土している。上層上部出土の破片で下部の土器に接合される例は少なくない。

これらの内、7601の鉢は他の土器に比して高いレベルで発見されている。復元された土器の内、1個体分がまとまって出土したのは、7601の鉢と大洞系の鉢と0025の壺の3点のみで、あとは分散して出土している。

C-2からD-2にかけての部分では、層序はきわめて明瞭に分層されるが、土器の型式には分けるだけの有意義な差はない。

埋土上層上部からは条痕系の復元完形の甕5045 [PL04-02] (LV=9.948m)が出土し、上層上部と下部の接合したものとしては、条痕系壺?底部2238 [PL05-04] (LV=9.769m)、復元完形で底部穿孔の甕2240 [PL05-02] (LV=9.774~9.927m)、口縁部の開きが小さい甕上半部2241 [PL06-01] (LV=9.779~9.948m)、貼付突帯を持つ壺下半部で底部穿孔のもの2242 [PL04-05] (LV=9.78~9.932m)、壺口縁部2244 [PL04-04]がある。上層上部と中層の接合例には胴上部に9条の沈線を持つ壺下半部2248 [PL06-02] (上LV=9.939m)が、中層と下層の接合例には甕の口縁部2245 [PL04-01]がある。下層からは遠賀川系壺口縁部2255 [PL04-03]、刻み目の付いた2条の突帯を最大径部に持つ壺胴部5046 [PL05-03]、復元完形の鉢5058 [PL05-01]がある。5058の鉢は上から3層目の地山ブロック層と底の間の黒褐色土層から発見されており、層序的には最も古いものの1つと言えよう。

D-3からE-3にかけては、復元可能な土器の出土は少なく、SD04が北部に切っている。

D-3から上層下部から壺の下半部3101 [PL07-01]、胴部と底部の境が隆起した稜をなし胴が直立する壺または鉢の下半部3097 [PL07-03] (LV=9.301, 9.351m)、3101 [PL07-02]、0028の鉢と同一個体の破片3056が発見されている。

E-3からは中央部下層の溝底近くから出土した2ヶ所の沈線帯と胴部最大径のやや上の2条の貼付突帯を持つ復元完形の壺3668 [PL05-04] (LV=9.768, 9.817m)のみが1個体まとまって発見され [PL53下]、他には上層下部から頸部の沈線と胴の最大径の部分に貼付突帯を持つ壺胴部3655 [PL07-06]が、中層を中心に条痕系の甕の口縁部3661 [PL07-05] (上LV=9.687m)、下層から甕の口縁部3663 [PL07-07]などが出土した。

E-4、F-4、F-5、E-5の部分は最も多量の遺物が出土した所であり、確認しうる溝埋土の最上部から早くも土器が集中して発見され [PL72上]、特にE-4の南から東北東方向に下降する何層かの埋土中にはきわめて多くの土器片が含まれていた [PL54]。しかしながら、ほぼ完形

の状態で見られたのは無文の壺4622のみである。その他は復元完形土器といえども個々の土器がその場で潰れたような状態ではなく、何個体もが混ざりあい、なだれこんだような状態で発見されている。この部分では地山ブロック層は不明瞭であった。

E-4では埋土最上部から大型の鉢3895 [PL17-01]、条痕系の壺の口縁から頸部3896 [PL09-01]、底部を欠く小型耳付深鉢3891 [PL10-01]が発見された。

埋土上層上部(5,6層)からは条痕系甕上半部3947 [PL11-02]、頸部に5本以上の沈線を持つ壺の口縁から頸部3946 [PL10-02]、口縁部が水平方向に伸びる小型浅鉢3961 [PL08-03]、胴上部に5本の沈線を持つ小型壺下半部3930 [PL08-05] (LV=10.052m)が出土し、上層上部と下部から口縁直下に4本の沈線を持つ復元完形の大型の甕3914 [PL10-02] (LV=9.8m)が出土している。

最も集中して発見されたのは埋土上層下部(7,8層)であるがE-4からは、甕上部3937 [PL12-05] (LV=9.753, 9.762m)、条痕系甕口縁部3908 [PL11-01]があり、上層から下層に分散して発見されたものとして、口縁部と胴部の境に沈線1本を巡らした復元完形の甕3943 [PL08-04] (上LV=9.75, 9.69m)、条痕系の復元完形の甕3884 [PL09-02]の他、F-5、E-5のものと接合して、口縁直下に2本の沈線を持つ復元完形の甕3936 (上LV=9.717m) [PL08-01]がある。

下層からは、小型甕上半部3950 [PL08-02]、頸部と胴上部に沈線を持つ小型壺胴部3944 [PL08-06]が出土した。

F-4は北西に僅かにSD03がかかるのみで、ここからは胴の下部に比して胴上部が長い壺?の下部4404 [PL15-02]が上層上部から出土したのみである。

E-5およびF-5からは、上層上部と下部から口縁直下に2本の沈線を持つ大型復元完形の甕4658 [PL14-03] (LV=9.753, 9.634m)が出土し、最も集中した埋土上層下部からは無文耳付の鉢上部4069 [PL17-02]、頸部に3条の横走沈線を持つ壺の口縁・頸部4616 [PL12-01]、条痕系で復元完形の甕4617 [PL16-02]、胴上部に6条の沈線を持つ小型壺胴部4619 [PL14-01]、頸部に2条の貼付突帯を持つ大型の壺の口縁・頸部4621 [PL16-03]、無文完形の壺4622 [PL12-03]、条痕系復元完形の鉢4623 [PL16-01] (LV=9.541m)、口縁直下に2本の横走沈線をもち底部を欠く大型の鉢4625 [PL17-03]、口縁部と底部を欠き頸部に9条の横走沈線を持つ壺4626 [PL13-01] (LV=9.585m)、壺の胴下部から底部4627 [PL15-01] (LV=9.504m)、復元完形の小型の鉢4636 [PL13-04]、頸部に8条、胴上部に8条の沈線を持つ壺の口縁頸部4655 [PL12-04]、復元完形の鉢4662 [PL14-02] (LV=9.09m)、条痕系の甕の上半部4663 [PL11-01] (LV=9.628, 9.607m)が発見されている。

上層と下層にまたがっては、口縁部を欠き頸部に8条、胴上部に4条の沈線を持つ壺4637 [PL13-02]。下層からは、口唇に刻みを持つみの復元完形の小型甕4630 [PL13-03]、胴上部に5条の沈線を持つ壺の胴から底部4630 [PL15-03]、頸部に7条、胴上部に数条の横走沈線を持つ壺の口縁・頸部4630 [PL12-02]が出土した。ここでも層序的に型式を分けるだけの証拠は得られなかった。

復元できたもののうち、出土時点から明確に1個体がまとまった状態であったのは3個体のみであり、他はかなりバラバラに分解した状態で発見されている。後での攪乱のない部分では、溝内の土器片は殆ど全て弥生前期のもので、ほぼ西志賀平行と考えてよいであろう。遠賀川系と条

痕系を比較すると前者の方が数量は多い。条痕系のものの大半は甕であって、壺は極めて少ない。また、F-4区の溝底部から炭化米が出土している。石器は極めて少なく、石鏃数点と剥片等若干である。またE-4区から歯が出土しているが、その所属年代、人歯か否かは現在未確認である。

### III 小括

これ等から判断してSD03は弥生前期に掘り込まれ、かつ弥生前期に埋没したものと考えられる。遺物の出土状況は完形のものでそこに置かれたのではなく、殆どが破碎されたか、もしくは壊れたものを破棄したかのいずれかであることを示している。溝そのものの用途は不明で推測しがたいが、発掘時の所見では地山の土は水がたまと崩れやすく、通常水が溜っていたとは考え難いので、排水路又は境界を区切る溝で、弥生時代前期末には不要となり埋められたか、もともと非実用的な祭祀等のための溝で掘られてまもなく埋められた、と考えるのが妥当であろう。両者いずれの可能性が強いかは今後の課題としたい。前者の意味ではSD105はSD03に平行して外側にあるので境界を拡張し、不要になったSD03を埋めた可能性を示し、後者の意味では底部を穿孔した例や、殆どの復元完形品が、半分以上の部分を失っており、調査区内での出土土器片には、その部分に該当するものを発見できないことが理由としてあげられるのであろう。なお現在まで高蔵遺跡内では弥生前期の住居址は未発見であるが、溝は保育園で調査されている。

(重松)

## 第2節 弥生前期の土器

SD03から出土した土器について、まず復元完形品等の器形や特徴が明確であり、かつSD03に伴うと考えられるものを取り上げて記述する。

その他の破片については拓影のみで図示し、若干の解説を加えて本節末尾に付加している。弥生前期の土器片は調査区域全体の各層からも出土しているが、本書では省略した。報告を急いだことと、大雑把にはあるが検討した結果、SD03の遺物と大差なく、拓影に採録した範囲から逸脱するものは殆どないと判断したことがその理由である。ある程度まで器形が明らかで実測図で図示したものは遠賀川系土器では甕が11点、壺が30点、鉢8点、蓋3点、壺または鉢が2点であり、条痕系では甕が8点、鉢が2点、壺が2点で、その他両者に属さないもの3点がある。

以下、器形等で分類し、個別に詳述する。

### I 遠賀川系の土器

遠賀川系土器に関して言えば、この資料に限っては壺が圧倒的に多く、甕、鉢の順となる。

#### (a) 《壺》

(i) 中型で口縁部が強く外反し、頸部は円筒形に呈し、胴部中位から下位で膨らみ、やや突出した平底となるものがほとんどである。即ち、

0025 [ PL01-03 ; 80-03 ], 7602 [ PL02-01 ; 81-01 ], 7603 [ PL02-03 ; 81-03 ],  
0024 [ PL02-05 ; 81-05 ], 0022 [ PL02-06 ; 81-06 ], 0021 [ PL03-02 ; 82-02 ],  
1047 [ PL03-04 ; 82-04 ], 2255 [ PL04-03 ; 82-02 ], 2244 [ PL04-04 ; 83-01 ],  
2242 [ PL04-05 ; 84-06 ], 5046 [ PL05-03 ; 83-04 ], 2248 [ PL06-02 ; 83-03 ],  
3101 [ PL07-01 ; 85-01 ], 3668 [ PL07-04 ; 85-04 ], 3655 [ PL07-06 ; 85-07 ],  
3946 [ PL10-02 ; 88-06 ], 4616 [ PL12-01 ; 90-01 ], 4630 [ PL12-02 ; 90-02 ],  
4655 [ PL12-04 ; 90-03 ], 4626 [ PL13-01 ; 88-01 ], 4637 [ PL13-02 ; 90-06 ],  
4630 [ PL15-03 ; 92-03 ] の22点である。

まず、これ等について図版の順にやや詳しく記述する。

0025 [ PL01-03 ] <区> A-1。<器種> 復元完形の壺。<接合> 0026。<法量> 口径21.6cm, 底径7.8cm, 器高34.7cm, 容量10258, 9485cc。<形態> 頸部は円筒状。口縁部で大きく外反する。胴部は中位で膨らむ。底部はやや突出した平底。口縁部に孔が1つ（おそらく付であったと思われるがもう1つは欠損）。<調整> 外面の口頸部・胴部上位・底部付近はハケの後へラミガキ（胴部上位の方が丁寧にへラミガキしている。）胴部下部はハケ目で底部板ナデか。頸部に沈線3本。胴部上部中位に各々沈線4本, 6本。沈線間にハケ目が残る。内面口頸部はハケの後へラミガキしている。

7602 [ PL02-01 ] <区> A-0。<器種> 壺上部。<法量> 口径24cm, 残高3.1cm。<残存> 口縁部の一部のみ残存。<胎土> 2mm程の砂礫を含む。<色調> 茶灰色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部はゆるく外反し、端部に面をつくる。<調整> 外面口唇部はヨコナデで、口縁部は研磨している。頸部はタテハケで所々研磨している。沈線6本が巡り、1mm間隔のタテハケが残る。胴部上位はタテハケの後研磨している。内面口縁から頸部は研磨している。

7603 [ PL02-03 ] <区> A-0。<器種> 壺上部。<接合> 7604。<法量> 口径22cm。<残存> 口頸

部の号が残存。〈胎土〉2mm以下の砂礫を多く含む。〈色調〉黄茶灰色。〈焼成〉良好。〈形態〉径3.5mmの孔が1つある。〈調整〉外面口唇部はヨコナデで、口縁部はタテハケの後研磨している。頸部は幅1-3mm間隔のタテハケの後沈線5本を巡らす。2本目は削り出している。胴部上位はタテハケの後ヨコの研磨である。内面口唇部は研磨の後の粗いナデで、口縁部はヨコの研磨である。口頸部はナナメのハケの後研磨している。

0024 [PL02-05] 〈区〉A-1。〈器種〉復元完形の壺。〈接合〉0011 26 36。〈法量〉口径20.5cm, 底径9.9cm, 器高30.2cm, 容量6683 (6106,5888cc)。〈残存〉口縁部と胴部・底部が残存。〈胎土〉1-3mmの砂粒を多く含む。〈色調〉外面は明褐色で、中～下胴部に黒斑及び赤褐色の部分がみられる。内面は明褐色。〈焼成〉不良。〈文様調整〉外面口縁部はヨコナデし、口頸部に1条の刻み目のある貼付突帯を持つ。胴部はタテハケの後で研磨している。内面は口縁部がヘラミガキで胴部ヨコハケである。

0022 [PL02-06] 〈器種〉壺。〈区〉A-1。〈法量〉口径19.1cm。〈残存〉口縁部号弱、口頸部のみ残存。〈胎土〉1-2mmの砂礫を含む。〈色調〉黄茶灰色。〈焼成〉良好。〈形態〉口頸部は円筒状を呈し、口縁部は外反する。4mmの孔が1つである。〈調整〉外面口唇部はヨコナデで、口縁部はタテハケの後ヨコ方向の研磨。口頸部はタテハケ後研磨した上で沈線6本を巡らす(タテハケが少し残る)。胴部上位はタテハケ後研磨している。内面口縁部はヨコナデ後に研磨か。頸部指圧調整痕がかすかにある。胴部上部は研磨。

0021 [PL03-02] 〈区〉A-1。〈器種〉壺下部。〈法量〉底径7.2cm, 最大胴径24.7cm, 容量(4604cc)。〈残存〉胴部中位と、底部が残存。〈胎土〉1-3mmの砂礫を含む。〈色調〉外面は黄茶灰色で黒斑が2ヶ所ある。内面の胴中位は茶灰色で一部黒色。胴下位から底部は暗茶灰色である。〈焼成〉良好。〈形態〉胴中位が膨らみ、底部は突出した平底となる。〈調整〉外面胴部上位はタテハケ後研磨し、沈線5本を巡らす。胴中位は研磨し、中位から下位は器表面があられているため不明だがおそらく研磨であろう。底部はタテハケ。底面は不定方向ナデ。内面は胴部上位がナデで、胴部中位はナナメ方向のハケである。

1047 [PL03-04] 〈器種〉壺? (底部)。〈接合〉0032 0028。〈法量〉底径10.3cm, 容量(3609.5cc)。〈残存〉底部と胴部下位のみ残存。〈胎土〉1mm以下の砂礫を含む。〈色調〉外面が黄茶灰色で胴部下位に黒斑があり、内面は黒灰色。〈焼成〉良好。〈形態〉底部はやや突出した平底。〈調整〉外面胴部上位はナナメハケの後研磨し、胴部下位はナナメハケで、底部はナデである。内面は板ナデである。

2255 [PL04-03] 〈区〉C-2。〈器種〉壺。〈法量〉口径21.6cm。〈残存〉口径部の号弱が残存。〈胎土〉1-2mmの砂礫を少量含む。〈色調〉黄茶灰色。〈焼成〉良好。〈形態〉口頸部は外反し口唇部近くは平坦となる。3mmの孔が2つあいている。〈調整〉外面口唇部はヨコナデで口縁部はヨコ方向の板ナデである。口頸部はタテ及びナナメのハケで胴部は研磨している。内面口縁部はヨコ方向のハケの後研磨し、胴部も研磨している。

2244 [PL04-04] 〈区〉C-2。〈器種〉壺。〈法量〉口径25.9cm。〈残存〉口縁部号弱が残存。〈胎土〉2mm程の砂礫を含む。0.2mm程の小孔が多数あり、器面も荒れている。〈色調〉外面は黄茶灰色。内面は灰褐色。〈焼成〉良好。〈形態〉口縁部は大きく外反して開く。〈文様調整〉外面口頸部に巡る沈線4本が残存している。内面はナデである。

2242 [PL04-05] <区> C-2。<器種> 壺下部。<接合> 2225 29 33 39 41 43 44。<法量> 底径9.9cm, 残高18.3cm, 容量(8213.9cc)。<残存> 胴部中から下位までと底部がほぼ残存。<胎土> 1mm程の砂礫を少量含む。<色調> 淡黄茶灰色。<焼成> 良好。<形態> 胴部は中位で張り, やや上に貼付突帯をもつ。底部はやや突出した平底となる。<調整> 外面胴部はヨコ及びナナメ方向のハケの後研磨している。突帯上及びその付近のみヨコナデで突帯上には刻み目を持つ。底部はナデか。内面は胴部・底部とも研磨している。底部は穿孔されている。

5046 [PL05-03] <区> D-2。<器種> 壺胴部。<残存> 胴中位の一部のみ残存。<色調> 茶褐色。<焼成> 良好。<調整> 最大胴径部のやや上に刻み目を持った貼付突帯2条が巡る。

2248 [PL06-02] <区> C-2。<器種> 壺下部。<接合> 2249 47 50 51 45 17 36。<法量> 容量(11898.0cc)。<残存> 頸部から底部まで残存。<胎土> 1-2mmの砂礫を含む。<色調> 黄褐色。<焼成> 良好。<形態> 胴部は中位で張り, 底部はやや突出した平底となる。<備考> 胴上位に沈線9本が巡る。外面は研磨している。

3101 [PL07-01] <区> D-3。<器種> 壺。<接合> 2109 2257 3100 01 05。<法量> 底径8.6cm, 容量(4842.2cc)。<残存> 口縁部, 胴部まで欠損。<胎土> 1mm程の砂礫を含む。<色調> 淡褐色。<焼成> 良好。<形態> 胴中位で張り, やや突出した底部を持つ。<調整> 胴部は内外面とも研磨され, 底部はタテハケを残している。

3668 [PL07-04] <区> E-3。<器種> 復元完形の壺。<法量> 口径18.8cm, 底径6.2cm, 器高26.2cm, 容量3942.8, 3498.4cc。<残存> 口縁部は大部分が欠損し, 胴部は一部が欠損する。<胎土> 1-3mm程の砂粒を多く含む。<色調> 淡赤褐色。胴部上位は淡黄灰色で黒斑がある。内面は淡黄灰色。<焼成> 良好。<形態> 頸部は円筒形で, 口縁部は大きく外反し端部は面をつくる。胴部は中位で膨らみ, やや突出した平底をもつ。<調整> 外面胴部下位はヘラミガキで胴部上位と口頸部はタテハケ後ナデている。頸部に沈線4本, 胴上部に沈線5本が巡っている。胴部中位よりやや上にひねり出し突帯が2本巡る。突帯上にヘラ状工具による刻み目がある。内面口縁部はナデである。

3655 [PL07-06] <区> E-3。<器種> 壺。<残存> 胴中位まで弱残存。<胎土> 1mm程の砂礫を多量に含む。<色調> 淡褐色。<焼成> 良好。<形態> 胴中位が張ると思われる。<調整> 胴部最大径のところに貼付突帯を施す。貼付突帯は両側からつまんだようにみえる。貼付突帯よりやや上に5条の沈線を施す。

3946 [PL10-02] <区> E-4。<器種> 壺。<残存> 口縁部まで。<胎土> 1mm程の砂粒を少量含む。<色調> 淡茶灰色。<焼成> 良好。<備考> 小孔が2ヶあり, 頸部に沈線5本が巡る。最上部は削出しの後で沈線を施す。沈線間にハケ目が見られる。

4616 [PL12-01] <区> E-4。<器種> 壺口縁部。<区> F-5。<法量> 口径23.0cm。<残存> 口頸部まで残存。<胎土> 2mm以下の砂礫を少量含む。<色調> 外面は茶灰色で, 内面は黒灰色。<焼成> 良好。<形態> 口頸部は大きく外反して開く。輪積み。<調整> 外面口唇部はヨコナデ。口縁部上位はヨコナデで, 下位はナナメハケの後でタテの板ナデ。頸部はタテまたはナナメハケの後で沈線3条を施す。胴部上位は研磨されている。内面口縁部はヨコナデで, 口頸部は研磨されている。

4630 [PL12-02] <区> F-5。<器種> 壺の口縁部。<法量> 口径15cm。<残存> 口縁部の唇と口頸部の舌弱が残存。<胎土> 1-2mmの砂粒を含む。<色調> 淡黄褐色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は外反し、孔が1つある。<調整> 口縁部はタテハケ（巾間隔1mm）の後ヨコナデしている。頸部はタテハケの後タテ及びバナメのナデで、沈線7本が巡る。胴部上位はタテハケの後でタテにナデている。胴部中位はタテハケの後ヨコナデされ、沈線4本が残存する。内面は指圧調整の後ヨコナデ（10段）され、特に口縁部から2段目が痕が残っている。口唇部付近に輪積痕がある。

4655 [PL12-04] <区> F-5。<器種> 壺口頸部。<接合> 4616。<法量> 口径24cm。<残高> 13.4cm。<残存> 口縁若干と頸部舌が残存。<胎土> 1mm程の砂粒をまばらに含む。<色調> 黄褐色。<焼成> 良好。<形態> 口縁は大きく外反して開く。<調整> 頸部に8本の沈線を施し、胴上部にも8本の沈線が巡り上下を削出している。内面胴上部から頸部は指圧による調整で口縁内面はナデている。

4626 [PL13-01] <区> F-5。<器種> 壺。<接合> 4623 25 26 29 69。<法量> 最大胴径25.1cm、残高24.4cm、容量（5161.1, 4779cc）。<残存> 口縁部と底部は欠損。頸部から胴下位も舌強が欠損している。<胎土> 1mm程の砂礫を多く含む。<色調> 黄色味を帯びた淡茶灰色で外面に黒斑があり、頸部内面にこげた痕がある。<焼成> 良好。<形態> 口頸部はゆるく外反し、胴部は中位で張る扁平な球形である。<調整> 外面口縁部は研磨し、頸部の沈線8本の上下はともに削出している。胴部はタテハケだが中位にヨコハケがあり、その後研磨している。内面は口縁部がヨコハケ及びバナメハケの後タテ方向の板ナデで、口頸部から胴部中位に指圧調整痕がよく残る。

4637 [PL13-02] <区> F-5。<器種> 壺。<接合> 4637 41。<法量> 底径8.9cm、残高30.5cm、容量（7453.1cc）。<残存> 口唇部はすべて欠損し、胴部以下は若干欠損部分がみられるがほぼ残存する。<胎土> 1-2mmの砂粒を含む。<色調> 淡赤褐色。<焼成> 良好。<形態> 頸部は円筒状で口縁部は大きく外反していくようである。胴部は中位よりやや下で膨らむ球形状で、底部は平底である。<調整> 外面頸部はタテハケで、胴部上位はタテハケ後にヘラミガキする。胴部中位はヨコ及びハケの後ヘラミガキし、胴部下位はヘラミガキである。頸部には沈線8本が、胴部中位よりやや上には沈線5本が巡る。各々沈線間にハケ目が残っているが、頸部の方が胴部より太く深い。内面口縁部はハケ後ヘラミガキしている。

4630 [PL15-03] <区> F-5。<器種> 壺下部。<接合> 4067 b 4066。<法量> 底径8.3cm、最大胴径34.2cm。<残存> 胴中下部の舌が残存。底部は無い。<胎土> 1mm弱の砂礫を含む。<色調> 淡褐色で胴下部に黒斑がある。<焼成> 良好。<形態> 胴中位が張る。<調整> 胴部最大径付近にヨコハケがみられ、胴下部にヘラミガキを施し、底部付近にタテハケを残す。胴上部の中位に5条の沈線を巡らす。

(ii) 小型のものとしては次の3点のみで少ない。

3930 [PL08-05; 86-05], 3944 [PL08-06; 86-06], 4619 [PL14-01; 91-02]

3930 [PL08-05] <区> E-4。<器種> 壺。<接合> 3890。<法量> 底径6.3cm、残高8.7cm、容量（825.6cc）。<残存> 底部・胴部下位舌と胴上位舌が残存。<胎土> 2mm程の砂礫を含む。<色調> 淡灰褐色。<焼成> 良好。<形態> 胴部はやや下位で張り、扁平球形状。底部はやや突出した平底となる。<調整> 外面胴上部はタテハケ後研磨。1cm幅のタテハケ後沈線5本。底部ナデ。内面底部は指圧調整。底部から胴部へ少し折り返している。



3944 [PL08-06] <区> E-4。<器種> 壺。<法量> 最大胴径19.4cm。<残存> 胴部上中位のまが残存。<胎土> 0.5-2mmの砂礫を含む。<色調> 黄茶灰色で、外面胴部上位に黒斑がある。胴部上位は茶灰色。<焼成> 良好。<調整> 外面頸部に巡る沈線は3本が残存する。胴部上位はタテ方向に研磨し、沈線6本（1本途中でとぎれる）を巡らす。胴部中位は研磨され、一部ヨコ方向のハケがみられる。内面はナナメにナデている。

4619 [PL14-01] <区> F-5。<器種> 壺胴部。<法量> 最大胴径20.6cm。<残存> 胴部のまの弱のみ残存。<胎土> 1mm程の砂粒を少量含む。<色調> 淡茶灰色。<焼成> 良好。<形態> 胴中位で張る偏平球形状を呈する。<調整> 外面胴部上位は研磨し、削出して沈線6本を巡らす。胴部中位は研磨している。内面胴部上部から中位は板状工具によるナデである。

上記が本調査で出土した遠賀川系の壺の内で最も多いタイプであるが、その中で

(ア) 頸部や胴上位、中位に3条以上の沈線による沈線帯を有するものは、

0025[PL01-03], 7602[PL02-01], 7603[PL02-03], 0022[PL02-06], 0021[PL03-02],  
2255[PL04-03], 2244[PL04-04], 2248[PL06-02], 3930[PL08-05], 3944[PL08-06],  
3946[PL10-02], 4616[PL12-01], 4630[PL12-02], 4655[PL12-04], 4626[PL13-01],  
4637[PL13-02], 4619[PL14-01], 4630[PL15-03]である。

これ等のうち、

頸部と胴上部、胴最大径部のやや上の3ヶ所に沈線帯を持つのは0025の1点のみである。

頸部と胴上部の2ヶ所であることが確実なのは、3944と4637の2点のみであるが、上部のみ残存する4630、4655の2点も少なくとも2ヶ所に沈線帯を持ち、後者は3ヶ所かもしれない。

頸部のみに沈線帯を持つものは4626の1点のみであるが、口頸部のみの7602、7603、0022、2255、2244、3946、4616はいずれも頸部に沈線帯を有する。また、3101 [PL07-01] は胴部に沈線帯を持たず、頸部のみの可能性がある。

胴部のみに沈線帯を持つことが確実なものはないが、沈線帯が胴部に1ヶ所のみであることが確実なのは2248、3930の2点があり、0021、4619、4630も1ヶ所と考えられる。

以上からみてこのタイプの壺は基本的に頸部に沈線帯を巡らし、加えて胴上部中位に沈線帯を合わせ持つものが最も普遍的と考えられる。3ヶ所の沈線帯を持つものは少なく、胴部のみ持つものは存在しないようである。

これ等のうちには口縁部に小孔を有するものがある。即ち0022、0025、2255、3946、4630の5点で、0025、2255、3946の3点はいずれも2個ずつ存在する。

(イ) 頸部又は胴部中位に1条或いは2条の貼付突帯を有するものは次の3点である。

0024 [PL02-05], 2242 [PL04-05], 5046 [PL05-03]

このうち、0024は頸部に1条の貼付突帯のみを持ち胴部は無文である。3101 [PL07-01] は同類の可能性を残す。(ii) に分類した4621 [PL16-03] は頸部に2条の貼付突帯を巡らすか胴部は不明である。2242は1条、5046は2条の貼付突帯を最大胴径部のやや上に巡らすか頸部は両者とも欠損して不明である。いずれも突帯上に刻み目をもっている。

(ウ) 沈線帯と突帯を合わせ持つものは、3668 [PL07-04], 3655 [PL07-06] の2点である。3668は頸部と胴上部中位に沈線帯があり、最大胴径部のやや上に2条の刻み目付突帯を巡らしている。3655は胴部のみ存在するが同様の配置を示している。

(iii) 口縁部があまり外反しないものが3点ある。

0031 [PL02-04; 81-04], 4622 [PL12-03; 90-04], 4621 [PL16-03; 90-03]

このうち4622は無文であり、0031は口頸部は無文で、4621は頸部に2条の刻み目付突帯を巡らしている。

0031 [PL02-04] <区> A-1。<器種> 頸部無文の壺の口頸部。<法量> 口径13.9cm。<残存> 口縁部の一部を欠いた口頸部が残存。<胎土> 1-2mm程の砂礫を含む。<色調> 淡赤褐色。<焼成> 良好。<形態> 口頸は外反する。<調整> 外面口縁部から頸部がタテナデで1ヶ所指圧痕がある。内面は胴部上位が指圧調整し、輪積み痕を残す。口唇部は外側へ一部折りかえりしている。

4622 [PL12-03] <区> F-5。<器種> 無文完形の壺。<法量> 口径13.0cm, 底径8.4cm, 器高23.05cm, 容量2889, 2850cc。<残存> 口唇部は $\frac{1}{2}$ が欠損している。<胎土> 石英・長石・クサリ礫・雲母等の3mm以下の砂粒・小礫を非常に密に含む。<色調> 淡黄褐色の胎土だが、底面を除く外面及び口頸部内面には濃い橙褐色スリップをかけている。<焼成> やや甘いと思われる。<調整> 外面口縁部に強めの圧痕が断続的にめぐり、胴部はタテとナナメのハケ調整の後、ヨコからナナメのヘラ磨き仕上げ。全体に指圧痕が目立つ。底部はタテのハケ目がかすかに残存する。内面口縁部はヨコのヘラミガキ。胎土の粗さを主因としてかなり脆く、ひずんでいる。

4621 [PL16-03] <区> F-5。<器種> 大型壺口縁部。<接合> 4624 4626。<法量> 口径(推定)39cm。<残存> 口頸部の $\frac{1}{2}$ が残存。<胎土> 1mm程の砂礫を含む。<色調> 淡黄褐色で内面に黒斑がある。<焼成> 良好。<形態> 頸部は円筒状を呈し、口縁部は外反するが短い。頸部に2条の貼付突帯があり、指圧による刻み目を持つ。<調整> 口頸部はナナメハケの後で研磨し、突帯付近はナテナデしている。口頸部内面はヨコ及びナナメハケである。

(iv) 胴部下位が張る壺が2点ある。

4627 [PL15-01; 92-01], 4404 [PL15-02; 92-02] 4627はかなり偏平な胴部を持った壺と考えられるが、4404は鉢の可能性を残す。ともに残存部は無文である。

4627 [PL15-01] <区> F-5。<器種> 壺底部。<接合> 4625 4626 4662。<法量> 底径9.8cm, 残高14.9cm, 容量(2802cc)。<残存> 胴下位 $\frac{1}{2}$ と底部が残存。<胎土> 1mm程の砂礫を多く含む。<色調> 淡黄褐色。<焼成> 良好。<形態> 胴下位で張り出し胴部最大径はかなり低い位置にあると考えられる。底部は突出した平底である。<調整> 外面胴下位はナナメハケの後研磨し、底部付近はナナメ及びタテハケで底部中央部はヨコナテナデしている。内面はナテナデしている。

4404 [PL15-02] <区> F-4。<器種> 壺下部?。<法量> 底径6.8cm, 胴部最大径30cm, 残高22.6cm, 容量(8727cc)。<残存> 底部から胴部の $\frac{1}{2}$ が残存。<色調> 外面は淡灰褐色。<焼成> 良好。<形態> やや外反気味の胴下半部からやや内湾気味の胴上部が立ち上がる。胴上部は長く伸び、傾斜が強い。最大胴径はしたがってかなり下位に来る。より上部が欠損しているので不確かだが鉢である可能性もある。<調整> 胴上部はタテハケで、最大径部はヨコハケで、下部はタテハケである。

#### (b) 《甕》

大形のものには口唇部に刻み目を有し、胴上位に沈線が2条或いは4条有る。中形のものも3663, 3936, 3937, 3943の4点には口唇部に刻み目、胴上位に沈線が2?条見られる。甕は壺に比べ、器面調整が粗雑でハケ目等が明瞭に残るものもある。

(i) 大形のもものが2点

3914 [PL10-03; 88-04], 4658 [PL14-03; 91-04]

3914 [PL10-03] <区> E-4。<器種> 復元完形の大型の甕。<法量> 口径34.0cm, 底径9.6cm, 器高(推定) 39.55cm, 容量22260, 22117cc。<残存> 底部は完存するが口縁と胴部は $\frac{1}{2}$ 強が欠損。<形態> 口縁部は短く外反し, 頸部内面に稜をもつ。胴部は縦長で肩が張り, 底部は突出した平底である。<調整> 口唇部に櫛状工具による刻み目。口縁部と胴部上位の沈線のところまでヨコナデで, 胴部はハケである。胴部上位に沈線4本がめぐる。内面口縁部はヨコナデである。

4658 [PL14-03] <区> F-5。<器種> 復元完形の大型甕。<接合> 4655 57 59。<法量> 口径34.7cm, 底径(推定) 8.6cm, 器高38.0cm, 容量16550, 15985cc。<残存> 全体の $\frac{1}{2}$ が残存。<胎土> 1-2mm程の砂礫を多く含み粗い。<色調> 淡橙色で, 胴部中位は灰茶色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は強く外反し頸部内面に稜をもつ。胴部は倒鐘形で底部はやや突出した平底である。<調整> 口唇部に刻み目がある。胴部最上位付近に沈線が2本巡る。沈線より上はヨコナデで, 下はナナメのハケである。胴下位は板ナデかと考えられる。

(ii) 中形のもものが6点。このうち2240は底部穿孔である。

2245 [PL04-01; 84-04], 2240 [PL05-02; 84-05], 3663 [PL07-07; 85-07],

3936 [PL08-01; 86-01], 3943 [PL08-04; 86-04], 3937 [PL12-05; 90-05],

2245 [PL04-01] <区> C-2。<器種> 甕。<接合> 2251 5046。<法量> 口径(推定) 29cm。<残存> 口縁部の一部のみ残存。<備考> 所謂赤焼き。<形態> 口唇部はやや肥厚し, 口縁部に刻み目がある。4本の沈線は半裁竹管によるかと考えられる。<調整> 外面がタテハケで, 内面に調整痕?。

2240 [PL05-02] <区> C-2。<器種> 復元完形の甕。<接合> 2231 38 39 40 41 42 43 44。<法量> 口径24cm, 底径8cm, 器高25.7cm, 容量5576, 5002cc。<残存> 口縁と胴部の $\frac{1}{2}$ が欠損。<胎土> 1-2mmの砂礫を多く含む。<色調> 外面口縁から胴中位は淡黄灰色。胴中央付近は暗茶灰色。胴下位から底部付近は淡橙色。内面は淡茶灰色。<形態> 口縁部は外反し, 頸部内面で稜を持つ。胴部は縦長で胴中位でわずかに膨らむ。底部はやや突出した平底。<調整> タテハケ後ヨコナデ。胴部から底部はタテ及びナナメハケ。胴上位は胴下位・底部付近に比べやや細かいハケ。胴部下位と底部付近の2mm間隔の粗いハケは1mm間隔の細かいハケの上から施している。胴部内部は研磨されているが, 下半分は上半分より比べ荒れている。下底部に穿孔されている。

3663 [PL07-07] <区> E-3。<器種> 甕。<接合> 3659。<残存> 口縁部と胴上位 $\frac{1}{2}$ が残存。<胎土> 1-2mm程の砂礫を含む。<色調> 良好。<焼成> 黄褐色で口縁部の一部が赤褐色。<形態> 口縁部は「く」の字状に屈曲する。<調整> 口唇部に刻み目があり, 口縁部直下に沈線2本を巡らす。胴部はナナメハケで口縁部はヨコナデしている。

3936 [PL08-01] <区> E-4。<器種> 復元完形の甕。<接合> 3941 4058 4637。<法量> 口径23.4cm, 底径7.7cm, 器高(推定) 23.6cm, 容量5726, 5226cc。<胎土> 1-2mm程の砂粒を少量含む。<色調> 口縁部付近は淡橙色で胴部は茶灰色, 底部は黒灰色。<焼成> 良好。<形態> 口縁は短く外反し, 口唇部で下方に突出する。頸部内面で稜をもつ。胴部は縦長で上位で膨らむ。底部は垂直にやや突出した平底。<調整> 外面口唇部に櫛状工具による刻み目がある。胴部上位はタテハケで沈線2本が巡る。口縁内面はハケの後ナデている。

3943 [PL08-04] <区> E-4。<器種> 復元完形の甕。<接合> 3937 41 42 43 47 4640。<法量> 口径24.4cm, 底径8.6cm, 器高22.1cm, 容量4613, 4128cc。<残存> 胴部一部欠損。<胎土> 1-2mmの砂粒を多く含む。<色調> 外面上半部は灰褐色で、小さい黒斑が見られる。下半部は黄灰色から赤褐色。内面は黄灰色。上胴部に灰褐色の帯状の部分は煮炊きによる焦げ付きか。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は「く」の字状に外反し、頸部内面で稜を作る。胴部は倒鐘形で、底部は広い平底。<調整> 外面口唇部はヨコナデの後に刻み目を施す。口縁部はタテハケ後にヨコナデし、頸部はタテハケで一部ヨコ方向もみられる。胴部上位から下位はナナメのハケで一部研磨か。底部はタテハケで穿孔している。内面口縁部はヨコナデで、頸部に断続的な指圧痕が残る。頸部から胴部下位を研磨している。胴部中位の幅4-5cmの灰褐色を呈す帯状の部分で土器が壊れている。

3937 [PL12-05] <区> E-4。<器種> 甕上部。<接合> 3938。<法量> 口径(推定)28.4cm, 容量(6505, 5909cc)。<残存> 口縁部と胴部の土弱が残存。<胎土> 0.1-0.5mm程の砂礫を含む。<色調> 黄褐色。<焼成> 良好。<調整> 口縁部に沈線1本が巡り、口縁部はタテハケで胴部と口縁部内面はナナメハケである。

(iii) 小型のものが2点、ともに口唇に刻み

3950 [PL08-02; 86-02], 4630 [PL13-03; 88-02]

3950 [PL08-02] <区> E-4。<器種> 甕。<接合> 3909 4066。<法量> 口径18.8cm, 残高12.9cm, 容量(2207, 1980cc)。<残存> 口縁部から胴中位までの土が残存。<胎土> 1mm程の砂礫を含む。<色調> 外面は茶灰色で黒斑がある。内面口縁部は赤褐色で胴部は灰褐色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は外反し、内面に稜をもつ。<調整> 口唇部は刻み目を持つ。口縁部はナナメハケの後ナデしており、胴部はナナメハケである。内面は研磨している。

4630 [PL13-03] <区> F-5。<器種> 小型復元完形の甕。<法量> 口径16.8cm, 底径7.5cm, 器高16.5cm, 容量2183, 1756cc。<残存> ほぼ完形。<胎土> 0.5-2mm程の砂粒を多く含む。<色調> 胴部上位は淡茶灰色で、胴部下位は淡橙灰色。内面は淡黄灰色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は「く」の字状に外反し内面で稜をもつ。胴部は倒鐘形で、底はやや突出した平底となる。<調整> 外面口縁部はヨコナデで、胴部はナナメハケで下方ほど傾斜度が大きい。ハケを引っ張る長さが全体的に短い。底部はタテハケである。内面は口縁部がヨコナデされ、胴部は板状工具によるナデで、胴上部に板状工具でナデた時の基点と思われる痕がある。底部は指ナデである。

(iv) その他 2241 [PL06-01; 84-03]

他と異なり、やや直立気味の口縁部に胴上位(肩部?)の張る偏球形を呈す。調整は斜位から縦位のハケで、方向性は特に意識していないと思われる。

2241 [PL06-01] <区> C-2。<器種> 甕。<接合> 2422 40 39 28。<法量> 口径26.8cm, 残高23.9cm, 容量(13016, 11963cc)。<残存> 口縁部と胴部が残存。<胎土> 1mm程の砂礫を少量含む。<色調> 淡黄灰色。<焼成> 良好。<形態> 口径が胴部の径より小さく、胴部から頸部に向かって内湾してから短い口縁部が外反する。他の甕とは異なった形態であるが、他の土器とともにC-2区のSD03埋土上層の土器群から出土したもので、この部分ではもう一層上にも埋土があり、前期に属す土器と考えられる。<調整> 口縁部は内外ともヨコナデで、外面胴部はヨコナデである。

(c) <鉢>

大中小ともに規格サイズがあるかのように、それぞれ大きさ、形等がそろっている。大形のも

ののうち3895, 4069の2点は耳が付いており, 3895には縦に2つの小孔があり, 付近に沈線を有す。甕と同様に器面調整は粗く, ハケ目を残す。3点とも口縁部はゆるく外反する。中小形のものに関しては3891は口縁部に耳が付いている。口縁部が強く外反しやや突出した平底をもつものとしては, 5058, 4636, 4622, 3962の4点が挙げられる。

(i) 大型のものが3点

3895 [PL17-01; 93-01], 4069 [PL17-02; 93-02], 4625 [PL17-03; 93-03]

3895 [PL17-01] <区> E-4。<器種> 耳付深鉢。<法量> 口径49.6cm, 容量(24324,22579cc)。<残存> 口縁部と胴部の才が残存。<胎土> 1mm程の砂礫を含む。<色調> 黄橙色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部はゆるく外反し口唇部は中央が窪む。2ヶ所の縦に並ぶ各々2つの穴があり, あと2ヶ所あったと思われる。耳状突起を貼り付けてあり, あと1ヶ所又は3ヶ所あったと思われる。<調整> 外面口唇部はヨコナデで折り返している。口縁部はナナメハケの後ヨコナデし, 沈線2条を巡らす。胴部はナナメハケである。内面は口縁部がヨコナデで, 胴部上位はナデ, 下位はタテ方向の板ナデ。

4069 [PL17-02] <区> E-4。<器種> 耳付深鉢。<接合> 4060 69。<法量> 口径42cm, 残高24.2cm, 容量(17771, 16282cc)。<残存> 口縁部から胴部の才が残存する。底部はない。<胎土> 1-3mmの砂礫を多く含む。<色調> 外面は淡橙色で, 内面上位は橙色。下位は淡黄褐色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は外反する。胴部は縦長。貼付の耳が1個付いており, もう1個付くと思われる。<調整> 外面口縁部はヨコナデで, 胴部はナナメのナデの後の幅1mmのナナメハケである。内面は研磨している。

4625 [PL17-03] <区> F-5。<器種> 鉢。<法量> 口径50.6cm, 容量(22157,20911cc)。<残存> 全体の才弱が残存するが, 底部は無い。<胎土> 1mm程の砂礫を含む。<色調> 淡褐色で, 胴下部は暗褐色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は外反するが短い。<調整> 口縁部は内外面に指頭圧痕が不連続にみられ, その後にヨコナデを施す。胴上部は細かいヨコハケで胴中下部は粗いナナメハケを施す。胴部内部は研磨している。胴上部に2条の沈線が巡り, 小孔2ヶが縦に穿たれている。

(ii) 中型のものが2点

5058 [PL05-01; 84-01], 4662 [PL14-02; 91-01]

5058 [PL05-01] <区> D-2。<器種> 復元完形の鉢。<残存> 才弱。<法量> 口径22.7cm, 底径7.6cm, 器高14.5cm, 容量2562cc。<胎土> 1-2mm程の砂粒を含む。<色調> 外面は淡黄灰色で, 所々茶灰色。内面は明赤褐色。<焼成> 良好。<形態> 頸部は短く外反し, 頸部内面に稜をもつ。口唇部は平坦。胴部は椀状を呈し, 垂直気味に強く突出した底部をもつ。<調整> 外面口縁部はヨコナデで, 胴部はタテハケ?の後の板状工具によるナデで主にヨコナデであり, 底部はタテハケである。内面口縁部はヨコナデで, 胴部と底部はナデである。

4662 [PL14-02] <区> F-5。<器種> 復元完形の鉢。<接合> 4069 4662 65?。<法量> 口径23.8cm, 底径7.2cm, 器高13.6cm, 容量2224cc。<残存> 胴部中位が約才欠損。<胎土> 0.5-2mm程の砂粒を若干含む。<色調> 外面は淡黄灰色で底部に黒斑がある。内面頸部は淡黄灰色で, 胴部と特に底部は黒灰色で炭素が付着したかと考えられ, 器面が荒れている。<焼成> 良好。<形態> 頸部は短くて外反し, 胴部は逆「ハ」の字状に開き, やや突出した底部をもつ。<調整> 外面口縁部はヨコナデで, 胴部上位はタテハケ後のナデである。胴部下位は研磨され, 底部はナデである。内面は

口縁部ヨコナデで胴部から底部は研磨されている。

(iii) 小型のものが3点

3962 [PL08-03; 86-03], 3891 [PL10-01; 88-05], 4636 [PL13-04; 88-03]

3962 [PL08-03] <区> E-4。<器種> 復元完形の小型浅鉢。<法量> 口径15.6cm, 底径6.4cm, 残高7.7cm, 容量543cc。<残存> 口縁部はほとんど欠損し, 胴部上位は $\frac{1}{2}$ 強が欠損。<胎土> 1-3mm程の砂粒を多く含む。<色調> 淡黄灰色で底部付近に黒斑がある。内面の方がやや濃い。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は薄く「L」字状に外反する。胴部はやや上位が張る。底部は広い平底で外側へ拡張する。<調整> 外面口縁部はナデで, 胴部はタテハケ後ヘラミガキし, 底部はヘラ削り(板ナデ)している。内面はナデで, 内面全体と外面底部付近に指頭圧痕がある。胴部上半が肥厚している。

3891 [PL10-01] <区> E-4。<器種> 小型耳付深鉢。<接合> 3893。<法量> 口径13.3cm, 容量(670cc)。<残存> 口縁と胴部の $\frac{1}{2}$ 弱が残存する。耳は $\frac{1}{2}$ が欠損している。<胎土> 4mm以下の砂礫を多く含む。<色調> 淡茶灰色で外面はやや黒っぽい。<焼成> 良好。<形態> 胴部は縦長で口縁部に耳が付いている。<調整> 外面胴部はナデで, 内面胴部もナデである。

4636 [PL13-04] <区> F-5。<器種> 復元完形の鉢。<法量> 口径13.5cm, 底径4.2cm, 器高8.7cm, 容量404cc。<残存> 口縁部と胴部の $\frac{1}{2}$ と底部の $\frac{1}{2}$ が欠損。<胎土> 1-3mm程の砂粒を多く含む。<色調> 淡黄灰色で, 黒斑がある。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は外反し, やや肥厚する。内面で稜を作る。胴部は碗状を呈し, やや外反し強く突出した平底を持つ。<調整> 口唇部は指圧調整の後ヨコナデされ, 胴部はタテ及びややナメのハケの後粗くナデである。内面は口縁部が指圧調整で, 胴部は研磨されている。

(d) 《蓋》

3点あり, 内2点は出土地も近い。中央に小孔を有す円盤形のもの7607 [PL01-04; 80-04] と中央に小孔を有し, 頂部が突出するがその中央が凹む笠形を呈すもの7602 [PL01-06; 80-06] および両者の中間的な形かと考えられる破片4605 [PL01-05; 80-05] である。

7607 [PL01-04] <区> A-0。<器種> 蓋。<法量> 直径11.4cm。<残存>  $\frac{1}{2}$ が残存。<胎土> 1-2mm程の砂礫を多く含む。<色調> 淡橙色。<焼成> 良好。<形態> 円板状を呈す。中央部に直径4mmの小孔が1つある。

7602 [PL01-06] <区> A-0。<器種> 蓋。<法量> 直径12.9cm。<残存>  $\frac{1}{2}$ 残存。<胎土> 1mm程の砂礫を多く含む。<色調> 黄茶灰色。縁付近の内面は黒灰色でススが付着。<焼成> 良好。<形態> 笠形で頂部は突出し, 頂部中央は窪み, 小孔がある。<調整> 内面縁部は研磨している。

4605 [PL01-05] <区> E-4。<器種> 蓋。

(e) 《その他》

3101 [PL07-02], 3097 [PL07-03] は胴部下部で屈曲し, 屈曲部に刻み目のある貼付突帯を持ち, 屈曲部より上はほぼ垂直にのびると思われる器形を呈す。3097はやや突出した平底をもつ。3101もおそらく同様な底部をもつと思われる。この2点は壺若しくは鉢と思われる。

3101 [PL07-02] <区> D-3。<器種> 壺または鉢。<法量> 容量(4842cc)。<残存> 胴部の $\frac{1}{2}$

のみ残存。〈胎土〉0.5-1mm程の砂礫を含む。〈色調〉淡褐色。〈焼成〉良好。〈形態〉胴下位で屈曲し、屈曲部に刻み目のある貼付突帯を持つ。〈調整〉外面はナデで残存部には丹彩されているが殆ど剥離している。

3097 [PL07-03] 〈区〉D-3。〈器種〉壺または鉢の下部。〈法量〉底径7.1cm, 容量(851cc)。〈残存〉胴下位から底部の $\frac{1}{2}$ が残存。〈胎土〉1mm程の砂礫を含む。〈色調〉黄茶灰色で、突帯より上の位置に黒斑がある。〈焼成〉良好。〈形態〉胴部下位で屈曲し、そこに貼付突帯をもつ。底部はわずかに突出気味の平底となる。突帯より上はほぼ垂直に続くと思われる。〈調整〉外面胴部はタテハケ後研磨し、胴部中位はヨコナデの後で突帯上に刻み目を施す。胴部下位から底部はナナメのハケの後で研磨している。

## II 条痕系の土器

条痕系の土器は遠賀川系に比して点数が少ない。器形は殆どが甕で、鉢は2点のみである。壺は復元されたものは無く、口縁部が僅かに2点と壺の底部の可能性のあるもの1点にすぎない。

(a)《甕》が8点

1025 [PL03-01; 82-01], 0023 [PL03-03; 82-03], 5045 [PL04-02; 84-02],  
3884 [PL09-02; 87-01], 4663 [PL11-01; 89-01], 3908 [PL11-02; 89-02],  
3947 [PL11-03; 89-03], 4617 [PL16-02; 87-02]

一般にゆるく外反する口縁部に倒鐘形の胴部をもち、底部はやや突出した平底を呈す。甕のうち口唇部に刺突文があるのは3908, 1025の2点である。4617, 4663, 3947, 3908は羽状条痕を施した後、口縁部付近に横位の条痕を施している。1025はすべて羽状条痕であり、逆に3884は底部付近で斜位の条痕になるが底部以外は横位の条痕を施してある。

1025 [PL03-01] 〈区〉B-1。〈器種〉条痕系の甕上部。〈接合〉1026。〈法量〉口径25.8cm, 残高17.7cm, 容量(6013, 4721cc)。〈残存〉口縁部と胴上部 $\frac{1}{2}$ が残存。〈胎土〉0.1-2mm程の砂礫を多く含む。〈色調〉外面は茶灰色で、内面は赤褐色。〈形態〉口縁部はゆるく外反し、胴部は縦長になるとと思われる。〈備考〉口唇部に刺突文。口縁部にヨコ、胴部に羽状の条痕を施す。

0023 [PL03-03] 〈区〉A-1 〈器種〉条痕系の甕下部。〈接合〉0047 7602。〈法量〉底径8.4cm, 胴径20.2cm, 容量(3258cc)。〈残存〉一部欠損の胴下半部のみ残存。〈胎土〉0.1-0.5mm程の砂礫を多数含む。〈色調〉淡黄灰色。〈焼成〉やや不良。〈形態〉底部はやや突出して平底となる。〈調整〉内外面とも器表面がひどく荒れている。胴部はヨコの、底付近はナナメの条痕を施す。底部付近は条痕後ナデている。

5045 [PL04-02] 〈区〉D-2。〈器種〉条痕系復元完形の甕。〈接合〉2225 28 19 5047。〈法量〉口径21cm, 底径8cm, 器高28cm, 容量7145, 6502cc。〈残存〉全体の約 $\frac{1}{4}$ が欠損。〈胎土〉1mm程の砂礫を含む。〈色調〉外面は茶褐色で、一部は暗褐色。〈焼成〉良好。〈形態〉口縁部は外反し、端部は平坦になる。胴部は中位がやや張り、縦長である。底部はやや突出する平底である。〈調整〉外面は条痕が口縁部と底部付近はヨコに施され、胴部は羽状条痕であるが一部羽状でないところがある。口唇部には沈線2本がめぐる。口縁部内面はヨコナデしている。

3884 [PL9-02] 〈区〉E-4。〈器種〉条痕系の復元完形の甕。〈接合〉3819 85 94 3912 19 32

53 61 64。〈法量〉口径27.5cm, 底径7.8cm, 器高32.5cm, 容量9111, 8412cc。〈残存〉口縁から底部付近まで強欠損。〈胎土〉1-3mm程の砂礫を含む。〈色調〉胴上位は淡黄褐色で、中から下位は淡茶灰色である。胴中位に約4cm幅の黒灰色の帯が、胴上位には黒斑がある。胴下位内面は黒灰色である。〈焼成〉良好。〈形態〉口縁部はゆるく外反し、口唇部で平坦になる。胴部は中位でやや膨らむ。底部はやや突出した平底となる。〈調整〉外面口縁部はヨコナデで、胴部上位から中位は貝殻腹縁によるヨコ方向の条痕が施される。胴部下位は同様のナナメ方向の条痕である。底部はナデで、連続的な指圧調整痕がよく残る。内面口縁部はヨコナデで、胴部から底部は指圧調整の後研磨しているようである。

4663 [PL11-01] 〈区〉F-5。〈器種〉条痕系襲上部。〈接合〉4661。〈法量〉口径28.1cm, 残高19.6cm, 容量(7601, 5997cc)。〈残存〉口縁部から胴部中位の $\frac{2}{3}$ が残存。〈胎土〉1-2mmの砂礫を多く含む。〈色調〉外面は茶灰色で内面は暗褐色。口縁部内面の $\frac{1}{2}$ は黒色を呈す。〈焼成〉良好。〈形態〉口縁部は外反し、肥厚する。口唇部は平坦になる。胴部は縦長になると思われる。〈調整〉外面口唇部はナデで、口縁部は幅2mmのヨコ方向の条痕。胴部は同様の羽状条痕を施す。内面口縁部は指ナデされ、胴部上部は不連続なナナメ方向の下から上への指圧調整が見られる。胴部下位は板ナデである。

3908 [PL11-02] 〈区〉E-4。〈器種〉条痕系襲。〈接合〉3894 3903 08 54 58。〈法量〉口径27.8cm。〈残存〉口縁部と胴上部の $\frac{1}{2}$ が残存。〈胎土〉2mm以下の砂礫を多く含む。〈色調〉外面は暗褐色で内面口唇部付近は淡赤褐色。〈焼成〉良好。〈形態〉口縁部は緩やかに外反し、口唇部で平坦になる。〈調整〉外面は口唇部に二又工具による刺突文がある。口縁部は2mm幅の二又工具によるヨコ方向の条痕が施され、胴部は同様な工具による羽状条痕である。内面口縁部に断続的な指圧痕が残り、胴部はナデである。

3947 [PL11-03] 〈区〉E-4。〈器種〉条痕系襲上部。〈接合〉3857 85 3947 48。〈法量〉口径22.8cm, 残高15.3cm, 容量(3861, 3108cc)。〈残存〉口縁部と胴上部がほぼ残存。〈胎土〉1-2mmの砂礫を非常に多く含む。〈色調〉外面は茶灰色で、内面が黄茶灰色。胴上位の下の方は茶灰色。〈焼成〉良好。〈形態〉口縁部はゆるく外反し、口唇部で平坦になる。〈調整〉口唇部は外へ折り返し、棒状工具による条痕が口縁部はヨコ方向、胴部は羽状に施される。内面口唇部はヨコナデで、口縁部に断続的に指圧痕があり、その後ヨコナデしている。胴部は器表面が荒れていて不明である。

4617 [PL16-02] 〈区〉F-5。〈器種〉条痕系復元完形の襲。〈法量〉口径21.6cm, 底径7cm, 器高22.4cm, 容量3656, 3153cc。〈残存〉全体の約 $\frac{1}{2}$ が欠損。〈胎土〉1-3mm程の砂礫を若干含む。〈色調〉外面胴部上位と頸部と底部は淡黄灰色で胴部中位は黒味の強い茶灰色。胴部下位は淡橙灰色。内面は淡黄灰色。胴部中位から下位は所々茶灰色。〈焼成〉良好。〈形態〉口縁部はゆるく外反し、口唇部は平坦。胴部は倒鐘形で底部は外底面中央が窪んだ上げ底となっている。〈調整〉外面は貝殻腹縁による条痕が口縁部はヨコに、胴部は羽状に施される。底部はナデている。内面は口縁部がヨコナデで、胴部は板状工具によるナデで、底部もナデである。

(b) 《鉢》 小形のもので2点

4623 [PL16-01; 87-03], 3661 [PL07-05; 85-05]

鉢は2点とも、口唇部を平坦に作ってある。4623は貝殻を工具として使用していると考えられる。2点とも口縁付近で僅かに肥厚する。また、3661は条痕は斜位から縦位に施され、一単位が短い。4623は下部から上部まで一息に斜位の条痕が施されている。なお、3661は襲か鉢か判断



しがたいが、一応鉢に分類した。

4623 [PL16-01] <区> F-5。<器種> 条痕系復元完形の深鉢。<法量> 口径20.4cm, 底径7.3cm, 器高14.3cm。<残存> 口縁部・胴上部に強欠損。<胎土> 石英・長石・クサリ礫等の砂粒をかなり密に含む。特に1-2mm大の粒子が目立つ。基調の粘土はキメが細かい。<色調> くすんだ橙褐色。外面胴部中位は帯状にコゲ茶色, これより上部はほとんど茶褐色。使用によるスス及びコゲの附着であり口端面から内面には見られない。下胴部外面も茶色味を帯びる。<焼成> 良好。<形態> 口縁部はわずかに外反し, やや肥厚する端部は平坦で中央が少し窪む。底部は平底で外側へ拡張する。<調整> 外面は貝殻腹縁による条痕がほどこされる。底部はナデで底部付近はヨコナデである。口縁内部に指で押したと思われる痕がかすかに残る。

3661 [PL07-05] <区> E-3。<器種> 条痕系の鉢?。<接合> 3652 60。<法量> 口径22.5cm。<残存> 口縁部のみ残存。<胎土> 1mm以下の砂礫を含む。<色調> 淡赤褐色。<焼成> 良好。<形態> 口唇部は平坦になる。<調整> 口唇は平坦で外に折り返し, 胴部は2mm幅の棒状工具によるナナメの条痕が施され, 内面はナデである。

### (c) 《壺》

復元されたものはなく, 口縁部は3896 [PL09-01] と [PL26-3, 4] のみである。2228 [PL05-04] は壺の底部の可能性がある。

3896 [PL09-01] <区> E-4。<器種> 条痕系の壺上部。<接合> 3828。<法量> 口径22.2cm。<残存> 口縁部と胴部上位のみほぼ残存。<胎土> 1-3mmの砂礫を含む。<色調> 黄茶灰色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部は肥厚しながらゆるやかに外反し貼付突帯がつく。<調整> 外面は口唇部がヨコナデで指圧による押圧。口頸部は3mm幅の条痕がヨコ方向と一部ナナメ方向に施される。内面口唇部はヨコナデで, 貼付突帯と口頸部に特に指圧痕が不連続に確認され, 輪積痕も残る。口頸部から胴部上位は指による上から下のナデ。

2228 [PL05-04] <区> C-1, C-2。<器種> 条痕系の壺?。<接合> 2105。<法量> 底径8.4cm, 容量(11012cc)。<残存> 胴部を, 底部残存。<胎土> 2mm以下の砂礫を含む。<色調> 黄茶灰色。<焼成> 良好。<形態> 胴部は球状を呈すと思われる。底部はやや突出した平底で中央がやや窪む。<調整> 外面胴部は棒状工具?によるナナメの条痕で内面はナデている。

## III その他の土器 (大洞系 凸帯文系)

0020 [PL01-01; 80-01] は無頸壺で1点のみである。7601 [PL02-02; 81-02] は凸帯文系かと考えられ, 刻み目のある貼付突帯を口縁部にもつ。0028 [PL04-01; 80-02] [Fig.7] は大洞系かと考えられ, 縄文色が残っており, 口縁部におそらく4個あるであろう突起をもち, 胴部全体に渦状文, 重圏文, 三叉文を配す。

0020 [PL01-01] <区> A-1。<器種> 無頸壺上部。<接合> 0021 33 14 7607。<法量> 口径11.2cm。<残存> 一部欠損の胴上部・口縁部のみ残存。<胎土> 1-5mm程の砂礫を非常に密に含む。<色調> 赤褐色。<焼成> ややあまいと思われる。<形態> 口縁部は平坦になり, 内側へ突出する。胴部は縦長で中位で張ると思われる。<調整> 外面特に口縁部の指圧痕は連続的指圧調整で6段ある。

その他は器表面が荒れているため不明。内面口唇部折り返し後ヨコナデ。口縁部は継続的な指圧調整後ナナメのナデ。胴部は断続的な指圧調整後ヨコからナナメのナデ。胴上部・胴中位の一部で外折する。

7601 [PL02-02] <区> A-0。<器種> 小型復元完形の鉢。<法量> 口径14.7cm, 底径6.4cm, 器高10.4cm, 容量811cc。<残存> 胴部上中位のき弱が欠損。<胎土> 2-5mm大の砂粒が目立つ。<色調> 外面上部は淡橙色で、下部は暗灰色で火を受けたかと考えられる。底部のきは灰色で、きは淡橙色。内面は淡橙色。<焼成> 良好。<形態> 口縁部はわずかに内傾する。端部は丸い。底部は平底。<調整> 口縁部に貼付突帯を持ち、突帯上には刻み目がある。外面上部きはハケで、下部きはヨコナデである。底部付近に浅い指圧痕が残る。

0028 [PL01-02] <区> A-1。<器種> 大洞A系の完形復元の鉢。<接合> 0048。<法量> 口径12.0cm, 底径4.9cm, 器高34.7cm, 容量3246cc。<胎土> 1.5mm以下の砂粒をかなり密に含む。<色調> 外面の一部が黄色・橙色味を帯びる灰白色で、内面下半の一部が黄色・橙色味を帯びる灰白色である。肩部付近以上は橙色がちである。<焼成> 良好だが、器表面は一部を除いてかなり荒れている。<文様・調整> 胴上部の渦状文は、6~8の重圏文とその外側にも三又文で途切れる同様な沈線をめぐらせて8~10重の渦状文をなす。下胴部のものは同様に5~7重となっている。内面の外折部以上に9段程度の指圧痕が顕著である。これに対応して一部で継ぎ目が見られる。外折部以下も指圧成形である。全体に雑なナデ仕上である。外面胴部の文様は全面研磨の後にヘラ(棒)状工具で施文している。全周すると考えられる沈線帯は胴上部に1単位、胴中位に2単位で底部のものはラセン状に9周する。上段の沈線文帯はコブの造出後に引かれている。口縁部の突起は浮線文によるワク状文。1単位おきに(コブと交互に)4単位付される。[Fig.7] p.46

#### IV 土器小括

SD03出土の土器は、所謂遠賀川式の系統のものが大半をしめ、少数派として条痕系の土器が加わり、さらに若干の異質の土器が混じっている。

##### (a) 遠賀川系土器

遠賀川系の壺は殆どが精製品であるが、[PL02-04, 12-03] は他に比して粗製でかつ無文である。一般的な壺の形態は、口縁部が大きく外反し、頸部は若干の長短はあるがほぼ円筒形で、胴部は大きく脹らみ中位かやや下位に最大径部があり、底部はやや突出し平底のものである。大きさは中型が殆どで、小型は3点、大型は[PL16-03] 1点のみである。粗製品2点と大型の1点は口縁部の外反度が少なく、胴部に比して口径が小さい。

壺では横走する沈線帯を施文したものが一般的である。1単位の条数は通常3から9条で最も多いのは4から6条のものである。施文する場合頸部にはまず存在し、通常は胴上部にも1箇所ある。その他、頸部に加えて胴上部2箇所のもの[PL01-03] や、頸部のみのもの[PL13-01] も存在する。

沈線帯の上下を削り出したものは[PL01-03, 12-04, 13-01] と拓影の[PL20-16, 17, 19, 21, 22, 23] である。沈線帯の上下いずれかを削り出したものは[PL06-02, 12-01, 14-01, 15-03] でいずれも上のみである。破片でも施文帯が完全に残存し、一方のみを削り出した、半削出し

であることが明確なものは [PL19-24], [PL20-06] のみで、やはり頸部側の上部を削出している。突帯が欠損し、区別できないものも半削出しの中に含めているが、その点を考慮に入れても上下削出したものは極めて少ない。しかも、削りだした部分も注意すれば窪んでいる程度のもので、上下削りだしたものでも突帯としての印象は薄く、削り出し突帯の退化したものと考えられ、半削出しのものは更に退化が進んだものと言ってよいであろう。なお、沈線帯と貼付突帯の両者を有するものとしては [PL07-04] と [PL07-06] がある。

貼付突帯を巡らすものは完形品では頸部に1条のみ施すものが1点 [PL02-05] のみで、その他、頸部2条（胴部不明）1点 [PL16-03], 胴部2条（頸部不明）1点 [PL05-03], 胴部1条（頸部不明）1点2242 [PL04-05] と、破片では [PL23-08~31] 挙げられる。貼付突帯の形態は断面が二等辺三角形若しくはかまぼこ型のもので、上から押されて施す為か、下へたれ下がった形になるものと、下からなで上げて施したと思われるものの3タイプがある。貼付突帯はすべて上に刻み目を持つ。刻み目は篋或は櫛状工具によるものが殆ど、破片でも [PL23-08, 09, 14-17, 19-22, 24-30] がそうである。指による刻み目を施すものは [PL07-06] [PL23-10, 13, 18, 23] で、すべて0字状の刻み目になっており、[PL23-11, 12] はごく浅く横に長い0字状を示す。

口唇部に施文するものは完形品等にはないが、破片には若干 [PL19-10~18] 存在する。口縁部に小孔を持つものが若干見られるが、焼成前に穿孔されており、補修孔ではなく蓋と関連したものであろうか。横に2ヶ並ぶもの [PL04-03, 04] と1孔のみのもの [PL12-02] がある。

器表面はハケ調整の後で研磨されているが、頸部沈線帯にはタテハケ目が残存するのが通常である。色調は灰褐色系統が主だが若干赤褐色系統もある。赤褐色のものうち [PL17-04] のみは精製品で後から火を受けた可能性もあるが、2点は上記の粗製品であり、他の1点は口縁部上半を欠く [PL13-02] で胎土や施文もやや粗く、頸部の沈線は8条と多いもので一般的なものとは異なった印象を受ける。胎土は径1mm前後の砂粒を含むが一般に密である。

遠賀川系の甕は大型が2点 [PL10-03, 14-03], 中型が6点 [PL04-01, 05-02, 07-07, 08-01, 08-04, 12-05], 小型が2点 [PL08-02, 13-03] 出土している。最も通常の形は、短い口縁部が胴部から比較的なだらかに外反し、胴部上位は縦長で垂直に近い。このうち胴上位がやや脹らんだ形態のものとして [PL10-03, 08-01] の2点がある。また他と異なり、やや直立気味の口縁部に胴上位（肩部？）の張る甕 [PL06-01] が別に1点ある。胴部上位の口縁部との境付近に沈線帯を巡らすものが大半で沈線は1から4条までであり、4条は [PL10-03, 04-01], 2条が [PL14-03, 07-07, 08-01], 1条のみが [PL08-04, 12-05] である。沈線を持たないのは、[PL05-02, 08-02, 13-03] の3点で比較的小型のものばかりである。

口唇部には刻み目を持つものが多く、持たないのは [PL04-01, 05-02] の2点である。刻み目の形は、櫛状工具によるD字状が [PL07-07, 08-01, 10-03, 13-03] で、篋状工具によるD字状のものは [PL08-04, 12-05, 14-03], V字状は [PL08-02] である。破片では刻み目は小0字状のもの [PL25-03, 09, 16], V字状のもの [PL25-01, 02, 07, 11, 12, 18, 20], 細V字状のもの [PL25-05, 06, 15, 19, 24] がある。

甕は壺に比べ器面調整が粗雑で、内面は研磨されて丁寧な調整がなされているが、殆どがヨコナデである口縁部を除き外面はハケ目調整である。ハケ目等が明瞭に残るものも多い。胴部上位に沈線を巡らすものは、すべて沈線付近にハケ目を残している。胎土は壺と同じく1~2mmの砂粒を含み、焼成は大体において良好である。色調は大型の2点が淡褐色であるのを除くと、暗褐

色を呈するものが殆どである。甕型土器と鉢型土器はほぼ同数であると思われる。

[PL04-01] と [PL25-27] は口唇部が肥厚し、半裁竹管により4条の浅い沈線を施したもので、赤褐色を呈した、所謂赤焼きの甕（紅村弘氏の御教示による）である。全破片中でこの2点しか発見されていない。

遠賀川系の鉢は大型のもの3点 [PL17-01, 02-03]、中型のものが2点 [PL05-01, 14-02]、小型のものが3点 [PL08-03, 10-01, 13-04] 発見されている。当地域で弥生前期の鉢がこれだけ纏まって出土したのは最初かと考えられる。大中小ともにそれぞれ大きさや形が比較的そろっており、規格サイズがあるかに見える。

鉢は口縁部が外反するものと、直立あるいは外へ真直ぐ開くものとに大別される。外反するものには、[PL10-01] 以外のものと多数の破片が属す。これらのうち口唇部に刻み目を施すものと無文のもの、また各々に胴上部（口縁部？）に沈線を持つものと持たないものがある。口縁部が強く外反し口唇部が無文のものは上記以外の鉢と、[PL24-01~19, PL25-26, 28] に図示した破片が属す。大型の [PL17-01, 03] のみが各々沈線2条を胴最上部に施文しているが、他の完形品は無文である。底部の残存する [PL05-01, 13-04, 14-02, 08-03] の4点はやや突出した平底をもつ。[PL08-03] の口縁部はきわめて薄くほぼ水平に開いている。口縁部が外反し、口唇部に刻み目を有するものは、完形品では存在しない。破片では口唇部の刻み目は小0字状 [PL25-08]、V字状 [PL25-04, 17]、細V字状 [PL25-10, 13, 14] に分かれる。

口縁部が直立若しくは外へ開くものは、完形品では小型の [PL10-01] 1点のみであるが、これは外面が暗褐色で、やや縦長の胴部を有し他と異なった器形である。破片では [PL24-20~29, PL25-14, 22, 31, 32, 33] があり、[PL25-14] のみが口唇部に刻み目を持ち、他は無文である。これ等も胴上部に沈線を持つもの [PL25-22, 31, 33] と、持たないもの [PL24-20~29, PL25-32] がある。

口縁部には耳状の突起が付くものがある。大型の [PL17-01, 02] と小型の [PL10-01] および、破片で [PL24-10, 25-26] がある。突起の断面は三角形状である。また、口縁部に小孔を持つものがあり、[PL17-01, 03] では沈線付近に縦に2つ並んで2箇所にある。いずれも焼成前の穿孔である。

大型のものは比較的薄手で、内面は研磨されているが、外面は甕と同様、器面調整は粗く、ハケ目を残している。中小型のものは比較的厚手で内外面とも丁寧な調整である。内外面とも研磨している。[PL10-01] 以外は大中小とも胴部は椀状で、内面は研磨されたものが殆どである。内面は指圧痕が残るものが多く、内表面が荒れているものが2点ある。色調は淡黄褐色であるが、[PL17-03] のみ薄い赤褐色を呈している。

その他、[PL07-02]、[PL07-03] は胴部下位で屈曲し、屈曲部に刻み目のある貼付突帯をもち、屈曲部より上はほぼ垂直にのびる器形である。[PL07-02] はやや突出した平底をもつ。この2点は壺若しくは鉢と思われるが上部を欠いている。

蓋は3点あり、中央に小孔を有す円盤形のもの [PL01-04] と、中央に小孔を有し、頂部が突出するがその中央が凹む笠形を呈すもの [PL01-06]、両者の中間的な形かと考えられる破片 [PL01-05] である。

#### (b) 条痕系土器

遠賀川系土器に比べて非常に少なく、甕と鉢がほとんどである。色調はだいたい暗茶褐色を

呈し、粗砂3mm程の砂粒を含み、焼成は一般に良好である。

条痕系の甕は8点〔PL03-01, 03-03, 04-02, 09-02, 11-01, 11-02, 11-03, 16-02〕出土している。器形は外反する口縁部に倒鐘形の胴部をもち、底部はやや突出した平底を呈する。

口唇部に施文するものと無文のものがあり、刺突文があるのが〔PL11-02〕、押引文が〔PL03-01〕、沈線が〔PL04-02〕で他は無文である。

条痕は口縁部が横位で、その下からは羽状に施すもの〔PL03-01, 04-02, 11-01, 11-02, 11-03, 16-02〕が最も多い。底部まで残る〔PL04-02〕は底部まで羽状だが、〔PL04-01〕は底部は横方向である。口縁部から胴部に横位の条痕を施してあるのは〔PL09-02〕で底部付近は斜位であり、下部のみの〔PL03-03〕も胴部は横位である。

破片では甕と鉢を判別し難い。甕または鉢と思われるものは〔PL26-05~12, 14~29, 31〕で、その内、口縁部は〔PL26-05~12, 14~28〕である。口唇部が無文のもの〔PL26-05~09, 12, 17〕と沈線を有するもの〔PL26-10, 11, 21〕、押引文を有するもの〔PL26-14, 15, 16, 18~20, 22~28〕がある。〔PL26-09〕は口唇部付近に指により下から上向きにつけた0字状の刻み目を持った貼付突帯を条痕調整後に付けている。

条痕系の鉢は小型のもので完形が1点〔PL16-01〕と口縁部1点〔PL07-05〕が出土している。2点とも口唇部が平坦で、胴上位で器壁が一旦薄くなり再び肥厚していて、口縁部と胴部の境を示しているかに見える。〔PL07-05〕は条痕は斜位から縦位に施され、一単位が短い、〔PL16-01〕は下部から上部まで貝殻を工具として一息に斜位の条痕が施されている。口唇部は無文である。

壺は復元されたものではなく、〔PL09-01〕のみであるが、〔PL05-04〕は壺の底部かもしれない。破片で壺と思われるものは〔PL26-01~04, 13, 30〕である。〔PL26-30〕のみは胴部で、羽状条痕を施した後に突帯を貼り付け、二又工具?で刻み目を施している。全破片を点検しても壺と考えられるものは殆ど存在しなかった。このこと自体、特色として捉えて良いであろう。

特殊な胴部として〔PL26-29, 31〕の2点がある。〔PL26-29〕は小破片だが、やや突出した部分がある。〔PL26-31〕は5条のハケ状工具によって、口縁部は横位、以下は羽状の条痕を施す。外面の一部と内面が黒色である。

#### (c) その他の土器

遠賀川系にも条痕系にも分類しかねるものが若干存在する。

〔PL01-01〕は無頸壺かと考えられる。粗製で深紅色を呈している。破片では〔PL19-01, 03〕が同類である。

〔PL02-02〕の鉢は凸帯文系かと考えられ、刻み目のある貼付突帯を口縁部にもち、胴部にはハケ目を残している。

〔PL04-01〕は大洞A系の鉢で、口縁部におそらく4個あるであろう突起をもち、胴部全体に渦状文、重圈文、三又文を配している。10m以上離れて同一個体と考えられる破片が出土している。

#### (d) 容量について

土器の容量については比較的言及されることが少ないが、試みにSD03の土器の容量を概算して

みた。土器の分類にかかわらず形で分けて述べる。以下の（ ）の内の数字は細かいがあくまで計算上の数字で概算にすぎない、単位はccである。後ろの数字は口縁部への変曲点までのものである。末尾の+は復元完形品でないため残存部のみ測ったことを示している。

壺は5種類に分けられる。

特大型は恐らく20リットル以上の [PL16-03] の口縁部と条痕系で底部のみの [PL05-04] (11012.3+) である。

大型には10リットル以上の [PL01-03] (10257.6+; 9484.6+) のほか、頸部以上を欠く [PL06-02] (11898.0+) と [PL15-02] (8726.8+)、胴上位以上を欠く [PL15-03] (10751.7+)、[PL04-05] (8213.9+)、底部のみの [PL03-04] (3609.5+) が属す。

中型としては5~10リットルの [PL02-05] (6683.3; 6106.0)、口唇部を欠く [PL13-02] (7453.1+)、頸部以上を欠く [PL07-01] (4842.2+)、[PL03-02] (4604.1+)、胴中位以下のみの [PL15-01] (2802.2+)、口唇と底を欠く [PL13-01] (5161.1+; 4779.0+) がある。

小型は [PL07-04] (3942.8; 3498.4)、[PL12-03] (2889.0; 2849.8) で、特小型として頸部から上が欠けた [PL08-05] (725.6+) が分類される。

鉢は3種類に分けられる。

特大型としていずれも底部を欠く [PL17-03] (22156.5+; 20911.4)、[PL17-01] (24323.5+; 22579.4+)、[PL17-02] (17770.7+; 16282.2+) 等は20リットルからの容量を持つ。

大型とすべきものはない。

中型は2~4リットルくらいのもので大洞系の [PL01-02] (3245.8)、条痕の [PL16-01] (1696.9) と、[PL14-02] (2224.2)、[PL15-01] (2561.2) の4点がある。

小型は1リットル以下のもので凸帯系の [PL02-02] (811.1) 含め、[PL08-03] (542.6)、[PL13-04] (404.0)、[PL10-01] (669.6+) の4点が入る。

甕は4種類に分けられる。

特大型は15リットル以上のもので [PL10-03] (22260.4; 22117.2)、[PL14-03] (16549.7; 15985.3) の2点とやや異なった [PL06-01] (13016.4+; 11962.6+) がある。

大型は7~10リットルのもので、条痕系の [PL04-02] (7145.2; 6500.2)、[PL09-02] (9111.2; 8411.7) の2点と底部を欠く [PL03-01] (6013.0+; 4721.0+)、上半のみの [PL11-01] (7600.6+; 5996.5+) と [PL12-05] (6505.3+) がある。

中型には3~6リットルの [PL08-01] (5726.3; 5226.3)、[PL05-02] (5575.7; 5001.7)、[PL08-04] (4612.6; 4128.3) の3点と条痕系の [PL16-02] (3656.2; 3152.6)、上部のみの [PL11-03] (3861.4+; 3108.1+) と下部のみの [PL03-03] (3257.7+) がある。

小型は3リットル以下のもので [PL13-03] (2182.5; 1756.1) と底部を欠く [PL08-02] (2207.4; 1979.6) である。

上に述べたことから、鉢はかなり極端に3種類が分離することが明らかで、特大型と中型の差は大きく中間がない。或いは特大型の用途の違いを意味するのかもしれない。甕は比較的ヴァリエティに富むが特大型と大型の間に空白がある。また甕は小型に見えても1リットル以下のものは無く、鉢とは異なっている。壺は種別は多いが特大型はきわめて特殊で大型と中型が主と考えられる。穀物を既に栽培していたこの時代の人々が土器の容量に全く無関心であったとは考え難い。試算した結果、外観の印象以上に容量に差があることが判ったのは自分にとって収穫であっ

た。既刊の報告書記載の土器について計算し、比較する時間的余裕がなかったのは残念である。

(e) 破碎状況

SD03の土器の中には明らかに底部を穿孔しているものが存在する。人為的な破碎の有無は遺構としての性格の究明と関わりと考えられるので、各種の土器についてまとめ、若干述べておきたい。

復元したものを含めて完形品は20点出土している。これ等のうち1個体がそのまま置かれたかのような纏まった状態で出土したものは僅かに [PL01-03, 07-04, 12-03] の3点のみで、他はかなりの部分が欠けたか或いは分散した状態で発見された。上記の3点もいずれも口縁部または口唇部に欠損したところがあり、出土状況からみて、故意に一部分を欠いた可能性がある。底部を穿孔したものは [PL05-02, 16-02, 04-02, 08-04] の4点が挙げられる。また、[PL02-05, 14-02, 13-03] は胴部に横方向に帯状の欠損部がある。これも故意の破碎の可能性もある。

さらに、復元完形土器の大半は、上から見てきからき口縁から下部まで欠損している。この種の欠損が人為的な破碎を意味するとは断定できないが、分散しての出土と、あまりにも例が多いことを併せて考えると破碎の可能性を指摘せざるを得ない。この類には欠損部が底に至るもの [PL02-02, 05-01, 08-01, 13-04]、底部穿孔のもの [PL05-02, 16-02, 04-02]、底部が残存するもの [PL01-02, 08-03, 09-02, 10-03, 14-03, 16-01] の3種類が認められる。欠損の特徴が二つ重なるものもあるが、いずれも分散しての出土であり、口縁部の一部欠損などは本来のものか否か判断できない。

全形の不明なものは、より欠損部が多く、底部、口縁部、頸部以上などがすべて欠損するものが人為的な破碎を示すか否か判断できない。しかし、復元完形土器と同様なことはこれ等についても指摘できる。口縁部を欠くのは [PL13-02] がありこれは胴部穿孔の可能性もある。底部穿孔例は [PL04-05, 15-03]、胴部に横方向帯状の欠損を示すのは [PL06-02, 07-01] である。

(f) 編年上の位置など

今回出土した土器は当地方の型式編年にあてはめると、貝殻山式はなく、西志賀式が中心であると言えよう。したがって弥生前期の後半のものと考えられる。遠賀川系が圧倒的に多いが、条痕系もかなりの点数があり、大洞系や、凸帯文系が僅かに混じって出土している。何分にも溝状遺構からの出土で、遺構そのものの性格が判明しないため、すべてを一つのセットとして把握すべきか否かは問題が残ろう。しかし筆者等は、層序的に土器を分割しえないことから型式的に検討したが、この時期の条痕系土器内での編年は必ずしも明確ではない。遠賀川系土器にはやや新しい様相を示すものが無くはないが、無理に分けるだけの差はないと考えた。また、当地方において遠賀川系と条痕系の共伴に加えて、大洞系などが僅かに混じることは他の遺跡でも見られるところである。したがって、現状ではこれ等すべてが補完しあって一つのセットを形成しているものであり、出土土器に長い時間幅を与える必要はないと判断した。その意味では良好な資料と考えられ、先学諸兄の検討に委ねたいと念じている。

[大江 重松]

〈付記〉 SD03内 弥生前期土器片

SD03から出土した土器片の中で、実測図に掲載した以外で重要と考えたものを拓影で図示した。口縁部は無文も含めて、実測図のものと同一体と考えたものを除いて、すべて抽出した。胴部は有文のものを主としたため、壺の胴部が大半をしめ、甕の胴部や底部は殆ど抽出されていない。

特徴によって分類して図示したので、出土した区や層序と無関係に並んでいるが、前述のごとく溝内の層序による編年は無意味と考えている。出土区はE-4区付近が圧倒的に多いが、ここからの土器片が最も変化に富み、また数量的にも多く発見されたことを反映している。復元し、実測図に掲載したものほどではないが、区や層序を越えて接合されているものも少なくない。なお、小破片のため図が天地逆の可能性を持つものがあることをお断りしておきたい。

仮に、器形・部位・文様等によって、次のごとく分類した。

I 〈遠賀川系〉

1. 壺	イ、口縁部		無文	a
			口唇部に施文	b
			口唇部に突帯	c
	ロ、頸・胴部	沈線	削出し	d
			半削り	e
			沈線のみ	f
		突帯	施文なし	g
			施文(刻み目)	h
2. 甕・鉢	イ、口縁部	外反	無文	i
			口唇部に施文	j
			沈線	k
		直立・内湾	無文	l
			沈線	m
	ロ、胴部		沈線	n

II 〈非遠賀川系〉(条痕系など)

1. 壺	イ、口縁部		無文	o
			口唇部に沈線	p
			口唇部に押引文・刻み目	q
			口唇部に突帯	r
2. 甕・鉢	イ、口縁部		無文	s
			口唇部に沈線	t
			口唇部に押引文・刻み目	u
			口唇部に突帯	v
	ロ、胴部			w

なお、以上の分類は便宜的なものであり、二つの分類項目を合わせ持つ土器片も存在する。それ等に関しては、その都度述べる。また分類に関わらず、遠賀川系土器で口唇部に突帯の付くもの、頸・胴部に施文のない突帯を有する壺形土器、非遠賀川系で口唇部に突帯のある甕・鉢形土



器は存在しなかった。従って、分類の内、c, g, vはない。

実測図のものに見られない、或いは少ない特徴を持ったものは次のとおりである。

1. 遠賀川系の壺型土器で口唇部に施文を有するもの [ PL19-10~18]。  
4630 [ PL19-10], 3945 [ PL19-11], 3949 [ PL19-12], 3941 b [ PL19-13],  
4616 [ PL19-14], 4618 [ PL19-15], 2105 [ PL19-16], 4641 [ PL19-17], 3050 [ PL19-18]
2. 遠賀川系の鉢型土器で口縁部が直立または内湾し、胴上部に沈線を有するもの。  
3898 [ PL25-22], 4069 [ PL25-31], 4630 [ PL25-33]
3. 非遠賀川系では  
3890 [ PL26-03], 4667 [ PL26-29], 3878 [ PL26-30] が挙げられる。  
4667 [ PL26-29] は形態は不明だが、器壁が突出している。  
3878 [ PL26-30] は刻み目のある突帯を持ち、その下に羽状条痕を施している。  
3890 [ PL26-03] は口唇部に2本の沈線を持つ口縁部である。

以下、遠賀川系と非遠賀川系に大別し、器形ごとに述べる。前者が圧倒的に破片数が多いが、両者が混在して出土することは前に述べたとおりである。

## I 【遠賀川系】

### 1. 《壺形土器》 [ PL18~ PL23]

抽出した点数が極めて多いのは、甕・鉢に比して胴部にも施文するものが多いことと、同一個体の口縁部・頸部・胴部が別々に抽出されたことによると考えられる。

器表面は若干の例外4631 [ PL19-01], 3668 [ PL19-03], 4636 [ PL19-04], 391? [ PL22-24]を除けば、ハケの後で研磨され淡褐色を呈する。胎土は径1mm前後の砂粒を含むが密である。形態・文様・調整に多少の差違はあるが、ほぼ同じタイプのものと考えて良いであろう。

以下、口縁部、頸・胴部に分けてやや詳細に記述するが、口縁部から胴部まで遺存するものは口縁部として記載し、必要があれば再度触れることにしたい。

#### イ. 〈口縁部〉 [ PL18, PL19-01~18]

大きく外反した口縁部で、頸部から胴部へ大きく脹らみ、やや突出した底部を持った典型的な遠賀川系の壺の口縁部が大部分と言ってよいであろう。前述のごとく、壺の口縁部については口唇部の施文の有無で分けて述べる。[ PL19-01, 03] は無頸壺と考え、別記する。

#### § a 口唇部が無文のもの [ PL18, PL19-01~07]

口唇部が無文のものは施文のものに比してはるかに多く、口縁部破片の約8割を占める。その断面形が丸いものと平坦面を作っているものに分けられるが、

\* 断面が丸いものとして、[ PL18-01, 02, 07~09, 13, 14, 16, 17, 18, 19-05, 06, 07] があり、

3669 [ PL18-01], 2243 [ PL18-02], 3958 [ PL18-07], 3922 [ PL18-08],  
3650 [ PL18-09], 3933 [ PL18-13], 3921 [ PL18-14], 4664 [ PL18-16],  
3921 [ PL18-18], 3662 [ PL19-05], 3882 [ PL19-06], 1048 [ PL19-07]

\* 平坦面を作るものとして [ PL18-3~6, 10~12, 15, 19~32, PL19-01~04] が挙げられる。

3941 b [ PL18-03], 7607 [ PL18-04], 3909 [ PL18-05], 2231 [ PL18-06], 3892 [ PL18-10],  
4642 [ PL18-11], 4667 [ PL18-12], 2106 [ PL18-15], 3884 [ PL18-19], 0014 [ PL18-20],  
3941 b [ PL18-21], 3957 [ PL18-22], 2245 [ PL18-23], 3921 [ PL18-24], 3938 [ PL18-25],  
3941 b [ PL18-26], 3859 [ PL18-27], 1036 [ PL18-28], 3637 [ PL18-29], 3958 [ PL18-30],  
1036 [ PL18-31], 3669 [ PL18-32], 4631 [ PL19-01], 1027 [ PL19-02], 3668 [ PL19-03],  
4636 [ PL19-04]

この内、[ PL18-23], [ PL18-31] は平坦面が外側に傾斜する。また、[ PL18-01~06, 08, PL19-09] は外側へ折り返している。[ PL19-01] は内側へ、[ PL19-03] は内外へ折り返している。[ PL18-11, 12, 14] は外反する口縁部であるが、口唇部でやや受け口状になる。

[ PL18-01] は2ヶ、[ PL18-23; 19-11], [ PL19-16] (施文) は各々1ヶ小孔を穿っている。[ PL18-01; 18-23] は焼成前に穿孔されている。[ PL19-11] は内側から、[ PL18-16] は焼成後外側から穿孔されている。[ PL18-16] は口唇部を丹彩してあったようである。また、[ PL19-04] は他にみられない程強く外反している。

§ b 口唇部に施文したものは [ PL19-08, 10~18] の10点である。

2255 [ PL19-08], 4630 [ PL19-10], 3945 [ PL19-11], 3949 [ PL19-12], 3941b [ PL19-13],  
4616 [ PL19-14], 4618 [ PL19-15], 2105 [ PL19-16], 4641 [ PL19-17], 3050 [ PL19-18]

[ PL19-08, 10, 11, 12, 16] は口唇部に1条の沈線を施すが、[ PL19-11] は微かに判る程度である。[ PL19-08, 16] は口唇部が肥厚しており、特に [ PL19-08] は口唇部のすぐ内側を強くナデているので、それが強調されている。

[ PL19-15] は2条の沈線を有し、やはり口唇部が肥厚する。口縁部の内面は強いナデのためか波状を呈する。

[ PL19-16] は外側から穿孔したと考えられる小孔を1ヶ持ち、口縁から頸部まで残存していて、頸部に沈線が1条残存している半削りもしくは削出しの突帯を有する。

[ PL19-13, 14, 17] は口唇部に筥状工具による刻み目を施している。[ PL19-13, 14] の刻み目はD字状で、[ PL19-17] のそれはV字状を呈する。

[ PL19-18] は口唇部が肥厚して平坦面をなし、その上に3条の櫛描波状文を施し、口縁部外面は波状になっている。埋土上層の出土品であり、前期ではない可能性が高い。

\* 口縁部から頸部まで遺存しているものは、[ PL19-02, 04, 05, 06, 07, 09, 16] である。

1027 [ PL19-02], 4636 [ PL19-04], 3662 [ PL19-05], 3882 [ PL19-06],  
1048 [ PL19-07], 5060 [ PL19-09], 2105 [ PL19-16]

[ PL19-06] は削出し突帯の上に5条の沈線を有し、突帯付近に粗いハケ目を残す。

[ PL19-02, 07, 16] は半削り若しくは削出し突帯である。3者とも1条の沈線が残存する。

[ PL19-05] は3条、[ PL19-09] は2条の沈線を有す。

ロ、〈頸・胴部〉

頸・胴部は削出し突帯のもの、半削出し突帯のもの、沈線帯のもの、1または2条の刻み目付貼付突帯を有するものに分けられる。

§ d 削出し突帯のものは [ PL 20-16, 17, 19, 21, 22, 23 ] である。

3941 [ PL 20-16 ], 3957 [ PL 20-17 ], 3884 [ PL 20-19 ], 4630 [ PL 20-21 ],  
3949 [ PL 20-22 ], 4633 [ PL 20-23 ]

突帯が欠損しているため区別できないものも半削出し突帯としたものの中にも含めているが、その点を考慮に入れても削出し突帯のものは極めて少ない。

[ PL 20-16 ], [ PL 20-17 ] は頸部片で、どちらも突帯上に 2 条の沈線がある。[ PL 20-19 ] は胸上部と考えられるが、[ PL 20-16 ], [ PL 20-17 ] と同様に突帯上に 2 条の沈線を持つ。施文単位が明らかな資料中で、2 条のみの沈線は珍しい。

[ PL 20-21 ], [ PL 20-22 ] は胸上部で突帯上に 3 条の沈線を持つ。[ PL 20-23 ] も胸上部で突帯上に 5 条の沈線を有する。また、削出している部分に上下とも 1 条の沈線を施しているため、[ PL 20-19, 21, 22 ] に比べ、突帯が明瞭である。このように削出し突帯には、単に削出しただけのものと削出しの後で沈線を加え、突帯をより明瞭化したものがある。

§ e 半削出し突帯は [ PL 18-15, 19-2, 4, 7, 9, 16, 19-25, 20-1-15, 18, 22-02 ] である。

2106 [ PL 18-15 ], 1027 [ PL 19-02 ], 4636 [ PL 19-04 ], 1048 [ PL 19-07 ], 5060 [ PL 19-09 ],  
2105 [ PL 19-16 ], 3881 [ PL 19-19 ], 3938 [ PL 19-20 ], 3096 [ PL 19-21 ], 4631 [ PL 19-22 ],  
7602 [ PL 19-23 ], 3964 [ PL 19-24 ], 3878 [ PL 19-25 ], 3943 [ PL 20-01 ], 3921 [ PL 20-02 ],  
1038 [ PL 20-03 ], 1038 [ PL 20-04 ], 3885 [ PL 20-05 ], 3884 [ PL 20-06 ], 3884 [ PL 20-07 ],  
3949 [ PL 20-08 ], 5060 [ PL 20-09 ], 1049 [ PL 20-10 ], 7602 [ PL 20-11 ], 7602 [ PL 20-12 ],  
3884 [ PL 20-13 ], 5060 [ PL 20-14 ], 3086 [ PL 20-15 ], 7601 [ PL 20-18 ], 4630 [ PL 22-02 ]

しかし突帯部分が完全に残存していて、上下一方を削出した半削出し突帯であることが、明らかなものは [ PL 19-24 ], [ PL 20-06 ] のみである。従って、削出し突帯のものが混在する可能性は強い。[ PL 19-24 ], [ PL 20-06 ] は頸部側の突帯上部を削出している。[ PL 19-24 ] は頸部に近い胸上部で、削出しは顕著であり、その直下に 4 本の沈線を施している。

欠損しているものの内で、上部が残存しかつ削出しているものは、[ PL 19-21, 22, 20-8, 9, 10, 11, 12, 15, 22-02 ] である。

[ PL 19-22 ], [ PL 20-10 ] が 6 条、[ PL 20-12 ] が 8 条、[ PL 20-15 ] が 9 条の沈線を残しており、他に比して沈線が多い。仮に沈線が 7 条以上のものを多条とすると、該当するものは [ PL 19-23 ] ( 6 条残 ), [ PL 20-23 ] ( 7 条 ), [ PL 20-26 ] ( 11 条 ), [ PL 21-02 ] ( 8 条 ), [ PL 21-14 ] ( 8 条残 ), [ PL 21-25 ] ( 6 条残 ), [ PL 22-01 ] ( 7 条残 ), [ PL 22-08 ] ( 8 条残 ), [ PL 22-18 ] ( 6 条残 ), [ PL 13-02 ] ( 8 条 ) の 9 点で決して多くない。[ PL 22-08 ] と [ PL 13-02 ] は沈線の間隔が大きく、したがって幅の広い沈線帯となる。

これ等のうち、[ PL 20-23 ] は突帯上の沈線で、[ PL 20-26, 21-2, 14, 25, 22-1, 8, 18, 13-02 ] は沈線帯で、両者ともに多条沈線のものがある。沈線も深く明瞭である。[ PL 19-21 ] は頸部にも沈線が 1 条残存している。

欠損しているもののうち、下部が残存し、かつ削出しているものは [ PL 19-19, 20, 25, 20-02, 03, 04, 05, 07, 13, 14 ] である。

[ PL 20-02 ] は太い沈線が 3 本残存しており、沈線間も広い。このようなタイプは [ PL 20-29 ], [ PL 21-13, 17, 26 ], [ PL 22-08 ], [ PL 22-24 ] ( 浅い沈線 ), [ PL 23-06 ], [ PL 07-04 ], [ PL 12-

01], [ PL13-02] が挙げられる。[ PL20-03] は削出した後で沈線を施してあり、既述の [ PL20-23] と同様に削出した部分を明瞭にしている。[ PL20-05] は色調が赤褐色を呈している。

§ f 沈線帯を施文しているものは [ PL19-5, 9, 20-20, 24~31, 21-1~29, 22-1, 3~24, 23-1~6, 10~18] である。

3662[ PL19-05], 5060[ PL19-09], 3944[ PL20-20], 3958[ PL20-24], 2106[ PL20-25], 3914[ PL20-26], 1036[ PL20-27], 0024[ PL20-28], 3957[ PL20-29], 2102[ PL20-30], 7607[ PL20-31], 3922[ PL21-01], 4625[ PL21-02], 7607[ PL21-03], 2233?[ PL21-04], 3884[ PL21-05], 2106[ PL21-06], 2244[ PL21-07], 3924[ PL21-08], 3949[ PL21-09], 3921[ PL21-10], 3927[ PL21-11], 1038[ PL21-12], 3921[ PL21-13], 2235[ PL21-14], 3926[ PL21-15], 3086[ PL21-16], 3878[ PL21-17], 4631[ PL21-18], 3893[ PL21-19], 3921[ PL21-20], 5058[ PL21-21], 1047[ PL21-22], 4624[ PL21-23], 2245[ PL21-24], 3887[ PL21-25], 2243[ PL21-26], 3940[ PL21-27], ? [ PL21-28], 3909[ PL21-29], 7607[ PL22-01], 3949[ PL22-03], 3941[ PL22-04], 4636[ PL22-05], 4655[ PL22-06], 3921[ PL22-07], 4626[ PL22-08], 2104[ PL22-09], 3884[ PL22-10], 2225[ PL22-11], 3119[ PL22-12], 2102[ PL22-13], 2104[ PL22-14], 4070[ PL22-15], 3887[ PL22-16], 3921[ PL22-17], 1041[ PL22-18], 3087[ PL22-19], 5059[ PL22-20], 3923[ PL22-21], 3941[ PL22-22], 3672[ PL22-23], 391?[ PL22-24], 3892[ PL23-01], 4616[ PL23-02], 3923[ PL23-03], 7602[ PL23-04], 3898[ PL23-05], 3671[ PL23-06], 3916[ PL23-10], 3894[ PL23-11], 3947[ PL23-12], 3892[ PL23-13], 0024[ PL23-14], 3963[ PL23-15], 3963[ PL23-16], 3963[ PL23-17], 5057[ PL23-18]

# 刻み目を有する 1 条若しくは 2 条の突帯を持つものは [ PL23-8~31] である。

3849[ PL23-08], 4073 [ PL23-09], 3916[ PL23-10], 3894[ PL23-11], 3947[ PL23-12], 3892[ PL23-13], 0024 [ PL23-14], 3963[ PL23-15], 3963[ PL23-16], 3963[ PL23-17], 5057[ PL23-18], 2233 [ PL23-19], 4069[ PL23-20], 3100[ PL23-21], 4633[ PL23-22], 5057[ PL23-23], 5046?[ PL23-24], 2102[ PL23-25], 2232[ PL23-26], 4666[ PL23-27], 2102[ PL23-28], 3672 [ PL23-29], 2233?[ PL23-30], 3958[ PL23-31]

[ PL23-8~10] は突帯のみならず、沈線帯を有するものである。

[ PL23-08] は胴部破片で、籠状工具による 0 字状の刻み目の付いた貼付突帯の下位に 4 条の沈線を施し、外面は橙色を呈している。

[ PL23-09], [ PL23-10] は頸部片で指による 0 字状の刻み目の付いた貼付突帯の上に各々 3 本の沈線が遺存している。

[ PL23-11], [ PL23-12] は共にほとんど突帯部分しか遺存していないが、突帯の上に 1 条沈線を有し、下は削っており、突帯を強調しているようである。どちらも 0 字状の指による刻み目のある貼付?突帯である。[ PL23-11] は器壁からの突出度が非常に少なく、突帯の断面形も平たい紐状のようである。

突帯の形態には主に断面が二等辺三角形若しくはかまぼこ型になるものと、上から押さえて施す為であろうと思われる下へたれ下がった形になるものと、下からなで上げて施したであろうと思われる形がある。

\*断面が二等辺三角形若しくはかまぼこ型になるのは [ PL23-10, 12, 13, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 24, 25, 27, 28, 29, 30 ] で半数以上ほぼ6割がこの形である。突帯を近接して施している [ PL23-27, 30 ] は2片ともこの形である。

\*下へたれ下がった形のものは [ PL23-14 ], 1片のみである。

\*下から上へなで上げたと思われるものは [ PL23-08, 09, 21, 22, 23, 26 ] である。

#### § h 突帯上に刻み目を持つもの

突帯状の刻み目は指によるものと篋或いは櫛状工具によるものがある。

3916[ PL23-10 ], 3892[ PL23-13 ], 5057[ PL23-18 ], 5057[ PL23-23 ],  
3849[ PL23-08 ], 4073[ PL23-09 ], 0024[ PL23-14 ], 3963[ PL23-15 ], 3963[ PL23-16 ],  
3963[ PL23-17 ], 2233[ PL23-19 ], 4069[ PL23-20 ], 3100[ PL23-21 ], 4633[ PL23-22 ],  
5046?[ PL23-24 ], 2102[ PL23-25 ], 2232[ PL23-26 ], 4666[ PL23-27 ], 2102[ PL23-28 ],  
3672[ PL23-29 ], 2233?[ PL23-30 ]

\*指による刻み目を施すものは [ PL23-10 ], [ PL23-13 ], [ PL23-18 ], [ PL23-23 ] である。すべて0字状の刻み目になっており, [ PL23-09 ], [ PL23-18 ] を除いては比較的浅い。

\*篋或いは櫛状工具によるものは [ PL23-08, 09, 14~17, 19~21, 22, 24, 25~30 ] である。[ PL23-11, 12 ] はごく浅い横に長い0字状を示すが不明である。どれも多少差異はあるが0字状を呈す。[ PL23-16 ] は浅い刻み目であるが他は比較的深い。[ PL23-23, 27 ] は明らかに櫛状工具によるものである。[ PL23-29 ] は不定方向の粗いハケ目があり, 他のような研磨されていない。[ PL23-23 ] は器表面が黒色である。

#### # その他

[ PL23-21 ] は削り出した突帯?が4条遺存している。小片のため, 詳細は不明であるが, 突帯を削り出した後にV字状の刻み目を施してある。突帯の断面形は下へたれ下がった形をしているが, これは削る時に形づくられると思われる。

[ PL23-32 ] はドーナツ状を呈す突起を有するものである。突起の全体径は約2.5cmでやや楕円形で, 中央がやや窪んでいる。貼り付けたものと思われ, 丁度中央の窪んだ所に対応するように内面に指で押したような窪みが見られる。全体に一方向に湾曲していることから蓋の可能性は少ないと思われる。

[ PL23-05 ] は胴部屈曲部直上にごく浅い2条の沈線を施し, その1cmの間隔のなかに同じ工具?で左上から右下にかけての櫛描文状にかいてある。茶褐色を呈し, 胎土は比較的密で, 焼成も良好で他の土器とは異なる印象を受ける。SD03埋土上層から出土したため弥生時代前期でない可能性が大きい。

[ PL23-06 ] は4条の幅の広い沈線のすぐ下に斜格子文を施している。斜格子文は右上から左上への斜線を描いた後左上から右下へ篋描きされている。畿内に類似品が見られる(石黒立人氏の御教示による)。

[ PL23-07 ] は淡茶褐色で焼成がやや不良のやや薄手の土器片である。[ PL23-6 ] と同じく格子文であるが, ごく浅いものである。粗いハケ状の工具で施文されたものであろうか。SD03埋土最上層から出土している。

## 2. 《甕・鉢形土器》 [ PL 24~28 ]

甕・鉢形器形は主に口縁部を抽出した。口唇部を欠損していても胴上部（口縁部？）に沈線をもつものは少数ではあったが抽出した。壺形土器に比べ非常に少ない。全体の形態を復元できるものはないが、口縁部だけでも、完形土器には見られなかったものもあり、ある程度バラエティがあることが判る。全体に、内面は研磨されて丁寧な調整がなされているが、外面は殆どが口縁部を除きハケ目調整である。胎土は壺と同じく1~2mmの砂粒を含む。焼成は大体において良好である。甕型土器と鉢型土器はほぼ同数であると思われる。但し、甕か鉢か不明のものも存在する。

甕・鉢型土器は口縁部が外反しているものと、直立あるいは外へ向かって開くものとに大別した。

■ 口縁部が外反しているものは [ PL 21-1~19, PL 25-1~6, 8~13, 15~21, 23~29 ] である。

外反する口縁部は口唇部が無文のもの、口唇部に刻み目を施するものがある。更に各々に胴上部（口縁部？）に沈線を持つものと持たないものがある。直立或いは外へ向かって開く口縁部には、口唇部が無文のものばかりであるが、胴上部（口縁部？）に沈線を持つものと、持たないものが見られる。

§ i そのうち無文のものは、 [ PL 24-01~19, 25-26, 28 ] である。

4242 [ PL 24-01 ], 4058 [ PL 24-02 ], 4069 [ PL 24-03 ], 4620 [ PL 24-04 ], 3649 [ PL 24-05 ],  
3672 [ PL 24-06 ], 4069 [ PL 24-07 ], 1034 [ PL 24-08 ], 5047 [ PL 24-09 ], 4618 [ PL 24-10 ],  
2106 [ PL 24-11 ], 2226 [ PL 24-12 ], 2229 [ PL 24-13 ], 3914 [ PL 24-14 ], 3959 [ PL 24-15 ],  
3649 [ PL 24-16 ], 5046 [ PL 24-17 ], 3668 [ PL 24-18 ], 3649 [ PL 24-19 ], 3921 [ PL 25-26 ],  
4626 [ PL 25-28 ]

[ PL 24-08 ] は他に比べ大きく外反するようである。

[ PL 24-11 ] は胴部から屈曲して口縁部が続くのではなく、少しではあるがいったん直立して外反するものである。どちらも埋土上層から出土しており、やや時期がずれる可能性も考えられよう。

[ PL 24-16, 17, 18 ] は薄手に作っており、口唇部付近のみ外反する。

[ PL 24-16 ] は口唇部付近に指頭圧痕が明瞭に残る。

[ PL 24-19 ] は外面が黒色である。小破片のため、はっきりしたことはわからないが、黒斑でない可能性もある。もしそうだとすれば、器表面が黒色を呈する唯一の甕・鉢形土器として挙げられる。

[ PL 24-03, 04 ] はどちらも胴上部のみしか残存していないが、 [ PL 24-03 ] は残存部すべて、 [ PL 24-04 ] は残存部下方に斜位のハケ目がみられるが、横位のハケ目が口縁部にまで施されている。又、どちらも同一工具と思われるもので口縁部内面にもハケ目を施してある。

[ PL 24-10 ] は1.4×0.7cm程の耳状突起をもつ。同じく [ PL 25-26 ] も2.4×1.5cm程の耳状突起をもつ。耳状突起直上に2条の沈線を有する。どちらの耳状突起も他のもの [ PL 10-1, 17-1, 2 ] と同じく断面三角形のものである。

§ j 口縁部が外反し、口唇部に刻み目を有するものは、 [ PL 25-01~06, 08~13, 15~21, 23~25 ] である。刻み目は小0字状のもの、V字状のもの、細V字状のものがある。

1042[ PL 25-01], 1025[ PL 25-02], 7607[ PL 25-03], 4638[ PL 25-04], 1036[ PL 25-05],  
4631[ PL 25-06], 4656[ PL 25-08], 3653[ PL 25-09], 3058[ PL 25-10], 3941[ PL 25-11],  
4637[ PL 25-12], 4637[ PL 25-13], 3947[ PL 25-15], 4658[ PL 25-16], 7602[ PL 25-17],  
3052[ PL 25-18], 2106[ PL 25-19], 3921[ PL 25-20], 3920[ PL 25-21], 3086[ PL 25-23],  
3931[ PL 25-24], 3921[ PL 25-25]

\* 小0字状のものは [ PL 25-03, 08, 09, 16 ] である。

\* V字状のものは [ PL 25-01, 02, 04, 07, 11, 12, 17, 18, 20 ] である。

[ PL 25-01 ] は胴部にタテハケ、口縁部はヨコナデ、内面は斜位のナデが施してある。内面に数ヶ所、指頭圧痕がかすかに残っている。

[ PL 25-02 ] は口縁部の屈曲部を指で細かく押してあり、その痕が明瞭である。その後全体に斜位のハケで調整している。

[ PL 25-04 ] は口唇部がわずかに肥厚し、胴上部に2条?の沈線をもつ。刻み目はやや下方に施す。

[ PL 25-11 ] は口縁部内面に丹彩し胴部に粗いタテハケが施され、屈曲部から口唇部直前まで指で押した後に同じハケ状工具で施したと思われる4本1組の粗いハケ状工具による断続的な調整がなされている。

[ PL 25-12 ] は粗いタテハケである。刻み目はやや下に施す。

[ PL 25-17 ] は口縁部が強く外反し、刻み目がやや下に施してある。胴上部に棒状工具で3条の沈線を施す。

[ PL 25-18 ] は胴上部に二又工具による沈線を施し、それより上部にタテハケを施す。胴部の斜位のハケ、タテハケ、沈線とも同一工具によるものと思われる。

[ PL 25-20 ] は櫛条工具で刻み目を施す。胴上部に沈線が1条残存している。

\* 細V字状のものは [ PL 25-05, 06, 10, 13, 14, 15, 19, 24 ] である。

[ PL 25-05 ] は橙褐色で強く外反する口縁部である。刻み目は斜位に施してある。溝埋土上層から出土しており前期ではない可能性がある。

[ PL 25-13 ] は内面が剥離しているが、口唇部に丹彩している。

[ PL 25-14 ] は外へ向かって開く口縁部があるが、他に刻み目を有するものはないのでここで触れておく。口唇部は肥厚し、平坦面と外面の角のところに浅い刻み目を施している。

[ PL 25-15 ] は口縁部に貼付突帯を有しているため、口唇部に短い刻み目を持つ。

[ PL 25-19 ] は胴上部に5条の沈線を残す。

[ PL 25-24 ] は刻み目の間隔が狭く、胴上部に1条の沈線を残す。

# 口縁部が直立若しくは外へ開くものは [ PL 24-20~29, 25-14, 22, 31, 32, 33 ] である。

3653[ PL 24-20], 3669[ PL 24-21], 3921[ PL 24-22], 3836[ PL 24-23], 2244[ PL 24-24],  
3056[ PL 24-25], 3916[ PL 24-26], 3916[ PL 24-27], 3893[ PL 24-28], 0028[ PL 24-29],  
3650[ PL 25-14], 3947[ PL 25-15], 4658[ PL 25-16], 7602[ PL 25-17], 3052[ PL 25-18],  
2106[ PL 25-19], 3921[ PL 25-20], 3920[ PL 25-21], 3898[ PL 25-22], 3086[ PL 25-23],  
3931[ PL 25-24], 3921[ PL 25-25], 3921[ PL 25-26], 0033[ PL 25-27], 4626[ PL 25-28],  
1051[ PL 25-29], 3085[ PL 25-30], 4069[ PL 25-31], 2245[ PL 25-32], 4630[ PL 25-33]

この内、口唇部が無文のものは [ PL 24-20~29, 25-22, 31, 32, 33 ] であり、口唇部に刻み目を

持つものは [PL25-14] のみである。

§ l 口唇部が無文で胴部に沈線を持たないものは、[PL24-20~29, 25-32] である。

[PL24-20] は口唇部と口唇部に近い口縁内面の2ヶ所で面取りされ、内外面とも残存部はナデ調整を行い、胎土はやや粗いものの丁寧なつくりと言えよう。

[PL24-21, 24, 25] は厚手で肥厚する。胎土も粗い。[PL24-21] は口唇部を平坦に仕上げがあり、外面は指で成形した痕がうかがえる。[PL24-24, 25] は丸い口唇部を持ち、[PL24-25] は内面において、僅かに外へ屈曲しているようである。

[PL24-29] は胴上部でやや脹らみ、その部分がやや肥厚している。

[PL25-32] は橙色で、口唇部付近は指で成形したため、やや薄くなっている。

§ m 直立した口縁部で、沈線を持つものは [PL25-22, 31, 33] である。

[PL25-22] は3条の沈線を施し、他の2点よりつくりが雑である。

[PL25-31] は二又工具によって、4条の沈線を施している。

[PL25-33] は5条の沈線を施す。胴下部は研磨されており、黒斑がある。

§ n 口縁部が欠損し、胴上部に沈線があるものは [PL25-27, 28, 29, 30, 34, 35] である。

[PL25-29, 35] は3条の沈線を有する。

[PL25-27] は同じく、3条の沈線が残存するが、沈線間が広く、橙色である。

[PL25-30] は2条の、[PL25-34] は1条の沈線が残存している。

[PL25-27] は半裁竹管により4条の浅い沈線を施したもので、赤褐色を呈している。所謂、赤焼きの土器である。(江村弘氏の御教示による)

## II <非遠賀川系土器>

非遠賀川系土器は遠賀川系土器に比べて非常に少なく、条痕系が主流である。器種別にみても、甕・鉢形土器がほとんどで壺型土器は完形で1点、拓影で2点を数えるのみである。だいたい暗茶褐色を呈し、粗砂3mm程の砂粒を含み焼成は良好である。3点の胴部を除き、口縁部のみを抽出したのと小破片が多かった為、条痕がどのように施文されてるかわかるものは少ないが、甕は横位の条痕のものと、口縁部付近のみ横位、それ以下は羽状条痕を施すものがあるようである。

1. 《壺形土器》と思われるものは [PL26-01~04, 13, 30] である。

3947 [PL26-01], 3914 [PL26-02], 3890 [PL26-03], 3100 [PL26-04],

3878 [PL26-13], 3878 [PL26-30]

[PL26-01~04, 13] は口縁部、[PL26-30] は胴部である。

§ o [PL26-01] は粗い斜位の条痕である。

§ p [PL26-02] は口唇部中央がやや窪み、口縁部付近は横位、以下は羽状の条痕を施す。

§ q [PL26-03] は斜位の条痕であるが、口唇部外面付近は横ナデを施す。他に比べ薄手である。口唇部には、二又工具で凹沈線が施してあり、外面に折り返している。

§ qr [PL26-04] は横位の粗い条痕である。口唇部に刺突文を有し、そのため波状口縁である。外面口唇直下に指による下から上に押した0字状の刻み目をもつ貼付突帯を有す。又、突帯直下に内側から穿孔された小孔を1ヶ有する。



§ r [ PL 26-13 ] は口唇部がやや外に突出し、二又工具による刺突文を有する。

[ PL 26-30 ] は羽状条痕を施した後に突帯を貼付、二又工具で刻み目を施したものである。

2. 《 甕・鉢形土器 》と思われるものは [ PL 26-05~12, 14~29, 31 ] である。

7607[ PL 26-05 ], 3932[ PL 26-06 ], 4637[ PL 26-07 ], 3914[ PL 26-08 ], 2252[ PL 26-09 ],  
7607[ PL 26-10 ], 3959[ PL 26-11 ], 3659[ PL 26-12 ], 4655[ PL 26-14 ], 4404[ PL 26-15 ],  
3878[ PL 26-16 ], 3914[ PL 26-17 ], 1006[ PL 26-18 ], 1028[ PL 26-19 ], 3047[ PL 26-20 ],  
0047[ PL 26-21 ], 3941 b [ PL 26-22 ], 3934[ PL 26-23 ], 3890[ PL 26-24 ], 3672[ PL 26-25 ],  
3047[ PL 26-26 ], 4618[ PL 26-27 ], 3648[ PL 26-28 ], 4667[ PL 26-29 ], 3056[ PL 26-31 ]

イ. < 口縁部 > は [ PL 26-05~12, 14~28 ] である。

§ s 口縁が無文のものは [ PL 26-05~09, 12, 17 ] である。

[ PL 26-05 ] は口縁部に横位、それより下は羽状の粗い条痕を施す。

[ PL 26-07 ] は口唇部をやや丸みを帯びて仕上げ、内側へ少し折り返す。風化の為に条痕が非常に浅い。

[ PL 26-08 ] は口唇部を内側へ傾斜させて作っている。

[ PL 26-09 ] は口唇部付近に指による下から上に押した 0 字状の刻み目を有する貼付突帯を施す。淡橙色を呈す。突帯は条痕調整後。

§ t 口唇部に沈線を有するものは [ PL 26-10, 11, 21 ] である。

[ PL 26-10 ] は篋状工具を斜めにした状態で沈線を施したものである。

[ PL 26-11 ] は口唇部中央がわずかに窪むが、施文ではあるまい。

[ PL 26-21 ] は口唇部中央付近が窪む。

§ u 口唇部に押引文を有するのは [ PL 26-14, 15, 16, 18~20, 22~28 ] である。

[ PL 26-14 ] は 1 条の比較的長い単位の押引文。

[ PL 26-16 ] は口唇部がやや外側へ突出している。

[ PL 26-18 ] は横位の条痕。口唇部を外へ少し折り返す部分もある。

[ PL 26-19 ] は口唇部に刺突文を有し、そのため波状口縁になっている。

[ PL 26-20 ] も刺突文である。

[ PL 26-22 ] は赤橙色を呈す。

[ PL 26-23 ] は [ PL 26-19 ] と同じく刺突文を有し、そのため波状口縁である。又、口縁部付近は横位、それより下は羽状の条痕を施しているようである。

[ PL 26-24 ] も [ PL 26-19, 23 ] と同様波状口縁である。[ PL 26-25 ] も同様である。

[ PL 26-26 ] は刺突文と考えられる。

[ PL 26-27, 28 ] も [ PL 26-19, 23, 24 ] と同様である。

ロ. < 胴部 > は [ PL 26-29, 31 ] の 2 点のみ抽出した。

[ PL 26-29 ] は小破片のため判らないが、やや突出した部分がある。

[ PL 26-31 ] は 5 条のハケ状工具によって、口縁部は横位、それより下は羽状の条痕を施す。外面の一部と内面が黒色である。

その他

4631 [PL19-01], 3668 [PL19-03] は0020 [PL01-01] と同様に無頸壺と考えられる。

[PL19-01] は径2.5mmの砂粒を含み、焼成はやや不良で赤褐色を呈する。口縁に向かって肥厚し、口唇部は平坦に作ってある。口縁部は内側へ折り返してあり、全体にヨコナデを施してある。外面はかなり荒れている。

[PL19-03] は胎土が粗く、焼成は良好で淡橙色を呈す。輪積み痕が4、5段明瞭に残っている。口唇部はやや尖り気味であるが丸く、内外面に折り返している。[PL01-01, 19-01] に比べ器壁がやや薄い。

(大江)

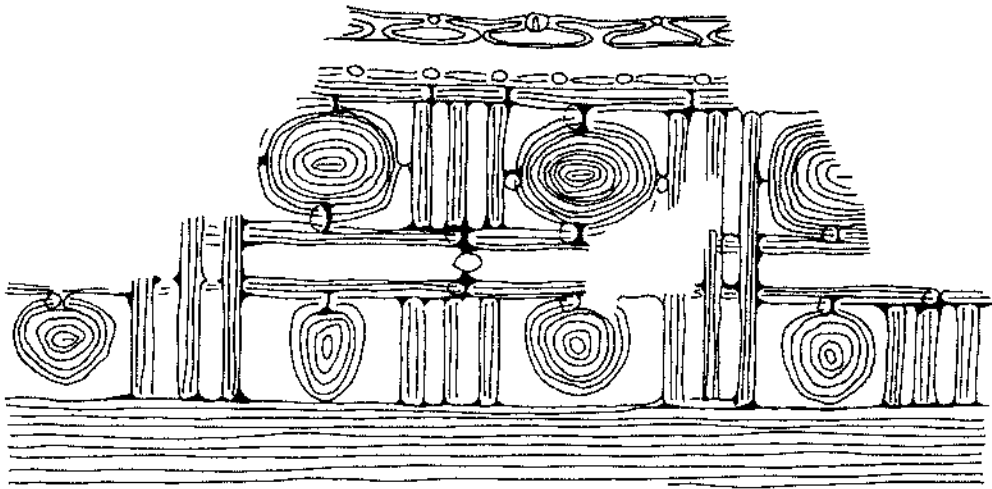


Fig 7 大洞系土器文様展開図

## 第3章 弥生時代後期の方形周溝墓 [SD-04]

今回の調査では、方形周溝墓SD04が1基発見され、調査することができた。約380平方メートルの調査区内で、方形周溝墓の全体を確認できたのは幸運であったが、後世の攪乱等のために、溝に囲まれた中央部には同時代の遺構、堆積等は全く認められなかった。

### 第1節 遺構

#### I 遺構の状況

SD04は、東溝がB-3からD-3区にかけて、南溝がD-1からD-3区にかけて、西溝がA-1からA-3区にかけて、北溝がA-1からA-3区にかけて発見された。調査面積の約半にまたがり、発掘区 [PL112] 中央部から北西部に位置する。溝は地山に切り込んだレベルで確認された。北溝等では地山のレベルより上でもほぼ同時期の土器片多数が溝に沿って集中している。このことは黒土内のため確認出来なかったものの、本来の溝の掘込み面は黒褐色土層内にあったことを示していると考えてよいであろう。

溝の方向は、ほぼ東西南北の方位に従っており、一辺が外長で約12mのほぼ正方形に近い形を呈している。周溝は全辺が継がるものではなく、南西隅のみ、幅約1.5mの陸橋部があり、周溝の1隅が切れている。各溝は、幅約0.9~1.7m、深さ約0.7~1.3mの、上部がやや開いたかたち即ち、中段より上はやや傾斜が緩くなるU字溝で、底の幅は約0.5~0.9m、全体に底の中央は平坦である。

東南、東北、西北の隅は切れてはいないが底（地山）がコーナーに向かって両側から浅くなっている。このためSD04構築当時の掘込み面が地山より上にあったとすると、南西隅も陸橋であったとは言い切れない。

なお、このSD04の溝は発掘区の北西から南東にかけて存在する弥生時代前期のものと推定される溝状遺構SD03をB-1、及びC-2、3区で切って作られている。B-1区の南半からC-1区の北側にかけては防空壕4によって破壊され、東壁は底近くまで削平されている。D-2区では、防空壕7、SH04等によって上部を削られ、特に東部はより深くまで攪乱されている。D-2区の東側に70cm、D-3区に北側に1mの未掘部分を残している。また、B-4区では紙一重でSD101と接しており、この部分の東壁は僅かな立ち上がりを確認したのみである。

#### II 周溝埋土の層序

SD04の周溝内には大別すると共通して三層の堆積が観察された。埋土の上層は黒褐色でより上の層に比して粘質の強い土層であり、大部分に共通してさらに上部と下部に分層される。中層は黄褐色粘質土層で地山ブロックを多く含んでいる。埋土下層は埋土上層以上に黒くさらに粘質の強い土層である。底は砂質の地山の所が多い。地山が砂質のところでは埋土下層からの汚れが浸み込み、底や壁の下部は堅さによってようやく判断できた。

### III 遺物の出土状況

遺物は、上層もしくは上層から中層にかけて多く出土しており、中層より下の層からは、出土量が減っている。特に完形土器に関しては、東溝出土の壺棺2473を除いて、大部分が埋土上層のレベル的には、9.4mから10.1m位で出土している。

SD04では、溝の各辺より数個ずつの完形土器が群をなして出土していることが特徴としてあげられる。辺ごとに器種の組み合わせが異なっていることは興味深い。

これらの完形土器の大部分は土器片群より下層（埋土の上層下部）から出土しているが、溝の底部直上の埋土からは土器及び土器片の出土量は極めて少なくなる傾向が見られる。

他の特徴としては、溝の埋土上層の上部に土器片が多量に出土していることが特徴の一つとしてあげられるが、これらの土器片は一個体がその位置で割れたものは殆どなく、互いに関連のない土器片が集中して出土している。上述のごとく、地山での溝の掘込み面より上のレベルからも同様に多数の土器片が発見されており、埋土上層の上部とは区別し難い。埋没過程の最終段階で、両側の土手状の部分の土で溝を埋め、そこにあった土器片が入ったのかもしれない。これ等の土器片のうち若干は [PL32~36] に図示した。なお、土器以外には本遺構に伴うことが確実な遺物はない。

溝の各辺からの主要遺物の出土状況は以下の通りである。

#### <東溝 B-3, 4, C-3, 4区>

東辺の溝は南端部が約1.0mの幅で未掘部となっているために全掘できなかったが、小型壺形土器2446, 2447, 2618, 2628, 2631, 2646, 口縁部を欠く小型壺形土器2405, 2646, 小型高坏2454, 高坏2453, 壺棺と推定される大型壺2473等が全て南寄り出土している。

壺棺と思われる大型壺2473は、東溝南部より出土した [PL75]。溝埋土下部（黒褐色粘質土層）より底を上に向け、口を下に向け、倒立した形で出土した。壺は胴の一部を故意に叩いて破壊した後、逆さになった頸部の孔を破片でふさぎ、底部を逆さにしてその上を覆っていた。上下間には土は殆どなく、中空であった（LV=9.38~9.62m）。東溝では、この大型壺を中心として完形土器が集中して出土しているが、レベル的には全て壺棺より上層（埋土中・上層）である [PL76]。小型の壺は数も多く、注目される。

#### <西溝 A-1, B-1, C-1区>

西辺の溝では、完形土器の大部分が溝の南部のC-1区で出土した。南端の陸橋部に近い立ち上がり部分で出土した無文の壺2011（LV=10.01~9.8m）のほかは、C-1区の北部から纏まって発見された。即ち、台付き壺2018（LV=10.02m）、小型台付き甕2028、台を欠く小型台付き甕2025、小型台付き短頸壺2021、大型壺上部2019で、すべて埋土上層（黒褐色土層）から出土している。この溝も、中層以下は土器の出土量が極端に減る傾向が見られた。C-1区の一部とB-1区ではSD03との交差部分を含め、防空壕の攪乱を受けており、出土遺物は少ない。

#### <南溝 D-1, 2, 3区>

南辺の溝は中央部が約50cm幅の未発掘部となっているため、SD03との交差部には未調査部分を残す。溝の上部には後世の土壌で須恵器片等が出土したPit333や、防空壕等の攪乱が見られた。この溝からは、大型の完形土器は出土しておらず、D-1区からは口縁部を欠く丹彩長頸壺5231（LV=9.8m）と口縁が逆八字型に開く小型の壺5232が出土し、D-3区より丹彩壺3057（LV=

## 第3章 弥生時代後期の方形周溝墓 [SD-04]

今回の調査では、方形周溝墓SD04が1基発見され、調査することができた。約380平方メートルの調査区内で、方形周溝墓の全体を確認できたのは幸運であったが、後世の攪乱等のために、溝に囲まれた中央部には同時代の遺構、堆積等は全く認められなかった。

### 第1節 遺構

#### I 遺構の状況

SD04は、東溝がB-3からD-3区にかけて、南溝がD-1からD-3区にかけて、西溝がA-1からA-3区にかけて、北溝がA-1からA-3区にかけて発見された。調査面積の約半にまたがり、発掘区 [PL112] 中央部から北西部に位置する。溝は地山に切り込んだレベルで確認された。北溝等では地山のレベルより上でもほぼ同時期の土器片多数が溝に沿って集中している。このことは黒土内のため確認出来なかったものの、本来の溝の掘込み面は黒褐色土層内にあったことを示していると考えてよいであろう。

溝の方向は、ほぼ東西南北の方位に従っており、一辺が外長で約12mのほぼ正方形に近い形を呈している。周溝は全辺が継がるものではなく、南西隅のみ、幅約1.5mの陸橋部があり、周溝の1隅が切れている。各溝は、幅約0.9~1.7m、深さ約0.7~1.3mの、上部がやや開いたかたち即ち、中段より上はやや傾斜が緩くなるU字溝で、底の幅は約0.5~0.9m、全体に底の中央は平坦である。

東南、東北、西北の隅は切れてはいないが底（地山）がコーナーに向かって両側から浅くなっている。このためSD04構築当時の掘込み面が地山より上にあったとすると、南西隅も陸橋であったとは言い切れない。

なお、このSD04の溝は発掘区の北西から南東にかけて存在する弥生時代前期のものと推定される溝状遺構SD03をB-1、及びC-2、3区で切って作られている。B-1区の南半からC-1区の北部にかけては防空壕4によって破壊され、東壁は底近くまで削平されている。D-2区では、防空壕7、SH04等によって上部を削られ、特に東部はより深くまで攪乱されている。D-2区の東側に70cm、D-3区に北側に1mの未掘部分を残している。また、B-4区では紙一重でSD101と接しており、この部分の東壁は僅かな立ち上がりを確認したのみである。

#### II 周溝埋土の層序

SD04の周溝内には大別すると共通して三層の堆積が観察された。埋土の上層は黒褐色でより上の層に比して粘質の強い土層であり、大部分に共通してさらに上部と下部に分層される。中層は黄褐色粘質土層で地山ブロックを多く含んでいる。埋土下層は埋土上層以上に黒くさらに粘質の強い土層である。底は砂質の地山の所が多い。地山が砂質のところでは埋土下層からの汚れが浸み込み、底や壁の下部は堅さによってようやく判断できた。

9.9m), D-2区から長頸?の壺5020, 高坏脚部3059が出土している。土器は大部分が溝埋土上層(黒褐色土層)より出土し, 中層(黄褐色の地山土を大量に含む層)以下からは土器の出土量が極端に減っていることは他の辺と同様である。

#### <北溝 A-1, 2, 3区>

北辺の溝は, 攪乱部が少ないこともあり, 出土遺物の量が多い。復元完形土器としては, 丹彩長頸壺0275 (LV=9.45~9.38m), 丹彩器台0282 (LV=9.46~9.69m), 丹彩高坏0284 (LV=9.54~9.65m), 高坏0285 (LV=9.6m), 無文の壺0283, 無文の壺0286 (LV=9.62~9.77m)等が出土している。これらの完形土器は, A-2区のやや東寄り, 即ち北辺溝のほぼ中央でまとまって出土しており, 溝の北壁よりから中央にかけて, 西から器台・壺0283(小)・高坏0284・高坏0285・壺0286(大)・長頸壺の順で並び, 横倒して発見された[PL55上, 73]。出土層位は溝埋土上層下部(黒褐色粘質土)であり, より下層では遺物の出土量が激減するのは, 他辺と同様である。

#### IV 方形周溝墓 中央部

SD04の中央部には, 方形周溝墓に伴う遺構や層は確認できなかった。溝に囲まれた内側のB-2区北西隅では, 柱穴状小ピット内から復元完形の壺1052 [PL36-4]が破片にした後で詰め込んだような状態で発見されている。さらに, C-1区南東部からは復元完形の甕2101 [PL32-01]が出土している。この二つの土器の出土のみが, 中央部における溝と同時代の可能性を持つ証拠であるが, 土器の形式はやや古い可能性もあり, SD04に伴うものと断定することは困難である。

SD04の中央部には, 後世のSH03, SH07, SH10の三つの住居址が西側に作られている。南東部にはSH14とC-2とC-3区にまたがる南北方向の溝SD106があり, B-3区では手付瓶が出土した付近に東西方向の壁状のものがある他, その南部からC-3にかけては遺構としての単位を掌握出来ないものの地山の表面には複雑な凸凹があって, やはり後世の攪乱があったことを示している。更に, この遺跡上には最近まで長屋が建っていたので, それに伴う井戸がC-3区にあり, 中央部には一辺約1.5m四方, 深さ(地山より)約1.0mの防空濠2が, 西寄りには防空濠4があって, 現代的遺構による破壊も著しい。

以上のように, 方形周溝墓としての中心部は保存状態が悪く, 言及すべきことの無いのは残念である。なお, 後世の攪乱の痕跡が認められない部分の地山の表面はほぼ平らで, 汚れた地山の漸移層はない。この点から, SD04の築造時に一度削平されている可能性が強いかと考えられる。

#### V 時期

溝から出土した完形土器や復元完形土器のほとんどは弥生時代後期の山中式の特徴を備えていることからみて, SD04は山中期の方形周溝墓と断定してよいであろう。

この時期の方形周溝墓は北隣の保育園でも発見されている。名古屋市教育委員会による1981-82年の調査で発見されたD.3, D.11がそれである。

(山崎)

## 第2節 出土した土器について

以下出土土器のうち復元完形またはそれに近い状態のもので、方形周溝墓に伴うことがほぼ明確なものを、出土した溝ごとに順を追って記載する。

〈北溝 A-1, 2, 3区〉からは次の6点が発見された。

丹彩長頸壺	0275	(LV=9.45~9.38m)	[PL28-02; 94-06]	0221と接合
丹彩器台	0282	(LV=9.46~9.69m)	[PL27-04; 94-04]	0261と接合
丹彩高坏	0284	(LV=9.54~9.65m)	[PL27-02; 94-01]	0261と接合
高坏	0285	(LV=9.6m)	[PL28-01; 94-02]	
無文の壺	0283		[PL27-01; 94-06]	
無文の壺	0286	(LV=9.62~9.77m)	[PL27-03; 94-05]	

0275 [PL28-02; 94-06] は長頸壺である。〈法量〉は口径08.5cm, 器高16.7cm, 胴径12.5cm, 底径03.0cmである。〈形態〉は口頸部は長く直立し, 口縁部は僅かに外反して端部は丸くおさめる。胴部はややソロバン玉状で, 底部は小さな平底となる。〈色調〉はうすい灰褐色。最下位の櫛描横線文帯以下は全面に丹彩する。〈文様調整〉は外面口頸部に櫛描横線文4段とその間の櫛歯による斜線文3段が施文され, 胴部はタテハケで, 内面口縁部はヨコナデである。

0282 [PL27-04; 94-04] は器台で, 脚の一部が欠損している。〈形態〉は坏部は円筒状の脚上部から滑らかに外反する。口唇部は水平に張り出し, 面を持つ。脚部は緩やかに外反し端部は面をなす。透孔は3つである。〈法量〉は口径14.6cm, 器高18.3cm, 脚部径15.7cmである。〈色調〉は薄い灰褐色で, 坏部内外面と裾部外面に丹彩する。〈文様調整〉は外面の坏部端部付近がヨコナデ, 坏部はタテハケで, 脚部には櫛描横線文(6条1組)が4段あり, その間を櫛描により中央は斜格子文, 上下は斜線文で埋めている。脚裾部はタテハケ, 脚端部付近はヨコナデで, 内面の口唇付近はヨコナデである。

0283 [PL27-01; 94-06] は壺で, 完形であるが口唇部を僅かに欠いている。〈形態〉は口頸部はやや外反し, 端部で面をつくる。胴部はほぼ中位に最大径があり, 球形で, 底部は平底である。〈法量〉は口径11.3cm, 器高20.0cm, 胴部径17.4cm, 底径05.5cmである。〈色調〉は薄い茶褐色で, 底から下胴部, 中胴部に黒斑がある。〈文様調整〉は無文で, 外面の頸部より下(底部を除く)はタテハケ。内面は口頸部がヨコナデで, 胴部中位に接合痕がみられる。

0284 [PL27-02; 94-01] は高坏である。〈形態〉は坏部が浅く, 中位で屈折して稜をなし, その上は外反し開く。脚の上部は中実で, 裾部は外反して開き, 端部に面を持つ。透孔は4ヶ所である。〈法量〉は口径19.4cm, 器高16.9cm, 脚部径14.4cmである。〈色調〉は脚部内面を除き, 全て丹彩されていたと思われる。〈技法調整〉は外面坏上部がヨコナデで, 脚, 裾部, 坏下部にタテハケがみられ, 内面は坏上部がヨコナデで脚, 端部付近はハケである。

0285 [PL28-01; 94-02] は高坏である。〈形態〉は坏部は中位で屈折して稜をなし, その上は外反し, 端部に面を持つ。脚部は, 裾部で外反して開き, 端部を上下へ若干拡張して面を持つ。透孔は4ヶ所ある。〈法量〉は口径22.8cm, 器高17.8cm, 脚部径15.4cmである。〈色調〉は胎土は淡黄白色。脚部内面を除き, 表面は明るい橙褐色を呈し化粧がけされている。坏部の立ち上がり外面に幅10cm程度の黒斑があり, この直下の脚端部にも5.6cm幅の黒斑があるが濃くなく, 青みを帯

びる。〈文様調整〉は外面が、坏上部はヨコナデで櫛描波状文と稜直上に櫛描横線帯があり、稜上には刻み目を施す。脚部上部はタテハケで裾部はヘラミガキされ、透穴より上に櫛描横線文5段がある。これは5条単位だが、同一工具か否かは不明である。内面は坏上部がヨコナデ、脚部はヨコナデで、透穴の下から裾部中部ではヘラケズリ後ヨコナデしている。

0286 [PL27-03, 94-05] は北溝出土の壺で、完形であるが口唇部を僅かに欠いている。〈形態〉は口頸部は「く」字状に外反し、端部で面をつくる。胴部は下位が膨らむ球状で、最大径は中位よりやや下にくる。底部は平底である。〈法量〉は口径15.8cm, 器高32.0cm, 胴部径27.4cm, 底径07.5cmである。〈色調〉はやや赤味を帯びた茶褐色。〈文様調整〉は外面口頸部がヨコナデで、胴部はハケで胴部中位までが下位に比して細かい。底部付近はヘラミガキされている。内面は口頸部内面がヨコハケで胴部外面上位と同じ工具かと考えられる。

〈西溝 A-1, B-1, C-1区〉からは次の7点が発見された。

無文の壺	2011	(LV=10.01~9.8m)	[PL29-02; 96-02]
台付き壺	2018	(LV=10.02m)	[PL28-03; 95-01]
小型壺	2027		[PL29-04; 96-01]
小型台付き甕	2028		[PL28-04; 95-03] 2025と接合
小型台付き甕	2025		[PL29-01; 95-04] (台部欠損)
小型台付き盥	2021		[PL28-05; 95-05]
大型壺上部	2019		[PL29-03; 95-02]

2011 [PL29-02; 96-02] は復元完形の壺である。〈形態〉は胴から口縁に「く」字状に開き、端部付近でより強く外反し、端部は面を作る。胴部最大径は中位よりやや下であり、底部は僅かに突出した平底である。〈法量〉は口径14.5cm, 器高30.2cm, 胴径25.0cm, 底径07.7cm。〈色調〉は薄い茶褐色で、胴部に黒斑があり、胴部表面の剝離が著しい。〈文様調整〉無文で、外面が口縁部のみヨコナデで、胴上部はタテハケ、中部は不定方向のハケで、下部はハケ後ヘラミガキされている。内面は口縁部のみハケ。

2018 [PL28-03; 96-02] は台付壺で、ほぼ完形である。〈法量〉は口径19.4cm, 器高37.9cm, 胴部径28.6cm, 底径14.2cmである。〈色調〉は口縁から胴上部は淡褐色で、胴下部から台はやや薄い。〈形態〉は胴から口縁に向かって強く外反し、端部は面を作り垂下する。頸部屈曲部に突帯を巡らす。胴部最大径は上から中位にあり低い。台は「ハ」字状に大きく外反し、上方に拡張した端部を作る。〈文様調整〉は口唇部内面に「ハ」字状沈線があり、口唇端部には沈線3本とその下にヘラ状工具による刻みがある。口頸部はタテハケ、突帯付近はヨコナデで、突帯上は稜の上下に竹管文がある。胴上部には櫛歯横線文(6条1組)が4段あり、最も上の帯の上下には櫛歯刺突文が2段あり、その下の3段の横線文帯の間には櫛歯波状文が2段入る。最下の横線文帯の下は扇状文が施される。それ以下はハケ後ヘラミガキで、台との接合部分はタテハケ、台部はヨコナデである。胴部の中位に表面が大きく剝離した部分があり、一部は孔があいている。別にも剝離部や開孔部がある。故意の穿孔かもしれない。

2021 [PL28-05; 95-05] は小型台付盥で、口唇部が僅かに欠損している。〈形態〉は口縁部が若干外反し、胴部は下位が膨らむ球形である。台部は裾部で大きく外反して開き、端部は面をつくる。透孔は3つである。〈法量〉は口径08.9cm, 器高13.6cm, 脚部径(推定)09.2cmである。〈色



調〉は上部はうすい茶褐色で、台部と胴の一部は暗茶褐色。〈文様調整〉は外面口縁部はヨコナデ、胴部はタテハケ後ヘラミガキで、台部はヘラミガキし、上部から沈線2本、右下がりの斜線文、沈線2本、左下がりの斜線文、沈線5本が帯状に施文されている。内面口縁部はヨコナデである。

2025 [PL29-01; 95-04] は小型台付甕で台部が欠損している。〈形態〉は口縁部は「く」の字状に開き、口唇部はやや薄くなり、面を持つ。胴部は球形で最大径は上位にある。〈法量〉は口径12.2cm、残高13.5cm、胴径12.9cmである。〈色調〉は全体に黒(茶)褐色を呈し、下胴部から底部にかけては赤褐色である。胴上部にススが付着し、上胴部には表面が薄く剥離した部分がある。〈文様調整〉は無文で、外面口縁部はヨコナデ、胴部はハケ後ナデ、台接合部はヨコナデである。内面頸部はヨコハケで、胴部はハケである。

2027 [PL29-04; 96-01] は小型壺で、完型だが口縁の一部が欠損している。〈形態〉は口縁部は上がやや開き、口唇部は丸い。胴部はやや偏平な球形で、底部は厚く平底である。〈法量〉は口径07.0cm、器高19.8cm、胴径10.0cm、底径03.5cmである。〈色調〉は全般的に淡黄褐色に近く、底部は暗灰色を呈す。胴部と底部に黒斑がある。〈文様調整〉は外面はミガキで、内面の胴部から頸部に指圧痕があり、最大径部の上に接合痕らしきものがある。

2028 [PL28-04; 95-03] は復元完形の台付甕である。〈形態〉は口縁部が短く、「く」の字状に外反する。胴部は上位がやや張り、台部は「八」の字状に開く。〈法量〉は口径(推定)12.0cm、器高13.5cm、胴径(推定)12.5cm、脚部径04.6cmである。〈色調〉は全体に黒褐色で、底部は赤褐色で火をうけたかと考えられる。〈調整〉は外面口縁部がヨコナデ、胴部は中位より少し下までハケ、下位から台部にかけてヨコナデである。内面は胴部がヘラケズリで、台部はヨコナデである。

2019 [PL29-03; 95-02] は西溝出土の大型壺の上部である。〈形態〉は口縁部が強く外反して、口唇部はやや肥厚し上下とくに下に拡張して面を作る。〈法量〉は口径31.5cm、残高22.4cmである。〈色調〉は薄い茶褐色。〈文様調整〉は外面口唇部には3本の沈線を巡らし、頸部にはハケ調整が見られる。頸基部から胴上部には6~7本単位の櫛描き沈線帯が7条あり、その間には櫛による斜線文が6列施され、最下位の横走沈線文帯の下には刺突文がある。内面口縁部には櫛による斜線文が7列羽状に施され、その内側には刺突文がある。内外面の工具は同じであろう。頸基部内面には指圧痕があり、頸部はハケの後指ナデで、胴部にはハケ調整が見られる。

〈南溝 D-1, 2, 3区〉からは次の4点が発見された。

丹彩長頸壺	5231	(LV=9.8m)	[PL30-12; 97-12] (口縁部を欠く)
小型の壺	5232		[PL30-11; 97-11] (口縁が逆ハ字型に開く)
丹彩壺	3057	(LV=9.9m)	[PL30-10; 97-10]
長頸壺	5020		[PL30-13; 97-13]

3057 [PL30-10; 97-10] は壺で、口唇部が欠損している。〈形態〉は口頸部が直立気味にゆるく外反し、端部に向かってやや尖り気味である。胴部はやや偏球形を呈し、底は底面の小さな平底である。胴部の最大径付近に穿孔されている。〈法量〉は口径07.7cm、器高13.3cm、胴径12.2cm、底径03.3cmである。〈色調〉は胴部全面に丹彩が施され、頸部も丹彩されていた可能性が強く、内面上部にも丹彩がみられる。また外面の底部から下胴部にかけて、黒斑があり、外面の一部は剥離している。〈文様調整〉は外面の口頸部、胴最上部、胴部中位に櫛描横線文帯が1段ずつある。内面は口縁部がヨコナデである。

5231 [ PL30-12 ; 97-12 ] は長頸壺で、口縁部が欠損している。〈形態〉は口頸部が直立し、胸部は偏平な球状を呈す。底部は丸底である。〈法量〉は頸部径7.5cm、残高約13cm、胴径15.6cm。〈色調〉は楡描横線帯直下から全体に丹彩で淡い赤色を呈し、その他は淡い灰褐色。〈文様〉は頸部に5条の楡描横線帯1段と、その直上に楡齒斜線帯が施文されている。頸部最下部内面には接合痕がある。

5232 [ PL30-11 ; 97-11 ] は復元完形の小型壺である。〈形態〉は頸部から口縁部に向かっては「く」の字状に強く屈折して外反する。胸部は最大径がほぼ中位にあり偏平な球状をなす。底は小さな平底である。〈法量〉は口径09.7cm、器高08.9cm、胴部径11.6cm、底径03.1cmである。〈色調〉は茶褐色。〈調整〉は外面底部がヘラミガキである。

5020 [ PL30-13 ; 97-13 ] は長頸壺である。同一個体であるが、口頸部と胸部は接合できない。〈形態〉は頸基部から口縁に向って、直線的に緩く外反しながら伸びるものと考えられ、上に向かって次第に薄くなる。胸部は最大径が中位よりやや下にあり偏平な球形をなす。底はやや突出した平底である。〈法量〉は胴部径16.0cm、底径5.4cmである。〈色調〉は薄い茶褐色で、黒斑がある。〈調整〉は外面胴下部がハケで、頸基部はヨコナデ。内面は底部から胴下部がハケで、頸基部に指圧痕がある。

〈東溝 B-3, 4, C-3, 4区〉からは次の10点が発見された。

小型壺	2446	[ PL30-09 ; 97-09 ]
小型壺	2447	[ PL30-08 ; 97-07 ]
小型壺	2618	[ PL30-01 ; 97-01 ]
小型壺	2628	[ PL30-07 ; 97-08 ]
小型壺	2631	[ PL30-03 ; 97-03 ]
小型壺	2646	[ PL30-06 ; 97-06 ] (口頸部欠損)
小型壺	2405	[ PL30-05 ; 97-05 ] (口頸部欠損)
小型高坏	2454	[ PL30-04 ; 97-04 ]
高坏	2453	[ PL30-02 ; 97-02 ] 2617と接合
大型壺	2473	[ PL31-01 ]

2446 [ PL30-09 ; 97-09 ] は小型壺で、完形だが口唇部が僅かに欠損している。〈形態〉は口頸部が「く」字形にひらき、端部に面を持つ。胸部最大径はほぼ中位にあり、偏平な球形である。底は平底で薄い。〈法量〉は口径07.3cm、器高06.2cm、胴部径07.5cm、底径03.0cmである。〈色調〉は殆ど黒色を呈し、一部がうすい茶褐色である。底部から胸部にススが付着している。〈調整〉は外面口頸部がヨコナデ。内面は口頸部がヨコナデで、胸部がナデである。肩部に指圧痕がある。

2447 [ PL30-08 ; 97-07 ] は小型壺で、完形だが口唇部が若干欠損している。〈形態〉は口頸部がやや外反し、端部は丸い。胸部は最大径がほぼ中位にくる偏平な球形である。底はやや突出した平底である。〈法量〉は口径06.4cm、器高08.0cm、胴部径09.3cm、底径03.1cmである。〈色調〉はうすい茶褐色である。〈文様調整〉は外面口縁部に沈線が1本ある。口頸部と胸部はヘラミガキで、頸部と胸部の境にはヘラをついた時のものと考えられる痕がある。胴下部と底部はヘラケズリで、内面は不明。

2453 [ PL30-02 ; 97-02 ] は復元完形の高坏である。〈形態〉は坏部が中位で屈折して稜をなし、

坏上部は外反して開く。脚部の上部は中実であり、裾部で外反し端部に面を持つ。透孔は3つである。〈法量〉は口径25.0cm、器高18.5cm、脚部径16.2cmである。〈色調〉は赤褐色で裾の一部に丹彩している。〈文様調整〉は外面の坏上部に二又工具による波状文と、稜直上には沈線3本がある。脚部は上部がタテのヘラケズリで、3段の楯横線文帯（4条1組）を持ち、裾部はヨコナデである。

2618 [PL30-01; 97-01] は小型壺で、完形だが口縁の一部が欠損している。〈形態〉は口縁部が外反し、端部は薄く丸くなる。胴部は球形で最大径は中位にある。底部はやや突出した平底である。胴中位に直径2cm位の孔があげられている（破片あり）。〈法量〉は口径08.0cm、器高07.4cm、胴径07.7cm、底径02.0cmである。〈色調〉は薄い黄褐色で、底から胴部に黒斑がある。〈調整〉は外面口頸部がヨコナデで、内面の胴部から頸部にかけて指圧痕がある。

2631 [PL30-03; 97-03] は東溝出土の小型壺で、完形だが口唇部が僅かに欠損している。〈形態〉は口頸部が「く」字形にひらき、端部付近で強く外反し、口唇部は丸くおさめる。胴部最大径は上位にある。底部は平底で、内面中央が窪む。〈法量〉は口径07.2cm、器高07.5cm、胴部径08.1cm、底径03.3cmである。〈色調〉はうすい赤褐色である。〈調整〉は外面口頸部がヨコナデで、内面は口縁端部が面を作ったかのごとくヨコナデで、頸部もヨコナデ、胴部はナデで、肩部に指圧痕、胴の張り出した部分に接合痕がある。

2628 [PL30-07; 97-08] は小型壺で完形である。〈形態〉は口頸部が「く」字形にひらき、口唇部はやや肥厚して丸くおさめる。胴部最大径はほぼ中位にある。底は平底で内面中央がやや窪む。〈法量〉は口径07.3cm、器高07.1cm、胴部径07.7cm、底径03.2cmである。〈色調〉は上部はうすい茶褐色で、下胴部から底部は黒色であり、内面のほぼ半分も黒色。〈文様調整〉は外面口頸部ヨコナデ。頸部に左下がり、胴部に右下がりの幅の広いハケ目？がある。内面口頸部ヨコナデで、胴部はナデ。肩部に指圧痕、胴の張り出した部分に接合痕がある。

2473 [PL31-01; 98-01] は復元完形の大型壺である。胴部が横にベルト状に欠損し、この部分は外からの打撃により故意に破碎されたと考えられる。出土状況からみて壺棺であろう。〈形態〉は口縁部は強く外反し、端部にいくほど肥大する。口唇部は上下に拡張して面を作る。胴部はやや下部に張った偏球形である。底部は平底である。〈法量〉は口径31.9cm、器高65.5cm、底径11.5cm、最大胴径は54.8cmである。〈色調〉は薄い茶褐色を呈す。〈文様調整〉は外面口縁部から頸上部はタテハケで、文様帯より下の胴部はナメハケである。口縁端部に2、3本の浅く幅の広い沈線が施してあり、頸部基部に指で摘んで一周させたような突帯がある。この突帯の上下には竹管刺突文が巡っている。胴上部の文様帯は、10本1組の沈線3段と、その段間と最上段の上には楯状工具の先端を斜めに押し付けたと考えられる右上がりの斜線文帯で形成され、さらにその下に斜位で長楕円形の木目刺突文が巡っている。口縁部内面にはヨコハケの後で、楯状工具による短斜線列が羽状に施文されている。

2454 [PL30-04; 97-04] は復元完形の小型高坏で、口縁部の一部が欠損している。〈形態〉は頸部が椀状で上部は直立し、端部は丸い。脚部は中空で外反して開く。透孔は3つである。〈法量〉は口径11.3cm、器高11.2cm、脚部径09.3cmである。〈色調〉は薄い茶褐色である。〈文様調整〉は脚裾部が内外面ともヨコナデで、他の脚部内面はヨコハケである。

2646 [PL30-06; 97-06] は小型壺で、口頸部を欠いている。〈形態〉は胴部最大径が中位より

下にあり、底部は高く厚い。底は丸みを帯びた平底で、底部内面は中央がへこむ。器壁は厚く、形はやや歪である。〈法量〉は残高11.7cm、胴径12.2cm、底径03.8cmである。〈色調〉は赤みを帯びた乳白色で、底部から下胴部に黒斑がある。〈調整〉は外面が最大径部はヨコハケ後ナデで、下胴部はタテハケ後ナデである。内面は胴部がハケで、胴上部と下部の接合部に接合痕と指圧痕がある。

2405 [PL30-05; 97-05] は東溝出土の壺で、口縁部を欠いている。〈形態〉は胴部が肩の張ったやや横長の球形状を呈し、底部は丸底となる。〈法量〉は残高07.8cm、胴径10.0cm、底径約03.5cmである。〈色調〉は淡赤褐色で、黒斑が胴部にある。〈調整〉は胴部外面がヘラミガキで、底部付近はヘラケズリし、頸部基部にヨコナデが見られる。内面は胴部がナデで、頸部接合部に指圧痕がある。

〈周溝以外の出土土器〉は2点である。

これ等は前述のごとくSD04に伴うか否かは疑問である。

壺 1052 [PL36-04; 96-04]

甕 2101 [PL32-01; 96-03]

2101 [PL32-01; 96-03] は西溝南端付近溝外出土の復元完形の甕である。〈形態〉は口縁部が強く外反し端部に向かって僅かに肥厚する。頸部内面には稜を持つ。胴部は縦長の球形を呈す。底部はやや外反気味で、底は平底である。〈法量〉は口径16.3cm、器高21.7cm、胴径18.4cm、底径05.5cmである。〈色調〉は暗茶褐色で、黒斑を有し、口縁部内外は赤味を帯びる。〈調整〉は外面口縁部がナナメハケの後ヨコナデし、胴部はタテハケで、底部付近はヘラミガキか。内面は口縁部が粗いヨコハケで胴部は同様のタテハケ後、下半部をヘラケズリしている。

1052 [PL36-04; 96-04] は西北隅の内側、やや南のPit323から出土した復元完形の壺である。〈形態〉は口頸部が緩やかに外反し、頸部が長めである。端部は丸みを帯びた面をつくる。胴上部が多少脹らみ、胴下半部はやや直線的で、底部は平底である。〈法量〉は口径13.8cm、器高30.3cm、底径09.3cmである。〈色調〉は全体に淡い茶褐色を呈し、胴上部及び中部に灰褐色部、黒斑がある。内面は、淡黄褐色である。〈調整〉は外面口縁部がヨコナデ、頸部にもヨコナデで下部に2ヶ所タテナデがみられ、頸基部にはナナメの刻み目?がある。胴上部はハケの後で板状工具によるナデがなされ、胴下部はナナメハケ、およびタテハケ後のナデである。最大胴径部付近にハケの工具による刺突痕がある。内面は口縁内部に頸部と同様の刻み目が巡り、一部に押圧痕が見られる。

(大江達子・高橋かおり・岩田かおり)

### 第3節 小 括

すでに述べたごとく、各溝内からの土器はすべて山中式と考えて大過ないと言えよう。

東溝出土の小型の壺類は形態にそれぞれ若干の差違があり、すべてが同一の型式に属すると断言はし難いが、出土状態からみて少なくともその位置に置かれた時期が大きく異なるとは考えられない。また、やはり東溝からの小型の高坏などはやや新しい様相を示すようにも見られるが、欠山式とするだけの根拠もないであろう。溝外からの壺と甕の2点は高藏式に入れうるかもしれないが、方形周溝墓に伴うとは言いえないことは既に述べた。仮に前後へのずれを認めても中心が山中式にあることは間違いないと考えられる。これ等のことからSD04の土器群は方形周溝墓という遺構の性格のためか、甕には大型のものが見られないものの山中式の良好なセットと言っ  
て良いであろう。

しかしながら、出土した土器はすべてが供献用の精製品というわけではない。丹彩した土器を出土したのは北と南の溝のみであるが、精製品の高坏・器台・長頸壺と並んで出土した壺2点はいずれも無文の品である。また西溝でも精製品の台付壺とともに出土した小型台付甕2点は日用品の感が強く、やや南に離れて出土した壺はやはり無文のものである。

つぎに、方形周溝墓の遺物としての性格から、人為的な破碎に関して述べる。東溝出土の大型壺が胴中位で破碎後、壺棺として用いられたとの推定については既に述べた。西溝では大型の壺の上半部のみが出土している。完形の台付壺とともに発見されていることから、方形周溝墓の遺物と考えるので、下半部は発見されなかったものの、すぐ北側が防空壕で削られていることを考慮に入れ、同様な壺棺としての可能性を指摘しておきたい。

穿孔されたと考えられるものとしては、西溝の台付壺2018は出土時点で完形であったにもかかわらず、胴部2ヶ所に孔が認められた。また南溝からの壺3057は口唇部を欠くが胴部に孔がみついている。穿孔されたと考えられるものはこの2点のみであるが、一方全くの完形品や復元して全破片が揃ったものもまた僅かである。各個体が分散せず纏まった状況で発見されたものが殆どであることを考えると、これらも人為的に一部を欠いた可能性がある。

全く完形のもの東溝からの小型の壺2447のみで、口唇部をごく僅かに欠く2446もその可能性がある。また、北溝の高坏0284は復元後は全破片が揃っている。しかし、この高坏は出土時点では破片は分散して発見されている。口唇部のみ欠損が見られるものは、北溝の壺0286と、東溝の小型壺2618、2631、2628、2646の5点である。口縁部が欠損するものは、北溝の壺0283、高坏0285、長頸壺0275と西溝の小型壺2027、南溝の長頸壺5231の5点である。北溝の器台は裾部、西溝の台付壺は口唇と裾部、台付甕2028は全体の壺、2025は口縁と台部、壺2011は胴の一部、東溝の高坏2453、2454はいずれも坏部の一部を、小型壺2405、2646は口頸部、南溝の壺5020は頸基部を欠いている。以上の点からみて、人為的な破碎が行われていた可能性はかなりの確率で存在すると言ってもよいであろう。

第三に各溝からの出土土器の組み合わせの相違が問題となろう。上述のごとく、丹彩品と北と南に限定され、台付の器形は高坏以外は西溝に限られる。後世の攪乱等が少なかったのは北と東の溝のみであり、絶対的なことは言いえないが、北・東とも土器は全般にわたって発見されたのではないので、西や南も組み合わせの大半は残存しているとみても良いかと考えられる。

北溝ではほぼ同じレベルで列になって出土し、東溝では大型の壺の上位に小型壺と高坏および高坏の脚部が集中して発見されている。西溝も無文の壺以外は1ヶ所に纏まっていた。東溝のものはすべてが同時期に置かれたと考えれば、その時点で埋土を掘り込んで埋めたと推測せざるを

えないが、調査時においてそのような根拠は得られなかった。したがって大型壺と小型壺を同時期とは断言できないが、出土状況からみて小型壺を壺棺への供献品と考えることも無理ではあるまい。小型の壺が多数出土したにもかかわらず、全く同形の物はなく、それぞれが若干の違いを示すのは興味ある事実と言えよう。

北や西の溝の土器群がいかなる性格のものかについては、この方形周溝墓の中心部も全く不明であり、判断をする根拠は全くない。しかし、東溝の大型壺の最深部は溝底に近かったが、北や西の溝の土器群はいずれも埋土上層部からの発見である。したがって、既にかんりの埋土が存在した状況でそこに置かれたと考えざるをえない。溝の掘削時とどの程度の時間差を想定するかは別として、少なくとも同時期ではないので、方形周溝墓に対する後からの供献品である可能性を考慮に入れておくのみとしたい。

各溝の出土土器に型的・時間的に有意な差を認め得ないにもかかわらず、器種の組み合わせが異なることは各溝の持つ意味が異なる可能性を暗示しているとも考えられる。各溝を合わせて一つの役割を担っているのか、或いは各々同じ性格のものが4つなのか考慮する必要があるだろう。この点についても発掘時の所見からは何等の手掛かりも得られなかった。

(大江達子・高橋かおり・岩田かおり・重松)

#### 〈付記〉 埋土中などからの土器片について

埋土およびSD04の上部からの土器片中から特徴的なものを若干選択して [PL32~36] に図示し、これ等についてのみ以下に記載した。時間的な余裕がなく、やや偏った選択になっている嫌疑があり、とくに甕の口縁は類似したものが多いため数量的に少ないことを御断りしたい。また、遺跡全般にわたって2, 3層からも弥生後期等の土器片が出土しているが、これらについて全く提示し得なかったことをお詫びしたい。

型式的には高蔵式から山中式、欠山式の範囲内にはほぼ収まり、より古いものは無いように見受けられた。即ち、今回の発掘区内では朝日式と貝田町式は欠落しており、西志賀式との中間に空白があることを指摘しておく。以下、図版番号順に記載する。

[PL32-02] 2008は、高蔵又は山中式の甕の口縁部である。色調は淡橙色。口縁端面に斜め方向の刻み目がある。調整は外面は不明で、内面はナナメハケ。C-1区出土。

[PL32-03] 2008は、高蔵又は山中式の甕の口縁部である。色調は白灰褐色。口縁端面に斜め方向（右上り）の刻み目がある。調整は外面がヨコハケ、内面は口縁部がヨコハケで、他はナナメハケ。C-1区、SD04埋土上層出土。

[PL32-04] 2022は、山中式?の台付甕の台部かと考えられる。色調は白灰褐色。調整は外面はタテハケで内面はヨコハケ。C-1区、SD04埋土上層出土。

[PL32-05] 2014は、山中式の壺の口縁部である。色調は黄橙色。口縁端面に刺突文があり、頸部には沈線が施されている。調整は外面内面ともヨコハケ。C-1区、SD04埋土最上層出土。

[PL32-06] 2008は、高蔵又は山中式の甕の口縁部から胴部で、口径は15.6cmである。色調は暗橙色。口縁端面に斜め方向の刻み目がある。調整は外面口縁部がヨコナデで、胴部がナナメハケ。内面は口縁部がヨコナデで胴部がナナメハケ。C-1区、SD04埋土上層出土。

[PL32-07] 2009は、高蔵式の台付鉢の口縁部で、口径は推定26.4cmである。色調は白灰褐色。外面に幅の広い浅い沈線があり、その断面はなだらかな畝をなす。調整は内外面とも不明。C-1区、SD04埋土上層出土。

[PL32-08] 2017は、山中式の甕の口縁部から胴上部。色調は暗黄橙色で、外面は全体的に黒みを帯びる。調整は外面縁部がヨコナデで、胴上部がナナメハケ。内面は口縁部がヨコナデ、胴部がハケ。C-1, SD04埋土上層出土。

[PL32-09] 2012は、山中式の壺の口縁部から胴上部で、口唇部はかなり垂下する。色調は黄灰褐色。口縁内面に羽状に短斜線文を3列施し、口縁端面には浅い3本の沈線を巡らす。頸部下には7, 8本1組の沈線が巡り、その下に右上がりの櫛描文を施す。さらにその下にも数本の沈線を施すが、欠けていて本数は不明である。調整は外面が口縁部から頸部にかけてヨコハケ。内面は不明。C-1区、SD04埋土上層出土。

[PL32-10] 2013は、山中式の高坏の脚部で、透孔は2個。色調は黄灰褐色。脚部外面に4本一組の沈線が2段めぐる。調整は外面は不明で、内面はタテハケである。C-1区、SD04埋土上層出土。

[PL32-11] 2024は、山中式の壺の口縁部から頸部で、口径は19.0cmである。口唇部はかなり垂

下する。色調は淡橙色で口縁端面に丹彩。口縁部内面に羽状に短斜線文を3列施し、頸部外面に1条の突帯をめぐらせ、その両側に竹管刺突文を施す。調整は不明。C-1区、SD04埋土上部出土。

[PL32-12] 2008は、台付鉢?の脚部で、底径は8.4cmである。色調は淡橙色で丹彩する。内面は黒みを帯びる。裾部外面の面取り部に3本の沈線を持つ。調整は外面がヨコハケ。脚部内面に指圧痕がある。C-1区、SD04埋土上層出土。

[PL32-13] 2022は、山中式?の台付甕の台部で、底径は8.2cmである。色調は淡い橙色で、内面は黒みを帯びる。調整は外面がタテハケで、内面はヨコナデ。C-1区、SD04埋土上層出土。

[PL32-14] 2008は、山中式?の大型台付土器の台部であろう。底径は推定21.4cmである。中空ではないのが特徴である。色調は黄橙色。調整は不明。C-1区、SD04埋土上層出土。

[PL33-01] 0273は、山中式?の壺の口縁から頸部で、内傾した端面を持つ口縁部は頸部から直線部に外反する。口径は推定10.6cmで比較的小型の壺であろう。色調は淡灰褐色。調整は外面が口縁部をヨコナデした後、頸部にナナメハケで、内面は不明である。A-2区、溝上部出土。

[PL33-02] 0248は、高蔵式?の甕?の口縁部で、口縁部では短く、水平に近く外反する。色調は淡灰褐色。調整は外面の口縁部がヨコハケ、内面は不明である。A-2区、東ベルト出土。

[PL33-03] 0290は、高蔵式の甕の口縁から胴部である。口縁端部が若干肥厚している。色調は淡灰褐色。調整は外面は口縁端部に刻み目があり、口縁部はヨコナデで、頸部にタテ方向にハケを押してあるのが特徴的で、胴部はハケ。内面は口縁部はヨコナデ胴部はヨコハケ。A-2区、SD04埋土出土。

[PL33-04] 0236は、高蔵式の甕の口縁部から胴部で、口径は推定28.0cmである。色調は白灰褐色。外面口縁端部にナナメ方向の刻み目がある。調整は外面は口縁部胴部ともナナメハケ。内面は口縁部がヨコハケ、胴部はナナメハケ。胴部内面に巻き上げ痕を残す。A-2区出土。

[PL33-05] 0222他は、山中式の壺の頸部から胴部である。色調は淡灰褐色。頸基部下に10本1組の沈線が2段めぐり、その間に8本単位の波状文が施されている。調整は外面頸部から胴上部がタテハケの後で文様を施し、内面は頸部がヨコハケで、胴部に巻き上げ痕がみられる。A-2区、3層出土。

[PL33-06] 0243は、山中式?の壺の口縁から頸部で口径は推定14.8cmである。[PL33-01]と同様に口縁は内傾した端面を持つが、頸部からは曲線的に外反する。色調は淡橙色。調整は外面の口縁から頸部はタテハケで、口縁端部はその後ヨコナデ。内面は口縁端部ヨコナデ。A-2区、3層上部出土。

[PL33-07] 0268は、山中式の高坏の口縁から脚上部で、口径は18.8cmである。色調は淡灰褐色。坏上部に5本1組の波状文をめぐらす。脚上部には5本1組の沈線が2段ある。調整は外面が脚上部がタテハケの後施文し、坏下部はヨコナデ、坏上部はヨコハケの後施文している。内面はヨコナデ。A-2区、SD04最上部出土。

[PL33-08] 0243は蓋と考えられる。半径は推定9cmである。色調は黄灰褐色で外面は丹彩。つまみの部分は欠けている。外縁部付近は内面が削られて薄くなっている。調整は外面は不明で、内面はミガキか。A-2区南部、3上層出土。



[PL33-09] 0272は、山中式の器台の脚部で透孔を3個持ち、底径は推定16.4cmである。色調は黄灰褐色で外面は丹彩し、精巧な作りである。脚部外面に4本1組の沈線が3段めぐり。調整は外面は不明で、内面はヨコハケ。A-2区、溝上部出土。

[PL33-10] 0236は、山中式の高坏の脚部で、底径は20.0cmである。透孔は裾部に4個、脚上部に2個ある。色調は文様直下から裾端部まで丹彩、他は白灰褐色。脚部に6本1組の沈線を5段めぐらす。調整は外面裾部がタテハケで、内面はタテ方向に指圧痕がある。A-2区出土。

[PL33-11] 0235は、高蔵式?の甕の口縁部から胴上部。色調は暗灰褐色。調整は外面口縁部がヨコナデの後タテハケで、胴部はナナメハケ。内面は口縁部がヨコハケ、胴部は不明。A-2区、3下層出土。

[PL33-12] 0227は、山中式の高坏脚部と脚上部で、底径は推定17.1cmである。色調は白橙色で、外面は丹彩。脚上部には5本1組の沈線が2段巡り、下段の最上部と重なるようにして条間に左上がりの斜線文を施す。下段の下には「ハ」の字状の櫛描文が見られ、さらに一本の沈線が巡っている。調整は外面はタテハケで裾部はヨコハケ。内面は裾端近くが粗いヨコハケで、上は細かいヨコハケで、タテ方向に線が残る。A-2区、3層出土。

[PL34-01] 1444は、高蔵式の甕の底部で底径は5.7cmである。色調は淡黄橙色。調整は外面がタテハケ、内面はヨコナデで、底部から胴下部にかけて指圧痕がある。B-3区、7層出土。

[PL34-02] 1442は、山中式の高坏脚部で、底径7.2cmである。色調は黄灰褐色で、脚部外面を丹彩している。脚部端面に櫛描沈線が3本めぐり。調整は外面裾部がヨコナデで、内面は不明。B-3区、4層出土。

[PL34-03] 2644は、欠山式の器台の脚部である。色調は白灰褐色で、脚部外面を丹彩している。調整は外面は不明で内面はヨコナデである。透孔は16個と推定される。C-4区北部、3層出土。

[PL34-04] 2448は、山中式の高坏の脚部で、透孔は3個あり、底径は推定12.1cmである。色調は淡黄灰褐色。脚上部外面に数条の沈線をめぐらす。調整は外面がタテハケで、内面は脚部がヨコハケで、裾部がナナメハケ。裾部に面とりが施されている。C-3区、6層出土。

[PL34-05] 2455は、山中式の高坏の脚部で、透孔は3個。底径は10.1cmである。色調は灰褐色で脚部外面に丹彩。脚上部外面に数条の沈線を巡らす。調整は外面は不明で、内面はヨコナデ。C-3区、6層出土。

[PL34-06] 2443は、高蔵又は山中式の台付甕?の台部で、底径は8.6cmである。色調は黄橙色。調整は内外面ともヨコハケ。C-3区、4層出土。

[PL34-07] 2447は、山中又は欠山式の壺の胴部から底部で、底径4.7cm、残高12.8cmである。色調は白灰褐色で、外面は丹彩されている。胎土はやや砂質で、調整は内外面とも不明。C-3区、6層出土。

[PL34-08] 2453は、山中式の高坏の脚部で、透孔は3個。色調は黄灰褐色で、内外面ともに丹彩。脚部外面には多条の沈線がめぐり。外面の調整は不明で、内面脚部は指ナデ、裾部はヨコハケ。C-3区、6層出土。

[PL34-09] 2441は、山中式の高坏の脚部、透孔は3個ある。粗雑な作りで全体的に厚みがある。色調は淡橙色で外面に丹彩の痕跡がある。脚部外面に短斜線文と数本単位の沈線を各3段めぐらす。調整は外面は不明、内面はヨコハケ。C-3区、5層出土。

[PL34-10] 0408は、山中式の壺の口縁で、頸は細い。口径は推定16.6cmである。色調は橙色で、口縁端部に丹彩。口縁端面に4本の浅い沈線を巡らす。調整は外面口縁部がタテハケで、内面は不明。A-3区、3層出土。

[PL34-11] 0411は、山中式?の甕の口縁から胴部。色調は淡褐色。調整は外面がナナメハケ、内面は不明。A-3区、3層出土。

[PL34-12] 0417は、山中式の高坏の脚部で、粗雑な作りの透孔3個を持つ。色調は淡橙色で、裾部内面の外縁付近に環状にススが付着している。脚部外面に5本1組の沈線を5段めぐらし、その間に右上がりの短斜線文を施す。調整は外面裾部はタテハケ、内面は不明。A-3区、3層出土。

[PL34-13] 0411は、山中式?の台付甕?の台部で、底径は5.4cmである。色調は黄褐色。調整は外面はハケ、内面は不明。A-3区、3層出土。

[PL35-01] 5235は、山中式?の甕の口縁部から胴部で、口縁端部に明瞭に面取りしてあり、他に比して異質である。色調は暗橙色で、下部全体に黒みを帯びている。調整は外面口縁部がヨコナデで、胴部はミガキ。内面は口縁部がヨコナデで、胴部は不明である。D-1区、SD04埋土最下層出土。

[PL35-02] 5020は、山中式の高坏の坏部で、口径24.6cm、残高6.4cmである。口縁端部に若干面取りしてあり、その上に沈線が2本めぐる。色調は白灰褐色で、端面に丹彩し、坏部外面の立上りが黒くなっている。坏部外面に一段の波状文を施し、その下に沈線が3本めぐる。調整は口縁端部がヨコナデで、内面は不明。D-2区、SD04埋土上部出土。

[PL35-03] 5229は、高蔵式?の甕の口縁から胴上部で口唇部に刻み目を持つ。色調は外面は淡白橙色であるが、胴部内面は黒くなっている。調整は口縁部が内外面ともヨコハケ、外面胴部はタテハケ。内面は頸部に稜線を持つ。D-1区、SD04埋土最上層出土。

[PL35-04] 5233は、高蔵又は山中式の鉢の口縁から胴下部で、口縁端面が若干内傾する。口径は15.2cmである。色調は淡橙色で胴下部は黒くなっている。調整は外面口縁部が粗いタテハケの後ヨコナデで、胴部は粗いタテハケ。内面は口縁部がヨコナデで、胴部はヨコナデとナナメナデ。D-1区、SD04埋土上層出土。

[PL35-05] 5226は、山中式?の台付甕の台部で、底径は8.0cmである。色調は淡白橙色。調整は外面が全面ヨコハケで、内面はヨコハケで、1ヶ所だけタテハケ。これは調整後ハケ状工具を中心から取り出す際に付いたと考えられる。D-1区、SD04埋土最上部出土。

[PL35-06] 5223は、高蔵又は山中式の甕の口縁部から頸部である。色調は赤橙色。口縁端面に斜めの刻み目を持つ。調整は外面が口縁部・頸部ともヨコナデで、内面は口縁部がヨコナデで、胴部は不明。D-1区、SD04埋土最上部出土。

[PL35-07] 5234は、高蔵式?の甕の口縁部から胴部である。色調は暗橙色。調整は外面口縁

部がヨコナデで、胴部がナナメハケ。内面は口縁部から頸部がヨコハケで、胴部がハケ。D-1区、SD04埋土上部出土。

[PL35-08] 5020は、高蔵又は山中式の甕?の台部で、底径は6.9cmである。色調は黄橙色。調整は外面がタテハケ?、内面がヨコナデで、台上部に指圧痕がある。D-2区、SD04埋土上部出土。

[PL35-09] 5021は、山中式?の壺の頸部で、口縁と胴部は欠損。色調は灰褐色で内面の1部に黒い部分がある。文様は頸部下に8本1組の沈線がめぐり、その下に櫛描扇状文が一段巡っており、さらに下に4本1組の波状文が施されている。文様帯上部に1ヶ所だけであるが、竹管刺突文が3つ並んでいる。調整は外面の頸より上はヨコハケの後タテハケで、内面はヨコハケか。D-2区、SD04埋土上部出土。

[PL35-10] 5021は、山中式?の甕の口縁から胴部で、口径は14.4cmである。色調は黄橙色で、外面胴部は黒みを帯びる。口縁端面に斜め方向の刻み目がある。調整は外面口縁部・頸部がヨコナデで、胴部がタテハケ。内面は口縁部がヨコナデで、胴部はヨコハケか。D-2区、SD04埋土上部出土。

[PL35-11] 5029は、高蔵又は山中式の鉢の口縁から胴部で、口縁は端部に向かって薄くなる。色調は白灰褐色で赤味が少ないが、外面は若干黒みを帯びる。調整は外面口縁部がヨコナデで、胴部と内面は不明。D-2区、SD04埋土上部出土。

[PL35-12] 5022は、鉢または小型甕の口縁部から胴部で、口縁端部へ行くほど器壁が薄くなる。色調は淡灰褐色で内面は黒みを帯びる。調整は外面口縁部がヨコナデで、胴部および内面は不明。D-2区、SD04埋土上部出土。

[PL35-13] 5014は、蓋の一部で、端部近くに孔2個があり、精巧な作りである。半径は推定は6.0cmである。色調は淡灰褐色。調整は外面はミガキかと思われ、内面は不明。D-2区、SD04埋土上部出土。

[PL36-01] 3075は、高蔵又は山中式の甕の口縁部である。口径は推定17.5cmである。色調は淡白橙色。外面の口縁部はヨコナデ、胴部はタテハケである。内面は口縁部がヨコナデの後ヨコハケで、頸部はヨコナデ後ハケ、胴部はヨコハケである。D-3区、5層出土。

[PL36-02] 3109は、山中式の高坏の脚部で、7、8本1組の沈線が3段めぐり、その間に斜線文を施す。色調は白灰褐色を呈し、調整は不明である。透孔は3個である。脚部と坏部の接合部が明瞭でそこで割れている。D-3区、6層出土。

[PL36-03] 3077は、山中又は欠山式の壺の、胴部から底部である。長頸壺であろう。胴部最大径15.8cm、底径5.8cm、残高7.2cmで、色調は黄色味の強い橙色で、外面胴部に円形に褐色化している部分がある。調整は外面は不明だが、内面はヨコナデで最大胴径付近に指圧痕がある。D-3区北西部、5層出土。

[PL36-05] 3063は、高蔵式?の高坏又は台付碗の口縁部で、外面に浅く広い沈線が3条めぐり。色調は淡橙色。D-3区北東部出土。

[PL36-06] 3062は、高蔵又は山中式の鉢?の口縁から胴部で、色調は淡橙色である。調整は外面は口縁端部はヨコナデで、内面は不明。D-3区北東部出土。

[PL36-07] 3059は、山中式の高坏の、脚から坏部の一部であるが、脚の裾部は欠けている。底径は推定11.0cmで、透孔は3つあり、脚部は裾にいくほど器壁が薄い。色調は白橙色であり、脚部内面は丹彩の可能性はある。調整は不明である。D-3区、SD04埋土出土。

[PL36-08] 0264は山中式の壺の胴部から底部でやや脹らんだ平底をもつ。底径は8.3cm。色調は淡橙色。文様は肩部に数条の波状文、そしてその下に斜め方向に刺突文がめぐらされている。調整は外面は胴下部がナナメハケで、内面もやや幅のせまいナナメハケで巻き上げ痕が残る。胴下部の孔は穿孔と考えられる。A-2区埋土最上部出土。レベルは10.013m。

(岩田・高橋かおり)

## 第4章 古墳時代の住居址 [SH01]

### 第1節 遺構の概要

SH01は調査範囲の南東隅にあたるE-4区南東部からE-5区の北部を除くほぼ全域及びF-4区北東隅とF-5区北側に広がる竪穴住居址と考えられる遺構である [PL112]。調査の第1期の5～6月に、主として藤村が担当して発掘した。

竪穴の各辺は東西南北からほぼ45度ずれた方向を指すと考えられる。一辺の長さは4.5m程であり、床面積およそ20平方メートルの隅丸方形の竪穴住居址と推定されるが、E-5区、F-5区の東壁より東は未発掘のため東の限界は未確認である。

住居址の北側と南側では、約20cmの高さの壁を確認した。西辺の北部まではSD01、SD03等によってSH01の構築時にはすでに地山が削平されていたらしく、壁の立ち上がりを明らかにすることはできなかった。しかし、床面の広がりや遺物の出土状況などから西側の限界はほぼ間違いなく把握することができた。

周溝は南側と西側の壁際の一部でのみ約20cmの幅、約10cmの深さで検出されたが整然とした形状をなさず、北側では確認できなかった。

覆土は黒味の強い黒褐色土で炭化物を多量に含み、床より僅かに上で復元完形あるいはそれに近い状態の土器が出土している。

竪穴の掘込の底は黄褐色の地山であるが、その上に黄褐色土と暗褐色土が混在する層が存在し、これが竪穴住居の居住時の床面と考えられる。同様の層はSD01やSD03の上にも形成されており、貼床したものであろう。SD03内ではややレベルが低くなっているが、これは溝内の堆積が縮まったため本来のレベルではないであろう。床面はほぼ平坦で、南即ちSD03に向かって緩やかに下降している。これ等の層の厚さは平均7.0cmほどである。

E-5西部中央とその北側で焼土が検出されている [PL57]。北側の焼土は地山上に確認され、若干丸く掘り込んだ状態で検出され、炉であろうと考えられる。床面は中央部焼土付近と北側焼土付近は特に堅固である。中央焼土はSD01上東壁に向かって細長くひろがり、焼土直上からは4045 (高坏、中型甕を含む) が出土した。

住居址の南西隅に2個、中央付近と西壁付近に1個ずつ柱穴と思われる直径20cmほどのピットがあり、中央部E-5区東壁ぎわのピットと、南西隅の深さ約60cmのピットからはいずれも土師器片が出土した。

### 第2節 遺物出土状況

E-5区のSD03の北側の一帯に、かなり多数の土器が集中して発見された [PL57, 77, 78上]。その状況は住居址を北西から南東に向かって斜方向に横切る状態、即ち住居址の一辺にほぼ平行するように群を成していた。ここからの出土遺物は、

壺が1個、4080 [PL37-08; 99-03]

甕は3個、4078 [PL38-07; 100-12], 4043 [PL37-01; 99-05], 4045 [PL37-02; 99-04]

高坏が5個、4082 [PL39-15], 4075 [PL39-18], 4045 [PL39-17], 4048 [PL39-20]

4044 [PL39-19] (坏部)

小型台付甕 1個4067 [PL38-06; 100-13]

及び高坏脚部10, 甕または壺の台11などがある。出土状況から判断する限り, これらを1つのセットとみなして良いであろう。

この土器群からは西にやや離れて, 鉢3848 [PL38-01; 99-01] が発見されており, これは上記の土器群に含まれる可能性もある。

F-5区の東南部からは甕が2個, 4648 [PL37-04; 99-02], 4610 [PL37-03; 99-06], 埴1個4609 [PL38-04; 100-08], 頸部に突帯の付いた大型の壺の上部4612 [PL38-09] 等が発見された。このグループは上記の土器群との間に遺物の少ない部分があり, それ等と一括しうるか否かは断定し難い。

更にF-4区のSD03上部からは高坏坏部4404 [PL39-16] が出土している。これも, いずれのグループにも入れ難い。

なお, E-4区の床面直上から石剣破片 [PL49-11; 111-05] が発見されている。

これ等の土器はいずれも床面からやや浮いて発見されており, この住居址居住時の遺物の可能性は強いが, 断定することは出来ない。竖穴廃棄後に何らかの目的で, ここに入れられた可能性も存在する。したがって, 前述の幾つかの土器群をすべて含めて1つのセットと断定することは困難である。しかしながら, 床面とのレベルの差は僅かなものであり, 時間差は少ないと考えられる。

(藤村)

### 第3節 出土土器について

#### I <壺>

壺は [PL37-08; 99-03], [PL38-09; 100-11] が出土している。[PL37-08] は二重口縁で胴部は球形をなすと考えられる。胴部内面には条痕が施され, 口縁接合付近に輪積み痕が残っている。[PL38-09; 100-11] は大型の壺である。口縁部は「く」の字状に緩やかに外反し, 頸部に紐状突帯が張り付けてある。

壺4080 (口縁から胴部) [PL37-08; 99-03] 4082

<遺存> 胴部と底部は欠損。二重口縁で胴部は球形。<法量> 口径11.3cm。<胎土> は密。<焼成> は良い。<色調> は淡褐色で黒斑がある。<調整> は外面胴部上半がヨコ方向のヘラ削り後のナデで, 下半はヨコ方向へのヘラ削後ハケ。内面は胴部に条痕があり, 口縁部は内外ともにヨコ方向のナデである。<成形> は輪積みで, 口縁部は接合。胴上部に2本の輪積みの痕と胴内部の指の痕がある。

大型壺 (口縁から胴部) 4646 [PL38-09; 100-11] 4612

<遺存> 胴部下部和底部は欠損。口縁部は「く」の字状に緩やかに外反して立ち上がり, 端部は平らに調整され, 内部の胴部との境には明瞭な稜があり, 外部には紐状突帯が付く。<法量> 口径19.4cm。<胎土> は粗く粒砂を含む。<焼成> はやや不良。<色調> は淡褐色。<調整> は外面がヘラ削り後の不定方向のナデで, 口縁部にタテ方向の条痕。頸部突帯の周辺はヨコ方向のナデ。内面の口縁部はヨコ方向のナデで, 胴上部は棒状工具で抑えたような窪みが随所にみられる。

## II <甕>

甕は完形品や、口縁部多数が出土している。

(a) 口縁部が斜めに緩やかに開くものは [PL37-01, 03, 02, 04, PL40-08~13, 15~17, 19~22] である。[PL40-08, 09, 11] は同一個体と思われる。胴部まで遺存しているのは [PL37-01, 02, 03, 04] で、[PL37-01, 02] は縦長の楕円形を呈する胴部であり、[PL37-03, 04] は偏球形を呈する胴部である。

甕4043 [PL37-01; 99-05] 3852, 4007, 12, 20, 28, 41, 42, 44, 47, 49, 50, 65, 66  
<遺存> 口縁部のまを欠く。外反するやや厚みのある丸い口縁を持ち、頸部がやや厚みを増す。胴部と口縁部の境に明瞭な稜を持つ。胴部は偏球形で左上方向へのハケ目をはっきりと残し、底部は丸底に近い。胴部最大径付近に接合痕がある。<法量> 器高23.4cm, 口径12.2cm, 底径5.5cm。<胎土> は密で粗砂を多量に含む。<焼成> はやや不良。<色調> は灰褐色で黒斑がある。<調整> は外面胴部に右下方向へのハケ目がみられる。<成形> は型おこし法。

甕4045 [PL37-02; 99-04] 4015, 24, 41, 47, 53, 54, 94  
<遺存> 底部を欠く。口縁部は胴部から「く」の字状に外反し、端部は丸く作ってある。胴部は偏球形を呈し、厚みが底部に向かって厚くなる。<法量> 口径14.2cm, 胴部最大径17.8cm。<胎土> は密。<焼成> は良い。<色調> は外面が黒褐色で内面は赤褐色。<調整> は外面は口縁部がハケ目で、胴部は不定方向のハケ目。内面は中央部のみ不定方向のナデであとは条痕で、口縁部はヨコ方向のナデである。<成形> 胴部上方で接合。口縁部接合。口縁部と胴部と接合した部分の内面には指で押した痕がある。

甕4610 [PL37-03; 99-06] 4612, 14  
<遺存> 約号が残存。「く」の字状に外反する口縁部を持ち、口唇部は丸い。口縁部と胴部の間に明瞭な稜を持つ。<法量> 口径14.0cm, 残高16.0cm。<胎土> はやや粗い。<焼成> は良好。<色調> は外面が暗褐色で、内面は茶褐色。<調整> は外面の胴上半部がタテハケで、胴下半部はへら削り。内面はヨコ方向のナデで、口縁部は内外ともヨコ方向のナデ。<成形> は輪積みで胴上半部と下半部は接合。口縁部と胴部も接合。胴上部のハケ目は明瞭である。胴下半部には輪積みの痕が明瞭で、胴上半部内面にも明瞭な輪積みの痕がある。[図面反転復元]

甕4648 [PL37-04; 99-02] 4606, 07, 10, 11, 12, 13, 47  
<遺存> ほぼ完形だが口唇部を欠く。胴部は偏球形。<法量> 底径3.6cm, 胴部最大径17.6cm。<胎土> は密で粒砂を少量含む。<焼成> は良好。<色調> は淡褐色。<調整> は口縁部が内外ともにヨコ方向のナデで、胴部外面は底部までヨコ方向のへら削りの後で右下方向へのハケ目。<成形> は底部と胴部、胴部の上半と下半、胴部と口縁部はいずれも接合している。輪積みの痕が7本見え、胴部中頃に指の痕がある。

(b) 口縁部が比較的長く外反するものは [PL38-07, 40-14, 18] である。[PL38-07] は小型で胴上部内面に輪積み痕を残す。器表面及び口縁内面はナデで、丁寧に仕上げている。[PL40-14, 18] は口縁部のみ遺存しているので詳細はわからないが、[PL40-14] は [PL38-07] よりも大きなものであろう。[PL40-18] は頸基部径が小さく、黒褐色を呈す。

甕4078 [ PL38-07 ; 100-12 ] 4076, 79, 81, 82

〈遺存〉 胴下半半は欠損。胴部は偏平な球形で口縁は長く、胴部との接合部分の稜線はあいまいである。〈法量〉 残高10.6cm, 口径10.5cm。〈胎土〉 は密で粗砂・粒砂を多量に含む。〈焼成〉 はやや不良。〈色調〉 は淡褐色で黒斑がある。〈調整〉 は外面にヨコ方向のヘラ削り後のナデ, 内面にヨコ方向のナデが見られ、口縁部は内外ともヨコナデである。〈成形〉 は胴部と頸部は接合。輪積み。胴上部内面に二本輪積みの痕があり、輪積みの下に指の痕がある。

(c) S字状口縁は2点出土している。[ PL37-05, 07 ] は淡褐色を呈す。[ PL37-07 ] は胴部に右から下へのハケが施されている。口縁部がわずかに肥厚し、口唇部で平坦面をつくる。

甕? (口縁部) 4019 [ PL37-05 ]

甕? (口縁部) 4075 [ PL37-07 ] 4076, 08

〈遺存〉 口縁部と胴上部の約きが残存。〈形態〉 口縁は外反し二重口縁で、口唇部は平坦である。〈法量〉 口径12.4cm, 残高5.2cm。〈胎土〉 は密で、0.5~1mm程の砂粒を若干含む。〈焼成〉 は良好。〈色調〉 は暗茶灰色で、内面の一部は黒灰色。〈調整成形〉 口縁部は内外面ともヨコナデで、胴部外面に幅2mmのハケ目が見られ、内面に指による押圧痕がかすかに残る。

(d) 小型台付き甕 [ PL38-06 ] は1点のみ出土している。口縁部は手びねりと考えられる。胴部内面と口縁外面に指頭圧痕が明瞭である。

小型台付き甕4067 [ PL38-06 ; 100-13 ]

〈遺存〉 ほぼ完形。口縁部は短くやや外反し、端部は丸くつくってある。台部は直線的に開き、端部でやや内湾する。〈法量〉 口径6.9cm, 底径5.9cm, 残高11.8cm。〈胎土〉 は密で砂粒を含む。〈焼成〉 は良い。〈色調〉 は暗褐色で黒斑がある。〈調整〉 は外面頸部が指で押し、不定方向のナデ。口縁部は不定方向のナデ。台部は内外ともヨコナデ。内面は底部付近に指頭圧痕があり、口縁部は指で押してある。〈成形〉 は輪積みで脚部は接合。

### III 埴

埴は、[ PL38-03, 04, 05, 08 ] の4点が出土している。

[ PL38-03, 05 ] は胴部は偏球形を呈す。[ PL38-03, 100-10 ] は口縁部は外反する(布留式平行か?)。ほぼ完形である。胴部は偏球形を呈し、口縁は逆「ハ」の字形で端部は丸い。[ PL38-08 ; 100-09 ] は、肩をもち、口縁部は外反する。

埴4083 [ PL38-03 ; 100-10 ]

〈遺存〉 口唇部欠損。胴部は偏球形で最大径は胴部中央よりやや上にある。〈法量〉 残高7.3cm。〈胎土〉 は密で粒砂を含む。〈焼成〉 は良い。〈色調〉 は褐色で胴半が黒褐色(黒斑)。〈調整〉 は外面底部に不定方向のナデ、頸部にヨコナデが見られる。内面は頸部がヨコナデ。〈成形〉 は頸部は接合で、頸部内面に指で押さえた痕がある。

埴4609 [ PL38-04 ; 100-08 ]

〈遺存〉 ほぼ完形。口縁部は逆「ハ」の字形で、端部は丸くつくってある。胴部は偏球形で胴部最大径はほぼ中央にある。〈法量〉 口径8.9cm, 器高7.2cm。〈胎土〉 はやや粗く、粗砂・粒砂を多量含む。〈焼成〉 は良い。〈色調〉 は淡褐色。〈調整〉 は外面がヨコナデで、頸部はヘラ削り後ヨコ方向



のナデ。内面はヨコ方向のナデ。頸部内面に指で押さえた痕がある。他の遺物に比べやや時期が早いかな？。

埴（胴部）4025 [PL38-05 ; 100-07]

〈遺存〉 胴部のみ残存。胴部はやや偏平な球形である。〈法量〉 胴部最大径9.6cm。〈胎土〉 は密で、0.1-2mmの砂礫を多く含む。〈焼成〉 は良好。〈色調〉 外面上半は赤褐色で、下半は淡黄茶褐色。内面上半は赤味があった黄灰色で、下半は灰白色。〈調整〉 外面はナデ？。内面の胴下部は指頭押圧による調整後に板状工具によるナデ。頸部との境は折り返し。

埴（口縁から胴部）4645 [PL38-08 ; 100-09]

〈遺存〉 口縁部と胴部上部のみ残存。口頸部は「く」の字状に外反し、胴部は肩が張る。〈法量〉 口径（推定）8.2cm、残高6.6cm。〈胎土〉 は密で、0.1-3mmの砂粒をまばらに含む。〈焼成〉 は良好。〈色調〉 淡黄茶灰色で、胴部内面の一部が黒色。〈調整〉 外面は口縁から胴上部がヨコナデで、胴下半は研磨か？。内面は口縁から胴部との境までヨコナデで、その下に指頭押痕が見られる。

#### IV 〈高 坏〉

坏部、脚部ともに遺存しているものは、[PL39-15, 17, 18, 20] の4点のみである。

坏部のみ遺存しているのは [PL39-16, 19] の2点で、その他は脚部のみ遺存している。

坏部のみ残存するものは、緩く内湾して大きく開いた椀状の坏部である [PL39-16, 19]。[PL39-16] は口縁内面に丹彩していたと考えられる。又、輪積み痕を残す。

高坏4404 [PL39-16]

〈遺存〉 脚部欠損。〈形態〉 坏部下部はややふくらみ、口縁部に向かって直線的に開く。輪積みの痕がある。〈法量〉 口径13.4cm。〈胎土〉 は密で粗砂・粒砂を少量含む。〈焼成〉 は良い。〈色調〉 は褐色で、口縁部のみは暗褐色。〈調整〉 は外面がヨコ方向のヘラ削りで、下半のみタテ方向のヘラ削り後のヨコナデ。内面はヨコナデ。〈成形〉 は輪積み。

高坏4044 [PL39-19] 4095, 53, 54

〈遺存〉 一部欠損の坏部のみ。〈形態〉 底部は平底。緩やかな外脹らみの胴部から口縁部が大きく開いて直立し、端部は丸くなる。〈法量〉 口径15.5cm。〈胎土〉 は粗く、粗砂・粒砂を含む。〈焼成〉 はやや不良。〈色調〉 は外面が灰白色で、内面は淡灰褐色。

高坏の脚部は4種類に分かれる。

(a) 外膨みの柱状部がわずかにくびれてから屈折して裾部にいたる脚部。[PL39-07, 13, 14] は柱状部内面にしぼり目が明瞭に残る。

高坏（脚）3861 [PL39-07]

〈遺存〉 柱状部のみ残存。〈形態〉 外脹らみの柱状部は一旦くびれて、大きく屈折して裾部が広がるようである。〈胎土〉 は良く、粒砂を少量含む。〈焼成〉 は良。〈色調〉 は淡褐色で、残存部のみは黒斑がある。〈調整成形〉 外面（柱状部）はタテ方向のヘラ削りの後でヨコ方向のナデで、柱状部内面はシボリ痕の上からヨコナデしている。坏部との接合は挿入付加法である。

高坏（脚）4079 [ PL39-13]

〈遺存〉脚部のみで裾部は一部残存。〈形態〉外脹らみの柱状部は、一旦くびれてから大きく屈折し、なだらかな裾部が広がる。〈胎土〉は良く、粗砂を少量含む。〈焼成〉は良。〈色調〉は明褐色。〈調整成形〉柱状部外面はヨコ方向のヘラ削りの後のヨコナデ、柱状部内面はヨコナデである。

高坏（脚）4079 [ PL39-14]

〈遺存〉脚部のみで、裾部は約五分のみ残存。〈胎土〉は密。粗砂・粒砂を多く含む。〈焼成〉は良。〈色調〉は淡褐色で一部は灰褐色。〈調整成形〉坏部の下方はタテ方向のヘラ削り。柱状部・裾部外面はヨコナデ、裾部内面もヨコナデ。柱状部内面にシボリ痕がある。

(b) ほぼ真直な柱状部から大きく屈折して裾部に至り、屈折部内面に稜をもつ脚部は [ PL39-10, 11, 12, 15, 17, 20 ] である。[ PL39-10 ] は欠損しているためわからないが、[ PL39-11, 12, 15, 17, 20 ] は裾部が端部に向かって薄くなっている。[ PL39-10, 20 ] は柱状部に明瞭なしぼり目を残す。[ PL39-15, 17, 20 ] は坏部も残存している。坏部は下方に稜をもち、稜より上は大きく逆「ハ」の字状に開く。特に [ PL39-20 ] は稜が明瞭である。

高坏（脚）3866 [ PL39-10]

〈遺存〉柱状部のみ残存。〈形態〉ほぼ真っ直ぐな柱状部から、大きく屈折して裾部が広がると考えられる。〈胎土〉は密で、粗砂を少量含む。〈焼成〉は良。〈色調〉は淡褐色。〈調整成形〉裾部内面はヨコナデで、柱状部内面はシボリ痕が2段になっており、下方きにナデの痕がある。坏部との接続は挿入付加法である。

高坏（脚）3854 [ PL39-11]

〈遺存〉脚部のみで、裾部は一部欠損。〈形態〉ほぼ真っ直ぐな柱状部から緩やかに屈折し、なだらかな裾部が広がる。〈胎土〉はやや粗く、粗砂を多量に含む。〈焼成〉は良。〈色調〉は淡褐色。〈調整成形〉柱状部外面はタテ方向のヘラ削り、柱状部内面はヨコナデで、柱状部と裾部の境の部分は指で押さえた後でナデている。

高坏（脚）4078 [ PL39-12]

〈遺存〉脚部のみで、裾部は約五分のみ残存。〈形態〉ほぼ真っ直ぐの柱状部から、大きく屈折して裾部が広がる。〈胎土〉はやや粗で、粒砂を多く含む。〈焼成〉は良。〈色調〉は明褐色で黒斑がある。〈調整成形〉柱状部内面のシボリ痕の下部に2ヶ所、指の痕がある。

高坏4082 [ PL39-15] 4084

〈遺存〉坏部のみ。〈形態〉坏部は下方に不明瞭な稜をもち、稜より上は大きく逆「ハ」の字状に開き、端部はややとがり気味だが丸い。脚部はほぼ真っ直ぐな柱状部から大きく屈折して広がり、やや内湾している。脚部接合。〈法量〉口径16.5cm、底径10.4cm、器高11.7cm。〈胎土〉は密。〈焼成〉は良い。〈色調〉は淡褐色。

高坏4054 [ PL39-17] 4045

〈遺存〉完形。〈形態〉坏部は下方に稜をもち、稜より上は「ハ」の字状に大きく開く。端部は丸く作ってある。脚部はほぼ真っ直ぐな柱状部に大きく屈折して広がる裾部がつく。脚部は接合。〈法量〉口径16.0cm、底径9.8cm、器高12.0cm。〈胎土〉は密。〈焼成〉は良い。〈色調〉は淡褐色で黒斑がある。〈調整〉は坏部が内外ともにヨコナデで、脚部は稜より上はタテ方向のヘラ削りで、裾部は内外ともヨコナデ。

#### 高坏4048 [ PL 39-20 ]

〈遺存〉 完形。〈形態〉 坏部は下方に稜をもち、稜より上は逆「ハ」の字状に大きく開く。端部は丸く作ってある。脚部はほぼ真直な柱状部に、大きく屈折して広がる裾部がつく。〈法量〉 口径16.6cm, 底径10.8cm, 器高14.0cm。〈胎土〉 はやや不良で粗い。砂・粒砂を含む。〈焼成〉 は良い。〈色調〉 は淡茶褐色で、坏部に黒斑がある。〈調整〉 は外面坏部がへら削り後のヨコナデで、脚部は稜より上がタテ方向のへら削りの後ヨコナデ、稜より下はヨコナデ。内面頸部はヨコナデで、脚は裾部に指で抑えた痕がある。

(c) ほぼ真直な柱状部からやや緩やかに屈折して裾部に至る脚部 [ PL 39-09, 18, 40-01, 02 ]。 [ PL 39-18 ] は坏部も遺存しているが、形態は [ PL 39-15, 17 ] と同様である。

#### 高坏4075 [ PL 39-18 ]

〈遺存〉 坏部と脚部。〈形態〉 坏部は下方に稜をもち、稜より上は逆「ハ」の字状に大きく開き、端部は丸く作ってある。脚部はほぼ真っ直ぐ柱状部から、緩やかに屈折して広がる裾部がつく。脚部は接合。〈法量〉 口径15.0cm, 底径11.3cm, 器高12.3cm。〈胎土〉 は粗い。〈焼成〉 は不良。〈色調〉 は褐色。〈調整〉 は坏部内面がヨコナデ、脚部はタテ方向のへら削りである。

(d) 逆「ハ」の字状に大きく開く短い脚部。 [ PL 39-08 ], 1点のみ出土している。

#### 高坏(脚) 4066 [ PL 39-08 ]

〈遺存〉 脚部の約半のみ残存。〈形態〉 短くほぼ真っ直ぐの柱状部から、緩やかに裾部が広がる。〈胎土〉 はやや粗く、粗砂を少量、粒砂を多量に含む。〈焼成〉 は良い。〈色調〉 は外面は赤褐色で、内面は淡褐色である。〈調整成形〉 柱状部外面はタテ方向のへら削りが見られる。

## V 〈鉢〉

鉢は復元可能なものは1点のみであった。前述の土器群の西から一括して出土している。緩やかに外へ膨らむ胴部、やや突出した底部をもち、口縁部はやや外反する。

#### 鉢3848 [ PL 38-01 ; 99-01 ] 4047

〈遺存〉 胴上部と欠損。〈形態〉 底部は平底で、緩やかな外膨みのある胴部から口縁部が大きく開いて直立し、口唇部は丸くなる。〈法量〉 器高17.2cm, 口径26.7cm。〈胎土〉 は密で粗砂・粒砂を多量に含む。〈焼成〉 は良い。〈色調〉 外面は赤味がかかった茶褐色で、黒斑が有り、内面は淡茶褐色。〈調整〉 は外面がタテ方向のへら削りで、口縁部はその後ヨコナデし、底部はナデである。内面口縁部はヨコナデで、胴上半部に左下方向へのナデ、胴中央部にタテ方向のナデ、胴下半部から底部まで不定方向のナデが見られる。

## 第4節 年代など

土器の年代に関しては、埴4609 [ PL 38-04 ; 100-08 ] がやや古い様相を示すものの、概して類似した特徴を示している。土器の内面には、輪積の痕を残すものの、多少の調整を施しており、高坏の形態等と併せて考えるとその所属年代は古墳時代中期後葉かと推定される。従ってSH01は古墳時代中期後葉のものか、或いはその頃には廃棄されていたものと推定される。

発掘区に対してSH01と同じく、斜方向の辺を持つ住居址であるSH04, SH09は近接した時代のものかと思われるが、二者とも年代を確定すべき具体的証拠を欠いている。なお、春日荘跡地区の住居址とはほぼ同時期であろうと思われる。

(藤村 大江)

<付> 土師器 図版リスト

4043 [ PL 37-01 ; 99-05 ]	甕	4054 [ PL 39-17 ; 100-06 ]	高坏
4045 [ PL 37-02 ; 99-04 ]	甕	4075 [ PL 39-18 ; 100-03 ]	高坏
4610 [ PL 37-03 ; 99-06 ]	甕	4044 [ PL 39-19 ; 100-05 ]	高坏 (坏部)
4648 [ PL 37-04 ; 99-02 ]	甕	4048 [ PL 39-20 ; 100-04 ]	高坏
4019 [ PL 37-05 ]	甕? (口縁)	4606 [ PL 40-01 ]	高坏 (脚)
3851 [ PL 37-06 ]	甕? (口縁)	4085 [ PL 40-02 ]	高坏 (脚)
4075 [ PL 37-07 ]	甕? (口縁)	3857 [ PL 40-03 ]	甕 (台部)
4080 [ PL 37-08 ; 99-03 ]	壺	4608 [ PL 40-04 ]	甕 (台部)
3848 [ PL 38-01 ; 99-01 ]	鉢	3857 [ PL 40-05 ]	甕 (台部)
4012 [ PL 38-02 ]	壺? (口縁)	4049 [ PL 40-06 ]	甕 (台部)
4083 [ PL 38-03 ; 100-10 ]	埴	3853 [ PL 40-07 ]	甕 (台部)
4609 [ PL 38-04 ; 100-08 ]	埴	4035 [ PL 40-08 ]	口縁部
4025 [ PL 38-05 ; 100-07 ]	埴 (胴部)	4082 [ PL 40-09 ]	口縁部
4067 [ PL 38-06 ; 100-13 ]	台付小甕	4648 [ PL 40-10 ]	口縁部
4078 [ PL 38-07 ; 100-12 ]	甕 (口縁から胴部)	4078 [ PL 40-11 ]	口縁部
4645 [ PL 38-08 ; 100-09 ]	埴 (口縁から胴部)	4030 [ PL 40-12 ]	口縁部
4646 [ PL 38-09 ; 100-11 ]	壺 (口縁から胴部)	4074 [ PL 40-13 ]	口縁部
4608 [ PL 39-01 ]	高坏 (脚)	4079 [ PL 40-14 ]	口縁部
4078 [ PL 39-02 ]	甕 (台部)	4020 [ PL 40-15 ]	口縁部
4047 [ PL 39-03 ]	甕 (台部)	3819 [ PL 40-16 ]	口縁部
4004 [ PL 39-04 ]	甕 (小型甕台部?)	4082 [ PL 40-17 ]	口縁部
4074 [ PL 39-05 ]	甕 (台部)	4066 [ PL 40-18 ]	口縁部
4031 [ PL 39-06 ]	甕 (台部)	4081 [ PL 40-19 ]	口縁部
3861 [ PL 39-07 ]	高坏 (脚)	4612 [ PL 40-20 ]	口縁部
4066 [ PL 39-08 ]	高坏 (脚)	4044 [ PL 40-21 ]	口縁部
4045 [ PL 39-09 ]	高坏 (脚)	4040 [ PL 40-22 ]	口縁部
3866 [ PL 39-10 ]	高坏 (脚)		
3854 [ PL 39-11 ]	高坏 (脚)		
4078 [ PL 39-12 ]	高坏 (脚)		
4079 [ PL 39-13 ]	高坏 (脚)		
4079 [ PL 39-14 ]	高坏 (脚)		
4082 [ PL 39-15 ; 100-01 ]	高坏		
4404 [ PL 39-16 ; 100-02 ]	高坏 (坏部)		

## 第5章 その他の遺構

以下にSD03, SD04, SH01を除いた、その他の遺構について記述する。これらは時代を決定すべき適切な遺物を出土していないものが大半である。出土した遺物に関しては本章では出土の状況等のみを記載している。弥生土器及び土師器に関しては遺構の時代決定に有効な遺物は殆どないので、SD105の弥生前期土器片 [ PL48-17, 18 ] とSD101とSD02からの土師の破片若干を図示 [ PL49-13~16 ] するにとどめた。須恵器、瓷器、山茶碗等については次章を参照されたい。なお、遺構確認以前に発見された遺物も該当遺構に所属する可能性がある場合は出土遺物のリストには加えてある。

### 第1節 弥生時代の可能性をもつ遺構 [Fig.3]

〈SD01〉はE-4区のほぼ中央部を西端として、E-5区の南東部へ東南東を長軸として斜めに走る。東端はE-5区の東壁以东未発掘のため不明である。溝の最大幅は80cmほどで、平均すると約70cmである。溝の西端は約30cmと一番深く、東へ行くに連れて次第に浅くなり約10cmになる。

遺物は3876 3877 3880 3888 3889 3915 3918 3919 4059 4060 4087が出土している。

溝の上面から石鏃3886 [ PL49-07 ] が出土している以外は、埋土からは弥生土器片が出土している。これらの弥生土器片はいずれも小片であるが、遠賀川系土器の壺の頸部や、丹彩土器片等と共に条痕系土器片が出土している。

これらの遺物からはSD01の構築時期は明らかにし得ないが、土師器、須恵器が出土していないことや、E-5区西壁断面の層序からも、SH01より古い遺構であり弥生時代の遺構の可能性が強いと判断した。

〈SD05〉は、E-3区南東隅を北端としてほぼ南西方向に向かって走る溝である。E-3区、E-4区南壁以南が未発掘のため、南側は不明である。北はSD03との接点付近でやや壁が立ち上がり、この辺が北端かと考えられた。幅は約1.0mから1.1mで、深さは約20cmである。

遺物は3883 3644が出土している。これらは弥生土器片10数片で、弥生時代前期のものと思われる遠賀川系土器の壺の口縁部や肩部、条痕系土器片である。土師器や須恵器が出土していないことから、SD05は弥生時代の遺構である可能性が高いと考えられる。E-4区西壁断面の層序から見ても、SD03よりは新しい遺構である。

〈SD07〉はG-3区南側に広がる溝状遺構で、南南東から北北西の方向へ走る。Fライン以南が未発掘のため確実ではないが、おそらくSD105の続きであると思われる。溝の幅は、G-3区西壁および南壁以降未発掘のため不明である。深さは約60cm以上である。遺物は4809 4810が出土している。弥生土器片が20片近く出土し、遠賀川系の壺の口縁部、頸部、胴部の破片などがあるが、いずれも小片で遺構の時期を推定することは難しい。SD105の続きであれば、弥生前期の可能性が強い。

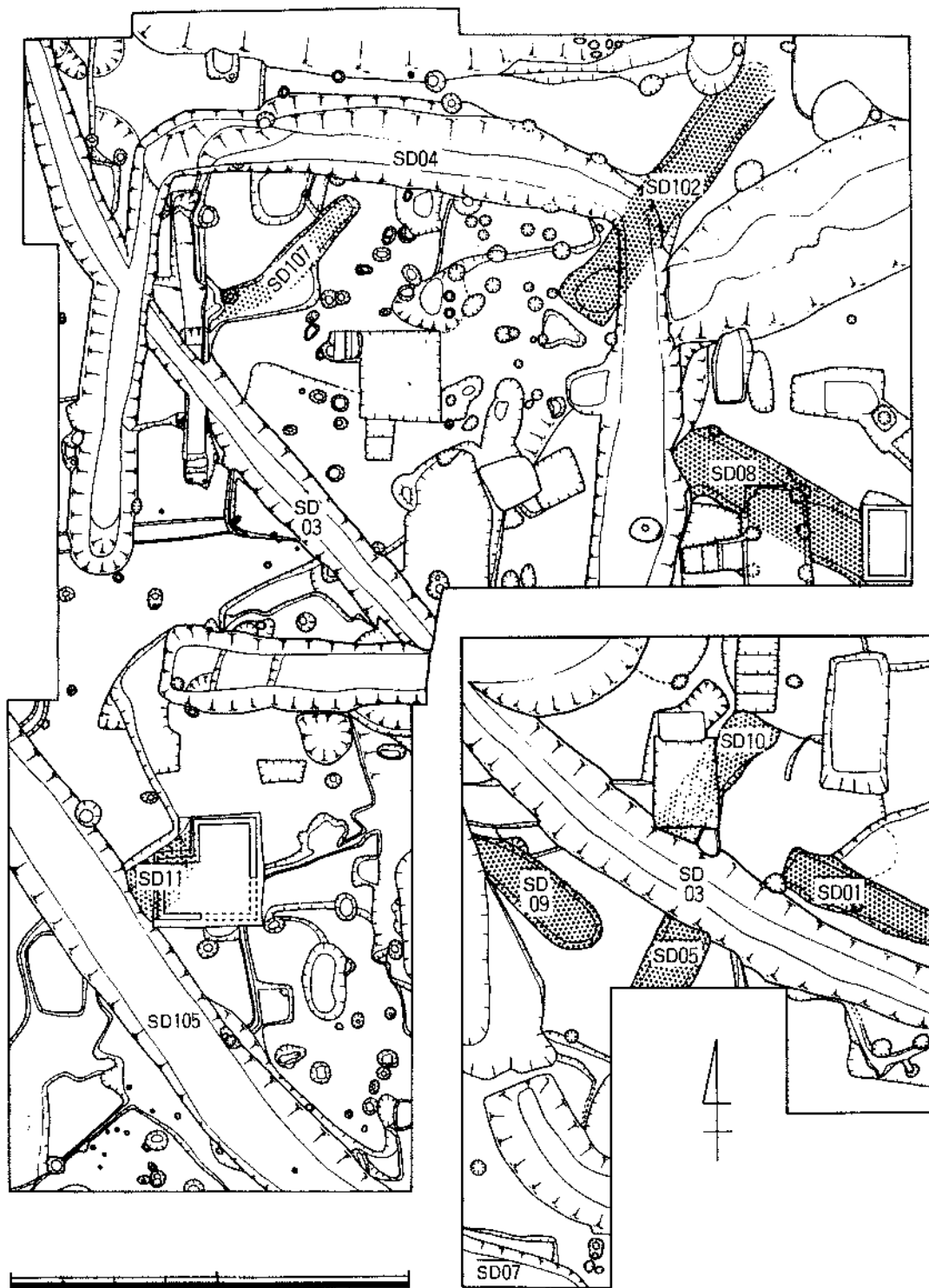


Fig 3 弥生時代の溝(SD03、04を除く)

〈SD08〉はC-4区北西部を西端とし、ほぼ北西～南東を長軸としてC-4区南東隅に向かい斜めに走る細長い溝である。東部はC-5区の下水溜めと思われる遺構によって切られているため、以東は不明である。幅は約1.2mから1.3mで、深さは西端で約30cm、東端で約50cmである。

遺物は2612 2632 2633が出土している。これらは弥生土器片、土師器片である。弥生土器には、甕の口縁と思われる破片2633や、弥生時代後期の高坏脚部と思われる破片、土師器には、高坏脚部2633などがそれぞれ含まれるが、いずれも小片なので、その時期を推定することは困難である。他の遺構との新旧関係は判断できなかった。

〈SD09〉はE-3区中央やや東南寄りを東端とし、F-3区北西隅にかけて南東から北西の方向に走る細長い溝状遺構であるが、やや浅い掘込みで現況からは溝とは言い難い。溝の最大幅は約1.0mで平均すると90cmほどであり、深さは約10cmである。この遺構が確認された以降に出土した遺物はない。他の遺構との関係は確定できないが、攪乱4よりは古く、SD02との関係は不明である。

〈SD10〉は、D-4区ほぼ中央部に南南西から北北東の方向に走り、E-4区北西隅に東側の肩が残っている。北側の溝の終わりははっきり確認できなかった。西端は防空壕5の東壁によって切られているため以降は不明である。南側はSD03と重なり合っているが、両者の新旧関係ははっきりしない。幅は南西部で約60cm、北東部で約1.0mで、深さは北側でやや深く約20cmで、南側に行くにつれて浅くなり約10cmとなる。

遺物は弥生土器片3217が出土している。いずれも小片で時期を確認することは困難であるが、条痕系土器片、櫛描き文様の土器片などが認められる。防空壕1、防空壕5より古い遺構ではあるが、時期や他の遺構との新旧関係は不明である。

〈SD11〉は、E-1区ほぼ中央部に広がる溝状遺構で南西から北東の方向に走る。東部と南部は防空壕3によって切られているため不明である。溝の幅は約1.4m、正確な深さは確認できなかった。遺物は6208 6209 6210で、溝全体から弥生土器片が出土している。この中には、弥生時代前期の条痕系土器片、遠賀川系土器片の他、須恵器片などが含まれるが、いずれも小片でありこれらの遺物からこの遺構の時期を決定するのは困難である。

〈SD102〉は、B-3区北東部を南端としてA-4区南西部に続く細長い溝状の遺構である。南西から北東の方向へ走り、A-4区中央やや北西寄りを北端とすると考えられる。幅は南側で約1.0m、北に行くに連れて次第に細くなり約70cmほどになる。深さは北部で約10cmで、南西に向かうに連れて深くなり約30cmとなる。

遺物は1448 0615 0620 0621 (0249?)が出土している。これらは弥生土器片、須恵器片であるが全て小片である。弥生土器には、弥生時代前期のものと思われる口縁部や胴部、底部などの破片、籠描き模様の認められる土器片1448などが含まれる。遺構内埋土と上層は判別がつきにくく、須恵器片などは後からの掘込みの結果ともみなしうる。出土遺物から見てSD04より新しい可能性もある。Pit332より古いと思われるが確定できない。

〈SD105〉は、D-0区南部およびE-0区北部からE-1区北西部、F-1区北東部を通りF-2区南西部に達する。おそらくSD07がその続きであると思われる。長軸をほぼ北西方向にとるやや幅の広い溝である。幅は約2.0m、深さは40cmから50cmぐらいである。

遺物は6206 6207 6208 6210 6211 6212 6216 6217 6403 6404 6405 6406 7002 7003 7005 7006 7019 7218 7220 7221 (6205?)が出土している。これらは須恵器片、弥生土器片である。下層からは主に弥生土器が出土しており、弥生時代前期の条痕系の甕の口縁部、遠賀川系の壺の肩部、

胴部などを含む多数の土器片がある [PL49-17,18]。上層からは須恵器が出土しているが近接して幾つかの住居址がありこの溝本来の遺物とは言い難い。いずれも小片であり、その時期を判別することは困難である。また、上層からは、土錘1個6216 [PL48-02] が出土している。

須恵器類が全て上層からのみ出土していることと、中・下層から弥生時代中期以降の遺物が認められなかったこと、SD03と同方向に走っていることなどから考えて、弥生時代前期の遺構である可能性が高い。SH06, SH09との新旧関係は不明である。

〈SD107〉は、B-2区北西部やや中央寄りにはほぼ北北東を長軸として広がり、同区北側中央部を北端とする。幅は約50cmから60cmで、深さは約20cmである。この遺構に伴うことが明らかな遺物は確認できなかった。SD03上にSD107の西側の肩が一部検出された。断面の層序からはSH03との新旧関係を判断することはできなかった。

#### [小括]

上記の溝状遺構はいずれも所属年代を決定すべき証拠を欠いている。前期の同一の溝かと考えられるSD07とSD105を除いては、すべて地山への掘込みの浅い溝で、埋土は上層と区別できず、中に後からの掘込み等があっても確認することはほぼ不可能であった。従って、土器片のみを根拠に所属時期は決定できない。SD07とSD105以外の溝はいずれもグリッドの軸線と対角線状に交わる方位を示すことと、深さの類似から同時代の可能性を持つと考え、SD01を根拠に弥生時代の可能性を持つものとして分類したものである。性格について何らの判断材料はないが、方形周溝墓の溝の痕跡である可能性を指摘しておきたい。その場合、SD01とSD05, SD09とSD10, SD102とSD08が組合わさるかも知れない。

## 第2節 古墳時代以降と考えられる住居址 [Fig.4]

〈SH01〉については、前章で既に述べたので省略する。

〈SH02〉はF-3区の南側号ほどとG-3区北半分に広がっている。3ライン以西は未発掘のため範囲は不明である。G-3区とF-3区で東西方向にのびる壁が、F-3区南西隅とG-3区北西隅で厚さ2cmから4cmほどの貼床が確認された。SD02, SD06と重なり合っているため全体の形状は不明であるが、おそらく方形と考えられる。南北方向の一辺は約3.5mかと考えられる。

この遺構に伴うことが明らかな遺物は確認できなかった。SD02との新旧関係は不明である。F-3区南壁断面の層序から見て、SD06より古い遺構と考えられる。

〈SH03〉はB-2区北西部からB-1区北東部に広がっている。形状は、ほぼ南北を軸とする四角形と思われるが詳細は不明である。南西部は防空壕4によって切られているため、全体の範囲は不明である。南北方向の壁約2.5m、東西方向の壁約2.2mが確認された。遺物は1037 1040 1043 1045 1222 1223 1224 1225 1226 1227が出土している。これらは主に弥生土器片、須恵器片で、いずれも小片であるが、弥生土器は弥生時代後期の土器がほとんどであると思われる。また、北東部からは石製品の未製品の可能性がある石片が一片出土している。地山・床面直上から弥生時代後期の土器片及び須恵器片が出土しているが、これらの遺物からSH03の時期を確定することは困難である。SD03及びSD107との新旧関係は不明であるが、防空壕4より古いことは確実であり、出土遺物から見てSD04より新しいかと考えられる。



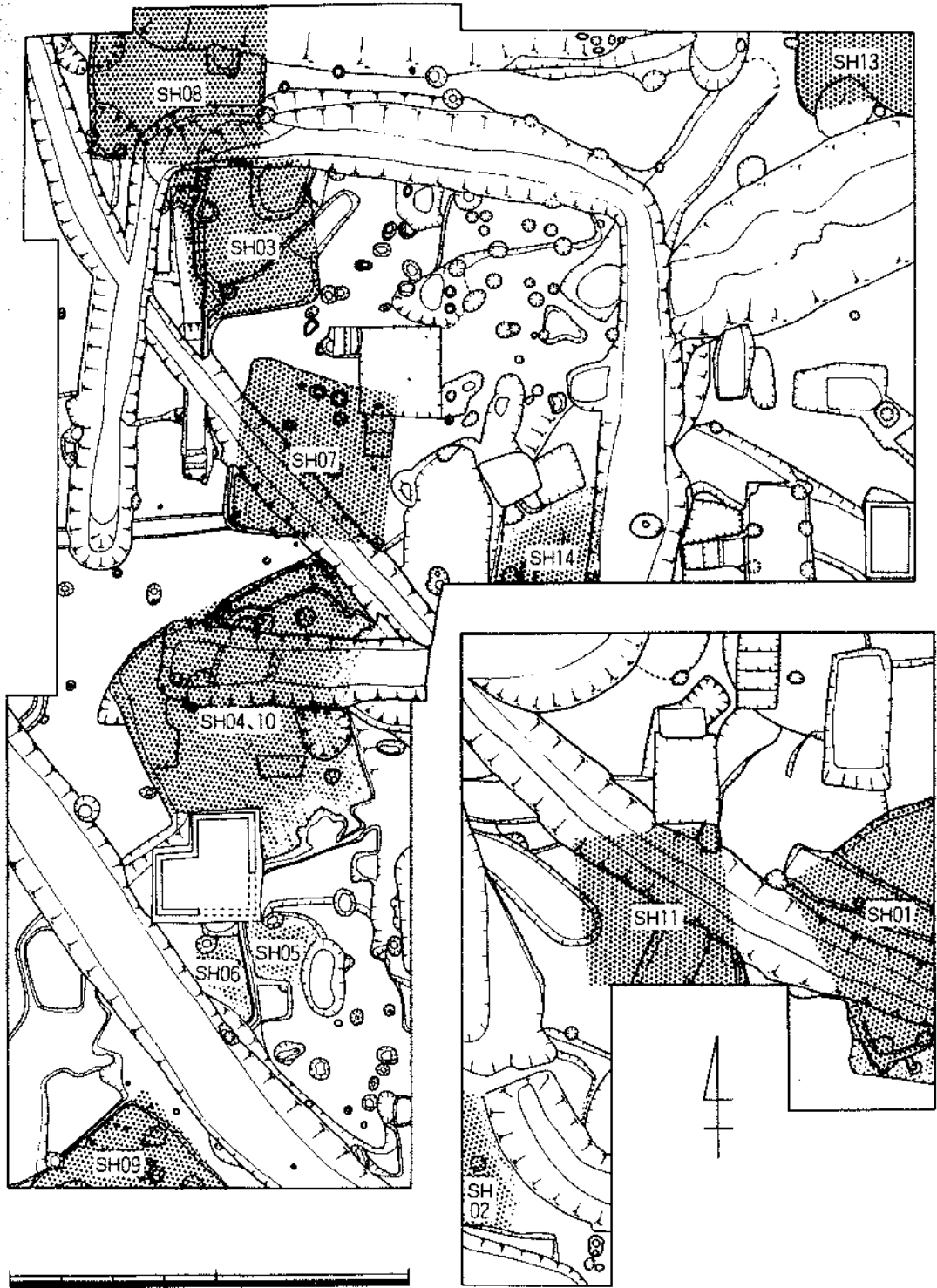


Fig 4 古墳時代以降の住居址

〈SH04〉はD-1区中央から東側、D-2区北西から南東部、E-1区北東部、E-2区北西部にかけて広がっている。この範囲ではD-1区北東側のPit302と、D-2区南西側の2箇所焼土が確認された。D-1区の焼土がD-2区のものより低いレベルで検出されたため、D-1区の焼土を伴う住居址をSH04、D-2区の焼土を伴うものをSH10とした。しかし、両者の正確な範囲等は確認できなかったため、遺物はそれぞれの焼土のレベルから判別した。また、D-2区北西部で貼床らしきものが認められたので、ここではSH04に伴うものとして記載する。この付近からは3個のピットが検出されているが、このうち北東隅のPit320と南西隅のPit319はこの住居址の柱穴である可能性がある。

遺物は5015 5016 5023 5025 5026 5043 5044 5049 5050 5053 5220 5221 5222 5225 5228が出土している。これらは弥生土器片、須恵器片である。弥生土器では貼床の上層から弥生時代前期の土器片が出土した他、中期から後期の壺の口縁部、丹彩の甕の胴部、底部などを含む多くの破片が出土している。須恵器では、北部から坏身5043 [PL44-08; 104-09]、中央部から甑の底部と胴部5221 [PL44-11; 105-01, 02]、D-1区の焼土 (Pit302) 付近から蓋5228 [PL44-06; 104-07]、北東隅のPit320から短頸壺5049 [PL44-07; 104-08] の他、多数の破片が出土している。

全体に弥生時代後期の土器片、須恵器片が大部分であり、また柱穴と思われるピットから須恵器片が出土していることから考えて古墳時代以降の住居址と推定される。防空壕3より古く、またD-2区西壁断面の層序から見て、SD04より新しい遺構である。

〈SH05〉はE-1区、E-2区に、2ラインおよびE-2杭より1m北付近を中心に広がるが、範囲ははっきり確認できなかった。E-1、E-2区の2ライン上の南部に焼土がある。形状は不明である。

遺物は6004 6221 6218 6220が出土している。上層から弥生土器片なども出土しているが、主な遺物は土師器である。これらは焼土面に集中しており、鉢、甕の胴部、口縁部などを含む土器片が出土している。また、須恵器の蓋の破片、陶器片が若干出土している他、焼土面から8世紀頃のものとして推定される瓷器の碗6220 [PL44-10; 105-04] が出土している。

土師器は古墳時代中期頃のものと思われるが、同じく焼土面から瓷器が出土していることを考えると、この住居址の年代が奈良時代以降まで下がる可能性もある。他の遺構との新旧関係は不明である。

〈SH06〉はE-1区南東部からF-1区北東部に広がっている。防空壕3の南で確認された北北西-南南東の方向から南南西へ曲がる溝約1.9mを住居址の周溝の可能性があると考え名付けたが、確証はない。全体の形状は不明である。

この遺構に伴うことが明らかな遺物は確認できなかった。防空壕3より古い遺構である。SD105との新旧関係は不明である。

〈SH07〉はB-1区南東隅からB-2区南西隅、C-1区東側およびC-2区西側に広がっている。C-1区で南北方向、B-1、2区とC-1、2で東西方向の壁が確認された。一辺約3m、床面積約9平方mの方形を呈す。東辺は防空壕2の階段あたりまでしか確認されなかった。東壁は不明だが、SD106の西に床より高く地山が残る部分があったので、最大限このあたりまでが範囲と考えられる。SD03上には貼床が確認された。

遺物は2101 2103 2213 2216が出土している。ほとんどが小片であるが、弥生土器片、須恵器片が出土している。弥生土器片は弥生時代後期のものがほとんどである。おそらく古墳時代以降の

住居址と考えられるが、確定することはできない。C-2区西壁断面の層序から見てSD03より新しいことは間違いないと考えられる。

〈SH08〉は西側60cmほどを除くA-1区に広がっている。南北の広がり不明である。A-1区西側で南北方向にのびる壁の立ち上がり約2.2mと西南のコーナーが、A-2区西側でも壁の立ち上がり約2.8mが確認されたが、全体の形状は不明である。東西幅は約3.4mである。SD103上に貼床が確認された。

遺物は0008イ 0008 0035 0036 0038 0045 0050が出土している。これらは弥生土器片、土師器片、須恵器片、円筒埴輪片であり、ほとんどが小片である。弥生土器は主に弥生時代後期のもので、甕の口縁などが含まれる。須恵器では第3層下部から8世紀ごろの坏身0008イ [PL45-10; 106-03]、長頸壺の頸部0008 [PL45-01; 105-05] などの他、多数の小片が出土している。尚、SD04埋土最上部から出土した0013はSD103出土の台付き琿と同一個体であり、この住居址に伴う遺物である可能性がある。

これらの遺物から見て、SH08は古墳時代以降の住居址と考えられる。SD04との関係は不明である。

〈SH09〉はF-0区南東隅からF-1区南西および南東部にかけて広がっている。F-0区からF-1区にかけて南西-北東方向の壁が確認された。この辺の西南端は恐らく住居址のコーナーで、ここから北西-南東方向に壁が伸びるものと思われる。おそらく一辺約3.5mの方形を呈すると考えられる。東側では床面は、SD105上に僅かにかかる程度まで伸びるように観察された。南側はフライン以南未発掘のため以降は不明である。

遺物は7205 7206 5206 a 7211 7212 7213 7214が出土している。これらは弥生土器片、土師器片、須恵器片であるが、いずれも小片である。弥生土器片には弥生時代前期から後期までのものが含まれる。土師器、須恵器は時期を決定するには至らない。住居址内のPit321と322からは弥生時代前期の土器片が出土している。

これらの遺物からは詳細な時期は確定できないが、古墳時代以降の住居址と考えられる。また、SD105より新しいことは確実であると考えられる。

〈SH10〉はC-2区南西隅からD-1区北東部に伸びる一辺約2mが確認されたのみであるが、おそらくD-1、D-2及びE-1、E-2区に広がるものと思われる。西部、東部、南部がSH04、SD04、Pit333などと重なり合っているため、全体の形状は明らかではない。D-2区の焼土はこれに伴うものと考えられる。ピット2個 (Pit318, 320) との関係は不明である。

遺物は5002 5003 5004 5005 5006 5007 5008 5009 5010 5012 5041 5042 5203 5204 5205 5206 5207 5208 5209 5211 5219 6009 6011 6012 6013 6215 6219 5202が出土している。これらは弥生土器片、須恵器片である。弥生土器片には弥生時代前期から後期のものが含まれ、比較的前期の土器が多い様である。第3層から高坏脚部や甕の口縁部、小型壺5203などが出土している。須恵器では、焼土面から坏身の完形品 (LV=10.042m) [PL44-09; 105-03] が出土している他は、ほとんどが小片である。

これらの遺物から見て古墳時代の住居址と考えられるが、詳細な時期は不明である。SH04に伴う焼土よりSH10に伴う焼土が高いレベルで検出されたことから、SH04より新しいものと考えられる。

〈SH11〉はE-4区南西部にその一部が発見された。E-4区南壁以南は未発掘のため不明である。

E-4区西側でSD03の南側と北側に南北方向の壁を確認した。南側のものには幅15cmほどの周溝が検出された。形状は不明である。

この遺構に伴うことが明らかな遺物は確認できなかった。床面のレベルは9.957mである。E-4区南壁断面の層序から見てSD05より新しい遺構である。SD03との新旧関係は不明である。

<SH12>はF-5区南側に広がっている。東側はF-5区東壁以東未発掘のため不明である。南北方向の一辺約1.1mと、東西方向の一辺約0.8mが検出された。SH01と重なり合っているため全体の形状は不明である。

この遺構に伴うことが明らかな遺物は確認できなかった。SH01との新旧関係は不明であるが、SH01南部の埋土は黄褐色のブロックが極めて多く、SH12の貼床の可能性はある。

<SH13>はA-4区北東部に位置する。形状は方形と考えられるが、A-4区北ベルト部分が未発掘であり、また、南部と東部を攪乱1によって切られているため全体は不明である。黒色土内で南北方向の壁と思われる立ち上がり約5cmが約1.5mの長さで検出されたので、住居址の一部と推定した。

遺物は0614 0618 0618aが出土している。弥生時代後期、土師器、須恵器の土器片がそれぞれ出土しているが、いずれも小片で時期を確定するには至らない。攪乱1よりは古い遺構である。

<SH14>はC-3区中央部のやや南寄り、近代井戸跡の南側に炉址と考えられる焼土を中心とした遺構が検出されたことから、住居址の存在が想定された。焼土の範囲は一辺約60cmほどの不規則な三角形で、中心部に石(LV=10.385m)がひとつあった。住居址全体の範囲は確認できなかった。

焼土面から2404 2405 2406 2407 2408が出土している。弥生時代の高坏脚部2406、8～9世紀ごろの須恵器の蓋2407 [PL44-04; 104-04]、土師器の甕の口縁部2408などの他は弥生土器片である。この区の第3層からは、坏身2437イ [PL45-13; 106-06]、坏身2437ロ [PL45-15; 106-08]、坏身2452 [PL41-07; 101-07] が3つ出土している。いずれも8～9世紀ごろのものでありレベルも10.3mぐらいで、この遺構に伴う可能性がある。この他には、山茶碗2415 [PL47-02; 108-02]、小皿2458 [PL46-20; 107-18] もこの付近から出土している。住居址の時期、他の遺構との新旧関係は不明である。

#### [小括]

これ等の住居址かと考えられる遺構も、所属年代に関しては証拠を欠くものが大半である。SH01と同一の方向を持つSH09、04、10は前者と似た時期である可能性があろう。SH09、05は遺物からみて8、9世紀以降かと判断される。SH03、07、12は類似した方向性を持ち、SH03とSH11、13も互いに類似した方向性をもった別のグループであろうか。他は全く不明である。全般的に言えることは発見された壁のきわにはきわめて不明瞭であるが、壁に沿って溝らしきものが存在する。むしろ、そのような部分にのみ壁の残存が確認できると言ってよいであろう。さらに、黒褐色の3層中の各所に焼土が認められた。それ等についても何らかの生活址である可能性を考えたい。

### 第3節 古墳時代以降の溝状遺構

〈SD02〉はE-3区の西南隅からE-3区北西部約半にかけて広がっている。おそらく未掘ベルト部分をはさんで、E-2区およびF-2区の東側の溝に続くものと考えた。形状は不規則な楕円形で、およその長軸は北西方向である。幅は約1.5mから2.5mで、深さは溝の南側で地山面から約80cm、北側へ行くに連れて次第に浅くなり約10cmとなる。

遺物は3631 3632 3633 3634 3635 4244 6006 6006イ 6007 6014が出土している。埋土上層からは主に須恵器片、土師器片が、埋土下層からは須恵器片、土師器片、弥生土器片が出土している。弥生土器片には、条痕系、遠賀川系のほかに赤彩の土器片が含まれる。土師器では、埋土上層から甕と思われる個体ほぼ一個体分6007が、須恵器では、埋土下層から5世紀頃のものとして推定される完形の蓋3632 [PL41-01; 101-01]、埋土上層から蓋6007 [PL01-04; 101-04]、広口壺の口縁部6006イ [PL41-02; 101-02]、ほぼ完形の高坏6006 [PL41-03; 101-03]が出土している。

これらの遺物から見てSD02は、古墳時代以降に埋まったものと考えられる。SD09との関係ではSD09の方が古いと思われるが、SD09はごく浅くしか確認できず、遺物も無いため詳細は不明である。

〈SD06〉はF-3区南側中央を北端としてG-3区南東隅へ、長軸を北西から東南東の方向にとってゆるやかなカーブを描くやや幅広の溝である。幅は北端で約1.6m、東へカーブするに連れて若干狭くなり約1.3mとなる。深さは約40cmから50cmである。

遺物は4225 4226 4227 4228 4229 4230 4231 4232 4235 4239 4811 4812が出土している。これらは弥生土器片、土師器片、須恵器片、円筒埴輪片である。弥生土器片には、弥生時代前期の条痕系土器片、遠賀川系土器片、高坏の脚部、台付き甕の脚部、山中式土器の口縁部、丹彩土器片などが、土師器には高坏の脚部などの土器片が含まれる。須恵器では、大型甕の一部と思われる破片が出土している。円筒埴輪は一片のみ、丹塗りの破片が出土している。

これらの遺物から見て、SD06は古墳時代以降に埋まったものと推定される。F-3区南壁断面の層序から見てSD05、SH02より新しいと考えられる。

〈SD101〉はB-4区西壁をほぼ西端とし、長軸を北東の方向にとる。A-4区南東部に北側の肩があり、A-5区南東部、B-5区北部に続く。東部は、A・B-5区東壁以降未発掘のため不明である。やや幅広の溝状遺構である。幅は約2.7mから2.8m、深さは約1.2mから1.3mである。

尚、昭和57年度の名古屋市教育委員会による高蔵遺跡発掘調査において検出された土壌(K1)と一連のものである可能性が高い。

遺物は1639 1640 1641イ 1641ロ 1642 1643 1644 1645 1646 1648a 1650 1651 1654 1655 1656ロ 1657 1658 1659 1660 1661 1662 1663 1664 1666 1667 1668 1669 1670 1671 1672 1674 1675 1676 1677 1678 1679 1680 1681 1682 1683 1684 1685 1686 1687 1688 1689 1690 1691 1692 1693 1804 1805 1806 1807 1808 1809 1810 1812 0620 0621 0803 0804が出土している。上層、中層、下層から弥生土器片、土師器片、須恵器片、円筒埴輪片が出土している。

弥生土器は、弥生時代前期のものと思われる条痕系の甕の口縁1676を除いて、ほとんどが中期から後期のもので、上層から出土した高坏の脚部1684、下層から出土した山中式の壺の口縁部1687、1689の他は、壺の口縁部、胴部などを含む多数の土器片がいずれも小片ながら出土している。

土師器は下層から小片が出土している他は、第3層下部からほぼ1個体分の甕1644、1645や甕の

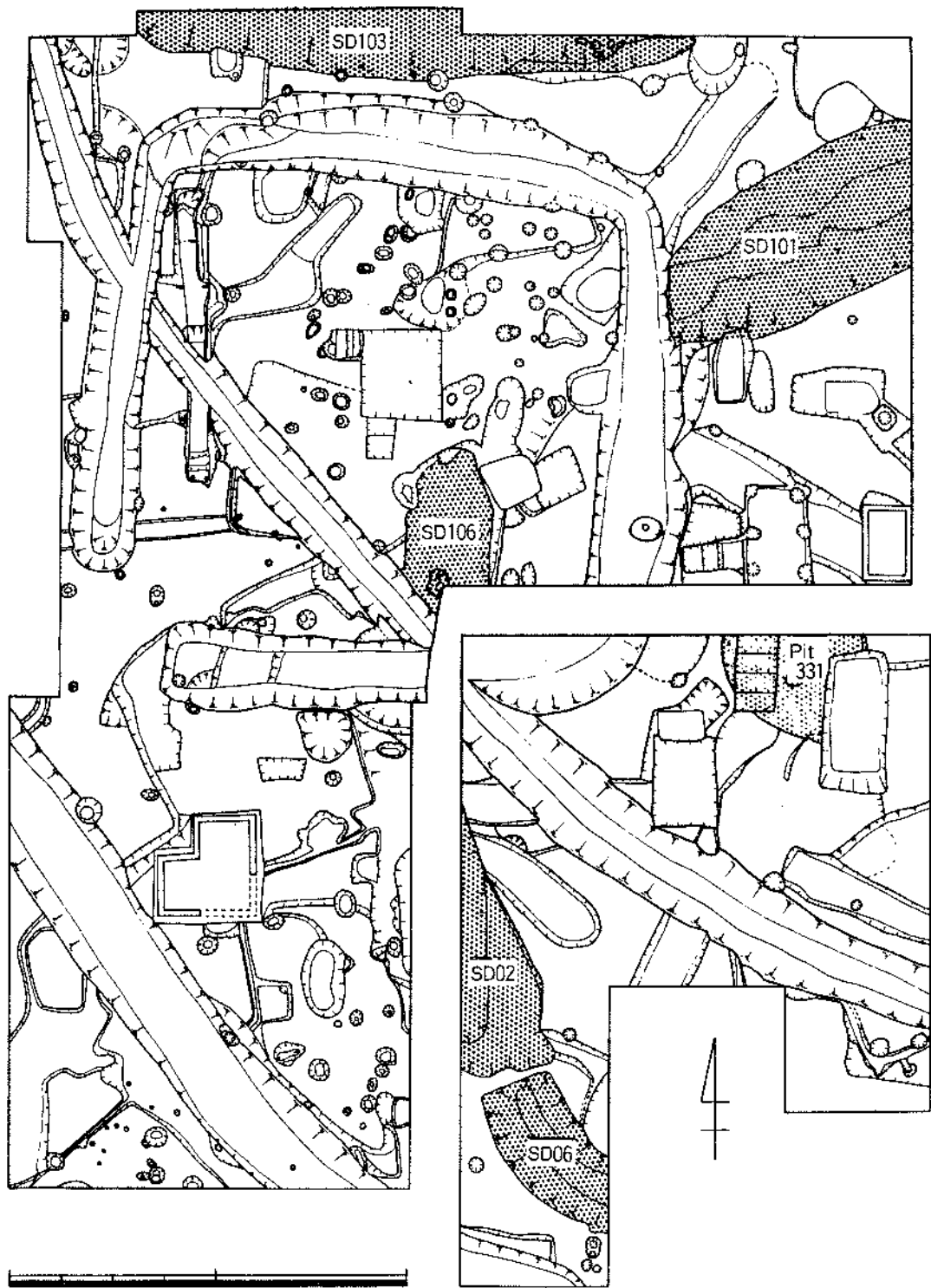


Fig5 古墳時代以降の溝

口縁部1645 1646 a (LV=10.096m), 上層から壺の口縁部1680などを含む多数の土器片が主に中・上層から出土しており、いずれも古墳時代中期頃のものと考えられる。

須恵器は、溝の南部のやや東よりでほぼ同位置からおよそ10.15~10.20mのレベルで坏身1639 [PL42-12; 102-12], 坏身1641口 [PL42-11; 102-11] とそれに重なって出土した蓋1641イ [PL42-04; 102-04], 坏身1642 [PL42-19; 103-02] が出土した。

また1646, 坏身1651 [PL42-18; 103-01] は、この須恵器のやや南東で10.10~10.16mとほぼ等しいレベルで坏身は下向きに出土した。この付近にのみ焼土が見られ、焼土のレベルはおよそ10.15mである。蓋1650 [PL42-05; PL102-05] も、そのやや北側だが焼土はなく、レベルは10.09mで内側を上にして出土した。

皿1648 a [PL42-17; 102-17] は、南西の溝の肩に近い部分からレベル10.13mで下向きに出土した。他に高台のない坏身の破片も一片ある。

1654, 1655, 1656は全て第3層の遺物である。蓋1656口 [PL42-01; 102-01] は古墳時代最末期の可能性がある。1659は溝の西側全体から出土した遺物で、灰釉のかかった瓷器片も認められる。

1660, 1661, 1662は溝の南側やや東よりの肩に近い所から出土した。1661 [PL42-13; 102-13] と1662 [PL42-14; 102-14] はどちらも坏身である。1633と1644は溝の中央部やや東よりの3層の上部と下部(上部が1663, 下部が1664)である。1663には円筒埴輪が一片みられる。1664では立ち上がりのあるやや古手の坏身片がみられる。

1668, 1669, 1670, 1671, 1672, 1674, 1677は溝の南肩のほぼ中央部から纏まって出土した。蓋1668 [PL42-06; 102-06] はレベル10.13mで内側を上にして出土し、坏身1669 [PL42-15; 102-15] はレベルは10.05mである。坏身1670 [PL42-16; 102-16] はレベルは10.12mで長頸壺の頸部1671 [PL43-02; 103-04], 蓋1672 [PL42-07; 102-07] は1674と接合した。大甕の口縁部から肩部1677 [PL43-05; 104-01] はレベルは10.05mである。この大甕の口縁部ほどのレベルでこの部分のその他の須恵器は出土した [PL58上]。

また罎1678 [PL43-06; 103-06, 07] はほぼこのあたりのレベルのもっと低い (LV=9.94m) ところで出土した。短頸壺1680 [PL42-08; 102-08] もこのあたりである。

蓋1676 [PL42-02; 102-02] は溝の北側の中央部から出土した。

坏身1682 [PL42-09; 102-09] は溝の北東部、レベル9.69mで出土した。

提瓶1683 [PL43-04; 103-08, 09, 10] は溝の南西部でレベルは9.68mで出土した。

溝の東端の焼土層からは坏身1804 [PL42-10; 102-10] (LV=9.62m), 蓋1805 [PL42-03; 102-03] (LV=9.53m), 鍋1806 [PL43-03; 103-05] が出土した。

東壁真近から高坏1812 [PL43-01; 103-03] が出土している。

このように須恵器は、上層・中層を中心に、蓋坏、坏身、提瓶、罎などの完形品や大甕の頸部など様々な器種を含む破片が出土している。下層からは、須恵器はほとんど出土していない。これらは、古墳時代終末期から、8~9世紀ごろの瓷器に至るまでの、時代差のある遺物が同じ深さで出土する。他の遺構に比して、完形の須恵器が多いのが特徴的である。これらの須恵器は埋土中層以上からで、下層からは円筒埴輪片が若干出土している。

これらの遺物から見て、SD101は平安時代(8, 9c)以降に埋まったものと考えられる。更に、このB-4区の第2層・第3層からも山茶碗等が出土している。地山で確認された溝壁上面より上にも黒色土の壁があったとすれば、より新しい時代に何らかの形でSD101が利用され続けた可能性もある。この溝の性格に関して現状では何にも言い得ないが、時代差のある遺物がセットとなり

数多く出土していることは最大の特長として留意する必要がある。

〈SD103〉はA-1区北側中央付近からA-2区、A-3区北側を通り、A-4区北西隅でPit332とぶつかる東西に長い溝と思われるが、A区北壁より北側が未発掘のため詳細は不明である。幅はA区北壁までが30cmから40cmで、4ライン上でピットを含んだ最大幅約1.0mを計測した。深さは西端で約50cm、東に行くに連れて次第に深くなりA-2区、A-3区では約90cmから1.0m、A-4区では約70cmとなりPit332の手前で約40cmとなる。しかし発掘部分では底まで到達していない。

遺物は0026 0029 0045 0051 0052 0053 0241 0244 0251 0256 0259 0271 0274 0277 0280 0287 a 0288 a 0289 a 0290 a 0291 0427 0428 0432 0433 0434が出土している。これらは弥生土器片、土師器片、須恵器片、円筒埴輪片である。弥生土器は主に中期から後期にかけてのものと思われ、丹塗りの壺の口縁部、遠賀川系壺の肩部（いずれも0259）などを含む多数の土器片が出土している。土師器は主に溝の上部で出土しており、壺と思われる破片が多い。須恵器は中層から下層で出土しており、台付き釀0228 a [PL44-02; 104-03]、高坏の脚部0434 [PL44-01; 104-02]、鉢0287 a [PL44-03; 104-05]、坏身0052 [図版なし]などを含む破片が多い。

須恵器が下層からも出土していることから見て、古墳時代の遺構、あるいは古墳時代以降に埋まったものと推定される。SD103上にSH08の貼床らしきものが存在したことから、SH08より古いと考えられる。Pit332との関係は確定できない。

〈SD106〉はC-2区東側とC-3区西側に広がり、B-3杭から南へ1.2mぐらい下がったところを北端とする。南部はベルトによって発掘調査が中断されているため不明である。北から南の方向に走る。幅は約1.3mから1.4m、深さは約35cmである。

遺物は2215 2219 2416 2422 (2414?)が出土している。壺の口縁部、底部などを含む弥生土器片が多数出土しているがいずれも小片であり、条痕系土器片一片の他は弥生時代中期から後期のものと思われる。須恵器では、甌や蓋坏の一部2416 [図版なし]などが出土している。

これらの遺物から時期を判別することは難しいが、SD106は古墳時代以降に埋まったものと考えられる。他の遺構との関係は不明である。

#### [小 括]

これ等の溝状遺構は古墳時代以降のものであることは明らかであるが、その下限は明らかではない。SD101からの遺物にはかなりの時代差があり、溝内とは断定できない上層からも山茶碗などが出土している。したがって長期にわたって用いられた可能性がある。SD06、106は殆ど遺物がなく時代決定は不可能である。SD02、103は完掘されていないためはっきりしないが、SD101ほど長期にわたるとは考えられない。

これ等の遺構の性格に関しては手掛かりとなる証拠は全くないが、SD101からの出土品の多くが完形品であることから推測すれば、前述の住居址などが用いられた時代の何らかの祭祀遺構ではあるまいか。この意味から注意すべきは高坐御結子神社との関係であろう。この神社は熱田神宮の摂社であるが、きわめて古い時代の創建とされ、上記遺構の時期にはすでに存在した可能性は強いからである。

#### 第4節 古墳時代以降のその他の遺構

Pit300はA-1区北東区に位置する。ほぼ南北を軸とする一辺約60cmの正形状である。深さは約10cmである。埋土は地山ブロック混じり黒褐色土である。SD103、SH08との関係は不明である



が、SD103より古い可能性もある。

Pit301はB-2区北東隅に位置する。長軸は南北方向に約80cm、短軸約70cmのやや変形した楕円形状で、北西隅に小ピットを有する。遺物は1235 1236が出土している。上層からは須恵器、下層からは弥生土器が出土している。須恵器片1235は、SD101出土の鍋1806 [PL43-03; 103-05] と同一個体と思われる。埋土は黒褐色粘質土である。SD04より新しいと推定される。

Pit302はD-1区北東部およびD-2区北西部に位置している。焼土の範囲と対応しており、SH04に伴うものと考えられる。直径80cmぐらいの半円形と思われるが、全体の形は不明である。深さは約20cmである。この付近からの遺物は、須恵器の蓋5228 [PL44-06; 104-07] である。SD04より新しい。

Pit303はE-2区南側中央およびF-2区北側中央に位置する。Eラインを挟んで南北を長軸とする楕円形を成す。長軸は約1.4m、短軸は約85cmである。深さは約15cmから20cmである。遺物は6005 6008 7002 7017 7018が出土している。これらは弥生土器片、土師器片、須恵器片である。須恵器では8世紀ごろと考えられる瓷器の盤7017 [PL44-05; 104-06] が出土している。埋土は焼土ブロックを含む。

Pit304はE-2区ほぼ中央部に位置し、直径約40cmほどの円形をしている。深さは不明である。遺物は6003で、これは弥生土器片、須恵器片である。他の遺構との関係は不明である。

Pit305はF-2区北西部に位置する。長軸はほぼ東西方向で約50cm、短軸約20cmほどの楕円形で、やや瓢箪形に近い。遺物は7008が出土している。これは土師器片、須恵器片である。埋土は黒褐色土である。

Pit306はF-2区北西部中央寄りに位置する。直径30cmほどの円形である。遺物は7009が出土している。これらは弥生土器片、須恵器片である。埋土は濃黒褐色土である。

Pit307はB-3区西壁中央付近に位置する。長軸をほぼ東北東とする長軸約50cm、短軸約30cmの楕円形をしている。遺物は1418が出土している。これらは弥生土器片、須恵器片である。

Pit308はB-3区中央部に位置し、直径25cmほどのほぼ円形である。深さは約20cmである。遺物は1427が出土している。これは須恵器片である。

Pit309はB-3区中央から西寄りに位置し、直径約20cmほどの円形である。深さは約10cmである。遺物は1428が出土している。これは弥生土器片、須恵器片である。

Pit310はC-3区北壁ぎわ中央付近に位置する。直径20cmほどの円形である。遺物は2440（植物の種の炭化物）が出土している。

Pit311はA-2区東壁ぎわのほぼ中央付近に位置し、直径40cmほどの円形である。遺物は0623が出土している。これは弥生土器片である。

Pit312はA-2区北東部に位置する。長軸は東西方向に約50cm、短軸は40cmほどの楕円形である。深さは40cmから50cmぐらいである。遺物は出土しなかった。

Pit313はB-2区とB-3区の3ライン中央部の両側に広がる。直径20cmほどのほぼ円形である。深さは約10cmである。遺物は1237が出土している。これは須恵器片である。

Pit314はF-3区南西隅に位置し、直径20cmほどの円形である。遺物は4241が出土している。これは弥生土器片、土師器片である。

Pit315はG-3区東壁ぎわの中央付近に位置する。だるま型をしており、長軸は南北方向に約35cm、北側の大きな円が直径約25cm、南側の小さな円が直径約15cmである。遺物は4814が出土している。これは土師器片である。

Pit316はC-5区北西部の攪乱No.3内にある。長軸はほぼ北西方向で約50cm、短軸は約35cmの楕円形である。遺物は出土しなかった。

Pit317はD-4区北西部西壁寄りに位置する。長軸が南北方向で約30cm、短軸約25cmの楕円形である。深さは約10cmである。遺物は3233 3235が出土している。これらは弥生土器片である。

Pit318はD-2区西壁ぎわの中央付近にあり直径30cmほどの円形をしている。深さは約50cmである。遺物は5011が出土している。これは土師器片、須恵器片である。SH04との関係は不明である。

Pit319はD-2区南東隅に位置し、直径約30cmの不規則な円形である。遺物は5061が出土している。これは弥生土器片である。SH04との関係は不明であるが、あるいはSH04の柱穴かもしれない。

Pit320はD-2区北東隅に位置し、直径30cmほどの円形である。深さは約60cmである。これはSH04の柱穴であると考えられる。遺物は5049が出土している。これは弥生土器片、須恵器片で、須恵器には短頸壺5049 [PL44-07; 104-08] が含まれる。

Pit321はF-1区南壁ぎわ中央付近に位置し、直径約30cmほどのほぼ円形である。遺物は7214が出土している。これは弥生土器片である。SH09の柱穴と推定される。

Pit322はF-1区中央部の南寄りに位置している。長軸が北東方向で約60cm、短軸約50cmの不規則な楕円形である。深さは約20cmである。遺物は7213が出土している。これは弥生土器片である。SH09の柱穴と推定される。

Pit323はB-1区北東部の防空壕4の東脇に位置する。長軸が南北方向約35cm、短軸約25cmの楕円形である。遺物は1052（弥生壺2個体分）が出土している。埋土は濃黒褐色粘質土である。他の遺構との関係は不明である。

Pit324はE-1区北西隅に位置し、直径40cmほどの円形である。西側および南側でSD105と重なっている。遺物は6222が出土している。これは弥生土器片である。SD105より新しい可能性もある。

Pit325はB-2区北東部のやや中央寄りに位置し、直径約25cmほどの不規則な円形である。遺物は1218が出土している。これは弥生土器片である。

Pit326はF-2区北東部のEラインおよび中央寄りに位置し、直径約20cmほどのほぼ円形である。遺物は7016が出土している。これは弥生土器片である。

Pit331はD-4区北東部からD-5区にかけて広がる落ち込みである。やや擦り鉢状で、輪郭ははっきりしないが、北に向かって落ち込んでいる。ここからは、完形の山茶碗3221 [PL47-07; 108-07] が出土しており、この遺構に伴うものと考えられる。この山茶碗は、猿投窯13世紀ごろのものであると考えられる。尚、3228 3229 3230がこの遺構に伴う可能性がある。

Pit332はA-4区北西部に位置する。北側はA-4区北ベルト以北未発掘であり、全体の形状は不明である。北東隅にピットを一つ有する。この遺構に伴うことが明らかな遺物は確認できなかった。SD102, SD103より新しいと推定されるが、確定できない。

Pit333はD-2区東側中央部に位置する。推定半径約1.2mの半円形状で検出されたが、D-2区東側1mは未発掘部分のため全体の形状は不明である。深さは最深部で約40cmを計測した。遺物は5019 5024 5030 5033 5034 5035 5055 5056が出土した。これらは弥生土器片、須恵器片である。弥生土器は、弥生時代前期の条痕系土器片や中・後期の壺の口縁部、胴部などを含む破片でいずれも小片である。須恵器は、底部を欠く有蓋短頸壺5033 [PL41-08; 101-08]、高坏5056 [PL41-09; 101-09] など含む破片である。

これらの遺物から見てPit333は、おそらく古墳時代以降に埋まったものと考えられる。防空壕7より古い。SD04埋土の上面で検出されたことから、SD04より新しいと考えられる。SH04, SD10との関係は不明である。

Pit334はA-2区南西隅からB-2区北西隅に広がっている。長軸は南北方向で、東西約1.0m、南北約60cmほどの半円形とおもわれるが、詳細は不明である。この遺構に伴うことが明らかな遺物は確認できなかった。他の遺構との関係は不明である。

#### [小 括]

これ等のPit類はPit331が山茶碗の時期の遺構かと推測される以外、時代や性格に関して述べることはない。番号を明示しなかった小Pitを含めて柱穴が最も多いかと考えられる。B-3区には小Pitが密集すること、SD04の北溝では肩の部分に柱穴状のPitが並ぶかのように見えるのは単なる偶然か否か気かりであることを指摘しておきたい。また記載の都合上ここに記したが、Pit323からはSD04で述べたごとく弥生時代の復元完形の壺が破片として出土しており、弥生時代のものである可能性もある。

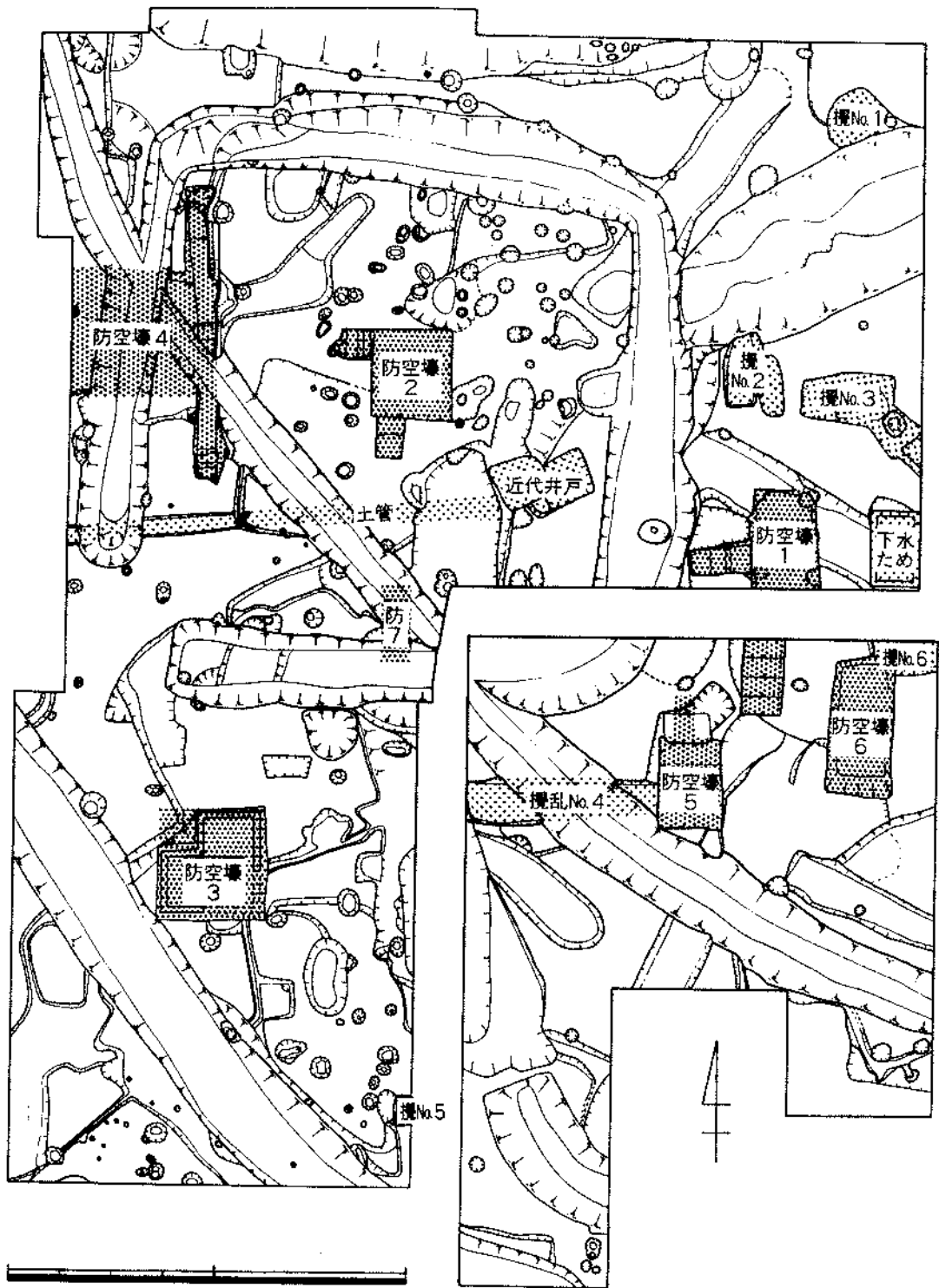


Fig 6 防空壕及び攪乱Pit

## 第5節 現代の遺構 [Fig.6]

防空壕1はC-4区中央部に広がり、C-4区の西側に3段、D-4区中央に4段の階段があると考えられるが、Cラインの南1mは未発掘のため、C-4区の階段とD-4区内遺構の関係は確定できない。防空壕本体は、長軸を南北とする東西約1.5m、南北1.9m以上の長方形である。柱穴と思われる直径20cmぐらいのピットが東西両壁に3対ある。深さは約1.3mから1.4mである。西側階段は、東西方向を軸として南北幅が西側で60cm、東側で80cm、1段の東西幅40cm（全体で東西約1.2m）、各段とも約30cmの段差があり、杭と板で土留めしていたようである。南側階段は南北方向を軸として東西幅約90cm、1段の南北幅約40cm（全体で約1.6m）、各段とも約30cmの段差がある。遺物は3210 3211 3212が、いずれも南側階段部分から出土しているが、特に記すべき遺物は無い。SD08より新しい遺構である。

防空壕2はB-2区南側中央部からC-2区北側中央部にBラインをはさんで広がっており、B-2区西側に2段、C-2区南側に2段の階段を有する。防空壕本体はほぼ正南北・東西を軸とする1辺約1.6mの正方形状で、北西隅と南西隅に階段がある。深さは約75cmから90cmである。西側階段は南北幅約50cm、一段の東西幅約30cm（全体で約60cm）、南側階段は東西幅約40cm、1段の南北幅約30cm（全体で約60cm）である。特に記すべき遺物は無いが、中には廃材が入れてあった。SH07より新しい遺構である。

防空壕3はE-1区中央やや西寄りにある。南北約2m、東西約2.1mぐらいのほぼ正方形状から北西隅を南北50cm×東西70cmほど欠いた形をしている。コンクリートの床と壁があり、北西の欠けた部分は階段になっていた。骨材には何か代用品と考えられる石炭ガラのようなものが使用されていた。深さは約30cmから35cmである。特に記すべき遺物は無い。SH04、SH05、SH06より新しい遺構である。

防空壕4は、B-1区中央部およびC-1区北側中央部に広がり、北部と南部に階段を有する。南北方向の長軸が約2.8m、短軸が北部で約1.5m、南部で約1.8mの四角形をしている。北東隅には幅約50cm、長さ約1.2mの南北にのびる階段が、南東隅には幅約40cm、長さ約60cmの同じく南北にのびる階段が付属する。深さは約50cmである。他の防空壕に比して壁が傾き、上に広がるなどあいまいな掘り方をしている。特に記すべき遺物は無い。SD03、SD04、SH03より新しい遺構である。

防空壕5はD-4区南西部からE-4区北西部と、D-3区南東隅からE-4区北東隅に広がっている。東西幅が北部で約1.4m、南部で約1.2m、南北幅が約1.6mのほぼ四角形を成している。北辺に階段が付属し、四隅に杭、あるいは杭の柱の痕跡がある。深さは約60cmから70cmである。遺物は3203 3207 3227が出土しているが、特に記すべきものは無い。SD10、攪乱No.4より新しい遺構である。

防空壕6はD-5区西側からD-4区東側に広がっている。長軸は南北方向で、東西幅約1.2mから1.3m、南北幅約2.7mのほぼ長方形である。深さは約85cmから90cmである。階段部を掘込んでいないので、出入りには木製はしご等が利用されたと考えられる。遺物は3402 3405 3406 3407 3408 3409 3410 3411 3412 3413 3415 3223 3224が出土している。埋土中から円筒埴輪片が多数出土し、また底部に敷きつめたように瓦が並べてあった。他には特に記すべき遺物はない。攪乱No.6よりも古い遺構である。

防空壕7はD-2区北東部からC-2区南東端にかけて広がっている。長軸は南北方向で、東西幅約50cm、長さ約1.8m、深さ1.0mである。南側に南北幅約30cm、段差約20cmの階段がある。尚、階段部分のみで本体はない。未完成のままであったとも考えられる。遺物は5017 5030が出土しているが、特に記すべき遺物は無い。SD03、SD04より新しい遺構である。

攪乱No.1はA-4区東側からA-5区中央部に広がる。中央にユンボの跡が見られる直径約1.2mの不規則な円形で、A-5区東側へ流れている。A-5区中央部にピットを有する。深さは約20cmである。特に記すべき遺物は無い。SD101よりも新しい遺構である。

攪乱No.2はB-4区南側とC-4区北側の中央からやや西寄りに広がる。長軸はほぼ南北方向である。長軸は約1.6m、短軸は北部で約90cm、南部で約60cmのほぼ長方形をしており、北部が広く南部が狭い。深さは約30cmから40cmである。特に記すべき遺物は無い。SD101より新しく、隣接する遺構（おそらく攪乱）より古い遺構である。

攪乱No.3はB-4区南東部からB-5区北西部に広がり、C-4区北西隅からC-4区北東部へ向かって溝状になる。東端はC-5区東壁以東未発掘のため不明である。形状は東西約2.4m、南北約2.2mの長方形に、溝が付いたような不規則な形をしている。深さは約40cmである。遺物は1610が出土している。これは小皿1610〔PL46-17；107-15〕である。他には特に記すべき遺物はない。

攪乱No.4はE-3区とE-4区の北部に東西方向にのびる長い溝状の攪乱である。西端はE-3区西壁以西1mが未発掘のため以降は不明である。また東端は防空壕6まで達する。東西幅は70cmぐらいで、深さは約20cmである。遺物は3605 3607 3611 3617 3639 3640 3675が出土しているが、特に記すべき遺物は無い。防空壕とほぼ同時期またはそれ以降のものと考えられる。

攪乱No.5はF-2区東壁付近のほぼ中央部やや南寄りに位置する。おそらく四角形と思われるが、東半分は未発掘のため以東は不明である。深さは南側がやや浅く約40cm、北側で約60cmである。遺物は7007が出土しているが、特に記すべき遺物は無い。

攪乱No.6はD-4区北東部からD-5区北部に広がっているが、Cラインより1mの部分とD-5区東壁以東は未発掘のため以降は不明である。全体の形状は不明である。深さは約55cmである。遺物は3402b 3403が出土しているが、特に記すべき遺物は無い。D-5区西壁断面の層序からははっきりしないが、発掘時の所見では防空壕6より新しいものと考えられる。

下水溜めと思われる遺構はコンクリートの枠を持ち、C-5区南部に5ラインをほぼ西壁、Cラインをほぼ南壁として広がっている。C-5区東壁以東は未発掘のため以降は不明である。現状はほぼ長方形と思われる。深さは約80cmから90cmである。遺物は出土しなかった。SD108より新しい遺構である。

土管溝がC-2区、C-1区のほぼ中央部を東西方向に走り、井戸まで達する。井戸から南北方向にも溝が走っていた。C-2区東側中央のやや南寄りに直径50cmから60cmほどの下水溜めがある。C-1区西壁以西は未発掘のため以降は不明である。土管の直径は約20cmで、遺構の幅は約40cmであり、地表下約10cmから20cmの深さである。

井戸および井戸の洗い場はC-3区のほぼ中央に位置している。井戸は長軸ほぼ東北東で約1.3m、短軸約1.0mの不規則な四角形をしており、ごく上部を掘って輪郭を確認したのみである。洗い場の方は、だいたい東北東を軸にとる一辺約1.0mのほぼ正方形をしている。深さは約20cmである。

遺物は出土しなかった。

#### [小 括]

現代の遺構としては防空壕が主であり、予想外にゴミ穴などは少なかった。長屋であったため比較的空き地が狭かったのが幸いしたものであろう。また第2層の堅さも一因かと考えられる。防空壕は各居住者の性格を表すかのごとく形態が異なり、興味をおぼえた。階段は2方向のものがNo.1, 2, 4で、1方がNo.3, 5であり、No.6は不明であった。No.7は未完成であったのか階段のみである。階段は板で土止めをし、その板は両側に杭を打って固定するものと地山が堅くそのままであったと考えられるものがあった。コンクリート製のNo.7は当時としては極めて立派なものであったと考えられるが、骨材は何か不明であるが、代用品を充てたようである。支柱の痕跡はNo.1を除いて明確ではない。恐らく、柱穴を掘らなかったのであろう。防空壕当時の遺物は殆ど発見されなかった。直ちに埋めたかと推定されるものと、ごく最近までの遺物が発見されるものがあった。したがって一部は後までゴミ穴として用いられたのかもしれない。No.2は防空壕そのものを潰した時のものと考えられる材木などが多数残存し、土はほとんど入っていなかった。

(小松山・重松)

## 第6章 須恵器などの遺物

### 第1節 須恵器等の概観

須恵器は発掘区全体にわたって出土している。

表土からは、弥生土器片、土師器片、円筒埴輪片などと共に須恵器片、瓷器片、その他近世の陶磁器片が多く採集された。

2層および3層は、この遺跡においては須恵器、瓷器、山茶碗、その他陶磁器類の包含層とみなされており、遺構に伴わない小破片からはほぼ完形に近いものまでの数多くの遺物が採集された。しかし瓷器の手付瓶1415 [PL46-08; 107-05] のように、ほぼ一個体まとまって発掘されたものも少なくない。これらは確認できなかった何らかの遺構に伴う可能性が強い。遺物は、2層では鉄釉、青磁、白磁など近世に至る陶磁器が目立っており、3層では、その他に須恵器、瓷器、山茶碗、円筒埴輪などが多く見られる。

4層以下は、溝、住居址などの遺構の埋土と考えられている。須恵器などが多く出土する主な遺構は、溝ではSD101, 103, 02, 06。住居址では、SH04, 10。性格が不明の土壌ではPit333などがある。これ等については次節で述べる。

他に、今回の発掘区では全体的に、最近の攪乱Pitや、防空壕がかなりの数検出されているが、それらの埋土中からも須恵器片、円筒埴輪片などが出土している。

遺物の時代について述べると、須恵器に関しては、総じて8～9世紀の遺物が多いと思われる。例外的にSD02の出土遺物は5世紀頃と考えられる。一方、瓷器は、他の遺物に比較して、出土数は少なく全体的なことは不明だが、8世紀頃のもの、山茶碗への移行期にあたる12世紀頃のものに分けられる。また山茶碗は、13世紀頃のものが多い。

その他、円筒埴輪片が発掘区全体で相当数出土しているが、これについては第7章で記す。近世の陶磁器片等については写真のみ掲載した。[PL109; 110]

須恵器・瓷器・山茶碗については、出土遺物のすべてを整理し、記載する余裕がなかったため、極めて特徴的なものを除いては、全体の形態がほぼ明らかでかつ全体の量程度が残存しているもののみを掲示している。従って、口唇から底部まであっても小破片の場合は省略しているので、とくに坏身・山茶碗・小皿等の個体数は記載したものより多いことをお断りしておきたい。

図示したものは下記の通りである。個々の遺物については後に詳しく記している。

坏身 20点 0008イ [PL45-10; 106-03], 0230 [PL41-05; 101-05], 1422 [PL45-11; 106-04],  
1437 [PL45-12; 106-05], 1639 [PL42-12; 102-12], 1641ロ [PL42-11; 102-11],  
1462 [PL42-19; 103-02], 1651 [PL42-18; 103-01], 1661 [PL42-13; 102-13],  
1662 [PL42-14; 102-14], 1669 [PL42-15; 102-15], 1670 [PL42-16; 102-16],  
1680 [PL42-08; 102-08], 1682 [PL42-09; 102-09], 2437イ [PL45-13; 106-06],  
2437ロ [PL45-15; 106-08], 2452 [PL41-07; 101-07], 5003 [PL44-09; 105-03],  
4209 [PL45-14; 106-07], 5043 [PL44-08; 104-09],  
蓋 20点 0257 [PL41-06; 101-06], 0404 [PL45-04; 105-08], 1032 [PL45-09; 106-02],  
1204 [PL45-08; 106-01], 1424 [PL45-06; 105-01], 1425 [PL45-05; 105-99],  
1641イ [PL42-04; 102-04], 1648 [PL45-07; 105-11], 1650 [PL42-05; 102-05],



1656口 [ PL42-01 ; 102-01], 1668 [ PL42-06 ; 102-06], 1672 [ PL42-07 ; 102-07],  
 1676 [ PL42-02 ; 102-02], 1805 [ PL42-03 ; 102-03], 2407 [ PL44-04 ; 104-04],  
 3632 [ PL41-01 ; 101-01], 5228 [ PL44-06 ; 104-07], 6007 [ PL41-04 ; 101-04],  
 7207 [ PL46-02 ; 106-13], 1804 [ PL42-10 ; 102-10],  
 高坏 5点 0434 [ PL44-01 ; 104-02], 1812 [ PL43-01 ; 103-03], 2212 [ PL45-18 ; 106-11],  
 5056 [ PL41-09 ; 101-09], 6006 [ PL41-03 ; 101-03]  
 皿 3点 0806口 [ PL46-01 ; 106-12], 1648 a [ PL42-17 ; 102-17], 7011 [ PL46-04 ; 107-02]  
 短頸壺 4点 0424 [ PL45-17 ; 106-10], 4219 [ PL45-16 ; 106-09], 5049 [ PL44-07 ; 104-08]  
 5033 [ PL41-08 ; 101-08],  
 長頸壺 3点 0008 [ PL45-01 ; 105-05], 1031 [ PL45-02 ; 105-06],  
 1671 [ PL43-02 ; 103-04]  
 広口壺 1点 6006イ [ PL41-02 ; 101-02]  
 鉢 2点 0287 a [ PL44-03 ; 104-05], 0617 [ PL45-03 ; 105-07],  
 台付椀 1点 0288 a [ PL44-02 ; 104-03],  
 椀 1点 1678 [ PL43-06 ; 103-06, 07]  
 盃 1点 1677 [ PL43-05 ; 104-01]  
 提瓶 1点 1683 [ PL43-04 ; 103-08, 09, 10]  
 外耳鍋 1点 1806 [ PL43-03 ; 103-05]  
 甌 1点 5221 [ PL44-11 ; 105-01, 02]  
 碗 3点 6220 [ PL44-10 ; 105-04], 7004 [ PL46-06 ; 107-04],  
 4208 [ PL46-07 ; 107-06]  
 片口鉢 1点 1401 [ PL46-03 ; 107-01],  
 手付瓶 1点 1415 [ PL46-08 ; 107-05],  
 盤 1点 7017 [ PL44-05 ; 104-06],  
 三足盤 1点 4804 [ PL46-05 ; 107-03],  
 山茶碗 10点 0404イ [ PL47-04 ; 108-04], 0806イ [ PL47-08 ; 108-08],  
 0807 [ PL47-01 ; 108-01], 0808 [ PL47-10 ; 108-10]  
 1608イ [ PL47-05 ; 108-05], 1608口 [ PL47-09 ; 108-09],  
 1612 [ PL47-06 ; 108-06], 1638 [ PL47-03 ; 108-03]  
 2415 [ PL47-02 ; 108-02], 3221 [ PL47-07 ; 108-07],  
 小皿 12点 0404口 [ PL46-11 ; 107-09], 0409 [ PL46-09 ; 107-07],  
 0602 [ PL46-12 ; 107-10], 1430 [ PL46-15 ; 107-13],  
 1606 [ PL46-16 ; 107-14], 1610 [ PL46-17 ; 107-15],  
 1611口 [ PL46-19 ; 107-17], 1611イ [ PL46-18 ; 107-16], 0808ハ [ PL46-13 ; 107-11],  
 1202 [ PL46-14 ; 107-12],  
 2458 [ PL46-20 ; 107-18], 2607 [ PL46-10 ; 107-08],

## 第2節 遺構別にみた出土須恵器・瓷器・山茶碗

### <SH03>

A-1, A-2, B-1, B-2区にまたがる住居址と思われる遺構である。須恵器は、住居の床面から時代不明の小片が若干出土しているのみである。

### <SH04>

D-1, D-2, E-1, E-2区にまたがった住居址である。ほぼ同じ範囲にSH10と呼んでいる住居址があり2つ重なっていると考えられた。その理由は、この範囲から2箇所焼土が検出され、そのうちのD-1区北東側にあるPit302と呼ばれる焼土は、D-2区西南側にあるもう一方の焼土よりもレベルが低かったため、北側の焼土を持つ住居址をSH04とした。D-2区西南側の高いレベルの焼土はどちらの住居址に属するものか不明なため、一応SH04の上層の焼土として記載する。それぞれの住居址の正確な範囲はセクションや切り合いからも判明しなかった。以上のことから、遺物は、それぞれの焼土のレベルから判断した。

須恵器は小片が多いが相当数出土している。器形は蓋杯、高坏の脚部、大甕の破片などがみられる。5043 [PL44-08; 104-09]の坏身は住居址の北部から出土した。5049 [PL44-07; 104-08]の短頸壺は、Pit302と呼ぶ焼土付近から出土した。住居址のほぼ中央部で出土した5221 [PL44-11; 105-01, 02]は甑の底部から胴部で、底部の十字状の部分が大体残っている。5228 [PL44-06; 104-07]の蓋は同じく焼土付近から出土し、時代は古墳時代最末期と考えられる。他の遺物がそれ以前とは考えにくいので、この住居址は古くとも7世紀と推測される。西南側のレベルの高い焼土面からは5003 [PL44-09; 105-03]の坏身が出土している。切り離しは回転ヘラ切りでヘラ切り痕は未調整である。

### <SH05>

E-1区とE-2区の南側にまたがる焼土付近と思われる住居址である。6220 [PL44-01; 105-04]はE-1区の東南の焼土上から出土している。高台付近の調整などがやや粗雑な、8世紀頃の瓷器の碗である。そのため、この焼土は8世紀以降の遺構と考えられる。

### <SH07>

B-1, B-2, C-1, C-2区にまたがっているが、はっきりした範囲は確認されていない。須恵器は、小片がやや見られるのみで、いずれも時代決定には至らないが器形は広口壺、大甕が確認できる。

### <SH08>

A-1区のほぼ全域にかかる住居址だが、西壁以外明確な範囲は不明である。

この区の3層下部から0008イ [PL45-10, 106-03]の坏身、0008 [PL45-01; 105-05]の長頸壺の頸部が出土している。この坏身は8世紀頃と考えられる。SD04の埋土最上部からの0013はSD103出土の台付瓊0288a [PL44-02; 104-03]と同一個体である。これ等はこの住居址に伴う可能性がある。その他、須恵器小片は全域から相当数出土している。大甕の破片、坏身の口縁部、蓋のかえり部などがみられるが、時代は不明である。

### <SH09>

発掘区の最南部のF-1区とF-2区に斜めにまたがる住居址である。須恵器は坏身の高台部、壺の蓋と考えられるものの口縁部、蓋のかえり部などがみられる。これらのものは早くても7世

紀後半と推測される。

<SH10>

D-1, D-2, E-1, E-2 区にまたがる住居址である。SH04の項で述べたように、SH04の上面に重なっているため、正確な範囲は不明である。遺物はほとんど小片であるが、大甕の破片、坏身の高台の一部などがみられる。西南側の焼土面で5003 [PL44-09; 105-03] の坏身が出土した。

<SH13>

A-4 区の北東部から A-5 区北部にかかる住居址である。須恵器は時代不明の小片がまばらに出土しているのみである。

<SH14>

C-3 区の南側の炉址で、井戸の南部を中心にSD04とSD106の東側の掘りこみにはさまれた部分に、焼土が広がっているのがレベル10.3mほどで検出されたものである。

須恵器としては2407 [PL44-04; 104-04] の蓋がある。この蓋は、口縁部をやや欠くが、ほぼ完形でつまみが付きかえりは無い。焼土面から内側を上にして出土した。時代は8~9世紀と推測される。

この区は3層からは2415 [PL47-02, 108-02] (レベルは10.21m) の山茶碗, 2437イ [PL45-13; 106-06] の坏身, 2437ロ [PL45-15, 106-08] の坏身 (レベルはともに10.31m), 2458 [PL46-20; 107-18] の小皿が出土している。2415はグリットの北部, 他はさらにそれより北側のB-3区との境界部分から出土した。2437イ, 2437ロは同時代と見られる。さらに2452 [PL41-07; 101-07] の坏身がC-3区の東側すなわち方形周溝墓の東辺の南半分のやや北寄り, 埋土最上層から出土しており, ほぼ平らな底部から直線状に口縁へと伸び, やや外に開いた高台が付く。おそらく8~9世紀と考えられる。これ等の内で坏身3点はこの遺構に伴う可能性がある。

<SD02>

E-2 区の東側から E-3 区の西側にまたがり, 南側は F-2 区から F-3 区に広がる, かなり深い溝である。この溝の中央は, 未掘ベルト部を南北方向に残し, 性格も不明である。しかし, 須恵器は, かなり古い時期の遺物が出土している。

E-3 区で出土した3632 [PL41-01; 101-01] は, おそらく高坏の蓋で時代は5世紀と推定される。器高は高く, 扁平な宝珠つまみが付き, 明瞭な稜が巡らされている。出土位置はE-3区の西南端で, レベルは9.35mとかなり深い。

ベルトをはさんだ西側のE-2区からは, 6006の高坏 [PL41-03; 101-03] と6006イの広口壺の口縁部 [PL41-02; 101-02], 及び6007 [PL41-04; 101-04] の蓋が出土している。高坏は坏身部に沈線が一本刻まれており, おそらく猿投窯のものである。広口壺は口縁から肩付近までしか残っていないが, 8世紀前半と考えられるものである。この高坏と広口壺は, ほぼまをもってE-2区の最西端の溝埋土上層から出土した。

6007の蓋は, 口縁部は殆どなく天井部も全体の5分の1ほどしか残っていない。したがって, 断定はできないが, 口縁からはほぼ垂直に立ち上がっているため, 壺の蓋ではないかと考えられる。これも6006と同程度の深さから出土した。

これらの他にも, 須恵器の破片は若干出土しているが未掘部分があるため, 遺物の組み合わせを確認することができず, 溝の時代や性格も確定できないのが残念である。

<SD04>

A-1, 2, 3区, B-1, 2, 3, 4区, C-1, 3, 4区, D-1, 2, 3区にかかる弥生時代後期の方形周溝墓である。それ故この溝内から須恵器が出土したのは当時溝が未だ全て埋っていなかったためか、後代の遺構があったが確認できなかったためと考えられる。

遺物は0009, 0013, 0040, 0227, 0228, 0232, 0236, 0240, 2452, 3058, 3062, 5214, 5217である。0013はSD103出土の台付隼0288 a [PL44-02; 104-03] と同一個体である。2452 [PL41-07; 101-07] の坏身はC-3区の東側すなわち方形周溝墓の東辺の南半分のやや北寄りから出土しており、ほぼ平らな底部から直線上に口縁へ伸び、やや外に開いた高台が付く。おそらく8-9世紀と考えられる。その他は大半が小片である。器形は大甕、坏身などがみられる。須恵器の他、山茶碗、甕器もあるが、数は少ない。

<SD06>

発掘区の南端のF-3区からG-3区にかけて斜めに走る溝である。須恵器は、F-3区, G-3区の両方から若干見受けられるのみである。器形としては、平瓶、鍋などが見られるが、いずれも小片のため、全形や時代を推定することは不可能である。G-3区にかかる部分からは、円筒埴輪片が1片出土している。

<SD11>

E-1区でSD105の上層に直角に交わり、SH04あるいはSH10の住居址にかかる浅い溝である。須恵器は上層で6208のかえりの無い蓋が1片出土したのみである。

<SD01>

発掘区の北東部のA-4, 5区, B-4, 5区にかかる広く深い溝である。西端, SD04と切りあっており東端は検出されなかった。須恵器はこの溝のほぼ全体にわたって認められたが、上層部は特にSD101に関連した遺物ではないと考えられる。この溝は土師器片及び須恵器が何個ずつかまわって、数ヶ所で検出された。それらの層のレベルは10.24m~9.67m程であった。

遺物は0803, 0804, 1639, 1640, 1641イ, 1641ロ, 1642, 1643, 1646, 1648 a, 1650, 1651, 1654, 1655, 1656ロ, 1659, 1660, 1661, 1662, 1663, 1664, 1668, 1669, 1670, 1671, 1672, 1674, 1676, 1677, 1678, 1680, 1681, 1682, 1683, 1685, 1690, 1691, 1804, 1805, 1806, 1808, 1809, 1812である。

1639, 1640, 1641イ, 1641ロ, 1642, 1643, 1646, 1650, 1651は、いずれも溝の南部のやや東よりでほぼ同位置で出土した。

1639 [PL42-12; 102-12] は底部に回転ヘラ削りが施してある坏身である。1641イ [PL42-04; 102-04] は、かえりがなくやや丸味のある蓋で1641ロ [PL42-11; 102-11] の坏身と重なって出土しているがセット関係は不明である。この坏身は底部に回転糸切り痕が明瞭に残っている。1642 [PL42-19; 103-02] は、高台の付く大きな坏身である。以上はおよそ10.15~10.20mのレベルであった。

また1646, 1651は、以上の須恵器群のやや南東で出土しレベルも10.10~10.16mとほぼ等しいが、この付近にのみ焼土が見られた。焼土のレベルはおよそ10.15mである。1651 [PL42-18; 103-01] は赤く焼き上がった高台のある深い坏身で下向きに出土した。1650 [PL42-05; 102-05] も、1646, 1651のやや北側だが焼土はなくレベルは10.09mであった。これはかえりのない蓋で内側を上にして出土した。これらの須恵器群に伴って、時期不明であるが土師器の破片も出土した。

1648 a [ PL42-17 ; 102-17 ] は、SD101の南西の溝の肩に近い部分から下向きに出土した赤い皿で、レベルは10.13mである。他に高台のない坏身の破片も一片ある。

1654, 1655, 1656, は全て第3層の遺物である。1656ロ [ PL42-01 ; 102-01 ] の蓋は天井部に回転ヘラ削りが施され、はっきりとした稜が巡っている。古墳時代最末期の可能性がある。またこの付近で出土した坏身片が1659と接合している。1659は溝の西側全体から出土した遺物で、灰釉のかかった瓷器片も認められる。

1660, 1661, 1662は溝の南側やや東よりの肩に近い所から出土した。1661 [ PL42-03 ; 102-13 ] と1662 [ PL42-14 ; 102-14 ] はどちらも坏身で回転糸切りである。1662はやや焼成が甘い。

1663と1664は溝の中央部やや東よりの3層の上部と下部（上部が1663, 下部が1664）である。1663からは円筒埴輪が一片みられる。1664では立ち上がりのあるやや古手の坏身片がみられる。

1668, 1669, 1670, 1671, 1672, 1674, 1677, は溝の南肩のほぼ中央部からまとまって出土した。1668 [ PL42-06 ; 102-06 ] の蓋は内側を上にして出土しレベル10.13mであった。かえりがなく、器高がやや高い。1669 [ PL42-15 ; 102-15 ] は高台のある大きい坏身で古墳時代最末期と考えられる。レベルは10.05mである。1670 [ PL42-16 ; 102-16 ] は高台のある坏身で底部ましか残っていない。レベルは10.12mである。1671 [ PL43-02 ; 103-04 ] は9世紀頃と考えられる長頸壺の頸部である。1672 [ PL42-07 ; 102-07 ] は、かなり大きな蓋で1674と接合した。1677 [ PL43-05 ; 104-01 ] は大甕の口縁部から肩部で胴部は全くない。レベルは10.05mである。この大甕の口縁部ほどのレベルでこの部分のその他の須恵器は出土した。

また1678 [ PL43-06 ; 103-06, 07 ] の取手はほぼこのあたりのレベルのもっと低い（9.94m）ところで出土した。受け口状であり、一番近い類型が岩崎17号窯でみられる。1680 [ PL42-08 ; 102-08 ] の短頸壺もこのあたりである。

1676 [ PL42-02 ; 102-02 ] の蓋は溝の北肩の中央部から出土した。稜を持ち、丸みを帯びたプロポジションである。

1682 [ PL42-09 ; 102-09 ] の坏身は溝の北東部、レベル9.69mで出土した。立ち上がりがあり古墳時代終末期頃とみられる。

1683 [ PL43-04 ; 103-08, 09, 10 ] は溝の南西部で出土した提瓶でレベルは9.68mであった。

1804, 1805, 1806, は溝の東端の焼土層から出土した。1804 [ PL42-10 ; 102-10 ] は立ち上がりのある坏身である。1805 [ PL42-03 ; 102-03 ] は稜のある蓋で古墳時代最末期と言ってもよいであろう。1806 [ PL43-03 ; 103-05 ] は取手のある鍋で、D-3区のSD03埋土上層から出土した3047と接合した。また、同一個体とみられる破片がPit301の1235にあった。レベルは1805は9.62m, 1806は9.53mである。

1812 [ PL43-01 ; 103-03 ] は東壁真近から出土した2方スカシの高坏である。

以上が須恵器の主なものであるが、これらは大半が溝埋土の中層以上であり、下層では1690, 1691の円筒埴輪片が見られるのみで、須恵器はほとんどない。またこれらの遺物は古いものは古墳時代最末期、新しいものでは瓷器にいたっており、しかもそのような時代差のある遺物がほぼ同じ深さでみうけられる。このことがこの溝の遺物出土状況の最大の特徴といえる。しかし溝の目的などは不明である。

#### <SD102>

A-4区からB-3区へ斜めに走っている浅い溝である。須恵器は埋土中から小片がごくわずかにみられるのみで、特記すべきものは無かった。

<SD103>

発掘区の最北端のA-1, 2, 3, 4区と伸びる深い溝である。北側の肩は未検出である。遺物は0051, 0052, 0241, 0244, 0251, 0259, 0266, 0271, 0274, 0287 a, 0288 a, 0289 a, 0290 a, 0291, 0427, 0428, 0432, 0434, 0437である。

0052の坏身は立ち上がりが高く、時代は6世紀かと考えられる。0051と0052はそれぞれA-1区を北へ拡張した部分の中層と下層から出土した。0287 a [PL44-03; 104-05]の鉢はおそらく底部が尖る。0288 a [PL44-02; 104-03]は肩が張り、胴部上方に列点文が施される台付縁である。これは岩崎41号窯の台付縁と類似している。この縁の破片がA-1区のSD04内からみつがっているが、上層からであったので、何らかの原因で溝内に流れこんだものと思われる。0434 [PL44-01; 104-02]は脚部に稜がある高坏である。A-3の北壁のかなり深い部分から出土した。以上のように時代の判断できる遺物は少ない。

<SD105>

D-0区からF-2区へかけて斜めに走る幅の広い溝である。E-1区においてSD105と直角に交わるようにSD11が上層に重なっている。須恵器は坏身の底部出土しているほか、ほぼ全域にわたって、大甕の破片、高坏の脚部などが数片出土している。須恵器の年代は確定できるものはない。これらはSD105ではなくSH09、及びSD11の時代のものである可能性が高い。

<SD106>

C-2区東側からC-3区西端にかかる掘りこみである。須恵器は2416の甑あるいは鍋の取手部、蓋のつまみ部、蓋の口縁部が出土している。この甑あるいは鍋は取手より下方に平行タタキ目が施され、取手の高さで沈線が2条巡っている。蓋はかえりが無い。時代は不明である。

<Pit301>

SD04の北辺のほぼ中央に沿って台状部を削りこんだ形の掘りこみである。須恵器は1235の1片のみ出土している。これは鍋の口縁部であるが、SD101から出土した鍋1806 [PL43-03; 103-05]及びそれと接合できたSD03から出土した破片3047と同一個体と思われる。しかし、出土位置がこのようなまちまちである理由は不明である。だがSD101での遺物は溝内の焼土層から出土しているため、おそらくSD101に関連する遺物と考えられる。尚、3047はD-3区のSD04とSD03の交わるあたりから出土した。

<Pit303>

E-2区からF-2区にまたがる楕円形の掘りこみである。遺物は6005, 6008, 7017である。6005は、鉢の口縁部と胴部及び瓷器片であるが、いずれも小片で時代は不明である。6008も瓷器である。7017では、蓋、坏身の小片と瓷器の碗の高台部及び瓷器の盤がみられる。盤 [PL44-05; 104-06]は口縁部がやや薄手で上へ伸びており、おそらく8世紀頃と考えられる。ゆえにこの掘りこみは8世紀以降と推測される。

<Pit304>

E-2区ほぼ中央の掘りこみである。須恵器は6003の高坏の脚部あるいは坏身の口縁と考えられる小片が一片出土したのみである。時代は不明である。

<Pit305>

F-2区の北西部にある平面ソラ豆形の掘りこみである。須恵器は7008のマキアゲ痕がみられる

小片が一つである。器形及び時代は不明である。

<Pit307>

B-3区の西端中央部の掘りこみである。須恵器は1418の蓋の口縁部、高坏の底部等がみられる。時代は不明である。

<Pit308>

B-3区のはば中央部の掘りこみである。須恵器は1427 a の貼付け高台を持つ坏身の底部一片のみである。時代は不明である。

<Pit309>

B-3区西寄りの、Pit307の北東部に位置する掘りこみである。須恵器は1428のみで、内わけは蓋の口縁部が2片、山茶碗の高台部が1片である。蓋は、どちらも器高が高くかえりはみられない。時代は不明である。

<Pit313>

B-2区とB-3区にまたがる焼土を伴う掘りこみで須恵器は1237の坏身の高台部1片のみである。この高台部はつくりが丁寧で、高台内面はほぼ直線的だが外面は強く湾曲している。時代は不明である。

<Pit333>

D-2区の東側の、SD03、SD04及びSH04、SH10が重なる部分の上面にあった掘りこみで、東半分は未掘の為全体の形はわからない。遺物は、5017、5019、5024、5030、5033、5055、5056である。5033 [PL41-08; 101-08] は短頸壺で底部はない。時代は不明である。5056 [PL41-09; 101-09] は脚のあまり高くない高坏で同じく時代は判定できない。

<その他 - 防空壕、攪乱を含む - >

この項では遺構が確認できなかった須恵器等、遺構に伴わない須恵器等（1層、2層を含む）及び防空壕、後世の攪乱内の須恵器等について扱う。

攪乱内では、特に述べるべき遺物はない。しかし、須恵器、山茶碗などが多く江戸時代以降の陶磁器はほとんどみられない。ごくまれに青磁の小片がある。1610 [PL46-17; 107-15] は攪乱No 3からの小皿である。

防空壕では、No.6 から多量に円筒埴輪片が出土している。大半は土師質埴輪だが、数点須恵質埴輪もみられる。

次に遺構外及び、遺構未確認の須恵器についてグリットごとにのべる。

A-1区は3層下部から0008イ [PL45-10; 106-03] の坏身、0008 [PL45-01; 105-05] の長頸壺の頸部が出土している。この坏身は8世紀頃と考えられる。0013はSD103出土の台付椀0288 a [PL44-02; 104-03] と同一個体である。

A-2区の3層下部から出土した0230 [PL41-05; 101-05] の坏身は丸く、器壁は厚く、外面は底部及び底部から約2cmの部分まで回転ヘラ削りが施してあり、胎土は黒粒斑を多く含む粗い。同層からの0257 [PL41-06; 101-06] は蓋で、かえりがなくやや丸いプローションである。

A-3区は、2層から0404 [PL45-04; 105-10] の蓋、0404イ [PL47-04; 108-04] の山茶碗と

小片が一つである。器形及び時代は不明である。

〈Pit307〉

B-3区の西端中央部の掘りこみである。須恵器は1418の蓋の口縁部、高坏の底部等がみられる。時代は不明である。

〈Pit308〉

B-3区のほぼ中央部の掘りこみである。須恵器は1427aの貼付け高台を持つ坏身の底部一片のみである。時代は不明である。

〈Pit309〉

B-3区西寄りの、Pit307の北東部に位置する掘りこみである。須恵器は1428のみで、内わけは蓋の口縁部が2片、山茶碗の高台部が1片である。蓋は、どちらも器高が高くかえりはみられない。時代は不明である。

〈Pit313〉

B-2区とB-3区にまたがる焼土を伴う掘りこみで須恵器は1237の坏身の高台部1片のみである。この高台部はつくりが丁寧で、高台内面はほぼ直線的だが外面は強く湾曲している。時代は不明である。

〈Pit333〉

D-2区の東側の、SD03、SD04及びSH04、SH10が重なる部分の上面にあった掘りこみで、東半分は未掘の為全体の形はわからない。遺物は、5017、5019、5024、5030、5033、5055、5056である。5033〔PL41-08；101-08〕は短頸壺で底部はない。時代は不明である。5056〔PL41-09；101-09〕は脚のあまり高くない高坏で同じく時代は判定できない。

〈その他 - 防空壕、攪乱を含む〉

この項では遺構が確認できなかった須恵器等、遺構に伴わない須恵器等（1層、2層を含む）及び防空壕、後世の攪乱内の須恵器等について扱う。

攪乱内では、特に述べるべき遺物はない。しかし、須恵器、山茶碗などが多く江戸時代以降の陶磁器はほとんどみられない。ごくまれに青磁の小片がある。1610〔PL46-17；107-15〕は攪乱No.3からの小皿である。

防空壕では、No.6から多量に円筒埴輪片が出土している。大半は土師質埴輪だが、数点須恵質埴輪もみられる。

次に遺構外及び、遺構未確認の須恵器についてグリットごとにのべる。

A-1区は3層下部から0008イ〔PL45-10；106-03〕の坏身、0008〔PL45-01；105-05〕の長頸壺の頸部が出土している。この坏身は8世紀頃と考えられる。0013はSD103出土の台付埴0288a〔PL44-02；104-03〕と同一個体である。

A-2区の3層下部から出土した0230〔PL41-05；101-05〕の坏身は丸く、器壁は厚く、外面は底部及び底部から約2cmの部分まで回転へう削りが施してあり、胎土は黒粒斑を多く含み粗い。同層からの0257〔PL41-06；101-06〕は蓋で、かえりがなくやや丸いプローションである。

A-3区は、2層から0404〔PL45-04；105-10〕の蓋、0404イ〔PL47-04；108-04〕の山茶碗と



0404口 [PL46-11; 107-09] の小皿が出土した。この山茶碗は猿投窯で13世紀頃と推測される。蓋はかえりがあり、やや扁平で、同じく猿投の岩崎17号窯と同時代であろう。3層では0409 [PL46-09; 107-07] の瓷器の小皿と0424 [PL45-17; 106-10] の短頸壺がある。この短頸壺は古墳時代最末期とみられる。

A-4区では、2層から0602 [PL46-12; 107-10] の小皿と0617 [PL45-03; 105-07] のおそろ鉢と思われるものが出土した。A-5区3層からは山茶碗から多く出している。0806 [PL47-08; 108-08] は13世紀の山茶碗である。0806口 [PL46-01; 106-12] は手びねりのような厚手の坏身で、祭祀用のかわらけかもしれない。0806 [PL46-13; 107-11] は小皿である。0807 [PL47-01; 108-01] の山茶碗は13世紀初めから中頃の猿投窯のものであろう。0808 [PL47-10; 108-10] も13世紀の山茶碗である。出土位置は、0806はいずれもA-5区の北側の住居址SH13と考えられる部分の上層で、0807はA-4区北壁真際から、0808は地山直上からであった。0808のレベルは10.14mである。0806は0807、0808より上面に認められた。しかし、住居址との関係ははっきりせず、住居址の床面も検出されていない為あえてここに記した。

B-1区では、北部から1031 [PL45-02; 105-06] の長頸壺の頸、1032 [PL45-09; 106-02] の蓋が出土した。この頸はおそらく9世紀とみられる。

B-2区では2層から1202 [PL46-14; 107-12] の小皿、3層から1204 [PL45-08; 106-01] の蓋が出土している。

B-3区はピットが大変多いうえ、遺構が複雑に入り組んでいて、2層、3層の遺構は全く確認できなかった。

1401 [PL46-03; 107-01] の片口鉢は2層全体に破片がちらばっていた。  
1415 [PL46-08; 107-05] の手付瓶はグリップの中央の3層 (レベルは10.26m) でまとまって出土した。しかし、それに伴う遺構は認められなかった。ただし、北側からB-2区東側にかけて住居址の壁のような立ち上がりが残っていた。これがこの手付瓶に伴う遺構の残存である可能性は大きい。1422 [PL45-11; 106-04] の坏身は、レベル10.06mであった。

1424 [PL45-06; 105-10] は区の南西隅3層からであり、1425 [PL45-05; 105-09] の蓋は区の西端中央部3層 (レベルは10.00m) であった。どちらともつまみ付近に回転へう削りか施してある。特に1425は完形であり、3層が総てが単なる包含層とは言えないことを物語っている。1430 [PL46-15; 107-13] は2層からの小皿である。1437 [PL45-12; 106-05] は底部に回転へう削りのある坏身である。これは区の北部のやや高くなった部分の西端から出土した。

以上から、1415の手付瓶を伴う遺構が存在したとするなら、1425の蓋もそれに関連する可能性がある。この蓋は手付瓶とは無関係であるとしても、完形品であり何らかの遺構に伴うものであるとも考えられる。

B-4区は大きくSD101がかかっており、SD101の埋土とそれより上層は3層の下部と上部を境とした。1606 [PL46-16; 107-14] は北東隅の2層から出土した完形の小皿である。1608 [PL47-05; 108-05] と1608口 [PL47-09; 108-09] の山茶碗はともに南西の隅の2層で、レベルは10.37mであった。1608は13世紀の猿投窯とみられ、1608口は瀬戸で生産されたものと考えられる。1611 [PL46-18; 107-16] と1611口 [PL46-19; 107-17] はやはり2層からの小皿である。1612 [PL47-06; 108-06] は北西部の2層の13世紀の猿投窯とみられる山茶碗で、レベルは、10.47mであった。1638 [PL47-03; 108-03] も北西区3層出土の山茶碗である。1648 [PL45-07; 105-11]

は北部2層からの蓋である。この区は2層、3層からの山茶碗等の出土が特に多いため、SD101より上層に山茶碗等を伴う遺構が存在した可能性もあるが、確認することは出来なかった。

C-2区では2212 [PL45-18; 106-11] の高坏がある。SD106の西脇の小Pitから出土した。

C-3区の3層では2415 [PL47-02; 108-02] (レベルは10.21m) の山茶碗、2437イ [PL45-13; 106-06] の坏身、2437ロ [PL45-15; 106-08] の坏身 (レベルはともに10.31m)、2458 [PL46-20; 107-18] の小皿がみられる。2415はグリットの北部、他はさらにそれより北側のA-3区との境界部分から出土した。2437イ、2437ロは同時代と見られるが、特に遺構は確認できなかった。また近代井戸の南部分一帯に焼土が広がっているのがレベル10.3mほどで検出されたが、それとの関連もはっきりしなかった。

2452 [PL41-07; 101-07] の坏身はC-3区の東側すなわち方形周溝墓の東辺の南半分のやや北寄り、埋土最上層から出土しており、ほぼ平らな底部から直線状に口縁へと伸び、やや外に開いた高台が付く。おそらく8~9世紀と考えられる。

C-4区の2層からは2607 [PL46-10; 107-08] の瓷器の小皿がみられた。

D-4区からは東側の3層で3221 [PL47-07; 108-07] の完形の子茶碗が出土している。これは猿投窯の13世紀のものとみられる。上向きに出土した。この付近にはPit331と名付けた性格不明の掘りこみがあり、この子茶碗もそれに関連した遺物の可能性があるが明瞭ではない。

F-1区では3層から7202 [PL46-02; 106-13] の釉の厚くかかった瓷器の蓋がみうけられる。

F-2区では3層から7004 [PL46-06; 107-04] の9世紀とみられる瓷器の碗が出ている。北側の同じ3層から7011 [PL46-04; 107-02] の瓷器の皿が出土した。これはPit303の上部だったので、Pitの埋土かもしれない。このPitからは7017 [PL44-05; 104-06] の盤が出土している。

F-3区は、4208 [PL46-07; 107-06] の碗が東南の2層から出土した。これは12世紀の子茶碗の最も古いものと考えられる。また東側3層からは4209 [PL45-14; 106-07] の坏身がでた。南側からは、4219 [PL45-16; 106-09] の短頸壺が出土している。G-3区の3層からは4804 [PL46-05; 107-03] の灰釉三足盤が出土した。これと類似した三足盤は黒笹5号窯でみられる。

### 第3節 器種・時代・産地等について

次に、器種、時代、産地などから遺物を概観したいと思う。時代、産地ともに不明な遺物が多いが判明するものに関しては、およそを以下に述べる。

#### (1) 蓋、坏身、短頸壺

5世紀頃と考えられる蓋3632 [PL41-01; 101-01] がSD02から出土している。これは器高が高く稜が巡り、高坏の蓋かと思われる。この地方で作られたのではなく、他の地域から搬入されたのかもしれない。

古墳時代終末期とみられるものに、坏身が2点ある。

1669 [PL42-15; 102-15] は口径が大きく高台が付き、1682 [PL42-09; 102-09] は立ち上がりを持つ。共にSD101内の遺物である。

やや時代が下がり、古墳時代最終末期の遺物には、坏身が1点1804 [PL42-10; 102-10]、蓋が4点1656口 [PL42-01; 102-01]、1676 [PL42-02; 102-02]、1805 [PL42-03; 102-03]、5228 [PL44-06; 104-07]、短頸壺が1点0424 [PL45-17; 106-10] がある。1804の坏身は内傾した立ち上りを待つ。1656口の蓋は、稜が巡るがやや扁平である。1676もほぼ同様だが、比較的天井部が丸い。1805は稜が不明瞭になっている。5228はこれらの中で最も丸みが残る。0424は、肩部に浅い沈線を持ち頸部は真っ直ぐに伸びる。1804、1656口、1676、1805はSD101の遺物であり、5228はSH04から出土した。

8世紀頃とみられる坏身は4点ある。0008イ [PL45-10; 106-03]、1642 [PL42-19; 102-19]、1648 a [PL42-17; 102-17]、1661 [PL42-13; 102-13] である。0008イと1661は、共に切り離しが回転糸切りで、高台は無く、口縁はやや外反する。1642と1648 aは高台が付く。1642、1648 a、1661はすべてSD101内から出土した。

蓋には1点、岩崎17号窯の製品と類似したものがみられる。0404 [PL45-04; 105-08] である。これは、やや退化しかけた「かえり」を持ち、不明瞭な稜が巡る。また蓋は、ほぼ9世紀頃と考えられるものが多く、1032 [PL45-09; 106-02]、1204 [PL45-08, 106-10]、1424 [PL45-06; 105-10]、1641イ [PL42-04; 102-04]、1648 [PL45-07; 105-11]、1650 [PL42-05; 102-05]、1672 [PL42-07; 102-07]、2407 [PL44-04; 104-04]、(1641イ、1650、1672はSD101内、2407は炉址から出土) は、すべて同時代とみて良いであろう。

その他、時代的に等しいと考えられるもの同志の組み合わせは、坏身では、

i) 1422 [PL45-11; 106-04]、1437 [PL45-12; 106-05]、1639 [PL42-12; 102-12]、2437イ [PL45-13; 106-06]、2437ロ [PL45-15; 106-08]、4209 [PL45-14; 106-07] (1639はSD101内より出土) の組み合わせ、

ii) 1651 [PL42-18; 103-01]、2452 [PL41-07; 101-07] (1651はSD101内、2452はSD04内より出土) の組み合わせ、

iii) 1641ロ [PL42-11; 102-11]、1662 [PL42-14; 102-14]、5003 [PL44-09; 105-03]、5043 [PL44-08; 104-09] (1641ロ、1662はSD101内、5003はSH10、5043はSH04より出土) の組み合わせである。

蓋では、1425 [PL45-05; 105-11]、1668 [PL42-06; 102-06] (1668はSD101内より出土) が同時代と考えられる。

#### (2) 瓷器、山茶碗

8世紀と推定される遺物は、碗が1点6220 [PL44-10; 104-10]、皿が1点7011 [PL46-04; 106-04]、盤が1点7017 [PL44-05; 104-06]である。7011は、釉が流しがけのようにかかっている。6220はSH05から、7017はPit303から出土した。

9世紀とみられる、厚く釉のかかった蓋7202 [PL46-02; 106-13]も出土した。山茶碗の初期の段階と考えられるものは、片口鉢1401 [PL46-03, 107-01]、施釉された碗4208 [PL46-07; 106-07]が挙げられる。1401は釉はかかっている。4208は内面全体にまんべんなく釉がかけられており、丁寧な作りである。

手びねりのような、厚手のいびつな坏身が1点0806口 [PL46-91; 106-12]出土した。これは、祭祀用のかわらけの可能性もある。常滑で生産されたものかもしれない。

山茶碗は、猿投窯の初期であろうものが3点0807 [PL47-01; 108-01]、1638 [PL47-03; 107-03]、2415 [PL47-02; 108-02]ある。13世紀と考えられるものも5点0404イ [PL47-04; 108-04]、0806イ [PL47-08; 107-08]、1608イ [PL47-05; 108-08]、1612 [PL47-06; 107-06]、3221 [PL47-07; 107-07]が出土した。瀬戸で生産されたと推測されるものも、1点1608口 [PL47-09; 108-09]が混じっている。また、1点0808 [PL47-10; 108-10]生産地も時代も不明の山茶碗がある。これは、口縁部が強く外反する点が他と異なる。

### (3) その他

他の器形に関しては、碌0288a [PL44-02; 104-03]は岩崎41号窯の製品と類似している。同様に、台付碌1678 [PL43-06; 103-06, 07]は、岩崎17号窯の製品に類型品がみられる。前者はSD103から、後者はSD101から、出土した。

SH04出土の甌5221 [PL44-11; 105-1, 02]は須恵質であったが、この地方では須恵質甌はかなり後代まで残るため、時代は判断できない。

## 第4節 小 結

以上のことから言えることは、遺構全区に於いて出土した遺物の時代がばらばらであるということである。このことは、特にSD101で強くみられる。ここでは、遺物の時代がまちまちであるだけでなく、埋土の層序に関係無く古いものと新しいものとが混じりあって出土している。それゆえ、この溝の時代や性格は判断し難い。

また、全体的に精製品が少ないということも言えよう。このことは、坏身一つをとってみても、焼成の良くないものや歪んでいるものが目立つことから示される。これらは非実用品であったのか、住居址等からの須恵器類が一般的に粗雑なつくりのものが多いのか筆者には言及し難い。

この遺跡の須恵器の時代はばらばらであり、かつ、遺構内でも遺物は錯綜している。しかし、そういう状態について考慮すべき証拠は全く見出せなかった。出土遺物の時代は、SD02出土の5世紀頃の蓋を除いて、ほとんどが古墳時代終末期以降である。結論としては、以上のことを指摘するにとどめておく。(近藤)

## 第5節 須恵器観察表

3632 [PL41-01; 101-01] は蓋で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径10.7cm, 器高6.6cm, つまみの最大径5.6cm, つまみ高1.2cmである。〈焼成〉は極めて良好で、〈色調〉は黒色で内面は黒灰色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。稜から口縁までの部分およびつまみは貼付け。〈調整〉は内外面とも回転ナデでロクロは右回り。つまみの貼付け部は回転ヘラ削り。〈備考〉つまみは宝珠のつまみで稜は明瞭である。端部は丸みを帯びるが、断面は四角につくっている。かなり剥離しているが釉がかかる。外面に粘土片がついている。

6006イ [PL41-02; 101-02] は広口壺で蓋が残存する。〈法量〉は口径10.4cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉はやや白味があった青灰色。〈胎土〉は精緻で0.5mm程の砂粒をごく僅かに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。〈備考〉口縁は面取りがしてあり、尖る。肩は張る。口縁内側に浅いへこみ。[反転復元]

6006 [PL41-03; 101-03] は高坏で、坏身部が、脚部が残存する。〈法量〉は口径11.6cm, 器高8.4cm, 脚部径8.8cm, 脚部高4.0cm, 基部径2.6cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は明青灰色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。脚部は貼付け。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。〈備考〉端部は丸く、内面に段がついている。外面には沈線が1条はある。基部は細くつくっている。脚部は短くその端部は断面ほぼ四角形で厚みは場所によって違い、かなり歪んでいる。

6007 [PL41-04; 101-04] は蓋で、口縁はほとんどない。〈法量〉は口径16.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は天井部にやや自然釉がついて剥がれており、その他は黒褐色と赤褐色のまだら。内面は黒褐色ではほぼ全体に自然釉がつき、緑褐色で部分的に剥がれている。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。稜下部に2本の沈線があるのはその際石が動いたものか。〈備考〉かなり歪んでいる。口縁内面に段があるかも知れない。[反転復元]

0230 [PL41-05; 101-05] 0240, は坏身で、底部から胴部が残存する。〈法量〉は底径4.6cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は内面は青灰色に黒色の砂粒の焼けがある。外面は黄灰白色に黒斑があり黒い斑点は内面より大きい。〈胎土〉はやや粗く、0.1~10.0mm程の黒色粒を多量に含む。しまりは良くない。〈成形〉はマキアゲミズビキである。〈調整〉は内外面とも回転ナデが施された後、外面底部とその周囲は回転ヘラ削り(左回り)。〈備考〉全体に丸みを帯び、器壁は厚い。内面底部に回転ナデの際の指の回転痕が明瞭にみられる。[反転復元]

0257 [PL41-06; 101-06] 0230, 0284, 0240, は蓋で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径17.3cmである。〈焼成〉は良好である。〈色調〉は明青灰色で、内面はやや白味が強い。〈胎土〉は精緻で、1.0~5.0mm程の砂粒をまばらに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキで、つまみは貼付けである。〈調整〉は内外面とも回転ナデで、つまみの周囲は回転ヘラ削りである。〈備考〉やや丸みを帯びたプローション。天井部周囲は厚い。内側に水で流れたような痕跡がある。[反転復元]

2452 [PL41-07; 101-07] は坏身である。〈法量〉は口径11.3cm, 器高3.8cm, 高台径3.8cm, 高台高0.6cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は明灰色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。貼付け高台。〈調整〉は内外面とも回転ナデでロクロは左回り。〈備考〉高台の付け根の所に、成形時の痕がみられる。端部は丸いがやや尖りぎみ。

5033 [PL41-08; 101-08] は有蓋短頸壺で、口縁部ㇿが残存する。〈法量〉は口径8.6cm, 最大径11.4cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は黄味を帯びた青灰色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。〈備考〉おそらく頸部は真直ぐ伸び、端部は尖りぎみ。肩部は張る。[反転復元]

5056 [PL41-09; 101-09] は高坏で、坏部～脚部の一部が残存する。〈法量〉は基部径が3.7cmである。〈焼成〉は不良で、〈色調〉は黄味を帯びた青灰白色。〈胎土〉はやや粗く、0.1～1.0mm程の砂粒を多く含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。脚部は貼付け。〈調整〉は回転ヘラ削りが脚部周りに施される。内外面ともナデ。坏身部中央は一定方向のナデ。ロクロは右回り。〈備考〉全体にマキアゲ痕は明瞭に残る。沈線はおそらく砂粒の移動によるもの。脚はあまり背が高くないと思われる。坏身部内底部に指痕が3つつく。しぼり目がみられる。

1656ロ [PL42-01; 102-01] は蓋で、口縁部ㇿが残存する。〈法量〉は口径11.2cm, 器高3.6cm, である。[焼成]は極めて良好で、〈色調〉は青灰色。外面一部は黒みをおびる。〈胎土〉は精緻で、径1.0mm程の砂粒を稀に含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内面は回転ナデだが、中心の径4.5cm程は回転ナデではなく指おさえ、外面は回転ナデで天井部はヘラ削りでロクロは左回り。天井部の中央径3cm程は未調整のまま。〈備考〉端部は着地面を平らにつくってあり、断面は四角。稜は沈線で表現してあり。比較的明瞭である。稜から口縁にかけては、沈線直下でやや外へ張らむがほぼ垂直に下へ伸びる。天井部は丸みをおびるが、中央部3cm位の範囲では平らである。全体のプロポーシオンはやや偏平だがまだ丸みを残す。

1676 [PL42-02; 102-02] は蓋で、ㇿ強が残存する。〈法量〉は口径9.6cm, 器高3.6cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は内外面ともに暗黒青灰色。但し天井部は自然釉剥落のため、まだらな白色。〈胎土〉は精緻で、0.5～2.0mm程の砂粒を若干含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。天井部ㇿは回転ヘラ削り。〈備考〉端部は丸みを帯びる。稜は突出しており明瞭な沈線で表現されている。天井部中心付近はやや平らな感じ。[反転復元]

1805 [PL42-03; 102-03] は蓋で、口縁部ㇿが残存する。〈法量〉は口径10.8cm, 器高3.2cm, である。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は青灰色。黄灰色の土が天井部のヘラ削り部分にマーブル状に認められる。〈胎土〉は精緻で、0.3mm程の砂粒をやや含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は天井部は回転ヘラ削りでロクロは右回り。内面は回転ナデでその後中心は指押さえ。〈備考〉稜はあまりはっきり突出していない。口縁は僅かに外反し、端部は丸くなってやや尖る。ナデは外面はあまり明瞭ではないが内面ははっきり残る。内面中央部に回転ナデの時につけられたと思われる窪みがある。窪みの中にもナデのあとがあるので、こうなったのはたぶんナデ調整後だが原因はよくわからない。この窪みは外面には影響していない。内部中央付近に指紋が数ヶ所みられる。内外面ともに火ぶくれがいくつかある。おなじく内外面に薬くず痕がある。

1641 [PL42-04; 102-04] は蓋で、「かえり」一部欠損 〈法量〉は口径13.4cm, 器高3.5cm, つまみ径2.1cm, つまみ高0.7cmである。〈焼成〉は極めて良好で、〈色調〉は暗青灰色。〈胎土〉は精緻で、径0.1mm～0.5mm程の砂粒をまばらに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。「かえり」は貼付け。〈調整〉は内面は回転ナデ。ロクロは右回り。外面は天井部ㇿ～ㇿは回転ヘラ削り。ロクロは右回り。つまみは回転ナデ。〈備考〉つまみはかなり偏平な宝珠つまみで、稜ははっきりしない。「かえり」は短く、外側に浅い沈線を施す。端部は丸い。全体のプロポーシオンはやや丸みが強い。

1650 [PL42-05; 102-05] は蓋で、約 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径14.2cm, 器高3.3cm, つまみ径2.2cm, つまみ高0.9cmである。〈焼成〉は良好で〈色調〉は明青灰色。〈胎土〉は精緻で、径0.1~0.5mm程度の砂粒を多少含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。つまみは貼付け。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。天井部約 $\frac{1}{2}$ は回転ヘラ削りで回転は右回り。つまみは回転ナデでロクロは右回り。〈備考〉つまみは宝珠のつまみ。「かえり」は断面“く”の字になる部分と緩やかに外反する部分がある。粘土片が外表面に付着している。[反転復元]

1668 [PL42-06; 102-06] は蓋で、かえりの一部が欠損。〈法量〉は口径13.3cm, 器高3.5cm, つまみの最大径2.2cm, つまみ高0.8cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は黒灰色。内面は茶灰色。〈胎土〉は精緻で、1.0mm前後の砂粒をやや含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。「かえり」は貼付け。〈調整〉内面は回転ナデ。外面は天井部 $\frac{1}{2}$ が回転ヘラ削りで残りは回転ナデ。つまみは回転ナデでロクロは右回り。〈備考〉端部は丸く、「かえり」は“く”の字を呈す。つまみは宝珠つまみだが、かなり扁平で均整がとれていない。

1672 [PL42-07; 102-07] は蓋で、口縁部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径19.5cm, 器高4.15cm, つまみ径3.2cm, つまみ高0.7cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は青灰色。外面の一部は黒灰色。〈胎土〉はやや粗く、径0.1~0.5mm程度の砂粒を少量含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。「かえり」は折り込み。つまみは貼付け。〈調整〉は内外面とも回転ナデでロクロは右回り。天井部の約 $\frac{1}{2}$ は回転ヘラ削りで回転は右回り。つまみは全体に回転ナデでロクロは右回り。〈備考〉つまみは扁平な宝珠つまみ。稜は不明瞭で「かえり」も短く、多少“く”の字状を呈す。端部はやや尖り気味であるが丸い。「かえり」が折り込み手法のため、内側に沈線(図参照)をもつ。[反転復元]

1680 [PL42-08; 102-08] は坏身。口縁部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径11.6cm, 器高5.1cm, 底径2.6cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は内外面とも青灰色で外面はやや淡い。〈胎土〉は精緻で、0.1~0.5mm程の砂粒を若干含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉内外面ともに回転ナデ。但し胴部外面下部は回転ヘラ削り。〈備考〉口縁部は外反。肩はがる。[反転復元]

1682 [PL42-09; 102-09] は坏身で、口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損。〈法量〉は口径9.8cm, 器高3.6cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は内面がやや緑色を帯びた暗灰色で、外面は暗灰色。〈胎土〉は精緻で、径1.0mm程の砂粒を若干含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。静止ヘラ切り。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。内定部は不定方向の横ナデ。外底部はヘラ切り後不定方向の横ナデ。〈備考〉立ち上がりは内傾し、受け部に沈線がみられる。

1804 [PL42-10; 102-10] は蓋で、口縁部 $\frac{1}{2}$ , 底部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径9.0cm, 器高3.5cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は内面は青灰色で赤褐色斑がややある。外面は青灰色。立ち上がり部を除いて、全体に黄白色の土(焼成時のもの)が厚くつく。〈胎土〉はややきめが粗い。〈成形〉はマキアゲミズビキ。立ち上がりは貼付け。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。〈備考〉立ち上がりはやや丸みを持ち、端部は丸い。受部は尖る。[反転復元]

1641口 [PL42-11; 102-11] は坏身で、 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径13.8cm, 器高4.2cm, 底径7.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は青灰色で、口縁はやや黒味がかかり、底部は茶色味がかかる。内面は青灰色で、内底部は緑色を帯びる。〈胎土〉はややきめが粗く、0.1~2.0mm程の砂粒を含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。回転糸切り。〈調整〉は内外面も回転ナデ。〈備考〉底部は平らで糸切りが痕がよく残る。内外面ともナデ痕は明瞭。口縁はやや外反し端部は少し尖

る。[反転復元]

1639 [PL42-12; 102-12] は坏身で、体部 $\frac{1}{4}$ 欠損。〈法量〉は口径12.8cm, 器高3.6cm, 底径7.1cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は黒茶灰色。側面外側の一部(口径の $\frac{1}{4}$ 程度。高さ $\frac{1}{4}$ )が黒色。〈胎土〉は精緻で、径0.1~2.0mm程度の砂粒を少量含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。底部は回転へら削り。共にロクロは右回り。〈備考〉端部はやや尖り気味だが丸く外反する。体部下方向僅かに外反する所も見られる。底部のへら削りの角度の変化がきつい。

1661 [PL42-13; 102-13] は坏身で、底部口縁部 $\frac{1}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径13.1cm, 器高6.0cm, 底径4.3cmである。〈焼土〉は良好で、〈色調〉は内外面ともに明赤褐色で口縁は黒褐色。〈胎土〉はややききめが粗く、0.1~1.0mm程の砂粒をまばらに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。回転糸切り。右回り。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。糸切り痕は未調整。〈備考〉口縁部はやや外反し、端部は少し尖る。底部は高台状に僅かに立ち上がる。外底部にへらあとが2条ある。裾部に指のあとが残る。

1662 [PL42-14; 102-14] は坏身で、口縁部 $\frac{1}{4}$ が残存する。〈法量〉は、口径12.3cm, 器高4.6cm, 底径6.0cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は黄青灰色。〈胎土〉は粗い。〈成形〉はマキアゲミズビキ。回転糸切り。ロクロは左回り。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。糸切り痕は未調整。〈備考〉内底部の中心が少し盛り上がっている。口縁が所々欠けているが、焼き具合の為にもろいと考えられる。底部はほぼ平らで、やや外方に立ち上がり、そこからさらに上方へ直線的に伸びる。口縁は僅かに外反し、端部はやや尖る。外底部に粘土粒がついている。[反転復元]

1669 [PL42-15; 102-15] は坏身で、口縁部の一部欠損。〈法量〉は口径17.4cm, 器高4.0cm, 高台径9.5cm, 高台高0.6cmである。〈焼成〉は良くなく、〈色調〉は茶灰白色。〈胎土〉は精緻で、径2.0mm程度の砂粒をごく僅かに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。貼付け高台。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。高台内はへら削り。ロクロは右回り。〈備考〉端部は面取りが施されている。やや外反。内定部は極めて歪んでいる。高台はよく調整されている。高台内は一筋へら跡がある。

1670 [PL42-16; 102-16] は坏身で約 $\frac{1}{4}$ が残存するが、立上がりは1cm位しか残っていない。〈法量〉は口径13.8cm, 器高3.0cm, 底径10.6cmである。〈焼成〉は極めて良好で、〈色調〉は緑灰色(内面は青灰色)。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。貼付け高台。〈調整〉内外面とも回転ナデ。〈備考〉高台は貼付けで、やや外側に開き、貼付部外面は浅い沈線状を呈し、内面は緩やかにカーブしている。高台底部の外から $\frac{1}{4}$ の所で着地する。底部はやや丸みをもつ。内底面はマキアゲの痕跡が僅かにわかる(手で触れるとわかる程度)。内底面と胴部との区別は比較的明瞭である。内底面に一ヶ所指に擦ったような跡がある。[反転復元]

1648 a [PL42-17; 102-17] は皿で、 $\frac{1}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径15.4cm, 器高2.6cm, 高台高0.9cm, 高台径8.7cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は茶灰色(内面中央部はやや黄味を帯びる)。〈胎土〉はやや粗い。〈成形〉はマキアゲミズビキ。貼付け高台。〈調整〉内外面とも回転ナデ。ロクロは左回り。〈備考〉端部はやや尖り気味で端部上面は平らになり、外面は開いた“く”の字を呈す。高台は丁寧につけられ、やや外反する。高台はややふくらむ。端部付近に釉がかかる。[反転復元]

1651 [PL42-18; 103-01] は坏身で、 $\frac{1}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径16.0cm, 器高5.85cm, 高台



径9.4cm, 高台高0.69cmである。〈焼成〉はやや良で, 〈色調〉は赤茶灰色。底部との変化点のところから口にかけて青灰色を帯びるところもある。〈胎土〉は精緻で径0.1~1.0mm程の砂粒が少量含まれる。〈成形〉マキアゲミズビキ。貼付け高台。〈調整〉は内外面ともに回転ナデでロクロは左回り。〈備考〉端部は丸い。高台の断面は四角に近い。指跡が内外面に一ヶ所ずつあり, 他にも何かで擦ったような跡が数ヶ所ある。底部に一本線がひいてある。〔反転復元〕

1642 [ PL42-19 ; 103-02 ] は坏身で, 口縁部が残存する。〈法量〉は口径18.8cm, 器高5.2cm, 高台径12.5cm, 高台高1.0cmである。〈焼成〉は良い(部分的に不良)。〈色調〉は淡黄褐色。〈胎土〉は比較的精緻で, 0.1mm~2.0mm程の砂粒をまばらに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。貼付け高台。ロクロは右回転。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。高台内は回転ヘラ削り。〈備考〉大変に歪んでいる。高台にもヒビが入っている。胴部はやや外へ張り出して上方に伸び, 内底部はゆるやかにへこんでいる。高台は貼付けの様子がよくわかり, 高台内はヘラで削ってあるため僅かな稜が見られる。腰部付近に指紋がある。内底部中心にナデの際の指のあとが残っている。〔反転復元〕

1812 [ PL43-01 ; 103-03 ] は高坏で, 脚部口縁すべて欠損。底部が残存。〈法量〉胴部径16.0cm, 基部径5.0cmである。〈焼成〉は良好で, 〈色調〉は暗青灰色。〈胎土〉はやや粗く, 1.0~5.0mm程の砂粒をまばらにして含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。脚部は貼付け。2ヶ所スカシ。〈調整〉は脚部の周囲に回転ヘラ削りでロクロは右回転。内外面とも回転ナデ。スカシはヘラで切っている。沈線は回転。〈備考〉全体に丸みを帯びている。内外面ともマキアゲ痕は明瞭。脚部の貼付けは丁寧に施されている。〔反転復元〕

1671 [ PL43-02 ; 103-04 ] は長頸壺で, 口縁部が残存する。〈法量〉は口径6.1cmである。〈焼成〉は極めて良好で。〈色調〉は外面は暗青灰色に黒粒斑。口縁や基部は自然釉が多くかかり緑褐色。内面は青灰色で黒, 緑の釉がかかる。〈胎土〉は精緻だが, 0.1~0.5mmの砂粒をやや含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。しぼり目は内外面ともやや残る。〈調整〉は回転ナデ。〈備考〉上部と下部が僅かに開く。端部は斜めに面がとられている。〔反転復元〕

1806 [ PL43-03 ; 103-05 ] 1235, 3047, は外耳鍋で, 口縁から底部まで約をを残す。〈法量〉は器高21.2cm, 口径29.8cmである。〈焼成〉はやや良で, 〈色調〉は内外面ともに明灰色。〈胎土〉はやや粗く, 0.1~0.5mmの白色砂粒を全体に含む。〈成形〉はマキアゲミズビキである。〈調整〉は外面上部半ほどはタタキ押え(平行条痕)の後に回転ナデをし, 下部は一部にタタキ押え(平行条痕)の痕が残るが底部はすり減って不明である。取手とその周りには不定方向の横ナデが見られる。内面は上部半ほどはタタキの後の回転ナデで, 底部は指で丁寧に押さえてあるものと思われる。〈備考〉口縁部は平らで面取りがしてある。口縁から真っ直ぐ下に下がった後, 緩やかなカーブを描いて底部に達する。底部はやや平らである。取手は上部半ほどのところに上外方に向かって貼付けられている。〔反転復元〕

1683 [ PL43-04 ; 103-08, 09, 10 ] は提瓶で, 口縁すべて欠損。〈法量〉は体部最大径8.7cm, 残存高13.1cm, 基部径3.4cmである。〈焼成〉は良好で, 〈色調〉は青灰色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は口縁直下から基部の5mm上にかけて, 幅2mm程で縦方向の調整痕が3段みられ, その上からヘラで横方向に削った痕や指痕がみられる。ヘラ記号がある面は, ヘラ記号のまわりを各周程回転ヘラ削りしてあるか, その他も小さな傷跡が多くある。反対の面は回転ナデがしてあるようだが, 丁寧な調整である。頸部の内面は, 少なくとも実測した部分までは回転ナデが施されている。フタは凶面と反対側でしている。〈備考〉端部は欠損の為わからない

いが、口縁部は外反して“く”の字状を呈す。頸部は細い、図面と反対側でフタをしているが、その分外方へ張り出し、指で触れると薄い。器表面には、細かい（径0.1mm以下）の穴が多くあいている。ヘラ記号有り。

1677 [PL43-05; 104-01] は甕で、口縁から肩部までが残存する。〈法量〉は口径24.0cm、頸部径18.0cm、残存高25.2cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は胴部が明黄茶灰色。頸部が赤味を帯びた茶灰色。頸部から肩にかけて一部黒緑灰色の自然釉がかかる。内面は胴部が明灰茶色。頸部が明灰茶色。口縁内部の一部に自然釉がかかる。〈胎土〉は精緻で、径0.5~1.0mm程の黒色砂粒をまばらに全体に含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は平行条線のタタキ押さえ。内面はスリケシ。頸部の内外面は横方向の回転ナデ。〈備考〉胴部外面は平行条線のタタキ押さえが見られる。胴部内面には頸部との接合痕が残る。胴部内面は同心円状のタタキ目をスリケシている。頸部は口縁に向かってやや上外方に開く。口縁は面取りがしてあり“ハ”の字状に内傾する。肩はあまり張らずになだらかに下方へ下がる。頸部を胴部にはめ込んで接合しており、接合部には灰色の粘土が見られる。

1678 [PL43-06; 103-06, 07] は疎で、体部頸部のみが残存する。〈法量〉は残存高7.5cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は青灰色。自然釉のかかった所は黒灰色と灰白色のまだら。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内面は基部までは回転ナデが確認される。外面は回転ナデ（左回り）。〈備考〉基部はかなり細く、上方へ外反する。口縁部は欠損。肩部はほぼ真直に下外方に下り、体部最大径は肩部より少し下がったほぼ体部中央に位置し、底部は丸い。体部はほぼ中央に円孔を受け口状に穿っている。この孔に向かって不定方向のナデがみられる。

0434 [PL44-01; 104-02] は高坏で、脚部のみが残存する。〈法量〉は残高5.3cm、底部10.6cmである。〈焼成〉は極めて良好で、〈色調〉は青灰色である。脚部は黒灰色の自然釉がかかり、一部剥離している。〈胎土〉は精緻で、径1.0mm程度の砂粒を少量含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。坏身部と脚部は別々に成形して接合してある。稜は貼付けである。〈調整〉は内外面とも回転ナデである。〈備考〉坏身部はほとんど欠損し、形状は不明であるが残存部を見る限り坏身部内底部は平らである。頸部は細く坏身部との境があまりはっきりしない。脚部は低く基部（頸部）からはほぼ真横に伸び稜を作って外下方へ下る。稜は尖っており貼付けと思われる。稜の下からはその上よりも傾斜が急になっている。脚部端部は丸く、内部で着地している。脚部の底部はかなり歪んでいる。脚部内部は中空である。

0288 a [PL44-02; 104-03] は台付疎で、胴部のみが残存する。〈法量〉体部最大径7.7cm、基部径2.1cm、残存高5.8cmである。〈焼成〉は良好である。〈色調〉は肩部は青灰色。肩部から下方は自然釉がかかり、赤茶灰色。〈胎土〉は精緻で、〈成形〉はマキアゲミズビキである。〈調整〉は内外面とも回転ナデである。〈備考〉基部は細く肩はほぼ直線状で、胴部はゆるくカーブし、底部はやや尖る。胴部には3~5つのクシ目が施され、その上方に浅い沈線が一周する。円孔は体部最大部に斜めに穿たれており、その周囲に受け口状になるように粘土が盛り上げられている。円孔の周囲上半分は剥がれて、下のクシ目が確認でき、また穿孔した際の粘土の盛り上がり、内外面とも円孔の周囲に明瞭にみられる。高台はほぼ全体が欠損している。高台内にヘラ記号がある。

0287 a [PL44-03; 104-05] は鉢で、口縁部のみが残存する。〈法量〉は口径15.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は青灰色であり、内面は青灰色だが底部は白っぽい。〈胎土〉は精緻で、

1.0~4.0mm程の砂粒を若干含む。〈成形〉はマキアゲミズビキである。〈調整〉は内外面とも回転ナデで、外面底部は回転ヘラ削りである。内面底部は一定方向の横ナデである。〈備考〉口縁には面取りがなされる。口縁付近でやや内傾する。〔反転復元〕

2407 [PL44-04; 104-04] は蓋で、端部一部欠損。〈法量〉は口径14.8cm、器高3.2cm、つまみ径3.0cm、つまみ高0.7cmである。〈焼成〉は極めて良好で、〈色調〉は外面は青灰色で端部付近は黒灰色。内面は端部及び周辺部は赤茶灰色で中心部分は明青灰色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。つまみと「かえり」は貼付け。〈調整〉は内外面とも回転ナデでロクロは右回り。天井部は回転ヘラ削りでロクロは右回り。つまみは回転ナデでロクロは右回り。〈備考〉つまみは偏平だが四角くはなく、中心でやや尖る。端部は尖る。内外面に黒斑が少しある。

7017 [PL44-05; 104-06] は盤で口縁部が残存する。〈法量〉は口径29.4cm、器高4.4cm、高台径13.2cm、高台高1.4cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は淡黄灰白色。〈胎土〉は精緻で、0.1~2.0mm程の砂粒を含む。〈成形〉はロクロー本ビキ。貼付け高台。ロクロは右回り。〈調整〉は内外面とも回転ナデで高台内は回転ヘラ削り。〈備考〉内面は中心でややおちこむが、そこから端部にかけてはほぼ真直ぐでゆるやかにカーブして上外方に伸びる。台内はナデ及びヘラ削りの際の石でできた沈線が入る。高台は丁寧に仕上げられており、内側が僅かに角ばる。〔反転復元〕

5228 [PL44-06; 104-07] は蓋で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径13.4cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は暗青灰色。内面は口縁部を除いては青灰色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。ロクロは右回り。外面天井部に不定方向のナデが若干見られる。〈備考〉端部はやや丸い。稜ははっきりした沈線によって表現されている。全体のプロポーシオンは丸みを帯び、天井部は欠けているが、残存部分から見る限り、平らな面をつくるようにはみえない。ただし内面天井部は外面天井部に比べやや平らになっているようである。〔反転復元〕

5049 [PL44-07; 104-08] は短頸壺で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径9.4cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は灰褐白色。〈胎土〉は精緻で、0.1~2.0mm程の砂粒を少し含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。〈備考〉頸部はほぼ真直ぐに立ち上がる。体部は一度張り出して下部へ続くが、欠けている所で外面がやや外へ伸びているのでくわしい器形は不明。頸部内面はつまみ上げ痕が明瞭にわかり端部は尖る。〔反転復元〕

5043 [PL44-08; 104-09] は坏身で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径10.3cm、器高4.1cm、底径7.5cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は自然釉がかかり、赤褐色と黒黄白色で艶がある。内面は黄灰白色。〈胎土〉は精緻で、0.1~0.2mm程の砂粒をごくまばらに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面底部全て回転ナデ。〈備考〉底部はやや尖り、ほぼ直線的に口縁へ続く。口縁は僅かに外反し端部は丸くなる。〔反転復元〕

5003 [PL44-09; 105-03] は坏身である。〈法量〉は口径12.8cm、器高4.7cm、底径5.5cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外内面とも黄青灰色。〈胎土〉は精緻で、径0.5mm程の黒色砂粒を僅かに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。回転ヘラ切り。ロクロは左回り。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。ヘラ切り痕未調整。〈備考〉口縁部はやや外反し、端部は丸くなる。内底部は相当歪であり中心部はやや盛り上がる。外底部はヘラ切り痕が明瞭に残り、ナデたようにヘラ切り痕が消えている。

6220 [PL44-10; 105-04] は碗で、口縁部<sub>ㄱ</sub>、底部<sub>ㄴ</sub>が残存する。〈法量〉は口径16.6cm、器高4.9cm、高台径8.4cm、高台高0.9cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は淡黄灰色。〈胎土〉は精緻で、0.1mm程の砂粒をまばらに含む。〈成形〉は一本ビキ。切りはなしは不明。高台は貼付け。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。内底面は不定方向に押さえである。〈備考〉高台と坏身部の接合部に沈線が入る。口縁部は外反し端部は尖る。口縁内側は丸くなる。全体にやや丸みを帯びている。[反転復元]

5221 [PL44-11; 105-01, 02] は甑の底部である。胴部<sub>ㄱ</sub>と底部全体が残っている。〈法量〉は残存高が12.3cm。〈焼成〉は不良で、〈色調〉は淡黒灰色。〈胎土〉はやや粗い。〈成形〉はマキアゲミズビキ。底部は貼付け。〈調整〉は不明。〈備考〉胴部は大きく上に開き、器壁は薄い。底部の穴はへらで切り抜いている。

0008 [PL45-01; 105-05] は長頸壺で、頸部全体と口縁部<sub>ㄱ</sub>が残存する。〈法量〉は口径9.7cm、基部径5.2cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は内面は暗青灰色。外面は釉の剥がれた所は明青灰色で、釉のかかっている所は緑褐色から艶のある黒褐色、その他は暗灰褐色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキで口縁は折り込みである。〈調整〉は回転ナデである。〈備考〉両端の開いた形。外面口縁直下に稜線が一本入る。口縁の下面はややふくらみ、縁は窪む。断面は鋭角三角形、内面の縁下部に二本沈線が入り、そこから真直ぐに伸び内面に続く。内面はマキアゲの痕が見られしほり目も若干わかる。胴部との接合部はきれいに剥がれている。口縁は [反転復元]

1031 [PL45-02; 105-06] は長頸壺で、頸部のみが残存する。〈法量〉は基部径4.4cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は自然釉がかかり、艶のある茶色を帯びた黒褐色や緑褐色で、釉のはがれている部分は暗青灰色である。内面は黒褐色から茶色でやや艶がある。自然釉がまばらにかかって剥がれている痕跡もある。〈胎土〉は精緻で、0.1~1.0mm程の砂粒をやや含む。〈成形〉はマキアゲミズビキである。〈調整〉は内外面ともに回転ナデである。〈備考〉上方に向かってややそりぎみに開き、口縁近くでさらに外反する。しほり目は内外面に僅かに見られる。[反転復元]

0617 [PL45-03; 105-07] は鉢で、口縁部<sub>ㄱ</sub>が残存する。〈法量〉は口径15.7cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は暗灰褐色であり、〈胎土〉はややきめが粗い。〈成形〉は一本ビキである。〈調整〉は内外面ともに回転ナデである。〈備考〉底部が欠損しているため全体の器形はわからないが、腰部は斜めに立ち上がり上方へ伸びる。口縁はやや外反し、端部は丸くなり、内側は一度へこむ。腰部から胴部への境に2本の浅い沈線が見られる。[反転復元]

0404 [PL45-04; 105-10] は蓋で、口縁部<sub>ㄱ</sub>が残存する。〈法量〉は口径20.8cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉はやや褐色を帯びた淡青灰色である。〈胎土〉は精緻で、0.1~1.0mm程の砂粒を僅かに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキで「かえり」は折り込みである。〈調整〉は内外面ともに回転ナデである。〈備考〉ややふくらみの大きいプローション。「かえり」は小さい。端部は丸い。[反転復元]

1425 [PL45-05; 105-09] は蓋で、「かえり」部一部欠損。〈法量〉は口径14.2cm、器高3.6cm、つまみの最大径2.6cm、つまみ高0.9cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は暗青灰色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。「かえり」は貼付け。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。ロクロは左回り。天井部<sub>ㄱ</sub>（全体から見ても）は回転へら削り。ロクロは左回り。〈備考〉端部は

やや丸く、つまみは偏平な宝珠つまみ。「かえり」は僅かに内傾しているがほぼ垂直。黒い斑点が極々稀に見られる。

1424 [PL45-06; 105-10] 1412, 1426, 1420, は蓋で、口縁部 $\frac{3}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径18.4cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は内面は黄茶灰色。外面は黄茶灰色で、口縁部は黒味がかかる。〈胎土〉は比較的精緻で、0.1~1.0mm程の砂粒を少し含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。「かえり」は折り込み。ロクロは右回り。〈調整〉は内外面とも回転ナデが施され、外面中心部は回転ヘラ削り。〈備考〉「かえり」は断面がゆるやかな三角形、内面に沈線。[反転復元]

1648 [PL45-07; 105-11] は蓋で、口縁部 $\frac{3}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径15.3cm, 器高3.5cmつまみ径2.3cm, つまみ高0.7cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は青灰色。端部付近は黒灰色。内面は青灰色で周縁部1.0~4.0cm幅に自然釉の痕がある。〈胎土〉は精緻で径2.0mm程の小石を1個含む他、径0.1mm程の砂粒を僅かに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。つまみは貼付け。〈調整〉内外面とも回転ナデ。ロクロは左回り。天井部 $\frac{1}{2}$ 弱は回転ヘラ削りでロクロは左回り。〈備考〉つまみは宝珠つまみ。端部はやや尖り気味で稜は不明瞭。「かえり」は多少外反する。[反転復元]

1204 [PL45-08; 106-01] は蓋で、口縁部 $\frac{3}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径18.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は黄茶灰色で口縁部はやや赤味が強い。内面は黄茶灰色で口縁から4cm程内まで黄白色と赤褐色の付着物がある。〈胎土〉は比較的精緻で、0.1~1.0mm程の砂粒をまばらに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキである。〈調整〉は全体に回転ナデ。外面の中心部は回転ヘラ削り。〈備考〉端部の断面は三角形でやや内傾し、天井部はややふくらみが、稜ははっきりしない。つまみは欠損。[反転復元]

1032 [PL45-09; 106-02] は蓋で、 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径14.8cm, 器高2.2cm, つまみ径2.5cm, つまみ高0.6cmである。〈焼成〉は極めて良好で、〈色調〉は内面は青灰色で周縁部は幅1.4~2.2cm程茶灰色になっている部分がある。外面は暗青灰色で天井部 $\frac{1}{2}$ 程は茶灰色である。〈胎土〉は精緻で径0.1~2.0mm程の砂粒を少量含む。〈調整〉は内外面とも回転ナデである。右回り。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈備考〉つまみは偏平な宝珠つまみ、稜はあまりはっきりしない。端部は尖っている。全体のプロポーションは偏平である。外面に2ヶ所、内面に2ヶ所指でさわった痕があり、つまみ上面に2筋ひっかいた痕がある。[反転復元]

0008イ [PL45-10; 106-03] は坏身で口縁部 $\frac{3}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径13.8cm, 器高4.2cm, 底径6.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は暗青灰色である。〈胎土〉は比較的精緻で、0.1~1.0mm程の砂粒をごく僅かに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキで回転糸切り（左回り）である。〈調整〉は回転ナデだが底部糸切り痕は未調整である。〈備考〉胴部は、底部からやや立ち上がっており、その後横に張り出し上方へ伸び、口縁は外反し端部は尖りぎみ、内外部ともにナデ痕は明瞭に残る。[反転復元]

1422 [PL45-11; 106-04] は坏身で口縁部、胴部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径11.2cm, 器高3.8cm, 底径6.2cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は内面は上部 $\frac{1}{2}$ 程緑茶褐色、下部 $\frac{1}{2}$ 及び内底面は茶褐色。外面は上部 $\frac{1}{2}$ 程緑茶褐色（最上部 $\frac{1}{2}$ 程赤褐色）、下部 $\frac{1}{2}$ 及び内底面茶褐色。〈胎土〉は径0.5mm程の黒色粒子を若干含む精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。回転糸切り。ロクロは右回り。〈調整〉は内面及び外面の口縁から2.5cmは回転ナデ、その他の外面と底部から1.5cmの部分までは回転ヘラ削り。糸切り痕未調整。ロクロは右回り。〈備考〉底部は平らで外側に緩く張

り出し上方へ伸びる。端部は丸い。

1437 [PL45-12; 106-05] は坏身で、口縁部 $\frac{1}{2}$ 、底部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径12.6cm、器高3.7cm、底径7.5cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は青灰色。外面口縁から胴部はやや黒味が強く、その内部はやや赤褐色を帯びる。〈胎土〉は精緻で、0.5mm大の砂粒をまばらに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。ロクロは右回り。〈調整〉は内面は回転ナデ。外面は腰から上は回転ナデ。底部及び裾部は回転ヘラ削り。〈備考〉内面底部から腰部へは鋭く立ち上がり、口縁はやや外反し端部はやや丸くなる。内底部は回転ナデの痕が明瞭に残る。又中央部に薫くずのような痕がある。外面は裾部からの立ち上がりはかなり明瞭である。ヘラ削りは鋭い。外面口縁近くに自然釉がかかっているが、多く剥落している。

2437イ [PL45-13; 106-06] は坏身で、口縁部 $\frac{1}{2}$ 、底部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径12.2cm、器高3.8cm、底径6.0cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は内外ともに淡赤褐色。口縁部はやや灰色がかかる。〈胎土〉は精緻で、〈成形〉はマキアゲミズビキ。回転糸切り。ロクロは左回り。〈調整〉は内外面ともに回転ナデでロクロは右回り。底部は糸切り痕を若干ナデである。〈備考〉ややはげしく外反し、端部は丸くなる。内底部はナデでから指を離れた痕がわかる。底部は糸切り痕が残り、ヘラの痕が数条みられる。底部周辺に指の痕が残る。

4209 [PL45-14; 106-07] は坏身で、口縁部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径12.5cm、底径6.9cm、器高3.4cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉はやや黒みがあった青灰色。〈胎土〉は精緻で0.5mm程の砂粒がややみられる。〈成形〉はマキアゲミズビキ。回転糸切り（右回り）。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。糸切り痕未調整。〈備考〉口縁はやや外反し、端部は僅かに尖りぎみ。外面裾部にいくつかの指紋と糸切り後糸を抜いた時の痕跡がある。

2437ロ [PL45-15; 106-08] は坏身で、 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径15.4cm、器高4.5cm、高台径7.2cm、高台高0.7cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は茶褐色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉はマキアゲミズビキ。貼付け高台。〈調整〉内外面とも回転ナデ。右回り。〈備考〉端部はやや尖っているが丸い。端部付近は薄い。[反転復元]

4219 [PL45-16; 106-09] は短頸壺で、口縁部 $\frac{1}{2}$ 、胴部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径5.2cm、体部最大径9.9cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は青灰白色。〈胎土〉は精緻で、0.5mm程の砂粒をごく僅かに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。〈備考〉頸部はゆるく内傾して端部はやや尖る。頸部と胴部の変化点は不明瞭。外面下部に2本の沈線がみられるが、ロクロの中心が他のナデとは違っているように見える。張りのあたりに指紋が残る。[反転復元]

0424 [PL45-17; 106-10] は短頸壺で、 $\frac{1}{2}$ 弱が残存する。口縁部は殆どない。〈法量〉は口径8.8cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は内面は茶灰色で、外面は赤みがあった茶灰色に所々青灰色である。〈胎土〉はやや粗い。〈成形〉は一本ビキ。〈調整〉は内外面とも回転ナデで底部は回転ヘラ削りである。左回り。〈備考〉端部は丸い。肩部に沈線が一条はいる。[反転復元]

2212 [PL45-18; 106-11] は高坏で、口縁部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径10.3cm、基部径3.4cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は暗青灰色で断面は淡赤褐色。〈胎土〉は精緻で、0.5mm程の砂粒をやや含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。脚部は貼付け。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。〈備考〉部分的に歪んで丸みの強い所もある。端部は丸くなる。沈線は明瞭。脚部貼付けは丁寧に

施されている。[反転復元]

0806口 [PL46-01 ; 106-12] は皿で、口縁部と底部が残存する。〈法量〉は口径13.5cm、器高3.4cmである。〈焼成〉は不良で、〈色調〉は内面は淡橙色の上に赤褐色のハケ目が残リ、外面は淡橙色。〈胎土〉は精緻で、0.1~1.0mm程の砂粒をごくまばらに含む。〈成形〉は大変いびつで手づくねかもしれない。〈調整〉はナデの様子は不明だが、内部中央は不定方向のナデのようである。〈備考〉底部は大変いびつで、それからつづく胴部から口縁もはずんでおり端部は丸くなる。内底部にへこみがある。表面にハケ目状に残っている赤褐色の土は水洗時に剥がれたものの残存であろう。[図面復元] 右半分と左半分の推定位置は異なる。

7202 [PL46-02 ; 106-13] は蓋で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径5.8cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外面は全面に釉がかかり緑褐色ガラス光沢。内面は褐灰白色。〈胎土〉はやや黄味がかかった灰白色。〈成形〉はマキアゲミズビキ。「かえり」は折り込み。〈調整〉は内外面は回転ナデ。〈備考〉「かえり」は断面三角形。釉が外面に施され一部強くとまっている。特に端部は厚くガラス状をなす。内面は回転ナデの痕が残っており、釉がてんでんと飛んでいる。[反転復元]

1401 [PL46-03 ; 107-01], 1406 (2点), 1408, 他6点。は片口鉢で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径25.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は黄味を帯びた淡茶灰色。口縁の一部は赤褐色を呈す。〈胎土〉はやや粗く、径1.0mm程の小石をまばらに含む。〈成形〉はマキアゲミズビキ。貼付け高台。〈調整〉内面は回転ナデ。外面は下ま程がへら削り後回転ナデ。上部は回転ナデ。底部(径5.0~6.0cmの範囲)は不定方向のへら切り。〈備考〉端部は四角(上面は平らである)。片口を有す。高台は貼付けてあり短く粗雑である。外底面は平らになっている。内外面に2ヶ所ずつ指ですった痕がある(丁度場所が対応している)。

7011 [PL46-04 ; 107-02] 6005, は皿で、舌が残存する。〈法量〉は口径15.4cm、器高2.6cm、高台径8.7cm、高台高0.9cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は淡黄白色。釉のかかっている部分は茶褐色及び緑白色。〈胎土〉は精緻で、0.5~2.0mmの砂粒を含む。〈成形〉は一本ビキ。貼付け高台。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。高台内も回転ナデ。〈備考〉口縁部は丁寧にナデであり、僅かに外反して尖る。高台は外は丸くなり内はやや内傾して着地部は尖る。釉が内面は口縁から中心にかけてタスキ状に、外面は口縁から裾部にかけて施されている。釉が流れている所は緑白色に発色している。[反転復元]

4804 [PL46-05 ; 107-03] は三足盤で、口縁部が残存し、足すべて欠損する。〈法量〉は口径16.4cmである。〈焼成〉は極めて良好で、〈色調〉は内面は釉がかけられ明緑褐色でガラス光沢。外面はやや黄味を帯びた灰白色。〈胎土〉は精緻である。〈成形〉は一本ビキ。足は貼付け。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。外面底部は全体に回転へら削り。足の貼付けはあまり丁寧ではなくへら痕が残る。〈備考〉底部はやや厚めで下方にふくらむ。内面の段は鋭く、口縁はふくらみ、端部はやや尖る。外面のへら削り痕は不明瞭。[反転復元]

7004 [PL46-06 ; 107-04] は碗で、高台が残存する。〈法量〉は高台径9.6cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は明灰褐白色。〈胎土〉は精緻で、0.1~1.0mm程の砂粒をやや多く含む。〈成形〉は一本ビキ。貼付け高台。〈調整〉は回転ナデ。〈備考〉高台は“ハ”の字に開く。貼付け部内側は丸くナデであるが外側は沈線状になっている。[反転復元]

4208 [PL46-07; 107-06] は碗で、口縁部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径17.0cm, 器高5.1cm, 高台径7.8cmである。〈焼成〉は極めて良好で、〈色調〉は灰白色。内面は釉のため緑灰色を帯びた淡茶色で一部黒く発色している。〈胎土〉は精緻で、ごく稀に径2.0mm程度の小石を含む。〈成形〉は一本ビキ。貼付け高台。〈調整〉は外面上部 $\frac{1}{2}$ と高台内は回転ナデ。その他は回転ヘラ削り。〈備考〉口縁部は外反して“く”の字を呈し、端部は丸い。全体に丸みを帯びる。人工釉 $\frac{1}{2}$ が一面に施してある。高台は貼付けで低く、つくりは丁寧である。

1415 [PL46-08; 107-05] は手付瓶で、胴部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径7.8cm, 器高22.9cm, 底径13.0cm, 体部最大径16.8cmである。〈焼成〉は極めて良好。〈胎土〉は精緻で径0.1~3.0mm程度の小石を含む。〈色調〉は内面及び施釉されていない所は灰白色。施釉されている所は緑灰色。〈成形〉はマキアゲミズビキ。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。〈備考〉端部は丸く外反する。頸部は、あまり細くなっておらず、肩部から自然と細くなっている。肩部はあまりはっきりしない。手がついているが、体部に貼り付けた部分ギリギリの所までしか残存していない。人工釉がかかっている。内面の回転ナデは丁寧ではなくマキアゲ痕が残る。

0409 [PL46-09; 107-07] は小皿で口縁部 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径7.8cm, 器高2.2cm, 底径3.6cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は明灰色で〈胎土〉は精緻である。〈成形〉は一本ビキで回転糸切りである。〈調整〉は回転ナデで、底部糸切り痕は未調整である。〈備考〉内外面ともやや内側に入る。口縁部は面取り。外底部脇に糸切りの時の粘土が固まって付く。[反転復元]

2607 [PL46-10; 107-08] は小皿で、 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径7.8cm, 器高2.3cm, 底径3.8cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は灰白色。〈胎土〉は精緻。〈成形〉は一本ビキ。回転糸切り。〈調整〉は内外面とも回転ナデでクロは右回り。内底部は不定方向のナデ。糸切り痕は未調整。〈備考〉端部は丸く、口縁は面取りがしてある。[反転復元]

0404口 [PL46-11; 107-09] は小皿で口縁部は $\frac{1}{2}$ のみ残り全体は $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径7.8cm, 底径4.4cmである。〈焼成〉は良好である。〈色調〉は明灰白色で緑灰色の自然釉がかかっている。〈胎土〉は径1.0mm程の砂粒を多量に含み、2.0~3.0mmの粒もかなり含まれていて粗い。〈成形〉は一本ビキで回転糸切りである。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ(左回り)である。糸切り痕は未調整である。〈備考〉外面底部に石粒のとれた痕が数ヶ所有り、大きいものは3.0~4.0mmくらいある。底部は6.0mmくらいのこぶがある。

0602 [PL46-12; 107-10] は小皿で、口縁部胴部とも約 $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径7.7cm, 8.2cm, 器高1.8cm, 底径4.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は淡黄灰色である。〈胎土〉は0.5~2.0mmの砂粒を多く含みやや粗い。〈成形〉は一本ビキで回転糸切り(おそらく右回り)。〈調整〉は内外面とも回転ナデで、底部は糸切り痕未調整である。〈備考〉僅かに外反し端部は面取りされ一条の沈線がみられる部分もある。底部は高台状にやや高くなっているが高台はない。糸切り後の粘土が貼りついて歪つになっている。内部に指紋が1つある。

0806ハ [PL46-13; 107-11] は小皿で、胴部口縁部の $\frac{1}{2}$ が残存する。〈法量〉は口径7.3cm, 器高2.0cm, 底径4.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉はやや黄味がかかる淡青灰色である。〈胎土〉は比較的精緻で、0.1~1.0mm程の砂粒を若干含む。〈成形〉は一本ビキ。回転糸切り(右回り)。〈調整〉は内外面回転ナデである。底部は糸切り痕未調整。〈備考〉緩やかに上方に伸び、口縁外側は面取りがされ、一条の沈線が見られる部分がある。口縁部に自然釉がかかる。



1202 [PL46-14 ; 107-12] は小皿で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径8.8cm、器高2.1cm、底径5.1cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は褐色がかった明灰色である。〈胎土〉は1.0mm程の砂粒が全体に含まれていてきめが粗い。径1.0cmの砂粒を2つ含む。〈成形〉はロクロー本ピキで、回転糸切りである。〈調整〉は内外面とも回転ナデで、外底部は糸切り後へう状のもので一定方向にナデである。〈備考〉底部から上外方へはほぼ直線状にのび、口縁部で少し外反し、端部は面取りを施す。内面はゆるやかに湾曲して端部は尖る。[反転復元]

1430 [PL46-15 ; 107-13] は小皿で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径4.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は灰白色。〈胎土〉はやや粗く、径0.3mm~1.2mm程の砂粒を少し含む。〈成形〉は一本ピキ。底部は回転糸切り。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。〈備考〉端部はやや尖り気味で外側に面が作られている。内面に自然釉がかかる。ただし中央部はかかっていないもよう。内底面中央部からやはずれたところが少し窪んでいる。

1606 [PL46-16 ; 107-14] は小皿で、口縁部の一部を欠く。〈法量〉は口径8.0cm、器高2.4cm、底径4.1cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は灰白色。〈胎土〉は精緻。ごく稀に径1.0mm程度の砂粒を含む。〈成形〉は一本ピキ。底部は回転糸切り。〈調節〉は内面は回転ナデで回転は左回り。外面は回転ナデで回転は左回り。底部は未調整。〈備考〉端部はやや尖りぎみ。図面左側に示される口?を意識して作ったと思われる部分を中心に、口縁部の範囲の端部はへうで削ってある。器表面には径0.1~1.0mm程度の穴が少しみられる。

1610 [PL46-17 ; 107-15] は小皿で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径8.0cm、器高2.2cm、底径3.5cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は明灰色。口縁部に自然釉がかかる部分がある。〈胎土〉は精緻で、若干の砂粒を含み、3.0mm程の砂粒を僅かに含む。〈成形〉は一本ピキ。回転糸切り、左回り。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。底部は糸切り痕未調整。〈備考〉口縁端部は面取り。外底部は高台状をなすが歪つ。

1611イ [PL46-18 ; 107-16] は小皿で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径8.6cm、器高2.3cm、底径3.3cmである。〈焼成〉はやや良で、〈色調〉は淡灰褐色。〈胎土〉は径1.0mm程の砂粒を僅かに含みやや粗い。〈成形〉は静止へう切り(一方向)。〈調整〉は内外面共に回転ナデ。内底部は不定方向にナデがしてある。外底部は未調整。〈備考〉底部の中央部と思われる所に三日月型の穴が空いている。底部は指で押したようなへこみがある。[反転復元]

1611ロ [PL46-19 ; 107-17] は小皿で、端部が欠損。〈法量〉は口径7.8cm、器高2.3cm、底径4.2cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は灰白色。〈胎土〉は粗く、径0.1~1.0mm程の砂粒を比較的多く含む。〈成形〉は一本ピキ。底部は回転糸切り。回転は右回り。〈調整〉は内面は回転ナデ。但し中心部径2.0cm弱は調整していない。外面は回転ナデ。底部は未調整。〈備考〉端部は角が丸い四角形。全体にかなり歪んでいる。口縁部程に自然釉がかかる。

2458 [PL46-20 ; 107-18] は小皿。〈法量〉は口径8.6cm、器高1.9cm、底径4.4cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は灰白色。〈胎土〉は粗く、径1.0~5.0mm程の砂粒を少量含む。〈成形〉一本ピキ。回転糸切り。〈調整〉は内面は回転ナデ。内底部中心部(径3.5cm)は一定方向の横ナデ。外面は回転ナデ。糸切り痕未調整。〈備考〉端部は丸くやや角ばり、自然釉が端部約1/3の範囲にかかる。指の痕や擦ったような痕が数ヶ所ある。

0807 [PL47-01 ; 108-01] は山茶碗で、口縁部が残存する。〈法量〉は口径15.0cm、器高5.1cm、

高台最大径6.9cm, 最小径6.0cmである。〈焼成〉は極めて良好で、〈色調〉は淡青灰色である。〈胎土〉はやや粗く0.1~1.0mm程の砂粒をやや含む。〈成形〉は一本ビキで、回転糸切りであり高台は貼付けである。〈調整〉は内外面ともに回転ナデで糸切り痕未調整である。〈備考〉全体的に少し傾いている(底部の厚さによる)。高台部は楕円形をしている。口縁はやや外反し外側は丸くなり、内側は直線的である。内面は口縁から $\frac{1}{4}$ のあたりで稜がある。内底部はほぼ平ら、高台は貼り付け痕が明瞭にわかり、高台内は焼成時にできたワレがある。高台付近に薬痕が明瞭にみられる。〔反転復元〕

2415 [PL47-02; 108-02] は山茶碗で、口縁部 $\frac{3}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径14.2cm, 器高5.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は内面は青灰色で、釉のかかった部分は緑褐色。外面は淡青灰色で同じく釉は緑褐色。〈胎土〉は粗く0.1~1.0mm程の砂粒を含む。〈成形〉は一本ビキ。回転糸切り。貼付け高台。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。高台内は回転ナデ。内底部は一定方向のナデ。〈備考〉口縁部はやや外反し、端部は丸くなる。内面の口縁からはほぼ全体と、外面の口縁の一部に自然釉がかかる。〔反転復元〕

1638 [PL47-03; 108-03] 1648, は山茶碗で、口縁部 $\frac{3}{4}$ と底部 $\frac{1}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径15.3cm, 器高5.9cm, 高台径7.2cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は淡青灰色。〈胎土〉はきめが粗く、0.1~3.0mm程の砂粒を含む。〈成形〉は一本ビキ。回転糸切り。貼付け高台。〈調整〉は糸切り痕未調整。内外面とも回転ナデ。〈備考〉内底部の下から $\frac{1}{2}$ まで自然釉がかかり、胴部は丸みを持って緩やかに上外方に伸び、口縁部は大きく外反して端部は丸くなる。内底部はナデの際のくぼみが幾つかみられる。高台はかなり、歪つにつけられており部分的に内側に入っているところもある。〔反転復元〕

0404イ [PL47-04; 108-04] は山茶碗で、 $\frac{1}{2}$ 弱が残存する。〈法量〉は口径14.6cm, 器高5.2cm, 高台径4.2cm, 高台高0.5cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は灰白色である。〈胎土〉はやや粗い。〈成形〉は一本ビキで。貼付け高台である。〈調整〉は内外面とも回転ナデ(右回り)である。〈備考〉端部は丸くやや外反する。高台は全体に粗雑な作りかた。自然釉が内面にまばらにかかる。〔反転復元〕

1608イ [PL47-05; 108-05] は山茶碗で、口縁部 $\frac{3}{4}$ が残存する。〈法量〉は口径14.9cm, 器高5.4cm, 高台径7.5cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉はやや褐色がかかった灰白色。〈胎土〉はきめが粗く、0.5~5.0mm程の砂粒を多く含む。〈成形〉は一本ビキ。おそらく回転糸切りの貼付け高台。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。内底部は一定方向ナデ。高台内は一定方向ナデ。〈備考〉高台は台形状できれいにナデである。体部はかなり歪つて端部はやや外反し、口縁部は平らになる。内底部脇の所と口縁の一部に自然釉がかかり暗緑褐色を呈す。

1612 [PL47-06; 108-06] は山茶碗で、口縁部は $\frac{3}{4}$ が残存。口縁以外はほぼ全体残る。〈法量〉は口径15.3cm, 器高5.5cm, 底径8.0cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は外側は淡灰褐色。口縁部の一部は釉がかかり褐色が強い。内面は淡黒褐色でほぼ全体に黒色のススがつく。〈胎土〉はきめが粗く、0.1~3.0mm程の砂粒を含む。〈成形〉は一本ビキ。回転糸切り。貼付け高台。〈調整〉は内外面ともに回転ナデ。底部は回転糸切り、回転ナデ。内底部は不定方向のナデ。〈備考〉器壁は、底部と口縁下部の2ヶ所がふくらみ、口縁に近い方は真ん中がややくぼむ。口縁の外側はふくらむが内側は“ノ”状。内側はややナデ痕がみられ、内底部は不定方向にナデた際のくぼみがある。貼付け高台の高台内はきれいに調整されていない。

3221 [PL47-07; 108-07] は山茶碗で、口縁部一部欠損。〈法量〉は口径7.9cm、器高5.4cm、高台径3.9cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は明灰色。〈胎土〉は精緻で径1.0mm程度の砂粒をまばらに含む。〈成形〉は一本ビキ、回転糸切り。貼付け高台。〈調整〉は内外面とも回転ナデでロクロは左回り。糸切り痕未調整。〈備考〉端部はやや丸い。自然釉が内外面の上部の範囲にかかる。

0806イ [PL47-08; 108-08] は山茶碗で、底部のみが残存する。〈法量〉は底径7.3cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉はやや黒味がかかった青灰色である。〈胎土〉は0.1~2.0mm程の砂粒を多く含みきめが粗い。〈成形〉は一本ビキで回転糸切り、貼付け高台。〈調整〉は内外面とも回転ナデで、糸切り痕未調整である。〈備考〉高台はやや雑につけられ、裾の方が広がっている。一部高台が胴部と共に押し潰されている。内面はまばらに自然釉がかかり、底部の縁にナデ時におし窪めたような痕が残る。

1608ロ [PL47-09; 108-09] は山茶碗である。〈法量〉は口径14.6cm、器高5.8cm、底径5.8cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は淡黄灰白色。〈胎土〉はきめが粗く、0.1~3.0mm程の砂粒を多量に含む。〈成形〉は一本ビキ。回転糸切り。ロクロは右回り。貼付け高台。〈調整〉は内外面とも回転ナデ。内底部は一定方向の横ナデ。糸切り痕は未調整。〈備考〉内面はほぼ真直ぐで、内面に木片?の入っていたような大きな傷がある。端部は外反し、口縁はやや面取りしてある。高台は中心よりずれて貼付けてある。内面の口縁から上の部分に自然釉がまばらにかかる。又、内外面ともかすかに釉が飛んでいる。

0808 [PL47-10; 108-10] は山茶碗で口縁部が残存する。〈法量〉は口径15.6cmである。〈焼成〉は良好で、〈色調〉は灰白色で、内底面（全体の約半）は炭が付着し黒色（かなり剥離している）。〈胎土〉は精緻。〈成形〉は一本ビキで、回転糸切りの後、高台が貼付けられている。〈調整〉は内外面とも回転ナデで、糸切り痕未調整である。〈備考〉底部から4cm強位のところから強く外反して、口縁の断面は四角い（やや尖っている）。貼付け高台のつくりは雑で内外面に一応回転ナデがしてあるがはみ出した粘土がそのままに焼成されている。又、高台の高さも一定ではない。着地部分に藁の痕が残る。底部は平らである。内外面上方（図面で見ているのと反対側の）号程に自然釉がかかる。内面は、内底部から4cm弱上方のところまで（外面の外反する部分より下）炭が付着していたと思われる。内底部にナデの止めた痕あり。

（小椋山 近藤 大江）

## 第7章 その他の遺物

### 第1節 埴輪

発掘区全体における埴輪片の出土総数点は117点である。埴輪の破片は、調査区域のほぼ全域にわたって出土しているが、比較的出土点数の多い区はD-4区とD-5区であわせて75点にのぼる。他はF-3区の7点、B-4区の5点、A-1区、A-3区、G-3区のそれぞれ4点等である。特に集中しているD-4、D-5区には両区にまたがって防空壕6があり、ここからの出土が最も多い。

埴輪片は殆どが円筒埴輪で形象埴輪はない。それ等の内から特徴によって若干を選択し〔PL50, 51〕に図示した。これらについてのみ記載する。拓影は表〔PL50〕と裏〔PL51〕が別図に図示されているが、番号は互に対応する。区ごとの選出状況は下記のごとくである。

なお、3223から3415まではD-4区とD-5区にまたがる防空壕6からの出土である。

- A-1 3点 0006〔PL50-02〕, 0034〔PL50-23〕, 0050〔PL50-15〕  
A-3 1点 0420〔PL50-01〕  
B-1 1点 1004〔PL50-14〕  
B-4 1点 1690〔PL50-19〕  
D-4 7点 3201〔PL50-16〕, 3202〔PL50-07〕, 3223イ〔PL50-11〕, 3223ロ〔PL50-06〕,  
3223ハ〔PL50-05〕, 3224イ〔PL50-08〕, 3224ロ〔PL50-04〕  
D-5 8点 3402〔PL50-18〕, 3405イ〔PL50-03〕, 3405ロ〔PL50-17〕, 3411イ〔PL50-21〕,  
3411ロ〔PL50-09〕, 3411ハ〔PL50-12〕, 3411ニ〔PL50-20〕, 3415〔PL50-22〕  
F-3 2点 4217〔PL50-10〕, 4219〔PL50-13〕

以下図版の番号順に記載する。

〔PL50-01〕 A-3 0420 胴部破片。台形の（断面が横向きの台形、以下同じ）タガを持ち、内外面とも幅1mm程度の細いヨコハケが施されていて、一部にはタテハケの痕跡かと思われるものもある。黄灰白色を呈し、焼成はやや良好である。

〔PL50-02〕 A-1 0006 胴部破片。台形のタガを持つ。タガの外表面は指によるヨコナデがされている。内外面に1mm程度の間隔でヨコ方向の細く浅いハケ目がある。また、タガのすぐ下に同様に間隔で長さ1mm程度のタテ方向のハケ目が残存するが、これはタガを胴部につける前の段階で既に入れられていたと考えられる。淡橙色を呈し、焼成は良好である。

〔PL50-03〕 D-5 3405イ 胴部破片。タガを持ち、その外縁部・上下ともに丸く窪んでいて、指でならしたものと考えられる。内外面とも形状の一定しないヨコのハケ目が施されている。また、外表面の一部にタテ方向のハケ目がある。黄灰白色を呈し、焼成は良好である。

〔PL50-04〕 D-4 3224ロ 胴部破片。外表面に幅1mm程度の間隔の浅いハケ目がヨコ方向に施されている。また、窓の一部が残っている。灰白色を呈し内外面とも赤色顔料が塗布された痕跡を示す。焼成は良好である。

〔PL50-05〕 D-4 3223ハ 底部破片。外表面には幅1.5mm程度の底の丸いハケ目がヨコ方向、ナナメ方向に施されている。内表面には端部直上に面取りが施され、残りの部分には幅1.5mm程度の

底の丸いハケ目がヨコ方向に施されている。淡橙色を呈し、焼成は良好である。

[PL50-06] D-4 3223ロ 底部破片。内外面の端部直上にはそれぞれ面取りが施され端部は幅を減じた平面となる。外面にはタテ方向、ヨコ方向の細いハケ目がやや雑に施されている。また、このハケ目は、口縁部の面取り作業より以前に入れられたものと見られる。なお、外面に指痕と思われる凹状の丸いへこみが残っている。そのうちのひとつには爪の痕と想像されるヨコ方向に入った弓状の刻み目が確認されている。淡橙色を呈し、焼成はやや良好である。

[PL50-07] D-4 3202 胴部破片。内外面に間隔の一定しない細いヨコのハケ目がある。タガは方形で、やや下方に垂れ、外縁部は凹状をなし、指でならしたものと考えられる。淡橙色を呈し、焼成はやや良好である。

[PL50-08] D-4 3224イ 胴部破片。台形のタガがある。内外面に幅1mm程度の間隔のヨコ方向のハケ目が施されている。黄灰白色を呈し、焼成は良好である。

[PL50-09] D-5 3411ロ 胴部破片。内外面ともに全体に幅、間隔ともに一定しないヨコ方向のハケ目が施され、一部にタテ方向のハケ目が見られる。内外面ともに黄灰白色の地肌の上に赤色顔料が塗布されていた痕跡がある。焼成は極めて良好である。

[PL50-10] F-3 4217 胴部破片。内外面全体に底が鋭角なヨコ方向のハケ目が施されている。外面の一部の約半に帯状のタテ方向のハケ目が施されているがこれはヨコ方向のハケ目が入られる以前に既に施されていたものである。黄灰白色の地肌の上に、内外面ともに赤色顔料が施されていた可能性がある。焼成は良好である。

[PL50-11] D-4 3223イ 胴部破片。畦と底が丸い幅2mm弱のハケ目が内外面ともヨコ方向にある。台形のタガを持ち、タガの外縁部、上下とも指ナデ調整がなされている。黄灰白色で焼成は良好である。内外面ともに赤色顔料が塗布された可能性がある。

[PL50-12] D-5 3411ハ 底部破片。外面の上部にタテのハケ目が残っている。端部の内面に面取りが施されている。やや赤みがかった黄灰白色を呈し、焼成は良好である。

[PL50-13] F-3 4219 胴部破片。タガの外面は中央が凹み、上半分が丸く凸状に隆起し、下半分がやや外反気味の鋭角な稜をなす。外面全体にヨコ方向の浅いハケ目が帯状に施されていて、間にタテ方向のハケ目がある。内面にもごくわずかだが、外面と同様なハケ目痕が見られる。淡橙色を呈し、焼成はやや良好である。

[PL50-14] B-1 1004 口縁部。端部は断面が四角くなるように指によるヨコナデ調整がされている。外面には全体にやや間隔をおいたタテ方向とナナメ方向のハケ目が雑に施された後に、間隔が幅は1mm程度の浅いヨコのハケ目が数条ごとに施されている。内面には端部下に指による横ナデ調整があり、それより下半部は隣接部に鋭い稜をなす幅1.5mm程度の底の丸いハケ目がヨコ方向に施されている。橙色を帯びた黒灰色を呈し、焼成は良好である。

[PL50-15] A-1 0050 アサガオ形埴輪の上に開く部分の破片と考えられる。外面全体に幅2mm程度タテ方向の底の丸いハケ目が施された後で、ヨコ方向の同様のハケ目が数条ごとに一部では間隔をあけて施されている。内面には隣接部分が鋭い稜をなす幅3mm程度の浅いハケ目が入っている。黄灰白色を呈し、内外面ともに赤色顔料が塗布されていた可能性がある。焼成は良好で、

内面に自然釉がまばらにかかっている。

[PL50-16] D-4 3201 胴部破片。方形のタガを持つ。内外面に同様な間隔が1mm程度のヨコの細いハケ目がある。一部にヨコよりあとに施されたタテ方向のハケ目がある。また、一部に窓の部分が見られる。須恵質で色は黒灰色で内外面とも艶があり、紫色を呈す。焼成は極めて良好である。

[PL50-17] D-5 3405ロ 胴部破片。方形のタガを持ち、タガの上下とも同様に丸く窪んでいる。外面の下半部には細いハケ目がほどこされ、一部にタテのハケ目がある。須恵質かと考えられ、橙色を帯びた黒灰色で艶があり、部分によっては紫色を呈す。焼成は極めて良好である。

[PL50-18] D-5 3402 胴部破片。台形のタガを持ち、その外縁部は丸く窪み、指でならしたものと思われ、下に垂れる。外面には全体に幅1.5mm程度のハケ目がヨコ方向に施され、一部にナナメのハケ目が見られる。内面にも、外面と同様のヨコのハケ目が施されている。淡橙色を呈す。焼成はやや良好である。

[PL50-19] B-4 1690 口縁部。端部の外側は斜めに面取りが施され口唇は内縁が高くなっており、その下に横に走る底の丸い2条の凹線があり、中央は細い隆起線をなす。また端部の内側の口唇直下は指によるヨコナデ調整が施され薄くなっている。外面には端部の面取りされた部分を除いてやや鋭角気味の底を持つハケ目が2mm程度の間隔でやや傾いたタテ方向に施されている。内面にはヨコナデの部分を除いて、ヨコ方向にごく細く浅いハケ目が施されている。須恵質で艶のある紫色がかかった黒灰色を呈し、焼成は極めて良好である。形状からは埴輪とは断定し難い。

[PL50-20] D-5 3411ニ 底部破片。外面には最下部がタテでその上はタテ方向の上にヨコ方向のハケ目が施されている。内面にもヨコのハケ目がみられるが、数条のグループごとに下から順に入れられたと考えられ、一単位ごとに段差が生じている。なお、外面に指痕と考えられる窪みが2カ所、また粘土を削り取った痕が1カ所、それぞれ上に向かって入っている。須恵質かと思われ、橙色を帯びた黒灰色を呈し、焼成は極めて良好である。

[PL50-21] D-5 3411イ 胴部破片?。外面には底の丸いハケ目がやや傾いたタテ方向に雑に施されている。内面にはヨコ方向を中心とする細いハケ目が不規則に施されている。黄灰白色を呈し、焼成はやや良好である。

[PL50-22] D-5 3415 アサガオ部の立ち上がり部分か。外面の一部にタテ方向のハケ目が、内面には隣接部に稜をなす間隔が3.4mmの浅いハケ目がヨコ方向に施されている。黄灰白色を呈し、内外面ともに赤色顔料が施されていた痕跡がある。

[PL50-23] A-1 0034 口縁部破片?。外面は上部が横ナデ、中央部から下部にかけて幅、間隔ともに1mm程度のヨコ方向ハケ目があり、その下に縦方向のハケ目らしき窪みが見られる。端部内面は面取りされ、口唇は外縁が高くなる。須恵質かと考えられ、やや赤みを帯びた黒灰色をなし、焼成は良好である。

発掘地点の北近くの高座御結子神社敷地内には、現在稲荷社の裏に1基の古墳が確認されており、周辺の消滅したと考えられるものも含めると少なくとも8基にのぼる。また、市内最大の前方後円墳である断夫山古墳も南西僅か500mの距離であり、かつてはもっと多くの古墳がより広い

範囲で存在していたと言われている。なお、正式な調査が行われ報告されているものは、現高蔵公園内で名古屋大学によって昭和29年に発掘された高蔵1号墳(榑崎1955)のみである。

最も出土の多かった防空壕6からの埴輪片は出土状況の上記のことから推察すると、調査区域内に古墳がかって存在したとは考え難いので、防空壕6を埋める際に、付近の古墳もしくは古墳跡から採掘された土を用いた可能性が強く、その時点で同防空壕の埋土に含まれたと推測される。他の区からは集中しては発見されず、層序も一定ではない。(高橋 公仁)

## 第2節 近世陶磁器

上層出土の陶磁器類は比較的少量である。現代のものまで含め、その内の若干を写真で示す。  
[ PL109, 110] (近藤)

<PL109>

かわらけ	1(1653), 2(7216)
無釉(自然釉を除く)陶器	3(1432), 4(1411), 5(5001), 6(1401), 7(1653), 8(1653) 9(0002), 10(5001), 11(1453)
灰釉陶器(施釉)	20(6401), 21(0003), 22(4207), 23(0242), 24(1037), 25(3605), 26(0602), 27(6214), 28(5218), 29(1429), 30(4208), 31(161?), 32(1037), 33(0041), 34(7401), 35(0613), 36(0409)
青磁	37(1416), 38(2425), 39(002?), 40(? ), 41(7217), 42(3010) 43(? ), 44(2100), 45(4204), 46(? ), 47(2425), 48(2425)
白濁釉	12(0029), 13(0623), 14(3411), 15(3803), 16(1401)
白磁	17(0211), 18(2642), 19(0242)
染付, 有色釉	49(0602), 50(? ), 51(? )

<PL110>

鉄釉	01(3803), 02(1609), 03(3208), 04(3066), 05(4801), 06(0801), 07(3066), 08(1401), 09(1210), 10(5001), 11(5201), 12(0603), 13(1607), 14(5210), 15(0402)
鉄絵	16(3639)
灰釉	17(1663), 18(1432), 19(1436), 20(0004), 21(? )
染付	22(? ), 23(3210), 24(? ), 25(3605), 26(3410)
無釉の陶器	27(1430)

### 第3節 土製品

1029はB-1区の北ベルト西の2層から出土した完形の土丸?である。球形で孔はない。直径は2.2cm、重量11.6gで肌色を呈する。用途は不明である。[PL48-10; 111-17]

6216はE-1区の北ベルト西部溝内(SH05)上部から出土した土錘で一部が欠けている。球形で、孔径は直径4cmで重量34.3g、(0.4cm0.8cm)。黄土色を呈し、成形が粗雑である。[PL48-02; 111-23]

2445はC-3区東のベルト西部溝内(SD04)5層から出土した土錘で完形である。片方の端部の口部のまわりがすりばち状に窪んでいる。釣り鐘型で、全長2.7cm、最大径3.0cm、孔径0.2cm、重量23.0g。黒色で一部肌色が残る。胎土に結晶状の物質が混ざっている。[PL48-09; 111-18]

3934はE-4区SD03埋土土層から出土した米俵型の土錘である。全長、最大径は不明で、重量63.8g、孔径0.5cm。黄土色で一部は黒色を呈す。孔が出口でやや広がる。胎土は精緻である。[PL48-06; 111-19]

0052はA-1区、北拡張部SD103下層から出土した土錘で、半分のみ残存している。炭俵型で、孔径1.3cmで全長と最大径は不明で重量は19.2g以上である。淡橙色で丹が塗ってあると思われる。孔は傾いている。面取りが側面端部付近によくみられ、全面にわたっている可能性もある。[PL48-01; 111-24]

3864はE-4区、SH01の5層から出土した土製品で、全形は不明だが、先端に向かって尖っており、製塩土器の一部である可能性もある。[PL48-12; 111-14]

5051はD-2区、東ベルト拡張部3層から出土した土錘で球形である。全長と最大径は不明で孔径0.5cm、重量は12.5gである。淡橙色を呈し、表面の成形は乱雑である。[PL48-07; 111-15]

5007はD-2区、3層から出土した土錘の一部で紡錘形と思われる。全長と最大径は不明で孔径1.0cm、重量は33.7g。暗灰色で胎土に混合物が多い。[PL48-04; 111-15]

5008はD-2区、3層から出土した土錘で一部を欠く。紡錘形で全長7.9cm、最大径4.0cm、孔径1.5cm、重量は104.9g。黄褐色で横向きに擦り傷のようなものが見られる個所がある。[PL48-08; 111-13]

3628bはE-3区、東4層から出土した土錘で一部を欠く。紡錘形で全長5.0cm、最大径3.9cm、孔径1.0cm、重量70.2g以上である。口部が広がる傾向にあり、暗褐色で片方の端部がけずられている。胎土に混合物が少々認められる。[PL48-03; 111-22]

4206はF-3区、東側南隅2層から出土した小型の土錘である。管形で所々に丹を塗った痕が見られるので土玉かと思われる。全長5.8cm、孔径0.8cmで重量は16.6g以上で、端部は欠けている可能性があり、所々に丹が塗ってあったと思われる。[PL48-11; 111-16]

2207はC-2区、南部3層から出土した土錘の一部で紡錘形。全長と最大径は不明、孔径0.9cm、重量は25.7g以上。黄土色で側面が4面に面取りしてあった可能性がある。[PL48-05; 111-20]

土製品は上述のごとく、土錘10個の他、土丸1個と製塩土器と思われるものが1個発見されたが、遺構に含まれる遺物は数多くない。列記すれば、6216がSH05の上部、2445がSD04の5層、0052



がSD103の下層、3864がSH01からの出土である。

土錘は形状、大きさ、孔径ともまちまちであり、出土地点も様々である。形は俵形、紡錘形、球形、筒形にわけられる。特殊なものとして2445の釣り鐘形があげられる。大きさにはとりわけ大きいものはない。最も重いのは5008が104.9g以上あり、最も軽いものは4706の16.6g以上であり、他は様々である。孔径は2種類に分けられる。大孔径のもの6ヶ、小孔径のもの4ヶで、大きいものは約1cmぐらいで、小さいものは0.5cmから0.2cmのものまで見られる。

(土)

#### 第4節 石器

- 3838 石鏃(有柄) [PL49-08; 111-07] E-4, SD03?, 5層(溝埋土?)  
舌部欠損 幅15.0 長さ20.0 厚さ3.5mm (残存長, 残存幅)  
先端部及び片方の脚が欠損。柄も欠損しているが、その痕跡は明確に残る。  
実測上面の反対側は摩耗して稜線がなだらかである。
- 3886 石鏃 [PL49-07; 111-06] E-4, 不明, 5層 溝上面  
幅15.5 長さ21.0 厚さ3.0mm  
先端部及び片方の脚が欠損。底部が内湾。
- 4653 石鏃 [PL49-09; 111-08] F-5, 東拡張, 5層(溝内)  
幅14.0 長さ24.5 厚さ5.5mm  
底部はほぼ直線。他の2点に比べて厚い。
- 2449 石斧 [PL49-10; 111-09] C-3, 東ベルト北, SD04, 6層  
幅51.5 長さ52.5 厚さ10.5mm (残存)
- 2462 石斧 [PL49-01; 111-11] C-3, 東ベルト北, SD04, 6層  
幅63.0 長さ78.5 厚さ29.5mm  
左右非対称である。器面に磨いた痕があり、先端には使用痕がある。
- 3874 石斧 [PL49-05; 111-10] E-4, 北東, 4層下部  
幅35.5 長さ67.5 厚さ16.0mm  
先端部欠損。
- 4010 石斧 [PL49-06; 111-12] E-5, 南東, 4層  
幅54.0 長さ71.5 厚さ32.0mm  
先端部及び先端部から側部に移る湾部で一部欠損。  
材質は他と比べて粗い。
- 4618 尖頭器 [PL49-02; 111-02] F-5, 北溝, SD03, 7層(貼床の下)  
幅39.5 長さ50.0 厚さ09.0mm  
完形。先端の使用痕はごくわずか。
- 3860 石剣 [PL49-11; 111-05] E-4, 東ベルト, SH01, 5層(LV=10.219m)  
幅27.5 残長93.0 厚さ07.0mm  
先端のみ残存。先端部及び側面が丁寧に磨いてある。

3084 フレーク [PL49-04 ; 111-04] D-3, 北西部, SD04, 6層

幅27.0 長さ25.5 厚さ07.5mm

二辺に打ち割いた痕がみられる。石鏃未製品か。

7605 凹石 [PL49-03 ; 111-03] A-1, SD03, 溝埋土

幅77.0 長さ63.0 厚さ17.0mm

両面に凹みがある。

4077 たたき石 [PL49-12 ; 111-01] E-5, 東拡張部南, 3層下部

PL49-12の上面図左下の凸部に使用痕有り。

加工はいたって雑。

#### <まとめ>

遺構ごとの出土状況を見るとSD03からは石鏃3点3898, 3886, 4653が発見されている。距離的にも近いが、出土レベルは溝埋土の上面位である。その所属に関しては、言及し難い。

尖頭器4618はSH01の貼床の下で、少なくともSH01より古く弥生時代のものであろう。凹石7605はA-0区の埋土からである。SD04からは石斧2449と2462がいずれもC-3区東ベルト北第6層から出土している。D-3区からは、フレーク(未製品)3084があり、SH01からは石剣破片3860が出土した。今回の発掘区からの石器や石片は出土点数が少ないため、全体の概要は明確に出来なかった。

(鯉江)

## 第5節 自然遺物

発掘区の北西端にあたるA-0区とA-1区の境界付近において、弥生前期の溝であるSD03の埋土中位(5層)に小規模な貝層が発見された。厚さ20cmで径約80cm位の範囲に貝がまとまって残っていたものである。今回の調査ではここ以外では貝層は発見されなかった。なお、隣接した高蔵保育園での市教委の調査の際には、カキを中心に魚骨や獣骨を含む貝層が2ヶ所で認められている。小規模であったため貝層すべてを採取したが、保存状態は悪く、粉末状になったものが大半であった。ハマグリ、カキを中心とした貝層であり、魚類を僅かに含むが種を確定できるものは殆どなかった。

なお、その他の自然遺物としてはF-5区でやはりSD03の最下部から炭化米が、またE-4区の3層下部からは歯が、A-1区では植物の種子が発見されているがいずれも未鑑定である。

以下に出土した遺物について述べるが、分類に当たっては名古屋大学の渡辺誠助教授および同大学学生の久保・田中両氏に御指導いただいたことに心から感謝する次第である。

### I 出土動物遺存体一覧表

軟体動物門      Phylum Mollusca

腹足綱          Class Gastropoda

たにし科          種不明

Viviparidae gen. et sp. indet.

うみにな科      カワアイ

*Cerithidea (Cerithideopsilla) djadjariensis*

あっきがい科    アカニシ

*Rapana thomasiana*

斧足綱	Class Pelecypoda	
ふねがい科	サルボウ	<i>Anadara (Scapharca) subcrenata</i>
いたばがき科	マガキ	<i>Crassostea gigas</i>
ふながたがい科	ウネナシトマヤガイ	<i>Trapezium (Neotrapezium) japonicum</i>
まるすだれがい科	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
ばかがい科	シオフキ	<i>Mactra veneriformis</i>
えぞおのがい科	オオノガイ	<i>Mya (Arenomya) arenaria(?) oonogai</i>

脊椎動物門 Phylum Vertebrata

魚綱 Class Pisces

たい科	種不明	Sparidae gen. et sp.indet.
-----	-----	----------------------------

II 出土貝類個体数一覧表

腹足類	個体数	斧足類	右殻	左殻	不明
タニシ類	1	サルボウ	1	1	
カワアイ	1	マガキ	15	33	
アカニシ	4	ウネナシトマヤガイ	4	3	
		ハマグリ	26	25	14
		シオフキ	2	1	
		オオノガイ		2	

殻頂部の残存しているものを1個体とする。そのため、タニシ類は体層部もしくは螺塔部の破片2点であるが1個体とした。

III 小括

マガキ、ハマグリを中心とした貝層で、腹足類ではアカニシが目立つ。ハマグリは殻長50mm前後の大きさのものが主体である。マガキは風化が著しく、大きさの正確な把握はむずかしいが、殻高70mm以上が主体であろう考えられる。アカニシは総て破碎されている。

淡水産のタニシ類以外の出土貝類はすべて汽水域から内湾の浅海に棲息する種である。

魚類はタイ科の主上顎骨、角骨（各1）などが出土している。

IV 過去の調査における出土貝類

当遺跡は名古屋台地東側の先端近くに位置する高蔵貝塚の一部であり、付近の台地周縁部の数多い地点が様々な研究者によって明治以来調査されてきた。それ等の報告によると高蔵貝塚を形成する貝類は、ハマグリとカキが主体であり、今回の調査とはほぼ同様の傾向を示している。但し、過去の調査においては、シカ・イノシシ・ウマなどの獣骨が検出されているが、今回の調査では認められなかった。

参考までに過去の調査における出土貝類を記しておく。

鍵谷徳三郎氏が市道大津通り沿いの高蔵町・外土居町を調査した際（鍵谷1908）には、ハマグリ

リ・ツメタガイ・サルボウ・カキ・イセヒロ・アカニシ・ウミニナ類が出土。

清野謙次氏が高蔵神社の北で調査した際（清野1925）には、  
カキ・ハマグリ・サザエ等が

直良信夫氏が外土居町で調査した際（直良1930）には  
マガキ・カニモリガイ・ハマグリ・シオフキ・オオノガイ・マガキ・セタシジミ・アカガイ・ハイガイが

田中稔氏が高蔵貝塚E地点を調査した際（田中1954）には  
ハマグリ・カキ・アカニシ・ウミニナ類・サルボウ・ハイガイ・オオノガイ・オキシジミ等が

中山英司氏が高蔵貝塚D地点を調査した際（中山1963）には  
ハマグリ・オキシジミ・アカニシ・シオフキ等が出土している。

〈参考文献〉

- |      |      |                 |      |
|------|------|-----------------|------|
| 吉良哲明 | 1977 | 原色日本貝類図鑑（増補改訂版） | 保育社  |
| 江坂輝弥 | 1983 | 化石の知識（貝塚の貝）     | 東京美術 |

（金森）

## 第8章 総括

巻頭に記したように、本書は報告の刊行と資料の公開を可能な限り迅速に行なうことを当初の予定としていた。調査終了後、整理や執筆の作業に約1年強の時間がかかり、更に終了後2年の時点での公刊となった。調査の開始からは丸2年半の日数を要したことになる。予定からは大幅に遅れたとはいえ、学生を主力とした任意団体での仕事としては、まず妥当な線での終結であろう。学術的な意味での正式報告としては、必ずしも十分なものではない。より多くの資料にあたり、本遺跡の遺構や遺物について調査者としての見解や結論をまとめた上で提示することを考えなかったわけではない。

しかしながら、上記の理由も含めた様々な原因から重要な遺跡の資料が未報告・未公開のままであることを考えると、完全よりも拙速を導ぶべきかと判断した。また、今回の調査は研究目的に沿っての純粋な学術調査ではなく、あくまで建築に伴う事前調査である。長期にわたり未報告のまま研究を継続するのは文化財の私物化とも言いうるであろう。予算の限度内で最大限の努力をし、公刊することを義務と考えた次第である。

以下今回の調査の成果についてまとめ、考察に代えたい。

### <まとめ>

今回の調査地点（高蔵貝塚B地点）はあくまで高蔵遺跡の一部であり、地形的には平坦な台地の東縁部にある。台地の縁は北に向かってより東へ張り出しており、過去の調査地点の殆どはこの縁のやや内側で北よりの地点である。今回の地点は調査結果から見ると、高蔵保育園と一連のものであり、この付近に弥生前期の中心があったと考えられる。北方の地点では前期の証拠は殆どないようである。北方の諸地点で発見されていた溝が方形周溝墓のものであるか否かは今となっては判断できないが、方形周溝墓は本地点より西にも広がって分布するようである。この遺跡で弥生時代の住居址が未発見であるのは不可解であり、遺構の多い弥生後期の居住区の所在地の解明と、各地点間の関係の掌握が今後の課題と言えよう。

今回発見された弥生前期の遺構は溝SD03のみである。この溝は弥生前期に掘り込まれ、かつ弥生前期に埋没したものと推定される。遺物の殆どは完形でそこに置かれたのではなく、破碎されたか、壊れたものを廃棄したかのいずれかと考えられる。

溝の用途は不明だが、発掘時の所見では、通常水が溜っていたとは考え難いので、(a)排水路又は境界の溝で、前期末には不要となり埋められたか、(b)祭祀等のための溝で掘られてまもなく埋められた可能性が強い。前者の意味では同時期の可能性を持つSD105がSD03に平行して外側に存在することは、境界を拡張し、不要になったSD03を埋めた可能性を示す。後者の意味では底部を穿孔した例や、殆どの復元完形品が、半分以上の部分を失っていることが理由としてあげられるであろう。

前期の溝は保育園でも発見されているが、今回の溝との関係は不明である。連続すると考えるより、より内側の溝と考える方が可能性は強い。十分な報告はないが、土器もSD03よりやや古い可能性があるだろう。なお、今回の溝では貝層は無く、一箇所で貝のブロックが発見されたのみである。

SD03の出土遺物は殆ど土器のみである。土器は所謂遠賀川系のもを中心に条痕系のものが混

ざり、さらに僅かに大洞系などの異質の土器がある。条痕系のもは殆どが甕であり、大きさ等からみて遠賀川系の甕と補完関係にあると考えられる。したがって本遺跡では両者を合わせて基本的なセットが構成されていると見てよいであろう。形式的には、本地域の編年上では西志賀式に該当するが、壺の一部等にはやや新しい様相も見受けられる。従って、全体を前期末の比較的短期間のもと判断した。器形に関しては条痕系の壺が殆ど発見されていないことと、本地域では珍しく鉢が多数発見されたのが特徴と言えよう。なお、今回の調査では貝殻山式に該当する土器片は殆どないが、このことは必ずしも本遺跡がその時期に居住されなかったことを意味しないであろう。

今回の調査地点では弥生中期の痕跡はなく、後期の高蔵式の土器片も僅かである。次の遺構は山中式の時期の方形周溝墓SD04である。保育園の方形周溝墓に比べてやや大型で、1辺は約12mで、各辺は略々東西南北を指す。南西隅を除いた3つの隅が上部では連続しているものの底がきわめて高く上がっていた。中央部はほぼ全域が後世の攪乱を受けていた。溝からの出土土器はすべて山中式として良いであろう。出土した土器は、故意の破碎が明白なもの以外も殆どの土器に人為的な破碎の可能性が考えられる。各溝ごとのセットがかなり異なるのは興味深い。個々の溝の果たす役割が異なるのか、各溝が一単位の4つ同じ性格のものであるのか、今後の検討課題としたい。

高蔵遺跡での方形周溝墓の発見は保育園のものが最初であり、本地点が2番目になるが、その後の荒木集成館の調査でも発見されている。かつて諸地点で発見された溝状遺構の多くも方形周溝墓の溝であった可能性が高い。また今回の調査で発見された時期や性格の不明な溝の内にも可能性を持つものがある。したがって、高蔵遺跡の南部にはかなり多数からなる方形周溝墓群が存在したものと推定される。

山中式の時期以降では欠山式など若干の土器片が出土しているが、時代のはっきりした遺構としては古墳時代中期後葉の住居址SH01になる。対角線がほぼ東西南北を指す一辺約4.5mの堅穴住居の西半分が検出されたものである。土器は多数発見されたが、器種としては極端に高坏の比率が多く、堅穴廃棄以降の早い時期に所属する可能性もあろう。春日荘で発見されている住居址とは大差ない時期と考えられ、当時はこの地点付近は居住区であったと推測される。

住居址としてはこの他は、所属年代に関しては証拠を欠くものが大半である。住居址の方向性は3つの群に分けられ、SH09, 04, 10はSH01と同様の方向で近似した時期の可能性があろう。SH09, 05は遺物からみて8, 9世紀以降かと判断される。第2にSH03, 07, 12が、そして第3にSH03とSH11, 13も互いに類似した方向性を持っている。それぞれ一時期の集落の一部であろうが時代は全く不明である。壁のきわにはきわめて不明瞭であるが、壁に沿って溝らしきものが存在し、そのような部分にのみ壁の残存が確認できたと言ってよいであろう。さらに、黒褐色の3層中の各所に焼土が認められた。それ等についても何らかの生活址である可能性を考えたい。

多くの溝状遺構もいずれも所属年代を決定すべき証拠を欠いている。SD07とSD105は前期の同一の溝の可能性が高い。弥生時代の可能性が存在するのは、SD01, SD05, SD08, SD09, SD10, SD11, SD102, SD107であるが、すべて地山への掘込みが浅く、埋土は上層と区別できず、後からの掘込み等を確認することは不能で、所属時期は決定できない。SD07とSD105以外の溝はいずれもグリッドの軸線と対角線状に交わる方位を示すことと、深さの類似から同時代の可能性を持つと考え、SD01を根拠に弥生時代の可能性を持つものとして分類した。性格について何らの判断

材料はないが、方形周溝墓の溝の痕跡である可能性を指摘しておきたい。

その他の溝は古墳時代以降のものであることは明らかであるが、SD101からの遺物にはかなりの時代差があり、埋没年代は8-9c.以降と推定されるが、溝内とは断定できない上層からも山茶碗などが出土している。したがってより長期にわたって用いられた可能性がある。SD06, 106は殆ど遺物がなく時代決定は不可能である。SD02, 103は完掘されていないためはっきりしないが、SD101ほど長期にわたるとは考えられない。SD02からは古手の須恵器が出土しており、SD101より古い可能性が強い。

これ等の遺構の性格に関しては証拠は殆どないが、SD101からの出土品の多くが完形品であることから推測すれば、前述の住居址などが用いられた時代の何らかの祭祀遺構ではあるまいか。この意味から注意すべきは高坐御結子神社との関係であろう。

これ等の古墳時代以降の溝と住居址が当時併存していたか否かは不確かであるが、SD101が長期にわたるとすれば他の住居址や溝とも併存を考えてよいのではあるまいか。したがって、溝状遺構は古墳時代以降の集落に伴うもので、時代不明の多数のPit類も同様かと推測される。

中世以降の陶磁器片等は発見されているものの数は多くない。江戸時代と考えられるものが、殆どないのも特徴的である。また明白な遺構も発見されていない。

現代の遺構としては、防空壕が7基発見されている。当時存在した長屋に伴うものと考えられるが、寸法・構造等の違いは各住人の事情や性格の差を示すようで興味深いものであったが、当時の遺物は極めて少なかった。

上述のごとく、この地点での生活の痕跡は断続的ではあるがきわめて長い時代にわたっている。確実な遺構は弥生前期からであるが、縄文土器片も発見されており、この付近での古代人の生活は縄文時代まで遡ると考えられる。当時は海に突き出した半島であったと考えられるこの地は弥生から古墳時代にかけて、この地域の中心地であったことは地域最大の前方後円墳である断夫山古墳の存在によって明白であるが、弥生前期以来この地が弥生の稲作文化の拠点とし繁栄したことがその背景に存在し、本遺跡を著名にした多数の立派な弥生土器類の出土もそれを証明するものの一つであろう。従前の発見は弥生後期以降に集中していたため、この地の繁栄は後期頃からであるかのような感があったが、今回の調査を含め高蔵遺跡での前期の様相は次第に明らかになってきている。現状では西志賀の段階までであるが、調査範囲の狭さからみて貝殻山式の時代に遡らないとは断言できないであろう。この点と住居や水田の所在を追及することが、本遺跡での今後の課題と言えよう。

一般的に言えば、調査面積が遺跡全体に対して少なく、高蔵遺跡全容を推測するにはほど遠い感が残った。遺構・遺物ともに新発見といったものではないが、この地域の土器のセット等を考えるためには有効な遺物を比較的多く発見することが出来た。また比較的報告の少ない名古屋台地での報告書として、高蔵遺跡のみならずこの地域の弥生から古墳時代にかけての研究に寄与できれば調査者として幸いである。

<おわりに>

当地域が弥生文化の東進に関して重要な鍵を握る地域であるとの認識からなされた先学諸氏の様々な論議に敬意を表するもの、調査された遺跡の数、調査の規模、報告の有無等を考えると裏付となるデータに関しては、十分整っているとは言えないことも事実であろう。土器の編年に

せよ、集落（遺跡）の展開にせよ、筆者には先学諸氏の論を肯定することも否定することも出来なかった。

当地方は所謂遠賀川式土器を主たる土器としている遺跡の東限の地域とされている。また、それ等と条痕系土器が共存して発見されることから、両者の接触する地域ともされ、この点を巡って様々な解釈がなされてきた。基本的には縄文からの伝統を残す条痕文土器を持つ人々と、遠賀川系の土器を持ち稲作技術とともに東へ移動してきた人々の接点或いは対立・融合の場として理解されてきたと考えてよいであろう。

最近では九州で遠賀川式以前に稲作が遡ることが明らかになりつつあり、旧来とは異なって弥生時代の開始を土器からではなく、稲作農耕の開始にもってゆく考えが強い。即ち、時代区分を主たる生産形態で行なおうとする考えである。もっとも、本来便宜的なものとして設定された土器による考古学的時代区分を定義の内容を変え、かつ同じ名称のまま用いることには無理もあり、必ずしも定義として統一されたものとは未だ言い難いようである。

西日本での上記の発見や傾向は、当地の弥生前期の研究にも新たな検討を強いることになったと考えられる。遠賀川系の土器をもって、当地の弥生文化の開始と見ることは是非が問われ、遠賀川＝弥生＝稲作の図式の再検討が必要となった。とりわけ問題となるのは条痕文土器であろう。この語の定義も必ずしも明快とは言えないが、条痕文系土器が成立の時点で縄文の系列に入るものであると言うことは、人・時代・文化・土器といった語のうちどれを付けた場合に正しいのであろうか。前述のごとく、当地での条痕文系土器と遠賀川系の土器の伴出は縄文文化と弥生文化の接触と融合の関係としてとらえてきた。そして、条痕文系の土器は一部は縄文あるいは縄文系に、一部は弥生に編年されてきた。その分類の根拠は伴出する他の土器、特に遠賀川系土器によっていえる。一方、本遺跡を含め弥生前期末にいたっても、より縄文的と言える大洞系の土器も伴出することも明らかである。遠賀川＝弥生＝稲作の図式が必ずしも成立しない可能性が強くなった現状では、条痕文土器の成立過程を弥生の系列、あるいは弥生の影響の波及としての立場から再検討する必要があり、さらに当地の縄文晩期の様相の全体をも併せて吟味することが要求されよう。元来、条痕文系の土器は縄文とも弥生とも判然としないものとして認識されたものであり、この土器を如何なる定義の仕方であってゆくかをも含めて検討すべきであろう。

考古学において文化名・型式名・時代名などは、まずは便宜的に名付けられ、後から追いかけて内容が判明してくるのが通常であった。そして、その名称の定義として、判明した属性が次第に付加され、本来異なった視点からの定義が重複したものとなる傾向を持つ。このような定義内容の付加は、多くの学者がその名称の普遍的属性として比較的異議なく認めたものが時間とともに自然と受入れられたのであり、一々が吟味され規定として拘束力を持つものではない。従って、定義のどの部分に重点を置くかは個々の研究者によって解釈の相違を生じることとなる。また研究の進展とともに、より多くの属性が定義のうちに取り込まれることを許容すべきものと考えられる。特定の時点での定義や自らの解釈に拘泥することは、用語の解釈を巡って考古学の本来の立場を忘れた空虚な論議や、研究者が互いに自説と自らの定義の解釈を絡めて他に認めさせようとする事から来る悪循環的論争や自縄自縛的あるいは牽強付会的な論を引き起こすことになる。

したがって、このような命名法はあくまでも便宜的なものであることを認識し、研究の進展状況によっては改名の必要性が生じると考えた方がよいのではあるまいか。即ち、研究の進展によって、時間的・空間的にデータが豊富かつ緻密になるにつれ、定義がより複雑化する一方、その属性とされるものの総てを充たさないものや、一部だけが適応するもの等が発見される可能性は多



くなる。特に典型的なものの相互の時間的・空間的境界部分においては、両者の中間的な様相を示すものが発見されることは当然とも言えよう。このようなものをどちらに分類するかは研究者の重点の置き方によって異なるのもまた当然であろう。

これらの点から判断すると、異なった視点からの定義が重複した用語においては、二者あるいは複数の用語に跨がり、どちらに所属させるべきか判断しがたい事例ができることは明白である。縄文と弥生、弥生と土師（古墳）の境界に問題が生じるのは、語句自体から明らかなように、土器の分類と時代名称が重複している上にさらに生産形態としての稲作農耕の存否や墳墓の形態などが絡まって定義されていることから必然的に生じるものと考えられよう。したがって、旧来の名称に更に新しい定義を追加することは、その名によって称されるものの内容をより明確化する働きを持つものの、より厳密に限定することとなるため、総てを包括することが困難になる一面を有し、限界を越えた時には再検討の必要があると言ってよいであろう。日本考古学の発展により、現在はその時期にきているのではあるまいか。小手先の用語の変更ではなく、抜本的な再検討の必要があるように感じられる。例としてあげれば、時代名称として三時期法的な旧石器・新石器・金属器（金石併用、青銅器、鉄器）といった名称、縄文、弥生といった土器からきた名称、狩猟採集・農耕といった生産形態からの名称は本来互いに一致すべきものではない。その時代の生活の実態を考古学的に追及する場合、本来便宜的なものであった用語に不必要にこだわって混乱を生じるのは無意味であろう。

そこで、弥生文化（時代・土器）の定義の如何を問わず、弥生時代の開始をどのように考えるかによっても、時代の分期点が異なることは明らかである。例えば、

1. 最も早く弥生文化の開始された地域との実年代での対応時期。
2. 当地方に何らかの弥生の影響が見られる時期（最小限の証拠で土器の文様、器形など）。
3. 粳など稲作を示唆する証拠の発見される時期（2, 4などと重なるが）。
4. 弥生と称することの出来る遺物などが当地で発見される時期（移入でも可）。
5. 弥生文化を持った人々が到来したと考えられる時期（人骨・葬制など）。
6. 弥生と称することの出来る遺物などが当地で製作される時期。
7. 弥生と称することの出来る遺構が発見される時期（水田址など）。
8. 弥生文化が定着したと考える（全てのセットが揃う）時期。等々である。

さらに弥生とする遺物について土器・石器・金属器・木器等の内、どの遺物を指標とするかによって4, 6, などは細分される。そして、これ等と現在までの土器からの当地の文化編年との対応が問い直されていると言ってよいであろう。即ち、稲作あるいは水田の有無によって、当地の時代を分期することは現状では無理かと考えられるので、既存の土器編年の内で、上記の様々な項目に対しどの型式がどのように対応するのかを再考慮すべき段階にあると考えられる。

蛇足とは思いながら、最後に付け加えたのは、もともと日本考古学の専門家でない筆者が、当地での弥生文化の様相を知ろうとした時、あまりにも不必要な混乱と、そこから派生して、用語に逆に拘束された思考による論議があるように痛感されたからである。なお、筆者は便宜的な時代区分として縄文から弥生にかけては、最終的には金属器の有無が残るのではないかと考えている。

（重松）

《参考文献目録》

- 高橋健自 1908 : 「熱田高蔵貝塚の発見につきて」『考古界』7-1 pp.36-38
- 鍵谷徳三郎 1908 a : 「尾張熱田高倉貝塚實査」『東京人類学雑誌』266号 pp.275-283
- 鍵谷徳三郎 1908 b : 「尾張熱田高倉貝塚實査」『考古界』7-2 pp.53-67
- 佐藤亀一 1918 : 「尾張国熱田の貝塚より得たる日本石器時代人骨について」  
『人類学雑誌』33-11 pp.309-349
- 清野謙次 1925 : 「三十一尾張国名古屋市熱田貝塚」『日本原人の研究』 pp.99-103
- 大阪毎日 1928 : 「熱田の貝塚を発掘」『考古学雑誌』18-12 p.74 (彙報)
- 名古屋新聞 1929 : 「弥生式土器を発掘す」『考古学雑誌』19-1 pp.80-81 (新聞所見)
- 直良信夫 1930 : 「尾張国名古屋市熱田東町外土居貝塚の貝類」『史前学雑誌』2-2 p.174
- 小栗鉄次郎 1932 : 「愛知県内先史時代遺物発見地名表」  
『愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告』10
- 南山大学人類学研究会1953 : 「名古屋市高倉貝塚発掘」『人類学研究』1-1
- 田中 稔 1954 : 『高蔵貝塚』豊橋市瓜郷遺跡調査会
- 澄田正一 1955 : 「愛知県名古屋市高蔵貝塚」『日本考古学年報』4 (昭和26年度) pp.104-105
- 稲垣晋也 1955 : 「高蔵貝塚」中山英司『学術調査の行われた遺蹟を中心とする中部日本古代文化展』(解説) pp.12-13
- 檜崎影一 1955 : 「名古屋市熱田区高蔵第1號墳の調査」  
『名古屋大学文学部研究論文集』(史学)4 pp.111-131
- 中山英司 1963 : 「愛知県名古屋市熱田区高蔵貝塚」『日本考古学年報』6 (昭和28年度) p.74
- 清野謙次 1969 : 「名古屋市熱田区高蔵神社北方貝塚」『日本貝塚の研究』pp.101-103
- 熊田敬子 1979 : 『高蔵貝塚Ⅰ—1953年D地点第1次発掘調査—』〈南山大学人類学博物館紀要1〉
- 高蔵遺跡調査会 1982 : 『高蔵貝塚—春日荘跡地区 発掘調査報告書』
- 見晴台考古資料館 1982 : 「熱田区高蔵町 高蔵遺跡発掘調査概要報告書」名古屋市教委
- 見晴台考古資料館 1983 : 「熱田区夜寒町所在 高蔵遺跡発掘調査概要報告書」  
『昭和57年度埋蔵文化財発掘調査概要報告書』名古屋市教委
- 荒木集成館 1986 : 『名古屋市高蔵遺跡五本松町 発掘調査概要報告書』五大産業株式会社
- 水口富夫 1985 : 「高蔵貝塚Ⅱ—1956年D地点第2次発掘調査—」〈南山大学人類学博物館紀要7〉

《付》[遺物 对照表] 図面・写真・TY番号

(図版番号順)

PL TY PL  
 001-01, [0020 ], 080-01  
 001-02, [0028 ], 080-02  
 001-03, [0025 ], 080-03  
 001-04, [7607 ], 080-04  
 001-05, [4605 ], 080-05  
 001-06, [7602 ], 080-06  
 002-01, [7602 ], 081-01  
 002-02, [7601 ], 081-02  
 002-03, [7603 ], 081-03  
 002-04, [0031 ], 081-04  
 002-05, [0024 ], 081-05  
 002-06, [0022 ], 081-06  
 003-01, [1025 ], 082-01  
 003-02, [0021 ], 082-02  
 003-03, [0023 ], 082-03  
 003-04, [0028 ], 082-04  
 004-01, [2245 ], 084-01  
 004-02, [5045 ], 084-02  
 004-03, [2255 ], 083-02  
 004-04, [2244 ], 083-01  
 004-05, [2242 ], 084-06  
 005-01, [5058 ], 084-01  
 005-02, [2240 ], 084-05  
 005-03, [5046 ], 083-04  
 005-04, [2238 ], 083-05  
 006-01, [2241 ], 084-03  
 006-02, [2248 ], 083-03  
 007-01, [3101 ], 085-01  
 007-02, [3101 ], 085-02  
 007-03, [3097 ], 085-03  
 007-04, [3668 ], 085-04  
 007-05, [3661 ], 085-05  
 007-06, [3655 ], 085-06  
 007-07, [3663 ], 085-07  
 008-01, [3936 ], 086-01  
 008-02, [3950 ], 086-02  
 008-03, [3961 ], 086-03  
 008-04, [3943 ], 086-04  
 008-05, [3930 ], 086-05  
 008-06, [3944 ], 086-06  
 009-01, [3896 ], 087-04  
 009-02, [3884 ], 087-01  
 010-01, [3891 ], 088-05  
 010-02, [3946 ], 088-06  
 010-03, [3914 ], 088-04  
 011-01, [4663 ], 089-01  
 011-02, [3908 ], 089-02  
 011-03, [3947 ], 089-03  
 012-01, [4641 ], 090-01  
 012-02, [4630 ], 090-02  
 012-03, [4622 ], 090-04  
 012-04, [4655 ], 090-03  
 012-05, [3937 ], 090-05  
 013-01, [4642 ], 088-01  
 013-02, [4637 ], 090-06  
 013-03, [4639 ], 088-02

PL TY PL  
 013-04, [4636 ], 088-03  
 014-01, [4619 ], 091-02  
 014-02, [4662 ], 091-01  
 014-03, [4658 ], 091-04  
 015-01, [4627 ], 092-01  
 015-02, [4404 ], 092-02  
 015-03, [4630 ], 092-03  
 016-01, [4623 ], 097-03  
 016-02, [4617 ], 087-02  
 016-03, [4621 ], 091-03  
 017-01, [3895 ], 093-01  
 017-02, [4069 ], 093-02  
 017-03, [4625 ], 093-03  
 018-01, [3669 ],  
 018-02, [2243 ],  
 018-03, [3941b],  
 018-04, [7607 ],  
 018-05, [3909 ],  
 018-06, [2231 ],  
 018-07, [3958 ],  
 018-08, [3922 ],  
 018-09, [3949 ],  
 018-10, [3892 ],  
 018-11, [4642 ],  
 018-12, [4667 ],  
 018-13, [3650 ],  
 018-14, [3933 ],  
 018-15, [2106 ],  
 018-16, [3921 ],  
 018-17, [4664 ],  
 018-18, [3921 ],  
 018-19, [3884 ],  
 018-20, [0014 ],  
 018-21, [3941b],  
 018-22, [3957 ],  
 018-23, [2245 ],  
 018-24, [3921 ],  
 018-25, [3938 ],  
 018-26, [3941b],  
 018-27, [3891 ],  
 018-28, [1036 ],  
 018-29, [4637 ],  
 018-30, [3958 ],  
 018-31, [1036 ],  
 018-32, [3669 ],  
 018-33, [0024 ],  
 018-34, [3927 ],  
 019-01, [4631 ],  
 019-02, [1027 ],  
 019-03, [3668 ],  
 019-04, [4636 ],  
 019-05, [3662 ],  
 019-06, [3882 ],  
 019-07, [1048 ],  
 019-08, [2255 ],  
 019-09, [5060 ],

(遺物番号順)

TY PL 区 遺構  
 [0002 ], 109-09, A-1,  
 [0003 ], 109-21, A-1,  
 [0004 ], 110-20, A-1,  
 [0006 ], 050-02, A-1,  
 [0006 ], 051-02, A-1,  
 [0008 ], 045-01, A-1, SH08,  
 [0008 ], 105-05, A-1, SH08,  
 [0008-f], 045-10, A-1, SH08,  
 [0008-f], 106-03, A-1, SH08,  
 [0013 ], 048-16, A-1,  
 [0014 ], 018-20, A-1, SD03,  
 [0020 ], 001-01, A-1, SD03,  
 [0020 ], 080-01, A-1, SD03,  
 [0021 ], 003-02, A-1, SD03,  
 [0021 ], 082-02, A-1, SD03,  
 [0022 ], 002-06, A-1, SD03,  
 [0022 ], 081-06, A-1, SD03,  
 [0023 ], 003-03, A-1, SD03,  
 [0023 ], 082-03, A-1, SD03,  
 [0024 ], 002-05, A-1, SD03,  
 [0024 ], 018-33, A-1, SD03,  
 [0024 ], 020-28, A-1, SD03,  
 [0024 ], 023-14, A-1, SD03,  
 [0024 ], 081-05, A-1, SD03,  
 [0025 ], 001-03, A-1, SD03,  
 [0025 ], 080-03, A-1, SD03,  
 [0028 ], 001-02, A-1, SD03,  
 [0028 ], 003-04, A-1, SD03,  
 [0028 ], 024-29, A-1, SD03,  
 [0028 ], 080-02, A-1, SD03,  
 [0028 ], 082-04, A-1, SD03,  
 [0029 ], 109-12, A-1,  
 [0029 ], 109-39, A-1,  
 [0031 ], 002-04, A-1, SD03,  
 [0031 ], 081-04, A-1, SD03,  
 [0033 ], 025-27, A-1, SD03,  
 [0034 ], 050-23, A-1,  
 [0034 ], 051-23, A-1,  
 [0041 ], 109-33, A-1,  
 [0047 ], 026-21, A-1, SD03,  
 [0050 ], 050-15, A-1,  
 [0050 ], 051-15, A-1,  
 [0052 ], 048-01, A-1,  
 [0052 ], 111-24, A-1,  
 [0211 ], 109-17, A-2,  
 [0222 ], 033-05, A-2, SD04,  
 [0227 ], 033-12, A-2, SD04,  
 [0230 ], 041-05, A-2,  
 [0230 ], 101-05, A-2,  
 [0235 ], 033-11, A-2, SD04,  
 [0236 ], 033-04, A-2, SD04,  
 [0236 ], 033-10, A-2, SD04,  
 [0242 ], 109-19, A-2,  
 [0242 ], 109-23, A-2,  
 [0243 ], 033-06, A-2, SD04,  
 [0248 ], 033-02, A-2, SD04,

TY PL 区 遺構  
 [0257 ], 041-06, A-2,  
 [0257 ], 101-06, A-2,  
 [0264 ], 030-08, A-2, SD04,  
 [0268 ], 033-07, A-2, SD04,  
 [0272 ], 033-09, A-2, SD04,  
 [0273 ], 033-01, A-2, SD04,  
 [0275 ], 028-02, A-2, SD04,  
 [0275 ], 094-06, A-2, SD04,  
 [0282 ], 027-04, A-2, SD04,  
 [0282 ], 094-04, A-2, SD04,  
 [0283 ], 027-01, A-2, SD04,  
 [0283 ], 094-06, A-2, SD04,  
 [0284 ], 027-02, A-2, SD04,  
 [0284 ], 094-01, A-2, SD04,  
 [0285 ], 028-01, A-2, SD04,  
 [0285 ], 094-02, A-2, SD04,  
 [0286 ], 027-03, A-2, SD04,  
 [0286 ], 094-05, A-2, SD04,  
 [0287a], 044-03, A-2, SD103,  
 [0287a], 104-05, A-2, SD103,  
 [0288a], 044-02, A-2, SD103,  
 [0288a], 104-03, A-2, SD103,  
 [0290 ], 033-03, A-2, SD04,  
 [0402 ], 110-15, A-3,  
 [0404 ], 045-04, A-3,  
 [0404 ], 105-08, A-3,  
 [0404-f], 047-04, A-3,  
 [0404-f], 108-04, A-3,  
 [0404-g], 046-11, A-3,  
 [0404-h], 107-09, A-3,  
 [0408 ], 034-10, A-3, SD04,  
 [0409 ], 046-09, A-3,  
 [0409 ], 107-07, A-3,  
 [0409 ], 109-36, A-3,  
 [0411 ], 034-11, A-3, SD04,  
 [0411 ], 034-13, A-3, SD04,  
 [0417 ], 034-12, A-3, SD04,  
 [0420 ], 050-01, A-3,  
 [0420 ], 051-01, A-3,  
 [0424 ], 045-17, A-3,  
 [0424 ], 106-10, A-3,  
 [0434 ], 044-01, A-3, SD103,  
 [0434 ], 104-02, A-3,  
 [0602 ], 046-12, A-4,  
 [0602 ], 107-10, A-4,  
 [0602 ], 109-26, A-4,  
 [0602 ], 109-49, A-4,  
 [0603 ], 110-12, A-4,  
 [0613 ], 109-35, A-4,  
 [0617 ], 045-03, A-4,  
 [0617 ], 105-07, A-4,  
 [0623 ], 109-13, A-4,  
 [0801 ], 110-06, A-5,  
 [0806-f], 047-08, A-5,  
 [0806-f], 108-08, A-5,  
 [0806-h], 046-13, A-5,

019-10, [4630 ],	021-14, [2235 ],	[0806A], 107-11, A-5,	[1430 ], 046-15, B-3,
019-11, [3945 ],	021-15, [3926 ],	[0806B], 046-01, A-5,	[1430 ], 107-13, B-3,
019-12, [3949 ],	021-16, [3086 ],	[0806C], 106-12, A-5,	[1430 ], 110-27, B-3,
019-13, [3941b],	021-17, [3878 ],	[0807 ], 047-01, A-5,	[1432 ], 109-03, B-3,
019-14, [4616 ],	021-18, [4631 ],	[0807 ], 108-01, A-5,	[1432 ], 110-18, B-3,
019-15, [4618 ],	021-19, [3893 ],	[0808 ], 047-10, A-5,	[1436 ], 110-19, B-3,
019-16, [2105 ],	021-20, [3921 ],	[0808 ], 108-10, A-5,	[1437 ], 045-12, B-3,
019-17, [4641 ],	021-21, [5058 ],	[1004 ], 050-14, B-1,	[1437 ], 106-05, B-3,
019-18, [3050 ],	021-22, [1047 ],	[1004 ], 051-14, B-1,	[1441 ], 034-01, B-3, SD04,
019-19, [3881 ],	021-23, [4624 ],	[1006 ], 026-18, B-1, SD03,	[1442 ], 034-02, B-3, SD04,
019-20, [3938 ],	021-24, [2245 ],	[1025 ], 003-01, B-1, SD03,	[1448 ], 048-14, B-3,
019-21, [3096 ],	021-25, [3887 ],	[1025 ], 025-02, B-1, SD03,	[1453 ], 109-11, B-3,
019-22, [4631 ],	021-26, [2243 ],	[1025 ], 082-01, B-1, SD03,	[1606 ], 046-16, B-4,
019-23, [7602 ],	021-27, [3940 ],	[1027 ], 019-02, B-1, SD03,	[1606 ], 107-14, B-4,
019-24, [3964 ],	021-28, [ ? ],	[1028 ], 026-19, B-1, SD03,	[1607 ], 110-13, B-4,
019-25, [3878 ],	021-29, [3909 ],	[1029 ], 048-10, B-1,	[1608 f], 047-05, B-4,
020-01, [3943 ],	022-01, [7807 ],	[1029 ], 111-17, B-1,	[1608 f], 108-05, B-4,
020-02, [3921 ],	022-02, [4630 ],	[1031 ], 045-02, B-1,	[1808B], 047-09, B-4,
020-03, [1038 ],	022-03, [3949 ],	[1031 ], 105-06, B-1,	[1608B], 108-09, B-4,
020-04, [1038 ],	022-04, [3941 ],	[1032 ], 045-09, B-1,	[1609 ], 110-02, B-4,
020-05, [3885 ],	022-05, [4636 ],	[1032 ], 106-02, B-1,	[1610 ], 046-17, B-4,
020-06, [3884 ],	022-06, [4655 ],	[1034 ], 024-08, B-1, SD03,	[1610 ], 107-15, B-4,
020-07, [3884 ],	022-07, [3921 ],	[1036 ], 018-28, B-1, SD03,	[1611 f], 046-18, B-4,
020-08, [3949 ],	022-08, [4626 ],	[1036 ], 018-31, B-1, SD03,	[1611 f], 107-16, B-4,
020-09, [5060 ],	022-09, [2104 ],	[1036 ], 020-27, B-1, SD03,	[1611B], 046-19, B-4,
020-10, [1049 ],	022-10, [3884 ],	[1036 ], 025-05, B-1, SD03,	[1611B], 107-17, B-4,
020-11, [7602 ],	022-11, [2225 ],	[1037 ], 109-24, B-1,	[1612 ], 047-06, B-4,
020-12, [7602 ],	022-12, [3119 ],	[1037 ], 109-32, B-1,	[1612 ], 108-06, B-4,
020-13, [3884 ],	022-13, [2102 ],	[1038 ], 020-03, B-1, SD03,	[1617 ], 109-31, B-4,
020-14, [5060 ],	022-14, [2104 ],	[1038 ], 020-04, B-1, SD03,	[1638 ], 047-03, B-4,
020-15, [3086 ],	022-15, [4070 ],	[1038 ], 021-12, B-1, SD03,	[1638 ], 108-03, B-4,
020-16, [3941 ],	022-16, [3887 ],	[1041 ], 022-18, B-1, SD03,	[1639 ], 042-12, B-4, SD101,
020-17, [3957 ],	022-17, [3921 ],	[1042 ], 025-01, B-1, SD03,	[1639 ], 102-12, B-4, SD101,
020-18, [7601 ],	022-18, [1041 ],	[1047 ], 021-22, B-1, SD03,	[1641 f], 042-04, B-4, SD101,
020-19, [3884 ],	022-19, [3087 ],	[1048 ], 019-07, B-1, SD03,	[1641 f], 102-04, B-4, SD101,
020-20, [3944 ],	022-20, [5059 ],	[1049 ], 020-10, B-1, SD03,	[1641B], 042-11, B-4, SD101,
020-21, [4630 ],	022-21, [3923 ],	[1051 ], 025-29, B-1, SD03,	[1641B], 102-11, B-4, SD101,
020-22, [3949 ],	022-22, [3941 ],	[1052 ], 036-04, B-1, Pt323,	[1642 ], 042-19, B-4, SD101,
020-23, [4633 ],	022-23, [3672 ],	[1052 ], 096-04, B-1, Pt323,	[1642 ], 103-02, B-4, SD101,
020-24, [3958 ],	022-24, [3917 ],	[1202 ], 046-14, B-2,	[1644 ], 049-14, B-4, SD101,
020-25, [2106 ],	023-01, [3892 ],	[1202 ], 107-12, B-2,	[1645 ], 049-13, B-4, SD101,
020-26, [3914 ],	023-02, [4616 ],	[1204 ], 045-08, B-2,	[1648 ], 045-07, B-4,
020-27, [1036 ],	023-03, [3923 ],	[1204 ], 108-01, B-2,	[1648 ], 105-11, B-4,
020-28, [0024 ],	023-04, [7602 ],	[1210 ], 110-09, B-2,	[1648a], 042-17, B-4, SD101,
020-29, [3957 ],	023-05, [3898 ],	[1401 ], 046-03, B-3,	[1648a], 102-17, B-4, SD101,
020-30, [2102 ],	023-06, [3671 ],	[1401 ], 107-01, B-3,	[1650 ], 042-05, B-4, SD101,
020-31, [7607 ],	023-07, [2217 ],	[1401 ], 109-06, B-3,	[1650 ], 102-05, B-4, SD101,
021-01, [3922 ],	023-08, [3849 ],	[1401 ], 109-16, B-3,	[1851 ], 042-18, B-4, SD101,
021-02, [4625 ],	023-09, [4073 ],	[1401 ], 110-08, B-3,	[1651 ], 103-01, B-4, SD101,
021-03, [7607 ],	023-10, [3916 ],	[1411 ], 109-04, B-3,	[1653 ], 109-01, B-4,
021-04, [2233?],	023-11, [3894 ],	[1415 ], 046-08, B-3,	[1653 ], 109-07, B-4,
021-05, [3884 ],	023-12, [3947 ],	[1415 ], 107-06, B-3,	[1653 ], 109-08, B-4,
021-06, [2106 ],	023-13, [3892 ],	[1416 ], 109-37, B-3,	[1658B], 042-01, B-4, SD101,
021-07, [2244 ],	023-14, [0024 ],	[1422 ], 045-11, B-3,	[1658B], 102-01, B-4, SD101,
021-08, [3924 ],	023-15, [3963 ],	[1422 ], 106-04, B-3,	[1661 ], 042-13, B-4, SD101,
021-09, [3949 ],	023-16, [3963 ],	[1424 ], 045-06, B-3,	[1661 ], 102-13, B-4, SD101,
021-10, [3921 ],	023-17, [3903 ],	[1424 ], 105-10, B-3,	[1662 ], 042-14, B-4, SD101,
021-11, [3927 ],	023-18, [5057 ],	[1425 ], 045-05, B-3,	[1662 ], 102-14, B-4, SD101,
021-12, [1038 ],	023-19, [2233 ],	[1425 ], 105-09, B-3,	[1663 ], 110-17, B-4, SD101,
021-13, [3921 ],	023-20, [4069 ],	[1429 ], 109-29, B-3,	[1668 ], 042-06, B-4, SD101,

023-21, [3100 ]	025-20, [3921 ]	[1668 ] ,102-06, B-4, SD101,	[2028 ] ,028-04, C-1, SD04 ,
023-22, [4633 ]	025-21, [3920 ]	[1669 ] ,042-15, B-4, SD101,	[2028 ] ,095-03, C-1, SD04 ,
023-23, [5057 ]	025-22, [3898 ]	[1669 ] ,102-15, B-4, SD101,	[2100 ] ,109-44, C-1,
023-24, [5046?]	025-23, [3086 ]	[1670 ] ,042-16, B-4, SD101,	[2101 ] ,032-01, C-1, SD04?,
023-25, [2102 ]	025-24, [3931 ]	[1670 ] ,102-16, B-4, SD101,	[2101 ] ,066-03, C-1, SD04?,
023-26, [2232 ]	025-25, [3921 ]	[1671 ] ,043-02, B-4, SD101,	[2102 ] ,020-30, C-1, SD03 ,
023-27, [4666 ]	025-26, [3921 ]	[1671 ] ,103-04, B-4, SD101,	[2102 ] ,022-13, C-1, SD03 ,
023-28, [2102 ]	025-27, [0033 ]	[1672 ] ,042-07, B-4, SD101,	[2102 ] ,023-25, C-1, SD03 ,
023-29, [3872 ]	025-28, [4626 ]	[1672 ] ,102-07, B-4, SD101,	[2102 ] ,023-28, C-1, SD03 ,
023-30, [2233?]	025-29, [1051 ]	[1676 ] ,042-02, B-4, SD101,	[2104 ] ,022-09, C-1, SD03 ,
023-31, [3958 ]	025-30, [3085 ]	[1676 ] ,102-02, B-4, SD101,	[2104 ] ,022-14, C-1, SD03 ,
023-32, [3059 ]	025-31, [4069 ]	[1677 ] ,043-05, B-4, SD101,	[2105 ] ,019-16, C-1, SD03 ,
024-01, [4242?]	025-32, [2245 ]	[1677 ] ,104-01, B-4, SD101,	[2106 ] ,018-15, C-1, SD03 ,
024-02, [4058 ]	025-33, [4630 ]	[1678 ] ,043-06, B-4, SD101,	[2106 ] ,020-25, C-1, SD03 ,
024-03, [4069 ]	025-34, [3859 ]	[1678 ] ,103-06, B-4, SD101,	[2106 ] ,021-06, C-1, SD03 ,
024-04, [4620 ]	025-35, [7607 ]	[1678 ] ,103-07, B-4, SD101,	[2106 ] ,024-11, C-1, SD03 ,
024-05, [3649 ]	026-01, [3947 ]	[1680 ] ,042-08, B-4, SD101,	[2106 ] ,025-19, C-1, SD03 ,
024-06, [3872 ]	026-02, [3914 ]	[1680 ] ,049-16, B-4, SD101,	[2207 ] ,048-05, C-2,
024-07, [4069 ]	026-03, [3890 ]	[1680 ] ,102-08, B-4, SD101,	[2207 ] ,111-20, C-2,
024-08, [1034 ]	026-04, [3100 ]	[1682 ] ,042-09, B-4, SD101,	[2212 ] ,045-18, C-2,
024-09, [5047 ]	026-05, [7607 ]	[1682 ] ,102-09, B-4, SD101,	[2212 ] ,106-11, C-2,
024-10, [4618 ]	026-06, [3932 ]	[1683 ] ,043-04, B-4, SD101,	[2217 ] ,023-07, C-2, SD03 ,
024-11, [2106 ]	026-07, [4637 ]	[1683 ] ,103-08, B-4, SD101,	[2225 ] ,022-11, C-2, SD03 ,
024-12, [2226 ]	026-08, [3914 ]	[1683 ] ,103-09, B-4, SD101,	[2226 ] ,024-12, C-2, SD03 ,
024-13, [2229 ]	026-09, [2252 ]	[1683 ] ,103-10, B-4, SD101,	[2229 ] ,024-13, C-2, SD03 ,
024-14, [3914 ]	026-10, [7607 ]	[1690 ] ,050-19, B-4, SD101,	[2231 ] ,018-06, C-2, SD03 ,
024-15, [3959 ]	026-11, [3959 ]	[1690 ] ,051-19, B-4, SD101,	[2232 ] ,023-26, C-2, SD03 ,
024-16, [3649 ]	026-12, [3659 ]	[1804 ] ,042-10, B-5, SD101,	[2233 ] ,023-19, C-2, SD03 ,
024-17, [5046 ]	026-13, [3878 ]	[1804 ] ,102-10, B-5, SD101,	[2233?], 021-04, C-2, SD03 ,
024-18, [3068 ]	026-14, [4655 ]	[1805 ] ,042-03, B-5, SD101,	[2233?], 023-30, C-2, SD03 ,
024-19, [3649 ]	026-15, [4404 ]	[1805 ] ,102-03, B-5, SD101,	[2235 ] ,021-14, C-2, SD03 ,
024-20, [3653 ]	026-16, [3878 ]	[1806 ] ,043-03, B-5, SD101,	[2238 ] ,005-04, C-2, SD03 ,
024-21, [3069 ]	026-17, [3914 ]	[1806 ] ,103-05, B-5, SD101,	[2238 ] ,083-05, C-2, SD03 ,
024-22, [3921 ]	026-18, [1006 ]	[1812 ] ,043-01, B-5, SD101,	[2240 ] ,005-02, C-2, SD03 ,
024-23, [3836 ]	026-19, [1028 ]	[1812 ] ,103-03, B-5, SD101,	[2240 ] ,084-05, C-2, SD03 ,
024-24, [2244 ]	026-20, [3047 ]	[2008 ] ,032-02, C-1, SD04 ,	[2241 ] ,006-01, C-2, SD03 ,
024-25, [3056 ]	026-21, [0047 ]	[2008 ] ,032-03, C-1, SD04 ,	[2241 ] ,084-03, C-2, SD03 ,
024-26, [3916 ]	026-22, [3941b]	[2008 ] ,032-06, C-1, SD04 ,	[2242 ] ,004-05, C-2, SD03 ,
024-27, [3916 ]	026-23, [3934 ]	[2008 ] ,032-13, C-1, SD04 ,	[2242 ] ,084-06, C-2, SD03 ,
024-28, [3893 ]	026-24, [3890 ]	[2008 ] ,032-14, C-1, SD04 ,	[2243 ] ,018-02, C-2, SD03 ,
024-29, [0028 ]	026-25, [3872 ]	[2009 ] ,032-07, C-1, SD04 ,	[2243 ] ,021-26, C-2, SD03 ,
025-01, [1042 ]	026-26, [3047 ]	[2011 ] ,029-02, C-1, SD04 ,	[2244 ] ,004-04, C-2, SD03 ,
025-02, [1025 ]	026-27, [4618 ]	[2011 ] ,096-02, C-1, SD04 ,	[2244 ] ,021-07, C-2, SD03 ,
025-03, [7607 ]	026-28, [3648 ]	[2012 ] ,032-09, C-1, SD04 ,	[2244 ] ,024-24, C-2, SD03 ,
025-04, [4638 ]	026-29, [4667 ]	[2013 ] ,032-10, C-1, SD04 ,	[2244 ] ,083-01, C-2, SD03 ,
025-05, [1036 ]	026-30, [3878 ]	[2014 ] ,032-05, C-1, SD04 ,	[2245 ] ,094-01, C-2, SD03 ,
025-06, [4631 ]	026-31, [3056 ]	[2017 ] ,032-08, C-1, SD04 ,	[2245 ] ,018-23, C-2, SD03 ,
025-07, [3943 ]	027-01, [0283 ] ,094-06	[2018 ] ,028-03, C-1, SD04 ,	[2245 ] ,021-24, C-2, SD03 ,
025-08, [4656 ]	027-02, [0284 ] ,094-01	[2018 ] ,095-01, C-1, SD04 ,	[2245 ] ,025-32, C-2, SD03 ,
025-09, [3653 ]	027-03, [0286 ] ,094-05	[2019 ] ,029-03, C-1, SD04 ,	[2245 ] ,084-04, C-2, SD03 ,
025-10, [3058 ]	027-04, [0282 ] ,094-04	[2019 ] ,095-02, C-1, SD04 ,	[2248 ] ,006-02, C-2, SD03 ,
025-11, [3941 ]	028-01, [0285 ] ,094-02	[2021 ] ,028-05, C-1, SD04 ,	[2248 ] ,083-03, C-2, SD03 ,
025-12, [4637 ]	028-02, [0275 ] ,094-06	[2021 ] ,095-05, C-1, SD04 ,	[2252 ] ,026-09, C-2, SD03 ,
025-13, [4637 ]	028-03, [2018 ] ,095-01	[2022 ] ,032-04, C-1, SD04 ,	[2255 ] ,004-03, C-2, SD03 ,
025-14, [3650 ]	028-04, [2028 ] ,095-03	[2022 ] ,032-12, C-1, SD04 ,	[2255 ] ,019-08, C-2, SD03 ,
025-15, [3947 ]	028-05, [2021 ] ,095-05	[2024 ] ,032-11, C-1, SD04 ,	[2255 ] ,083-02, C-2, SD03 ,
025-16, [4658 ]	029-01, [2025 ] ,095-04	[2025 ] ,029-01, C-1, SD04 ,	[2405 ] ,030-05, C-3, SD04 ,
025-17, [7602 ]	029-02, [2011 ] ,096-02	[2025 ] ,095-04, C-1, SD04 ,	[2405 ] ,097-05, C-3, SD04 ,
025-18, [3052 ]	029-03, [2019 ] ,095-02	[2027 ] ,029-04, C-1, SD04 ,	[2407 ] ,044-04, C-3, SH14 ,
025-19, [2106 ]	029-04, [2027 ] ,096-01	[2027 ] ,096-01, C-1, SD04 ,	[2407 ] ,104-04, C-3, SH14 ,

030-01, [2618 ],097-01	035-08, [5020 ],	[2415 ],047-02,C-3,SH14 ,	[3063 ],036-05,D-3,SD04 ,
030-02, [2453 ],097-01	035-09, [5021 ],	[2415 ],108-02,C-3,SH14 ,	[3066 ],110-04,D-3,
030-03, [2631 ],097-03	035-10, [5021 ],	[2425 ],109-38,C-3,	[3066 ],110-07,D-3,
030-04, [2454 ],097-04	035-11, [5029 ],	[2425 ],109-47,C-3,	[3075 ],036-01,D-3,SD04 ,
030-05, [2405 ],097-05	035-12, [5022 ],	[2425 ],109-48,C-3,	[3077 ],036-03,D-3,SD04 ,
030-06, [2646 ],097-06	035-13, [5014 ],	[24374],045-13,C-3,SH14 ,	[3084 ],049-04,D-3,
030-07, [2628 ],097-07	036-01, [3075 ],	[2437c],106-06,C-3,SH14 ,	[3084 ],111-04,D-3,
030-08, [2447 ],097-08	036-02, [3109 ],	[2437n],045-15,C-3,SH14 ,	[3085 ],025-30,D-3,SD03 ,
030-09, [2446 ],097-09	036-03, [3077 ],	[2437b],106-08,C-3,SH14 ,	[3086 ],020-15,D-3,SD03 ,
030-10, [3057 ],097-10	036-04, [1052 ],096-04	[2441 ],034-09,C-3,SD04 ,	[3086 ],021-16,D-3,SD03 ,
030-11, [5232 ],097-11	036-05, [3063 ],	[2443 ],034-06,C-3,SD04 ,	[3086 ],025-23,D-3,SD03 ,
030-12, [5231 ],097-12	036-06, [3062 ],	[2445 ],048-09,C-3,	[3087 ],022-19,D-3,SD03 ,
030-13, [5020 ],097-13	036-07, [3059 ],	[2445 ],111-18,C-3,	[3096 ],019-21,D-3,SD03 ,
031-01, [2473 ],098-01	036-08, [0264 ],	[2446 ],030-09,C-3,SD04 ,	[3097 ],007-03,D-3,SD03 ,
032-01, [2101 ],096-03	037-01, [4043 ],099-05	[2446 ],097-09,C-3,SD04 ,	[3097 ],085-03,D-3,SD03 ,
032-02, [2008 ],	037-02, [4045 ],099-04	[2447 ],030-08,C-3,SD04 ,	[3100 ],023-21,D-3,SD03 ,
032-03, [2008 ],	037-03, [4610 ],099-06	[2447 ],034-07,C-3,SD04 ,	[3100 ],026-04,D-3,SD03 ,
032-04, [2022 ],	037-04, [4648 ],099-02	[2447 ],097-08,C-3,SD04 ,	[3101 ],007-01,D-3,SD03 ,
032-05, [2014 ],	037-05, [4019 ],	[2448 ],034-04,C-3,SD04 ,	[3101 ],007-02,D-3,SD03 ,
032-06, [2008 ],	037-06, [3851 ],	[2449 ],049-10,C-3,	[3101 ],085-01,D-3,SD03 ,
032-07, [2009 ],	037-07, [4075 ],	[2449 ],111-09,C-3,	[3101 ],085-02,D-3,SD03 ,
032-08, [2017 ],	037-08, [4080 ],099-03	[2452 ],041-07,C-3,SH14 ,	[3109 ],036-02,D-3,SD04 ,
032-09, [2012 ],	038-01, [3848 ],099-01	[2452 ],101-07,C-3,SH14 ,	[3119 ],022-12,D-3,SD03 ,
032-10, [2013 ],	038-02, [4012 ],	[2453 ],030-02,C-3,SD04 ,	[3201 ],050-18,D-4,
032-11, [2024 ],	038-03, [4083 ],100-10	[2453 ],034-08,C-3,SD04 ,	[3201 ],051-16,D-4,
032-12, [2022 ],	038-04, [4609 ],100-08	[2453 ],097-01,C-3,SD04 ,	[3202 ],050-07,D-4,
032-13, [2008 ],	038-05, [4025 ],100-07	[2454 ],030-04,C-3,SD04 ,	[3202 ],051-07,D-4,
032-14, [2008 ],	038-06, [4067 ],100-13	[2454 ],097-04,C-3,SD04 ,	[3208 ],110-03,D-4,
033-01, [0273 ],	038-07, [4078 ],100-12	[2455 ],034-05,C-3,SD04 ,	[3210 ],110-23,D-4,
033-02, [0248 ],	038-08, [4645 ],100-09	[2458 ],046-20,C-3,SH14 ,	[3221 ],047-07,D-4,Pt331,
033-03, [0290 ],	038-09, [4646 ],100-11	[2458 ],107-18,C-3,SH14 ,	[3221 ],108-07,D-4,
033-04, [0236 ],	039-01, [4608 ],	[2462 ],049-01,C-3,	[3223c],050-11,D-4,
033-05, [0222 ],	039-02, [4078 ],	[2462 ],111-11,C-3,	[3223c],051-11,D-4,
033-06, [0243 ],	039-03, [4047 ],	[2473 ],031-01,C-3,SD04 ,	[3223n],050-05,D-4,
033-07, [0268 ],	039-04, [4004 ],	[2473 ],098-01,C-3,SD04 ,	[3223n],051-05,D-4,
033-08, [6243 ],	039-05, [4074 ],	[2607 ],046-10,C-4,	[3223n],050-06,D-4,
033-09, [0272 ],	039-06, [4031 ],	[2607 ],107-08,C-4,	[3223n],051-06,D-4,
033-10, [0236 ],	039-07, [3861 ],	[2618 ],030-01,C-4,SD04 ,	[3224c],050-08,D-4,
033-11, [0235 ],	039-08, [4066 ],	[2618 ],097-01,C-4,SD04 ,	[3224c],051-08,D-4,
033-12, [0227 ],	039-09, [4045 ],	[2628 ],030-07,C-4,SD04 ,	[3224n],050-04,D-4,
034-01, [1441 ],	039-10, [3866 ],	[2628 ],097-07,C-4,SD04 ,	[3224n],051-04,D-4,
034-02, [1442 ],	039-11, [3854 ],	[2631 ],030-03,C-4,SD04 ,	[3402 ],050-18,D-5,
034-03, [2544 ],	039-12, [4078 ],	[2631 ],097-03,C-4,SD04 ,	[3402 ],051-18,D-5,
034-04, [2448 ],	039-13, [4079 ],	[2642 ],109-18,C-4,	[3405c],050-03,D-5,
034-05, [2455 ],	039-14, [4079 ],	[2644 ],034-03,C-4,SD04 ,	[3405c],051-03,D-5,
034-06, [2443 ],	039-15, [4082 ],100-01	[2646 ],030-06,C-4,SD04 ,	[3405n],050-17,D-5,
034-07, [2447 ],	039-16, [4404 ],100-02	[2646 ],097-06,C-4,SD04 ,	[3405n],051-17,D-5,
034-08, [2453 ],	039-17, [4054 ],100-06	[3010 ],109-42,D-3,	[3410 ],110-26,D-5,
034-09, [2441 ],	039-18, [4075 ],100-03	[3047 ],026-20,D-3,SD03 ,	[3411 ],109-14,D-5,
034-10, [0408 ],	039-19, [4044 ],100-05	[3047 ],026-26,D-3,SD03 ,	[3411c],050-21,D-5,
034-11, [0411 ],	039-20, [4048 ],100-04	[3050 ],019-18,D-3,SD03 ,	[3411c],051-21,D-5,
034-12, [0417 ],	040-01, [4606 ],	[3052 ],025-18,D-3,SD03 ,	[3411c],050-20,D-5,
034-13, [0411 ],	040-02, [4085 ],	[3056 ],024-25,D-3,SD03 ,	[3411c],051-20,D-5,
035-01, [5235 ],	040-03, [3857 ],	[3056 ],026-31,D-3,SD03 ,	[3411n],050-12,D-5,
035-02, [5020 ],	040-04, [4608 ],	[3057 ],030-10,D-3,SD04 ,	[3411n],051-12,D-5,
035-03, [5229 ],	040-05, [3857 ],	[3057 ],097-10,D-3,SD04 ,	[3411n],050-09,D-5,
035-04, [5233 ],	040-06, [4049 ],	[3058 ],025-10,D-3,SD03 ,	[3411n],051-09,D-5,
035-05, [5226 ],	040-07, [3853 ],	[3059 ],023-32,D-3,SD03 ,	[3415 ],050-22,D-5,
035-06, [5223 ],	040-08, [4035 ],	[3059 ],036-07,D-3,SD04 ,	[3415 ],051-22,D-5,
035-07, [5234 ],	040-09, [4082 ],	[3062 ],036-06,D-3,SD04 ,	[3605 ],109-25,E-3,

040-10, [4691 ] ,	045-03, [0617 ] ,105-07	[3605 ] ,110-25, E-3,	[3878 ] ,026-16, E-4, SD03
040-11, [4078 ] .	045-04, [0404 ] ,105-08	[3628 ] ,048-03, E-3,	[3878 ] ,026-30, E-4, SD03
040-12, [4030 ] .	045-05, [1425 ] ,105-09	[3628 ] ,111-22, E-3,	[3881 ] ,019-19, E-4, SD03
040-13, [4074 ] ,	045-06, [1424 ] ,105-10	[3632 ] ,041-01, E-3,	[3882 ] ,019-06, E-4, SD03
040-14, [4070 ] ,	045-07, [1648 ] ,105-11	[3632 ] ,101-01, E-3, SD02	[3884 ] ,009-02, E-4, SD03
040-15, [4020 ] .	045-08, [1204 ] ,106-01	[3639 ] ,110-16, E-3,	[3884 ] ,018-19, E-4, SD03
040-16, [3819 ] .	045-09, [1032 ] ,106-02	[3648 ] ,026-28, E-3, SD03	[3884 ] ,020-06, E-4, SD03
040-17, [4082 ] .	045-10, [0008r] ,106-03	[3649 ] ,024-05, E-3, SD03	[3884 ] ,020-07, E-4, SD03
040-18, [4066 ] .	045-11, [1422 ] ,106-04	[3649 ] ,024-16, E-3, SD03	[3884 ] ,020-13, E-4, SD03
040-19, [4081 ] .	045-12, [1437 ] ,106-05	[3649 ] ,024-19, E-3, SD03	[3884 ] ,020-19, E-4, SD03
040-20, [4012 ] .	045-13, [2437r] ,106-06	[3650 ] ,018-13, E-3, SD03	[3884 ] ,021-05, E-4, SD03
040-21, [4044 ] .	045-14, [4209 ] ,106-07	[3650 ] ,025-14, E-3, SD03	[3884 ] ,022-10, E-4, SD03
040-22, [4040 ] .	045-15, [2437u] ,106-08	[3653 ] ,024-20, E-3, SD03	[3884 ] ,027-01, E-4, SD03
041-01, [3632 ] ,101-01	045-16, [4219 ] ,106-09	[3653 ] ,025-09, E-3, SD03	[3885 ] ,020-05, E-4, SD03
041-02, [6006r] ,101-02	045-17, [0424 ] ,106-10	[3655 ] ,007-06, E-3, SD03	[3886 ] ,049-07, E-4, SD01
041-03, [6006 ] ,101-03	045-18, [2212 ] ,106-11	[3655 ] ,085-06, E-3, SD03	[3886 ] ,111-06, E-4,
041-04, [6007 ] ,101-04	045-01, [0806u] ,106-12	[3659 ] ,025-34, E-3, SD03	[3887 ] ,021-25, E-4, SD03
041-05, [0230 ] ,101-05	046-02, [7202 ] ,106-13	[3659 ] ,026-12, E-3, SD03	[3887 ] ,022-16, E-4, SD03
041-06, [0257 ] ,101-06	046-03, [1401 ] ,107-01	[3661 ] ,007-05, E-3, SD03	[3890 ] ,026-03, E-4, SD03
041-07, [2452 ] ,101-07	046-04, [7011 ] ,107-02	[3661 ] ,085-05, E-3, SD03	[3890 ] ,026-24, E-4, SD03
041-08, [5033 ] ,101-08	046-05, [4804 ] ,107-03	[3662 ] ,019-05, E-3, SD03	[3891 ] ,010-01, E-4, SD03
041-09, [5056 ] ,101-09	046-06, [7004 ] ,107-04	[3663 ] ,007-07, E-3, SD03	[3891 ] ,018-27, E-4, SD03
042-01, [1056u] ,102-01	046-07, [4208 ] ,107-05	[3663 ] ,085-07, E-3, SD03	[3891 ] ,088-05, E-4, SD03
042-02, [1676 ] ,102-02	046-08, [1415 ] ,107-06	[3668 ] ,007-04, E-3, SD03	[3892 ] ,018-10, E-4, SD03
042-03, [1805 ] ,102-03	046-09, [0409 ] ,107-07	[3668 ] ,019-03, E-3, SD03	[3892 ] ,023-01, E-4, SD03
042-04, [1641r] ,102-04	046-10, [2607 ] ,107-08	[3668 ] ,024-18, E-3, SD03	[3892 ] ,023-13, E-4, SD03
042-05, [1650 ] ,102-05	046-11, [0404u] ,107-09	[3668 ] ,085-04, E-3, SD03	[3893 ] ,021-19, E-4, SD03
042-06, [1668 ] ,102-06	046-12, [0602 ] ,107-10	[3669 ] ,018-01, E-3, SD03	[3893 ] ,024-28, E-4, SD03
042-07, [1672 ] ,102-07	046-13, [0806a] ,107-11	[3669 ] ,018-32, E-3, SD03	[3894 ] ,023-11, E-4, SD03
042-08, [1680 ] ,102-08	046-14, [1202 ] ,107-12	[3669 ] ,024-21, E-3, SD03	[3895 ] ,017-01, E-4, SD03
042-09, [1682 ] ,102-09	046-15, [1430 ] ,107-13	[3671 ] ,023-06, E-3, SD03	[3895 ] ,093-01, E-4, SD03
042-10, [1804 ] ,102-10	046-16, [1606 ] ,107-14	[3672 ] ,022-23, E-3, SD03	[3896 ] ,009-01, E-4, SD03
042-11, [1641u] ,102-11	046-17, [1610 ] ,107-15	[3672 ] ,023-29, E-3, SD03	[3896 ] ,087-04, E-4, SD03
042-12, [1639 ] ,102-12	046-18, [1611r] ,107-16	[3672 ] ,024-06, E-3, SD03	[3896 ] ,023-05, E-4, SD03
042-13, [1661 ] ,102-13	046-19, [1611u] ,107-17	[3672 ] ,026-25, E-3, SD03	[3898 ] ,025-22, E-4, SD03
042-14, [1662 ] ,102-14	046-20, [2458 ] ,107-18	[3803 ] ,109-15, E-4,	[3908 ] ,011-02, E-4, SD03
042-15, [1669 ] ,102-15	047-01, [0807 ] ,108-01	[3803 ] ,110-01, E-4,	[3908 ] ,089-02, E-4, SD03
042-16, [1670 ] ,102-16	047-02, [2415 ] ,108-02	[3819 ] ,040-16, E-4, SH01	[3909 ] ,018-05, E-4, SD03
042-17, [1648a] ,102-17	047-03, [1638 ] ,108-03	[3836 ] ,024-23, E-4, SD03	[3909 ] ,021-29, E-4, SD03
042-18, [1651 ] ,103-01	047-04, [0404r] ,108-04	[3838 ] ,049-08, E-4,	[3914 ] ,010-03, E-4, SD03
042-19, [1642 ] ,103-02	047-05, [1608r] ,108-05	[3838 ] ,111-07, E-4,	[3914 ] ,020-26, E-4, SD03
043-01, [1812 ] ,103-03	047-06, [1612 ] ,108-06	[3848 ] ,038-01, E-4, SH01	[3914 ] ,024-14, E-4, SD03
043-02, [1671 ] ,103-04	047-07, [3221 ] ,108-07	[3848 ] ,090-01, E-4, SH01	[3914 ] ,026-02, E-4, SD03
043-03, [1806 ] ,103-05	047-08, [0806r] ,108-08	[3849 ] ,023-08, E-4, SD03	[3914 ] ,026-08, E-4, SD03
043-04, [1683 ] ,103-08, 9, 10	047-09, [1608u] ,108-09	[3851 ] ,037-06, E-4, SH01	[3914 ] ,026-17, E-4, SD03
043-05, [1677 ] ,104-01	047-10, [0808 ] ,108-10	[3853 ] ,040-07, E-4, SH01	[3914 ] ,088-04, E-4, SD03
043-06, [1678 ] ,103-06, 7	048-01, [0052 ] ,111-24	[3854 ] ,039-11, E-4, SH01	[3916 ] ,023-10, E-4, SD03
044-01, [0434 ] ,104-02	048-02, [6216 ] ,111-23	[3857 ] ,040-03, E-4, SH01	[3916 ] ,024-26, E-4, SD03
044-02, [0288a] ,104-03	048-03, [3628 ] ,111-22	[3857 ] ,040-05, E-4, SH01	[3916 ] ,024-27, E-4, SD03
044-03, [0287a] ,104-05	048-04, [5007 ] ,111-21	[3860 ] ,049-11, E-4,	[3917 ] ,022-24, E-4, SD03
044-04, [2407 ] ,104-04	048-05, [2207 ] ,111-20	[3860 ] ,111-05, E-4,	[3920 ] ,025-21, E-4, SD03
044-05, [7017 ] ,104-06	048-06, [3934 ] ,111-19	[3861 ] ,030-07, E-4, SH01	[3921 ] ,018-16, E-4, SD03
044-06, [5228 ] ,104-07	048-07, [5051 ] ,111-15	[3864 ] ,048-12, E-4,	[3921 ] ,018-18, E-4, SD03
044-07, [5049 ] ,104-08	048-08, [5008 ] ,111-13	[3864 ] ,111-14, E-4,	[3921 ] ,018-24, E-4, SD03
044-08, [5043 ] ,104-09	048-09, [2445 ] ,111-18	[3866 ] ,039-10, E-4, SH01	[3921 ] ,020-02, E-4, SD03
044-09, [5003 ] ,105-03	048-10, [1029 ] ,111-17	[3874 ] ,049-05, E-4,	[3921 ] ,021-10, E-4, SD03
044-10, [6220 ] ,105-04	048-11, [4206 ] ,111-16	[3874 ] ,111-10, E-4,	[3921 ] ,021-13, E-4, SD03
044-11, [5221 ] ,105-12	048-12, [3864 ] ,111-14	[3878 ] ,019-25, E-4, SD03	[3921 ] ,021-20, E-4, SD03
045-01, [0008 ] ,105-05	048-13, [6408 ] .	[3878 ] ,021-17, E-4, SD03	[3921 ] ,022-07, E-4, SD03
045-02, [1031 ] ,105-06	048-14, [1448 ] .	[3878 ] ,026-13, E-4, SD03	[3921 ] ,022-17, E-4, SD03

048-15, {5046 } ,	051-18, [3402 ] ,050-18,	[3921 ] ,024-22, E-4, SD03 .	[3957 ] ,020-17, E-4, SD03 .
048-16, {0013 } ,	051-19, [1090 ] ,050-19,	[3921 ] ,025-20, E-4, SD03	{3957 } ,020-29, E-4, SD03 .
048-17, {6406 } ,	051-20, [3411-] ,050-20,	[3921 ] ,025-25, E-4, SD03 .	[3958 ] ,018-07, E-4, SD03
048-18, {6207 } ,	051-21, [34114] ,050-21,	[3921 ] ,025-26, E-4, SD03	[3958 ] ,018-30, E-4, SD03
049-01, [2462 ] ,111-11 ,	051-22, [3415 ] ,050-22,	[3922 ] ,018-08, E-4, SD03 .	[3958 ] ,020-24, E-4, SD03
049-02, [4018 ] ,111-02 ,	051-23, [0034 ] ,050-23,	[3922 ] ,021-01, E-4, SD03 .	[3958 ] ,023-31, E-4, SD03
049-03, [7605 ] ,111-03 ,	080-01, [0020 ] ,001-01	[3923 ] ,022-21, E-4, SD03	[3959 ] ,024-15, E-4, SD03
049-04, [3084 ] ,111-04 ,	080-02, [0028 ] ,001-02	[3923 ] ,023-03, E-4, SD03 .	[3959 ] ,026-11, E-4, SD03
049-05, [3874 ] ,111-10 ,	080-03, [0025 ] ,001-03	[3924 ] ,021-08, E-4, SD03 .	[3961 ] ,008-03, E-4, SD03
049-06, [4010 ] ,111-12 ,	080-04, [7607 ] ,001-04	[3926 ] ,021-15, E-4, SD03 .	[3961 ] ,086-03, E-4, SD03
040-07, {3886 } ,111-06 ,	080-05, [4805 ] ,001-05	[3927 ] ,018-34, E-4, SD03	[3963 ] ,023-15, E-4, SD03
049-08, {3838 } ,111-07 ,	080-06, [7602 ] ,001-06	[3927 ] ,021-11, E-4, SD03	[3963 ] ,023-16, E-4, SD03
049-09, [4653 ] ,111-08 ,	081-01, [7602 ] ,002-01	[3930 ] ,008-05, E-4, SD03 .	[3963 ] ,023-17, E-4, SD03
049-10, [2449 ] ,111-09 ,	081-02, [7601 ] ,002-02	[3930 ] ,086-05, E-4, SD03 .	[3064 ] ,019-24, E-4, SD03
049-11, [3860 ] ,111-05 ,	081-03, [7603 ] ,002-03	[3931 ] ,025-24, E-4, SD03 .	[4004 ] ,039-04, E-5, SH01
049-12, [4077 ] ,111-01 ,	081-04, [0031 ] ,002-04	[3932 ] ,026-06, E-4, SD03 .	[4010 ] ,049-06, E-5,
049-13, [1645 ] ,	081-05, [0024 ] ,002-05	[3933 ] ,018-14, E-4, SD03 .	[4010 ] ,111-12, E-5,
049-14, [1644 ] ,	081-06, [0022 ] ,002-06	[3934 ] ,026-23, E-4,	[4012 ] ,038-02, E-5, SH01
049-15, [6007 ] ,	082-01, [1025 ] ,003-01	[3934 ] ,048-06, E-4,	[4019 ] ,037-05, E-5, SH01
049-16, [1680 ] ,	082-02, [0021 ] ,003-02	[3934 ] ,111-19, E-4, SD03	[4020 ] ,040-15, E-5, SH01
050-01, [0420 ] ,051-01,	082-03, [0023 ] ,003-03	[3936 ] ,008-01, E-4, SD03 .	[4025 ] ,038-05, E-5, SH01
050-02, [0006 ] ,051-02,	082-04, [0028 ] ,003-04	[3936 ] ,086-01, E-4, SD03 .	[4025 ] ,100-07, E-5, SH01
050-03, [34054] ,051-03,	083-01, [2244 ] ,004-04	[3937 ] ,012-05, E-4, SD03 .	[4030 ] ,040-12, E-5, SH01
050-04, [3224n] ,051-04,	083-02, [2255 ] ,004-03	[3937 ] ,090-05, E-4, SD03 .	[4031 ] ,039-06, E-5, SH01
050-05, [3223A] ,051-05,	083-03, [2248 ] ,006-02	[3938 ] ,018-25, E-4, SD03 .	[4035 ] ,040-08, E-5, SH01
050-06, [3223n] ,051-06,	083-04, [5046 ] ,005-03	[3938 ] ,019-20, E-4, SD03 .	[4040 ] ,040-22, E-5, SH01
050-07, [3202 ] ,051-07,	083-05, [2238 ] ,005-04	[3940 ] ,021-27, E-4, SD03 .	[4043 ] ,037-01, E-5, SH01
050-08, [32243] ,051-08,	084-01, [5058 ] ,005-01	[3941 ] ,020-18, E-4, SD03 .	[4043 ] ,099-05, E-5, SH01
050-09, [3411n] ,051-09,	084-02, [5045 ] ,004-02	[3941 ] ,022-04, E-4, SD03 .	[4044 ] ,039-19, E-5, SH01
050-10, [4217 ] ,051-10,	084-03, [2241 ] ,006-01	[3941 ] ,022-22, E-4, SD03 .	[4044 ] ,040-21, E-5, SH01
050-11, [32234] ,051-11,	084-04, [2245 ] ,004-01	[3941 ] ,025-11, E-4, SD03 .	[4044 ] ,100-05, E-5, SH01
050-12, [3411A] ,051-12,	084-05, [2240 ] ,005-02	[3941b] ,018-03, E-4, SD03 .	[4045 ] ,037-02, E-5, SH01
050-13, [4219 ] ,051-13,	084-06, [2242 ] ,004-05	[3941b] ,018-21, E-4, SD03 .	[4045 ] ,039-09, E-5, SH01
050-14, [1004 ] ,051-14,	085-01, [3101 ] ,007-01	[3941b] ,018-26, E-4, SD03 .	[4045 ] ,099-04, E-5, SH01
050-15, [0050 ] ,051-15,	085-02, [3101 ] ,007-02	[3941b] ,019-13, E-4, SD03 .	[4047 ] ,039-03, E-5, SH01
050-16, [3201 ] ,051-16,	085-03, [3097 ] ,007-03	[3941b] ,026-22, E-4, SD03 .	[4048 ] ,039-20, E-5, SH01
050-17, [3405n] ,051-17,	085-04, [3668 ] ,007-04	[3943 ] ,008-04, E-4, SD03 .	[4048 ] ,100-04, E-5, SH01
050-18, [3402 ] ,051-18,	085-05, [3061 ] ,007-05	[3943 ] ,020-01, E-4, SD03 .	[4049 ] ,040-06, E-5, SH01
050-19, [1690 ] ,051-19,	085-06, [3655 ] ,007-06	[3943 ] ,025-07, E-4, SD03 .	[4054 ] ,039-17, E-5, SH01
050-20, [3411-] ,051-20,	085-07, [3663 ] ,007-07	[3943 ] ,086-04, E-4, SD03 .	[4054 ] ,100-06, E-5, SH01
050-21, [34114] ,051-21,	086-01, [3936 ] ,008-01	[3944 ] ,008-06, E-4, SD03 .	[4058 ] ,024-02, E-5, SD03 .
050-22, [3415 ] ,051-22,	086-02, [3950 ] ,008-02	[3944 ] ,020-20, E-4, SD03 .	[4066 ] ,039-08, E-5, SH01
050-23, [0034 ] ,051-23,	086-03, [3961 ] ,008-03	[3944 ] ,086-06, E-4, SD03 .	[4066 ] ,040-18, E-5, SH01
051-01, [0420 ] ,050-01,	086-04, [3943 ] ,008-04	[3945 ] ,019-11, E-4, SD03 .	[4067 ] ,038-06, E-5, SH01
051-02, [0006 ] ,050-02,	086-05, [3930 ] ,008-05	[3946 ] ,010-02, E-4, SD03 .	[4067 ] ,100-13, E-5, SH01
051-03, [34054] ,050-03,	086-06, [3944 ] ,008-06	[3946 ] ,088-06, E-4, SD03 .	[4069 ] ,017-02, E-5, SD03
051-04, [3224n] ,050-04,	087-01, [3884 ] ,009-02	[3947 ] ,011-03, E-4, SD03 .	[4069 ] ,023-20, E-5, SD03
051-05, [3223A] ,050-05,	087-02, [4617 ] ,016-02	[3947 ] ,023-12, E-4, SD03 .	[4069 ] ,024-03, E-5, SD03
051-06, [3223n] ,050-06,	087-03, [4623 ] ,016-01	[3947 ] ,025-15, E-4, SD03 .	[4069 ] ,024-07, E-5, SD03
051-07, [3202 ] ,050-07,	087-04, [3806 ] ,009-01	[3947 ] ,026-01, E-4, SD03 .	[4069 ] ,025-31, E-5, SD03
051-08, [32244] ,050-08,	088-01, [4642 ] ,013-01	[3947 ] ,080-03, E-4, SD03 .	[4069 ] ,093-02, E-5, SD03
051-09, [3411n] ,050-09,	088-02, [4639 ] ,013-03	[3949 ] ,018-09, E-4, SD03 .	[4070 ] ,022-15, E-5, SD03
051-10, [4217 ] ,050-10,	088-03, [4636 ] ,013-04	[3949 ] ,019-12, E-4, SD03 .	[4073 ] ,023-09, E-5, SD03
051-11, [32234] ,050-11,	088-04, [3914 ] ,010-03	[3949 ] ,020-08, E-4, SD03 .	[4074 ] ,039-05, E-5, SH01
051-12, [3411A] ,050-12,	088-05, [3891 ] ,010-01	[3949 ] ,020-22, E-4, SD03 .	[4074 ] ,040-13, E-5, SH01
051-13, [4219 ] ,050-13,	088-06, [3946 ] ,010-02	[3949 ] ,021-09, E-4, SD03 .	[4075 ] ,037-07, E-5, SH01
051-14, [1004 ] ,050-14,	089-01, [4663 ] ,011-01	[3949 ] ,022-03, E-4, SD03 .	[4075 ] ,039-18, E-5, SH01
051-15, [0050 ] ,050-15,	089-02, [3908 ] ,011-02	[3950 ] ,008-02, E-4, SD03 .	[4075 ] ,100-03, E-5, SH01
051-16, [3201 ] ,050-16,	089-03, [3947 ] ,011-03	[3950 ] ,086-02, E-4, SD03 .	[4077 ] ,049-12, E-5,
051-17, [3405n] ,050-17,	090-01, [4641 ] ,012-01	[3957 ] ,018-22, E-4, SD03 .	[4077 ] ,111-01, E-5,



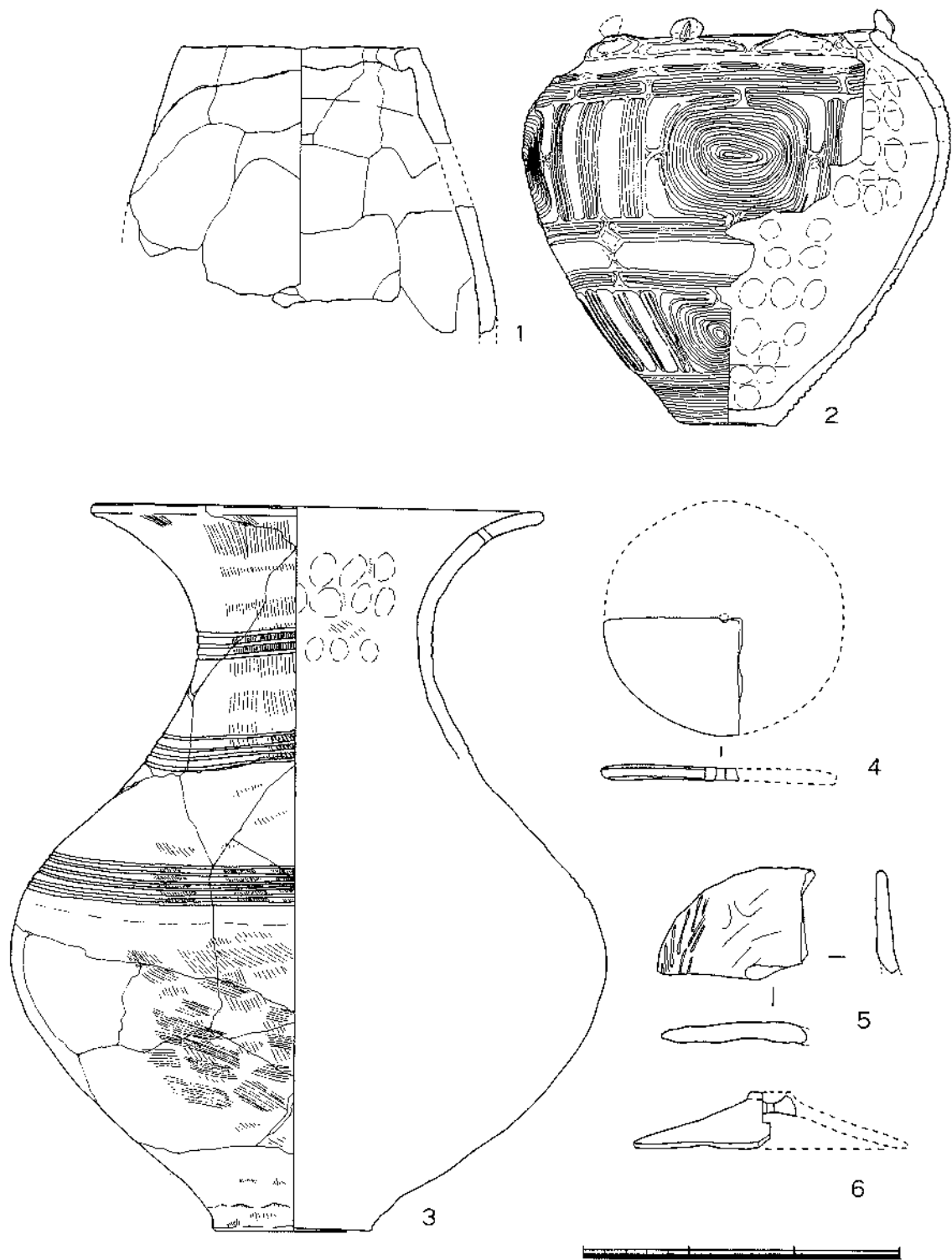
090-02, [4630 ],.012-02	100-11, [4646 ],.038-09	[4078 ],.038-07, E-5, SH01	[4620 ],.024-04, F-5, SD03
090-03, [4655 ],.012-04	100-12, [4078 ],.038-07	[4078 ],.039-02, E-5, SH01	[4621 ],.016-03, F-5, SD03
090-04, [4622 ],.012-03	100-13, [4067 ],.038-08	[4078 ],.039-12, E-5, SH01	[4621 ],.091-03, F-5, SD03
090-05, [3937 ],.012-05	101-01, [3632 ],.041-01	[4078 ],.040-11, E-5, SH01	[4622 ],.012-03, F-5, SD03
090-06, [4637 ],.013-02	101-02, [6006],.041-02	[4078 ],.100-12, E-5, SH01	[4622 ],.090-04, F-5, SD03
091-01, [4662 ],.014-02	101-03, [6006 ],.041-03	[4079 ],.039-13, E-5, SH01	[4623 ],.016-01, F-5, SD03
091-02, [4619 ],.014-01	101-04, [6007 ],.041-04	[4079 ],.039-14, E-5, SH01	[4623 ],.087-03, F-5, SD03
091-03, [4621 ],.016-03	101-05, [9230 ],.041-05	[4079 ],.040-14, E-5, SH01	[4624 ],.021-23, F-5, SD03
091-04, [4658 ],.014-03	101-06, [9257 ],.041-06	[4080 ],.037-08, E-5, SH01	[4625 ],.017-03, F-5, SD03
092-01, [4627 ],.015-01	101-07, [2452 ],.041-07	[4080 ],.099-03, E-5, SH01	[4625 ],.021-02, F-5, SD03
092-02, [4404 ],.015-02	101-08, [5033 ],.041-08	[4081 ],.040-19, E-5, SH01	[4625 ],.093-03, F-5, SD03
092-03, [4630 ],.015-03	101-09, [5056 ],.041-09	[4082 ],.039-15, E-5, SH01	[4626 ],.022-08, F-5, SD03
093-01, [3895 ],.017-01	102-01, [1656],.042-01	[4082 ],.040-09, E-5, SH01	[4626 ],.025-28, F-5, SD03
093-02, [4069 ],.017-02	102-02, [1676 ],.042-02	[4082 ],.040-17, E-5, SH01	[4627 ],.015-01, F-5, SD03
093-03, [4625 ],.017-03	102-03, [1805 ],.042-03	[4082 ],.100-01, E-5, SH01	[4627 ],.092-01, F-5, SD03
094-01, [0284 ],.027-02	102-04, [1641],.042-04	[4083 ],.038-03, E-5, SH01	[4630 ],.012-02, F-5, SD03
094-02, [0285 ],.028-01	102-05, [1659 ],.042-05	[4083 ],.100-10, E-5, SH01	[4630 ],.015-03, F-5, SD03
094-04, [0282 ],.027-04	102-06, [1668 ],.042-06	[4085 ],.040-02, E-5, SH01	[4630 ],.019-10, F-5, SD03
094-05, [0286 ],.027-03	102-07, [1672 ],.042-07	[4204 ],.109-45, F-3,	[4630 ],.020-21, F-5, SD03
094-06, [0283 ],.027-01	102-08, [1680 ],.042-08	[4206 ],.048-11, F-3,	[4630 ],.022-02, F-5, SD03
094-06, [0275 ],.028-02	102-09, [1682 ],.042-09	[4206 ],.111-16, F-3,	[4630 ],.025-33, F-5, SD03
095-01, [2018 ],.028-03	102-10, [1804 ],.042-10	[4207 ],.109-22, F-3,	[4630 ],.090-02, F-5, SD03
095-02, [2019 ],.029-03	102-11, [1641],.042-11	[4208 ],.046-07, F-3,	[4630 ],.092-03, F-5, SD03
095-03, [2028 ],.028-04	102-12, [1639 ],.042-12	[4208 ],.107-05, F-3,	[4631 ],.019-01, F-5, SD03
095-04, [2025 ],.029-01	102-13, [1661 ],.042-13	[4208 ],.109-30, F-3,	[4631 ],.019-22, F-5, SD03
095-05, [2021 ],.028-05	102-14, [1662 ],.042-14	[4209 ],.045-14, F-3,	[4631 ],.021-18, F-5, SD03
096-01, [2027 ],.029-04	102-15, [1669 ],.042-15	[4209 ],.106-07, F-3,	[4631 ],.025-06, F-5, SD03
096-02, [2011 ],.029-02	102-16, [1670 ],.042-16	[4217 ],.050-10, F-3,	[4633 ],.020-23, F-5, SD03
096-03, [2101 ],.032-01	102-17, [1648a],.042-17	[4217 ],.051-10, F-3,	[4633 ],.023-22, F-5, SD03
096-04, [1052 ],.036-04	103-01, [1651 ],.042-18	[4219 ],.045-16, F-3,	[4636 ],.013-04, F-5, SD03
097-01, [2618 ],.030-01	103-02, [1642 ],.042-19	[4219 ],.050-13, F-3,	[4636 ],.019-04, F-5, SD03
097-01, [2453 ],.030-02	103-03, [1812 ],.043-01	[4219 ],.051-13, F-3,	[4636 ],.022-05, F-5, SD03
097-03, [2631 ],.030-03	103-04, [1671 ],.043-02	[4219 ],.106-09, F-3,	[4636 ],.088-03, F-5, SD03
097-04, [2454 ],.030-04	103-05, [1806 ],.043-03	[4242?],.024-01, F-3, SD03	[4637 ],.013-02, F-5, SD03
097-05, [2405 ],.030-05	103-06, [1678 ],.043-06	[4404 ],.015-02, F-4, SD03	[4637 ],.018-29, F-5, SD03
097-06, [2646 ],.030-06	103-07, [1678 ],.043-06	[4404 ],.026-15, F-4, SD03	[4637 ],.025-12, F-5, SD03
097-07, [2626 ],.030-07	103-08, [1683 ],.043-04	[4404 ],.039-16, F-4, SD03	[4637 ],.025-13, F-5, SD03
097-08, [2447 ],.030-08	103-09, [1683 ],.043-04	[4404 ],.092-02, F-4, SH01	[4637 ],.026-07, F-5, SD03
097-09, [2446 ],.030-09	103-10, [1683 ],.043-04	[4404 ],.100-02, F-4, SH01	[4637 ],.090-06, F-5, SD03
097-10, [3057 ],.030-10	104-01, [1677 ],.043-05	[4605 ],.001-05, F-5, SD03	[4638 ],.025-04, F-5, SD03
097-11, [5232 ],.030-11	104-02, [0434 ],.044-01	[4605 ],.080-05, F-5, SD03	[4639 ],.013-03, F-5, SD03
097-12, [5231 ],.030-12	104-03, [0288a],.044-02	[4606 ],.040-01, F-5, SH01	[4639 ],.088-02, F-5, SD03
097-13, [5020 ],.030-13	104-04, [2407 ],.044-04	[4608 ],.039-01, F-5, SH01	[4641 ],.012-01, F-5, SD03
098-01, [2473 ],.031-01	104-05, [0287a],.044-03	[4608 ],.040-04, F-5, SH01	[4641 ],.019-17, F-5, SD03
099-01, [3848 ],.038-01	104-06, [7017 ],.044-05	[4609 ],.038-04, F-5, SH01	[4641 ],.090-01, F-5, SD03
099-02, [4648 ],.037-04	104-07, [5228 ],.044-06	[4609 ],.100-08, F-5, SH01	[4642 ],.013-01, F-5, SD03
099-03, [4080 ],.037-08	104-08, [5049 ],.044-07	[4610 ],.037-03, F-5, SH01	[4642 ],.018-11, F-5, SD03
099-04, [4045 ],.037-02	104-09, [5043 ],.044-08	[4610 ],.099-06, F-5, SH01	[4642 ],.088-01, F-5, SD03
099-05, [4043 ],.037-01	105-03, [5003 ],.044-09	[4612 ],.040-20, F-5, SH01	[4645 ],.038-08, F-5, SH01
099-06, [4610 ],.037-03	105-04, [6220 ],.044-10	[4616 ],.019-14, F-5, SD03	[4645 ],.100-09, F-5, SH01
100-01, [4082 ],.039-15	105-05, [0008 ],.045-01	[4616 ],.023-02, F-5, SD03	[4646 ],.038-09, F-5, SH01
100-02, [4404 ],.039-16	105-06, [1031 ],.045-02	[4617 ],.016-02, F-5, SD03	[4646 ],.100-11, F-5, SH01
100-03, [4075 ],.039-18	105-07, [0617 ],.045-03	[4617 ],.087-02, F-5, SD03	[4648 ],.037-04, F-5, SH01
100-04, [4048 ],.039-20	105-08, [0404 ],.045-04	[4618 ],.019-15, F-5,	[4648 ],.099-02, F-5, SH01
100-05, [4044 ],.039-19	105-09, [1425 ],.045-05	[4618 ],.024-10, F-5,	[4653 ],.049-09, F-5,
100-06, [4054 ],.039-17	105-10, [1424 ],.045-06	[4618 ],.026-27, F-5, SD03	[4653 ],.111-08, F-5,
100-07, [4025 ],.038-05	105-11, [1648 ],.045-07	[4618 ],.049-02, F-5, SD03	[4655 ],.012-04, F-5, SD03
100-08, [4009 ],.038-04	105-12, [5221 ],.044-11	[4618 ],.111-02, F-5, SD03	[4655 ],.022-00, F-5, SD03
100-09, [4645 ],.038-08	106-01, [1204 ],.045-08	[4619 ],.014-01, F-5, SD03	[4655 ],.026-14, F-5, SD03
100-10, [4083 ],.038-03	106-02, [1032 ],.045-09	[4619 ],.091-02, F-5, SD03	[4655 ],.090-03, F-5, SD03

106-03, [0008f], 045-10	109-22, [4207 ],	[4656 ], 025-08, F-5, SD03 .	[5060 ], 020-14, D-2, SD03 ,
106-04, [1422 ], 045-11	109-23, [0242 ],	[4658 ], 014-03, F-5, SD03 ,	[5201 ], 110-11, D-1 ,
106-05, [1437 ], 045-12	109-24, [1037 ],	[4658 ], 025-16, F-5, SD03 .	[5210 ], 110-14, D-1 ,
106-06, [2437f], 045-13	109-25, [3605 ],	[4658 ], 091-04, F-5, SD03 .	[5218 ], 109-28, D-1 ,
106-07, [4209 ], 045-14	109-26, [0602 ],	[4662 ], 014-02, F-5, SD03 ,	[5221 ], 044-11, D-1, SH04 ,
106-08, [2437a], 045-15	109-27, [6214 ],	[4662 ], 091-01, F-5, SD03 .	[5221 ], 105-1, 2, D-1, SH04 ,
106-09, [4219 ], 045-16	109-28, [5218 ],	[4663 ], 011-01, F-5, SD03 ,	[5223 ], 035-06, D-1, SD04 ,
106-10, [0424 ], 045-17	109-29, [1429 ],	[4663 ], 089-01, F-5, SD03 .	[5226 ], 035-05, D-1, SD04 ,
106-11, [2212 ], 045-18	109-29, [1429 ],	[4664 ], 018-17, F-5, SD03 .	[5226 ], 035-05, D-1, SD04 ,
106-12, [0806a], 046-01	109-30, [4208 ],	[4666 ], 023-27, F-5, SD03 ,	[5228 ], 044-06, D-1, SH04 ,
106-13, [7202 ], 046-02	109-31, [161? ],	[4667 ], 018-12, F-5, SD03 ,	[5228 ], 104-07, D-1, SH04 ,
107-01, [1401 ], 046-03	109-32, [1037 ],	[4667 ], 026-29, F-5, SD03 .	[5229 ], 035-03, D-1, SD04 ,
107-02, [7011 ], 046-04	109-33, [0041 ],	[4691 ], 040-10, F-5, SH01 ,	[5231 ], 030-12, D-1, SD04 ,
107-03, [4804 ], 046-05	109-34, [7401 ],	[4801 ], 110-05, G-3 ,	[5231 ], 097-12, D-1, SD04 ,
107-04, [7004 ], 046-06	109-35, [0613 ],	[4804 ], 046-05, G-3 ,	[5232 ], 030-11, D-1, SD04 ,
107-05, [4208 ], 046-07	109-36, [0409 ],	[4804 ], 107-03, G-3 ,	[5232 ], 097-11, D-1, SD04 ,
107-06, [1415 ], 046-08	109-37, [1416 ],	[5001 ], 109-06, D-2 ,	[5233 ], 035-04, D-1, SD04 ,
107-07, [0409 ], 046-09	109-38, [2425 ],	[5001 ], 109-10, D-2 ,	[5234 ], 035-07, D-1, SD04 ,
107-08, [2607 ], 046-10	109-39, [002? ],	[5001 ], 110-10, D-2 ,	[5235 ], 035-01, D-1, SD04 ,
107-09, [0404a], 046-11	109-40, [? ],	[5003 ], 044-09, D-2, SH10 ,	[6006 ], 041-03, E-2 ,
107-10, [0602 ], 046-12	109-41, [7217 ],	[5003 ], 105-03, D-2, SH10 ,	[6006 ], 101-03, E-2 ,
107-11, [0806a], 046-13	109-42, [3010 ],	[5007 ], 048-04, D-2 ,	[6006f], 041-02, E-2, SD02 ,
107-12, [1202 ], 046-14	109-43, [? ],	[5007 ], 111-21, D-2 ,	[6006f], 101-02, E-2, SD02 ,
107-13, [1430 ], 046-15	109-44, [2100 ],	[5008 ], 048-08, D-2 ,	[6007 ], 041-04, E-2, SD02 ,
107-14, [1606 ], 046-16	109-45, [4204 ],	[5008 ], 111-13, D-2 ,	[6007 ], 049-15, E-2, SD02 ,
107-15, [1610 ], 046-17	109-46, [? ],	[5014 ], 035-13, D-2, SD04 ,	[6007 ], 101-04, E-2 ,
107-16, [1611f], 046-18	109-47, [2425 ],	[5020 ], 030-13, D-2, SD04 ,	[6207 ], 048-18, E-1, SD105 ,
107-17, [1611b], 046-19	109-48, [2425 ],	[5020 ], 035-02, D-2, SD04 ,	[6214 ], 109-27, E-1 ,
107-18, [2458 ], 046-20	109-49, [0602 ],	[5020 ], 035-08, D-2, SD04 ,	[6216 ], 048-02, E-1 ,
108-01, [0807 ], 047-01	109-50, [? ],	[5020 ], 097-13, D-2, SD04 ,	[6216 ], 111-23, E-1 ,
108-02, [2415 ], 047-02	109-51, [? ],	[5021 ], 035-09, D-2, SD04 ,	[6220 ], 044-10, E-1, SH05 ,
108-03, [1638 ], 047-03	110-01, [3803 ],	[5021 ], 035-10, D-2, SD04 ,	[6220 ], 105-04, E-1, SH05 ,
108-04, [0404f], 047-04	110-02, [1609 ],	[5022 ], 035-12, D-2, SD04 ,	[6243 ], 033-08, E-1, SD04 ,
108-05, [1608f], 047-05	110-03, [3208 ],	[5029 ], 035-11, D-2, SD04 ,	[6401 ], 109-20, E-0 ,
108-06, [1612 ], 047-06	110-04, [3066 ],	[5033 ], 041-08, D-2, Pt333 ,	[6406 ], 048-17, E-0, SD105 ,
108-07, [3221 ], 047-07	110-05, [4801 ],	[5033 ], 101-08, D-2, Pt333 ,	[6408 ], 048-13, E-0 ,
108-08, [0806f], 047-08	110-06, [0801 ],	[5043 ], 044-08, D-2, SH04 ,	[7004 ], 046-06, F-2 ,
108-09, [1608a], 047-09	110-07, [3066 ],	[5043 ], 104-09, D-2, SH04 ,	[7004 ], 107-04, F-2 ,
108-10, [0808 ], 047-10	110-08, [1401 ],	[5045 ], 004-02, D-2, SD03 ,	[7011 ], 046-04, F-2 ,
109-01, [1653 ],	110-09, [1210 ],	[5045 ], 084-02, D-2, SD03 ,	[7011 ], 107-02, F-2 ,
109-02, [7216 ],	110-10, [5001 ],	[5046 ], 005-03, D-2 ,	[7017 ], 044-05, F-2, Pt303 ,
109-03, [1432 ],	110-11, [5201 ],	[5046 ], 024-17, D-2, SD03 ,	[7017 ], 104-06, F-2, Pt303 ,
109-04, [1411 ],	110-12, [0803 ],	[5046 ], 048-15, D-2, SD03 .	[7202 ], 046-02, F-1 ,
109-05, [5001 ],	110-13, [1607 ],	[5046 ], 083-04, D-2, SD03 .	[7202 ], 106-13, F-1 ,
109-06, [1401 ],	110-14, [5210 ],	[5046?], 023-24, D-2, SD03 .	[7216 ], 109-02, F-1 ,
109-07, [1653 ],	110-15, [0402 ],	[5047 ], 024-09, D-2, SD03 .	[7217 ], 109-41, F-1 ,
109-08, [1653 ],	110-16, [3839 ],	[5049 ], 044-07, D-2, SH04 ,	[7401 ], 109-34, F-0 ,
109-09, [0002 ],	110-17, [1663 ],	[5049 ], 104-08, D-2, SH04 ,	[7601 ], 002-02, A-0, SD03 ,
109-10, [5001 ],	110-18, [1432 ],	[5051 ], 048-07, D-2 ,	[7601 ], 020-18, A-0, SD03 ,
109-11, [1453 ],	110-19, [1436 ],	[5051 ], 111-15, D-2 ,	[7601 ], 081-02, A-0, SD03 ,
109-12, [0029 ],	110-20, [0004 ],	[5056 ], 041-09, D-2, Pt333 ,	[7602 ], 001-06, A-0, SD03 ,
109-13, [0623 ],	110-21, [? ],	[5056 ], 101-09, D-2, Pt333 ,	[7602 ], 002-01, A-0, SD03 ,
109-14, [3411 ],	110-22, [? ],	[5057 ], 023-18, D-2, SD03 ,	[7602 ], 019-23, A-0, SD03 ,
109-15, [3803 ],	110-23, [3210 ],	[5057 ], 023-23, D-2, SD03 ,	[7602 ], 020-11, A-0, SD03 ,
109-16, [1401 ],	110-24, [? ],	[5058 ], 005-01, D-2, SD03 ,	[7602 ], 020-12, A-0, SD03 ,
109-17, [0211 ],	110-25, [3605 ],	[5058 ], 021-21, D-2, SD03 .	[7602 ], 023-04, A-0, SD03 ,
109-18, [2642 ],	110-26, [3410 ],	[5058 ], 084-01, D-2, SD03 ,	[7602 ], 025-17, A-0, SD03 ,
109-19, [0242 ],	110-27, [1430 ],	[5059 ], 022-20, D-2, SD03 ,	[7602 ], 080-06, A-0, SD03 ,
109-20, [6401 ],	111-01, [4077 ], 049-12	[5060 ], 019-09, D-2, SD03 .	[7602 ], 081-01, A-0, SD03 ,
109-21, [0003 ],	111-02, [4618 ], 049-02	[5060 ], 020-09, D-2, SD03 ,	[7603 ], 002-03, A-0, SD03 ,

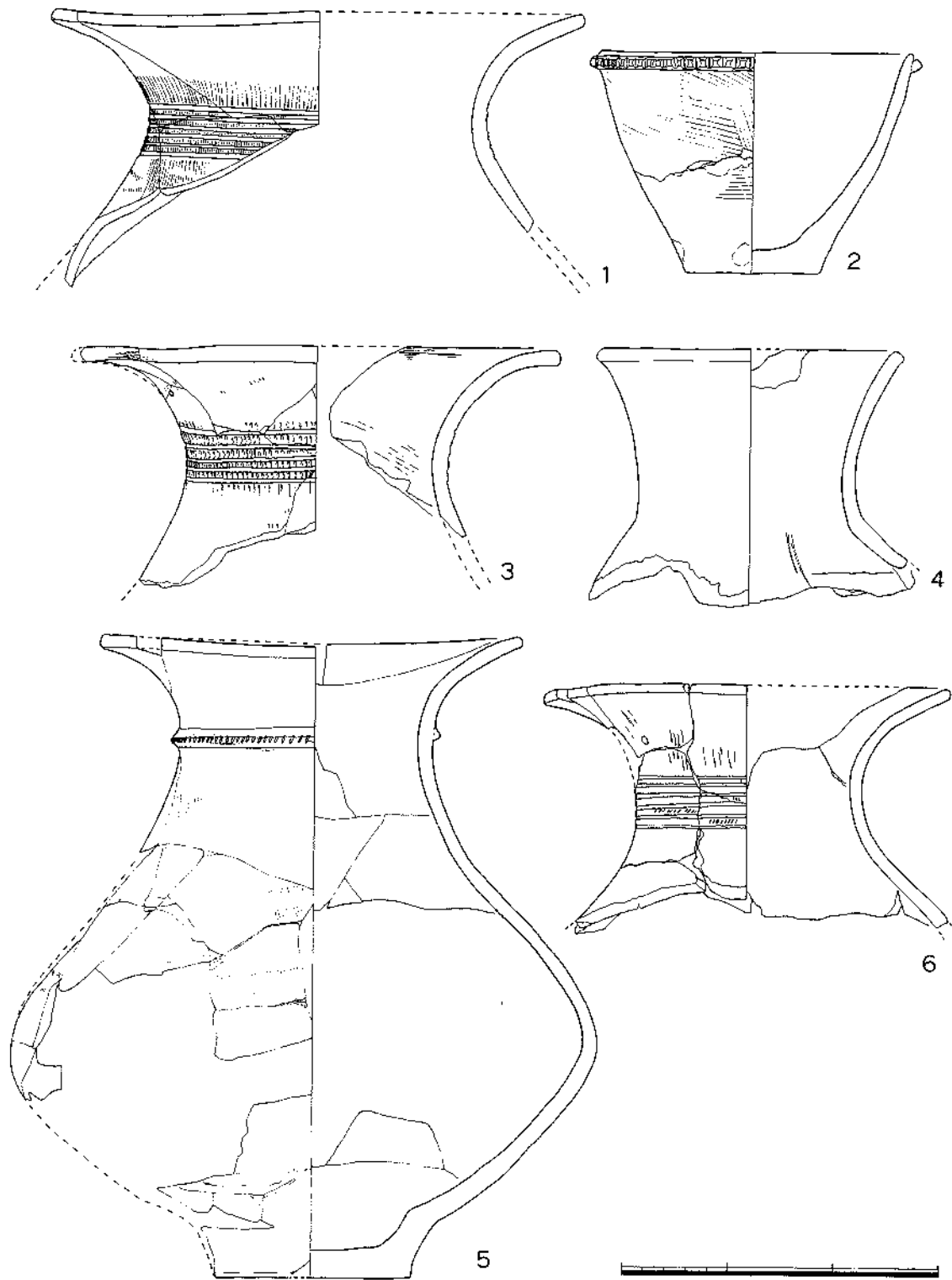
111-03, [7605 ], 049-03	111-14, [3864 ], 048-12		[7603 ], 081-03, A-0, SD03 .	[7607 ], 026-10, A-0, SD03 .
111-04, [3084 ], 049-04	111-15, [5051 ], 048-07		[7605 ], 049-03, A-0. ,	[7607 ], 080-04, A-0, SD03 .
111-05, [3860 ], 049-11	111-16, [4206 ], 048-11		[7605 ], 111-03, A-0. ,	[? ] , 021-28, , SD03 .
111-06, [3886 ], 049-07	111-17, [1029 ], 048-10		[7607 ], 001-04, A-0, SD03 .	[? ] , 109-40, , .
111-07, [3838 ], 049-08	111-18, [2445 ], 048-09		[7607 ], 018-04, A-0, SD03 .	[? ] , 109-43, , .
111-08, [4653 ], 049-09	111-19, [3934 ], 048-06		[7607 ], 020-31, A-0, SD03 .	[? ] , 109-46, , .
111-09, [2449 ], 049-10	111-20, [2207 ], 048-05		[7607 ], 021-03, A-0, SD03 .	[? ] , 109-50, , .
111-10, [3874 ], 049-05	111-21, [5007 ], 048-04		[7607 ], 022-01, A-0, SD03 .	[? ] , 109-51, , .
111-11, [2462 ], 049-01	111-22, [3628 ], 048-03		[7607 ], 025-03, A-0, SD03 .	[? ] , 110-21, , .
111-12, [4010 ], 049-06	111-23, [6216 ], 048-02		[7607 ], 025-35, A-0, SD03 .	[? ] , 110-22, , .
111-13, [5008 ], 048-08	111-24, [0052 ], 048-01		[7607 ], 026-05, A-0, SD03 .	[? ] , 110-24, , .

---

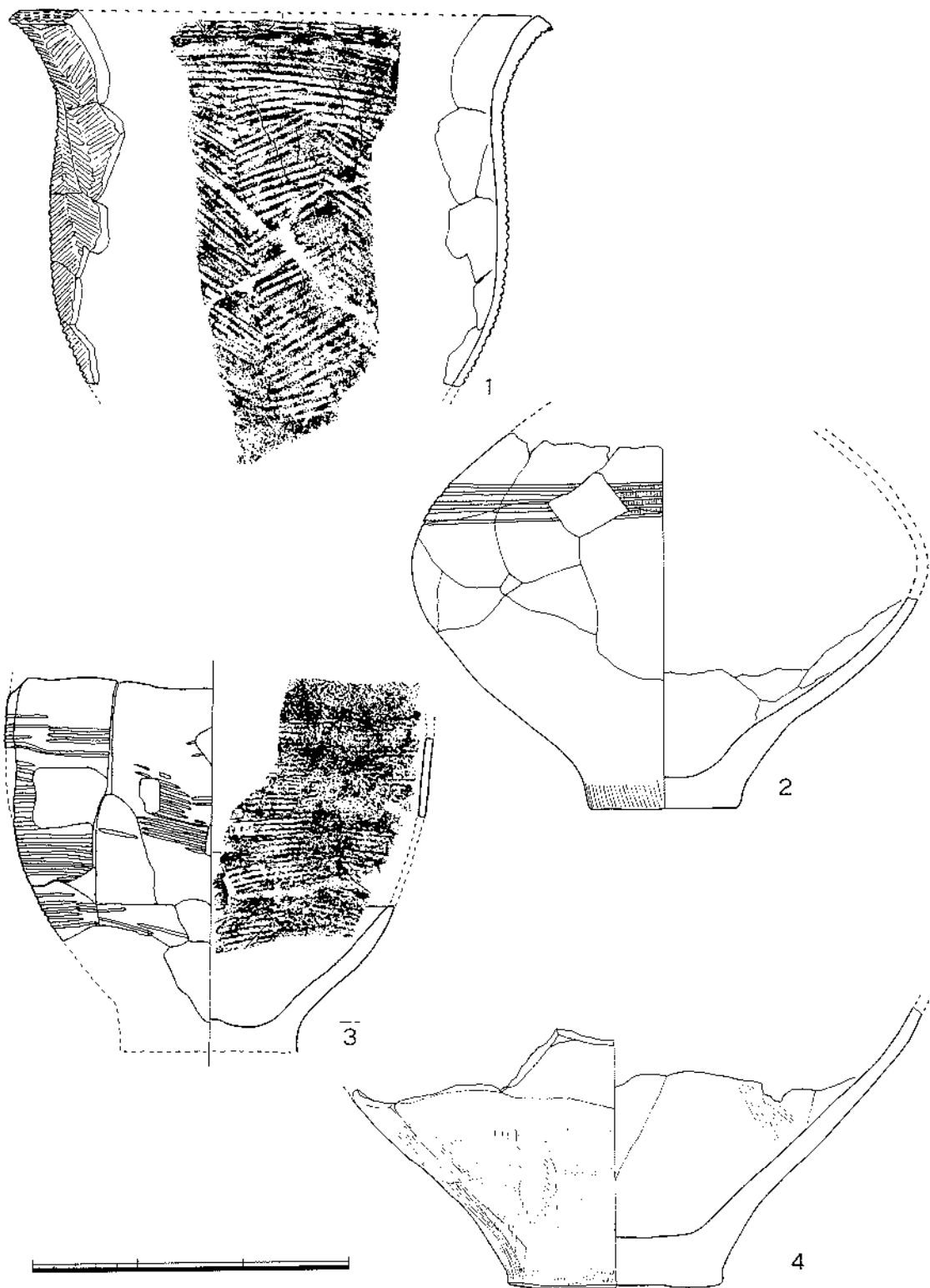
# 版 图



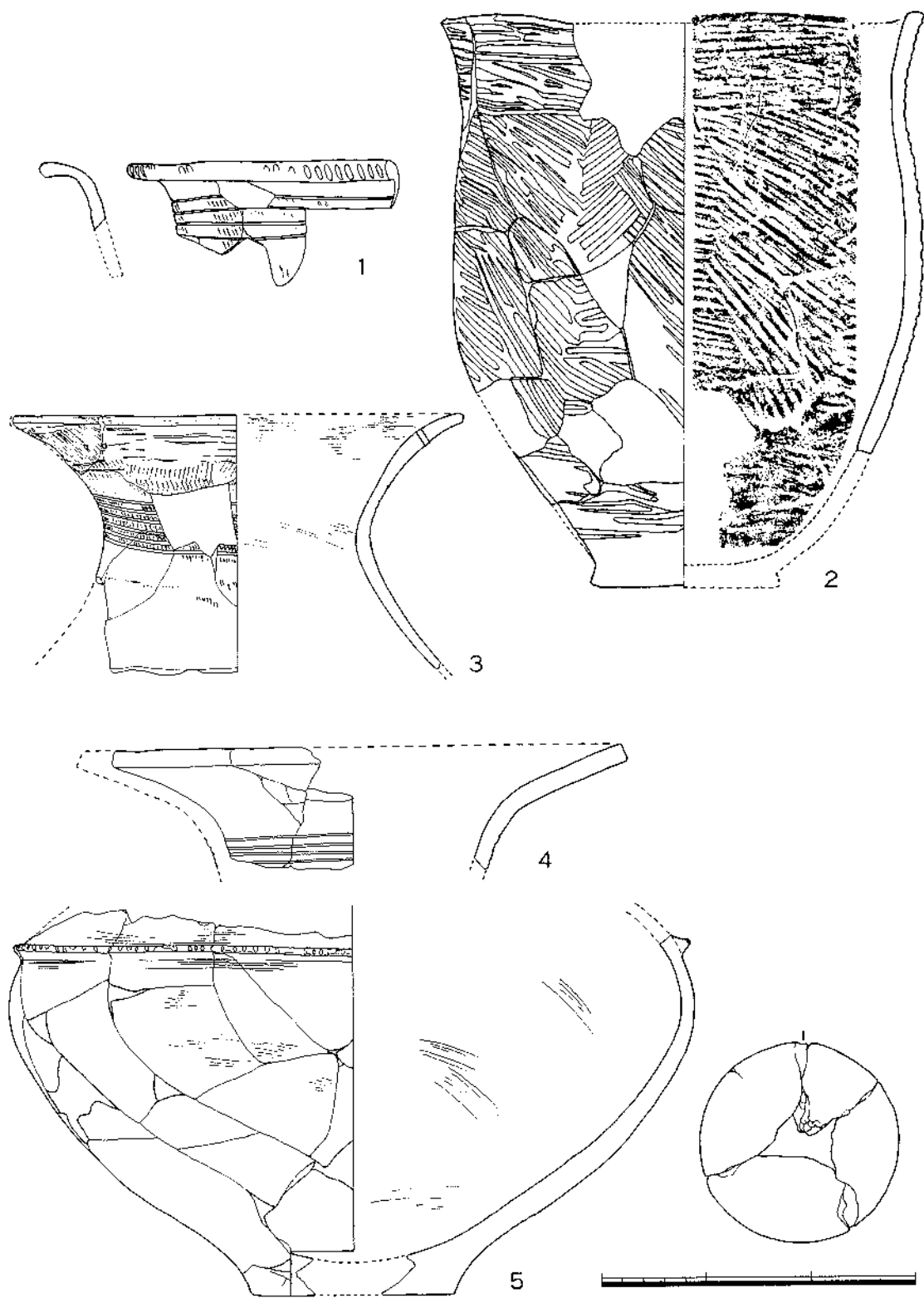
SD03 出土土器実測図



SD03 出土土器実測図

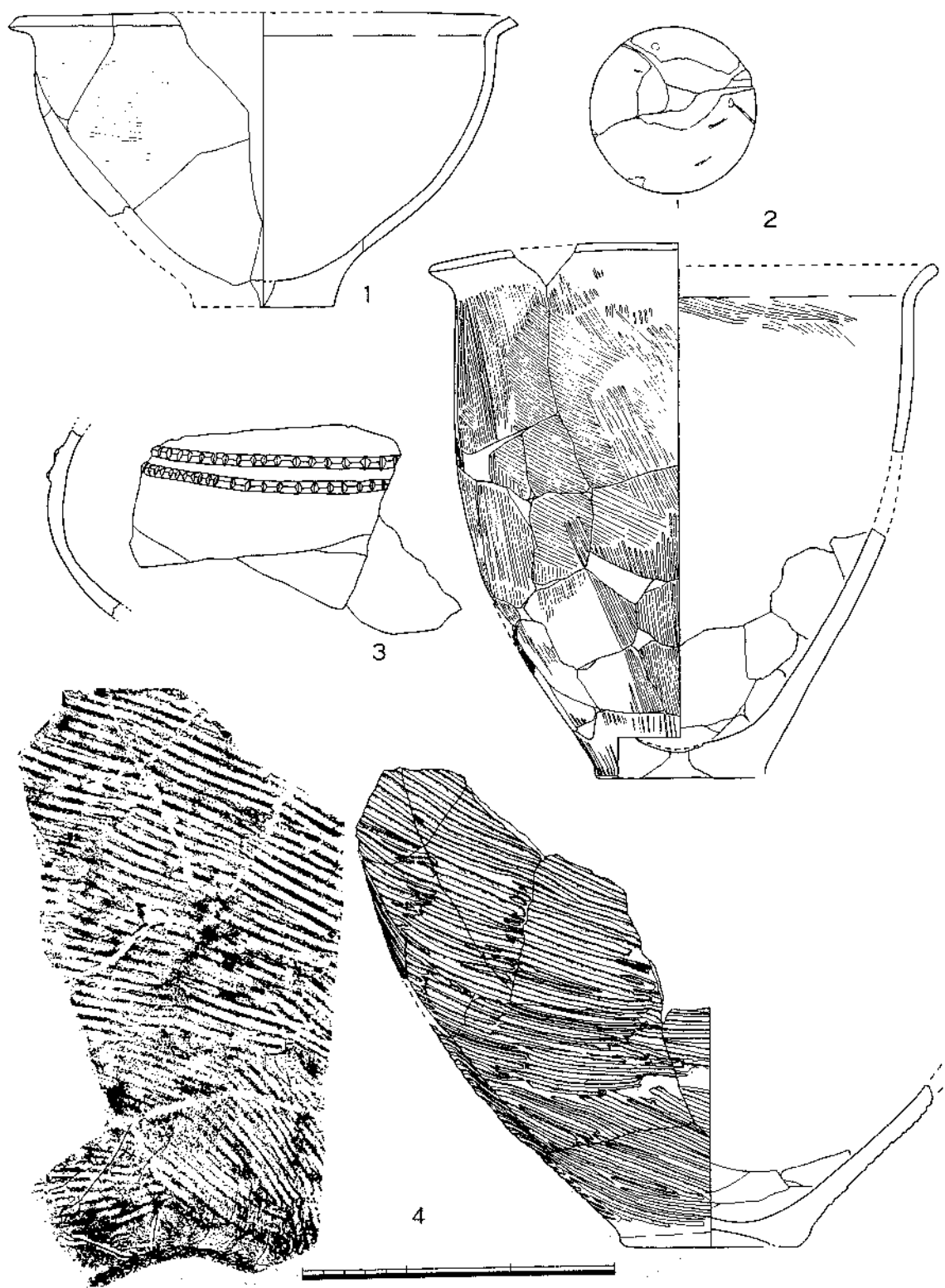


SD03 出土土器実測図

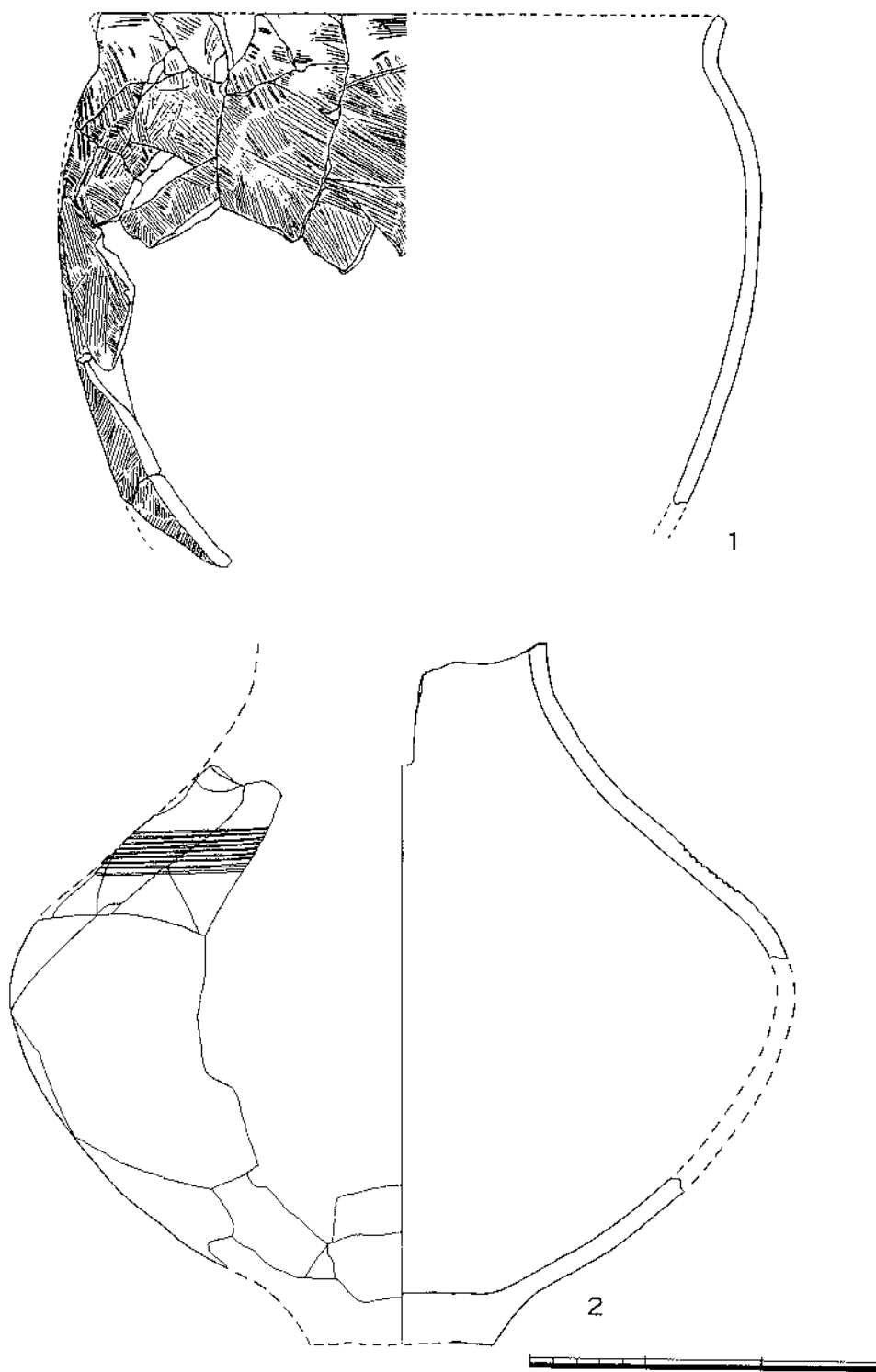


SD03 出土土器実測図

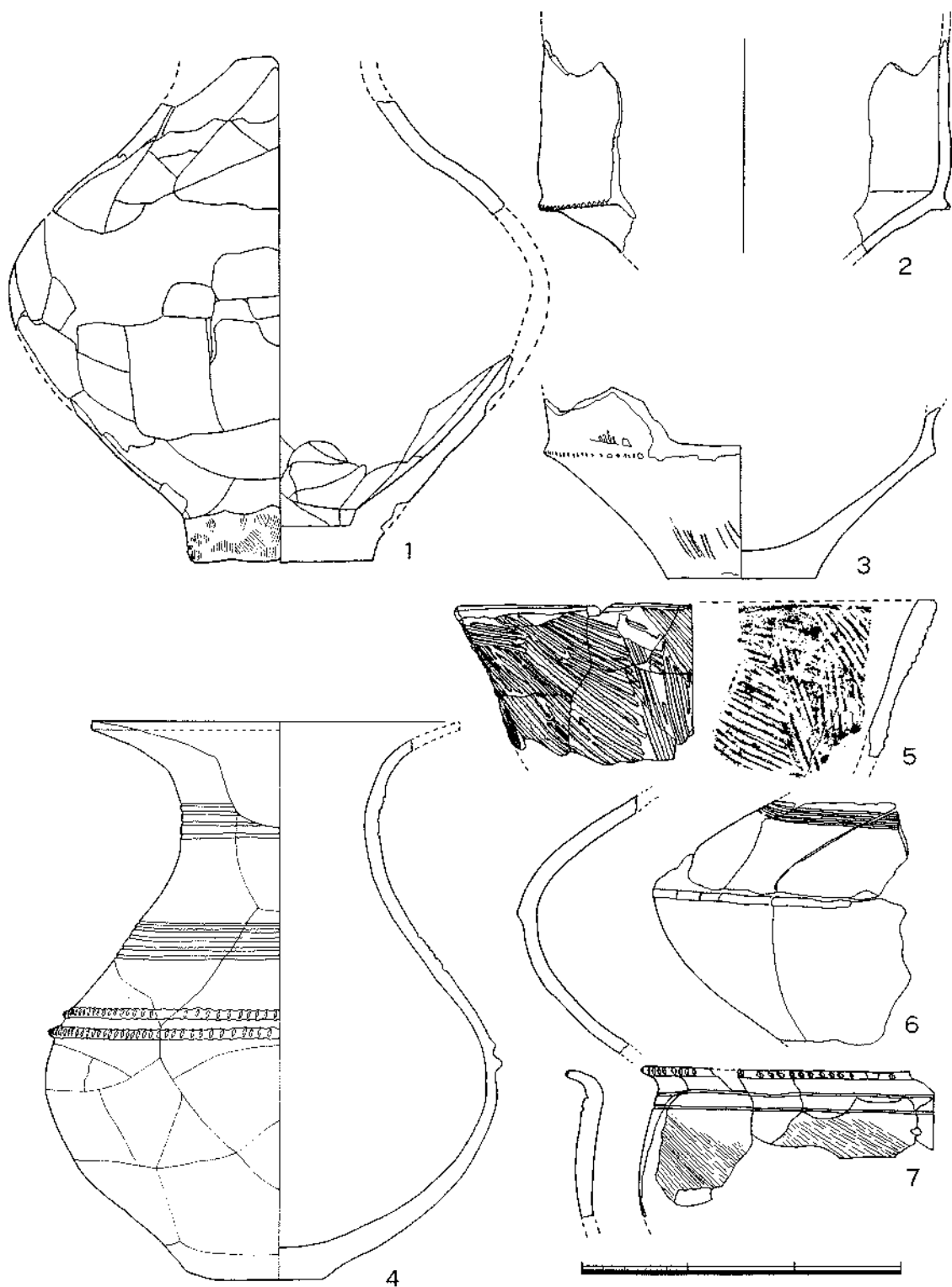




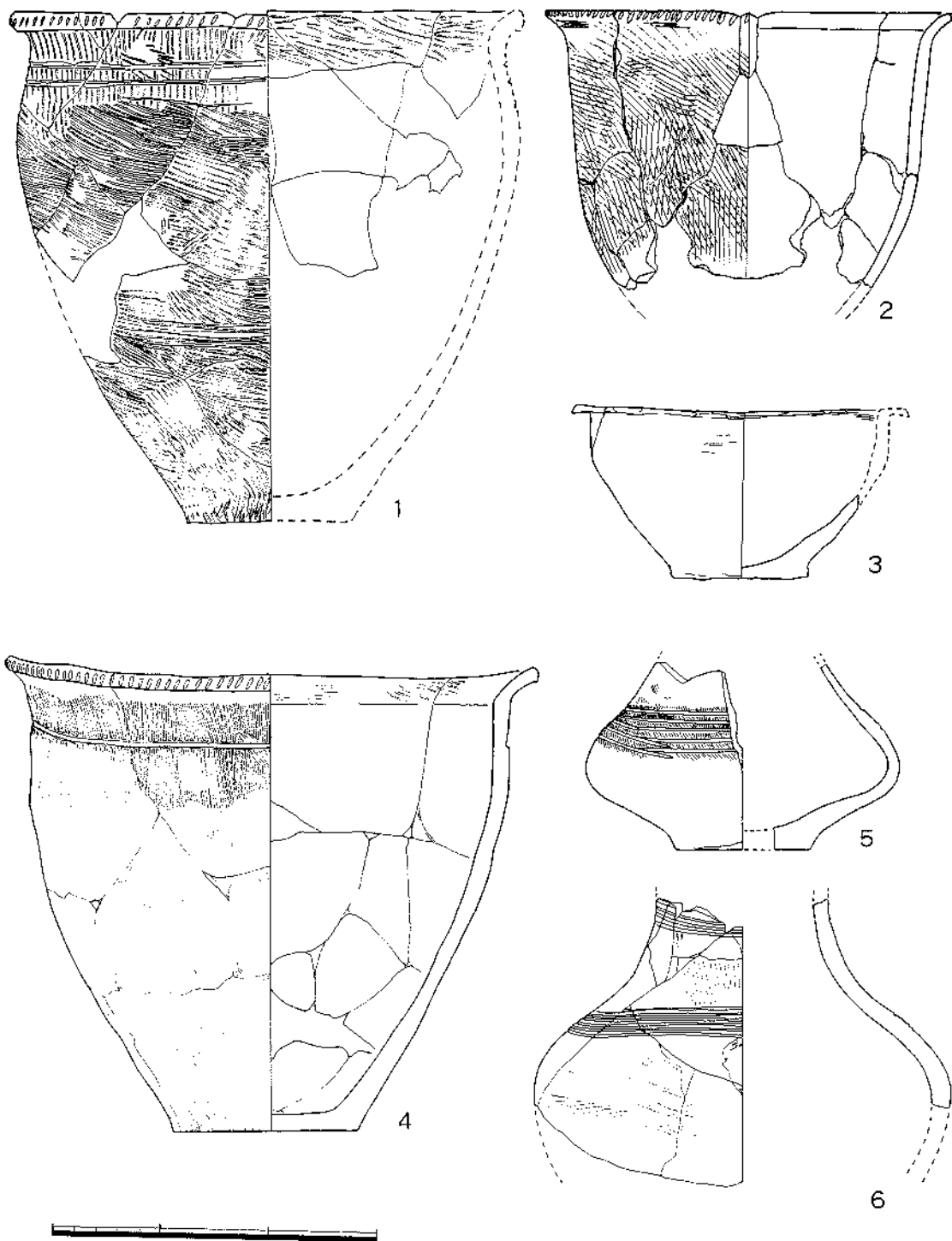
SD03 出土土器実測図

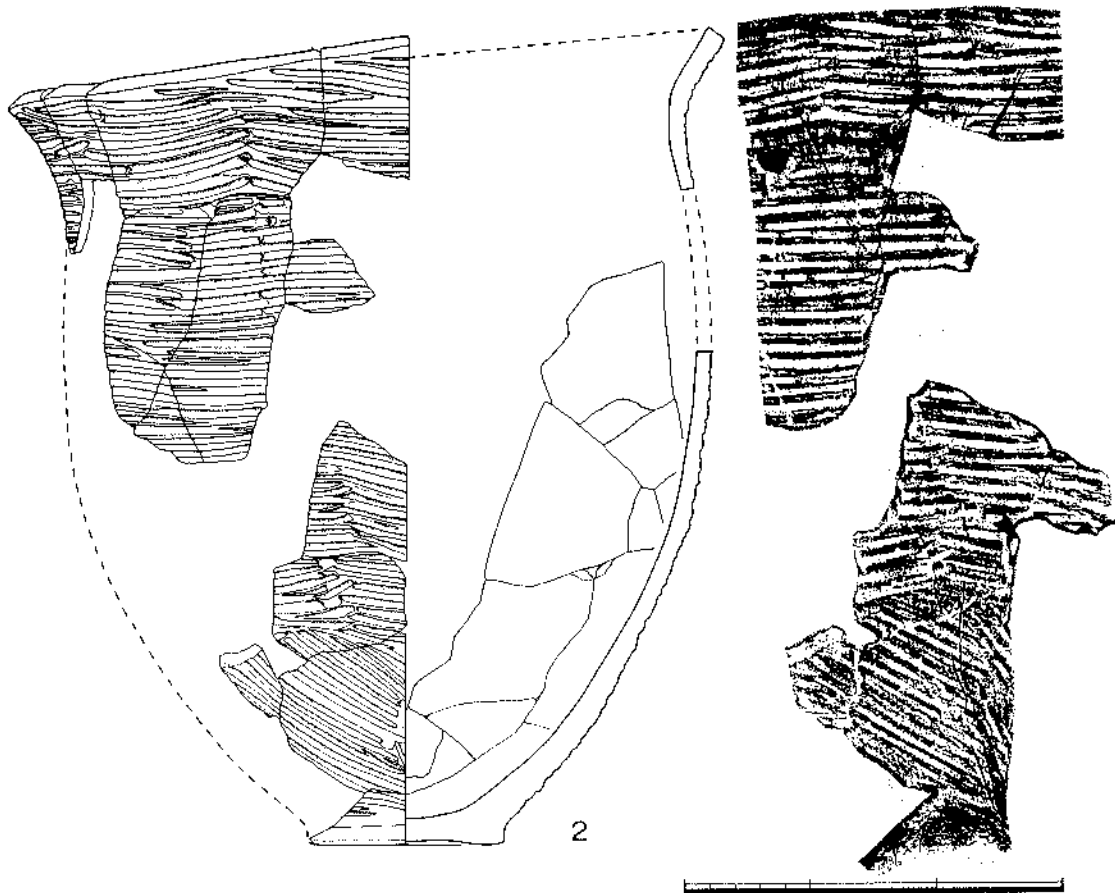
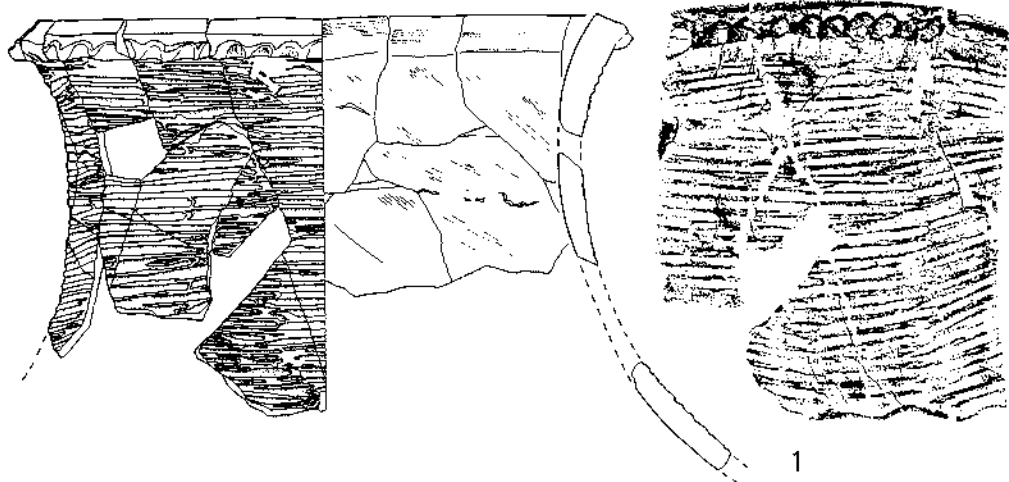


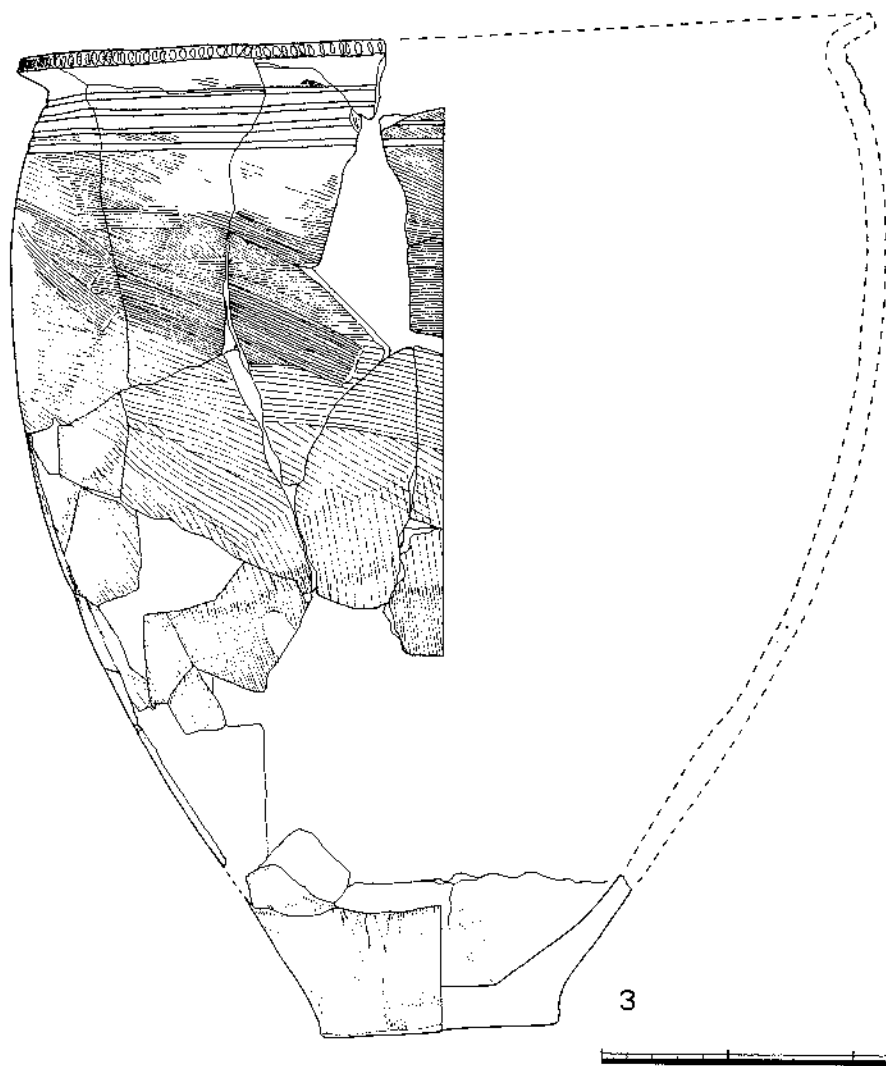
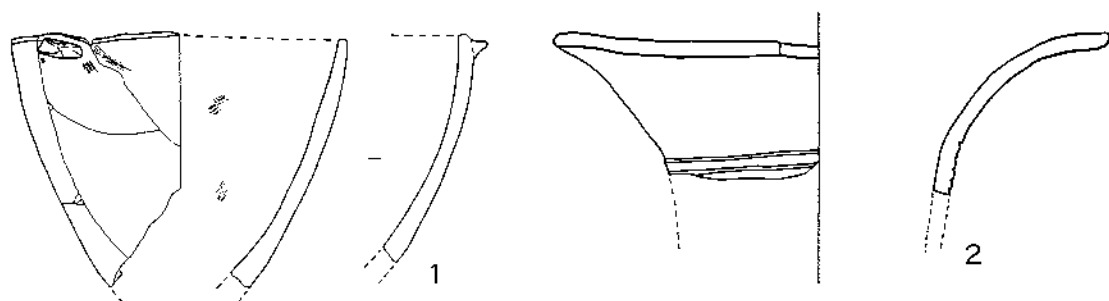
SD03 出土土器実測図

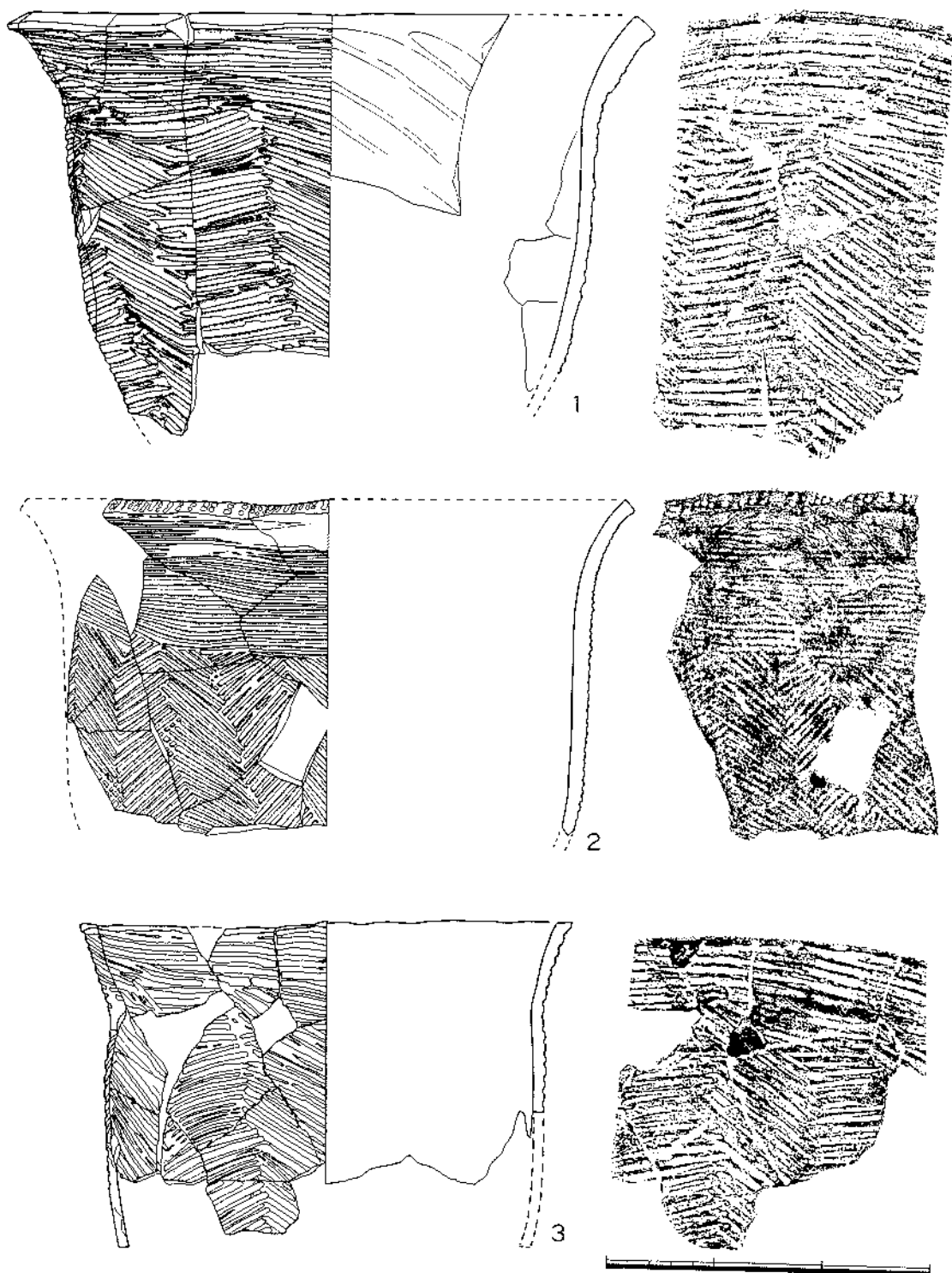


SD03 出土土器实测图

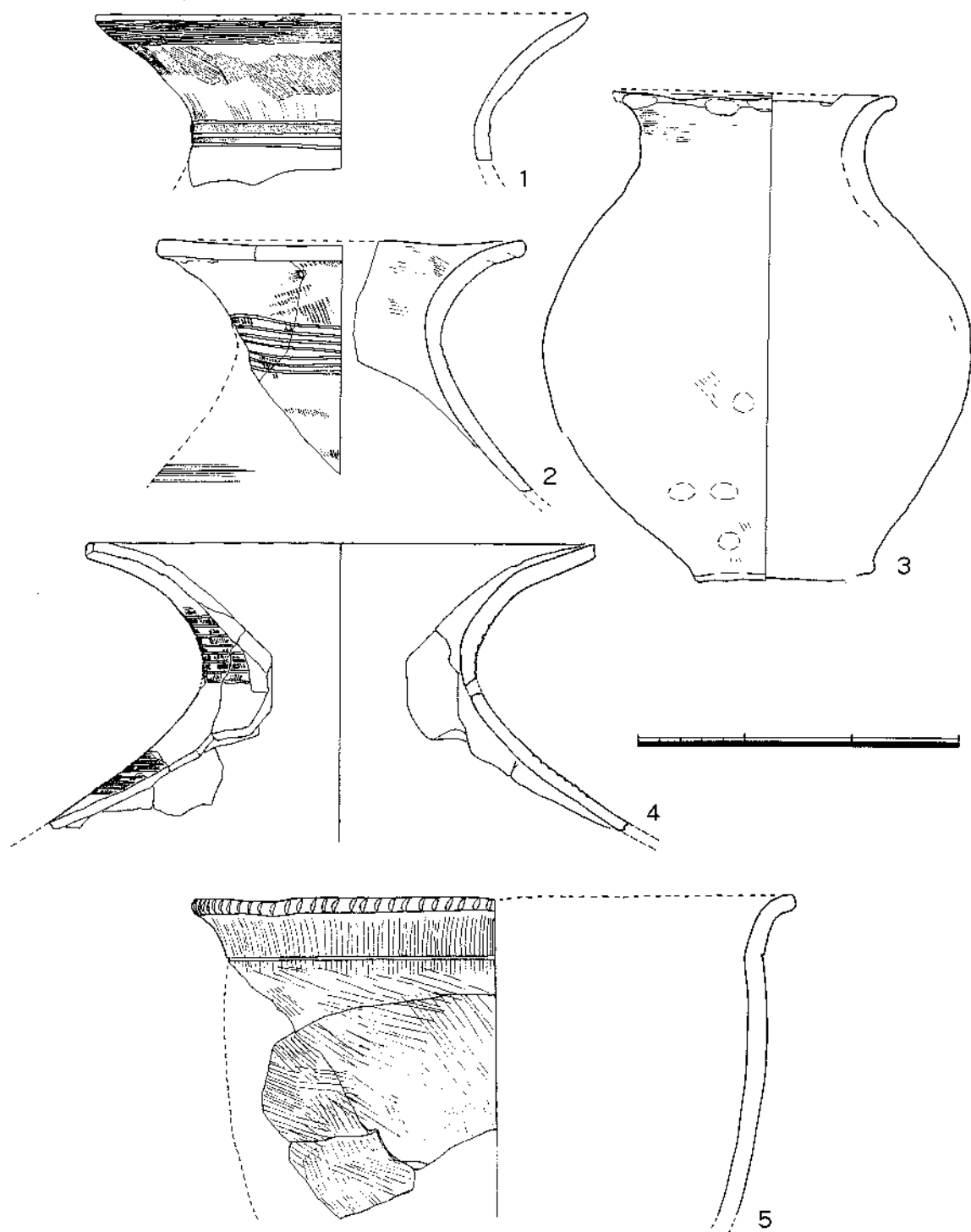




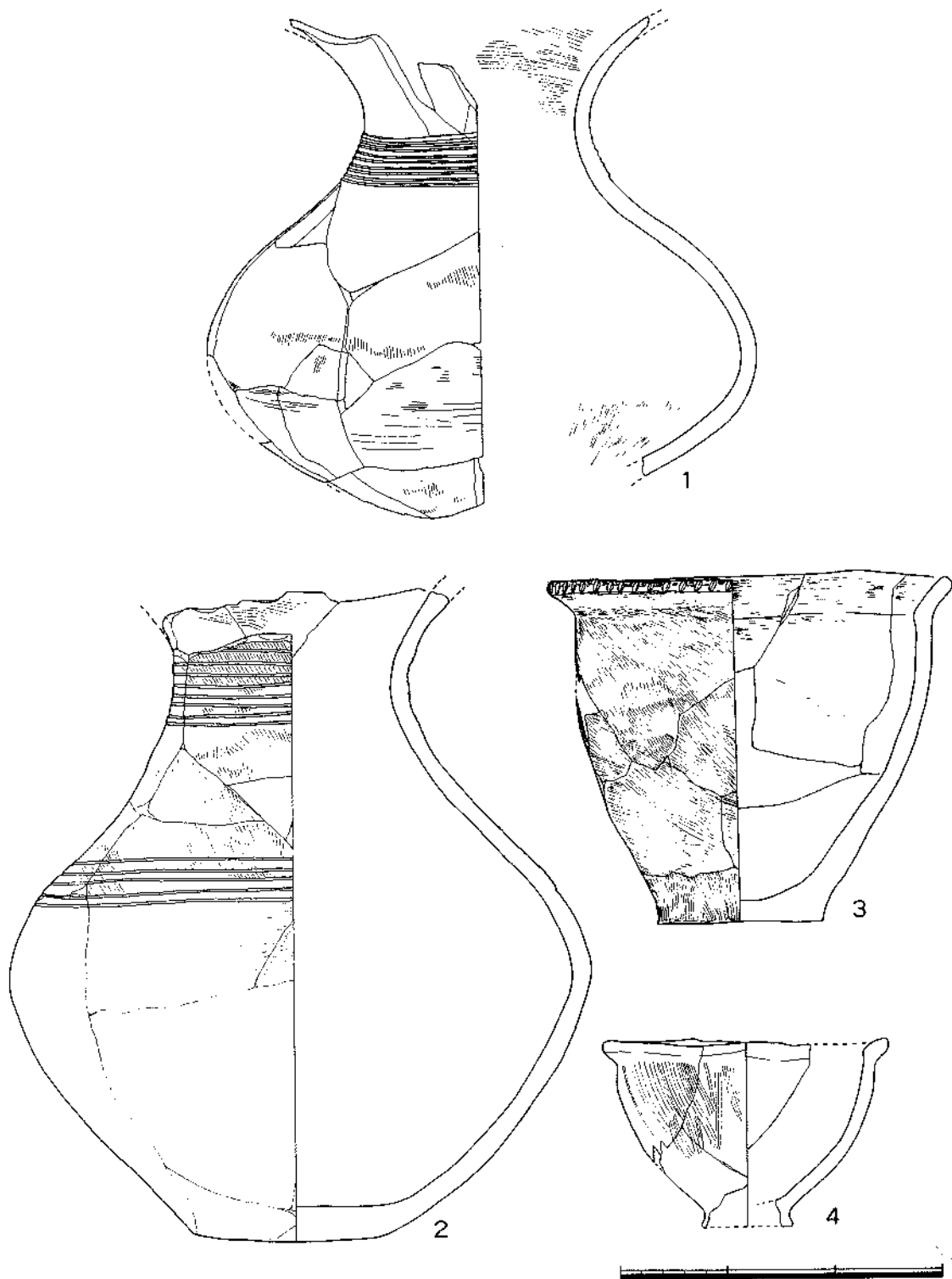




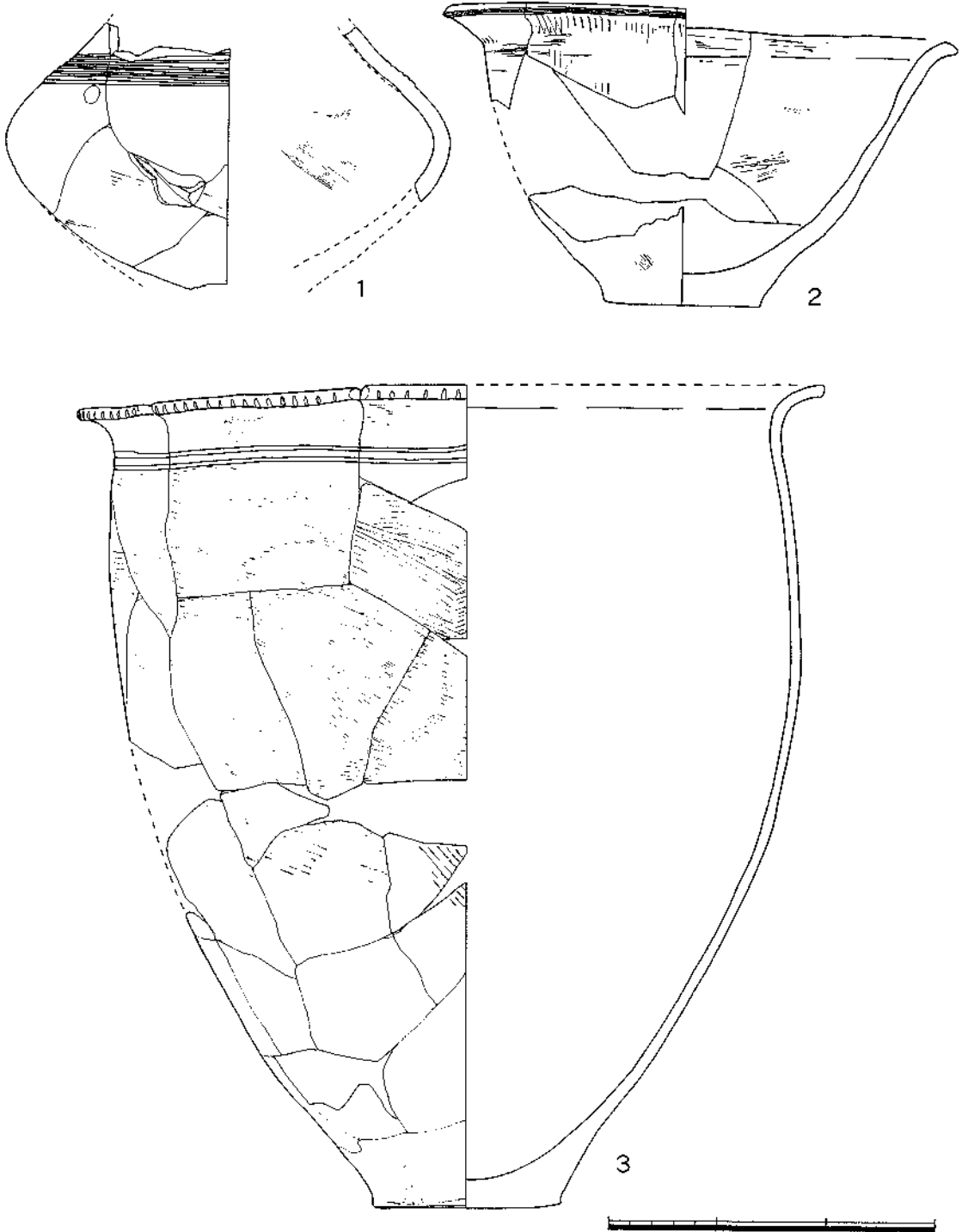
SD03 出土土器実測図



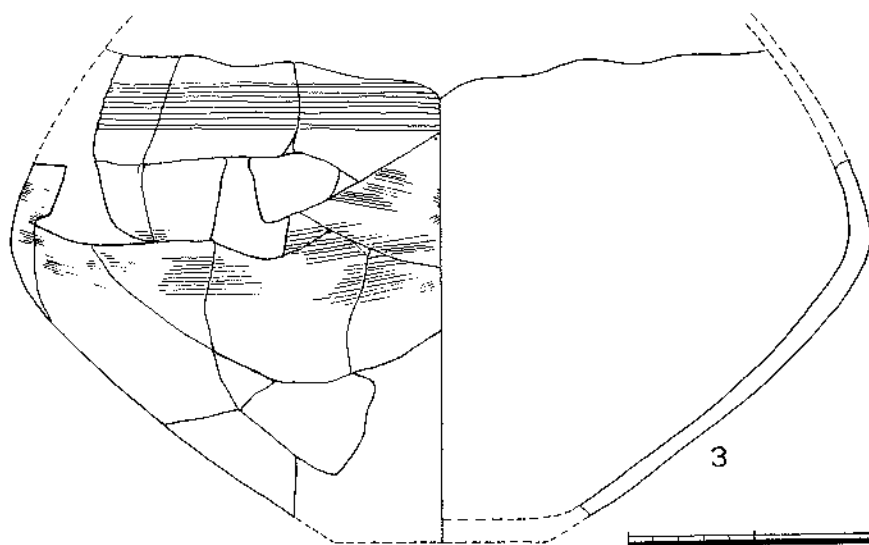
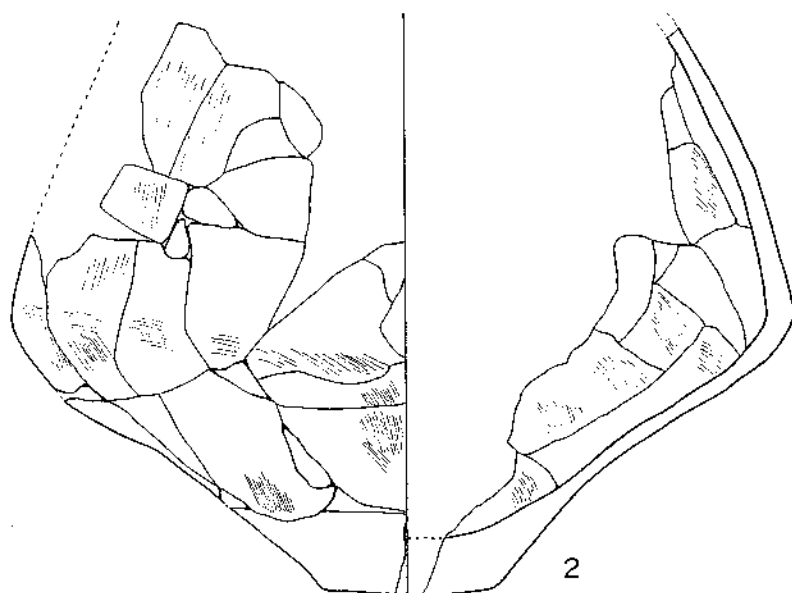
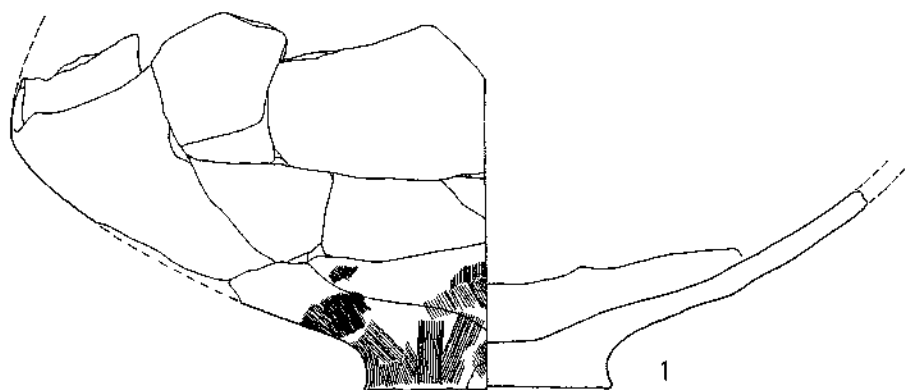




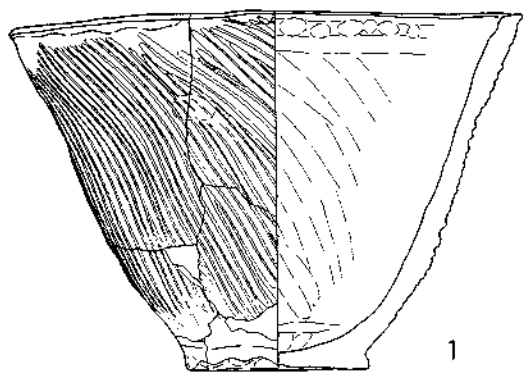
SD03 出土土器実測図



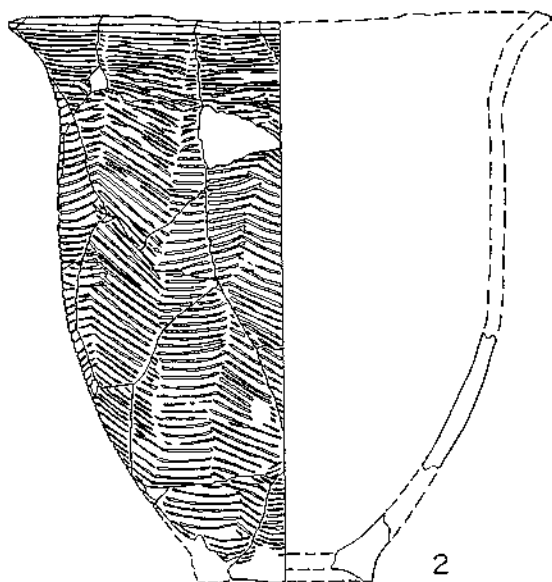
SD03 出土土器実測図



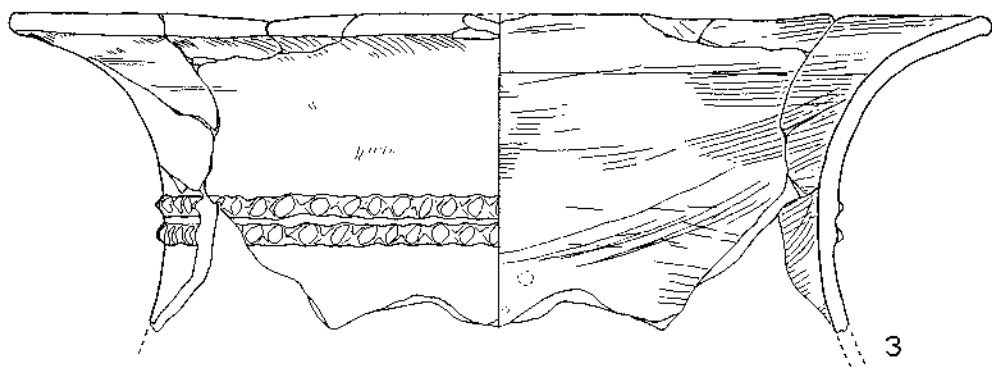
SD03 出土土器実測図



1

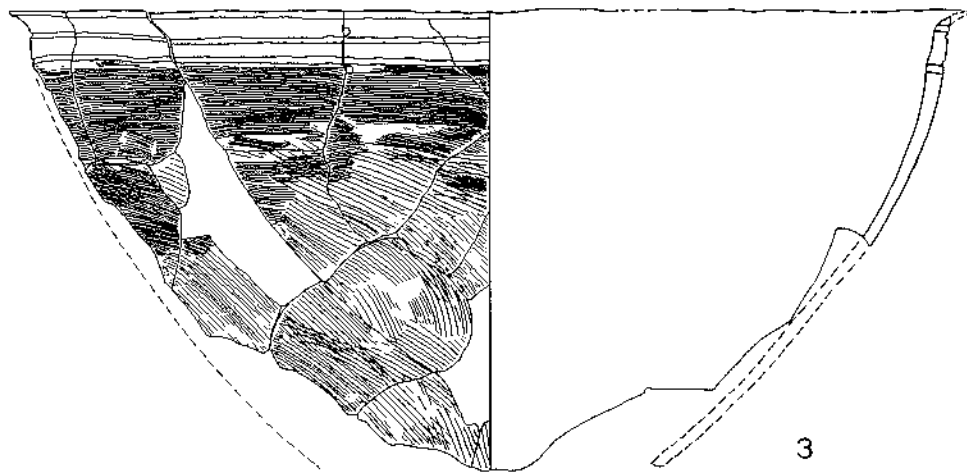
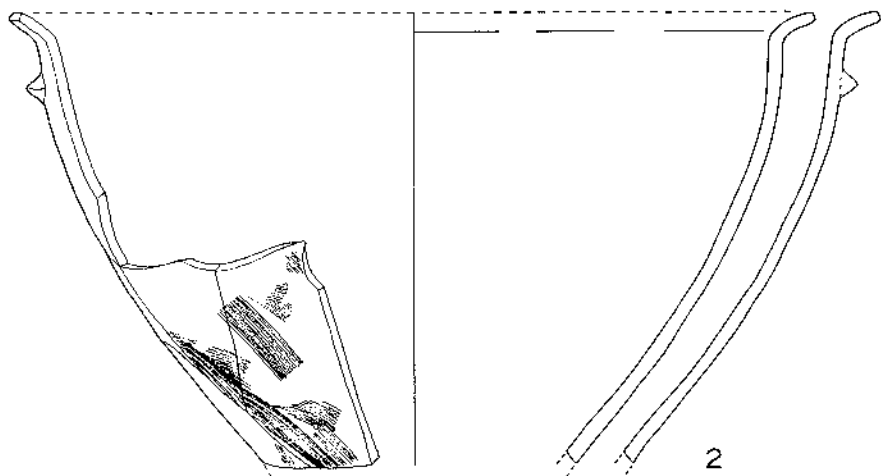
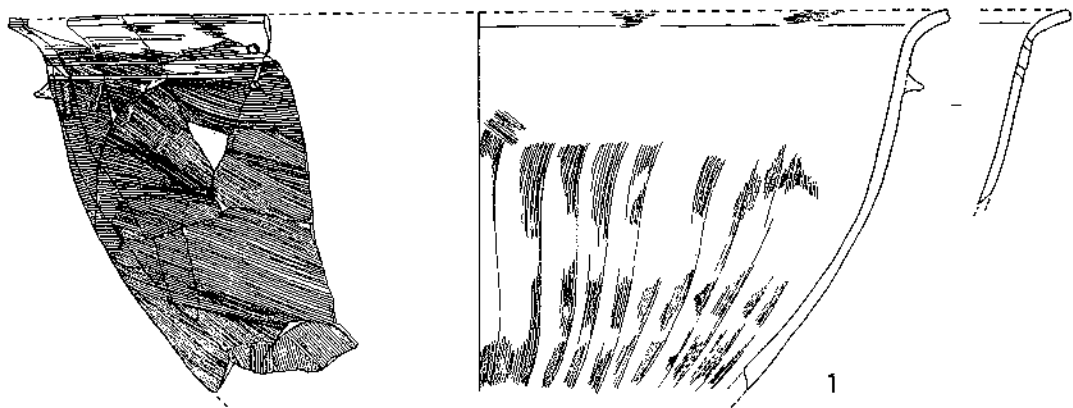


2

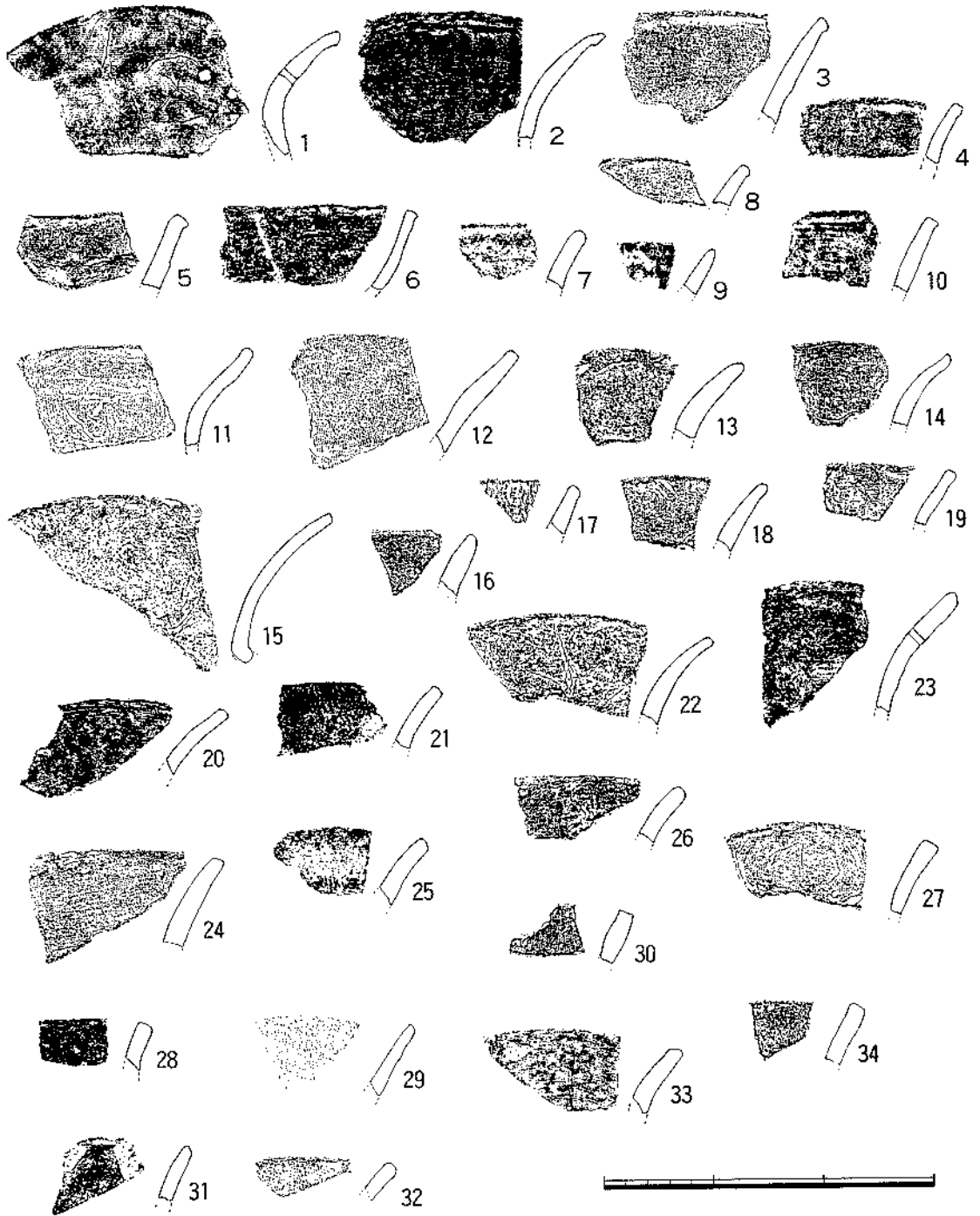


3

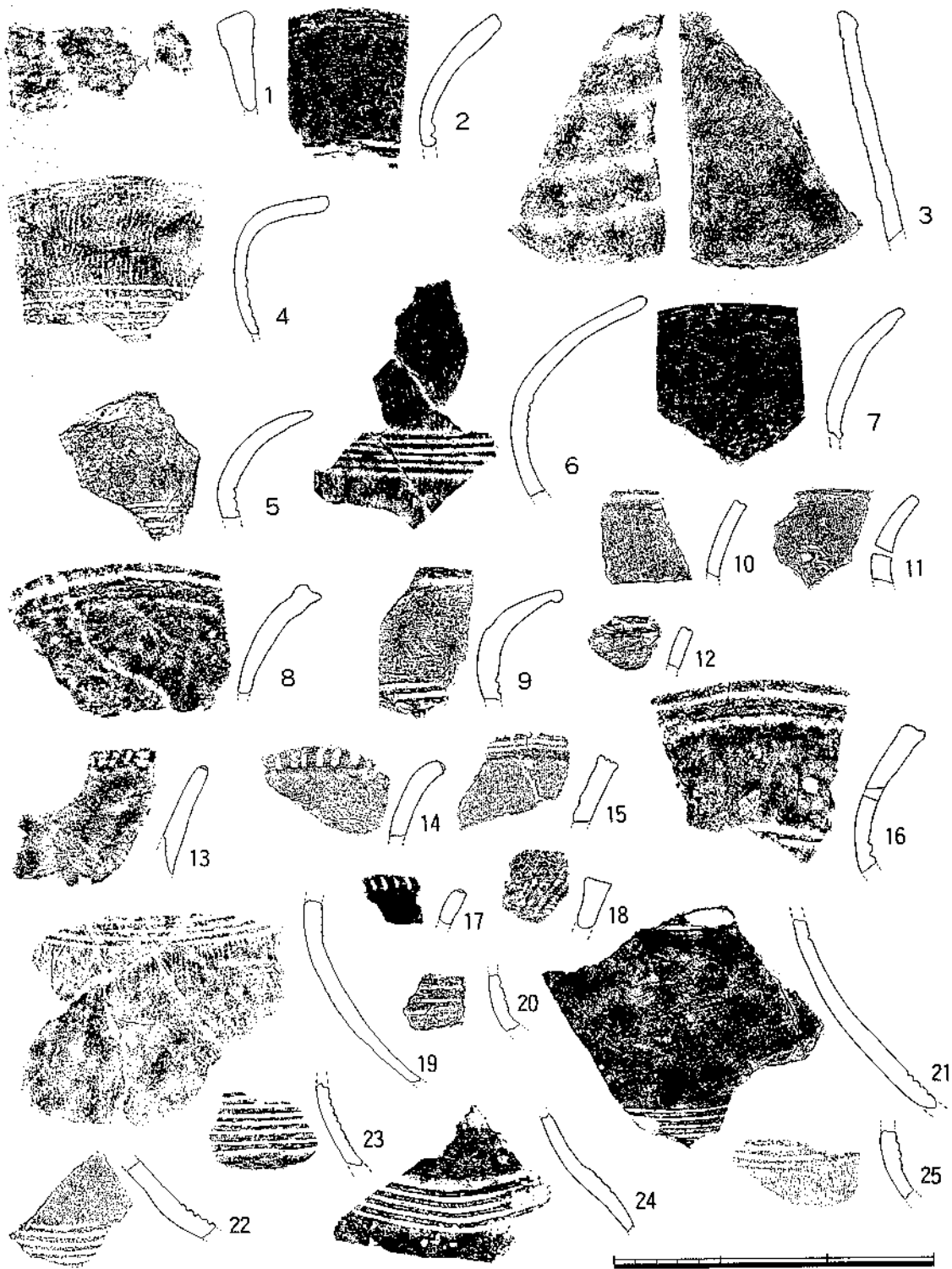




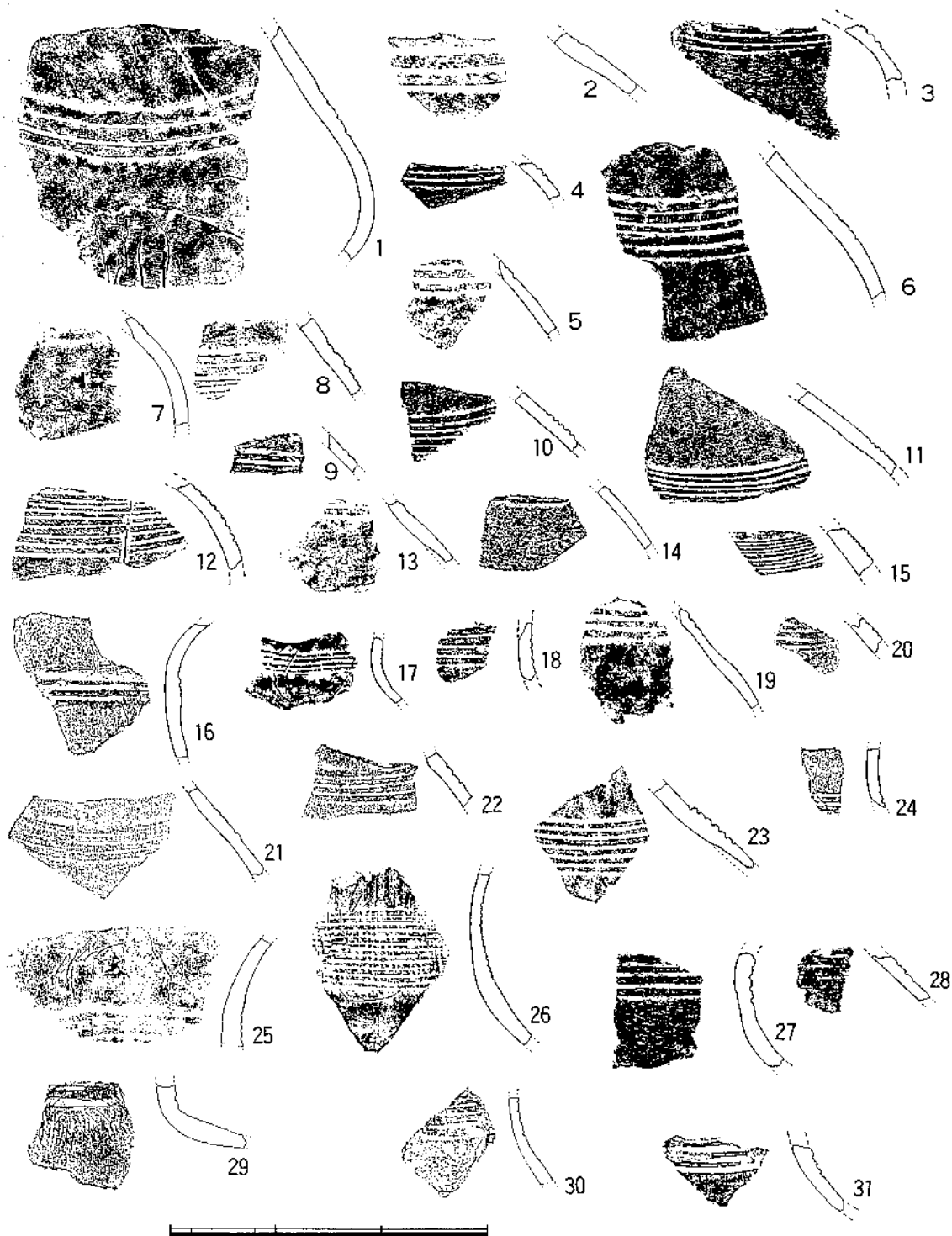
SD03 出土土器実測図



SD03 出土土器片拓影

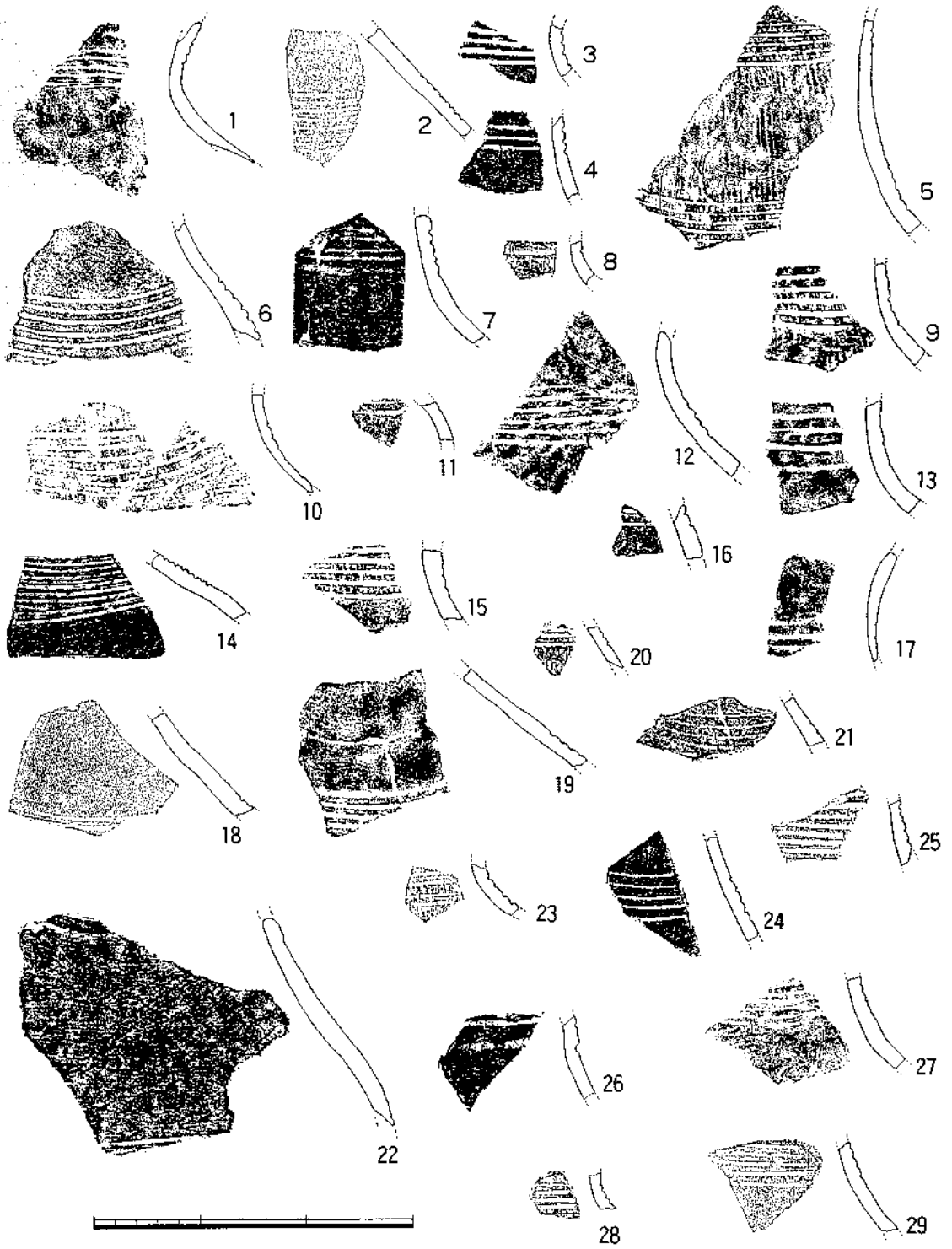


SD03 出土土器片拓影

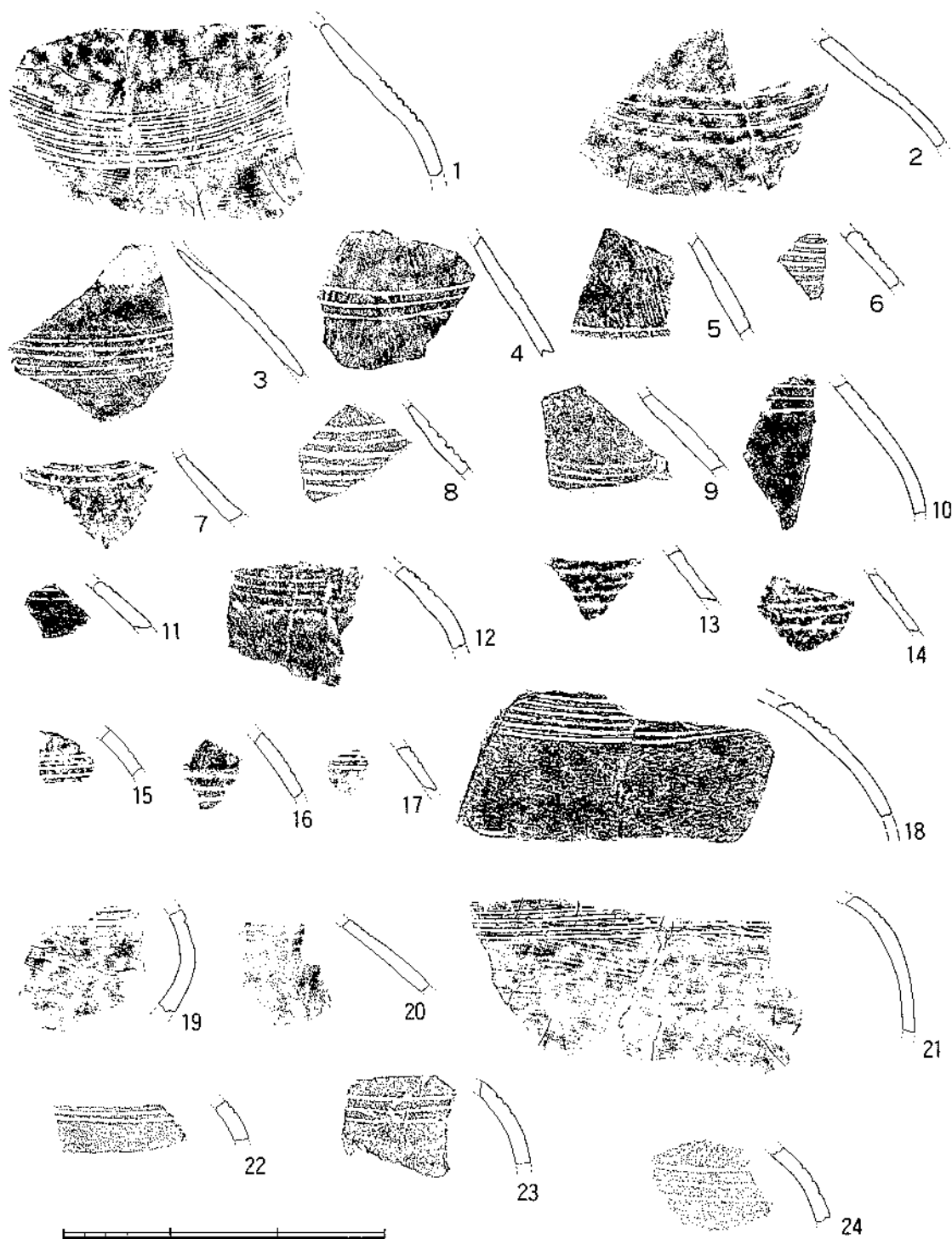


SD03 出土土器片拓影





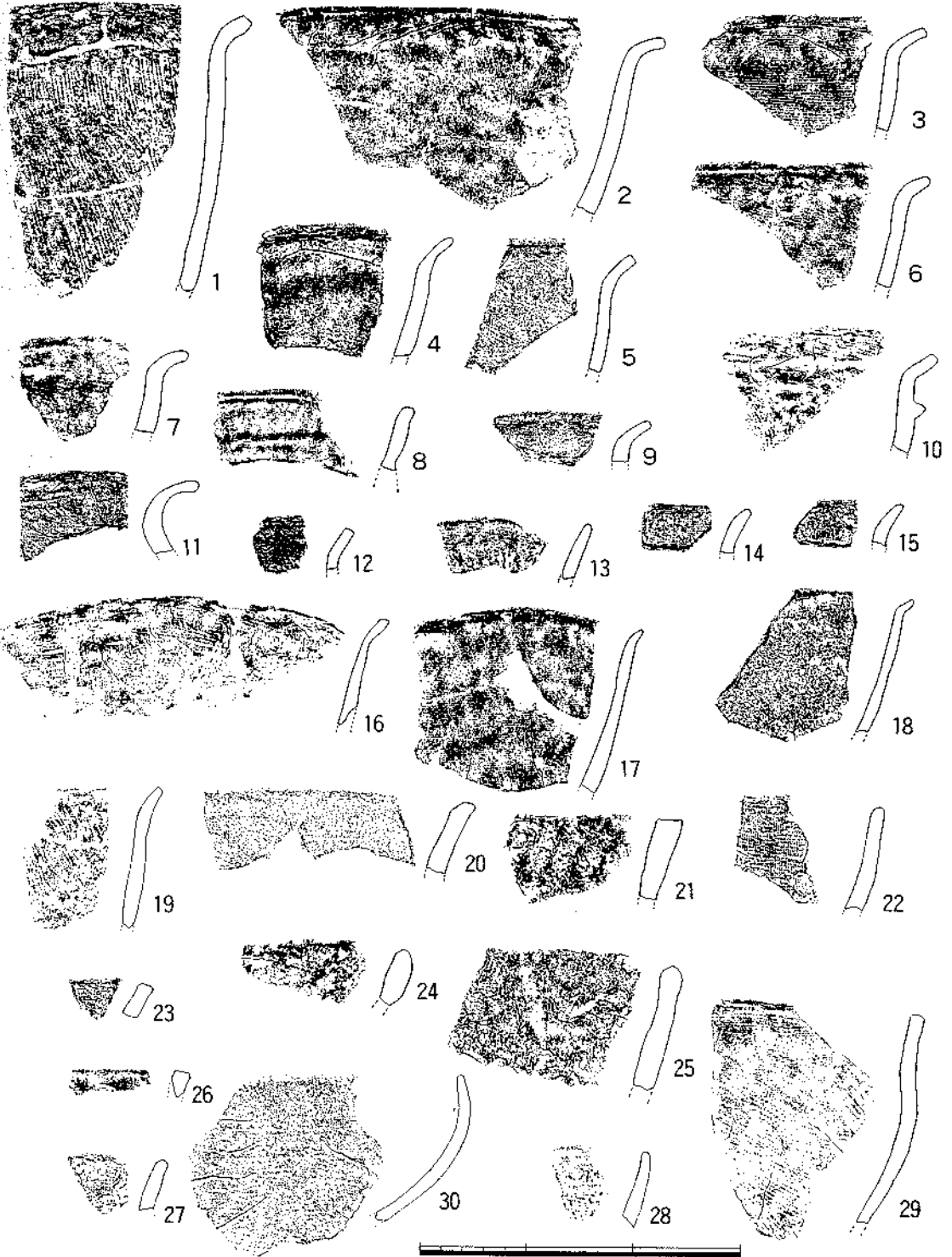
SD03 出土土器片拓影



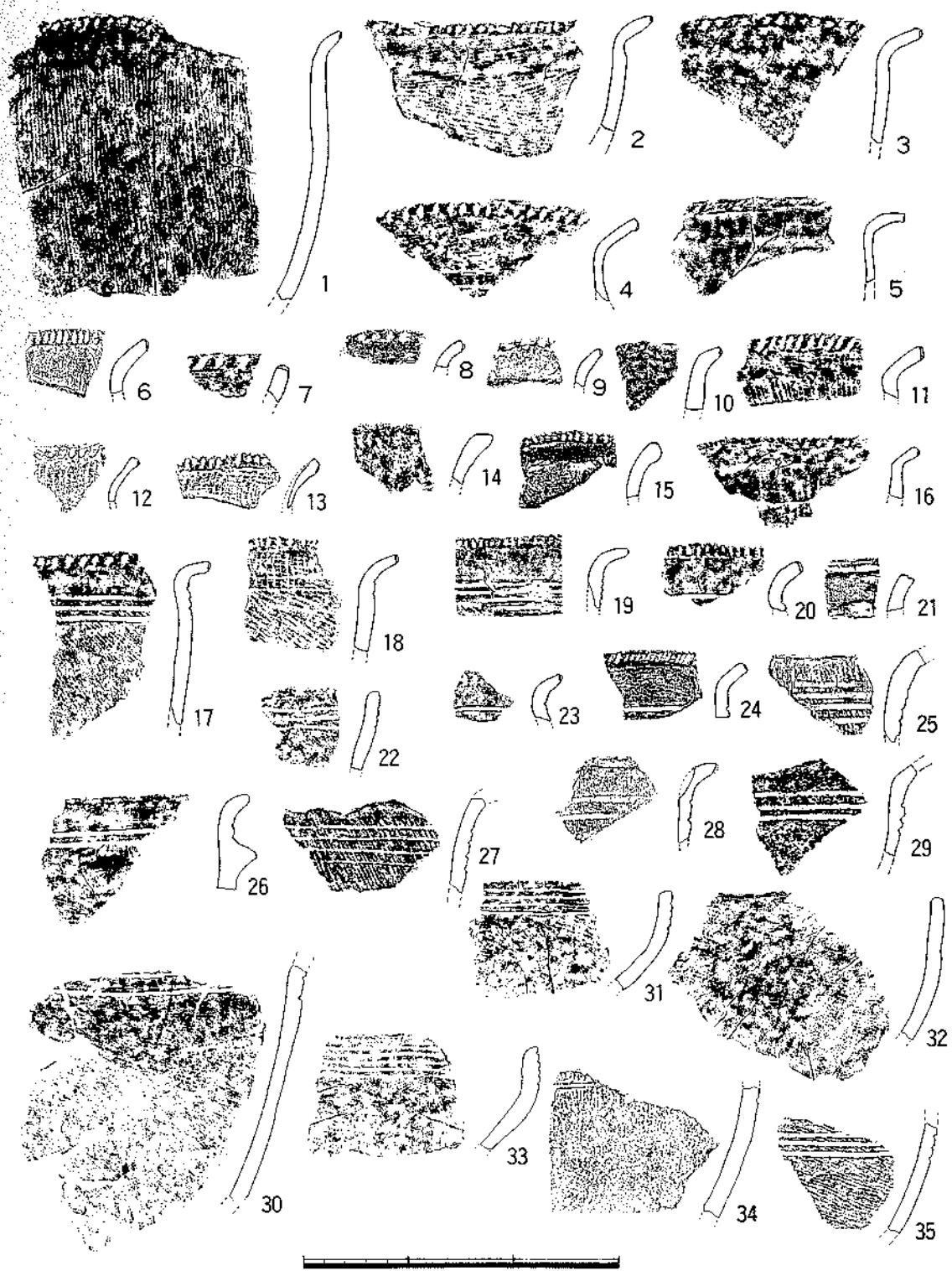
SD03 出土土器片拓影



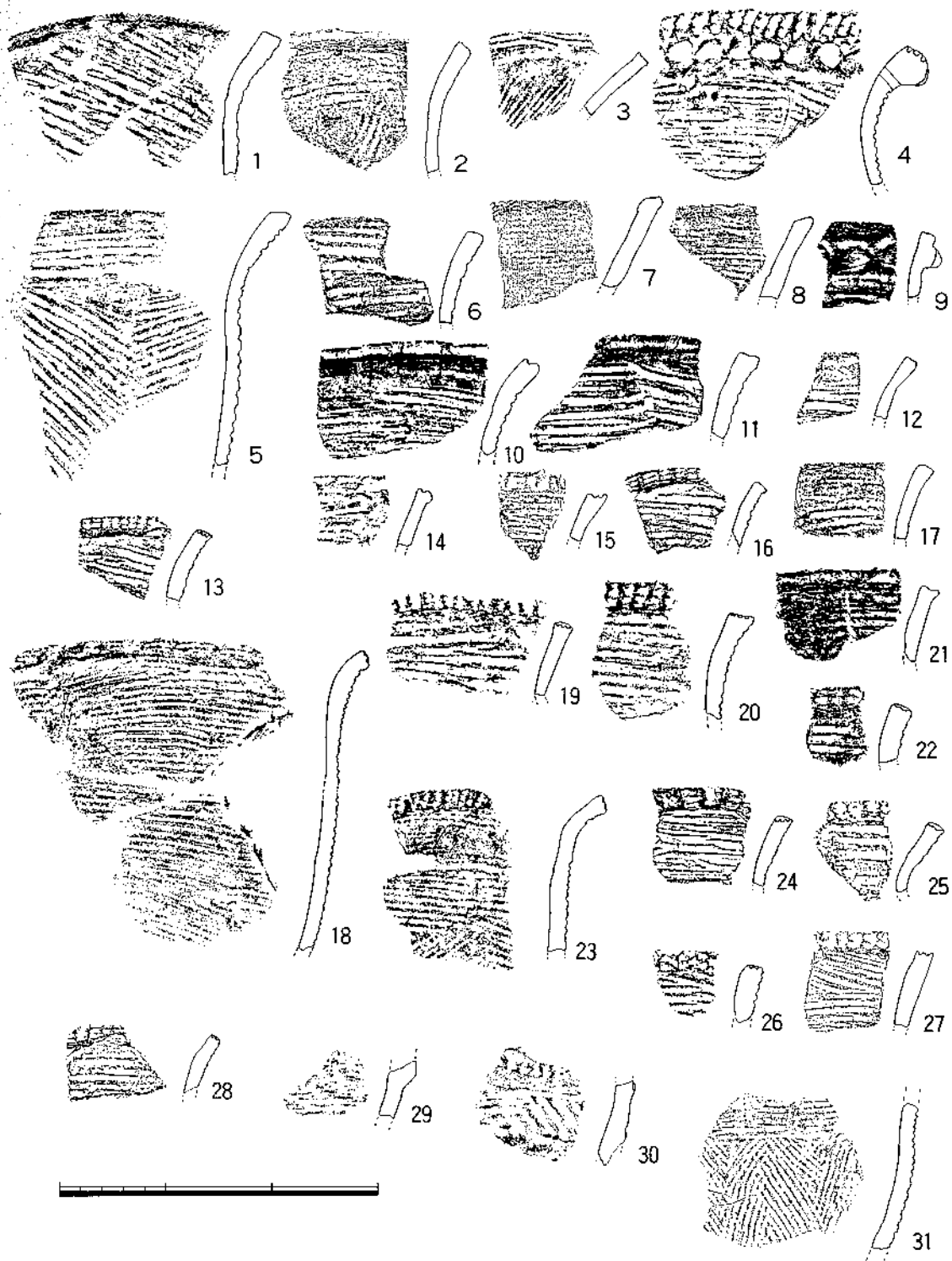
SD03 出土土器片拓影



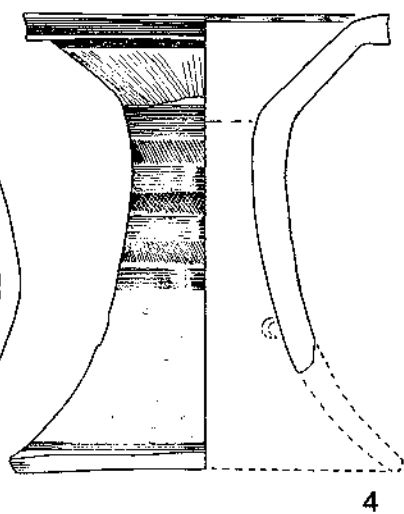
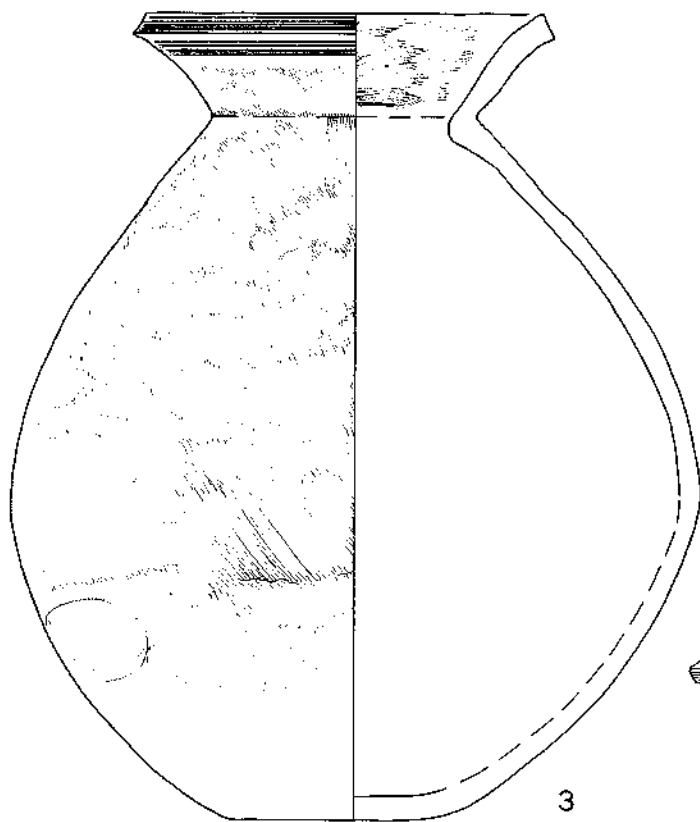
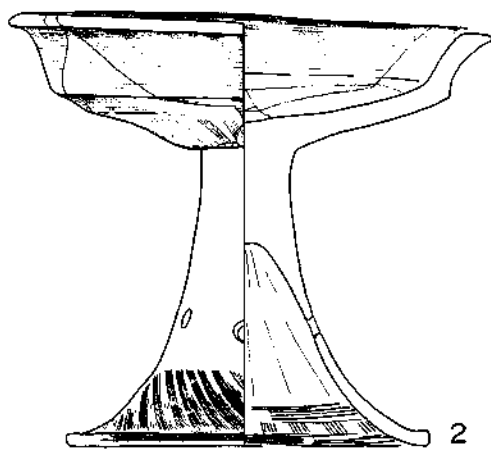
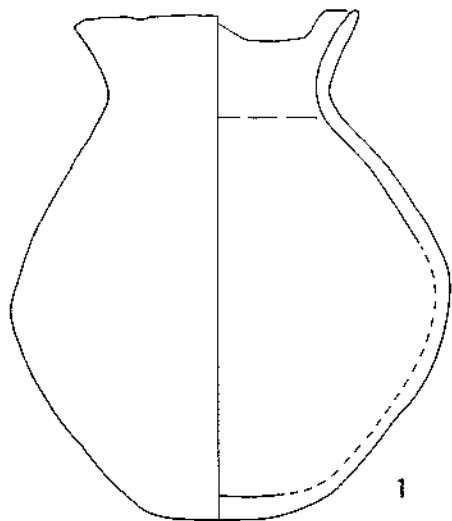
SD03 出土土器片拓影

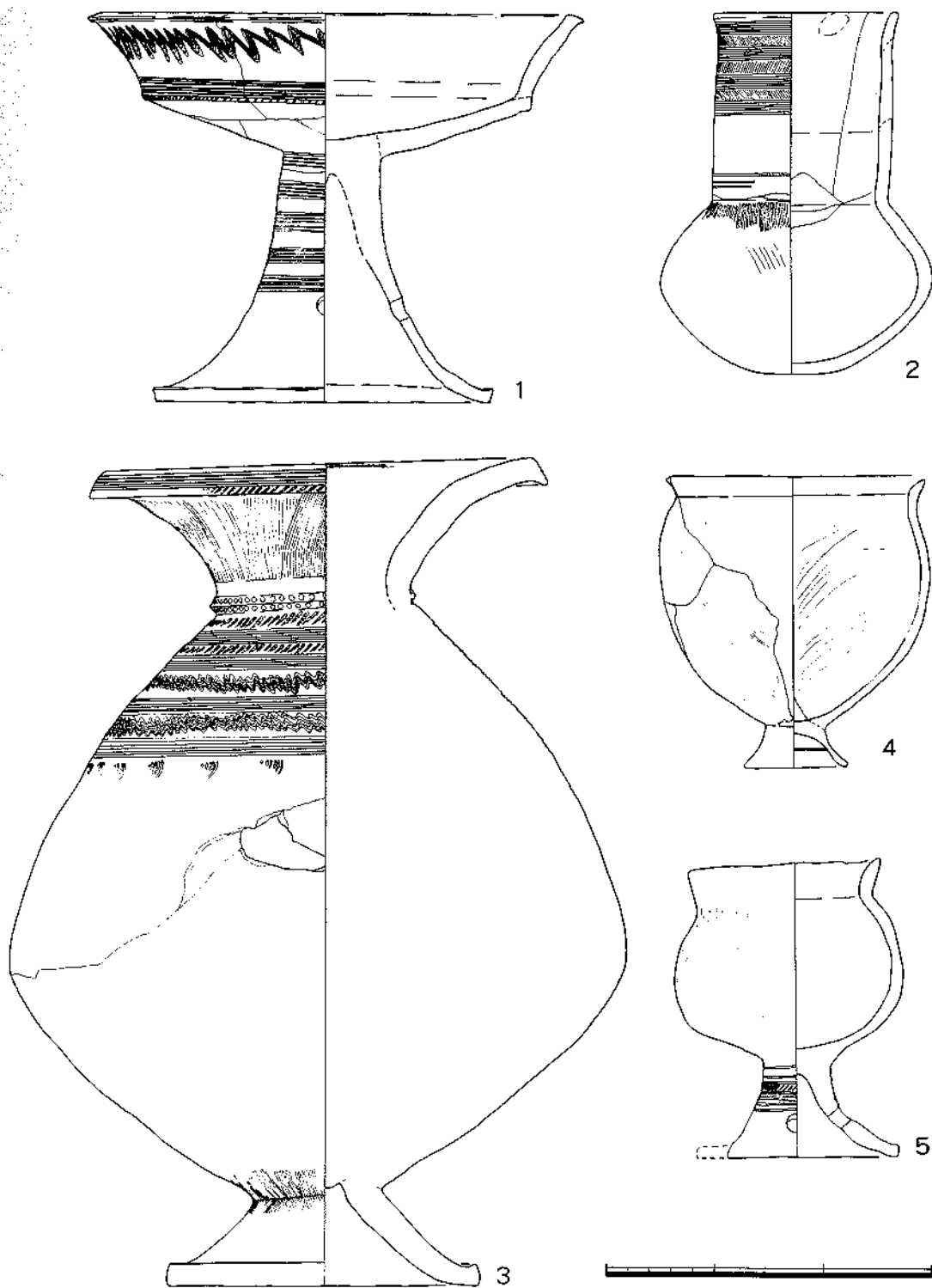


SD03 出土土器片拓影



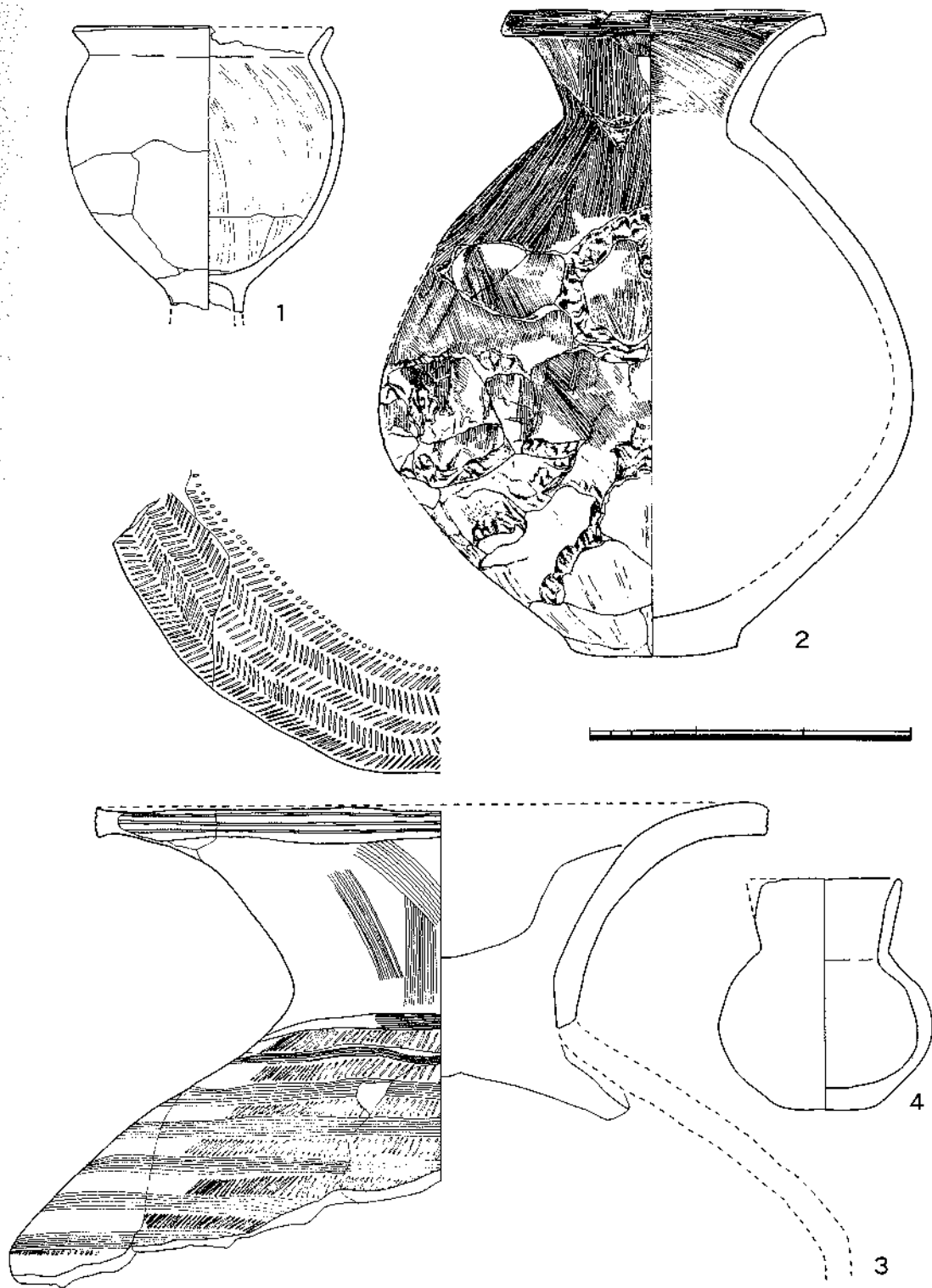
SD03 出土土器片拓影



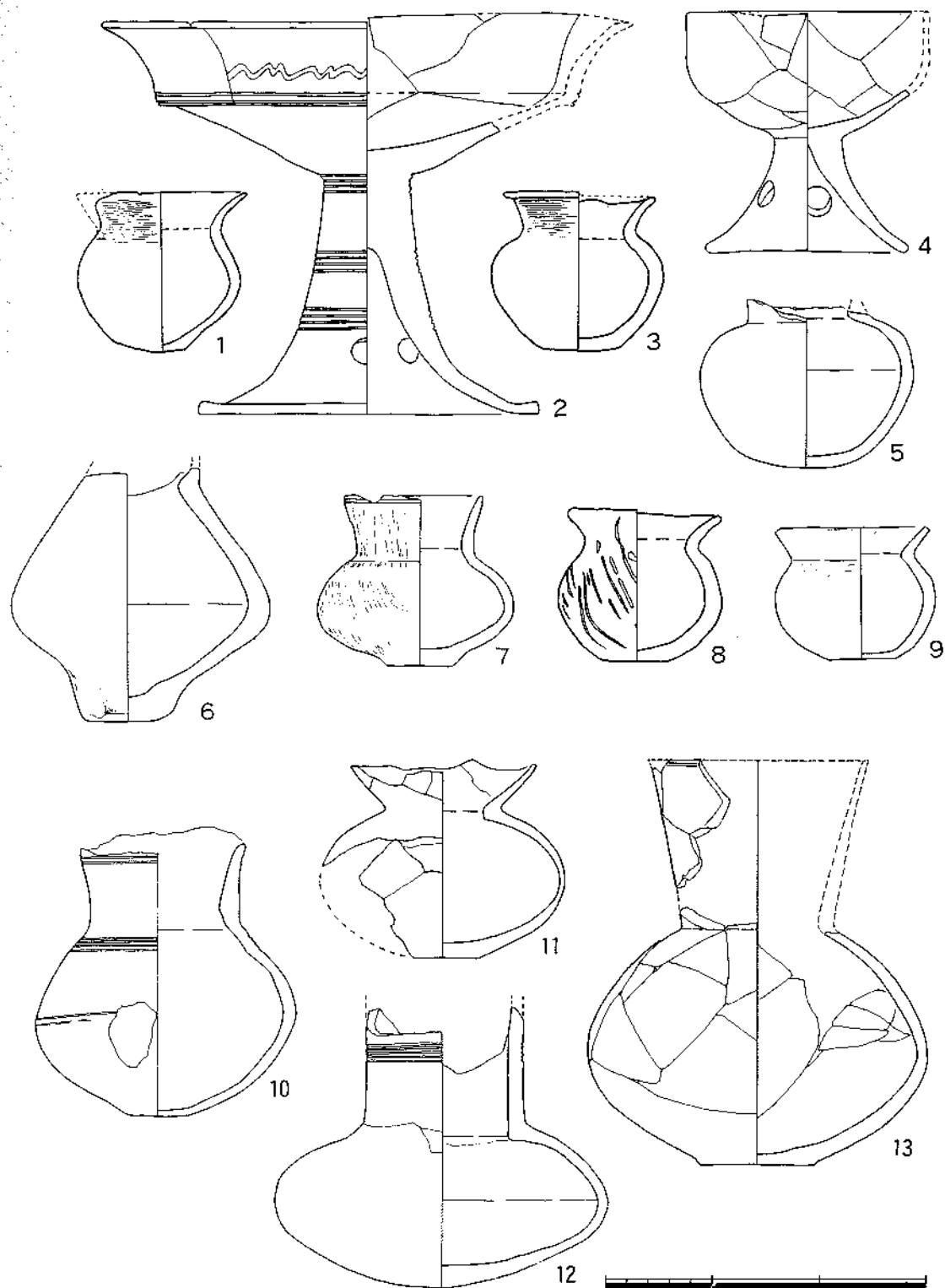


SD04 出土土器実測図

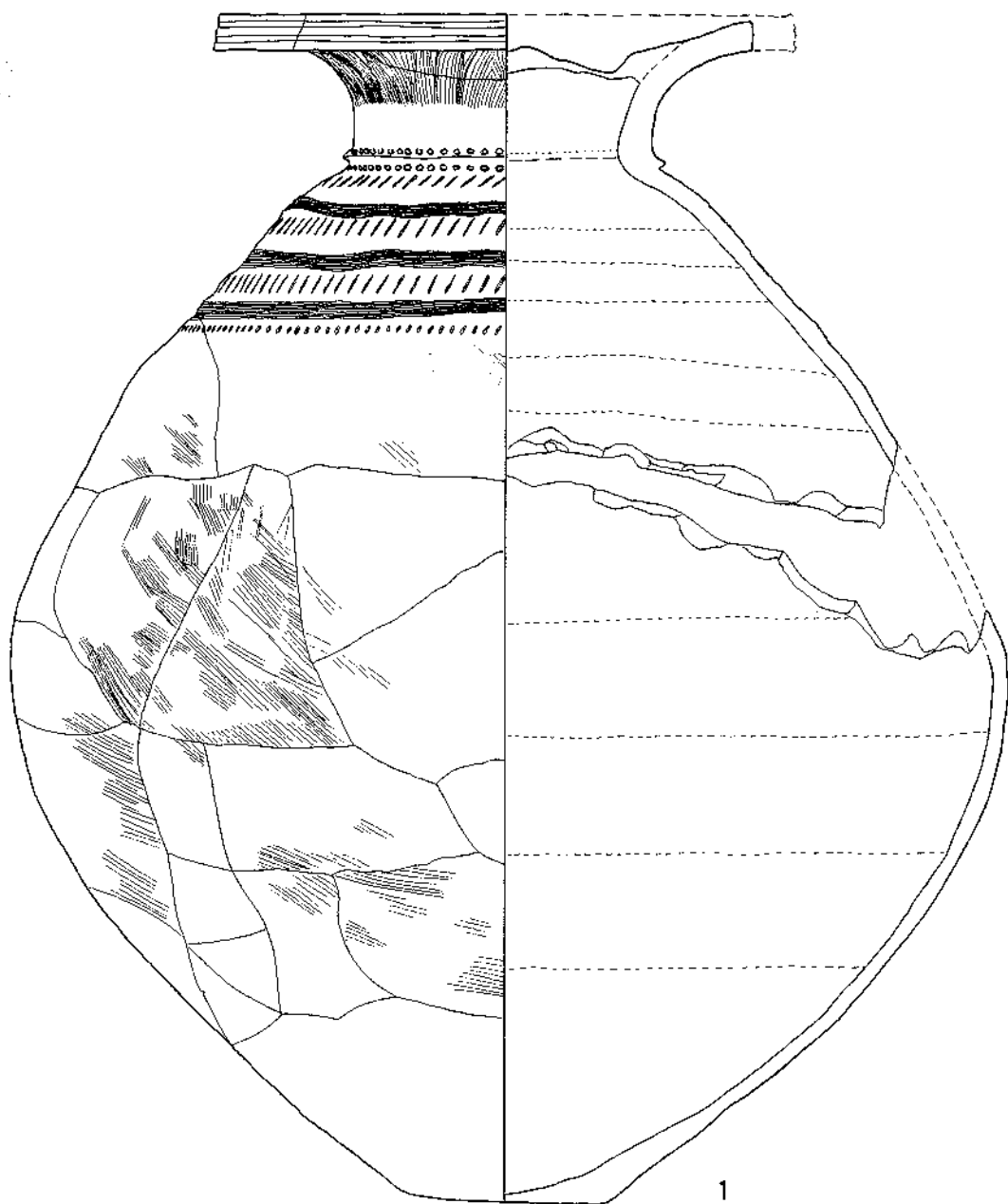




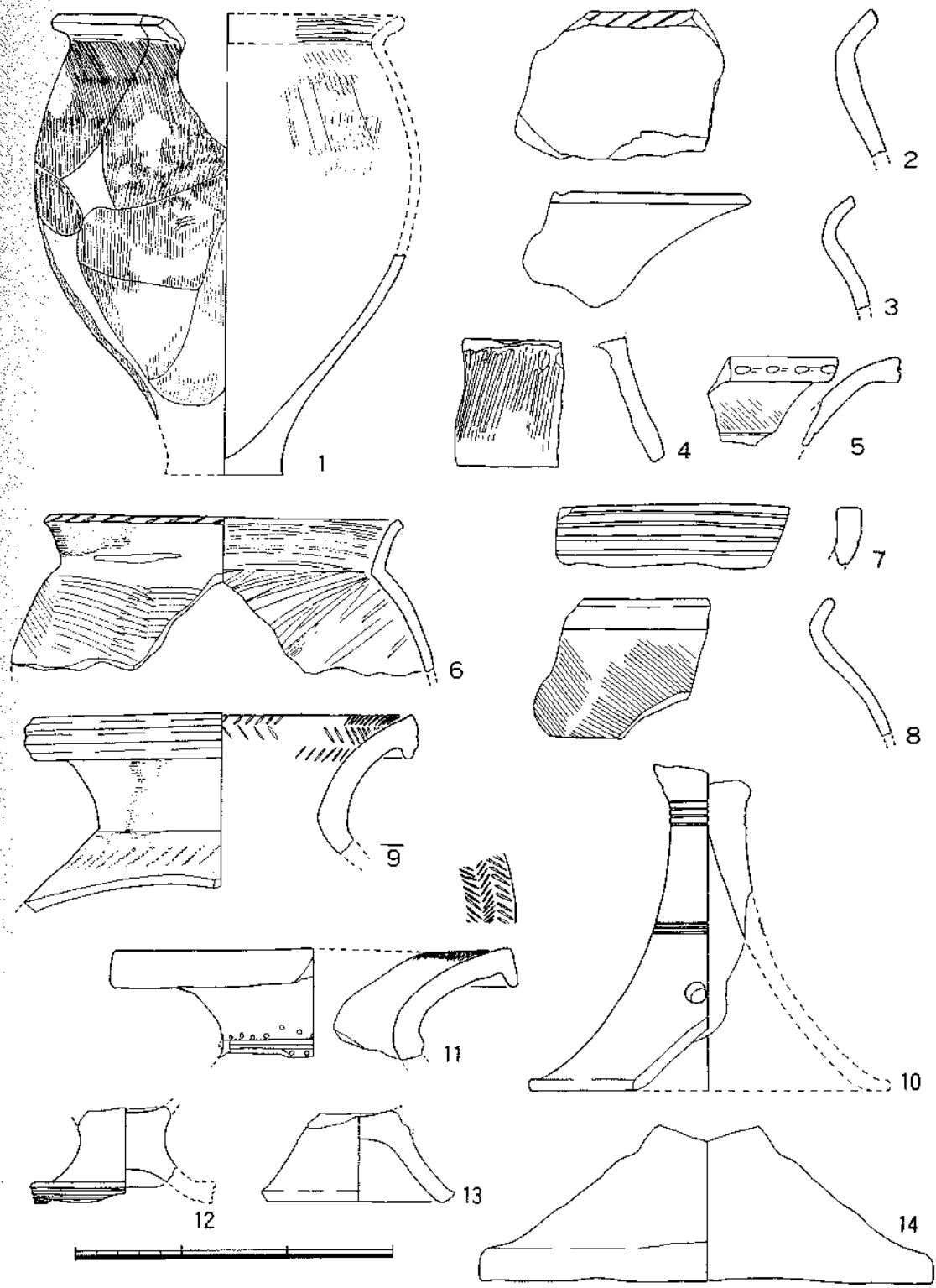
SD04 出土土器実測図



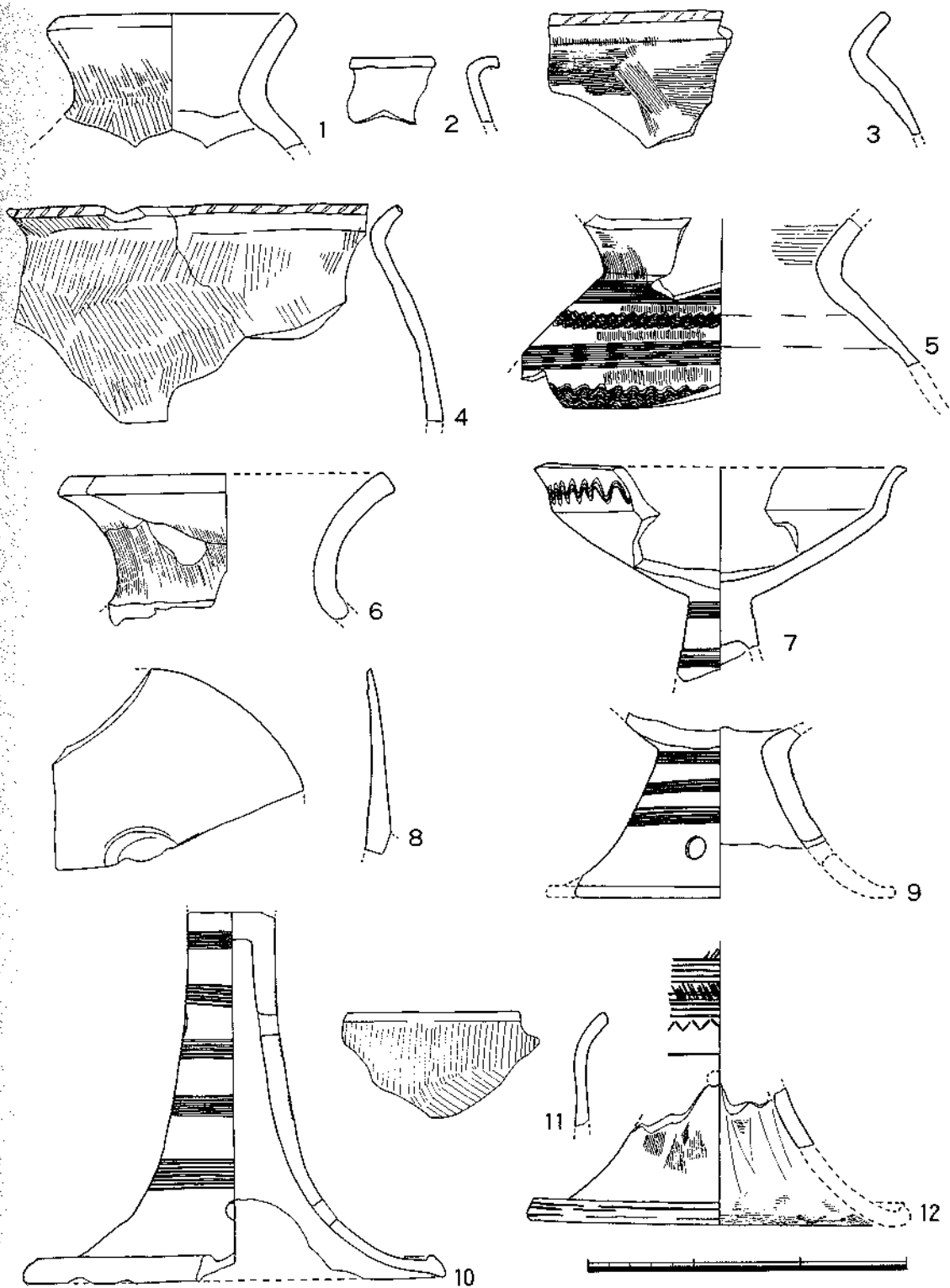
SD04 出土土器実測図



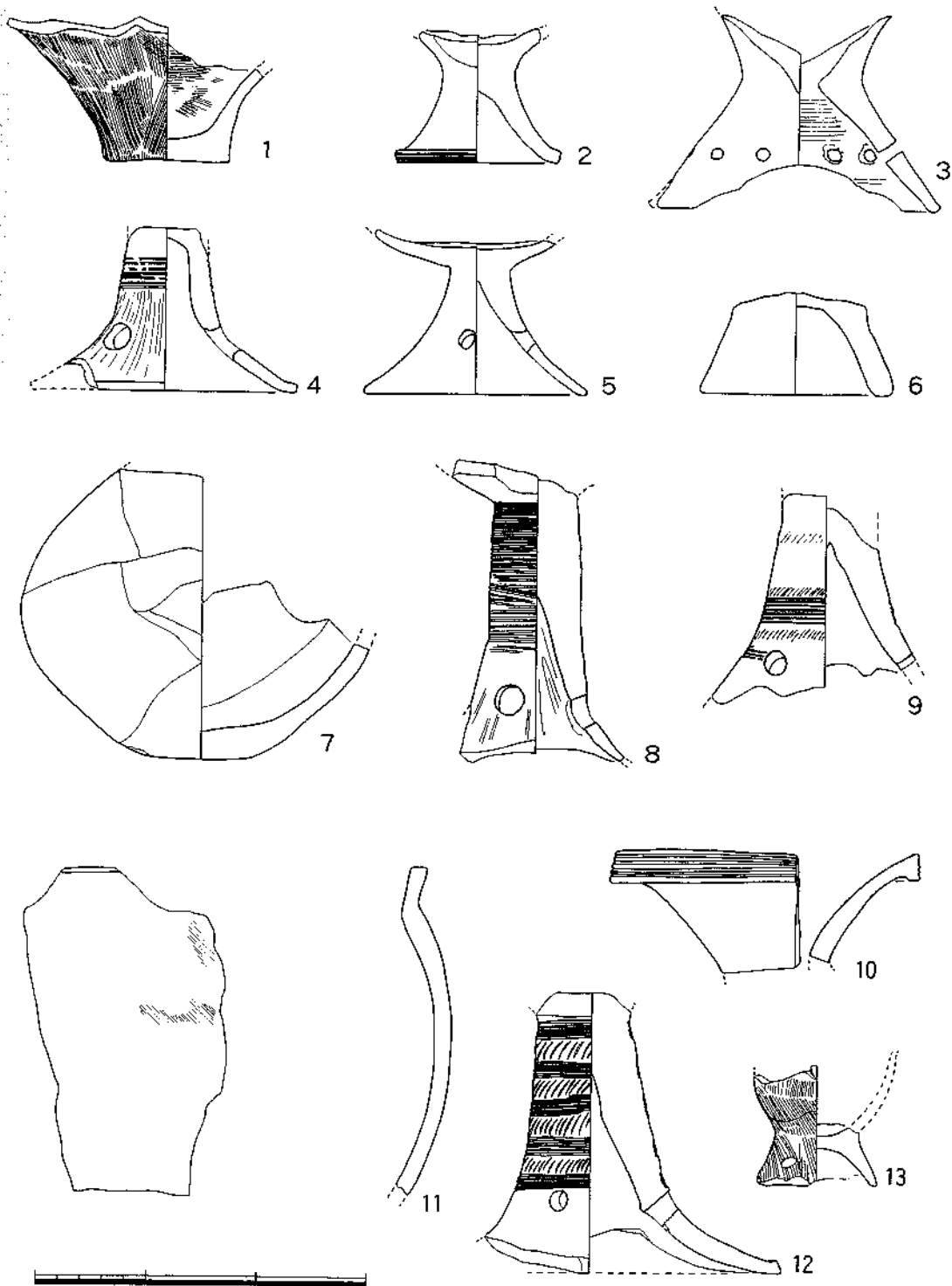
SD04 出土土器実測図

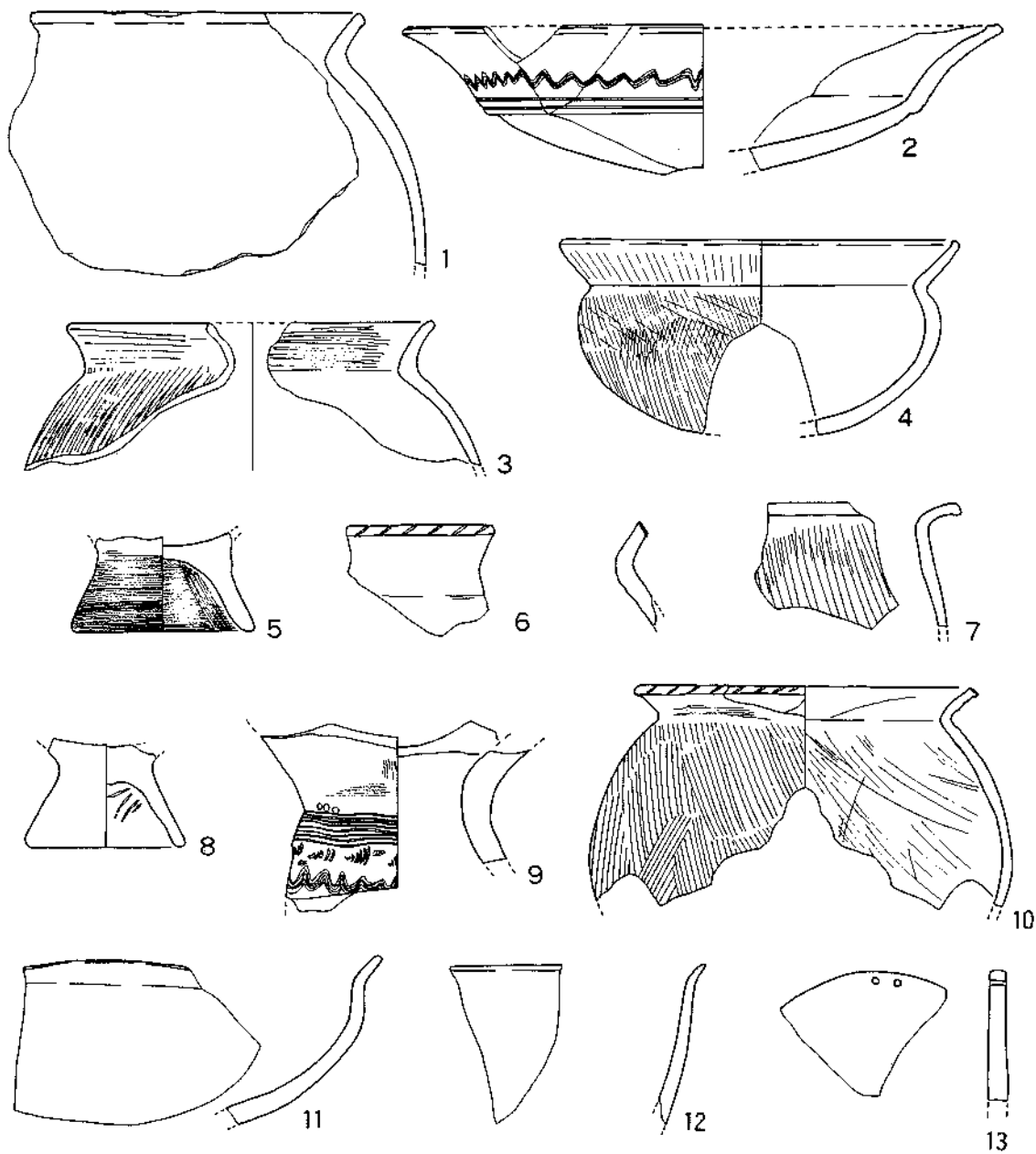


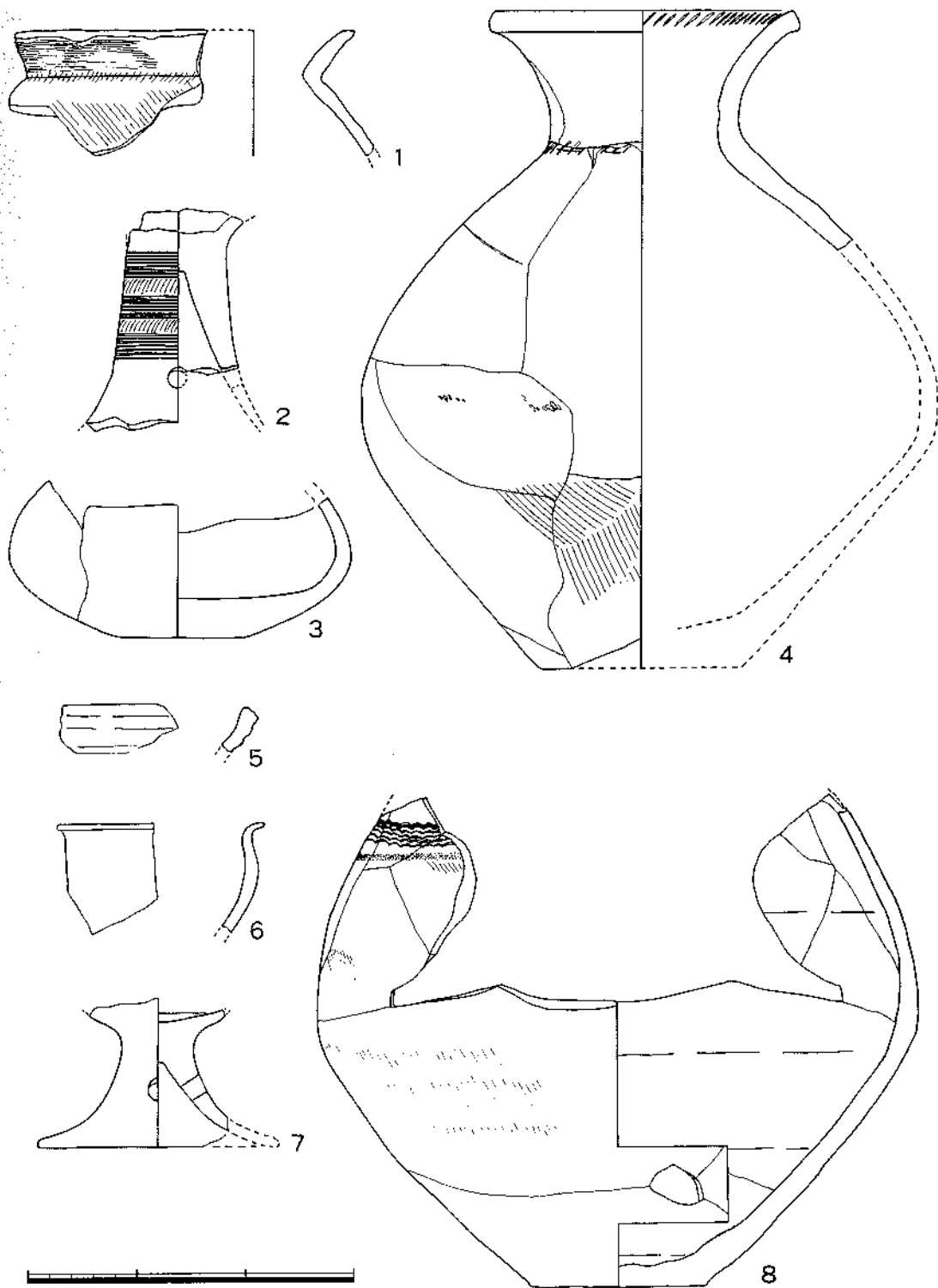
SD04 出土土器实测图



SD04 出土土器実測図

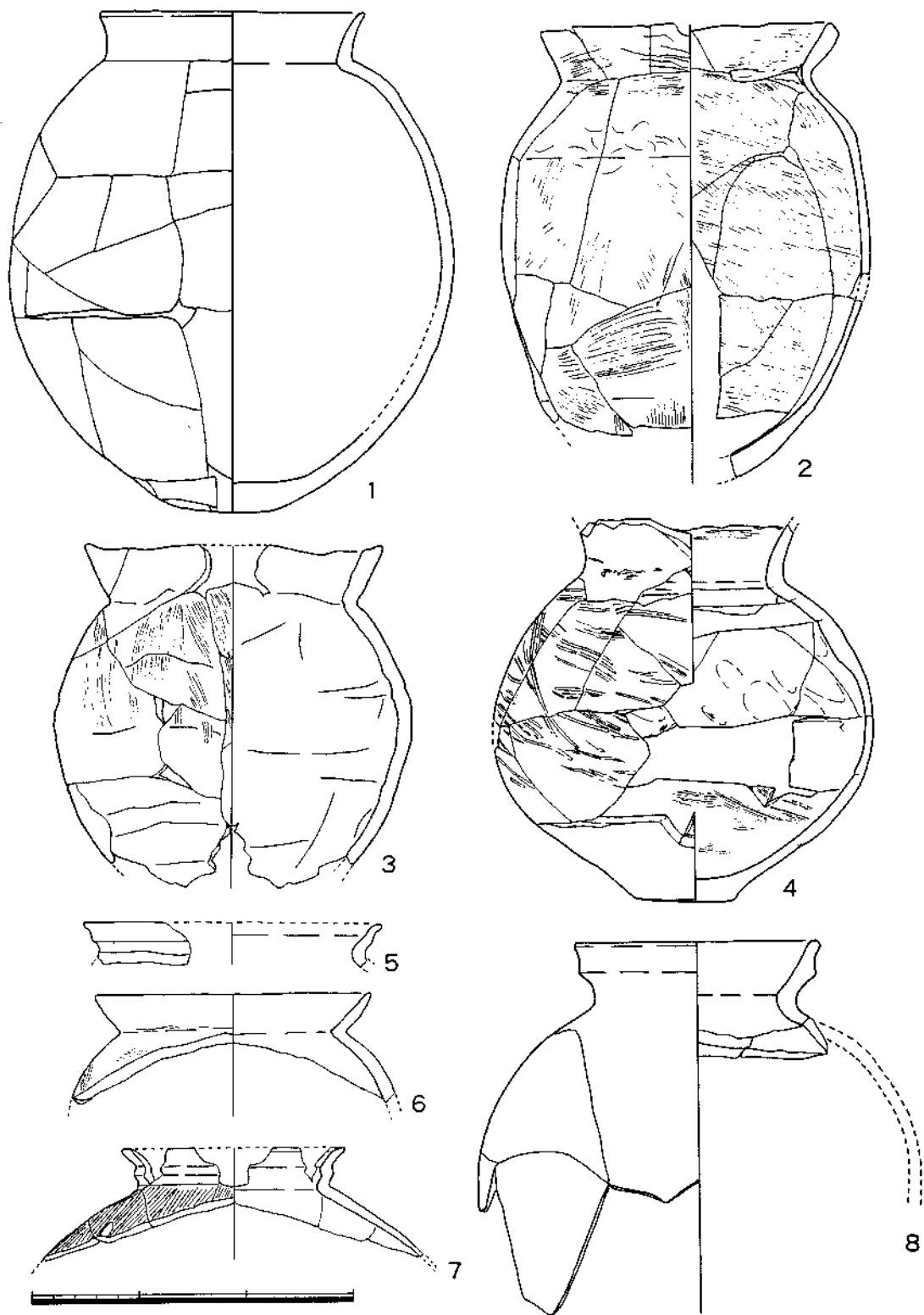




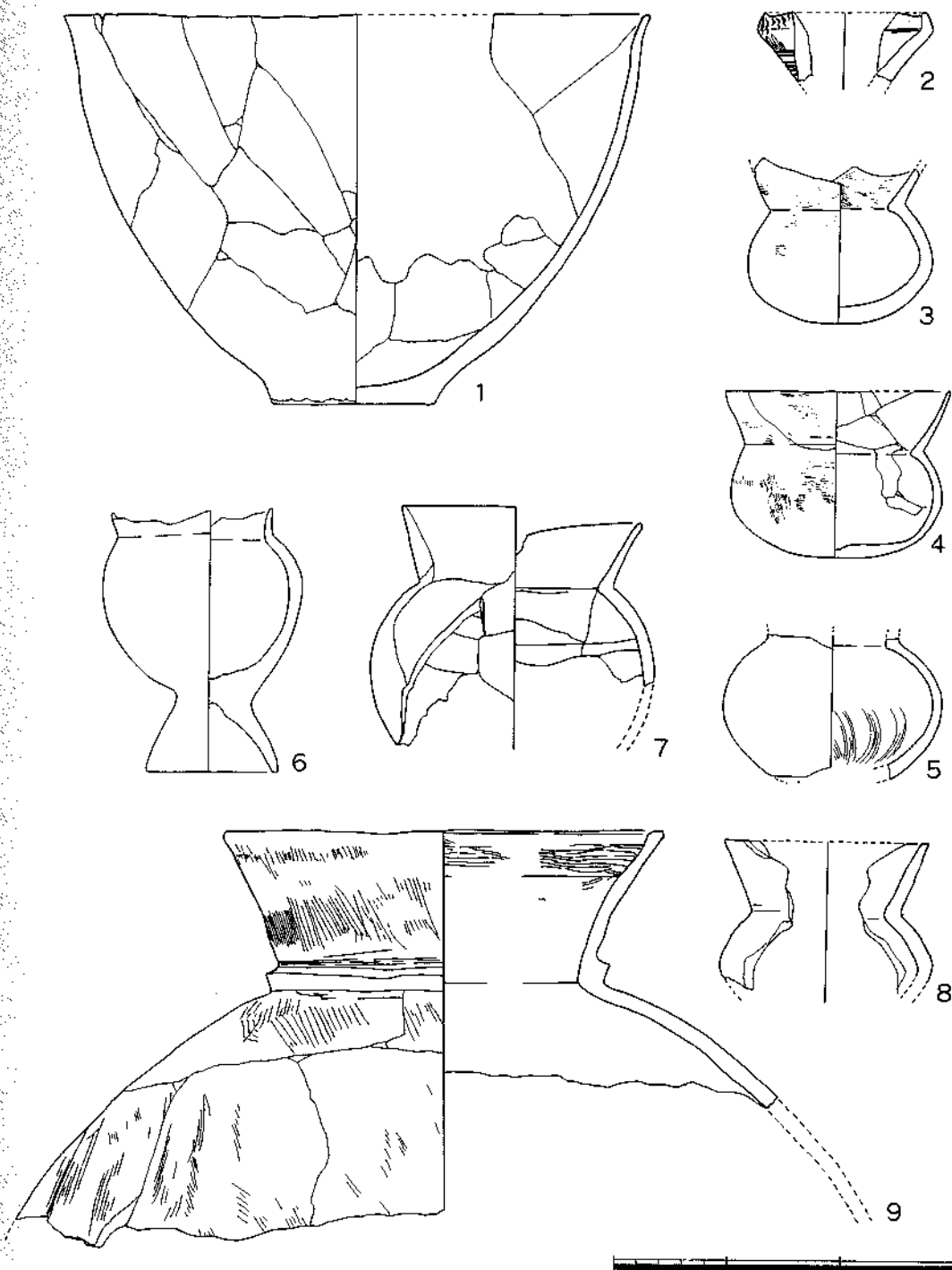


SD04 出土土器実測図

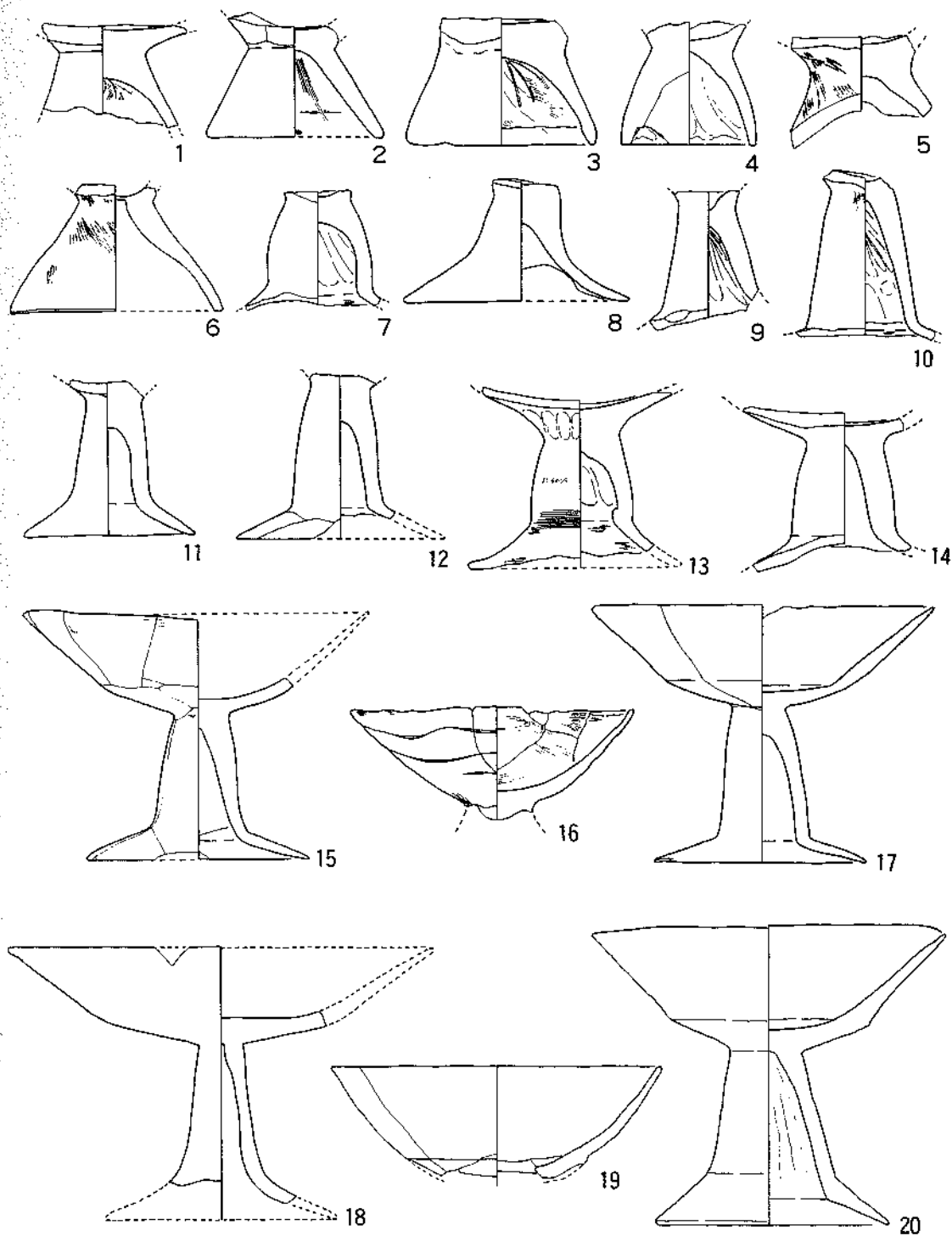




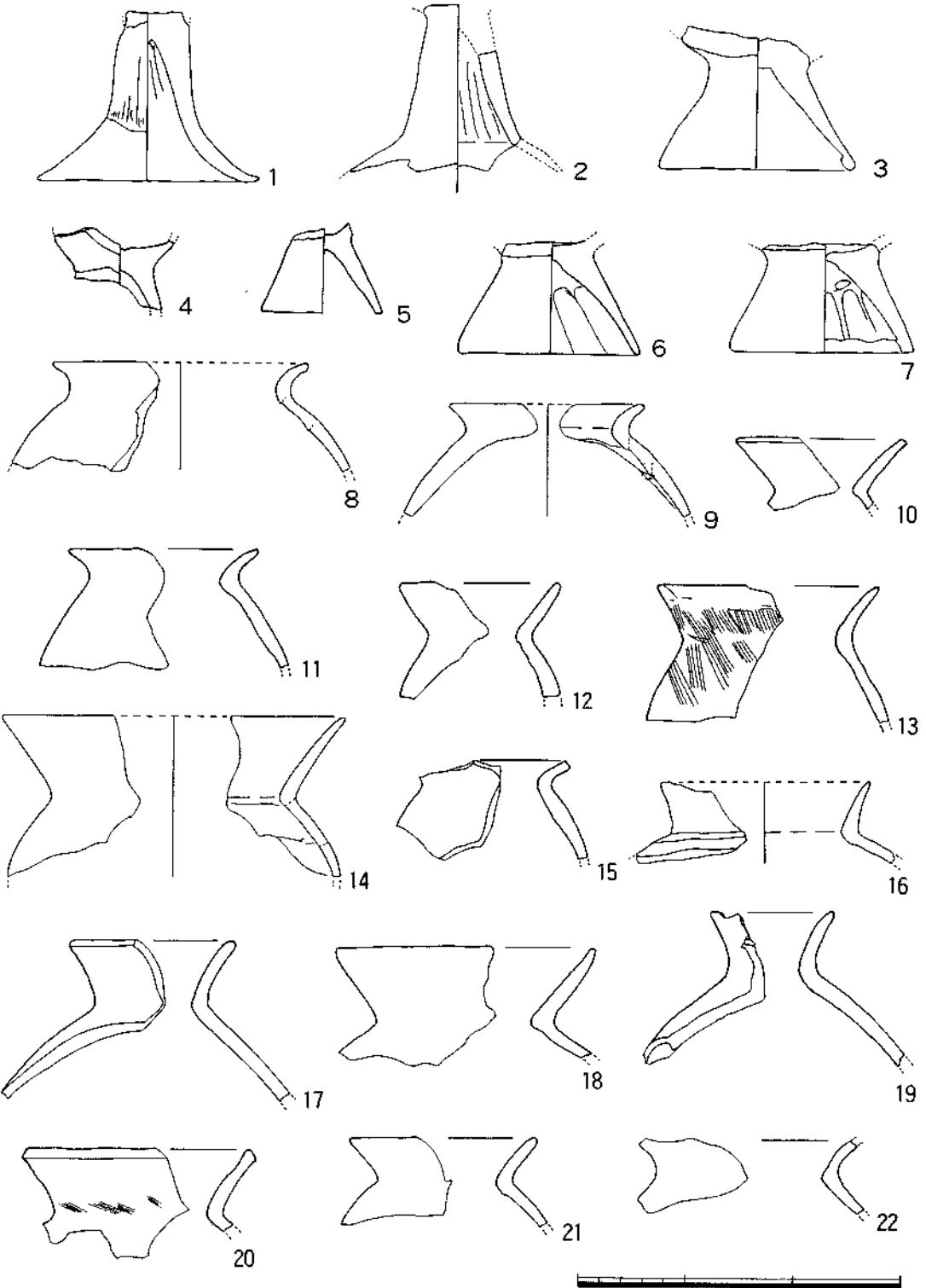
SH01 出土土器実測図



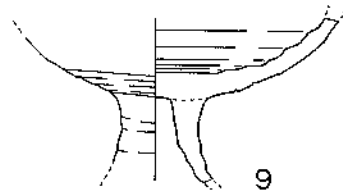
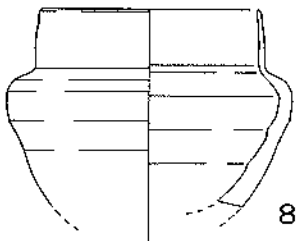
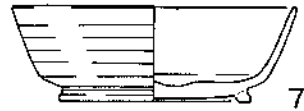
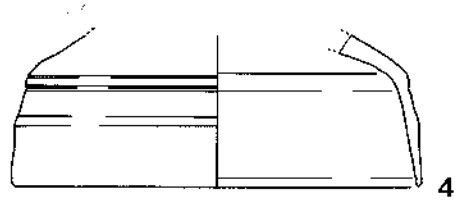
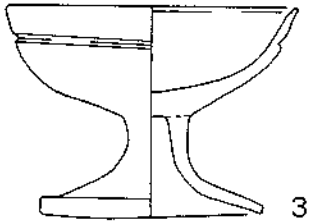
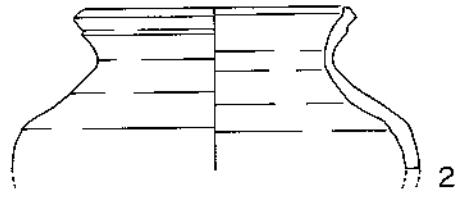
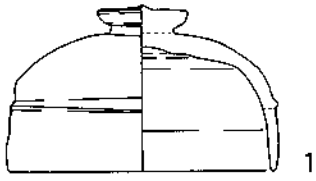
SH01 出土土器実測図

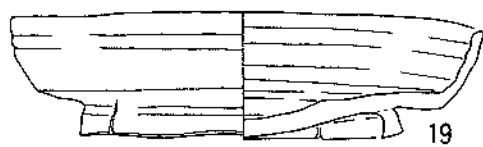
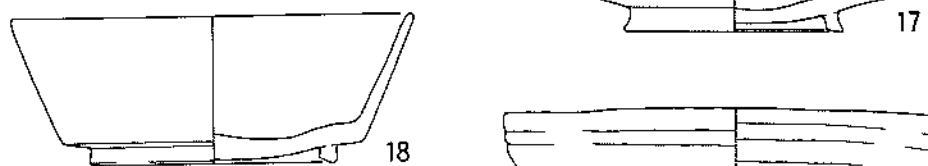
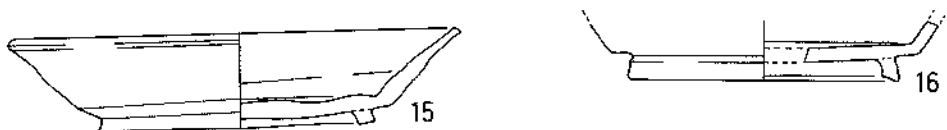
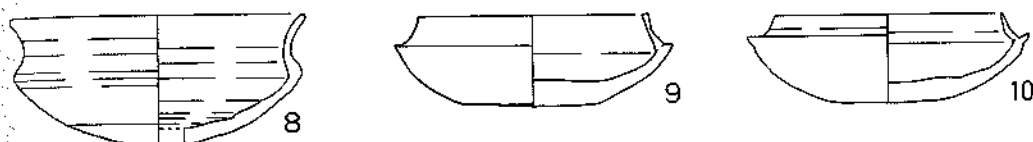
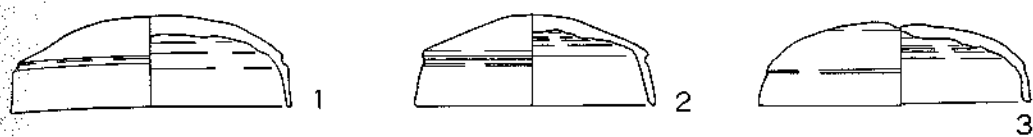


SH01 出土土器実測図

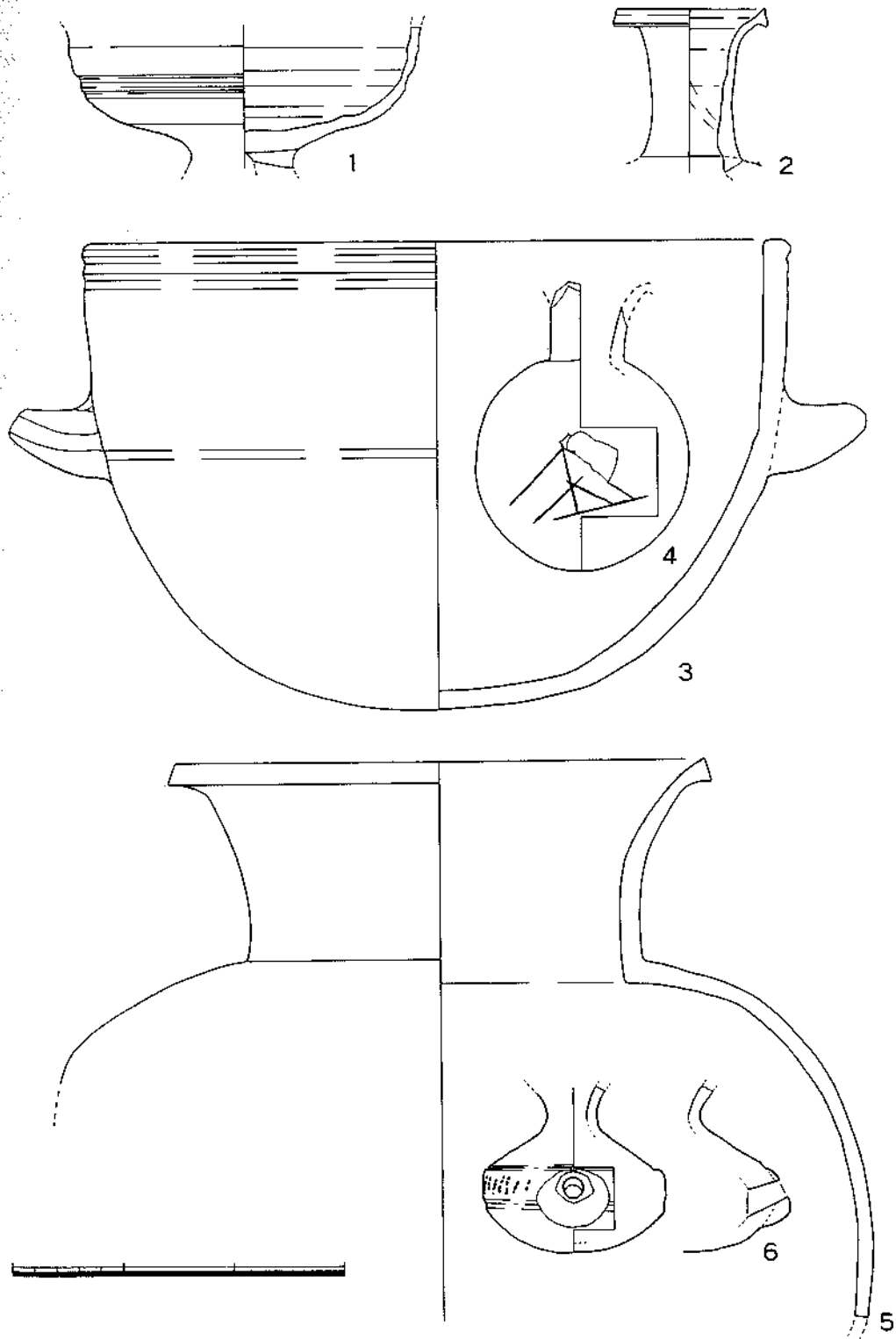


SH01 出土土器実測図

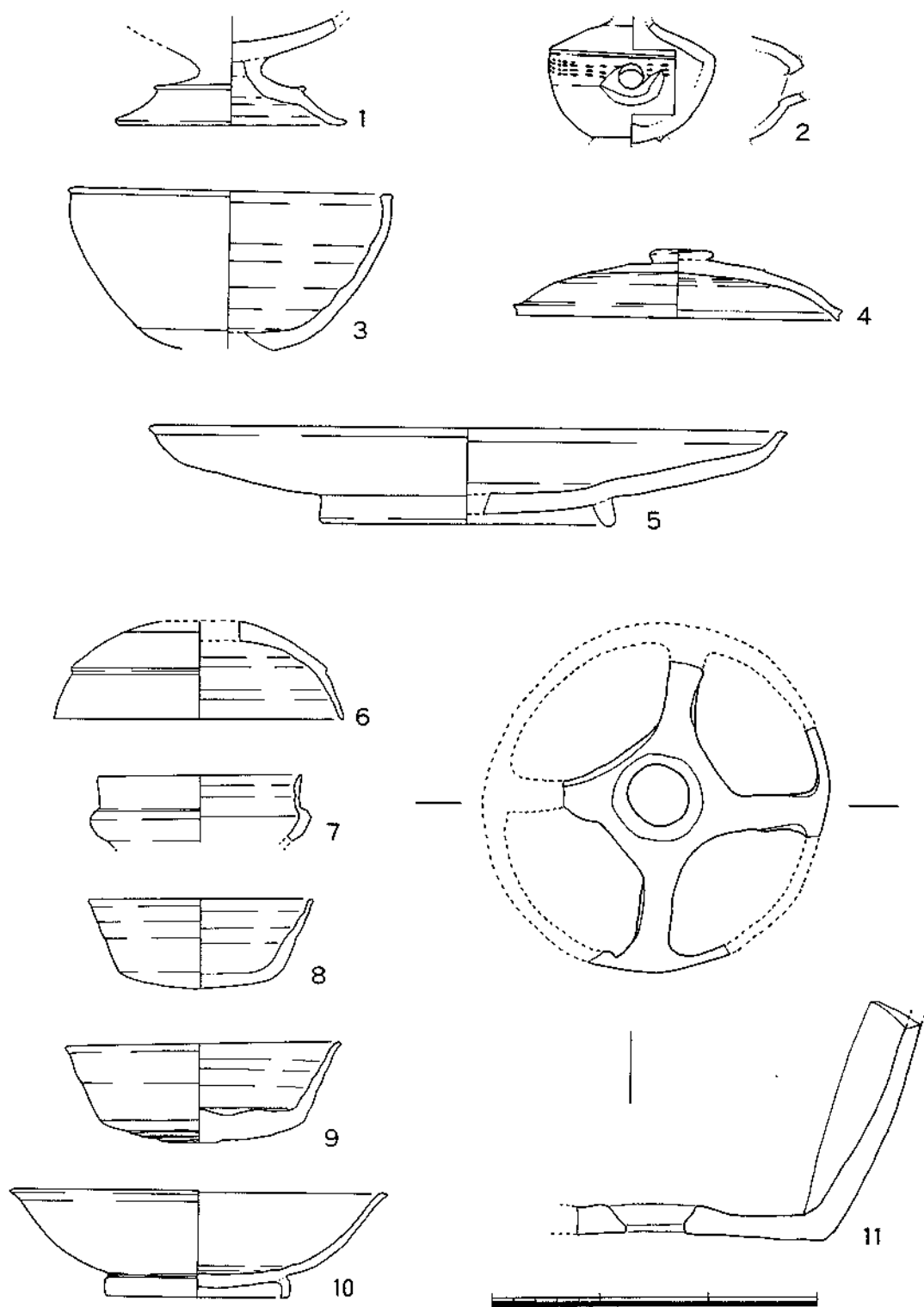




須惠器等 実測図

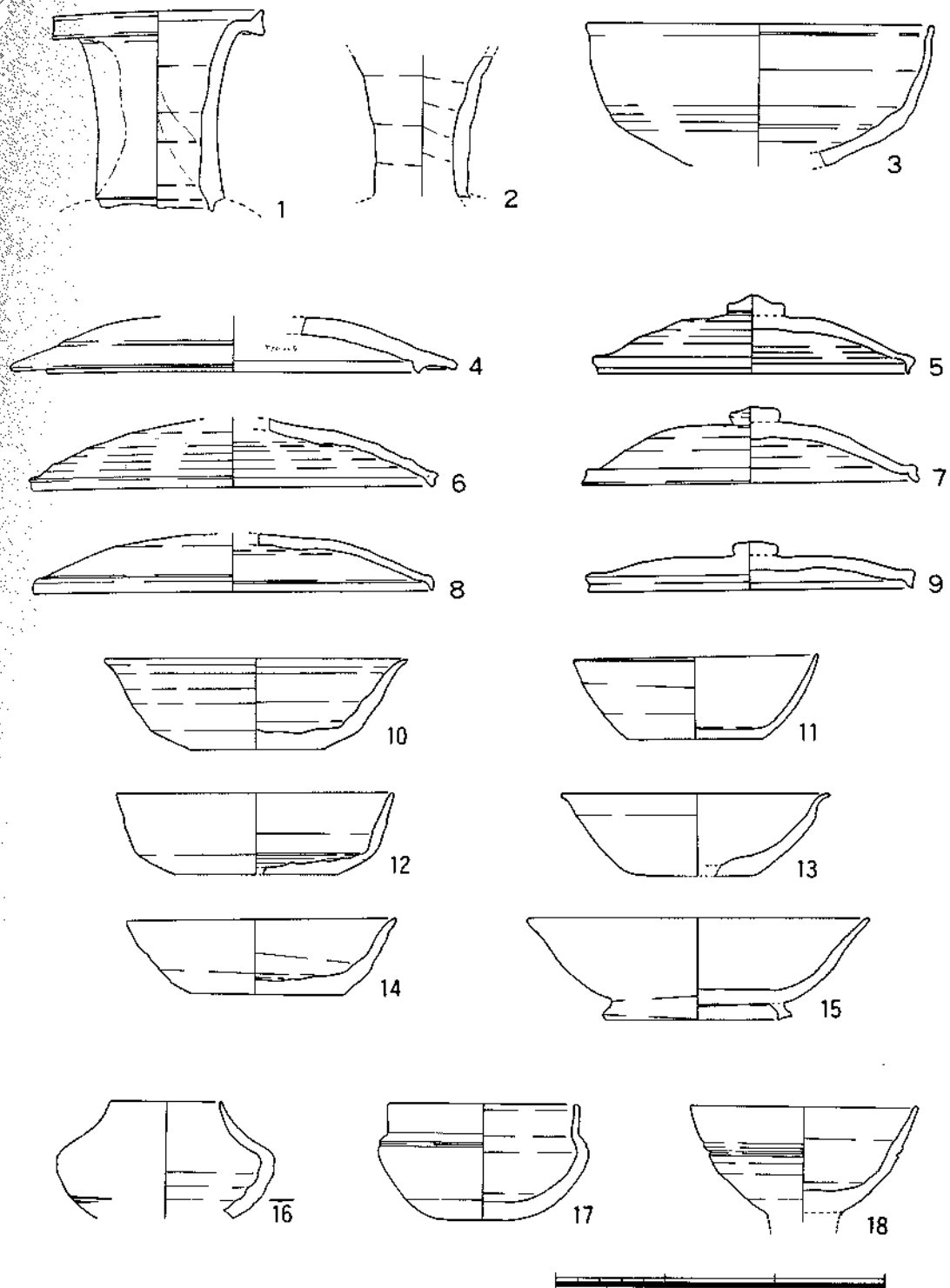


須恵器等 実測図

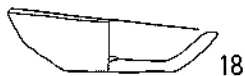
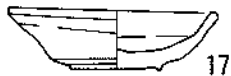
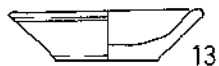
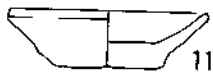
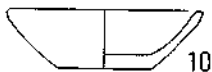
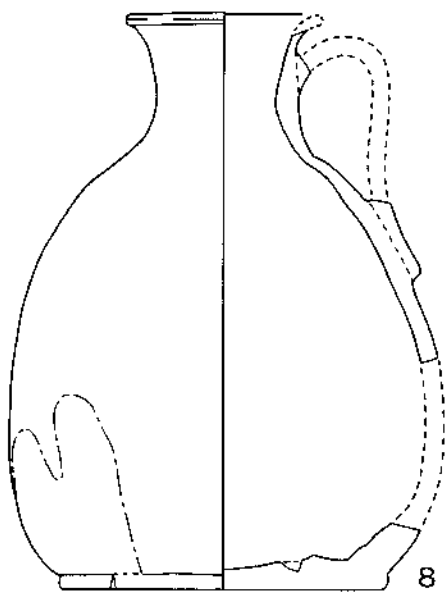
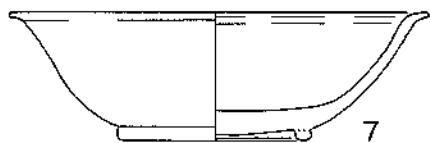
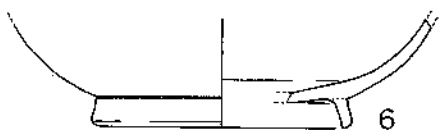
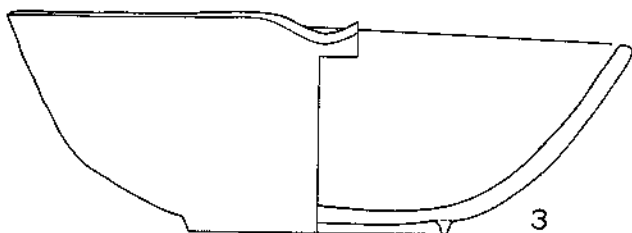
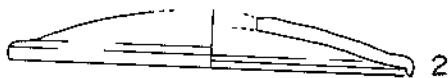
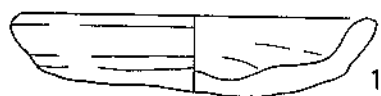


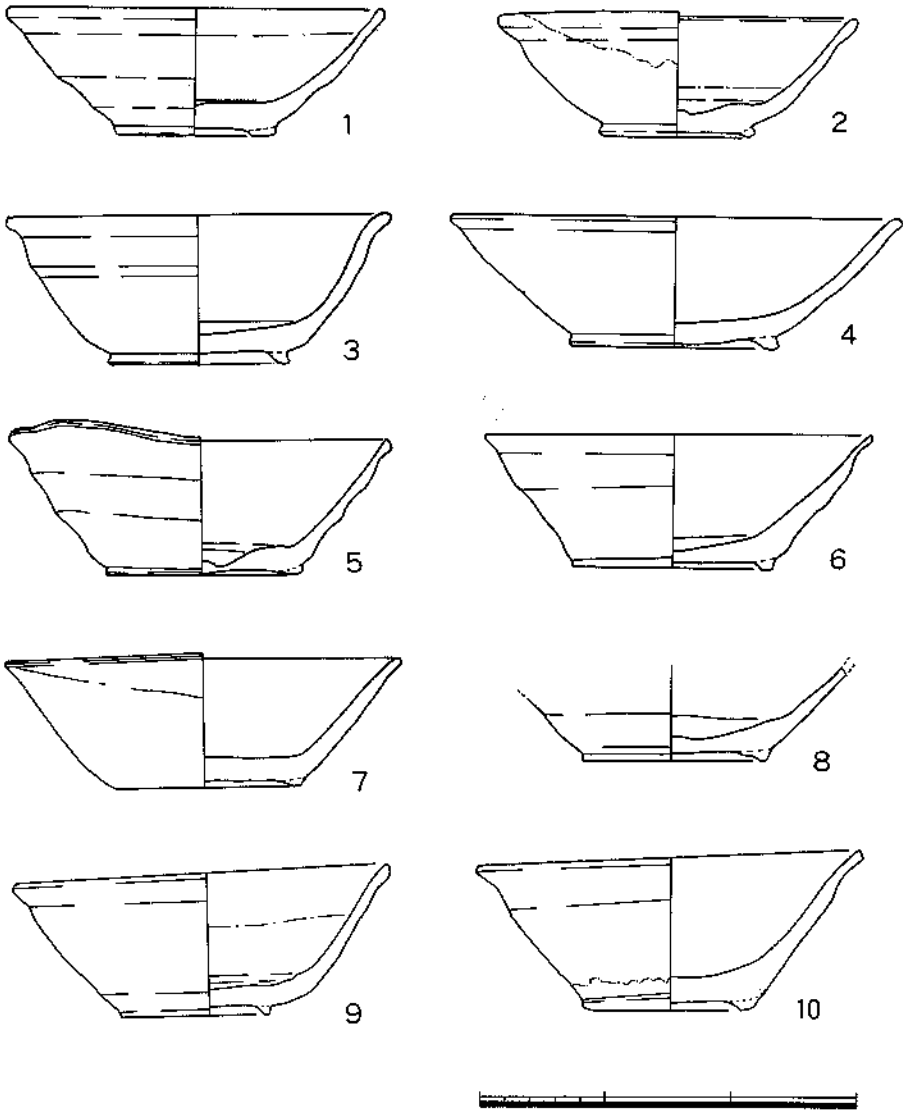
須恵器等 実測図

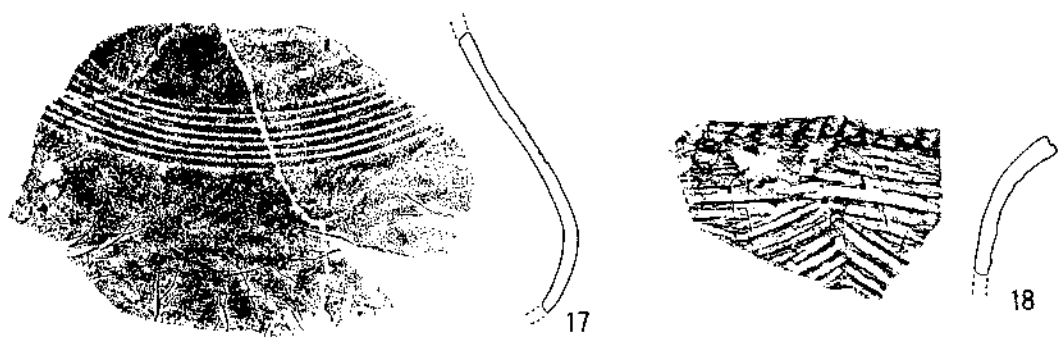
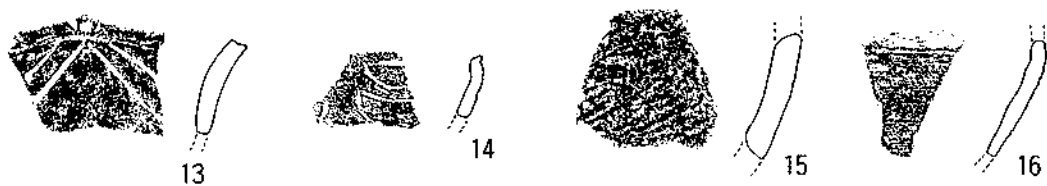
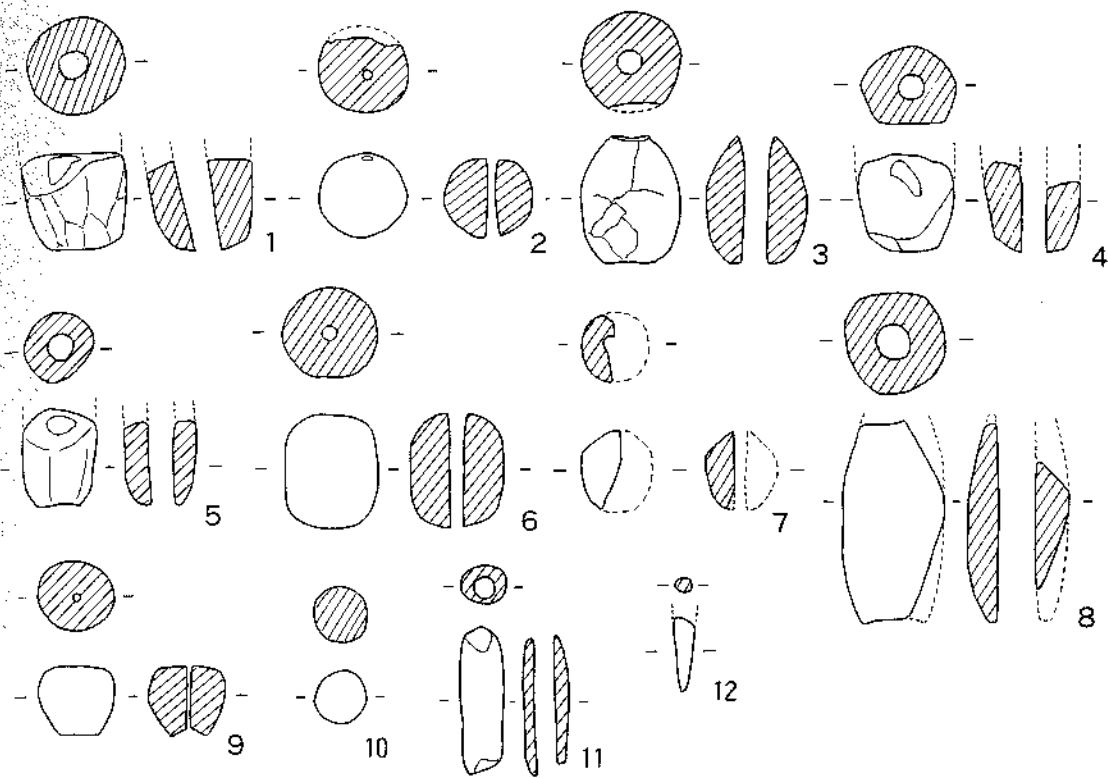


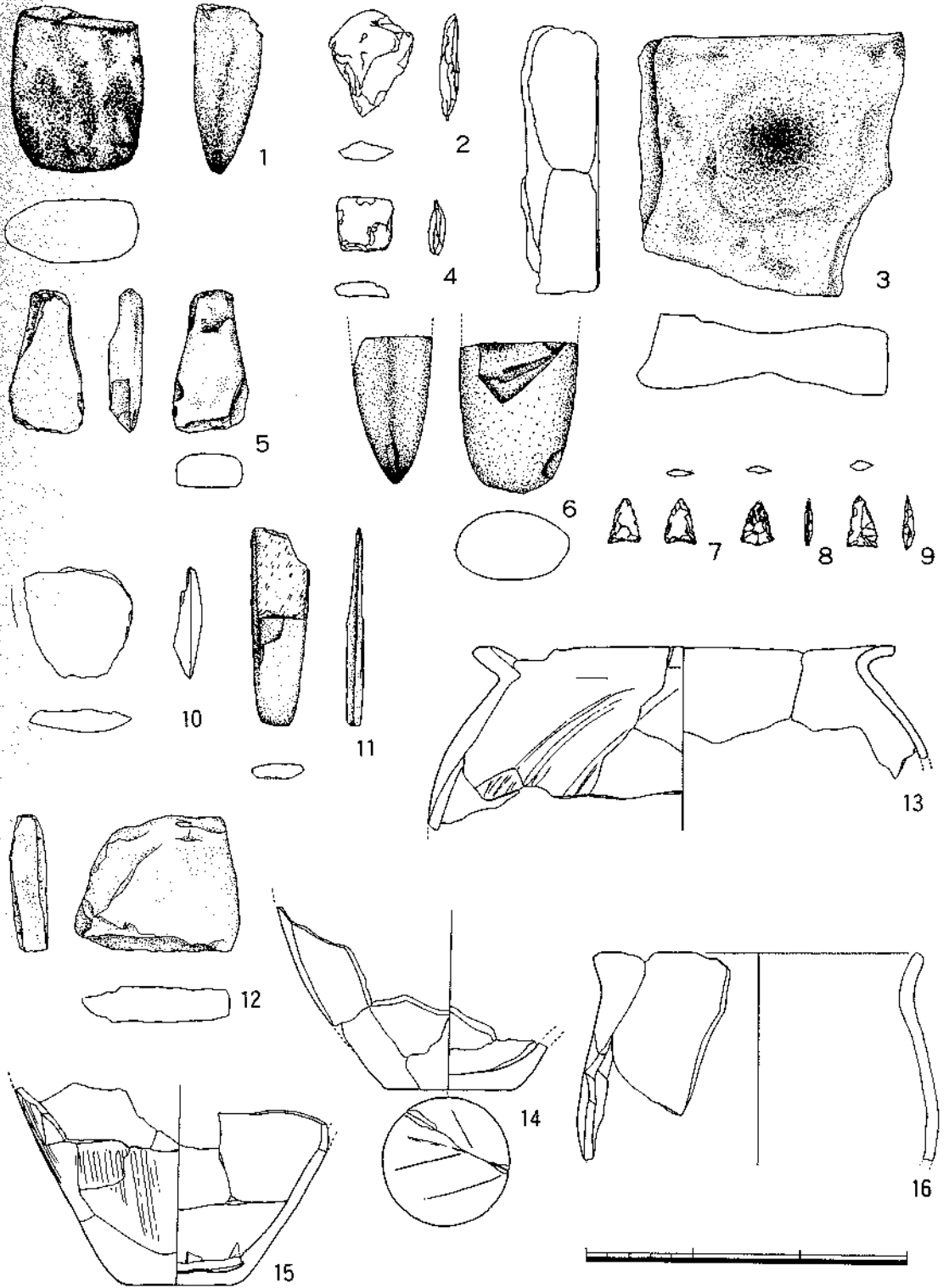


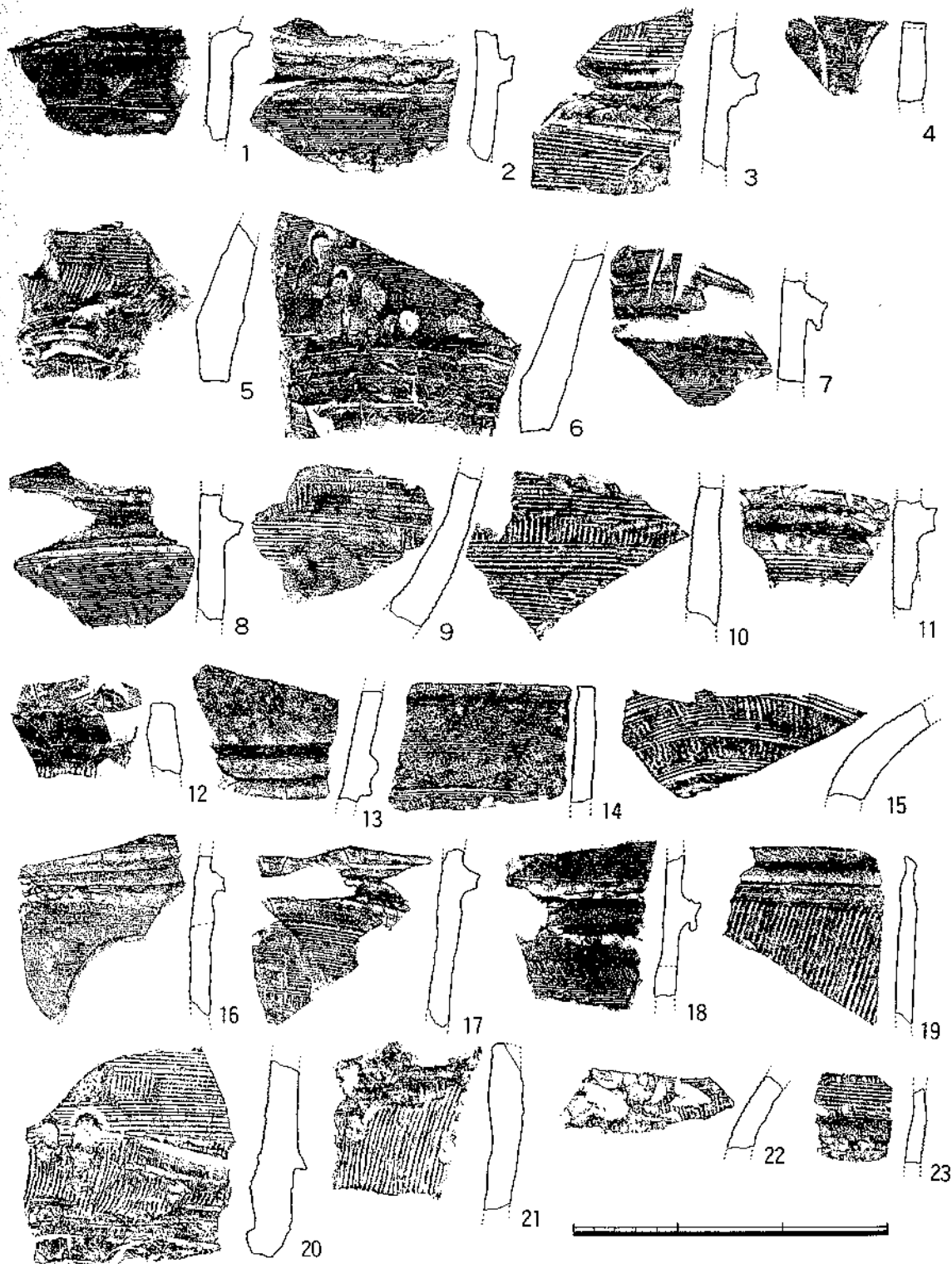
須惠器等 実測図



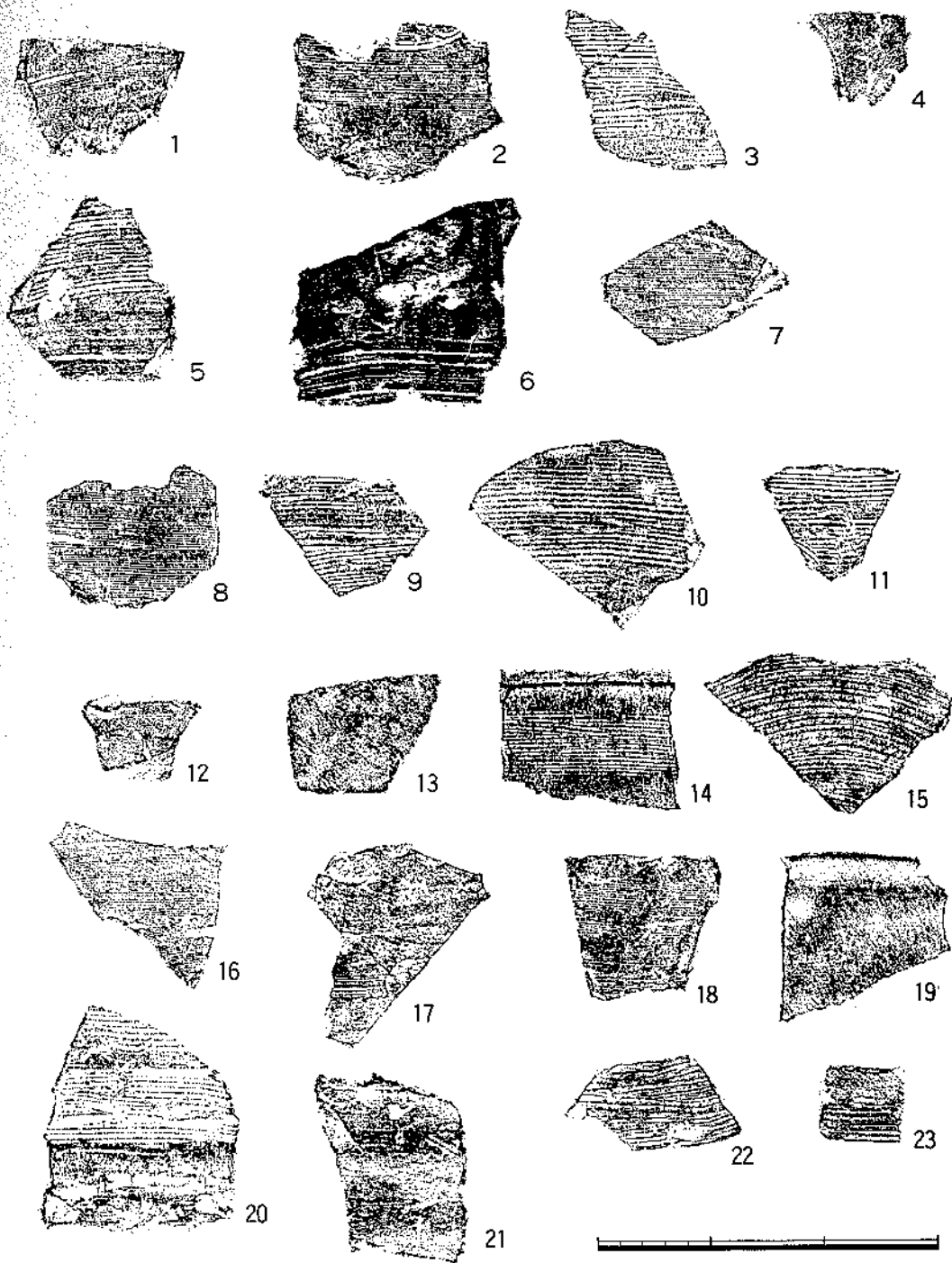




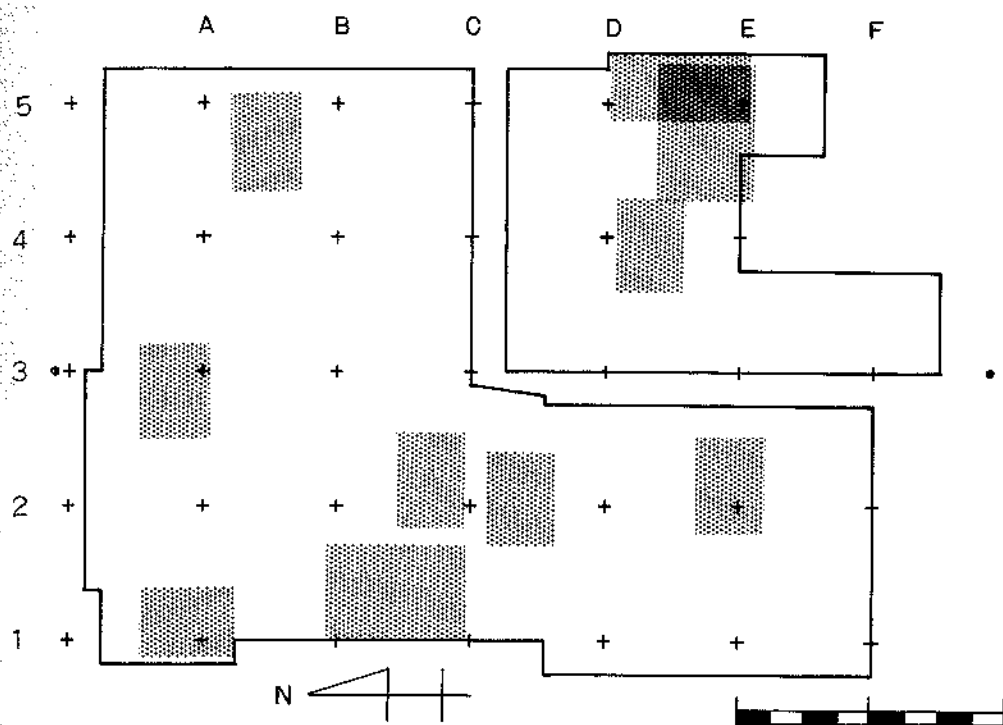




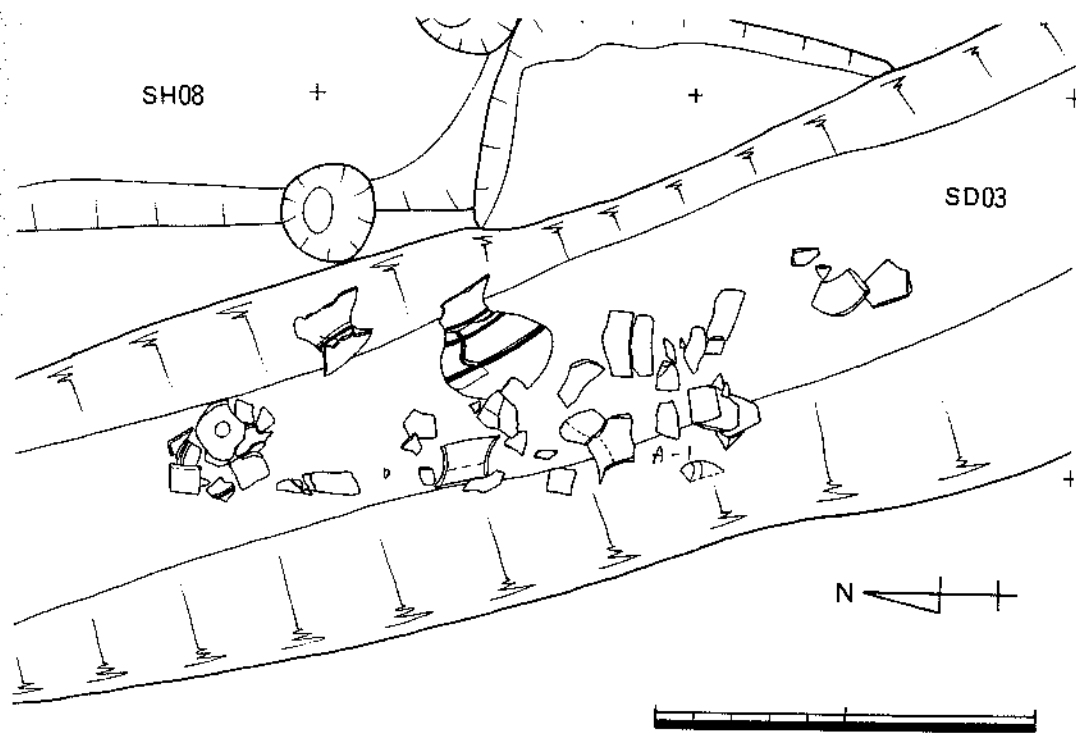
埴輪拓影



埴輪拓影(裏)

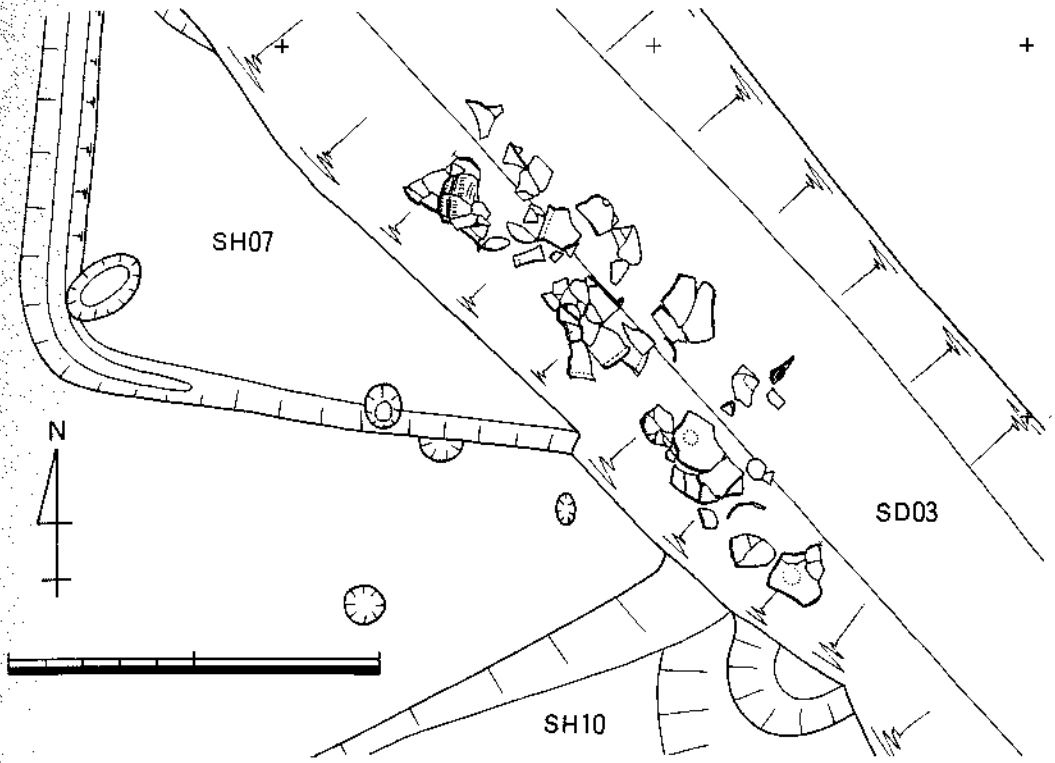


遺物出土状態図位置関係

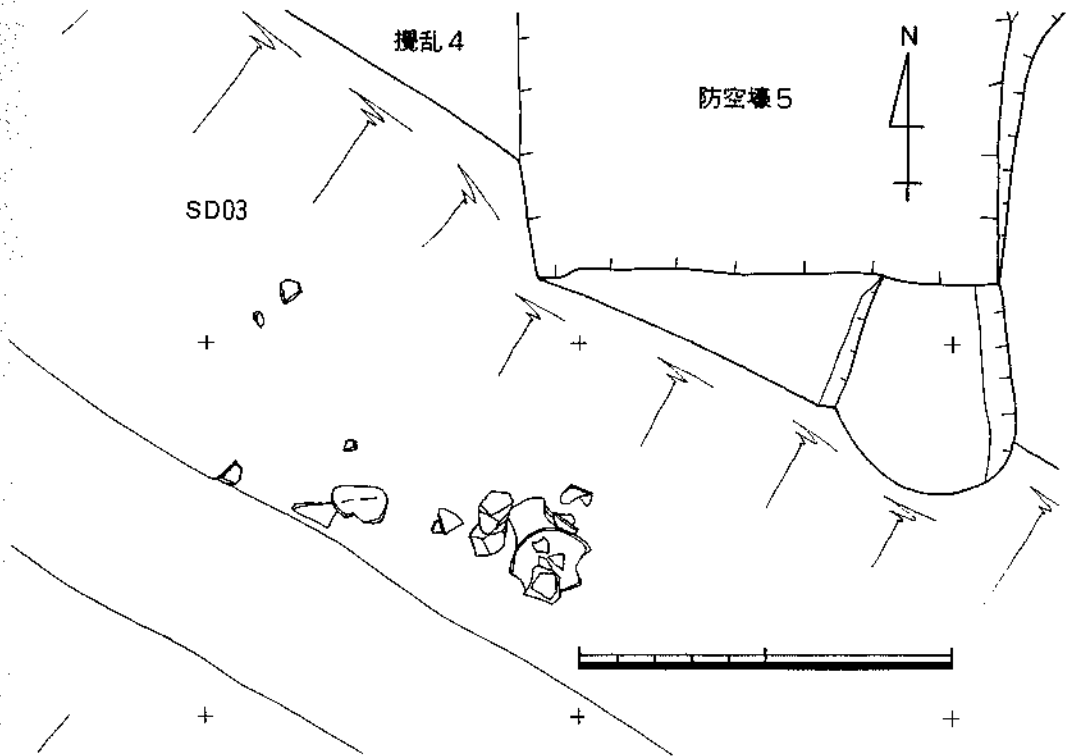


遺物出土状態 SD03 A-1区

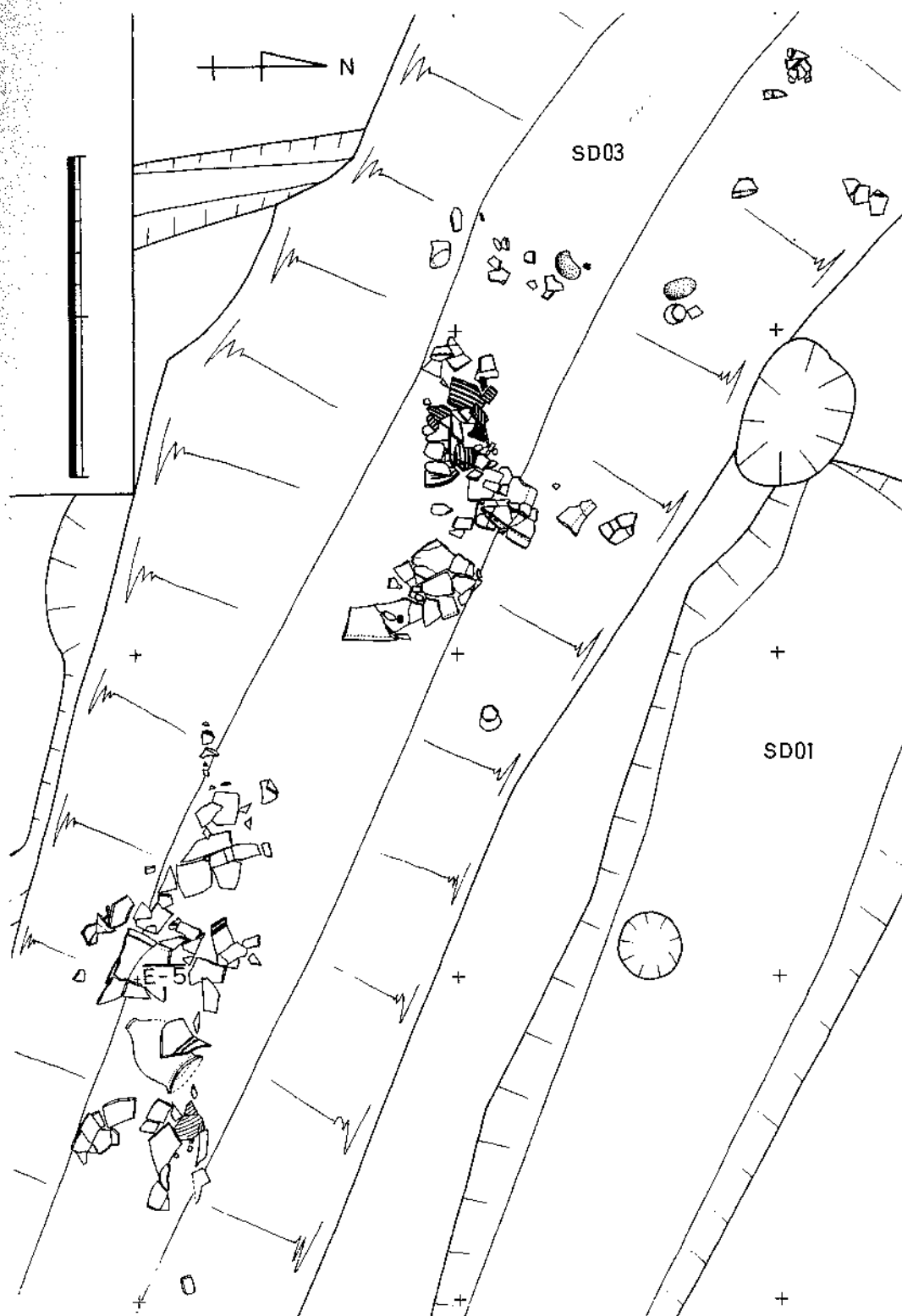




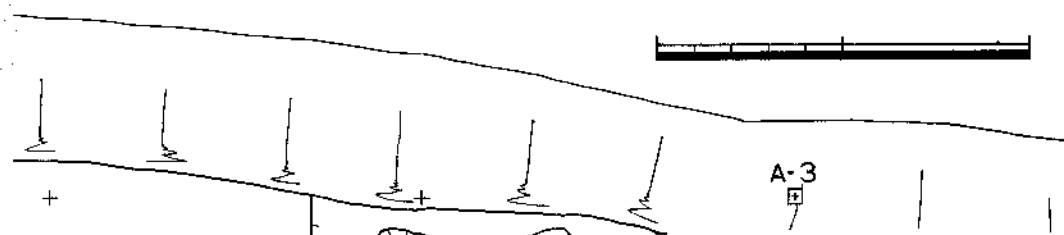
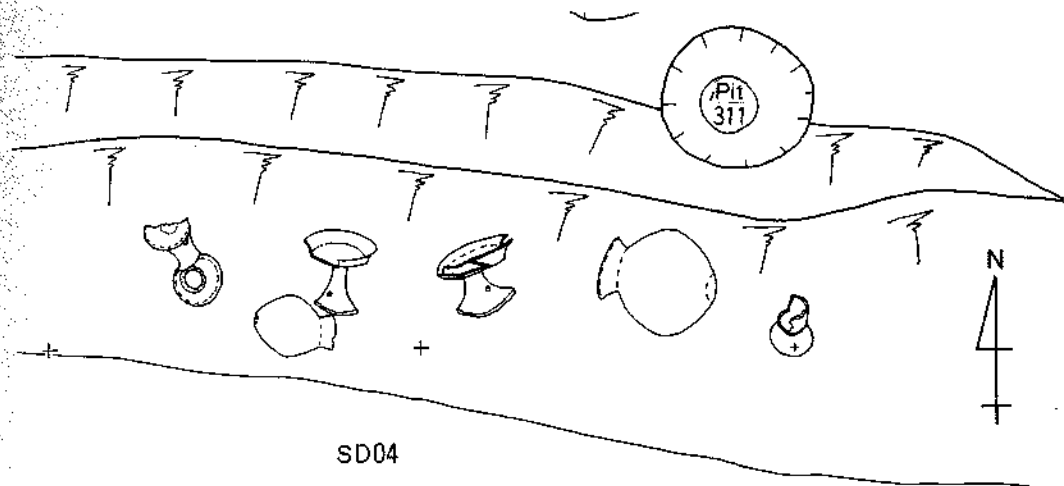
遺物出土状態 SD03 C-2区



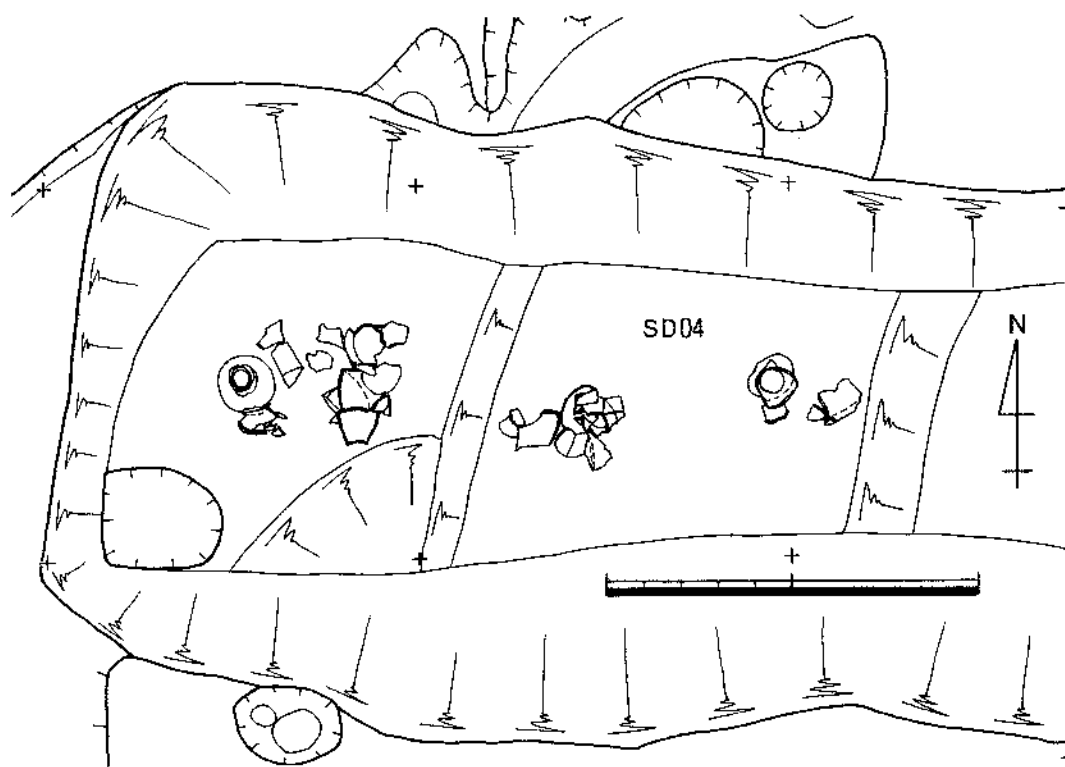
遺物出土状態 SD03 E-3,4区



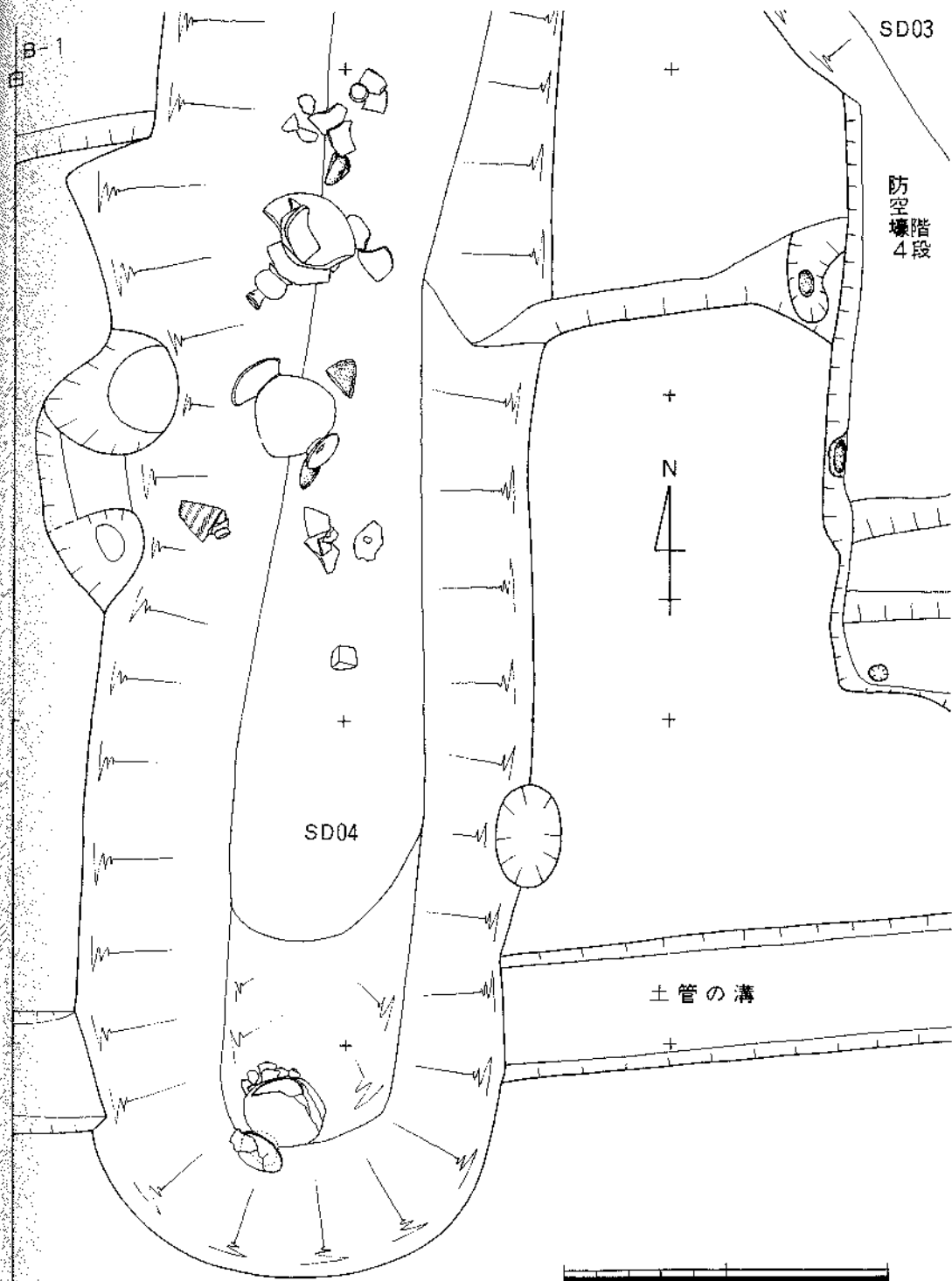
遺物出土状態 SD03 東南部



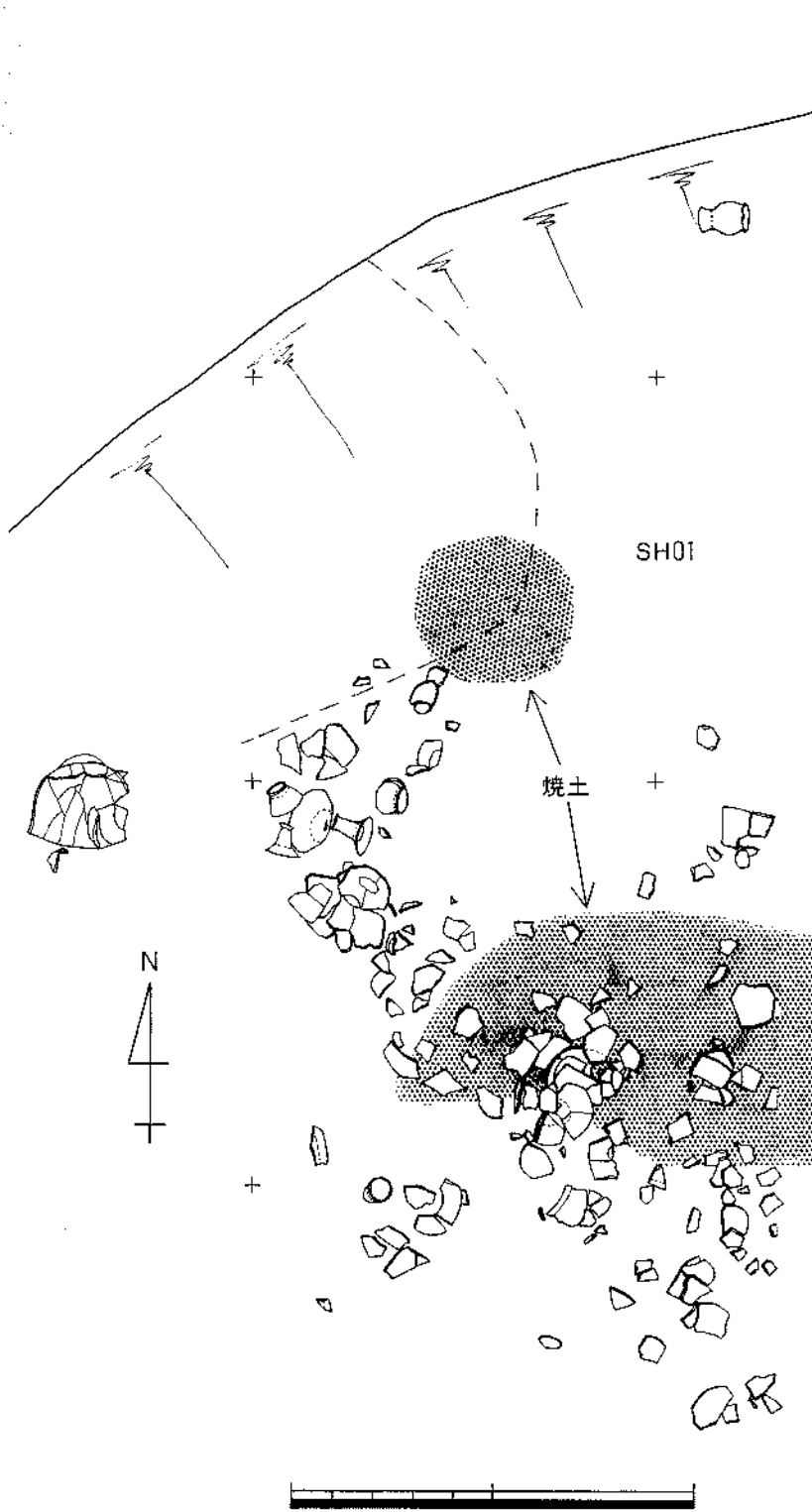
遺物出土状態 SD04 北溝



遺物出土状態 SD04 南溝

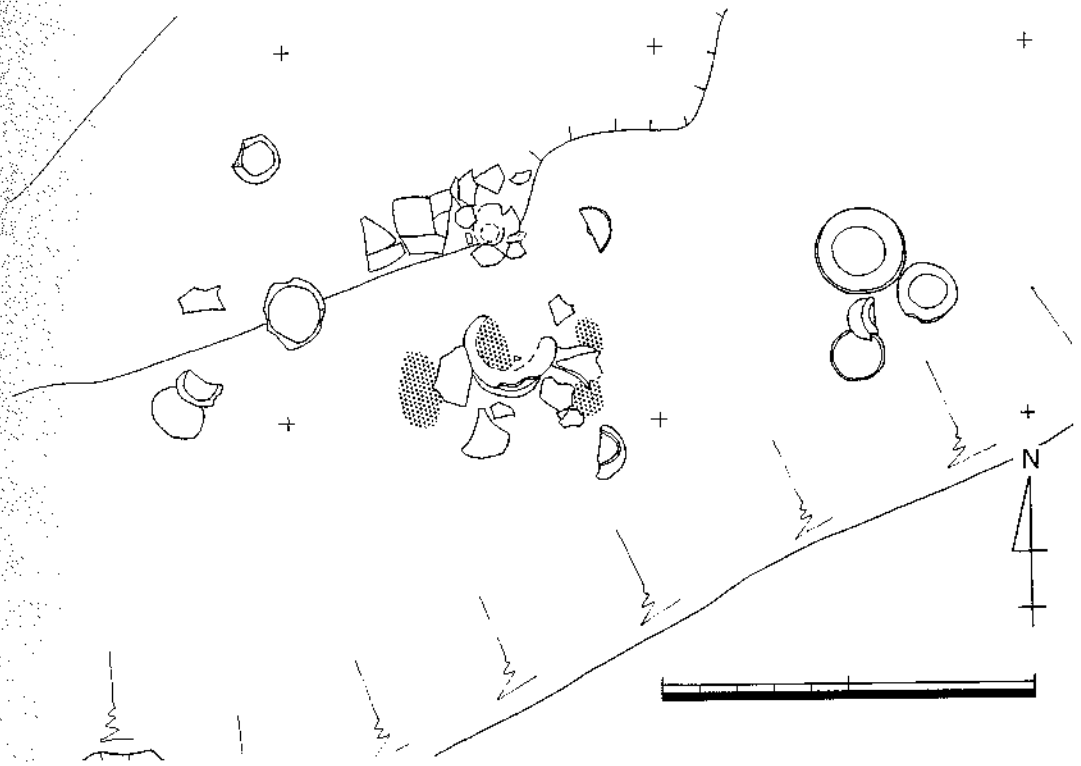


遺物出土状態 SD04 西溝

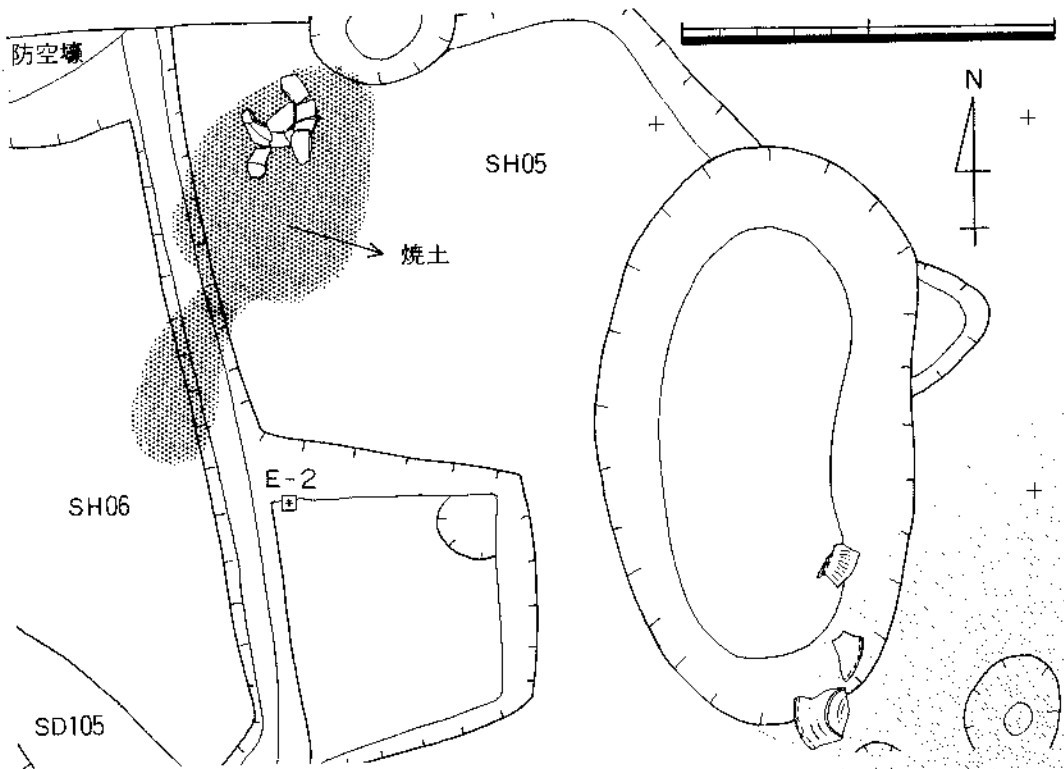


E-5  
田

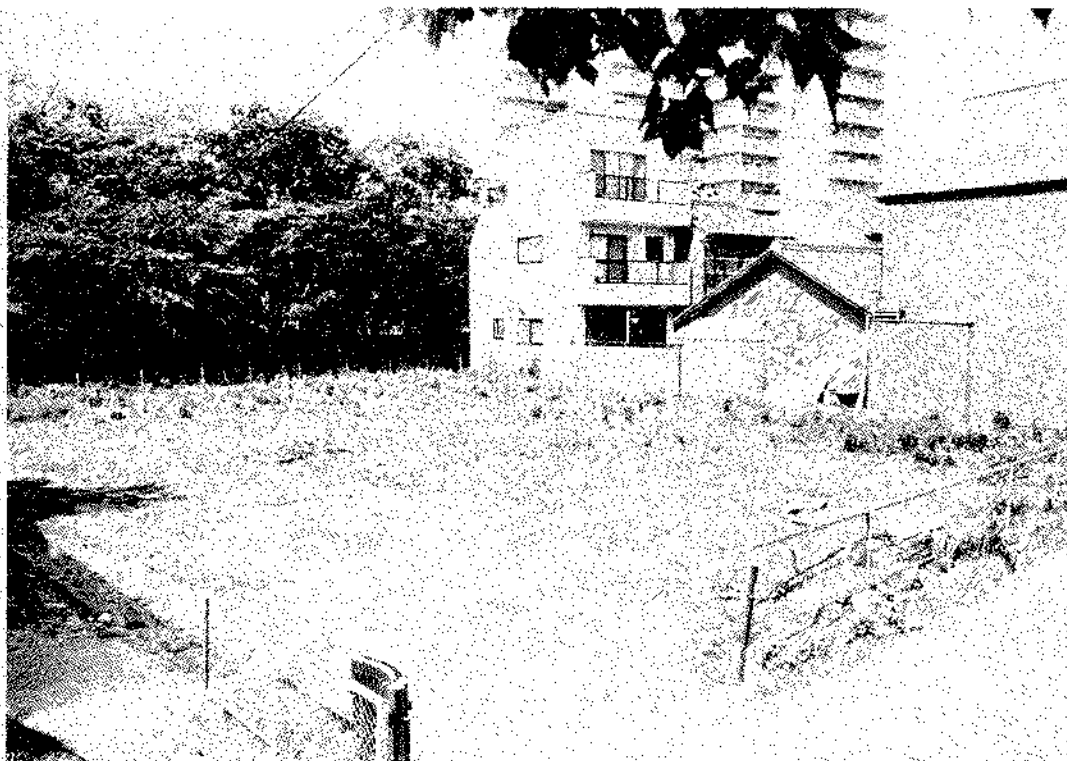
遺物出土状態 SH01



遺物出土状態 SD101



SH05 焼土および土器出土状態



発掘前遺跡全景



第1期全景 北から

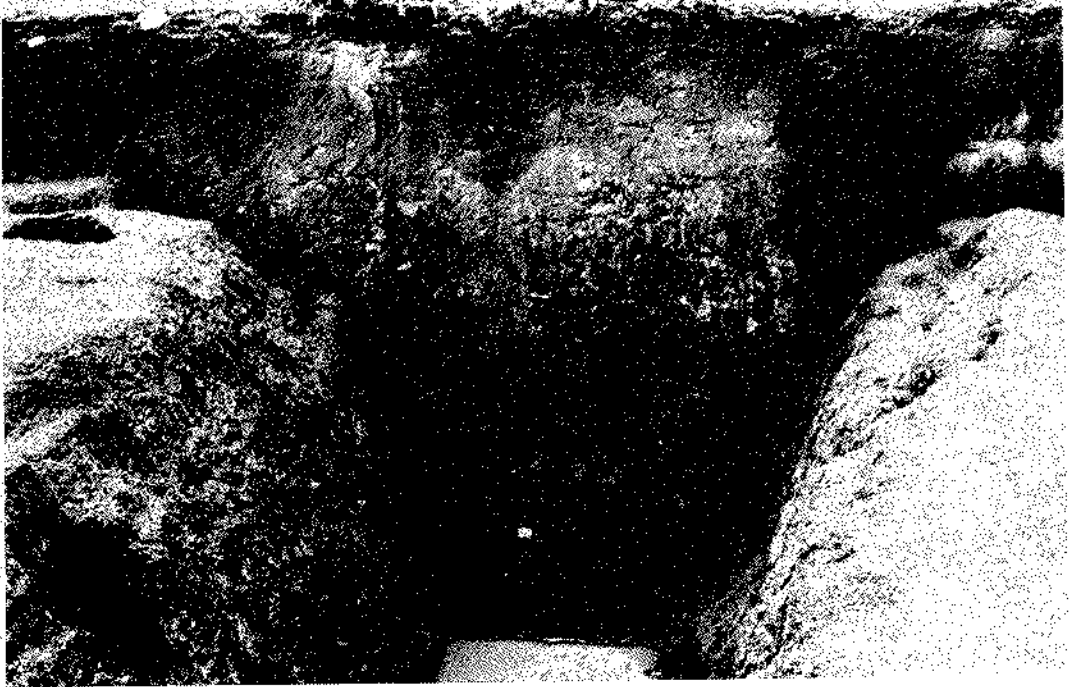


SD03他 北西から

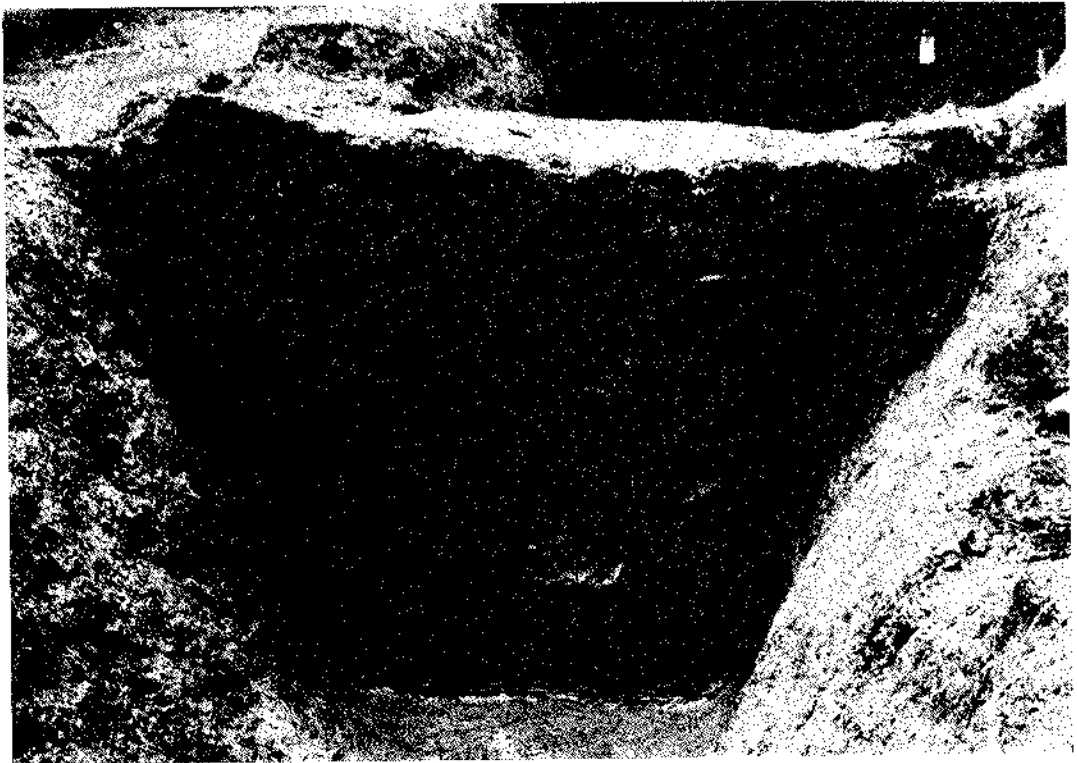


SH01他 南から





SD03 東 端



SD03断面 E-4区



SD03、SD04断面 D-3区



F-3区 南東から



防空壕5、SD03 北から



第2期全景 東から



SD101、SD04、SD103 東から



SD101、SD04 南西から



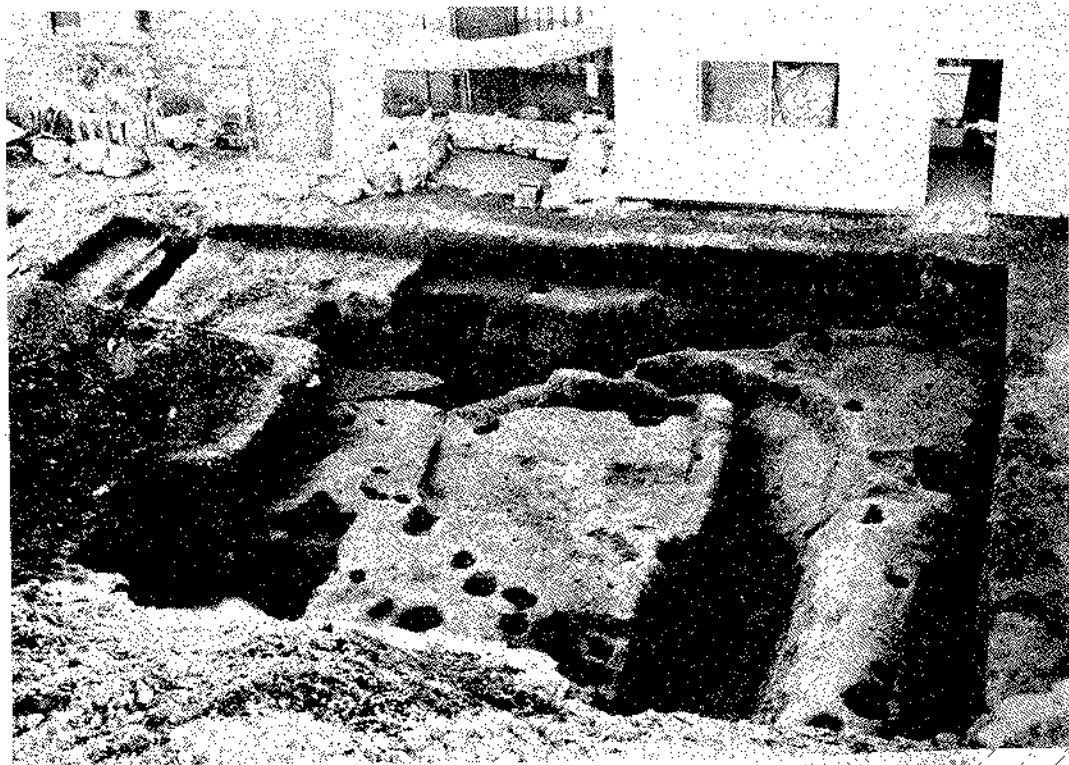
SD101 西から



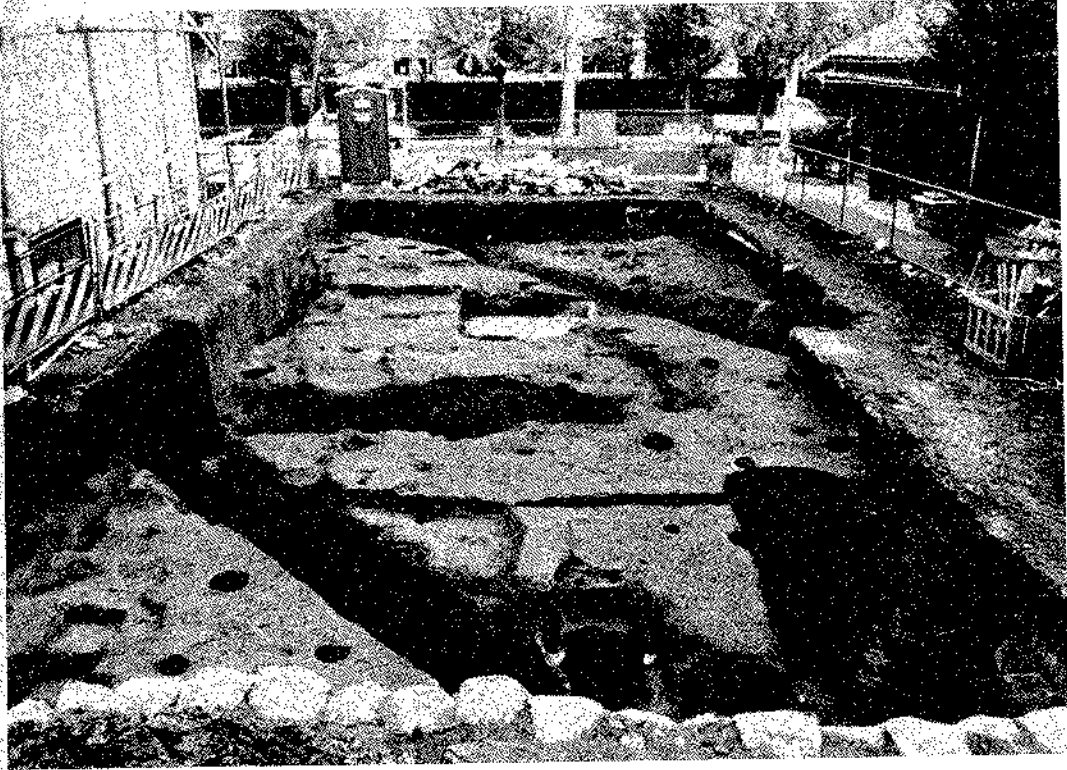
SD04など 南東から



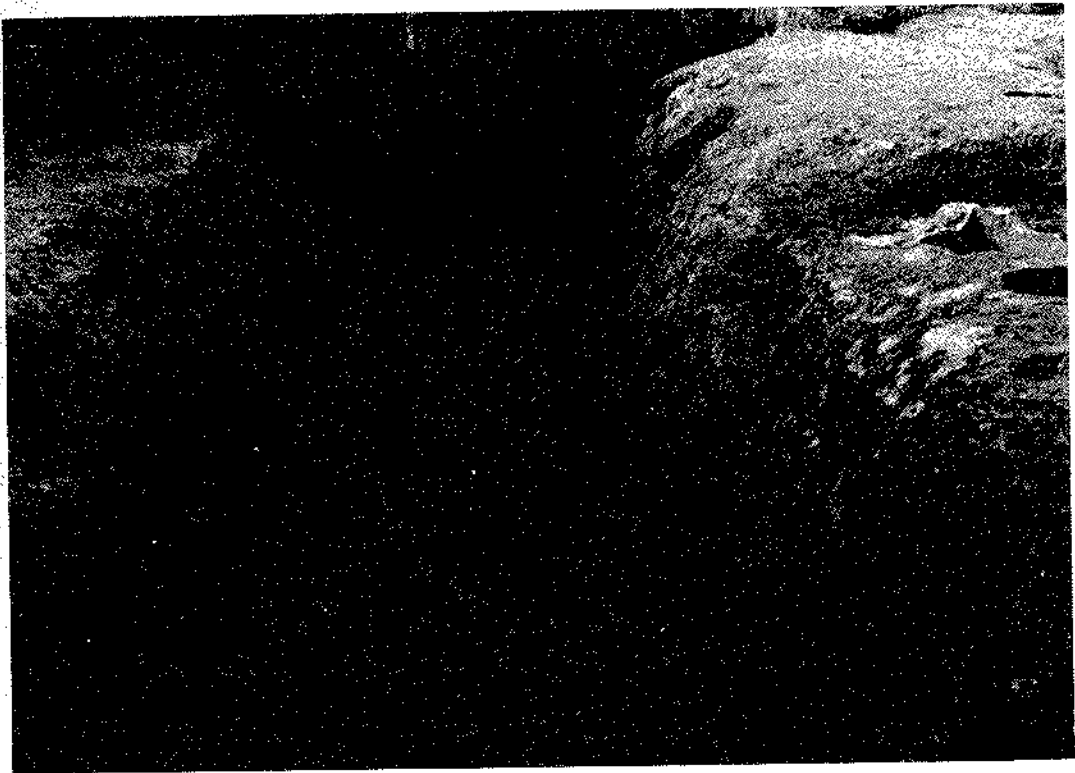
SD04 北から



第3期全景 東から



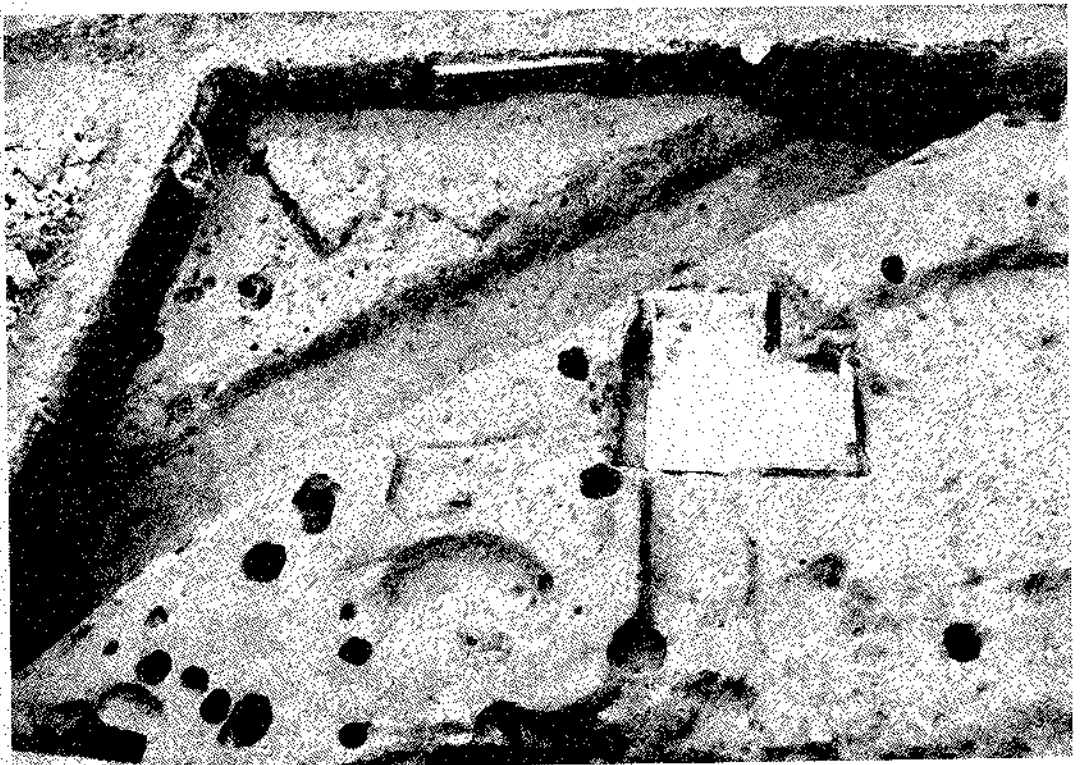
第4期全景 北から



SD105 北から



第4期全景北部 東から

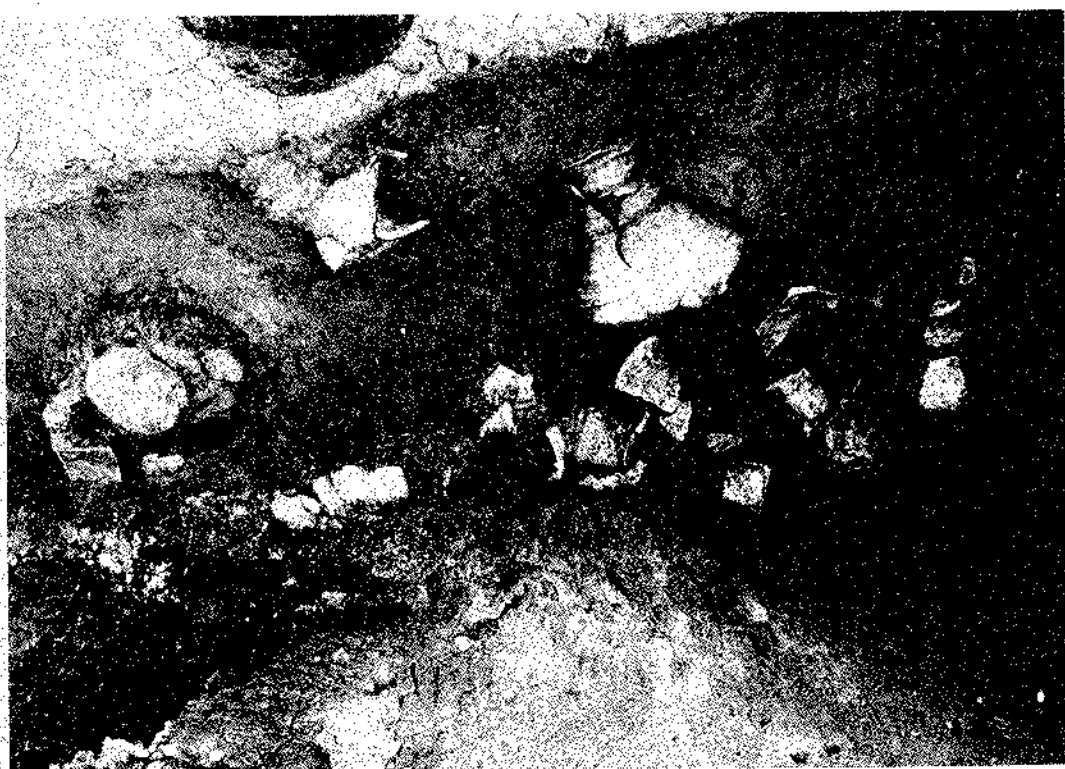


第4期全景南部 東から





SD03 遺物出土状態 A-1区



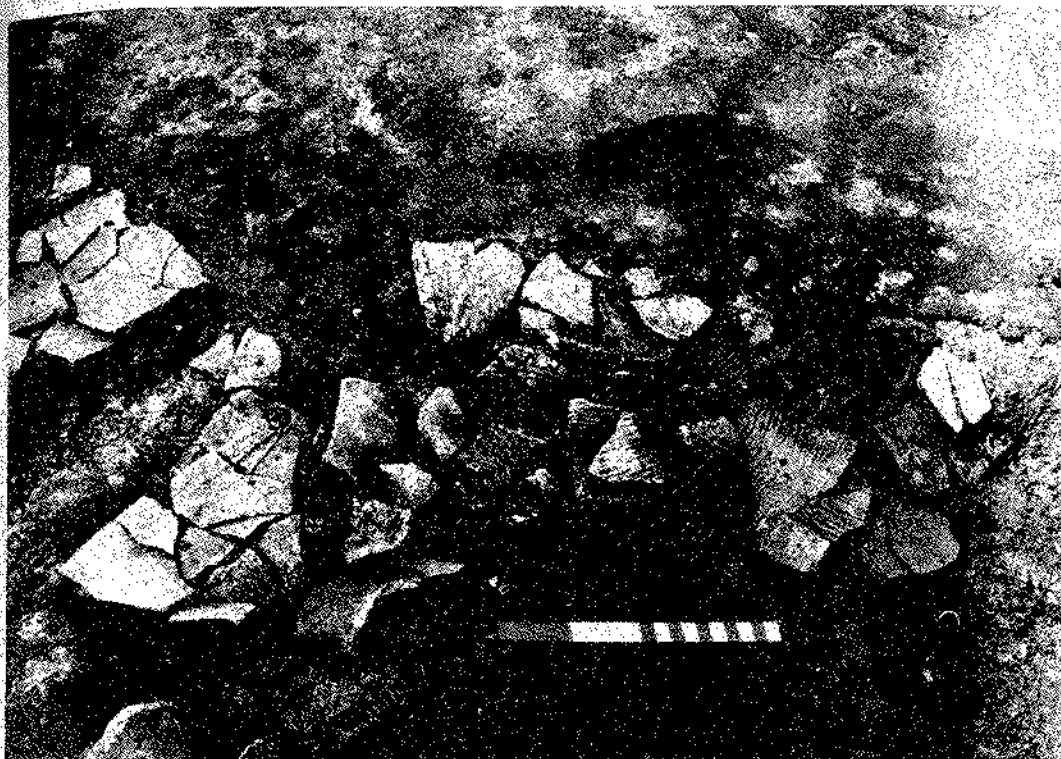
SD03 遺物出土状態 A-1区



SD03 遺物出土状態 C-2区



SD03 遺物出土状態 E-4区ベルト



SD03 遺物出土状態 E-4区



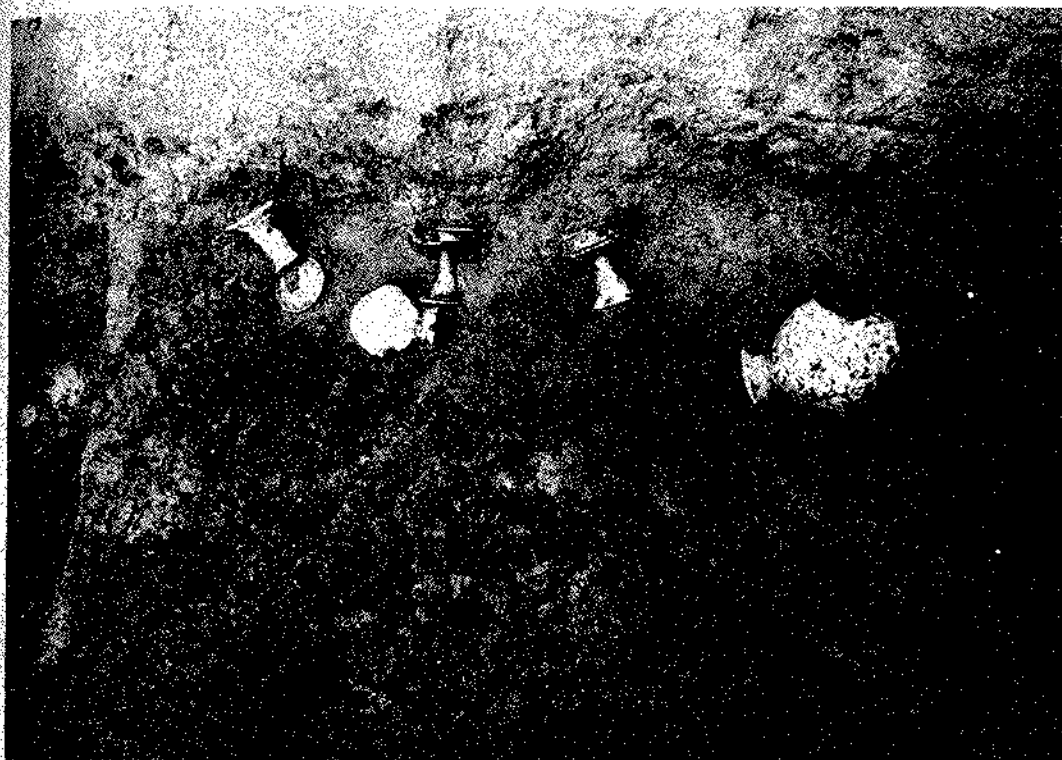
SD03 遺物出土状態 F-5区



SD03 遺物出土状態 E-4区溝上面



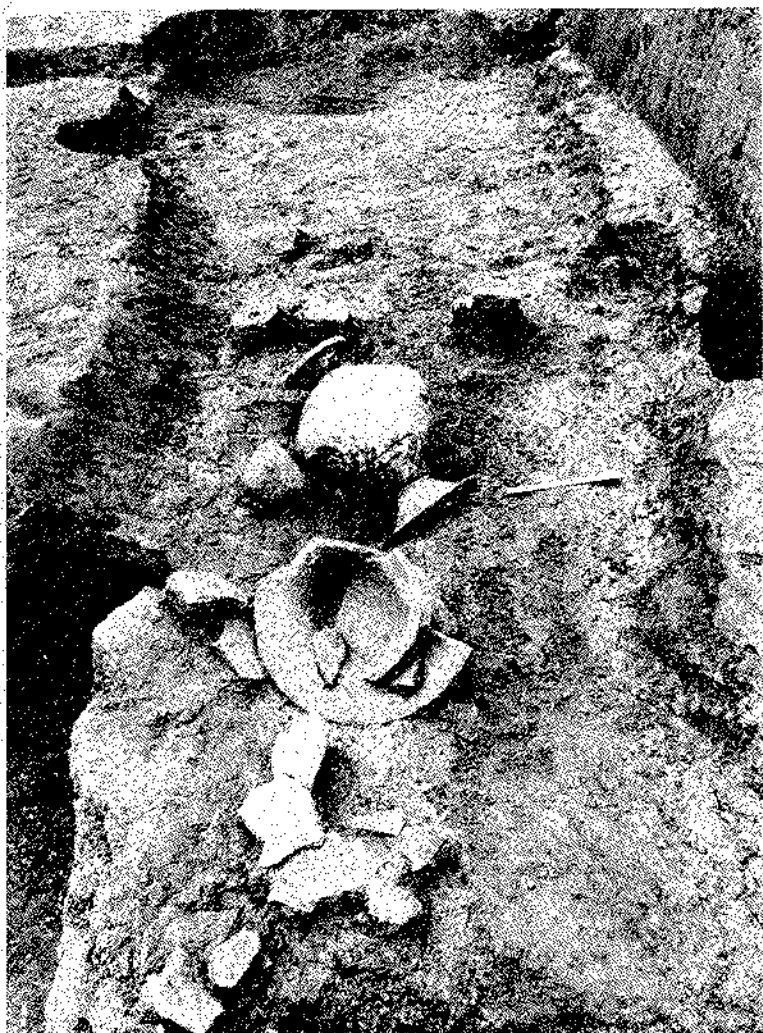
SD04 遺物出土状態 A-2区溝上面



SD04 遺物出土状態 北溝 南から



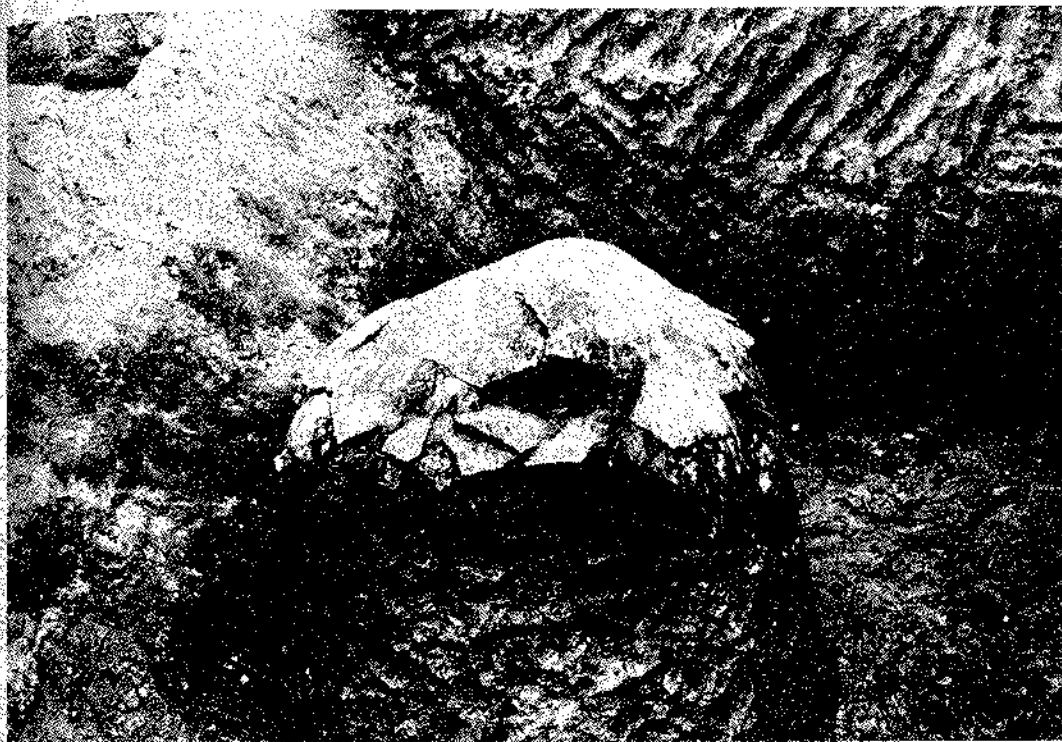
SD04 遺物出土状態 西溝



SD04 遺物出土状態 西溝 北から



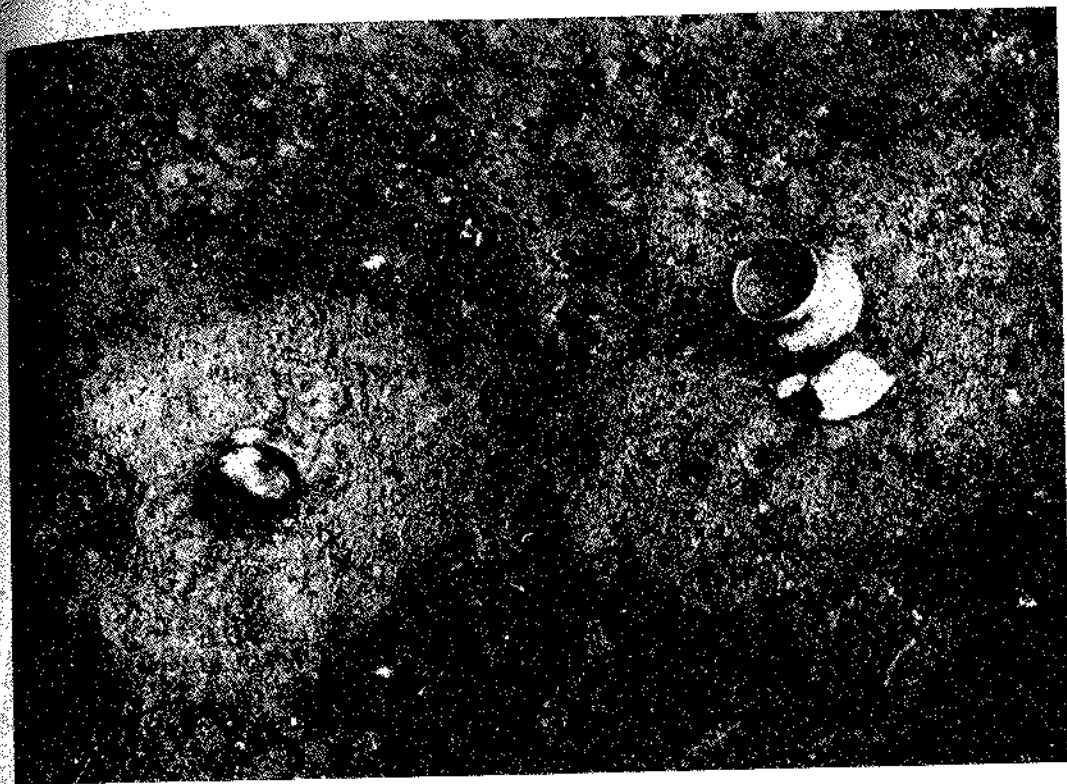
SD04 遺物出土状態 西溝



SD04 壺棺出土状態 東溝 北から



SD04 壺棺出土状態 東溝 南から



SD04 遺物出土狀態 東溝

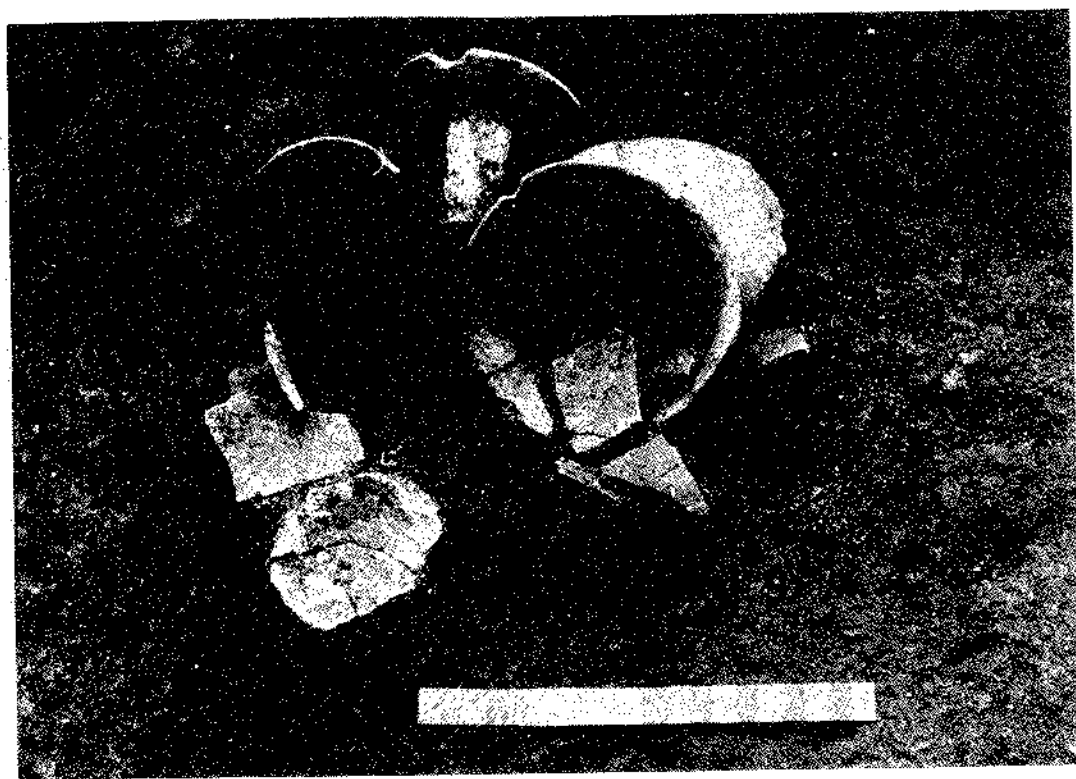


SD04 遺物出土狀態 東溝





SH01 遺物出土狀態



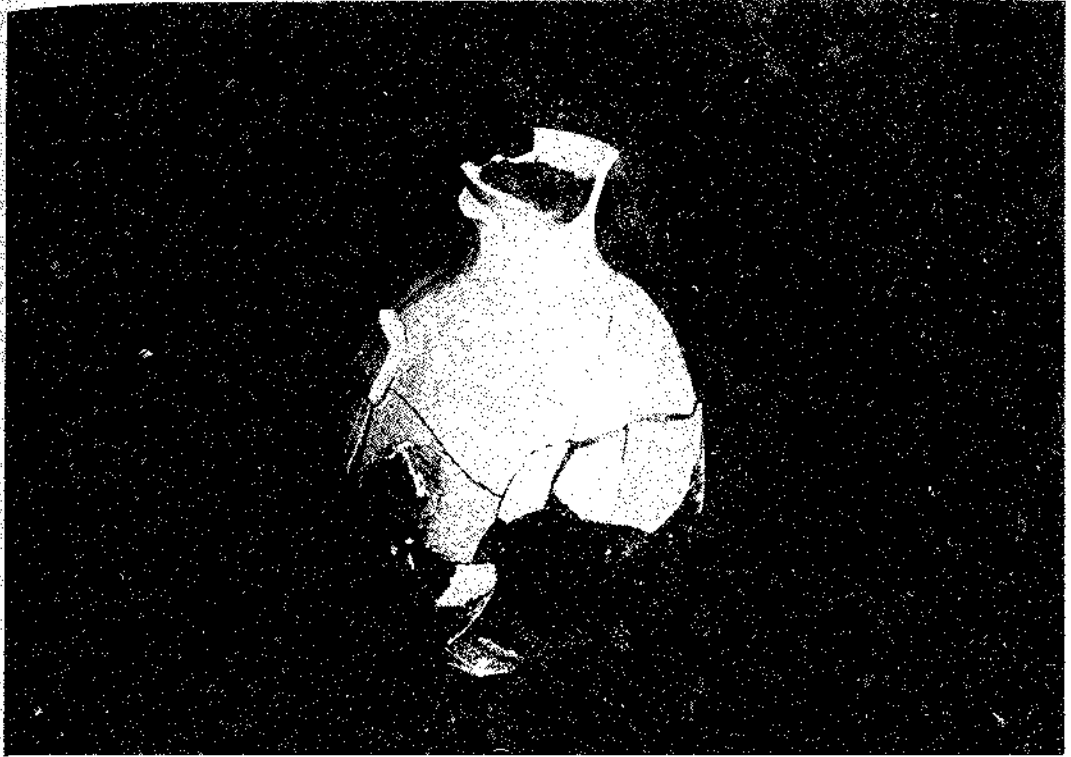
SH01 遺物出土狀態



SH01 遺物出土状態 E-5区 東から



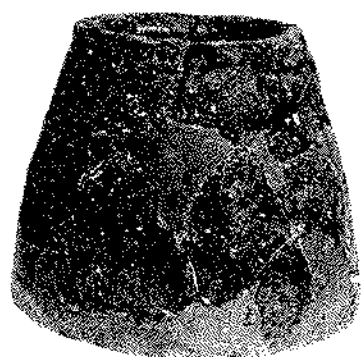
SD101 遺物出土状態



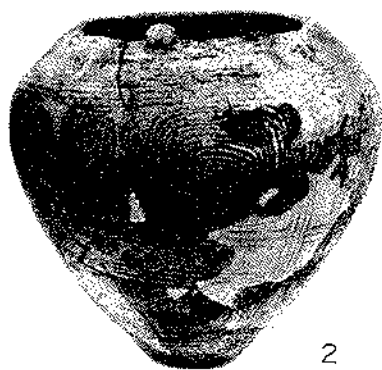
B-3区 遺物出土状態



SD101 遺物出土状態



1



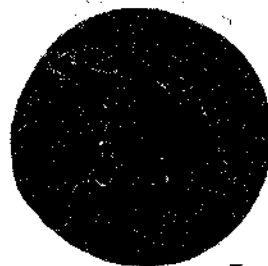
2



3



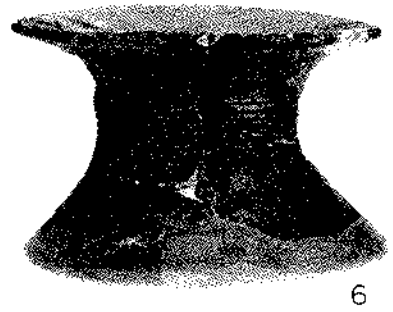
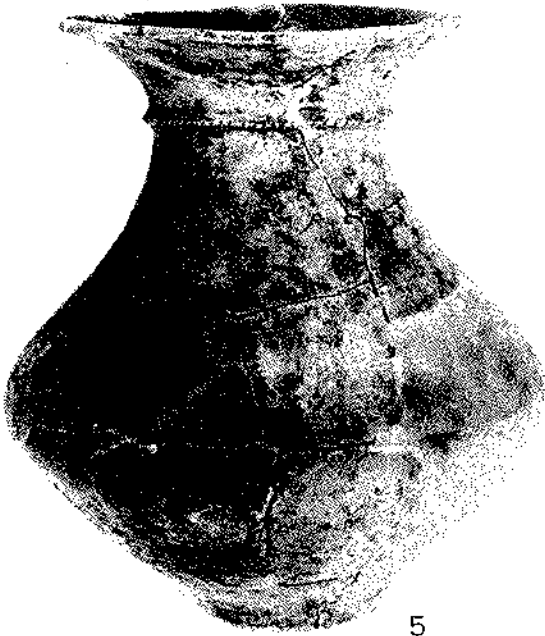
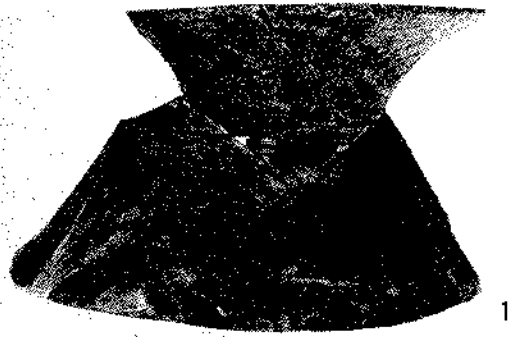
4

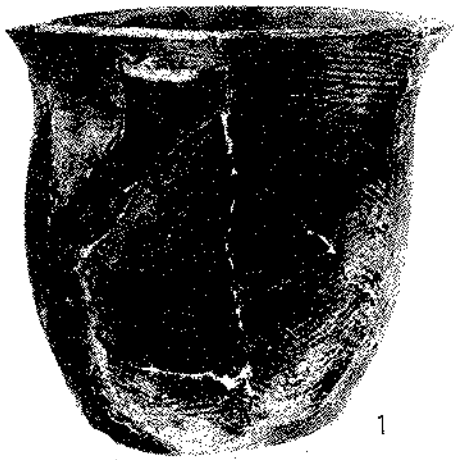


5

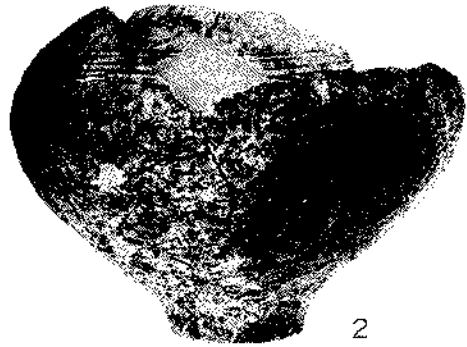


6

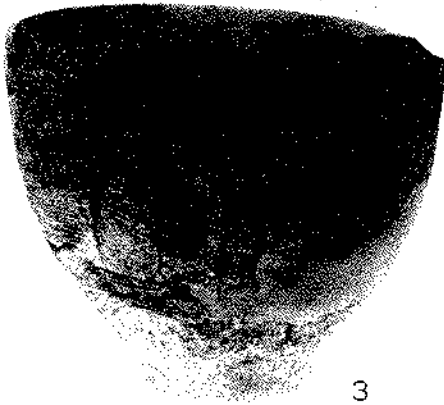




1



2



3



4



5



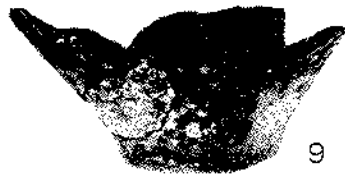
6



7



8



9



1



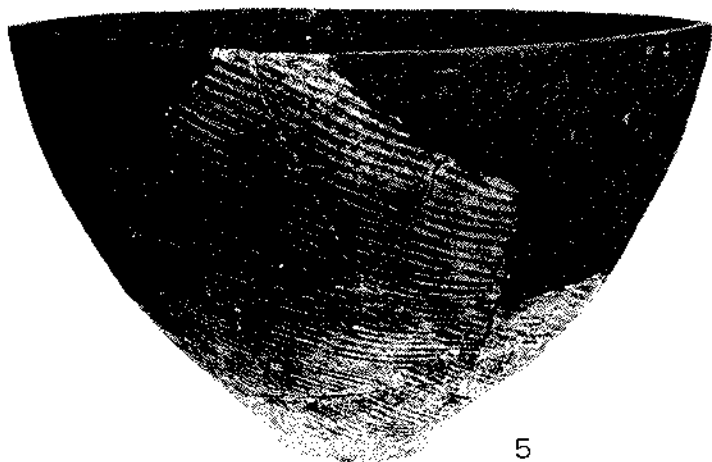
2



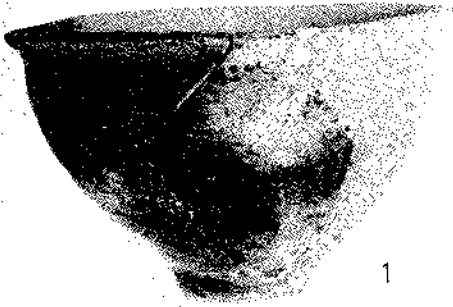
3



4



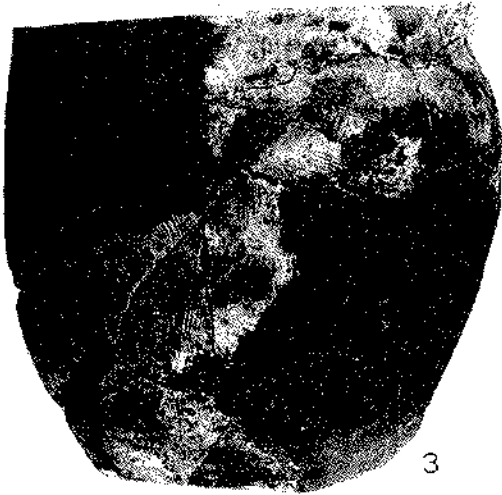
5



1



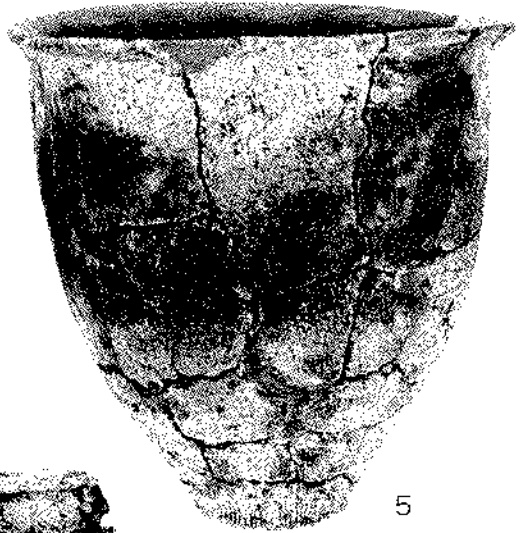
2



3



4

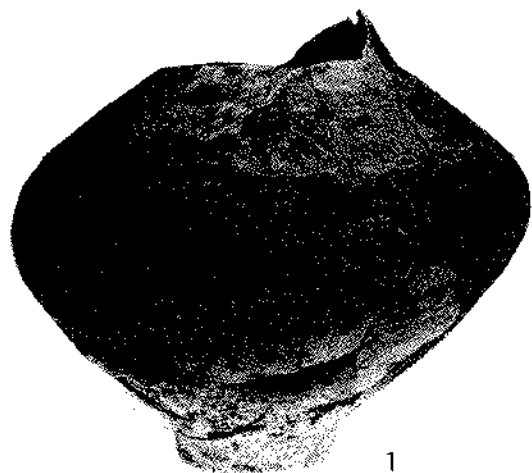


5



6





1



2



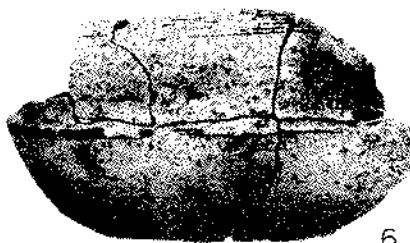
3



4



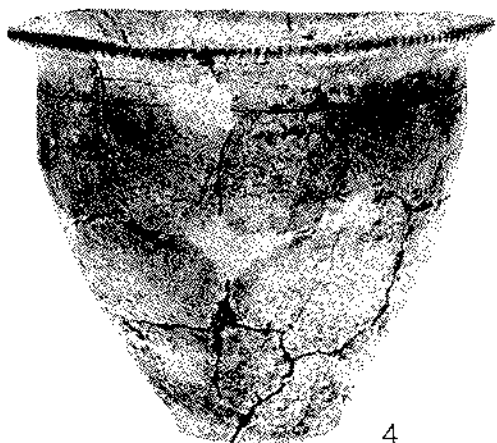
5



6

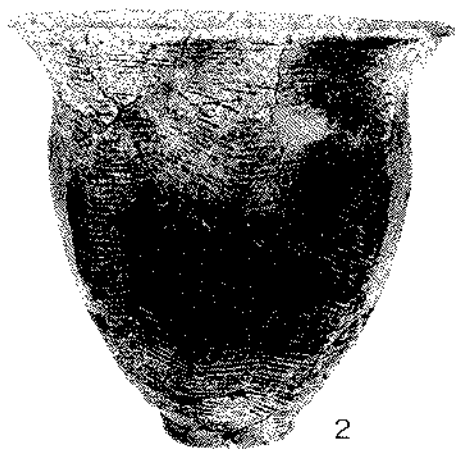


7





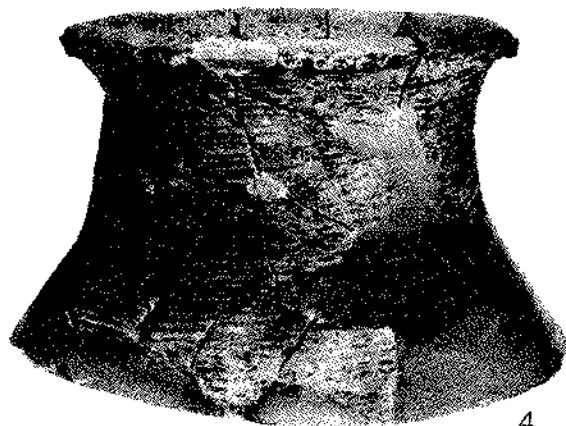
1



2

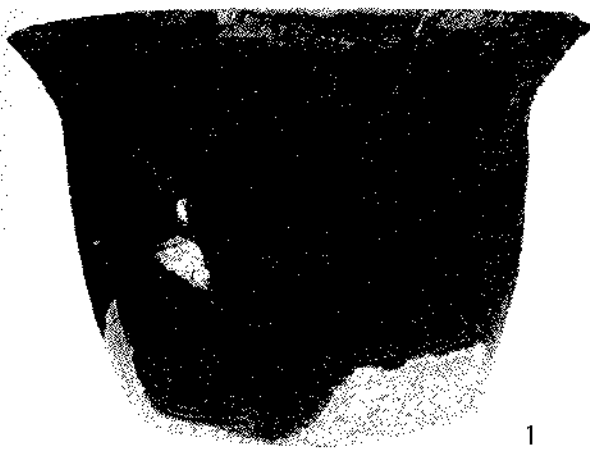


3



4





1



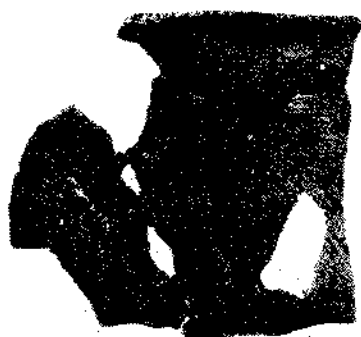
4



5



6



2



7



8



3



9



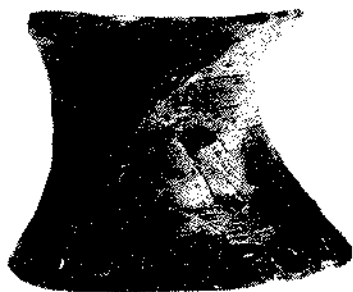
10



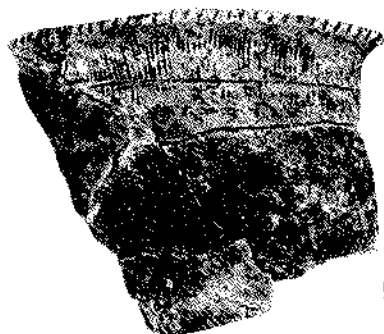
1



2



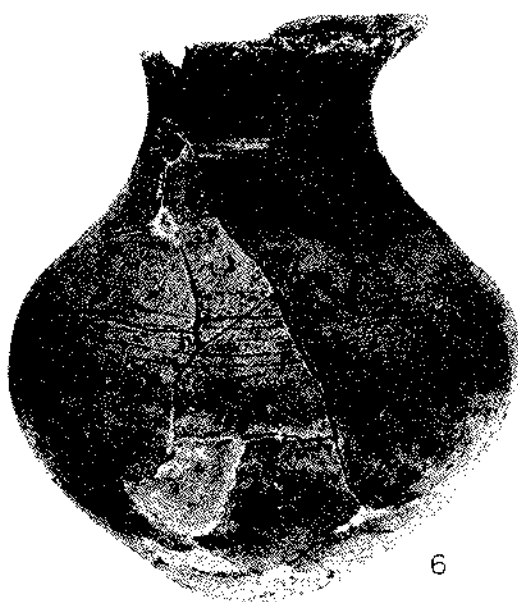
3



5



4



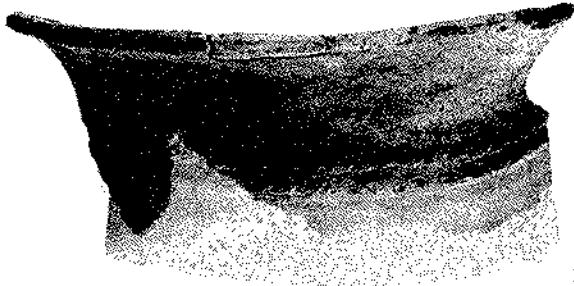
6



1



2



3



4



1



4



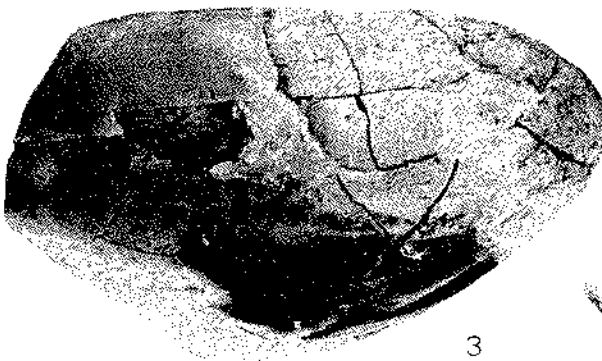
2



5



6



3

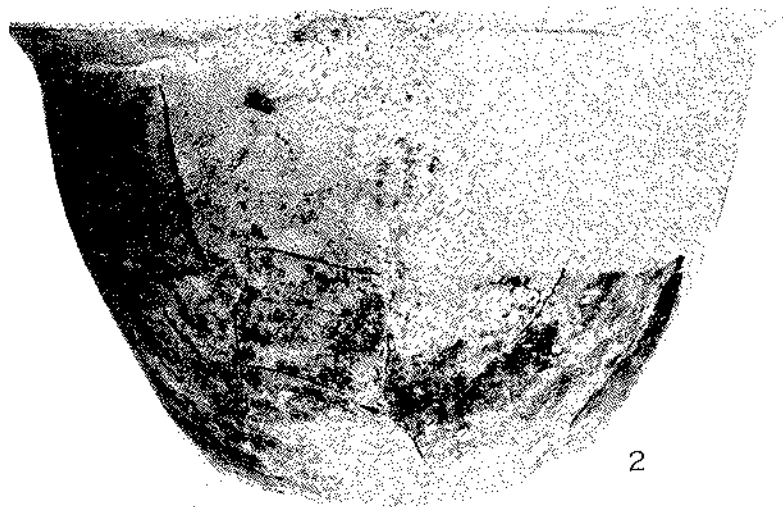


7

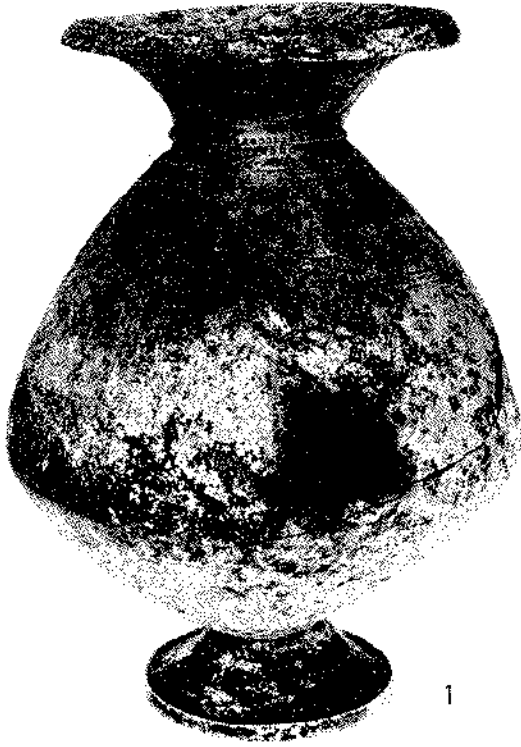


8









1



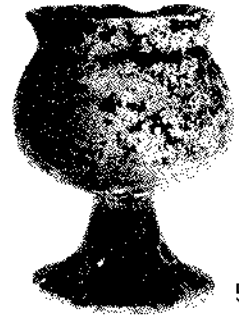
3



4



2



5



1



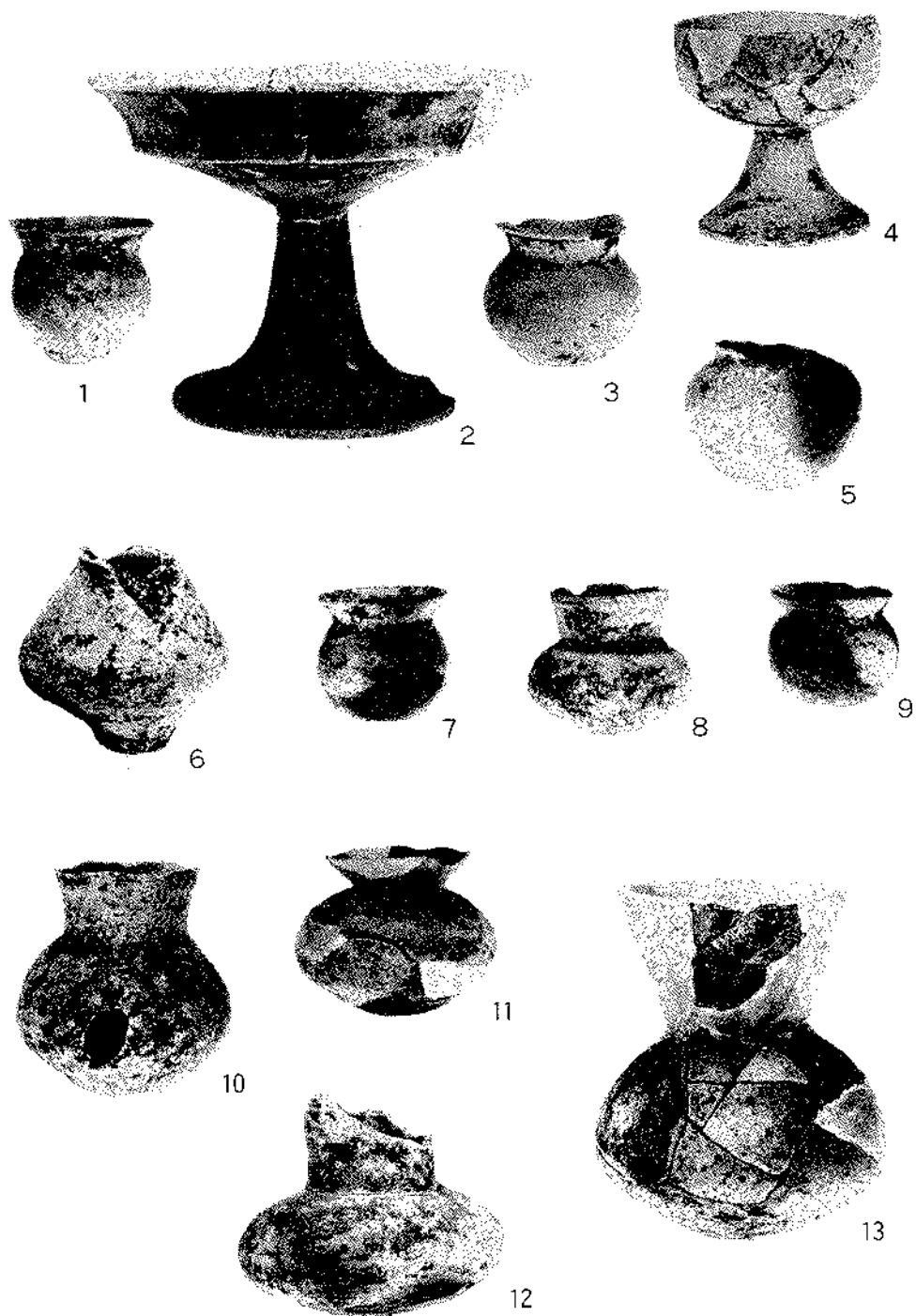
2



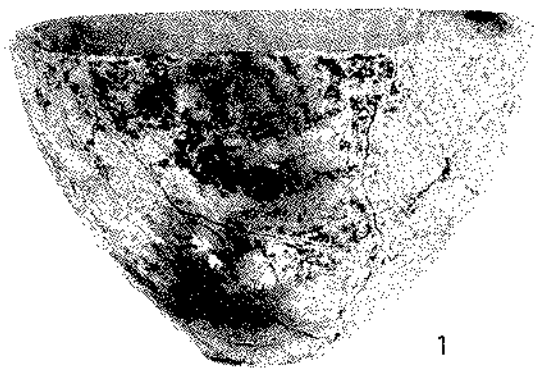
3



4







1



2



3



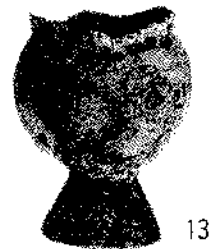
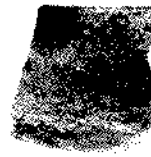
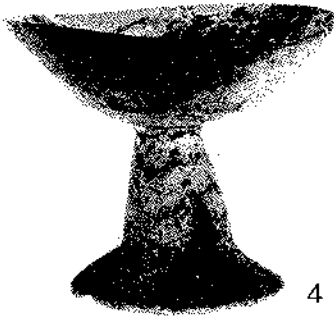
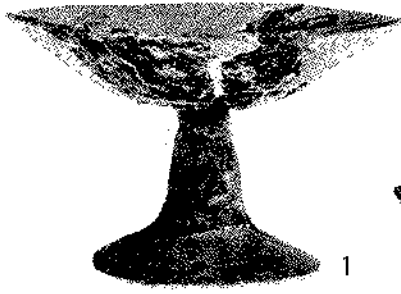
4



5



6







1



2



3



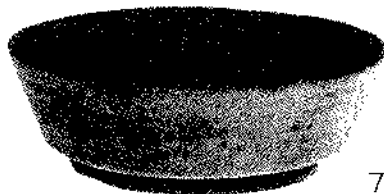
4



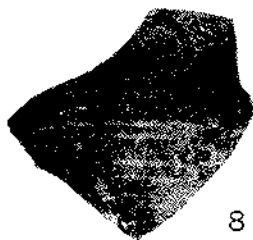
5



6



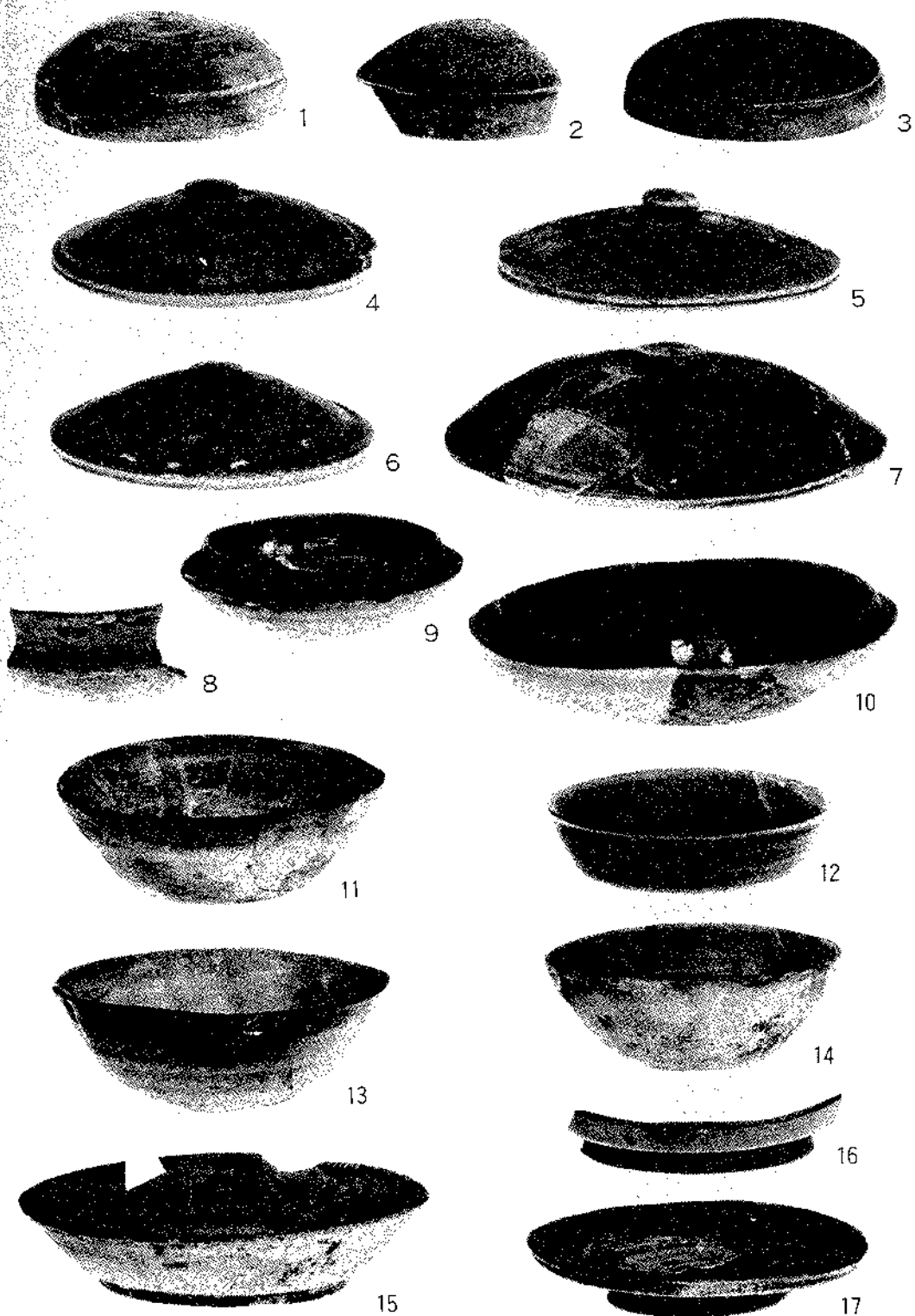
7

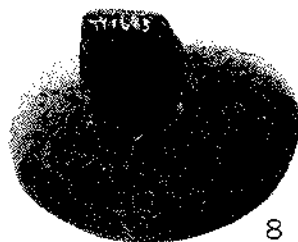
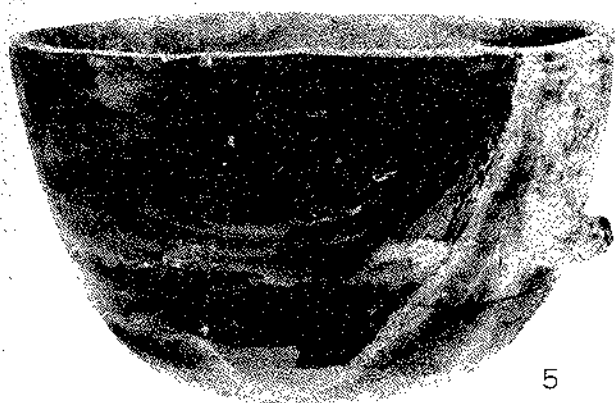
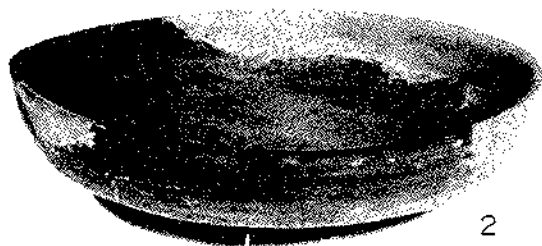


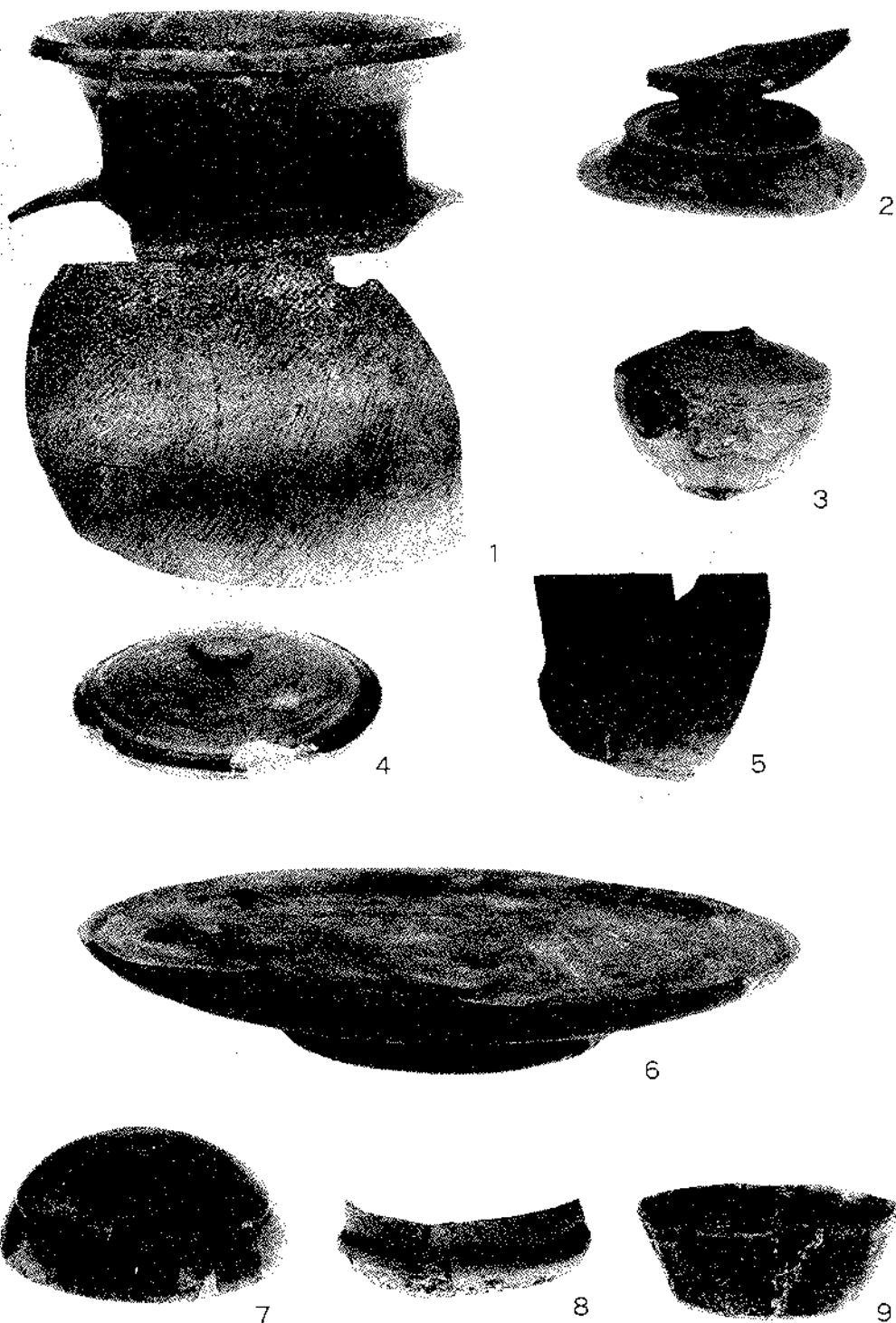
8

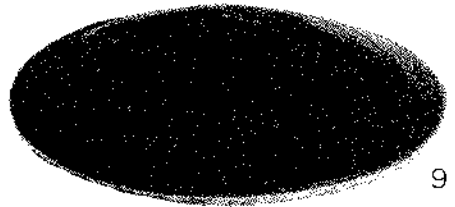
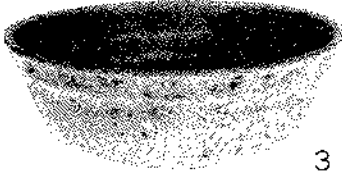
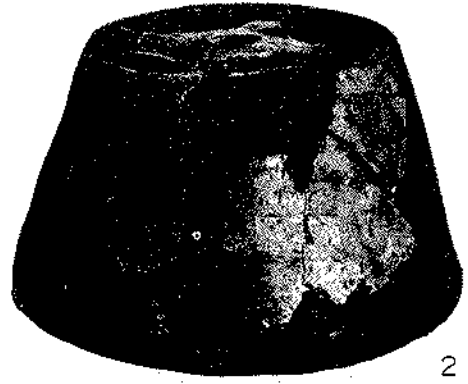
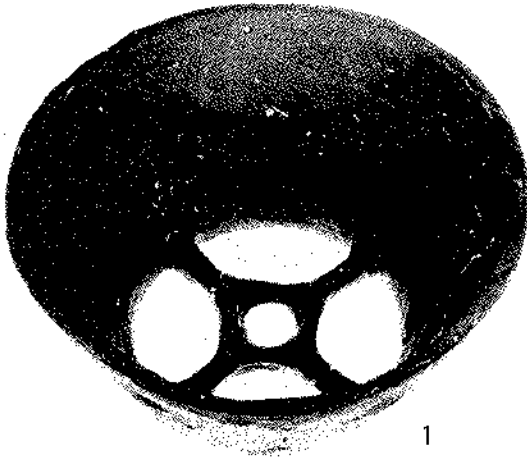


9











1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



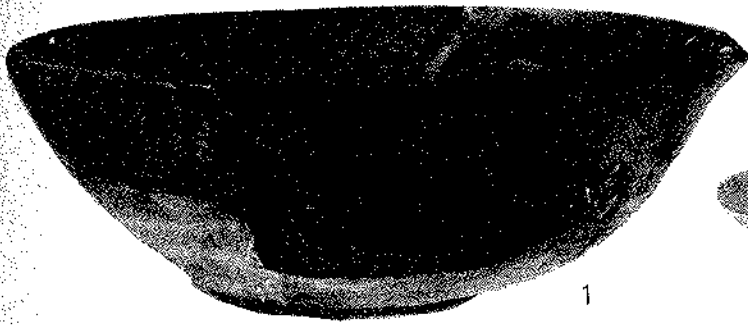
11



12



13



1



2



5



3



4



6



7



8



9



10



11



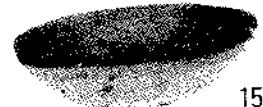
12



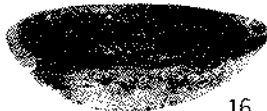
13



14



15



16



17



18



1



2



3



4



5



6



7



8

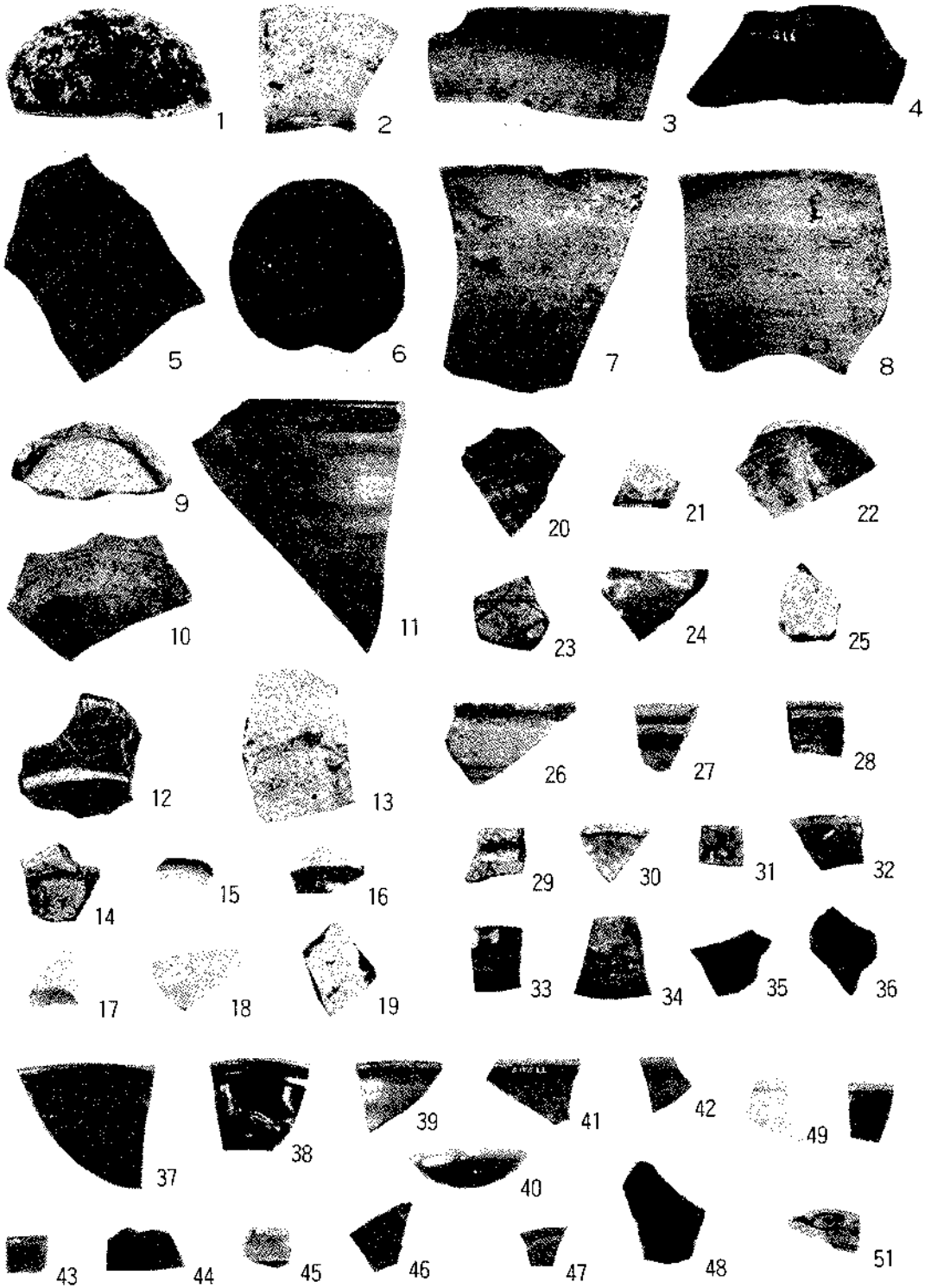


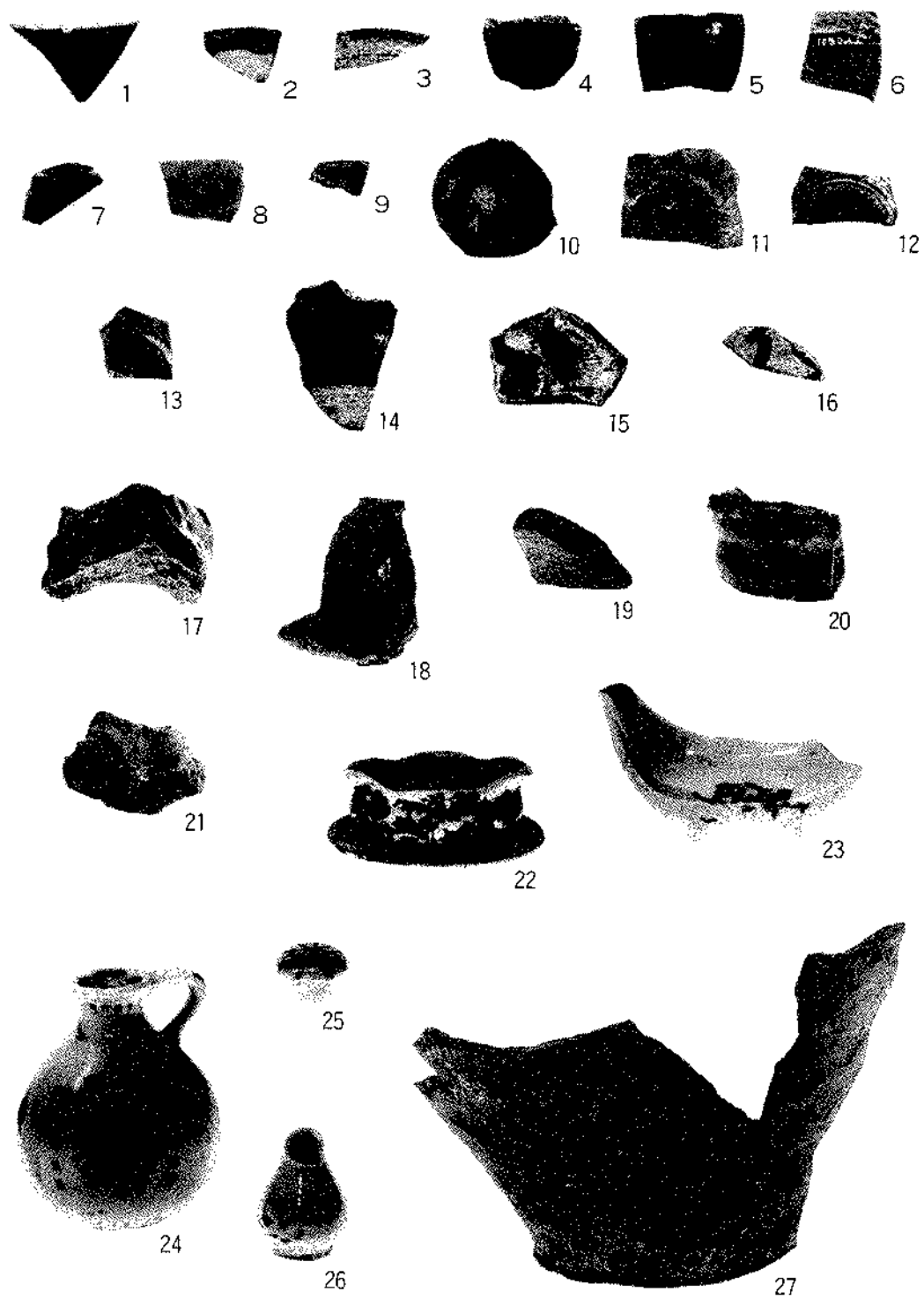
9

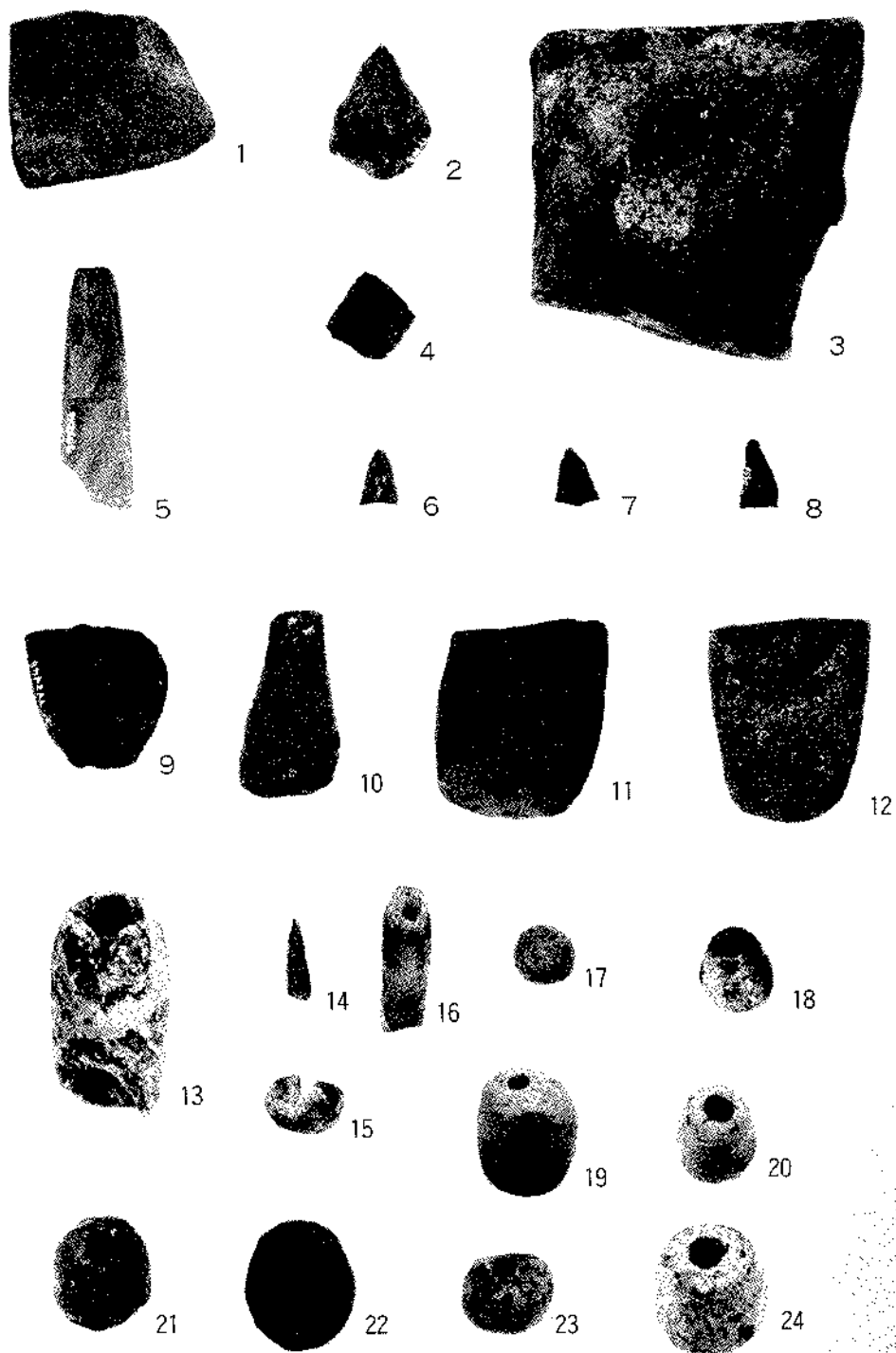


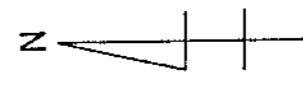
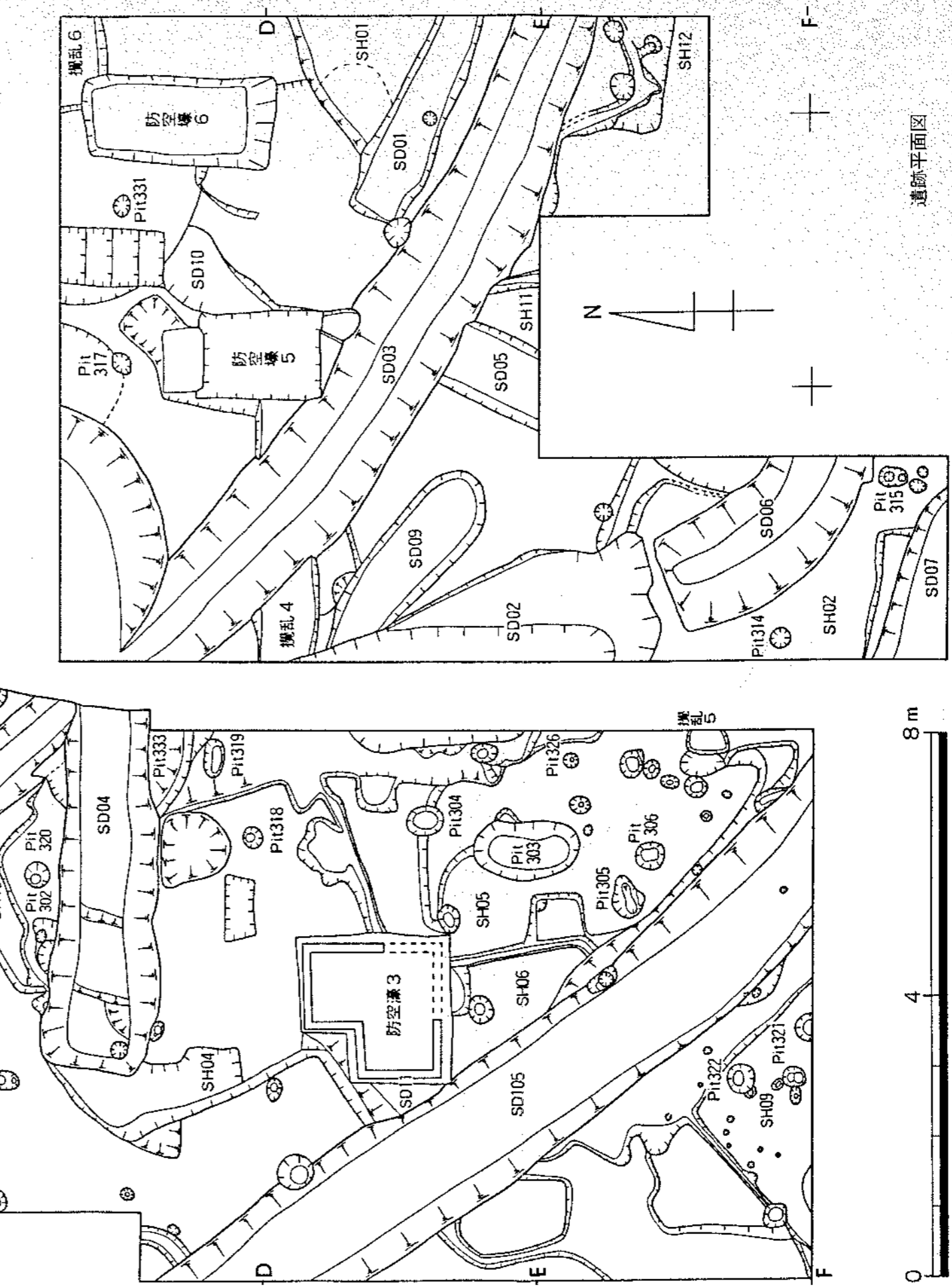
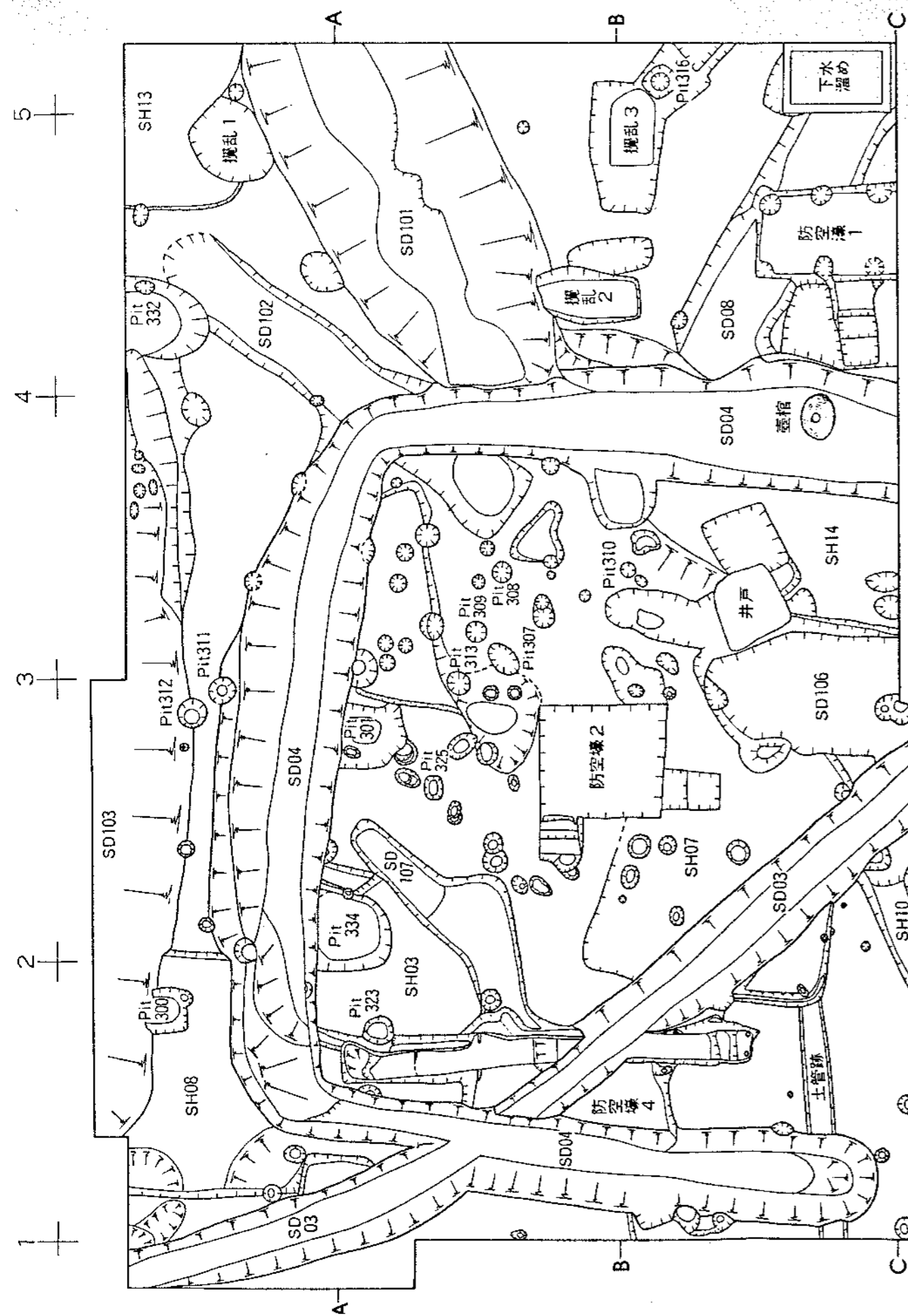
10







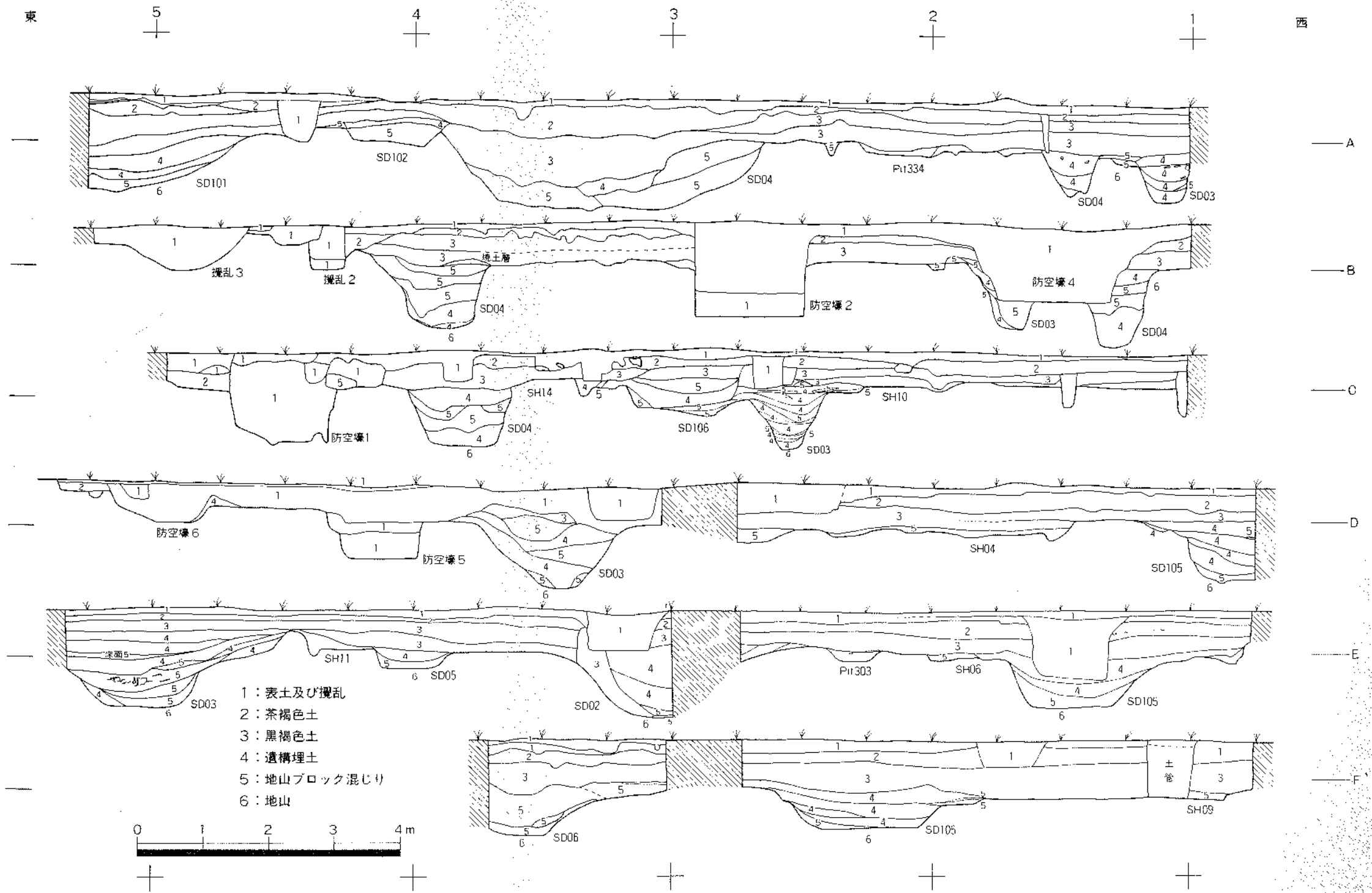




遺跡平面図

1 2 3 4 5

-G + 1 + 2 + 3 + 4 + 5 + G

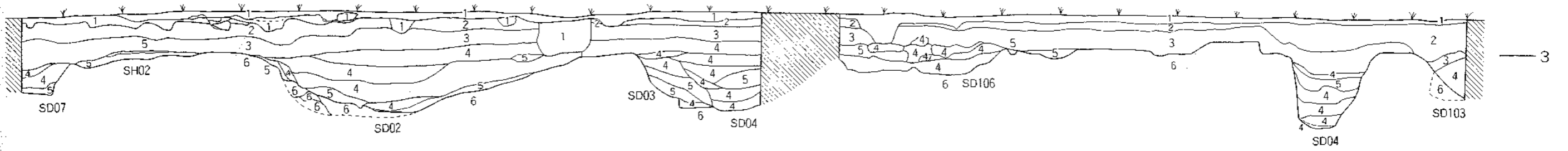
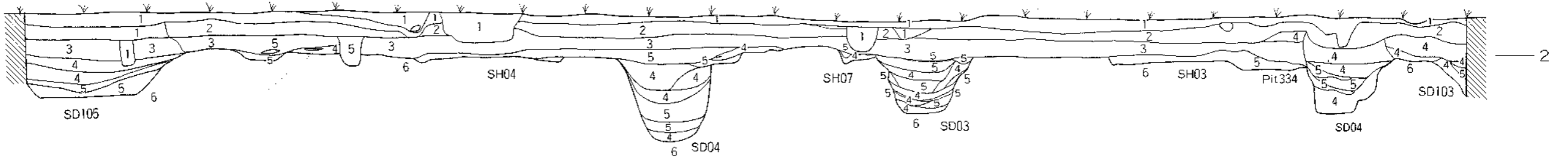
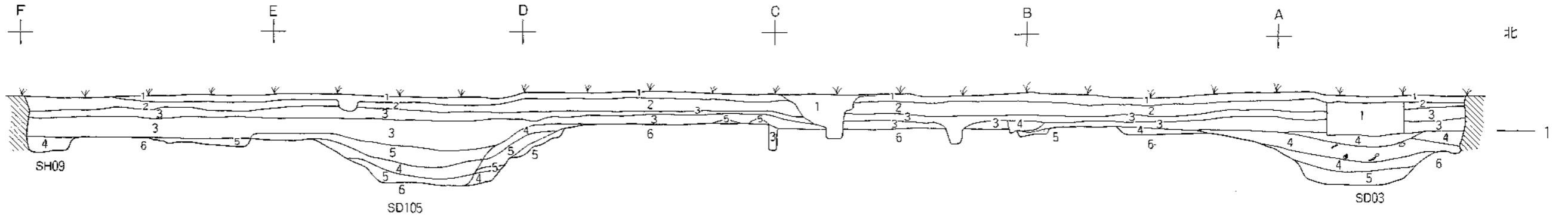


レベルのラインはすべて海抜10.00m

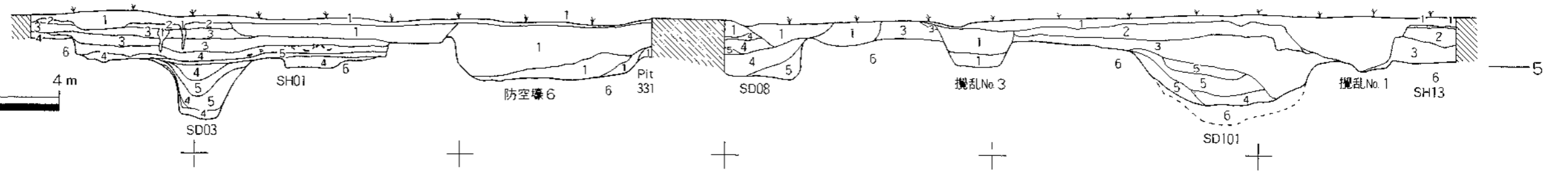
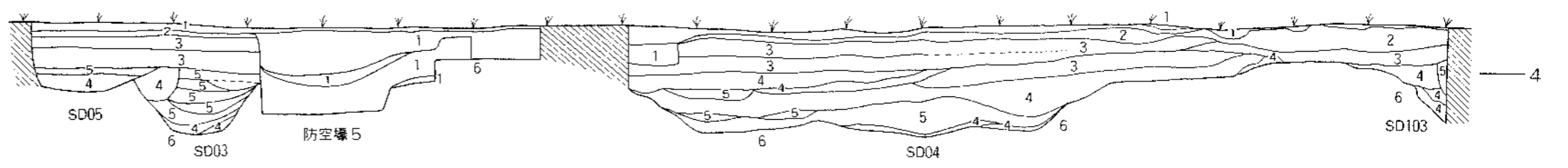
遺跡断面図 東西方向

南

北

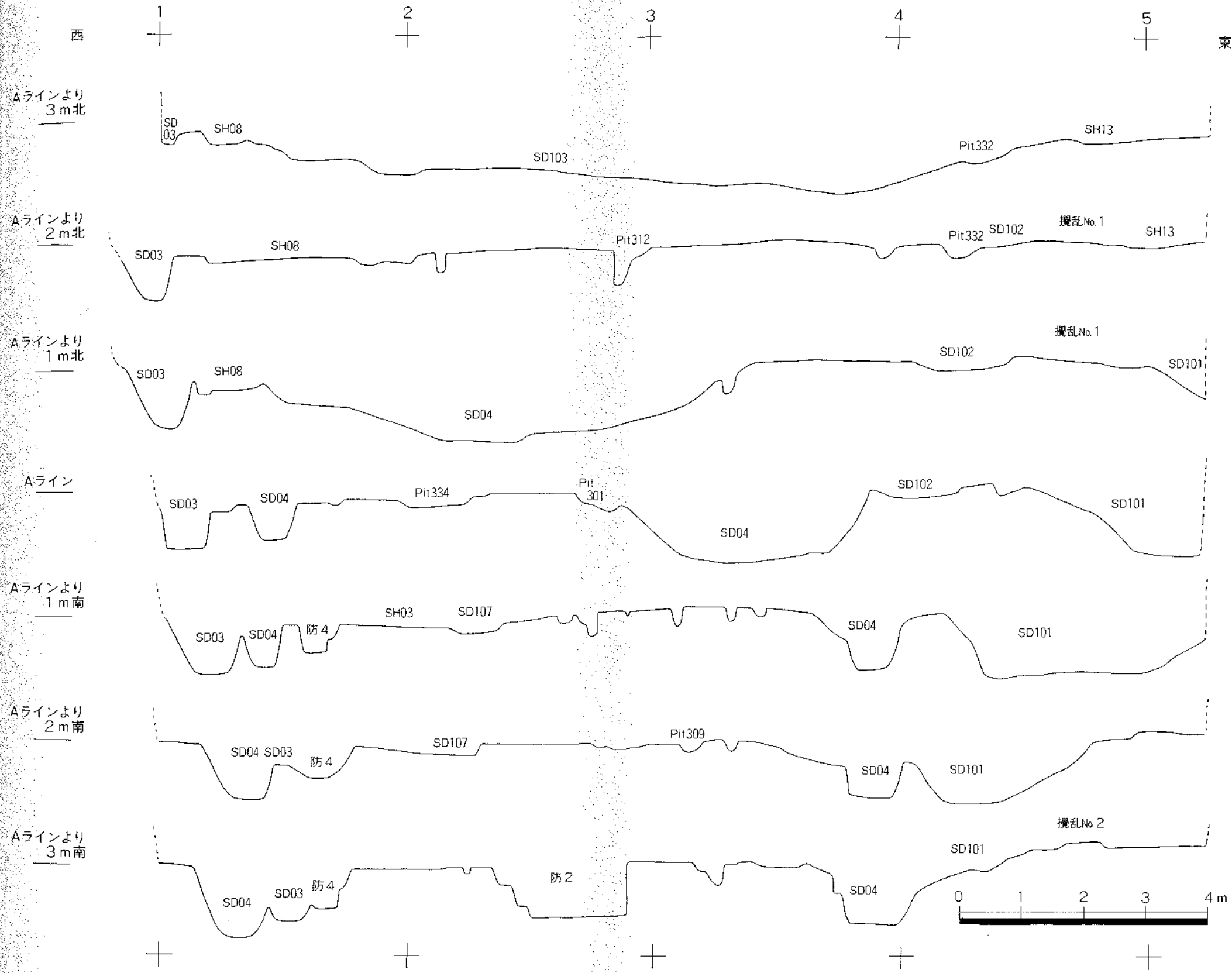


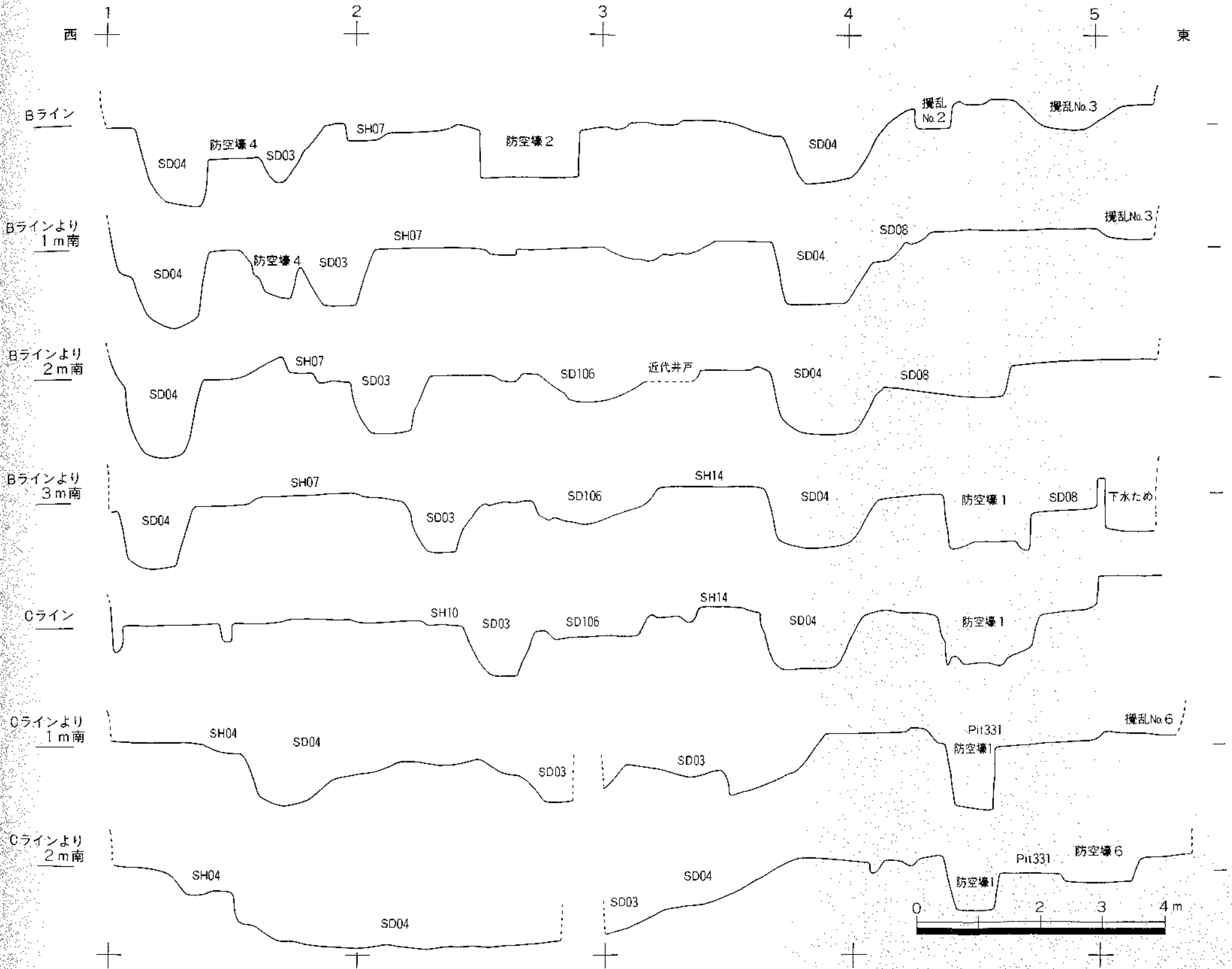
- 1: 表土及び攪乱
- 2: 茶褐色土
- 3: 黒褐色土
- 4: 遺構埋土
- 5: 地山ブロック混じり
- 6: 地山



レベルのラインはすべて海拔10.00m

遺跡断面図 南北方向

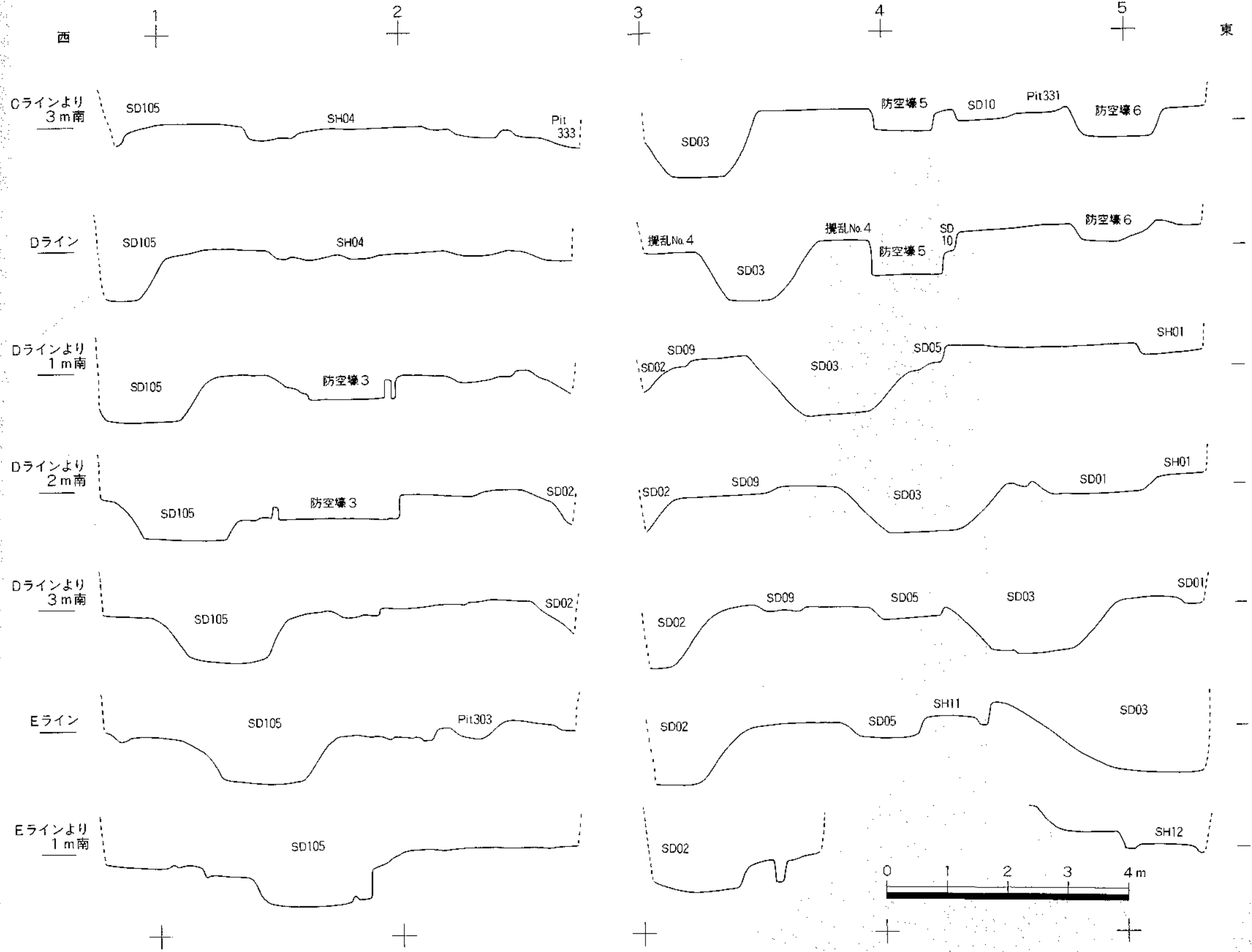




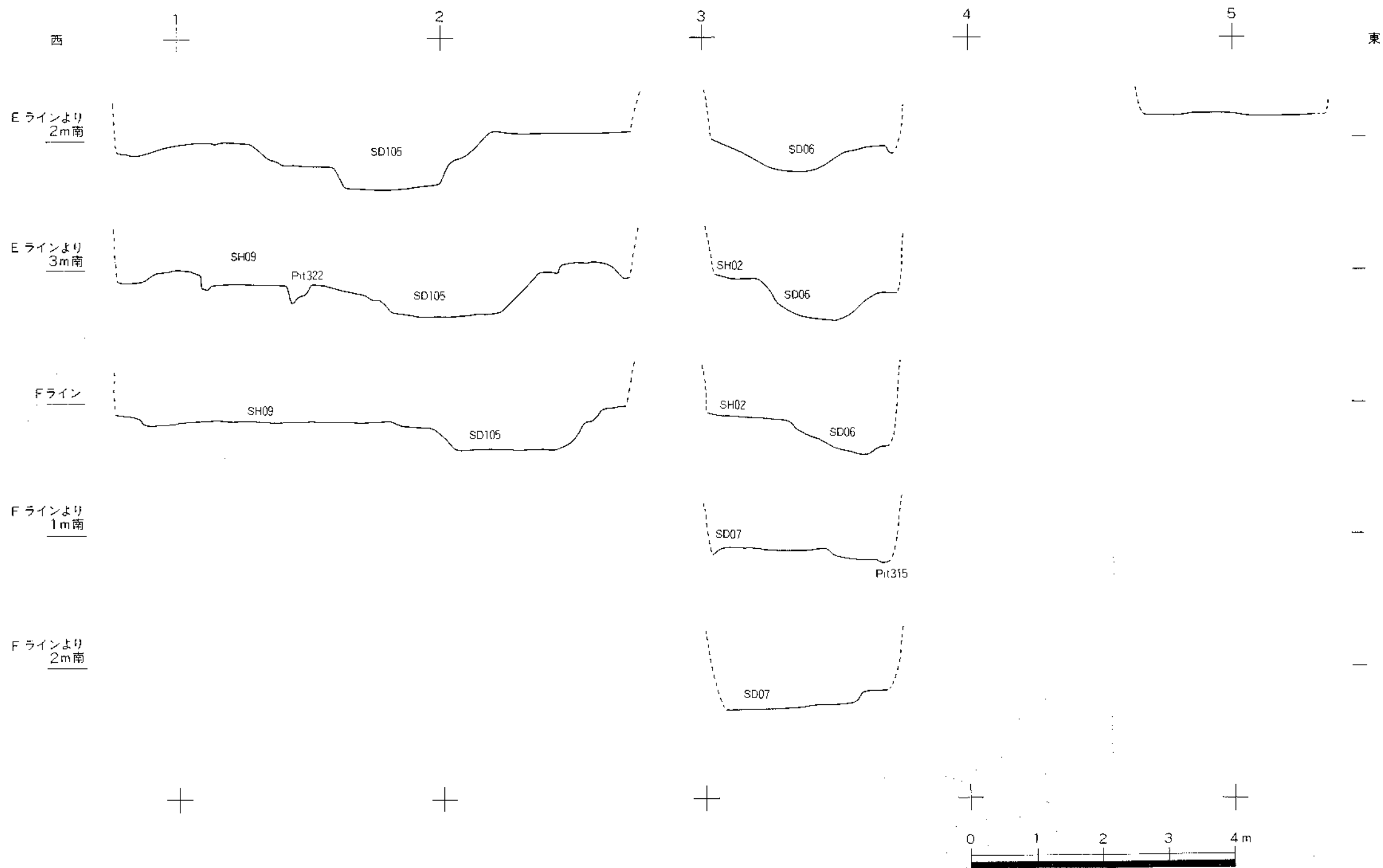
レベルのラインはすべて海拔10.00m

完掘時エレベーション (地山) 東西 02



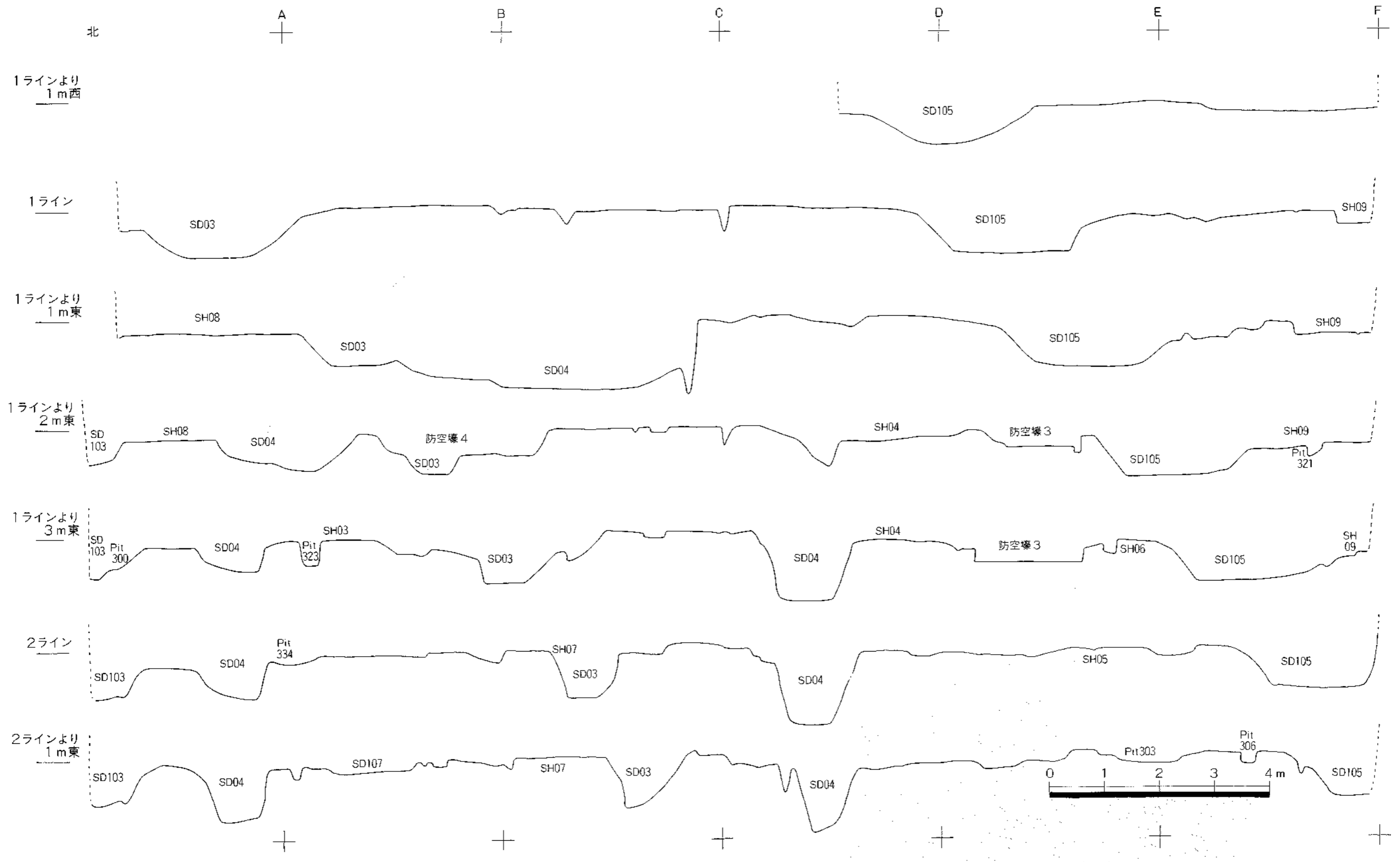


レベルのラインはすべて海拔10.00m 完掘時エレベーション (地山) 東西 03

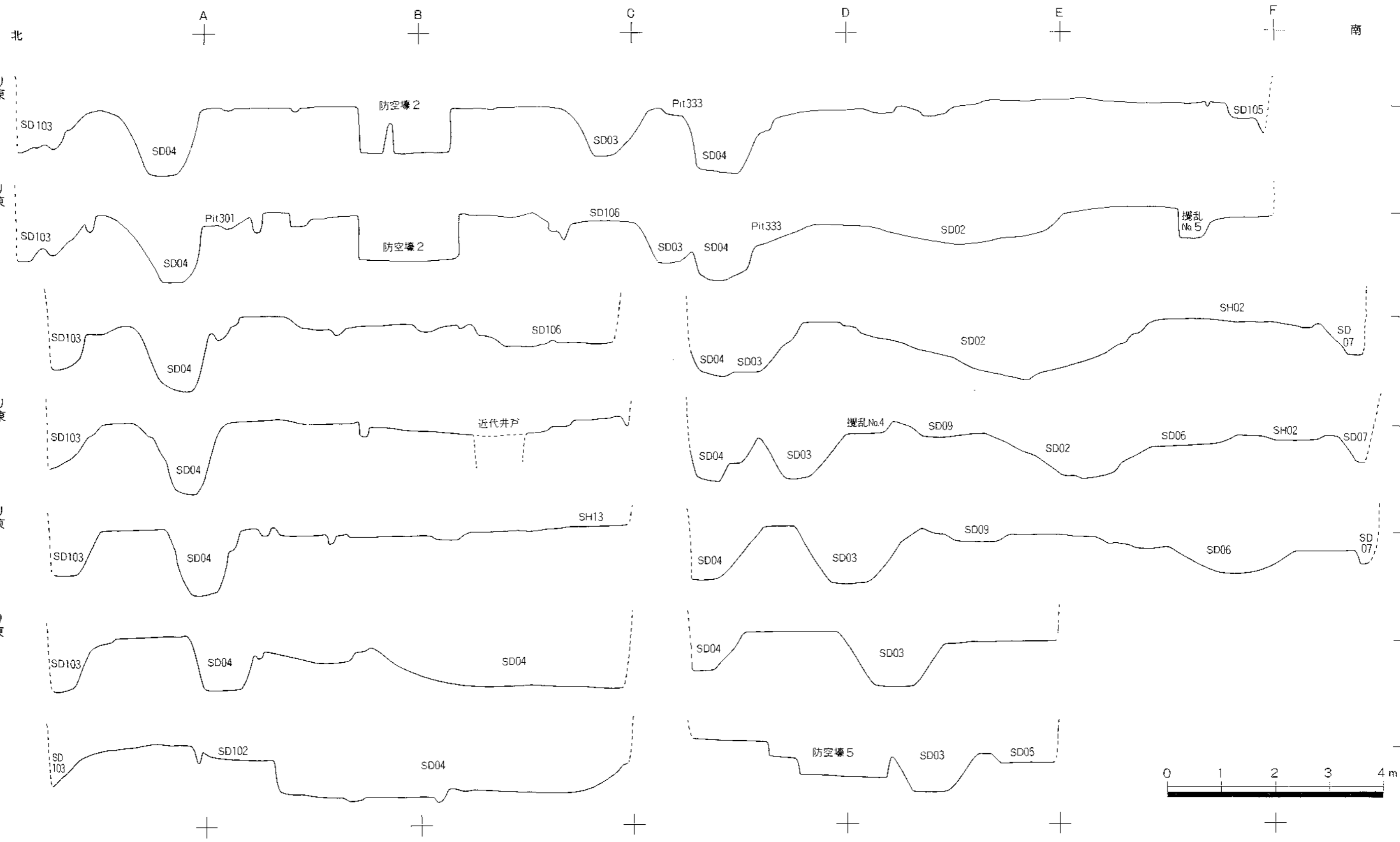


レベルのラインはすべて海拔10.00m

完掘時エレベーション (地山) 東西 04

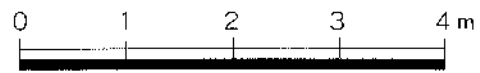
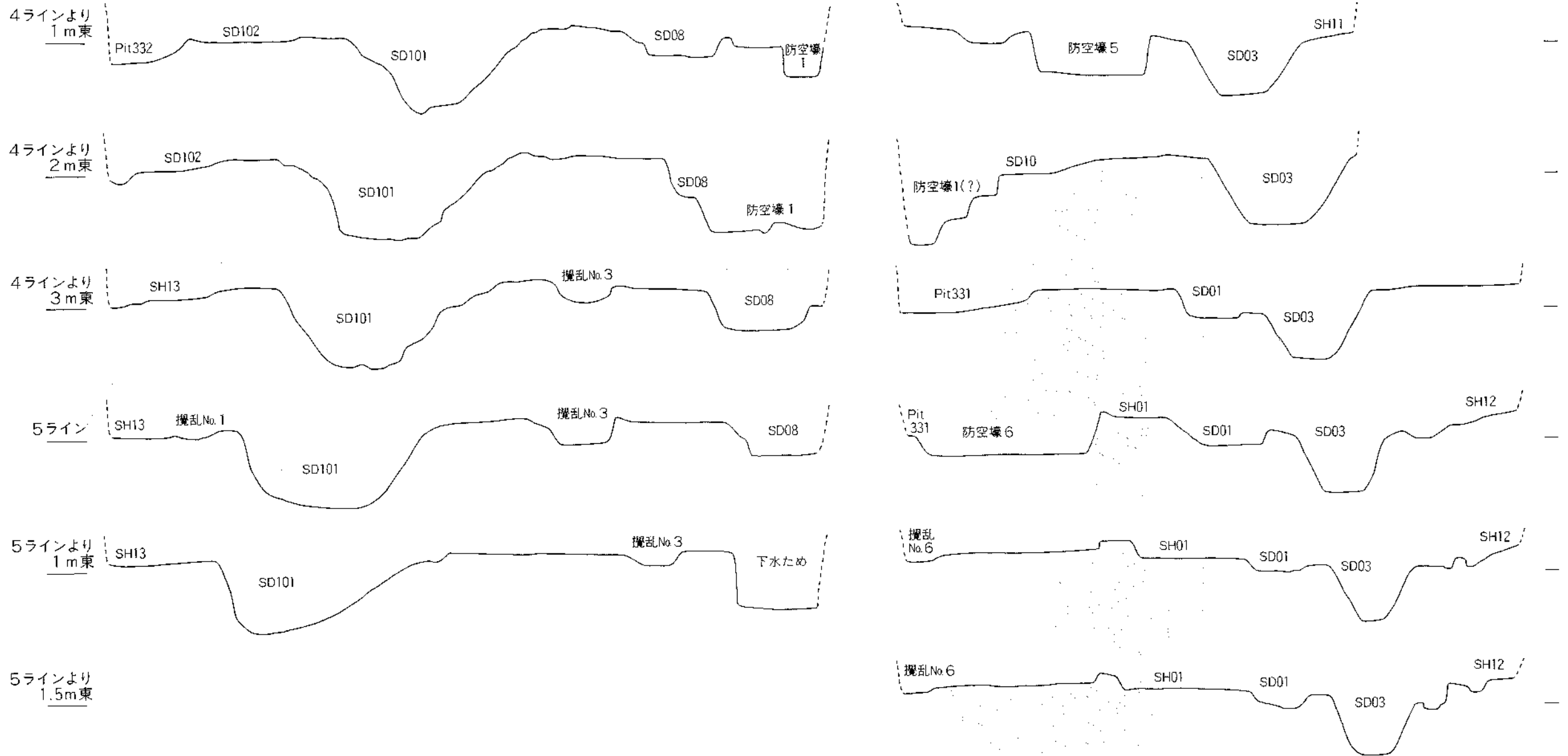


レベルのラインはすべて海拔10.00m 完掘時エレベーション (地山) 南北 01



レベルのラインはすべて海拔10.00m 完掘時エレベーション (地山) 南北 02

北 A B C D E 南



A B C D E

名古屋市文化財調査報告 既刊目録

I	名古屋市千種区	東山H-101号古窯発掘調査報告書	1973	品切
II	名古屋市中区	古沢町遺跡発掘調査報告書 一弥生編一	1974	"
III	名古屋市千種区	御影町古窯跡群発掘調査報告書	1974	"
IV	名古屋市緑区	有松町並み調査報告	1975	"
V	名古屋市緑区	NKI-34号古窯跡発掘調査報告書	1975	"
VI	名古屋市緑区	徳重西部土地区画整理事業予定地内所在埋蔵文化財発掘調査報告書	1976	"
VII	名古屋市昭和区	光真寺古窯跡発掘調査報告書	1980	在庫
VIII	名古屋市守山区	小幡古墳発掘調査報告書	1981	"
IX	名古屋市緑区	NN-278号古窯発掘調査報告書	1981	品切
X	名古屋市内の山車と神楽	民俗文化財調査報告書	1981	在庫
XI	名古屋市緑区	NN-314号古窯跡発掘調査報告書	1981	"
XII	名古屋市緑区	NN-282号古窯跡発掘調査報告書	1982	"
XIII	名古屋市緑区	NN-268号古窯跡発掘調査報告書	1983	"
XVI	名古屋市守山区	笹ヶ根古墳群発掘調査報告書	1984	"
XV	名古屋の石造物		1985	"
XVI	名古屋市守山区	天白・元屋敷遺跡発掘調査報告書	1985	"
XVII	中区正木4丁目	尾張元興寺跡発掘調査報告書	1985	"
XVIII	守山区中志段味	天白・元屋敷遺跡第二次発掘調査報告書	1986	"
XXI	守山区吉根	吉根地区埋蔵文化財発掘調査報告書	1986	"
XX	熱田区夜寒町	高蔵遺跡発掘調査報告書	1987	新刊

名古屋市文化財調査報告 XX

熱田区夜寒町・高蔵遺跡発掘調査報告書

1987年12月21日 印刷・発行

編集 高蔵遺跡夜寒地区調査会  
 発行 名古屋市教育委員会  
 名古屋市中央区三の丸三丁目1番1号  
 印刷 渡辺印刷工業株式会社  
 名古屋市中央区栄一丁目25番35号

1255.1

